小川直也が2005年春、ハッスル大進撃計画を激語り!!

紙のプロレス RADICAL

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
880 yen
WANIMAGAZINE MOOK
83
2005

2·20『PRIDE.29』出陣決定!!
独占インタビュー
ミルコ・クロコップ

エメリヤーエンコ・ヒョードル
アントニオ・R・ノゲイラ
ヴァンダレイ・シウバ
マーク・ハント
ルーロン・ガードナー
五味 隆典
長南 亮

どうなる2005年の格闘技界!?
PRIDE、K-1のトップを直撃!!
榊原信行DSE代表
谷川貞治K-1プロデューサー

渦中の2人が衝撃の再会!!
橋本真也×船木誠勝

『シベ超5』公開記念対談
ザ・グレート・サスケ×水野晴郎

死神ジェラルド・ゴルドーが
大晦日決戦と1·4ドームをブッタ斬る!

ビンス待望の来日決定!!
ついに本物のWWEがやってくる!

ついに発表!
紙プロ大賞2004
語録で振り返る2004

ROAD TO PRIDE CHAMPIONSHIP 2005

野望と渇望

PRIDEヘビー級王座への

紙のプロレス RADICAL NO. 83
2005年計画を激語り!!
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・シュノ2F 電話/03-5368-1795

PRIDE2005開幕

男達の祭りは激化する!!

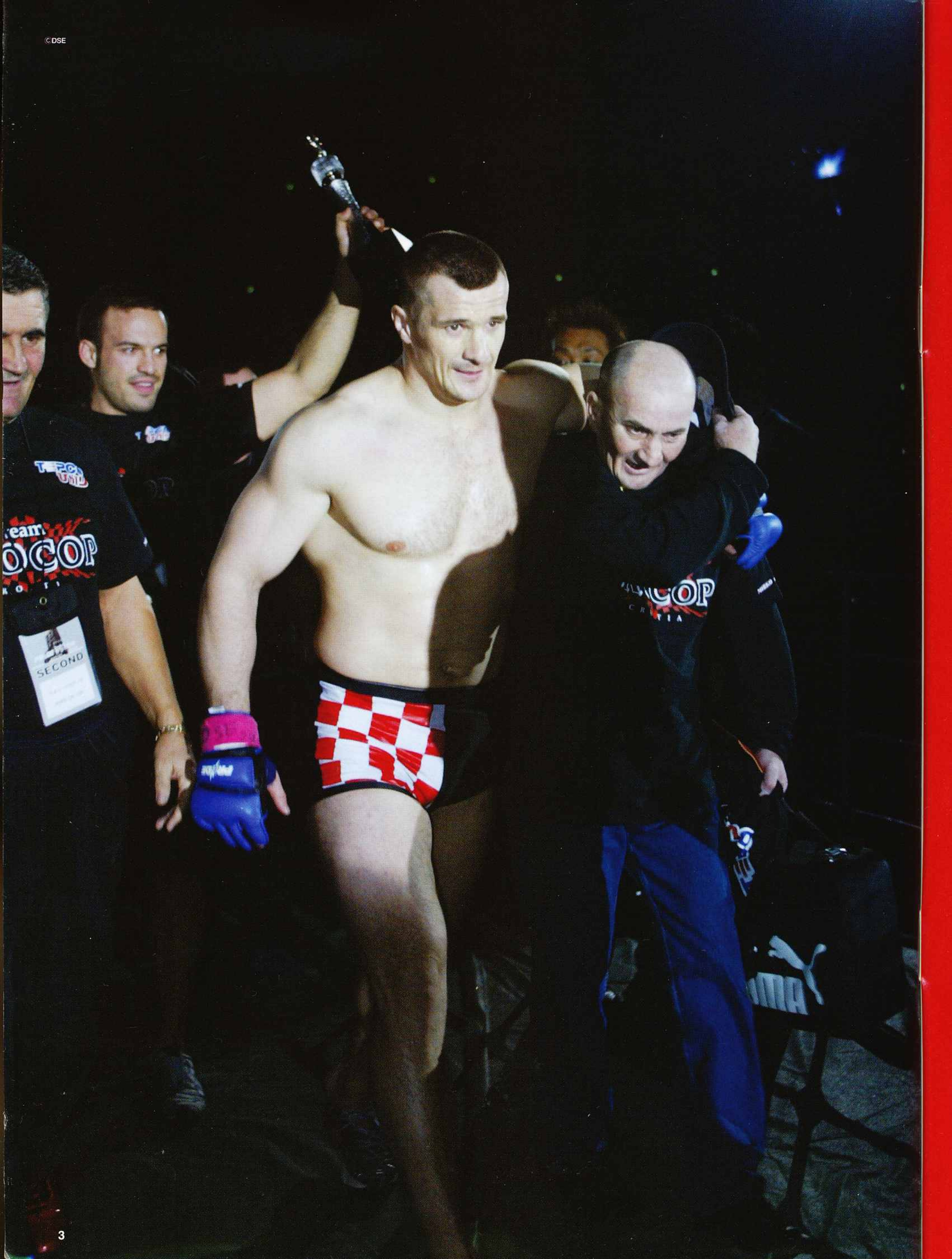
2・20『PRIDE・29』出場決定！
悲願達成へ、もはや誰にも止められない!!

今年の抱負？つまらない事を聞くな！PRIDEのベルトを巻くそれ以外何があるんだ!?

Mirko CRO COP

昨年、生き急ぐかのように年間8試合を闘ったミルコ。
大晦日に最後の“宿題”を片付け、2005年は来るべき
タイトル戦に向け、調整に入るかと思われたがなんと
休む間もなく2・20『PRIDE.29』に出場が決定！
ヒョードル打倒へ向け、もはや誰にも止められない！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄
designed by hisa（Two Three）

もう俺は
ただのK-1出身
ストライカーじゃない
チャンスがあれば
どんな相手でも
一本勝ちを狙う！

――ミルコさん！　まだ大晦日の興奮冷めやらぬ感じなんですが、休む間もなく2・20『PRIDE・29』に出場するらしいですね？

ミルコ　ああ、対戦相手はまだ聞いていないが、出場することは間違いない。『男祭り』のあと、クロアチアに帰ってつかの間の休息は取ったが、もうすでにトレーニングはスタートしているし、メンタル面も試合モードに切り替えているよ。

――ライバルのヒョードルやノゲイラは大晦日の試合後、「1年中トレーニング漬けの毎日だったので、しばらく休みたい」と口を揃えていたんですけど、昨年、その2人以上に試合とトレーニングに明け暮れていたミルコさんは、休みたいとは思わないんですか？

ミルコ　思わないね（キッパリ）。マラソンランナーの「ランニングハイ」という言葉があるだろう。俺は今、試合に対してそういう状態なんだ。自分のファイターとしてのいろいろな面が進歩しているのがわかるし、それを本当に認識できるのは、試合でしかないから、立ち止まろうなんて思わないね。

――いやぁ、なんかもうミルコ選手のモチベーションは、ボクらの理解の範囲を超えてしまってるんですけど、年間8試合を闘った昨年に続き、今年も2月、4月、6月と2ヶ月おきに『PRIDE』3大会連続出場を考えているというのは本当なんですか？

ミルコ　2月は間違いなく出るが、いつタイトルマッチになるかによっては、その直前の大会に出場するかどうかはまだ正式に決めていない。出るからには全力を尽くして、ベストパフォーマンスをファンに見せるし、肉体的にも精神的にも中途半端なシェイプの状態で、ファンの前に出ることだけはしたくない。去年の4月は、本当にリング外のことで忙しくしていて、ぼんやりとした中途半端な精神状態で臨んだから、あんな無残な結果になったわけだからね。もう2度とあんなことは御免だ。

――あの敗戦のおかげで、ずいぶん遠回りすることになりましたからね。大晦日の『男祭り』では、そのリベンジマッチに勝利したわけですけど、改めてケビン・ランデルマンという選手をどのように評価していますか？

ミルコ　彼には、再戦を受けてくれたということに対して、本当に感謝している。それして、あの瞬発力と動きの速さに関しては、ズバ抜けているね。俺も瞬発力はあるほうだけど、あいつの出入りの速さには驚かされたからな。

2004年の自分に残された最後の“宿題”を片づけるために、険しい表情でリングに向かうミルコ。入場から試合終了まで続くこの張り詰めた緊張感がミルコの魅力だ。

――その動きが速くて打撃が当てにくいランデルマンを、まさかフロントネックロックで仕留めるとは驚きましたよ！　関節技、絞め技での一本勝ちは狙っていたんですか？

ミルコ　試合の流れの中でチャンスがあれば、いつ、どんな相手にでも一本勝ちを狙う。それだけだ。俺はもう、ただのK-1出身のストライカーではないのだからね。この2年間で、俺ぐらい次から次へと、タフな対戦相手、しかも柔術家のミノタウロ（ノゲイラ）から、レスリングのケビンやロン・ウォーターマン、サンボの（エメリヤーエンコ・）アレキサンダーまでを相手に、実戦で自分のパフォーマンスのレベルを高めてきた選手はいないはずだ。

――では、ランデルマン戦以前から、チャンスがあれば関節技で決めようと思ってたんですか？

ミルコ　ファブリシオ（ヘ・ヴェウドゥム＝04年ブラジリアン柔術世界王者）がクロアチアに来て、彼とのスパーリングによって自信がつき始めてからだな。それまでも、チャンスがあれば、とは思っていたんだが、それはあくまで“試してみる”という程度のものだった。しかし、いまは違う。組んだときに相手が一瞬でも隙を見せたら、俺はそこを突かせてもらうつもりだ。

――現在、立ち技と寝技はどのくらいの割合でトレーニングしているのでしょうか？

ミルコ　バランスよく。決まった割合ではない。その日によって、割合も変わるし、前日集中的にいじめた筋肉には翌日にはブレークを与えてやらなければならないわけだから。バランスの取れた配分がもっとも大切だ。

――ファブリシオとのトレーニングによってミルコ選手の寝技に対する考え方はやはり変わりましたか？

ミルコ　変わったというより、改めて基本が大切だと痛感させられた。そして身につけるためには、とにかく反復練習あるのみだ。それがあった上で、ようやく反射的に実戦で使えるようになる。どんな技術でもそれは同じだね。

――グラップリングの技術がモノになってきた今、改めて聞いてみたいんですけど、ミルコ選手はブラジリアン柔術という格闘技についてどう思っているんでしょうか？

ミルコ　ブラジリアン柔術が優れた奥が深い格闘技だという認識は、もちろんMMAのトレーニングをスタートさせた当初からあった。ただ、ファブリシオと練習し始め

2004.12.31 PRIDE男祭り

○ミルコ・クロコップ［1R0分41秒／フロントチョーク］ケビン・ランデルマン×

その素早い動きでストライカーに標的を絞らせないランデルマン。しかし、今回のミルコは無理に打撃を当てにいかず、タックルをガッチリ受け止めると、そのまま渾身の力でフロントチョーク！　予想外の技にランデルマンはたまらずタップ。首を絞め上げるミルコの表情が凄い！

て、改めて、ミノタウロが通ってきた道、汗だくで畳の上を這いずり回った膨大な時間、そういった彼のファイターとしての"今"を形作っている要素に共感が湧くという感じだな。

——ミルコ選手がそこまで信頼するファブリシオを、早く『PRIDE』のリングで見たいという気運も高まってきてると思うんですけど、ファブリシオの『PRIDE』デビューはいつごろになりそうですか？

ミルコ　2月だ。もうミスター・サカキバラ（DSE榊原代表）にはお願いしてある。

——2・20『PRIDE・29』でいよいよデビューですか。対戦相手は誰になりそうなんですか？

ミルコ　まだ決定してはいないが、俺自身がフジタ（藤田和之）という強敵とのスタートだったから今があることを思えば、ヤツだって厳しい試練を乗り越えた方がいいと思っている。イージーな相手からスタートするのは誰にでもできるさ。強敵を相手に、大観衆の前で、ビビらずに闘うことができてこそ、本物のファイターになれるというもの。いつか、俺のベルトに挑戦してくるくらいの気持ちでデビューして欲しい……なんて、取ってから言えか、ハハハハ（笑）。

試合後、ガッチリ握手。そして何やら言葉を交わすと、ミルコはご覧のような笑顔を見せた。最後の"宿題"を片付け、あとはヒョードル戦へ向けて一直線だ。

——その念願のベルトへの挑戦がようやく見えてきたわけですけど、先日のヒョードルvsノゲイラのタイトルマッチはどんな感想を持ちましたか？

ミルコ　思っていた通りの展開だった。お互いが、お互いのことを知りすぎていて、玄人目には面白い試合だったかも知れないけど、お互いにリスクを徹底的にとらずに、研究し尽くした対戦相手と闘えば、あまり興奮はできない展開になってしまうということだね。技術の攻防は、俺たちには興味があるけれど、テレビを見てる一般のファンにはハントとシウバや、俺とケビンのように一瞬も目が離せない展開の方が面白かったんじゃないかな。

——結果はヒョードルの判定勝ちになりましたが、勝因はなんだと思いますか？

ミルコ　今まで自分で作ってきたファイターとしての形、その違いがこのPRIDEのルールの中では、そのままミノタウロとの僅かな差になって判定に表れたのだと思うけど……。まぁ、一言で言えるようなものではないな。

——そしてミルコ選手が倒すべき相手がいよいよ正式に決まったわけですけど、イメージトレーニングを欠かさないミルコさんにとって、もうヒョードルをKOするイメージは出来上がっているんですか？

ミルコ　もちろんだ。ただ、それをいまここで明かすほど、俺はバカじゃないよ（笑）。来るべき日を楽しみにしていてくれ。

——ヒョードルはその来るべきミルコ戦に向けて、K-1のジェロム・レ・バンナと合同練習を予定しているようですが、そのことについてどう思いますか？　やっぱり気になりますか？

ミルコ　いや、別に。いまの状態のジェロムを招いても、どれだけ実戦的なスパーリングができるか疑問だな。とにかく同じファイターとして、ジェロムには早く左腕中のプレートをはずして、完治させて欲しいと願うね。

——一昨年の11月、ヒョードル選手の拳のケガで一度この対戦は流れていますが、いまでもあのとき「ヒョードルは逃げた」と思っていますか？

ミルコ　まあね。お互い同じファイターとして、感覚というか嗅覚は同じだからな。

難しい言い方だけど。まぁ、もう同じ手は通用しないぞ、とだけ言っておこう。

——おぉ〜、自信満々ですねぇ。では、『男祭り』についてもう一つ。マーク・ハントがミルコ選手も倒せなかったヴァンダレイ・シウバを判定で下しました。あの試合の感想を聞かせてください。

ミルコ まあ、俺の時は（2002年4月）、戦略的に受けざるを得なかった試合だったし、状況がまったく違うと思う。大晦日のあの試合に関しては、30kgの体重差を無視してあえて試合を受けたヴァンダレイ・シウバの勇気を賞賛するだけだな。ハントはよくやったけど、やはりあの体重差はどうしてもぬぐいきれないハンディキャップだ。もちろん、もともとハントと決まっていて、その対応をしてきたのなら別だが……。

——シウバにとっては、試合直前に桜庭選手からまったくタイプも体格も違うハントに変わったわけですからね。

ミルコ そう。俺だって、試合の数日前に自分より体重の軽いケビンから、30kgも重く、まったくタイプも違うアレキサンダーに急遽代わったら、正直ああいうふうに（8月のように）倒せたかどうか自信はない。サクとハントではまったく正反対だからね。よく、受けたよな、シウバも。俺は、PRIDEの選手の誰よりもハントのことは良くわかっているから、今回だけはシウバは危ないと周りには言っていた。それだけ試合前に急遽対戦相手が変わるというのは、みんなが思う以上に大変なことなんだ。特に、このPRIDEという世界最高レベルのリングで試合をするからにはね。だから、シウバの今の悔しい気持ちをみんなで思いやってやらないとな。

コールマンが言っていた 俺が味わうであろう〝恐怖〟とやらを 味わわせて もらおうじゃないか

ミルコvsランデルマン戦後のコメントルームで、セコンドのコールマンがミルコ戦をアピール。ミルコの次の相手は「ミルコをパウンドでKOできる」と言うこの男か？　そしてもう一人、GPベスト4のハリトーノフも対戦候補にあがっている。もし実現すれば、クロアチアのテロ鎮圧特種部隊vsロシア軍パラシュート部隊という劇画でもありえない強烈なカードだ！

——なるほど。ハントはミルコ選手との対戦を希望していますが、ヒョードル戦の前に対戦することはありえるのでしょうか？

ミルコ 俺がここまで（ヘビー級タイトル挑戦を）待たされているんだ。ヤツにも、列に並んでおとなしく待ってろ、と伝えてくれ。ヤツの順番が来たら、その時はきっちりと料理してやる。俺をK-1時代のミルコだと思って来たら、大変なことになるぜ……とね。

——そうなると、2月の『PRIDE・29』は誰が相手になりそうですか？

ミルコ 俺はプロモーターとエージェントが決めた相手を倒す、それだけだ。ただ、あれだけ公然と挑戦されたら、マーク・コールマンとやってやるしかないんじゃないか？　彼がどこかのインタビューで言っていた、俺が味わうであろう〝恐怖〟とかいうものを、味わわせてもらおうじゃないか……できるもんならね。

——コールマンは『男祭り』のあとの会見でも、「ミルコには勝てる、パウンドでKOする」とか言ってましたけど、その口を塞いでやろうと。

ミルコ それだけ言われて逃げたと思われるのもシャクだしな。

——DSEの榊原代表は「ヒョードルとやる前に、ミルコはハリトーノフとやるのも面白い」と言っていますが、ハリトーノフと対戦する可能性はありますか？

ミルコ 前か後かは別として、いつかはやらなければならない相手じゃないのか？　そう思っているよ。

——ハリトーノフは昨年、ヘビー級GPベスト4の実績を残したわけですけど、彼についてどんな印象を持っていますか？

ミルコ 彼は、ボクサーという印象を持っているけど、違うのか？

——本人は「ボクシングはやったことない」とか言ってるんですけど、実はオリンピック代表候補になるくらいアマチュア・ボクシングの実績があるとの噂です。

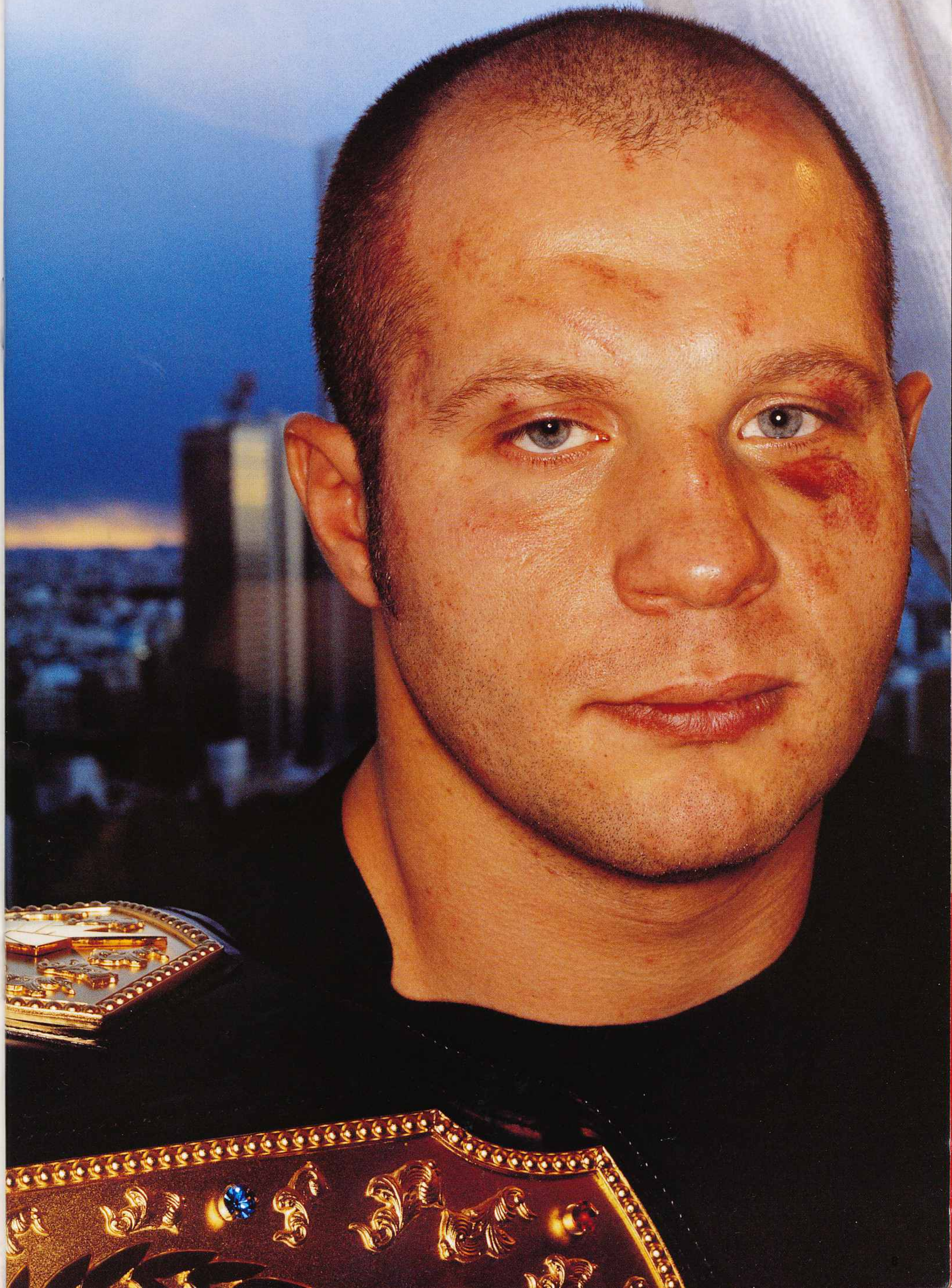
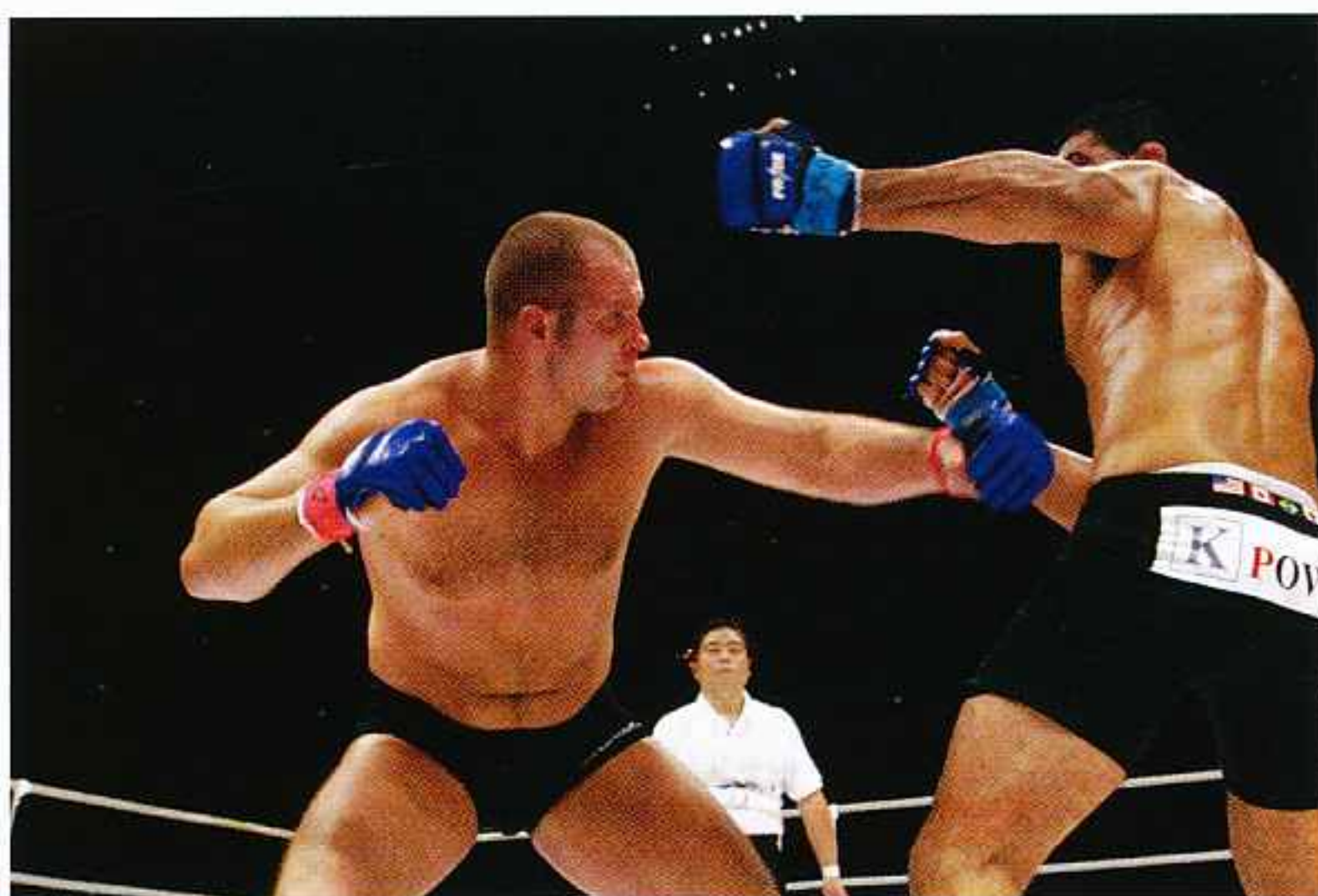
ミルコ ボクシングをやったことがないねぇ……ハハハ（笑）。

——彼のボクシングテクニックはミルコさんから見てどう思いますか？

ミルコ 悪くないのでは？（ニヤリ）まぁ、誰になるにせよ、チューンナップファイト（調整試合）というわけにはいかなそうだな。

——では、最後にミルコ選手の今年の抱負を聞かせてください。

ミルコ ……今年の抱負だって？　決まりきったことを聞くな。ベルトを巻く。それ以外に何があるんだ⁉　俺はそのことだけを考えて、この2年間、命を削るような日々を送ってきたんだからな。

【05年1月19日／国際電話取材を再構成】

『PRIDE・GP』王者

ノゲイラを破り“60億分の1”の男へ!!
もうひとつの“SADAME”、ミルコ戦の実現はいつかーー!?

「ミルコと闘うことに何の不安や問題も感じません」

『PRIDE・GP』決勝戦、大晦日に決着!! 冷静沈着な試合運びで、ノーコンテストに終わった8・15『PRIDE・GP』決勝戦の再戦を制したヒョードル。“SADAME”の一戦に勝利したわけだが、今年注目されるのは、もうひとつの“SADAME”——一度は対戦濃厚とされながらも、ヒョードルのケガで実現しなかったミルコ戦のことだ。2005年、ヘビー級はこのド級のカードを中心に回っていくことになる!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／吉場正和
Pictures and interview supplied by cooperation of MMP Alchemy Inc
designed by hisa (Two Three)

PRIDEヘビー級&PRIDE・GP2004王者

Emelianenko Fedor

―ノゲイラ戦を勝利したことで『PRIDE』ヘビー級GP優勝、そして『PRIDE』ヘビー級王座の防衛となりました。おめでとうございます!!

ヒョードル　ありがとうございます。大晦日の大事なイベントでノゲイラに勝てたことはとても嬉しいですし、内容についても満足がいく試合ができたと思ってます。

―試合当日は大雪に見舞われあいにくの悪天候でしたけど、ロシアの酷寒を絶えず経験しているヒョードル選手からするとたいした寒さではなかったんでしょうか?

ヒョードル　そうですね。雪は大好きなので心地よかったです（ニッコリ）。

―大勝負前の吉兆の大雪だったわけですね（笑）。無効試合に終わった前回の経験をふまえて、重点的にどの点を練習されたんですか?

ヒョードル　何かに絞ってトレーニングを積んだわけではありません。打撃、寝技、すべての分野において備えてきました。私は試合を重ねるごとに、以前の自分より高いレベルへ行き、よりスピードをつけ、より強くなりたいと考えてます。

―常に万全を期している、と。前回と比べて、ノゲイラはどの部分が向上していたと感じましたか?

ヒョードル　それは難しい質問ですね。自分が考えていたよりもうまく試合を運ぶことができたので、ノゲイラ選手の優れたところは完封できたと思いますから。

―完封勝利宣言ですか!!

ヒョードル　（無言で微笑む）。

―ノゲイラ選手にテイクダウンを許してしまいましたが、優位なポジションを取られた危険も感じなかったわけでしょうか?

ヒョードル　はい。まったく感じませんでした。彼の仕掛ける動きに対応できる準備はできていましたし、それはスタンドの局面においても同じことです。

スタントではワンツーを中心としたボクシング戦を徹底。ノゲイラが下になっても無理に深追いはせずにパウンドではなくサッカーボールキックで"一撃必殺"を狙う局面も。

―試合序盤はグラウンドには拘らず、スタンド勝負を選択しましたが、前回の対戦でノゲイラはヒョードル選手のパウンドを封じる局面があったことがその作戦を選んだ理由のひとつになるんですか?

ヒョードル　そういうわけではありません。ノゲイラは、このリマッチでグランドでの勝負をしてくるだろうと思っていました。私はそれを考慮した上で新しい作戦とテクニックで驚かせようとしただけです。それが今回の作戦でした。

―今回は判定勝利でしたが、ヒョードル選手自身がKOを狙える絶好の機会だと思えるシーンってありました?

ヒョードル　そういう風に感じる瞬間はありませんでした。1ラウンドの時点では、勝利を確信するまでには至らなかったのですが、テクニック・戦術がうまくいっていると感じていました。試合が進むにつれ、ポイントを奪い、勝利のへ確信ができました。

―試合序盤、サッカーボールキックを何度か見舞うシーンが見られましたが、あの技で決着を狙うことも作戦だったんですか?

ヒョードル　私はああいった攻撃を自分のレパートリーしようと、いま懸命に取り組んでいるところです。パンチだけではなく、キックも完璧なものにしたいですしね。先ほども述べましたが、私は一試合ごとに強くなりたいと思ってます。次の試合でもまたレベルアップした姿をファンの皆さんにお見せしたいし、そうなるよう努力するつもりです。

―試合前の調印式で「ブラジルに行きたい」という発言をしてましたが、それは

ノゲイラと交流をして柔術の技術を習得したいということなんですか？

ヒョードル　いや、そういうわけではありません。リオのカーニバルを見に行きたいだけです（ニッコリ）。

――ダハハハ。ノゲイラとの抗争はまだまだ続きそうですが、次回の対戦相手にミルコの名前が挙っています。

ヒョードル　はい。私は彼と闘うことに何の問題や不安を感じません。

――ミルコvsランデルマンはご覧になられましたか？

ヒョードル　試合は見ていました。ただ、試合が早く終わったのでコメントするのは難しいですが、ミルコは現在、スタンディングの技術では最高の位置にいると思っています。彼と私が闘えば、素晴らしい試合になるでしょう。

うまく試合を運ぶことができたので ノゲイラ選手の優れたところは完封できました

Emelianenko Fedor

――ミルコは寝技の技術が向上していますが、それについては？

ヒョードル　あの試合だけでは上達ぶりわからないです。

――あの試合だけでは判断付かない、と。

ヒョードル　はい。わかりません。

――ミルコ以外にもジョシュ・バーネットが今後、継続的に『PRIDE』に参戦することになったり、相手には事欠かない状況です。ノゲイラ選手は「ジョシュはヒョードルや私と比べると実力的に劣る」という旨の発言をしてますが、ヒョードル選手はジョシュについてはどうような印象がありますか？

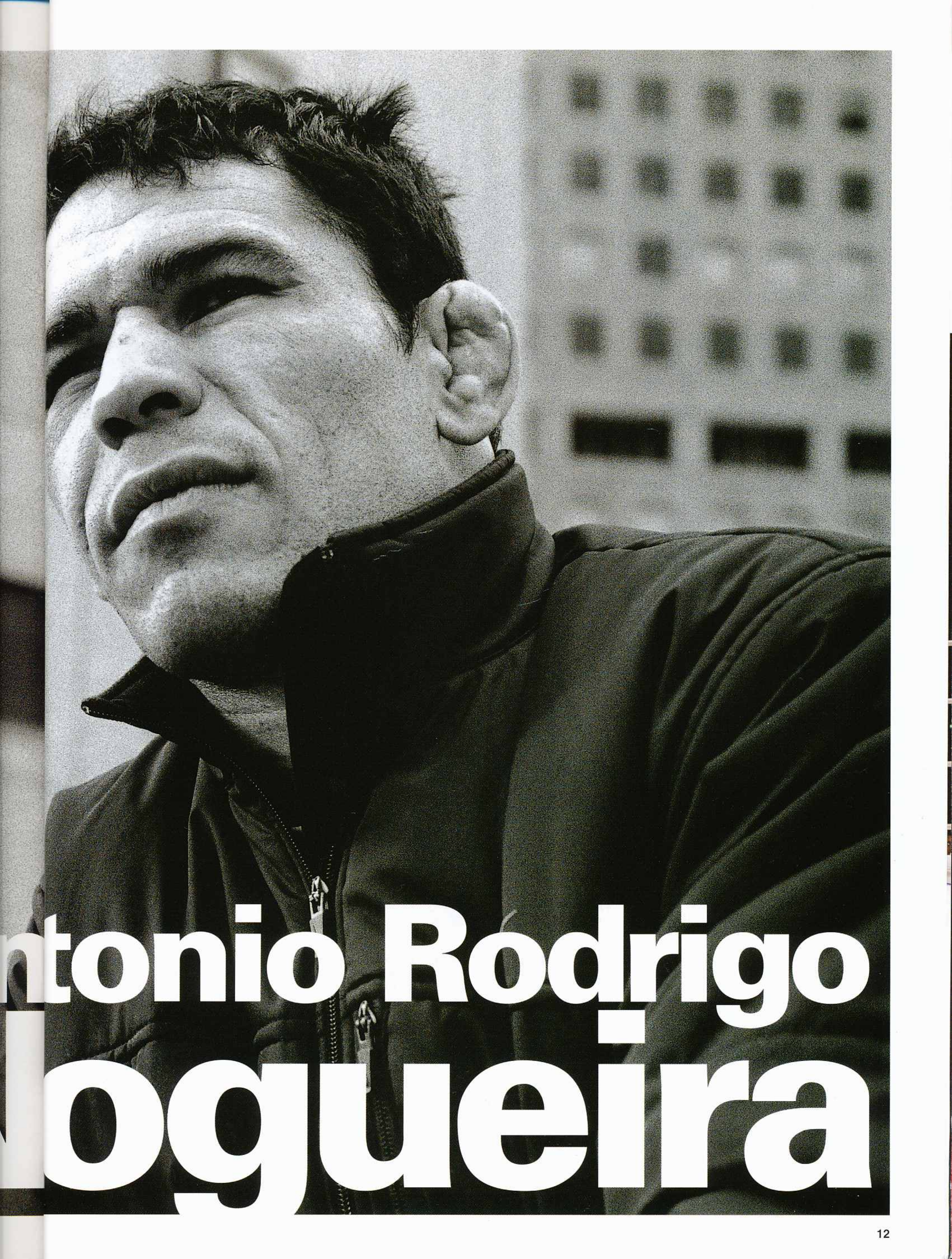
ヒョードル　ジョシュは良いファイターですが、ミルコとやるまで彼のキャリアにプラスになる相手との試合はしばらくやっていませんでした。ミルコ戦はアクシデントで残念な結果になりましたが、彼はトラウマを持ったことでしょう。

――カレリンを倒したルーロン・ガードナーにはどういう印象をお持ちでしょうか？　今回の『PRIDE』デビューの感想を聞かせてください。

ヒョードル　残念ながら、彼とヨシダ（吉田秀彦）の試合をすべて見たわけではありません。ただし、ひとつだけ言えるとすれば、もっと攻撃的に仕掛けなければいけない場面があったのではと思いますね。

――ガードナーの名前は"カレリンを倒した男"として、ロシアでも知れ渡っているのでしょうか？

ヒョードル　カレリンは国家の英雄でした。私も彼をとても尊敬しており、カレリンのことは子どもからお年寄りまで幅広く知られていますが、ガードナーのことはほとんど知らないのではないかと思います。

――では、ミルコ、ハント、ガードナー、ハリトーノフ、ジョシュ、ノゲイラ。この中で一番の難敵と思われる、ヒョードル選手が現時点で最高のライバルだと認める選手は誰になりますか？

ヒョードル　これらの選手の中で、私はノゲイラとしか戦ったことがありませんので、コメントするのは難しいです。強いと思う選手は、ノゲイラ、ミルコ、シウバ、UFCのランディ・クートゥアーになりますが、他の選手もみなさん強いので、いずれ闘うことで彼らのことがよくわかると思います。難敵かどうか判断するのは、それからです（ニッコリ）。

――いつも通り言葉少なですが自信に満ちあふれていますね（笑）。最後に2005年の抱負をお聞かせてください。

ヒョードル　2004年は、私は誰にも負けませんでしたし、タイトルを維持できて、GPでも勝てたわけですから、良い年だったといえます。2005年も同様に良い年にできればと思っています。

――あ、抱負もあっさりしてますね（笑）。

ヒョードル　（無言で微笑む）。

――では、今年のご活躍をお祈りしています!!

【05年1月1日／都内ホテルにて収録】

tonio Rodrigo
oqueira

「ヒョードルに“参った”と言わせるまで、ボクは何度でも立ち上がる」

3度目の正直ならず！　人類最強“60億分の1”を決める一戦と言われたヒョードルvsノゲイラのPRIDE頂上対決は、ノゲイラの寝技を完封したヒョードルの判定勝ちという結果に終わった。一昨年3月の王座転落以来、打倒ヒョードルを胸に厳しいトレーニングに耐えてきたノゲイラはいま何を考えるのか？　気持ちも落ち着いたであろう、大会3日後、帰国前のノゲイラをキャッチした。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和　試合写真／平工幸雄

designed by hisa (Two Three)

――ヒョードル戦は残念な結果に終わってしまいましたが、いまの体調と心境はいかがですか？

ノゲイラ　身体はほぼ100％問題ないよ。投げられたときに少し足首を痛めたけれど大丈夫。あとメンタル的には、試合に負けてしまったこと、それからファンや国をがっかりさせてしまったことに対して落ち込んでいるけど、その分、勝利に向けてのモチベーションがさらに高まったから、ネガティブには考えてないよ。

――フルランド闘って判定負けという結果だったわけですけど、もっと闘いたかったという気持ちはありますか？

ノゲイラ　できることなら、あと1時間でも決着がつくまでやりたかったよ（笑）。ラストラウンドになってようやくウォームアップが終わってエンジンがかかってきた感じだったからね。でも、ヒョードルが20分以内で勝ったのは、それがルールだからフェアだと思うし、彼の勝利を称えたいと思う。ただ、やっぱり3ラウンドという限られた時間内に彼を極めるのは難しかったね。もう少し時間があれば極めることは可能だったと思うんだけど。

――ボクも最初1ラウンドを見た時点で3ラウンドでは決着しないなと思いましたよ。UFCもタイトルマッチは5ラウンドですし、『PRIDE』もタイトルマッチは少なくとも5ラウンド、できたら桜庭vsホイスみたいに無制限ラウンドでやってほしいと思ったり（笑）。

ノゲイラ　その提案には100％賛成だよ。ゼヒ、ミスター・サカキバラに伝えてほしい（笑）。できることなら、タイトルマッチではなくてもいいから、一度ヒョードルと決着がつくまで闘いたいね。

――今回、試合を見ていて、ヒョードルは明らかに判定勝ちを狙っていると思ったんですけど、それはノゲイラ選手も感じましたか？

ノゲイラ　確かにポイント稼ぎで来ているとは思ったよ。ボクは試合中、とにかくヒョードルから一本を奪うことに集中していたけれど、ヒョードルは試合中ずっと時間を気にしていて、セコンドもひっきりなしに時間を知らせ続けていたからね。

――8月と比べてヒョードルの成長は感じましたか？

ノゲイラ　彼はすごく距離の取り方がレベルアップしていたね。打撃を当てるにもテイクダウンを奪うにも難しい距離を常に取っていたので、かなり苦

戦を強いられたよ。しかもヒョードルは投げが上手いので、ボクが距離をつめると投げで突き放してまた距離をとる。そういうパターンがしっかりと出来上がっていた。彼にとっては非常にいい作戦だったね。

――逆にノゲイラ選手は今回どんな作戦を考えていたんですか?

ノゲイラ　やはり自分はグラウンドが得意なので、彼をグラウンドに引きずり込んだあと、さまざまな寝技を用意していたんだけど、彼はほとんどグラウンドで勝負してこなかったので、残念ながらそれを出すチャンスがなかった。仕方がないから途中からボクシングスタイルに切り替えたんだけど、彼はスタンドでもヒット&アウェーで来たので、ボクとしてはある種お手上げ状態になってしまったのは確かだね。

――前回、8月の試合ではノゲイラ選手がヒョードルのパウンドを見事に防いで見せて、今回はヒョードルがノゲイラ選手のグラウンドを封じる作戦をしっかり立てて実行してきた。ホントお二人の試合はやるたびにレベルがどんどん上がっていきますよね。

ノゲイラ　ボク自身、彼のことは凄くいいライバルだと思っているし、闘っていてホントにゾクゾクしてくるような相手なので何度でも闘いたい。ヒョードルを「まいった」と言わせるまで、ボクは何度でも立ち上がるよ。

――ただ、ヒョードルにああいう闘い方をされたら、今後も寝技で一本を奪うのはかなり難しくありませんか?

ノゲイラ　もちろん守りに入ったヒョードルの牙城を切り崩すことは非常に難しいから、さらに作戦を練らなければいけないと思う。でも、突破口は必ずあると思うし、決して勝てない相手ではないよ。

――では、今回は判定で敗れてしまったわけですけど、これからも一本勝ちにこだわる闘い方は変えませんか?

ノゲイラ　これからも常に狙うは一本勝ちだけだよ。そういうポイントマネージメントはあまり得意でもないし、ポイントシステムだとジャッジのミスというのも少なからずありえるからね。それにファンからしてみたらポイント稼ぎを見に来ているわけじゃなくて、やはりどちらが一本とるかKOするかを見に来てると思う。だからプロとしてリングに上がる限り、ボクは一本勝ちを狙い続けるよ。

――負けてしまったからそう感じるのかもしれないですけど、今回より8月のときのほうがノゲイラ選手からエネルギーを感じたんですけど、ホントのところ体調は8月と比べてどうだったんですか?

ノゲイラ　それについては2つのことが関わっているんだけど、一つは日本に着いた翌日に風邪を引いて体調を崩してしまったんだ。あとは8月にノーコンテストになってしまったことで、1年間休みなくトレーニングを続けなければいけなかったので、精神的に疲れがたまっていたり、自分の集中したいときに集中できなかったので、やっぱりメンタル的にも若干テンションが落ちていたことは確かだよ。

寝技勝負に持ち込むことができず、判定負けを喫してしまったノゲイラ。しかし“60億分の2”の証である銀メダルを贈られたあと手をあげて歓声に応えていたのが印象的。

――8月に最高の状態に仕上げてきたのにノーコンテストで再戦になってしまったわけですからね。

ノゲイラ　あと寒いのが苦手なんだよ(笑)。ブラジルはいま40℃あって、Tシャツすら着ないで短パンひとつでいるくらいだからね。

――それなのに試合当日は大雪で、しかも相手はシロクマみたいな男ですからね(笑)。

ノゲイラ　きっとヒョードルにとっては日本の冬なんて暖かいぐらいだったんだろうな。やっぱり次に闘えるなら日本が夏の8月がいいね(笑)。

――昨年の8月は「技術的にも肉体的にも人生で最高のコンディションを作り上げた」と言ってましたけど、今後あのとき以上の自分を作るのは可能だと思いますか?

ノゲイラ　もちろん作り上げるつもりだよ。ボクにはボクシングにしても柔術にしても最高のトレーナーがついてくれているし、毎年毎年レベルアップしているから、もっともっとテクニックを覚えたい。

――じゃあ、まだ勉強中なわけですか?

ノゲイラ　おそらくピークを迎えるのは30代になってからじゃないかな。

――確かいま28歳ですよね? ということは少なくともあと2~3年は強くなり続けると。たしかにトップチームのマリオ(・スペーヒー)やムリーロ(・ブスタマンチ)は30代になってからどんどん強くなってますもんね。

ノゲイラ　そうだね。彼ら2人とランディ・クートゥアーはボクにとってよきお手本だね。でも、ランディみたいに40代まではやりたくないなぁ(笑)。

――まぁ、40まではやらないにしても、こんな自分を極限まで追い込むトレーニングが、今後何年間も続くというのは、精神的にどうなんですか?

ノゲイラ　それはボクが自分で選んだ道だからね。つらいとは思わないよ。でも、もう少しプライベートの時間や娘と過ごす時間はほしいね。去年はGPがあったから、1年中まったくそういった時間が作れなかったからね。ホント、まさか1月1日から大晦日までトレーニング漬けになるとは思わなかったよ(笑)。

――今年はミドル級のGPですから、少しはゆっくりできるんじゃないですか?

ノゲイラ　いや、でも弟のホジェリオをミドル級GPで優勝させるために一緒にトレーニングしなければいけないから、少なくとも8月まで休みはなさそうだよ(笑)。

――ミドル級と言えば、大晦日のシウバの試合はどう思いましたか?

ノゲイラ　いい試合だったけれど、やはり打撃に関してはマーク・ハントの方がシャープでパワフルだったね。でも、ヴァンダレイもよく頑張ったと思う。普通ならKOされてもおかしくないパンチを食らっても向かって行くんだから凄いよ。シウバがもう少しサブミッションができたら勝てたと思うけど、あれだけ大きな相手を寝技でコントロールするのは難しいからね。

――ハントは今回の試合で評価が一気に上がったんですけど、ヘビー級戦線でもかなり上の位置まで来ると思いますか?

ノゲイラ　もともと打撃のテクニックがありアグレッシブでパワーもあるから、強い選手だとは思ってたけど、今回の試合でそれが『PRIDE』でも発揮できることが証明できたから、これから総合のテクニックを磨けばトップ中のトップになる可能性はあると思うよ。ボクもぜひ闘ってみたいよ。

――ミルコの試合はどうでしたか? 初めてサブミッションで勝ったわけですけど。

ノゲイラ　彼は嬉しかっただろうね。あれを見たらボクも一度くらいはハイキックでKO勝ちしてみたいと思ったよ（笑）。

——触発されましたか（笑）。サブミッションの専門家から見て、ミルコのフロントチョークはどうでしたか？

ノゲイラ　よかったと思うよ。ランデルマンが対処の仕方を知っていれば、逃げられない技ではなかったけれど、そこそこしっかり入っていたからね。

——そこそこしっかりですか（笑）。まだ力任せに見えるということですか？

ノゲイラ　そこまでは言わないけど、一応押さえるところは押さえていたと思うよ。ミルコもかなりトレーニングを積んでいるんだろうね、そういうところは尊敬できるよ。

——次にヒョードルのベルトに挑戦するのはミルコになると思いますけど、ミルコは勝てると思いますか？

ノゲイラ　ミルコはスタンドは強いけど、ヒョードルのスタンドもかなりのものだし、それでいて寝技になったらヒョードルのほうが圧倒的に強いから、可能性で言えば断然ヒョードルだと思う。ただ、スタンドで勝負が決まれば、それはミルコの勝ちを意味するから、どちらに転んでもおかしくはないよ。どちらが勝つにせよベルトの価値がさらに高まるような、素晴らしい試合をしてほしいね。

——ところで『男祭り』の同日行われていた『Dynamite!!』はビデオか何かでご覧になりましたか？

ノゲイラ　見てないよ。忙しかったからね。マサトとKIDの試合はこれから見たいと思うけど。

——逆に言うとそれぐらいしか興味がないわけですか？（笑）。

ノゲイラ　そんなことないよ。アケボノとホイスにもちょっと興味はある（笑）。

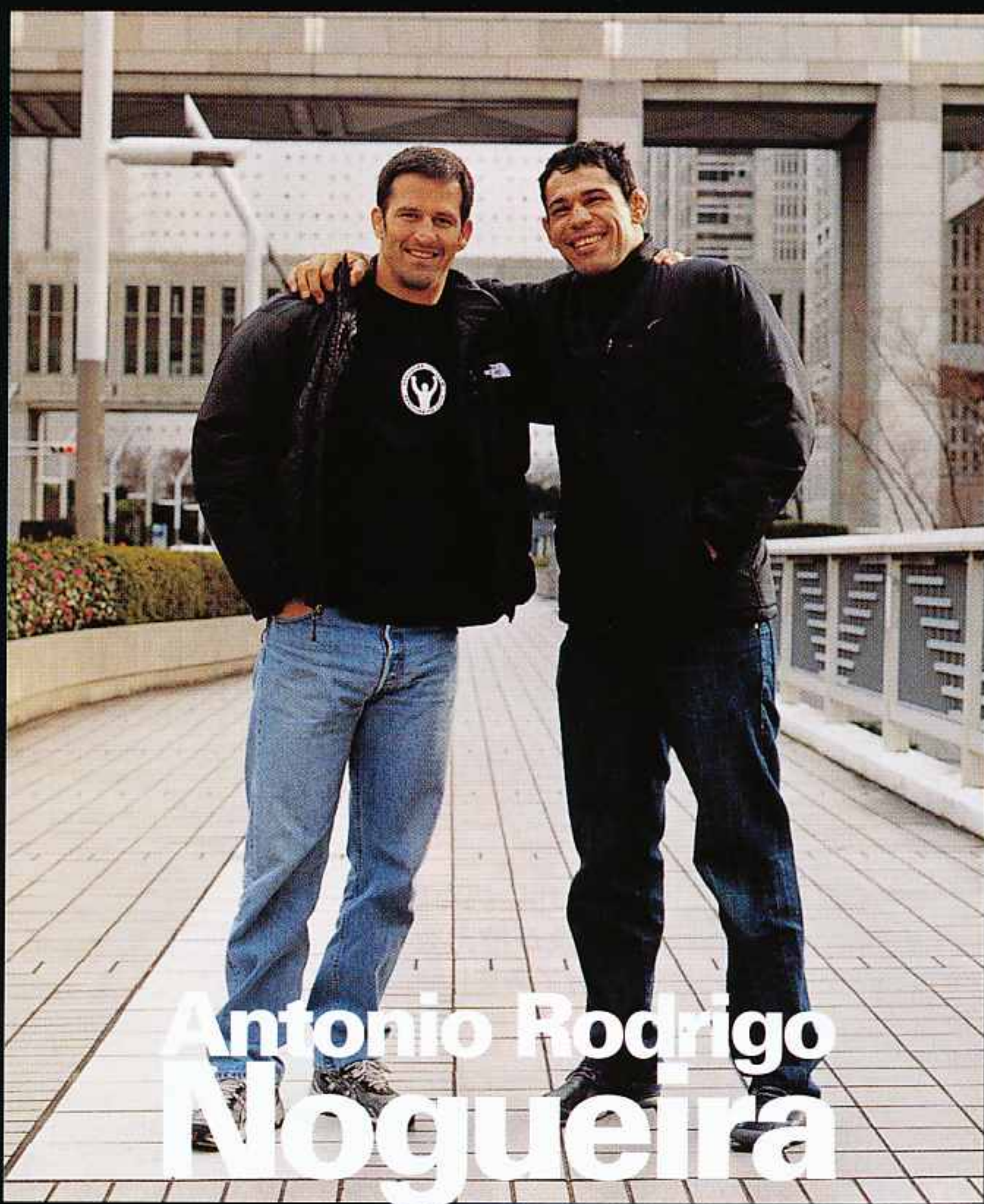
——どんな興味ですか？　まさかどっちが勝つかじゃないでしょうね（笑）。

ノゲイラ　いや、アトラクションとして面白そうだからね。ああいう試合を見るのは嫌いじゃないんだ（笑）。そういえば試合前にメディアに聞かれたんだよ。「アケボノがホイスにどうやったらダメージを与えることができるか？」って。

——で、なんて答えたんですか？

ノゲイラ　「ホイスがテイクダウンしようとするとき、ギックリ腰になるくらいじゃないの？」って（笑）。

今年は自分の足りない部分を強くすることと弟をミドル級GPで優勝させることが目標

Antonio Rodrigo
Nogueira

今回セコンドとして来日したムリーロ・ブスタマンチは、「ノゲイラを倒せるのはヒョードルだけであり、ヒョードルを倒せるのもまたノゲイラだけ」と断言。「ウエイトトレーニングとテイクダウンの練習さらにつめば必ず勝てる」とノゲイラの4度目の正直に期待をかけた。また、自身は83キロ以下の武士道GP優勝を目指すとのこと。

ノゲイラを倒せるのはヒョードルだけでありヒョードルを倒せるのもまたノゲイラだけだよ

——ダハハハ！　曙が自分で与えたダメージじゃないと（笑）。でも、ノゲイラ選手みたいにキツい相手と命を削るような闘いをしている選手からすると、ホイスのように、ああいう試合で大金を掴むというのはどうなんですか？

ノゲイラ　ホントに格闘技が好きな人なら、あそこで何が起きているかわかるだろうから別にいいよ。ボクは僕らの闘いの価値がわかってくれるファンの前で闘いたいからね。

——たまにはああいう試合もしたいとか思ったりしませんか？（笑）。

ノゲイラ　身体が動かなくなったらそういうのもいいかもしれないけど、身体が100％のウチはシリアスな闘いをしたいよ。そのための厳しいトレーニングだからね。ただ、誤解してほしくないのは、ホイスにとってアケボノ戦は決してイージーファイトじゃないということ。相手は技術がないとはいえ、あれだけ体格差がある試合はそう簡単に受けられるものじゃないからね。

——どんな事故があるかもわからないですからね。

ノゲイラ　だからボクはホイスの自分よりずっと大きな相手とも闘える技術やハートをホントに尊敬しているんだ。ボクがバーリ・トゥードをやろうと思ったそもそものきっかけも、80キロしかないホイスが120キロ以上あるダン・スバーンから三角絞めでタップを奪った試合を見たことだからね。

——ああ、あのUFCの試合がきっかけだったんですか！

ノゲイラ　うん、あの試合を見ていなかったら、ボクはバーリ・トゥードをやっていなかったかもしれないし、やっていたとしてもボブ・サップとの試合なんか受けてないと思うよ。だからホイスはボクにとって、ある意味アイドルだね。

——なるほど。では、最後に今年の目標をお聞きしたいんですけど。

ノゲイラ　ヒョードル戦のビデオをじっくりと見て、自分に足りないところを徹底的に強くする。あとはホジェリオがミドル級GPに優勝できるように、最大限のサポートをする、それがボクの目標だよ。

——逆にこちらから提案というか、やってほしいことがあるんですけど。

ノゲイラ　なに？

——大晦日に髙田本部長が披露した、ふんどし暴れ太鼓をノゲイラ選手にやってほしいんですよ。メチャクチャ似合うと思いますよ（笑）。

ノゲイラ　OK！　ボクの分の"タカダショーツ"を用意してくれればいつでもやるよ（笑）。

——ちょっと待ってください。ふんどしは外人選手の間で「タカダショーツ」って言われてるんですか!?（笑）。

ノゲイラ　そう。なんだったら、タカダショーツをはいて試合をしてもいいよ（笑）。

——それは外れたら放送禁止になるんでやめてください（笑）。

ノゲイラ　そうか残念だなぁ。お尻を出すのは大好きだからね。きっと彼女も喜んでくれると思ったのに（笑）。

——ノゲイラ、やっぱりお前、男だよ！（笑）。

【05年1月3日／都内・某ホテルにて収録】

「ヒョードルvsミルコは6月に実現させたい。ミドル級GPは4月、大阪ドームで開幕します」

大晦日が終わっても男達の祭りはさらに激化する！　『男祭り』が大成功に終わり、スター選手揃いのミドル級GP、ヒョードルvsミルコもう一つの頂上対決が控える2005年の『PRIDE』。その先取り情報と、『男祭り』で生じた問題をズバリ榊原代表にぶつけてみました。今年も『PRDIE』は凄いぞ！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　試合撮影／平工幸雄

designed by hisa（Two Three）

——大みそかの大仕事を終えて、大変おつかれさまでした！　代表としてはいかがでしたか？

榊原　1年を締めくくる日に、今年の『PRIDE』の集大成であり、ひとつの句読点となる大会が開催できたのではないかなと思っています。ただ、スペシャルな大会ではあるけれども、『PRIDE』という舞台はその日だけの奇をてらったことや今までの『PRIDE』の世界観とは異質なものはやれませんから。「SADAME」というテーマを決めて大会を開催して、『PRIDE』の世界観を表現できたと思いますし、お茶の間の人たちにもそれが支持されてきているんだなという感触はあります。

——2年連続大晦日で5時間半放送したことで、『PRIDE』が確実に世間に浸透していますよね。

榊原　『PRIDE』というのはどちらかというと会場に来てくれるコアなファンの人たちやPPVで見てくれる人たちや、それこそ『紙プロ』を読んでくれている人たちに届けているソフトだと思うんです。某老舗格闘技団体みたいに万人受けするものではないのかな、と。

——某老舗格闘技団体（笑）。

榊原　僕らが万人受けするものを作った時点で、『PRIDE』という世界観はなくなると思っていますから。そこは地上波で放送しても変えるつもりはないんですよ。お茶の間で笑いながら見ている人たちに迎合するソフトを作る気は全くないです。その人たちを振り向かせる方法はいくつもあると思うんですよ。媚びへつらったり、バラエティっぽいものや醜いものをみせたり、嫌悪感を抱かせるようなものであったり。ただ、そういうものを『PRIDE』のファンは望んでいないと思うんですよ。

——そうですね。

榊原　ましてや、当日はあんな大雪が降ったわけですからねぇ。会場に来てくれたファンにとっては、『PRIDE．10』の西武ドームに続いて思い出に残る大会になったと思いますよ（笑）。それでも時間通り始められるよう会場に集まってくださってありがたく思っています。

——でも、内容的に「普段の『PRIDE』で勝負する」というのは、DSEにとってもフジテレビにとっても大きな賭けだったんじゃないんですか？　他局は、それこそ力を入れたバラエティを放送しているわけですから。

榊原　そうですね。ある種の賭けですけど、その方がコントラストがハッキリしていいだろうなと思ったんです。笑いながら見るようなものを作りたくないし、みんなが手に汗握って興奮や感動という格闘技の良さ、あとは儚さや美しさという色気のようなもの、人生をすべて賭けたような男の修羅場を見せたいというのが狙いですから。他局ではマツケンサンバがあったり、細木数子があったり、格闘バラエティがあったりするわけだから、違いがハッキリしてボクは良かったと思いますよ。

——格闘バラエティですか（笑）。

榊原　『男祭り』と『Dynamite!!』を交互に見ていたという人に言われたんですよ、「ボブ・サップ

どうなる2005年のPRIDE

教えて、偉い人!

ドリームステージエンターテインメント代表取締役

榊原信行

シウバ離脱騒動、
判定問題もズバリ答えます!

僕らが見せたいのは闘う選手の生き様　清原選手のセコンド姿じゃないんです

があんな大きな体を小さく丸めて逃げ回る姿を見てあわれで笑えてきた」って。それが一般の視聴者の素直な感想なのかも知れませんね。でも、サップvs（ジェロム・レ・）バンナの方が視聴率は取ると思う、それは間違いない。もちろん、僕らも視聴率である程度の評価は得たいと思ってます。一昨年の『イノキ・ボンバイエ』みたいに5％なんて数字が出たらボクは頭を丸めて辞めていると思いますけど（笑）。だけど、5時間40分の番組で平均視聴率14％というのは僕らの予想以上の数字ですからね。目先の視聴率を取るため、奇をてらうことは何もしていないわけですよ。

――髙田（延彦・PRIDE統括本部長）さんがフンドシ一丁で暴れ太鼓を披露したのは度肝を抜かれましたけど（笑）。

榊原　そうですね（笑）。ただ、それ以外は普段の『PRIDE』中継と何ら変わらなかったですからね。解説席も小池栄子ちゃんがいて、ウッチー（内田恭子アナ）がいてアヤパン（高島彩子アナ）がいるだけでしたから。

――局アナですもんね（笑）。

榊原　つまり、僕らが見せたいのはセコンドにいる清原（和博）選手の姿や関根勤さんの姿ではないわけです。そっちに目がいって視聴率が上がったって、見せたいものが見せられていないわけですからね。それは僕らのやり方ではない。ただ、さすがにK・1は凄いなと思うのは、きちっと目的を持ってあれだけの数字を取るというのは素晴らしいと思います。K・1という自分たちの先を走る老舗をこれからも大目標にして、ウチも頑張りたいですね。

――とても一般視聴者向けじゃないという安生洋二vsハイアン・グレイシーというカードを大晦日に組んだところに、『PRIDE』の姿勢は感じられましたよ。

榊原　いやいや、実はその時間帯の視聴率は20％近く取っているんですよ（笑）。

――なんかそうらしいですけどね（笑）。ただ、ここで安生選手が出てくるというのは『PRIDE．1』から見ている人にとってはたまらないカードなんですけど、それ以外の人にはピンと来ないところがあったじゃないですか。それでも、こういうカードを組むことで昔から見ているファンにとっては、『PRIDE』はメジャーになっても俺たちのこと忘れてないんだ」って嬉しかったと思いますよ。

榊原　でも、『PRIDE・1』からのファンの人だけに向けて組んだわけじゃないんですよ。大晦日の放送というのは、普段『PRIDE』を見ていない人が見てくれるかもしれない、知ってくれるかもしれないプロモーションの機会になるわけですから、ボクらとしては絶好のチャンスなわけです。そういうタイミングだからこそ『PRIDE』の歴史を紐解きたい。安生選手の道場破りというのは『PRIDE・1』が始まる前に起きていたことなんですが、その道場破りがあったからこそ『PRIDE・1』が始まったわけです。だからこそ『PRIDE』の歴史をきちんと伝えるためにも安生洋二という人間の功績をキチッと伝えたかったんです。

――会場では安生コールも起きてましたね。

榊原　起きてましたね。そして試合後の安生さんが見せた清々しい表情、負けたんだけど本当に満足しているんな呪縛から解放された晴れやかな顔を見ていると、試合を組んで良かったなぁとしみじみ思いましたね。

――ひとりの男のトラウマを解放させたわけですからね。

榊原　『PRIDE』という舞台は、そこで闘うファイターの生き様や今までの人生の中で何を培ってきたかということをさらけ出してしまう場なんですよ。いちばん最初の髙田vsヒクソン（・グレイシー）もそういう試合でしたからね。隠そうと思っても全てをひっぺがされてしまうから隠せないんです。本当に裸一貫になった男の魅力をファンが楽しんでるところがありますね。

――『PRIDE』は勝ち負けがもの凄く重要だからこそ、ある意味勝ち負けだけでは評価できないという逆説的な魅力がありますよね。

榊原　ボクらがいちばん怖れている部分は、勝負論だけが先行してしまうことなんです。勝ち負けだけが大きな比重を占めていくアマチュアリズムというか、競技性が強くなり過ぎてしまうことは、常に避けたいと思っています。ボクがGP開催で抵抗を感じる部分はそこなんですよ。競技化していくことによって、男同士の勝ち負けを超えた部分の生き様を見せていく舞台ではなくなってしまうんじゃないかという。でも、いまは『PRIDE』がGPというハードも吸収しながら、そこに闘う男たちの生き様やその男の人生すべてまでもを、見られるようになっていますよね。

――そういう流れの中で、今回は残念ながら実現しなかったですけど、桜庭和志vs田村潔司戦はたしかに見たかったですね。

榊原　そうですねぇ……。ボクらが見せたいのはバーリ・トゥードという競技ではない。闘う男に課せられた運命や宿命というものが成就する場を提供していきたいわけです。だから、ボクの頭の中にあった「SADAME」のカードというのは、桜庭vs田村だったんですけどね。

――そのタイトルを付けた裏にはそういう意図が当然あったわけですか。

榊原　ええ。ノゲイラvsヒョードル戦が決まって、「じゃあ、あとは桜庭vs田村が実現できるならタイトルは『SADAME』しかない！」と思って。桜庭選手は「やってもいい」という確認が取れたんで、あとは田村選手だ、と。「今回は口説こう」と思って不退転の決意であのタイトルを発表して、自分に十字架を背負ったんですけど、あえなく今年も玉砕

目の前が真っ白になるほどの大雪に見舞われた大晦日の関東地方。さいたまスーパーアリーナもご覧の雪景色だが、悪天候もなんのたまアリ史上最高の4万8393人（主催者発表）の大観衆が詰め掛けた。

どうなる2005年のPRIDE

教えて、偉い人！

『PRIDE』の歴史を視聴者に伝えるためにも安生選手は必要だった

してしまいました（笑）。

——田村潔司はつくづく凄い男ですね（笑）。

榊原　ボクらもいろんな選手を口説いてきましたけど、田村潔司だけは口説けないんだよねぇ（苦笑）。でも、そのこだわりが魅力なんですよ。普通の人の常識も価値観も超えてるし、人対人という部分で「……いい加減ここまでやったらOKでしょ?」というところも超えてきますからね。田村選手の中では桜庭和志という存在に対する思い入れが強いんですね。自分にとって大事な競争相手だし、ライバルだし、同級生でありながら先輩後輩という関係だし、複雑な感情があると思うんですよ。確かに、桜庭選手よりも田村選手の方が踏み切れない立場だと思うんです。もし、仮に田村選手が負けたりすることがあれば、過去のUインター時代のイメージからすれば逆転するかもしれない。でも、そういった次元じゃなくて、田村潔司の中にある桜庭和志へのこだわりというのは、もっとピュアな部分だとは思いますけどね。

——それでもDSEとしては、必ず実現させたいですよね?

榊原　いつの日か必ずやると思いますよ。それが今年のミドル級GPかもしれないし、今年の大みそかかもしれないし、あるいは今年も実現しないかもしれないし。ただ、桜庭選手も田村選手も残された選手としての時間の中で、必ず交わるということを心に決めているはずです。それは2人と話していると感じますから。これは髙田本部長も言ってましたけど最高の状態のうちに闘わせたいですね。お互いが現役としてトップだと言えるときに「最高の日本人対決だった」と後世に語り継がれるような試合をあの2人なら出来ると思いますから。それが実現できるように今年も諦めずに頑張ろうと思いますし、その場所をいつでも用意して田村選手を待ち続けたいと思います。

——桜庭選手も『男祭り』はまさかの欠場になってしまいましたよね。これは代表としても大きな誤算だったんじゃないですか?

榊原　これはねぇ……視聴率で勝てるわけないよね！（笑）。お茶の間のことを考えたときに、ある程度の（視聴率で）計算が出来るのは日本人選手が試合をするということじゃないですか?　安生選手の試合で視聴率が取れたのは日本人だからという部分も少なからずあると思うんですよ。セットインユース（※注・TVをつけている世帯）の人たちにはノゲイラvsヒョードルでさえも、誰がやっているのか分からないと思うんですよ。そういう人たちまで引き付けていかないと視聴率は取れない。そういう中で桜庭選手はお茶の間にも一番届いている人だから、番組としては是非とも欲しいわけですよ。

——欠場の原因は、11月末のシウバ戦発表の記者会見当日に負ってしまったケガだったわけですよね?

榊原　まあ、1ヶ月あれば治ると思ったんでしょうね。これは後で聞いた話ですけど、2002年のW杯の時に（デビッド・）ベッカムが使ったような低酸素カプセルで早く骨がくっつくような治療をしていたそうです。桜庭選手は肋骨を折ってしまったんですけど、こういう部分はどうしても日常生活をしているだけでも動いてしまうんですね。だから思ってた以上に回復が遅れて、結局間に合わなかった。それでも本人は「やりたい」と最後まで言い張ってましたからね。

——肋骨が折れてるのに、ですか?

榊原　桜庭選手の中では「何があってもリングに上がろう」と思っていたんですよね。でも、そこを止めてあげるのが髙田さん、そして我々の仕事だと思いますから。最後まで桜庭選手は悔しそうでしたけどね。ヴァンダレイ・シウバとの4回目の対戦を引き当てられるというのは、よっぽどの運がない限りは無理じゃないですか?　そのチャンスを逃したくなかったんでしょう。

——ウチの雑誌も2号連続で桜庭選手を表紙にしたんですけど、発売した直後に欠場が発表になりましたからね（笑）。あれは参りました。

榊原　それはフジテレビも同じですよね。桜庭選手で全面的にプロモーションしていたんですから。フジテレビとしては吉田選手、瀧本選手、桜庭選手、この3人の試合でお茶の間の人たち、いわゆる世間と勝負しようと思っていたわけです。そして、その3人の中でも『PRIDE』として、いちばん届くのは桜庭vsシウバなんですよね。4度目の挑戦なのに心が折れずに立ち向かっていく〝普通のお兄ちゃん〟という構図、そこには日本人が忘れちゃいけない精神があるんです。散っても散っても次の年にはまた花を咲かせる桜のような桜庭和志の生き様こそ、我々が見せたいと思っているものですからね。

——4度目の挑戦という部分で賛否両論あったとは思うんですけど、その点については試合を組んだ時点ではどういうお考えでしたか?

榊原　確かにファンの中でも「4回目でしょ?　見たくないよ」って声もありましたよね。でも、みんな見たくないものこそ見たいんです。だって、曙vsホイスにしたって、「別に見たくないよ！」って人の方が多いでしょう?

——「ホイスの無駄遣い」とか言われてましたよね（笑）。

榊原　でも、それがTVでやってたら見たくなっちゃうんです！　「手首極められて負けるのかよ！」って言いながら見ちゃうものなんですね。

——「こんな技で負けるのかよ！」とか言いながら（笑）。

榊原　そうそう。でも、人間は見ち

やいけないものほど気になっちゃうんです。本当に見たくないものは、そういう意識すら起きないからね。「見たくないよ」って口で言っているものには、反作用で強烈に見たいという意識が生まれてしまう。『紙プロHand』のアンケートでも、桜庭vsシウバが「一番見たいカード」っていう声が凄く多かったじゃないですか。

―ヒョードルvsノゲイラに次ぐ人気でした（笑）。

榊原　「いい加減にしろよ」って話だよね（笑）。でも、見たかったなぁ……。シウバ戦の時に花道を歩いてくる桜庭選手ほど悲壮感が漂っている選手は、他にいないですからね。パフォーマンスをすればするほど、「やめた方がいいよ！　また悲しくなるんだから！」って言いたくなる、そういう世界を見せたかったんですけどね。

―まさに『PRIDE』ならではですね。その桜庭選手の気になる容態なんですがミドル級GPには間に合うんですかね？

榊原　日に日に良くなっていると聞いていますから、GPには間に合うと思いますよ。年明けに話したんですけど、「練習も再開した」と言っていましたし、「2月には試合をしますよ」なんて言っていましたから（笑）。ま、それは難しいでしょうけど。

―桜庭選手欠場のあおりを受けたシウバ選手は大変な仕事を任されちゃいましたね。

榊原　そういう意味で本当に頭が下がります。シウバの対戦相手には他の選手も名乗りを挙げた選手がいたんですけど、ハントが12月15日頃から練習を再開していたらしいんですが、試合10日前というタイミングでハント選手にも話をしたら「ミルコの首を取ること」と『PRIDE』のチャンピオンになること」が彼の目標だったので、「ゼヒやりたい」と言ってくれたんです。シウバにはブラジルを発つ前に桜庭選手がケガをして試合が出来ないことだけは伝えたんですけど、誰が相手かも分からない状態で日本に到着したんです。日本人で同じような階級で、それこそ桜庭と同じような組み技系の選手だったら、比較的「いいよ」って言い易いですよね？

―まあ、そうでしょうけど。

榊原　それがヘビー級の打撃系の選手が相手ですからね。

―桜庭選手とは正反対ですね（笑）。今までの作戦や練習は何だったんだ？って話になりますよね。

榊原　シウバの中で、この『PRIDE』に対する愛着と誇りと「ここを守ろう」という意識があったと思うんですよ。だから今回の彼の決断にはホントに涙が出そうでしたよ。改めてシウバは怪物だなと思いましたね。K-1の選手だって、ハントとあんなに正面から真っ向勝負しないでしょ？

―シウバはノーガードでいつも通り打ち合ってましたよね（笑）。

榊原　セコンドのフジマール（シュートボクセ）会長はこの試合に反対していたんです。選手や関係者が言ってないことをボクが言うのも気が引けるんですが、シウバは試合前から左の拳を痛めていて、パンチを打つと痛みが走る状態だったみたいです。

―万全には程遠い状態だったんですね。

榊原　それでもシウバは、「どうせやるなら強いやつとやりたい」と言って聞かなかったんです。でも、あれだけいい試合になりましたからね。

―試合後のコメントで判定に不満を爆発させたフジマール会長が「来年のことはブラジルに帰ってから決めたい」と言ったことで、「シウバ離脱か!?」というような見方もされたと思うんですが。

榊原　あの翌日にしっかり話をしました。シウバ本人とも話をしています。あの試合は、どちらが勝ってもおかしくなかったと思います。プロモーターという立場で言えば、選手の契約とか交渉を考えた時には「こっちに勝ってもらいたいな」なんて場合もあるんですけど、そういう我々の思惑はジャッジに一切反映していませんから。ジャッジは完全に独立させた状態でやっているわけです。だから『PRIDE』はホームタウン・ディシジョンや判官びいきな判定ってこれまでもないと思うんですよ。美濃輪vsハイアンのときだって、「なぜ美濃輪の勝ちにしないんだ？」ってブラジル人の関係者に言われたくらいですから。

“SADAME”の田村戦消滅後、シウバとの4度目の決戦が発表されたサクだが、肋骨骨折で無念の欠場。4月から始まるミドル級ＧＰでこの2大カードのどちらかは実現するのか？

桜庭選手も田村選手もいつの日か必ず交わると心に決めているはずです

―あれも僅差でしたよね。

榊原　今回の大みそかで言えば、近藤（有己）vsダン・ヘンダーソンも拮抗した試合だし、どっちが勝ってもおかしくなかったですけど、そういう試合であっても日本人だからといって有利になるようなことはない。我々のジャッジで重きを置いているのは「ワーク・トゥ・フィニッシュ」なんです。

―試合を決めようという意志ですね。

榊原　それとダメージです。フィニッシュにどう近づけていくか、そういう攻撃をした者が最もプライオリティが高い。テイクダウンを取ったところで、競技会じゃないからポイントを獲得できるわけではないんです。ただ、正直な気持ちとしてはあそこで（シウバには）負けて欲しくはなかったです。『PRIDE』の絶対王者として君臨して、ミドル級GPまでは傷ついて欲しくないという我々の思いもありました。シウバやフジマール会長は「負けていない」と思っているし、それはそれでいいと思うんです。彼らの気持ちやこだわりは尊重してあげたいし、ジャッジはジャッジでいいと思うんです。

―実際に判定は2-1で割れていましたからね。

榊原　このジャッジは100人が100人とも思っていることと反対のジャッジが下ったわけではないですからね。この試合のジャッジは10人いればたぶん2つにきれいに分かれる判定が出る状況だと思うんです。ただ、それをもって『PRIDE』を離れる理由にはならないと思います。そして、そういうことがないように話し合っています。

―これから契約を更新するという状況ですか？

榊原　そうですね。これから改めてリニューアルした内容の契約をしようとしているところで、今月末にブ

ラジルに行って結んでくる予定です。この4～5年で〝PRIDEで闘うヴァンダレイ・シウバ〟に対して愛情を持ってみんなが応援してくれているのに、それを反故にしてまで、どこか他のリングに上がるというのはシウバに限って言えばありえない話ですね。

―いちばん輝けるのは間違いなく『PRIDE』のリングですからね。

榊原 「いまの『PRIDE』があるのは間違いなくあなたのおかげでもあるし、間違いなく屋台骨の一本である」と本人に言ったんです。「せっかくここで屋台骨になってしっかりした家を建てたのに自分から出て行くことはないよね？」と。

―今後、判定に引き分けを導入するというプランはないですか？

榊原 それも考えたんですけど、そうすると引き分け狙いの選手も出てくるんですよねぇ……。我々としては、よりシリアスに一本を取りに行ってもらいたいし。日本人的には「引き分けでいいじゃん？」という気分もあるんですけど、そういう『PRIDE』にはしたくないです。

―近藤選手の試合は、ジャッジに2名もレスリング出身者がいたから「レスリングのポイントで判定しているんじゃないか」という声もありました。

榊原 日本人以外だとマット・ヒュームはジャッジに入っていますけど、今後ヨーロッパやブラジルからも（ジャッジを）入れる可能性もあります。ボクシングだって世界戦になったらまったく利害関係のない第三国からジャッジを呼んでいますからね。

契約が切れたからと言って現役王者に声を掛けるのはルール違反だと思いますよ

どうなる2005年のPRIDE

教えて、偉い人！

―話は変わりますが、ヒース・ヒーリングが大みそかにK-1のリング上で挨拶をしましたけど、これはどういう経緯だったんですか？

榊原 いいんじゃないですか。大みそかの時点で我々とヒーリングとの間には契約もなかったですし。これまで『PRIDE』の中で活躍して人気もある選手でしたけど、現実的にノゲイラのスピニングチョークで完敗した時点でヘビー級3強とは歴然とした差があったんですね。最初にノゲイラと闘った時と比べると、ノゲイラの進歩が圧倒的に早過ぎてもはや比べ物にならない。こうなると我々としては、使い勝手が悪いんです。これ以上ヒースのために実力差がある選手と試合を組んで無理に勝たせていくようなマッチメークも出来ませんから。現実的に、いまのヘビー級戦線の中でヒーリングが生き残っていくことは、非常に厳しいと言わざるを得ない。そうすると我々としては、あまり高いギャランティを払うことは出来ないわけですよ。そういう状況の中でK-1には「『PRIDE』で活躍した選手が来る」という部分で需要があるんでしょうし。ゲーリー（・グッドリッジ）のように『PRIDE』で引退した選手を引っ張り上げたら大活躍しちゃって……ねぇ？

マーク・ハントにPRIDE初黒星となる判定負けを喫したシウバは、試合後の会見で「判定に納得していない」と発言。さらにフジーマール（シュートボクセ会長）が『PRIDE』離脱とも取られかねない発言をしたが、シウバ抜きのミドル級GPなど考えられない。

―昨年のゲーリーはK-1でフル稼働でしたからね（笑）。

榊原 「PRIDEの番人」としての役割を全う出来なくなって引退した選手が、大活躍してるわけですから、ヒーリング選手も大活躍出来るかもしれないですけどね（笑）。ただ、彼もまだまだ若いし選手としてのレベルが上がったら、また『PRIDE』の門を叩いてくれればいいと思います。

―一昨年の大みそかに行われたような引き抜き合戦は、今後少なくなっていくんでしょうか？

榊原 ただ、今回のホイスみたいに間違いなく契約がある選手がK-1のリングに上がってしまう場合もあるんですよ。とにかく契約を遵守していきましょう、と。それ以外でしたらK-1で需要がなくなっても『PRIDE』に来たら需要があったり、その逆のパターンも今後はあると思いますから。

―プロ野球なんかでも自由契約になった選手が他球団に移って大活躍することって多いですからね。

榊原 そうですね。だから契約の切れた選手が行き来する分にはいいんじゃないですか？ ただ、それは常識的なルールの中でやった方がいい。現役のチャンピオン、たとえばヴァンダレイ・シウバやヒョードルの契約が切れたからといって声を掛けるのはルール違反だと思うんですよ。我々がレミー・ボンヤスキーやボブ・サップや曙やジェロム・レ・バンナ

実力者ダン・ヘンダーソン相手に上をキープし、有利に試合を進めたように見えた近藤有己だが、判定は2-1でヘンダーソン。観客に対してジャッジの基準を明確にすることも今後は必要か!?

に声を掛けたら、それはルール違反でしょうし。我々にはそういう気はないですけどね。K・1サイドにはその旨は伝えてありますけどね。

——あ、そうなんですか？

榊原　ええ、11月に言いました。彼らも理解してくれていると思います。そうじゃないとジャンルとしても競技としても成り立たないです。プロモーターとして一番つらいのは選手が両団体を天秤にかけて、ギャラを吊り上げようとすることなんです。それも一定のルールがあれば防げると思いますからね。

——お互いに〝仁義ある戦い〟をしようということですね？

榊原　そうです。

——大みそかは『武士道』の選手が大活躍でしたね。

榊原　『武士道』の選手にとっては、プロモーションの場としては最高でしたね。美濃輪選手も吹っ切れた試合だったし、長南（亮）選手の試合を編成上の都合でオンエアしてあげられなかったのは凄く残念なんだけどアッパレな大逆転勝利だったし。五味（隆典）選手は一歩も引かない闘いぶりで見事でした。今年の『武士道』に期待が持てる活躍だったと思います。

——今年の『武士道』はどういう展開を考えているんでしょうか？

榊原　大みそかに活躍した3人を中心に、（桜井）マッハ（速人）、三島（☆ド根性ノ助）、高瀬（大樹）たちがゴツゴツぶつかっていく場所を作ります。あとは未だ見ぬ強豪外国人選手をどんどんリングに上げて、来るべきGPに向けての熱を作って生きたいなと思います。

——GP開催の時期は決まっているんですか？　一部では9月という報道もされているようですが。

榊原　まだ決まっていないです。上半期は『武士道』の中でいろんな選手のワンマッチを組もうと思っています。たとえば五味選手と誰を闘わせたら面白いのか、いろんな夢が広がるからGPは面白いという部分があるんです。だから今年はそういう部分の開拓を頑張って、GPを開催するとしたら年末から来年にかけて、という感じでしょうかね。

瀧本選手はミドル級GPに出たあと武士道GPに出場する可能性もある

——これは2階級で行うんですか？

榊原　そうですね。73キロ以下級と83キロ以下級で8人ずつのトーナメントを2大会に分けて行うということをイメージしながら、2005年いっぱいまでの期間を使って、五味選手、美濃輪選手、長南選手、マッハ選手、三島選手、高瀬選手、まだまだ他にも現時点では言えない選手もいるんですが、彼らを世に売り出していく機会を作りたいですね。目先のことだけを考えて〝点〟で考えてしまうと難しいんですけど、1年後2年後を見据えて本腰を入れて作っていきたいですね。

——大みそかにデビューした瀧本選手は、ミドル級でもその下の83キロ以下級でも活躍できそうですね。

榊原　そうなんですよ。いまの彼の体重が85キロぐらいですからね。彼は無差別級でも闘っているから、今年のミドル級GPにも出場する可能性はあるでしょう。吉田（秀彦）選手との調整もあると思うんですけど、もし出場を希望するならゼヒ出てきてもらって実績を積んで顔を売ってから、『武士道GP』に出場してもいいと思うんです。吉田選手もヘビーとミドルのGPを狙っていたし、瀧本選手もミドルとその下の階級のGPを狙えると思うんですよ。そういう部分で広がりを持たせられたらと思います。

——今年の『PRIDE』の大きな幹はミドル級GPということになるわけですね。

榊原　そうですね。あとは、ヒョードルとミルコのタイトル戦ですね。それがいつ実現できるのか。いまヒョードルとも今度の契約に向けて交渉をしている段階です。それからミルコは2月も4月も試合をすると言い張っているんですよ。

——また言ってるんですか（笑）。

榊原　2ヶ月に1回ぐらい試合をやるのが、彼にとってはベストコンディションを保つには最適なんでしょうね。現時点では、ヒョードルもミルコも4月に試合をしてキッチリ調整をして6月にドーン！と激突するのがいいと思うんです。だから、ミルコはヒョードル戦までにあと2試合することになるんじゃないですか。

——相変わらず凄いなぁ……。

榊原　でも、彼は去年8試合もしているんですよ（笑）。このままコンスタントに試合を続けて、一気にヘビー級のトップまで上り詰めたいと思っているんでしょう。だから、2月の試合、今年の始動はどうなるんだ？という部分をしっかり見ていてほしいですね。あの人、そういう時に「えっ⁉」っていうことをやっちゃうんで（笑）。

——去年のGP開幕戦のように（笑）。

榊原　ああいうことがなく、本当にヒョードルまで辿り着けるのか？　それが今年の上半期のヘビー級の目玉です。

——でも、大みそかにミルコが見事に勝って、「さあヒョードルに挑戦だ！」という機運が高まっているじゃないですか？　そういう時に普通は無理に試合をさせないですよ。

ステファン・レコをヒールホールドで秒殺し、第1試合の役目を見事はたした美濃輪。一時期、自分のスタイルを見失ったように見えたが、これを期に再び大暴れしてほしい。

榊原　でも、ケビンの師匠であるマーク・コールマン、もしくは（セルゲイ・）ハリトーノフとの試合なんて面白いんじゃないですかね？　仮想ヒョードルとしてのハリトーノフ（笑）。

——また悪魔のような提案をしますね（笑）。ものすごく見たいことは見たいですけど。

榊原　負けたらどうなるんだ？と思いますけど、そういう方がハラハラしながら試合を見られますからね。まあ、近々に決められたらと思います。あとは2月の『PRIDE.29』ではミドル級GPに出場できるかどうかの最終選考を兼ねた試合を行います。GP出場がほぼ確定しているホジェリオは夏から試合をしていないので、調整的に試合を行うかもしれないです。（ヒカルド・）アローナ、クイントン（・ランペイジ・ジャクソン）、アリスター・オーフレイムといったあたりも試合をします。あと、ミドル級に転向した（イゴール・）ボブチャンチンが2月の試合に出る予定です。去年、ヘビー級GPに出られなかったんで、体重を落としてチャレンジしてくるので台風の目になると思いますよ。

——2月は大みそかとGP開幕戦の谷間の大会だと思ってる人も多いと思うんですが、そうなるとまた見逃せない大会になりそうですね。

榊原　ええ。それとGP開幕戦を今年は大阪ドームで行います。関西及び関西から西でも吉田選手や桜庭選手の試合をライブで見てもらう機会を作りたかったんです。その日はミルコもヒョードルも試合をすると思いますし、ノゲイラも「4月に試合をしたい」と言っているんです。どうしましょう？（笑）。

——ゼヒ全員の試合を組んでください！（笑）。

榊原　「これが『PRIDE』のトップレベルの選手の闘いですよ」というのを大阪から西の人たちはライブで目に焼き付けて欲しいんです。今年も大みそかは関東圏でやることになりそうですし……。

——もう決まっているんですか？

榊原　まあ、やるとすればの話ですよ（笑）。

——そして、今年はFILA（国際レスリング連盟）から選手を派遣してくるんですよね？

ミルコが本当にヒョードル戦まで辿り着けるかが上半期のテーマです

榊原　日本レスリング協会の福田（富昭）会長と相談をさせて頂いて、レスリングのメダリストやチャンピオンで総合格闘技と二足のわらじを履きたいという選手にライセンスを与えて、『PRIDE』に出場させるということを約束してもらいました。アゼルバイジャン、トルコ、東欧諸国、ヨーロッパ、中国、モンゴルには各階級に化け物みたいな選手がいっぱいいますから、そういう国々からアマレス協会推薦の選手が『PRIDE』に何人か上がる可能性があります。

——では、たとえば大みそかにK-1で試合をしたカリム・イブラヒムのように一本釣りは出来なくなるわけですか？

榊原　彼らはメダルを取るために国がさんざんバックアップをしているわけですよ。いい環境で練習をさせて、いいコーチをつけて、お金を掛けて育ててきた選手が、いきなり「じゃあ、プロに行きますから。さようなら」って。レスリング協会の中で今回のイブラヒムの件は思いっきり反感を買っているんですね。彼のやったことはエジプトでレスリングをやっている若い有望な選手に、ものすごく大きな影響を及ぼしたんです。国際レスリング協会はそういう部分をコントロールしたいんでしょう。本当だったら次の北京五輪で金メダルを取れるはずだった選手がプロに行っちゃってアマレスをやらなくなってしまうという危惧もあるんでしょう。

——となると今回の提携はかなりの大事（おおごと）ですよね。朝日新聞にも載ってましたけど。

榊原　大事ですよ。

——それから毎年噂されるアメリカ進出は今年こそ実現しそうですか？

榊原　前回もお話したように、ロサンゼルスでの開催に向けて動いています。できればGPが終わったあと、10月の『PRIDE.30』をアメリカでやりたいですね。記念すべき30回目のナンバーシリーズをアメリカ進出の第一歩にできたらなと思っています。

——では、最後に今年の抱負をお願いします。

榊原　今年はですね、『紙プロ』の編集長にあんまりプレッシャーがかからないように仕事を頑張ろうと、それがボクの抱負ですね（笑）。

——今年もよろしくお願いいたします（笑）。

【05年1月13日／DSEにて収録】

世界レスリング連盟のマルティニティー会長と日本レスリング教会の福田会長がリング上から『PRIDE』との提携を発表した。

マット界の視聴率キングが語る『Dynamite!!』と2005年、K-1の展望!!

「予想以上にやってくれたのがKID選手。予想以上に簡単に負けてしまったのが横綱ですね（笑）」

昨年に続き、紅白歌合戦を大いに苦しめ、平均視聴率20.1%を叩き出した『Dynamite!!』。去年の曙vsサップのような超目玉カードはなかったものの、曙vsホイス、魔裟斗vsKIDなどダイナマイッなカードを揃え、マット界の視聴率キングの座を防衛した谷川貞治プロデューサーに、『Dynamite!!』裏話と2005年のK-1の展望を聞いた！

聞き手／中村カタブツ君（42歳） 構成／松澤チョロ 撮影／平工幸雄 試合撮影／乾晋也
designed by hisa（Two Three）

そして、2005年
K-1のテーマは
〝再会〟――!?

K-1イベントプロデューサー

谷川貞治

——明けましておめでとうございます！ もうだいぶ経ちましたけど『Dynamite!!』は面白かったですねえ。

谷川 そうですね。いいイベントでした。大阪に来てたの？

——いえ、ボクはテレビで観ました。

谷川 テレビも良かったけど、会場も面白かったですよ。

——宇野選手の試合とかは全く映らなかったんで、それがちょっと残念でしたね。

谷川 宇野選手の試合は良かったなあ。大したもんですよ。

チョロ 相手はビッグネームではなかったですけど、ローを出した瞬間いい選手というのが伝わりましたし、緊張感のあるいい試合でしたね。

谷川 1ラウンドで「これはダメかなあ？」って思うぐらい、相手は強かったですからね。

——いい試合だったみたいなんですよね。で、ボビーの試合とかも、大会前は相当叩かれてましたけども……。

谷川 （遮って）叩かれてたんですか？

——そう思えましたけどね。でもフタを開けると凄い面白かったというか、試合を見て「涙が出た」と言ってた人もいましたからね。

谷川 だって涙を出させるために組んだカードですから（キッパリ）。

——ワハハハ！ 狙い通り。

谷川 ホントに見事にハマったなあ（笑）。ボビーもよくやってくれたし、アビディも流石でしたよ。

——でも試合前は「素人をなぜリングに上げるんだ？」とか格闘技専門誌は批判的なところが多かったですよ。

谷川 ああ、そうなんだあ。全然気付かなかったですねえ。

——気付いていませんでしたか（笑）。あと『Dynamite!!』の試合後のコメントも面白かったみたいで。

一番の誤算は横綱の試合。ホント勝つと思ってましたから

谷川 誰のコメントが？

チョロ ホイスに負けちゃった曙さんに、記者が「ハルウララみたいですね」って冗談っぽく言ったら、自分から「そうだよねえ。……そんなこと言うなって！ 書くなって！」って乗りツッコミしてましたから（笑）。

谷川 ハハハハ、そうなんだ（笑）。

チョロ 落ち込んではいたんですけど、意外とアッケラカンとしてましたね。そこが曙選手の魅力の一つですなんですけど（笑）。

——もっと試合に出て欲しくなりましたよ。痩せ我慢かもしれないですけど、落ち込む姿を見せようとしないのがいいですね。

谷川 パーティーの時に喋って以来会ってないんですよね。その時は「スミマセン」って感じでしたけど（笑）。でもあのオモプラッタの練習はもの凄くやったんだけどなあ。

——そうなんですか？

谷川 ホイスは下になったらオモプラッタ、上になったら袖車しかないって踏んでましたから。だから予想は当たってて、それに向けて作戦立ててたはずなんだけどなあ。

——『寝技に付き合うな』って言われてたのに、我慢できなくて自分から飛び込んじゃった」って本人は言ってましたね（笑）。

谷川 そうそう。な〜んでああなるんだろう……。『Dynamite!!』の一番の誤算は横綱の試合でしたねえ。ホント勝つと思ってましたから。

——谷川さんは、ずっと「横綱の総合は凄い！」って言ってましたからね。でも本気でそう思ってたんですか⁉

谷川 思ってましたよ！「安田劇場、再び！」がテーマのメインイベントでしたから。

——ワハハハ！ さすがだ。

谷川 それにもっと試合が長引くと思ったんですけどね。そしたら去年のサップ戦より短いんですもん。ガクッとしましたよ。

——試合時間が短いと視聴率にも響きますからね。でも下馬評では圧倒的にホイス有利でしたよね？

谷川 だから「みんな驚くだろうなあ」って楽しみにしてたんですよ。一人でニコニコしながら入場とか待ってたんですけどねえ。ホント大誤算ですよ。

——他に大誤算はなかったんですか？

谷川 いい意味での誤算は、やっぱりKID選手ですね。魔裟斗選手相手に、あんなにやるとは思わなかったですから。金的の時はKID選手の足が痙攣して、涙が自然とボロボロ出てたんですよ。で、やれるかどうかってなって、TBSの樋口プロデューサーまで心配して「時間かけてもいいから回復を待ちましょう。ここで止めたらもったいない」っていう状況までいきましたから。でもインターバル5分とったのに、KID選手が3分ちょっとで闘い始めて、ホント大したモンですよォ！ 2〜3ラウンドには魔裟斗選手の凄くいいヒザが入ってるんですよね。ホントよく倒れないなあって。

——それは魔裟斗選手も言ってましたね。「普通のファイターだったら、あのヒザで終ってる」って。

谷川 ホントですよねえ。魔裟斗選手も金的蹴った直後に、またインローで金的蹴ったのも凄いって思ったんですよ。執拗な下腹部狙いだなあって（笑）。その非情さが魔裟斗選手だし、その攻撃によくKID選手は耐えたなあって。

——ホントそうですよねえ。

谷川 控室では外人選手がみんなスタンディングオーベーションでしたよ。でもKID選手はタオル巻いて泣いてましたねえ。「ホントに勝つつもりだったのに」って悔し泣き。男らしいなあ。

——ちょっと惚れますよねえ。

谷川 やってくれるとは思ってましたけど、予想以上にやってくれたのがKID選手だし、予想以上に簡単に負けてしまったのが横綱ですよね（笑）。せめて、持ち上げて叩き付けるとか、一発殴ってホイスがふらつくとか、そういう場面が一回でもあれば良かったんだけどなあ。あとは格闘技ならではの意外な展開だったのが、イブラヒムの試合とバンナvsサップ戦（笑）。でもそれはそれで面白かったしなあ。

——サップは、非常にサップらしさが出てましたねえ（笑）。

谷川 サップらしかったなあ。あとは秋山選手はいいねえ。秋山選手はホント、日本の格闘技界のエースになりますよ。

——総合初戦のボタが相手だったとはいえ、いい勝ち方をしましたしね。

谷川 テイクダウンして腕十字取るだけじゃなく、魅せましたからね。

——秋山選手と同時に『PRIDE』で瀧

本選手がデビューして、柔道の話題が分散してしまったんですけど、それに関しての心配はありませんでしたか?
谷川　それはあまりなかったですねえ。
――瀧本選手はシドニー五輪の金メダリストという肩書きが付いてましたけども……。
谷川　肩書きはあまり関係ないです。やっぱりプロとしての華の部分とマッチメイクの勝負ですからね。生かすも殺すもプロデュース次第ということで。でもやっぱりボクが『PRIDE』で一番興味があったのは瀧本選手でしたね。だから実際試合は観ましたよ。
――K-1プロデューサーから見た瀧本選手はどうでしたか?
谷川　いやあ、芯の強い選手だなあと。
――試合内容はちょっと残念な感じでしたけども。
谷川　やっぱり難しかったんじゃないですか。
――ちょっと嬉しかったとか?（笑）。
谷川　嬉かないですよぉ（笑）。……あまり言いたくないんですけど、やっぱりカード的に、瀧本選手も吉田選手もかわいそうでしたよね。体重差の問題もそうだし、相手の戦法も含めて。
――一方、『Dynamite!!』は『男祭り』とは対照的に、分かりやす過ぎる試合の連続で、ドラマ性もあるというか。
谷川　でも、そんな中にも全試合勝負論がありましたからね。どっちが勝つかわからなかったですから。そういう意味では、魔裟斗vsKIDが一番勝負論がなかったと思うんですよね。
――魔裟斗vsKIDは勝負論がなかった?
谷川　だってK-1ルールで一試合しかしてないKID選手に、実力者の魔裟斗選手が負けるってことは普通あり得ない話じゃないですか。それをどっちが勝つかわからないとこまで持っていったKID選手は、凄いとしかいいようがない。でも、他の試合は、藤田vsイブラヒムなんか、いろんなパターンが想像できたし、サップvsバンナもどっちが勝つかよくわからなかったでしょ（笑）。
――確かに想像がつきやすいような、つかないような（笑）。
谷川　ボクは横綱vsホイスも、ボビーvsアビディも、宇野選手の試合も五分五分だと思ってたんだけどなあ。ただ秋山選手はやや有利だったと思うんですけどね。でも、体重差が30キロもあったし、柔道家はそんなにテイクダウンが上手くないですから。小川選手、吉田選手、瀧本選手にも言えると思うんだけども、裸の相手をテイクダウンさせるのは柔道家にとっては大変だから、パンチを喰らう可能性があったと思うんですよ。ましてや秋山選手は気が強いから打ち合っちゃうかもしれなかった。そういう部分では勝負論はありましたよ。でもカッコよかったですよねえ。入場から何から「こんなカッコいいヤツっているんだあ」って感心して。
――惚れましたか?（笑）。
谷川　ホント惚れましたねえ。しかも、これまたチケット売るんだよねえ。地元だからかどうかわからないですけど、秋山ファンがもの凄い多いんですよぉ。
――その部分に惚れるのは佐伯さんぐらいだと思ってました（笑）。
谷川　何百枚単位で一回で買っていくからねえ。しかも何回も。
――そういう話を簡単に話してくれる谷川さんに惚れますよ。さすが『Dynamite!!』プロデューサーというか、NHKの会長を引きずりおろした張本人というか（笑）。
谷川　ボクじゃなくて、TBSの樋口プロデューサーがそう言われてるらしいですよ。
――猪木さんもずっと〝海老沢固め〟って言葉使ってて、ホントに固めて延髄斬りで斬って捨てちゃいましたよね（笑）。
谷川　視聴率が出た時に、TBSのお偉いさん方に「来年はひとつお願いがあるんですけど、コマーシャルは止めてもらえません

大会前から谷川プロデューサーと絶妙な掛け合いを展開していたのがボビー・オロゴン。"史上最強の初心者"の名に恥じない試合ぶりで、あのシリル・アビディに勝利し日本中を感動の渦に巻き込んだ。もっとも谷川Pは「涙を出させるために組んだカードです」とキッパリ。

大会前から「横綱の総合は凄い！」と太鼓判を押していた谷川プロデューサー。しかし、終わってみれば繰り返し練習してきたオモプラッタ地獄に落ち入りギブアップ負けの曙。試合後、曙は「とりあえず勝つまでやりたい。ここまで来て連敗で辞めますっていうのも、もったいないし。とにかく1勝でもいいから勝つまでやりたいッスね。いつになるか分からないけど。ハルウララみたいだって？　言うなって！書くなって！」と取材陣を和ませた

か？」って頼んできたんですよ。さすがに「それはできません」って言われましたね（笑）。
――ＮＨＫなら可能なんですけどね（笑）。
谷川　ねぇ（笑）。一昨年は横綱vsサップっていう超飛び道具があったんで、一点集中で、（須藤）元気選手とか（中邑）真輔選手の試合が周りを固めたっていう感じでしたけど、この前はそういうカードが組めなかったんですよね。だからコレは平均視聴率勝負だっていうことで、まんべんなく面白い試合を作っていこうとして、それが見事に成果が出たなあと思います。
――清原選手の使い方も、秋山選手込みで一面になった翌日の新聞の扱いも含めて計算通りですか？
谷川　清原選手も仕掛けの一つですよね。新聞って１日に何度か一面が変わるんですけど、秋山選手がなったり、横綱がなったり、ボビーがなったとこもあったし、ドンドン変わっていってましたね。
――いずれにしても『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』でしたからね。
谷川　うん。だから嬉しいなあって。
――勝利宣言してもいいんじゃないですか？
谷川　勝利宣言っていうか、執念の20％越えというか、ホント０・１％越えなんで。その中で魔裟斗vsＫＩＤの視聴率が一番良かったのが単純に嬉しかったんですよ。フジテレビだったら、『ＰＲＩＤＥ』が年間のシリーズをやって、そのクライマックスとして『男祭り』があれば、その流れでダイジェストなんかでもってこれるじゃないですか。でもＴＢＳにはＫ－１ ＭＡＸしかない。それで視聴率を取れたことが嬉しかったんですよ。
――ＭＡＸのつながりの中で年末に持っていけたと。
谷川　それが一番嬉しかったですね。
――で、話題を今年に移すとＫ－１の大会としては、まだ2月のＭＡＸしか発表されてませんよね？

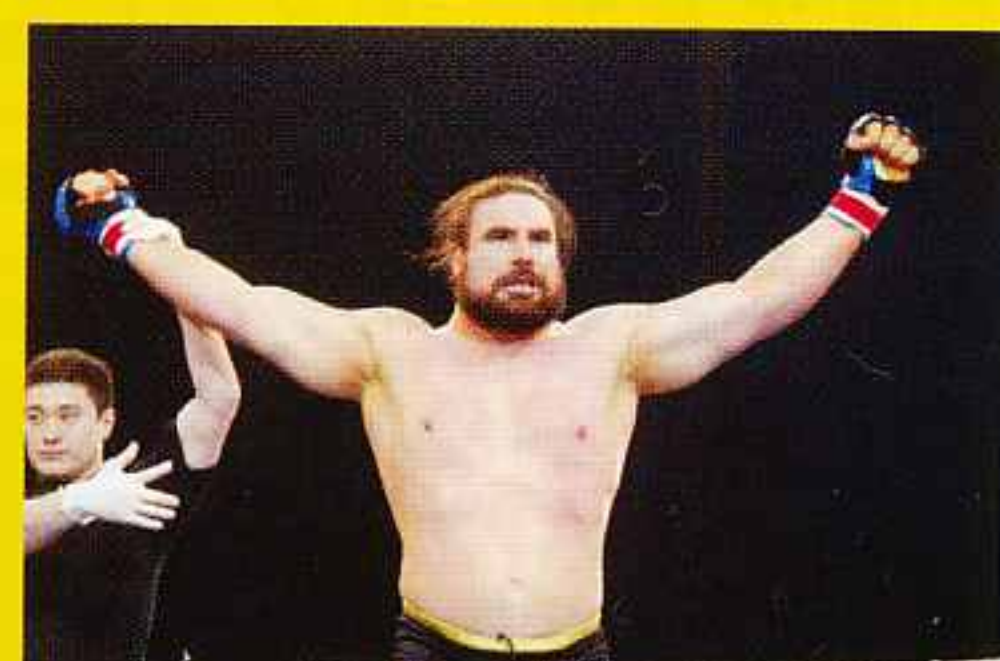
上井さんを男にするということには、ホント協力は惜しみません！

谷川　もうすぐ年間スケジュールを発表しますよ。
――今年はＲＯＭＡＮＥＸはやらないんですか？　総合系もかなり揃ってますけど。
谷川　全く考えてないです。ほぼ固まってるのはＫ－１ ＷＯＲＬＤ ＧＰとＭＡＸ。今年はＷＯＲＬＤ ＧＰを世界に発信していきますよォ。
――これまでも海外での大会は開催されてますが、例年以上にということですか？
谷川　そうですね。日本でやるのは開幕戦と決勝戦ぐらいじゃないですか。そのぐらいのつもりでいます。とにかく海外での需要が高いんですよ。去年95ヶ国に放送して、いまその勢いが凄いんですよね。やっぱり去年の韓国大会も熱狂的に迎えられたし、そういう意味ではＷＯＲＬＤ ＧＰは世界に羽ばたいていこうかなと。ＭＡＸはカリスマ日本人選手がたくさん出てきてるんで、有明コロシアムとか代々木第一体育館を中心に、魔裟斗選手の返り咲きやら、新しいスター選手の登場とか含めてドラマを創っていきたいんですよ。
――ＭＡＸはいま粒揃いですからねえ。あとＫ－１がプロレスにも進出するんじゃないかとも言われてますよね？
谷川　え～、プロレスについては進出しません（笑）。それって上井さん繋がりでそういう話が出てるんだと思うんだけど、上井さんがプロレスのイベントをやることに関しては全面的に協力しますよ。サップやら何やら含めて。
――曙選手も含めて（笑）。
谷川　横綱がやるかどうかはわからないですけど、上井さんを男にするということにはホント協力は惜しみませんから。
――去年、Ｋ－１のチケットもいっぱい売ってくれましたしね（笑）。
谷川　そうそう。感謝の意も含めて、何かアドバイスできることがあればするとか、選手の貸し出しから、そういう応援はしますけど、正直言ってプロレスのことはよくわからないし、あまり余力もないんで。まあ、上井さんは、いかにも上井さんっていう興行になると思いますね（笑）。
――噂では上井さんが前田日明さんと会ったとも言われてますけど、谷川さんはその辺の話は聞きました？
谷川　その話はボクもチラッと聞きました。ボクは会ってませんよ（笑）。
――（『週プロ』を見て）「ネックは上井氏が頼りにしているＫ－１と前田とのこじれた関係が……」ってヤスカクさんは書いてましたけど。
谷川　そんなこと書いてあるんですか？　前田さんとはこじれてません！
――でも前田さんが協力してくれるんであれば、ファンとしては見たいですよ。それにも協力は惜しまないと。

ある意味、魔裟斗vsKIDやメインを喰った感のある清原和博。試合後、秋山と抱き合う姿は各社スポーツ新聞の一面をゲット！　近い将来の『Dyamite!!』参戦が期待される。

12・31『Dynamite!!』ダイジェスト

マウントを奪って上から殴りまくるボビー。３Ｒにはダウンを奪われる場面もあったものの、終始アグレッシブに攻めていたボビーが判定で勝利！　アドゴニーの肩車でマイクを持ったボビーは「ヴァー!!」と雄叫び「オオサカノミナサン」としゃべり始めるも涙声で言葉にならず。終始アドバイスを行っていたセコンドの菊田早苗ももらい泣き、アビディに挨拶するよう、うながした後、抱き合って勝利を喜んだ。

試合前日の会見では「リングの上で、10ヶ月習ったことすべてを出しそびれたいと思います」と真顔でコメント、すかさず秋山に裏拳でツッこまれていた“史上最強の初心者”ボビー・オロゴン。おなじみ「さんまのからくりTV」マニュフェスト外語学院のロゴ入りスパッツに祖国ナイジェリアの民族衣装を着て笑顔で入場したボビー。開始早々、ボビーはＫ－1戦士のアビディに対しパンチで突進してテイクダウンに成功！

オープニングマッチではＺＥＲＯ－ＯＮＥマットで大活躍した超獣プレデターが登場。昨年トム・ハワードが闘ったクリストフ・ミドゥ“ザ・フェニックス”相手に師匠の敵討ちに挑んだ“SADAME”の一戦は、開始直後テイクダウンに成功したプレデターがいきなりネックロックで勝利!!　鮮やかな勝利で大会に勢いをつけた。昨年に続けて２回目の『Dynamite!!』登場となるプレデター。今年の年末も大暴れが見られるか!?

谷川　そうですね。ボクも見たいし、協力して、前田さんと再会したいなと。だから別にネックじゃないし、館長も去年、前田さんと食事したみたいですよ。まあ、仕事の話は全然してないですけど、たまたま会ったらしくて。城南薬局かどこかで。

——そのまま飯を食ったと（笑）。

谷川　ええ（笑）。だからシコリとかはないですよ。

——じゃあ、上手く歯車が合えば一緒に仕事をする可能性もあると。

谷川　全部歯車の問題でしょうね。あとは前田さんの意思。どうなんでしょう、プロレスなんかやらないって印象がありますし。

——前田さんを選手として引っ張り出そうとは思ってないですよね？

谷川　やったら凄い人なんですけどねえ。でも前田さんの気持ちが、どこにどうあるのか全然知らないですから。

——上井さん興行の旗揚げ戦は3月に横浜アリーナでやるとか噂が出てますよね。

谷川　まだ、そこまでは聞いてないです。

——でも、上井さんは、ことあるごとに「テレビをつけなきゃいけない」って言ってるんで、そういう意味でK-1が協力するみたいな見方をされてると思うんですよ。

谷川　できることがあれば協力しますよ。ボクねえ、いまのプロレスを復活させるのは、もう上井さんしかいないと思いますよ。新日本プロレスの1・4見てもそうですけど、ちょっとつらかったですよねえ。

——『アルティメット・ロワイヤル』とかご覧になったんですか？（笑）。

谷川　興味はあったんですけど、何をしてるのかサッパリわからなかったです（笑）。ドームは会場で後半3試合を見たんですけど、巴戦もちょっとビックリしました。

——いきなりストレート勝ちですからね（笑）。

谷川　せっかくの長州選手もIWGP王者の天山選手も、「アレェ？」って感じで（笑）。でもメインの中邑選手は良かったですけどね。

——中邑選手を今後『Dynamite!!』なりにオファーすることはないんですか？

谷川　チャンスを見て、また声をかけさせてもらいます。

——あと健介さんにも参戦を要請しましたよね？

谷川　そうそう。最初、武蔵の相手を捜してる時に、高山堂の伊島さんからアイディアが出たんですよ。それで上井さんに「健介さんは1・4は出ないんですか？」って聞いたら、「よくわかんないけど、オファーされてないみたいです」って言ってて。そして上井さんを通じて健介選手と話をしたら、最初の反応が「ドキドキしたいですねえ」ってことだったんですよ。

——それ、いいセリフですねえ！

谷川　でしょ？　健介選手はホントにやる気満々だったんだけど、鬼嫁さんの言うことも的を得ててねえ。「2週間ぐらいしか練習できないで、勝つ要素が1％でもあればやらせるけど、それは100％ない！」って。ボクも「そんなことわかりませんよ」と言いながらも、K-1ルールなら、まあそうだなと（笑）。お二人はボクの目の前で言い合いしてましたよ。「絶対ダメだ」「そんなことわかんない

驚異的なスピードの攻防から、キッドの左フックで魔裟斗がダウン!! キッドを追う魔裟斗、右のインローがキッドの金的に入ってしまう。拳をあわせて試合再開。2R、魔裟斗の右ハイでキッドがぐらつきダウン! 飛びヒザをおりこんで攻めまくる魔裟斗、以後は互いに倒れず試合終了、判定は魔裟斗勝利、マイクを持った魔裟斗は「ローブロー、本当にゴメン。俺より軽いのにダウン奪って、さすがだなと思います。東京に帰ったら飲みに行きたいくらい」。ここでキッドがリングに向けてお辞儀。両者ともに光った、今大会ベストバウトとなった

2000年『猪木祭り』で小路晃とタッグを組み、サスケ&松井大二郎組と闘って以来となる宇野の大晦日参戦&『Dynamite!!』初参戦。緊張感溢れる、いい試合だったが、残念ながら地上波では放送されず。スマックガールばりの「寝技30秒ルール」で行われた一戦は、チャンデットの打撃をかわしてテイクダウンに持ち込んだ宇野がバックを奪ってチョークスリーパー！「この舞台で闘えて嬉しいです」と、観客に向けて挨拶を行った。今回は流れたが武田幸三とのMIXルール戦は実現するのか？

清原和博をセコンドに柔道着で登場の秋山成勲。元ボクシング王者、フランソワ・ボタの打撃をかいくぐってグラウンドに持ち込むと、あざやかに腕十字を極めてプロ初勝利!!　マイクを持った秋山は「一言だけいいですか。K－1……そして、柔道サイコーッ!!」。翌日は飲み屋から一夜明け会見に直行。「毎回テーマのある異種格闘技戦みたいな試合をやりたい」とコメント。さらにはホイス戦との一戦も狙うとブチあげた。

リング上もダイナマイッなら、解説席も負けずにダイナマイッなメンバーがズラリと勢揃い!!　左から谷川プロデューサー、グラビアアイドル山田優、ワカパイこと井上和香、秋山のセコンドを終え駆けつけたジャイアンツの番長・清原和博、そしてマッドネス・船木誠勝。このほか畑山隆則も登場。船木のキラー解説は地上波ではかなりカットされていたのが残念だ。「ゲスト解説の清原和博投手です！」と井上和香に紹介され清原が苦笑いを浮かべるシーンも

だろう」とかって（笑）。

――いいもの見ましたねえ（笑）。

谷川　そうですねえ。鬼嫁さんが「谷川さん、お金じゃないんです」って言って、でも健介選手が「MVP取ったいま出るべきなんだ」と。「で、どうしますか？」て聞いたら、「ちょっとグアムから帰ってから、また」って（笑）。

――帰国待ち（笑）。もしかして次の『Dynamite!!』には出るかもしれないですね。

谷川　ボクはやると思いますよ。武蔵になるかどうかはわからないですけど、やって欲しいですね。

――健介さんには「武蔵選手だから受ける」みたいなところがあって、その理由が「いい人だから」っていうことなんですよね（笑）。

谷川　北斗さんも言ってましたね。夫婦で武蔵をリスペクトしてくれてて。『ジャンク・スポーツ』に武蔵が出演したときも「家族で見てましたよ」って（笑）。でもやるやらないは、夫婦で駆け引きなく、ガチンコで止めてましたね。純粋なプロレスラーの2人の姿を見ましたね。「グアムに勝彦を呼んで練習する」「いまから飛行機なんか取れるわけない」とか言い始めて。

――中嶋くんはK-1的にどうなんですか？

谷川　いつでもいいですよぉ。ホント、いま健介ファミリーは鬼嫁さんも含めて、アニマル浜口さん親子と匹敵する存在だと思いますよ。一般世間に通用する大人気者ですから。あの二家族は大晦日向きなんだよなあ。

――大晦日向き（笑）。すでに大晦日要員を検討中なんですね。そういえば京子ちゃんの弟さんも、総合格闘技をやりたがってるみたいですからね。

谷川　ボクはね、年末にアニマル浜口さんに試合してもらいたかったんだよなあ、総合ルールで。これはかなり泣けると思うんですよね。セコンドが京子ちゃん。

アニマル浜口さんに出てもらいたかった。相手？　ガッツさん（笑）

――いいドラマになりそうですね（笑）。対戦相手も頭の中にはあるんじゃないですか？

谷川　いやあ……また非難轟々になりそうなんですけど、……ガッツ石松さんとかいいですよねえ。

――ワハハハハハ！　メチャクチャ見たいですね！　これは視聴率取りますよ!!　でも谷川さん、格闘技界を敵に回しますよ。

谷川　でもガッツさんは去年ブームでしたから。本気でオファーしようかなあって思ったんですけども、非難の声を考えて、この案はのど元で止まりました（笑）。個人的にはガッツ石松vs藤原敏男が見たいんですよね。

――それは劇画『四角いジャングル』で煽ってたカードですから、見たいですよね。藤原先生はいつでもいけるはずですよ！

谷川　見たい！　「軍鶏の蹴り合い」なんて言われて、黙ってられないでしょう、20年前の話だけど（笑）。

唯一のMIXルールとして行われたサップvsバンナの一戦。1RのK-1ルールはバンナの一方的な展開。2Rの総合ルールはサップが優勢と非常に分かりやすい試合に。スタミナ切れのサップは何とか最終ラウンドまで辿り着いた

――だから、K-1のやろうとしてることって昔のロマンある興行なんだと思うんですよ。

谷川　館長も含めて梶原一騎イズムが脈々と流れてますから。でもまあ、その辺はさじ加減で調整しますけど、普段は真面目にやっていきますよ！

――普段は（笑）。

谷川　MAXとWORLD GPはしっかりやると。その上で『Dynamite!!』も真面目に真剣に、難しいんだけど、お笑いには絶対しないように。でも、ボビーがボコボコになるようなシャレにならない試合は避けて、かと言ってプロがメチャクチャにされるのはよくないし。そのギリギリのところをいつも考えてますよ。

――『Dynamite!!』は絶妙なカードでしたよ。全部当たりましたしね。格闘技関係者にはそこを評価して欲しいですよね。

谷川　叩かれてる意識は、あまりなかったんですけどね（笑）。

――やっぱりサップに集中してますよね。明らかにやる気がなくなってるのが、見てる側にも伝わりましたからね。

谷川　ホント変わった選手ですよねえ。いままであんな選手いませんでしたもんね。でもジェロム相手に頑張りましたよ。

――強いはずなんですけどねえ。

谷川　格闘技だけに集中したら、手がつけられない存在になりますよぉ。

――でもハートがないじゃないですか。まあ、そういう選手も含めて回していくのが凄いんですけどね。

谷川　そういう意味では、ボクは今年も横綱に期待してますからね。

――今年は総合に絞るんですか？

谷川　いや、K-1もやってもらいますよ。

――あと、中軽量級の大会を、慧舟會、パンクラス、K-1が協力して開催するんじゃないかという噂があるんですよ。

12・31『Dynamite!!』ダイジェスト

「世界最強と日本最強の差を見せつける」と宣言したアテネ金メダリストのイブラヒム参戦。アントン総帥が登場し、両者をリングに呼び込む。序盤打撃で攻め込むイブラヒムに藤田が戸惑う場面もあったが、藤田がラリアット気味に放った右フックでイブラヒムは大の字に。藤田はコーナーで咆哮。試合後は「闘魂ロードを突き進む。挑戦しつづけます!」と意気込んだ

地元・大阪のファンにスッキリした勝利を見せたい武蔵。だがキック10戦10勝（いつの間に？）の実績と空手・カンフー・合気道で黒帯の実力を持つ元WWE戦士ショーン・オヘアが序盤は押しまくって、武蔵を明らかにたじろがせる。大山峻護をＫＯした実力を見せつけるかと思いきや、1R終盤、武蔵の左ハイキックでオヘアがダウン。2Rも左の前蹴り、左ハイと続けてダウンを奪った武蔵が久々のＫＯ勝ちを見せつけた。

名勝負製造器同士の対決だったが、セフォーがK-1ファイターとしての意地をみせつけて開始早々に右フックでダウンを奪う。続けて左フックを叩き込み、ふらついたグッドリッジはまともに立てず。これを見てレフェリーが試合を止め、わずか33秒で決着がついた。セフォーは「勝てて嬉しいよ。GPの判定はいまだに納得がいっていない。今日も同じジャッジだったのでどうなるかと思ったが、勝てたんで良かった」とコメント

『ROMANEX』の因縁決着戦。頭を丸めてこの試合に挑んだ中尾がタックルを決めて上になり殴りかかる。ブレイク後も中尾がタックルからテイクダウンに成功。解説の船木は「フライにはタックルを切る反応が見受けられない」と厳しくコメント。パンチでフライが流血、一時中断も試合続行。3R、中尾のヒザがローブロー気味に入り、中尾に注意1。判定で勝利した中尾だが「一本取れなくてすいません」と観客に詫びた。

谷川　中量級はMAXで少しずつやっていきます。慧舟會さんにはホントにお世話になったんですよ。秋山選手とか横綱とか宮田くんとか、随分練習させてもらいましたから。慧舟會さんが3月に新しい大会をやるって聞いたんで、そういうものには協力していきますよ。でも自分たちだけでやっていくということは決めてないです。パンクラスさんにもボビーがお世話になったし、ホントは菊田選手vsBJペンを組もうと思ったんですけど、BJがケガしちゃって。

――体重的に大丈夫だったんですか?

谷川　いまBJは、だいぶ上がったらしくて80キロ以上あるらしいですよ。ホドリゴともやったじゃないですか。菊田選手も90キロ以下に抑えられるということだったんで。

――そのカードは見たかったですね。

谷川　BJは不思議な強さがあるよねえ。なんであんなに強いんだろう?　でも、BJがケガしちゃった時に、プレデターしか空いてなかったんで、それで聞いてみたんですよ。

――菊田vsプレデター!　ある意味、それも見たかったです(笑)。

谷川　そしたら「お断りします」と。そりゃそうですよねえ(笑)。というわけで今回はセコンドでお願いして、また責任もってマッチメイクさせていただくことにしました。

――わかりました。前号で谷川さんが「今年も生ヌルいことやっていきます」って宣言してたじゃないですか。そう言う反面、興行はまったく生ヌルくなく、結果も出してるんですね。今年はどんな感じでいきますか?

武蔵の人柄に惹かれ、対戦直前までいったのが佐々木健介。会場には『Dyamite!!』参戦を反対した北斗晶と中嶋クン、健之介、誠之介の健介ファミリーが勢揃い。健介は「生半可な気持ちでは試合はできない」としながらも打撃のトレーニングも始めることを匂わせた。試合前には韓国の大巨人チェ・ホンマンやヒース・ヒーリング、レスリングの田中章仁らがリングに登場。ヒーリングは「UFCや『PRIDE』やK−1、また日本で闘うよ!」

谷川　いやあ、生ヌルくいきますよぉ(笑)。

――で、裏テーマは"再会"だと。

谷川　そうそう。年末の忙しい中、高校の同級生に会ったんですけど、再会はいいもんだなあって思って。多方面でいろんな再会を果たしていきたいなあ。

チョロ　期待してます。そういえば、『紙プロ』MVPの集計を取ったら、申し訳ないんですがワーストにK-1の名前がやたら多く出てきたんですよ。でも、ターザンさんと原タコヤキ君は谷川さんをMVPに挙げてましたね。タコヤキ君が年末で忙しい谷川さんと食事をご一緒した時に、何か愚痴でも言うと思ったら「ボクも恋とかしてみたいなあ」と言ってたということで(笑)。「この人の人間力に敵う人はいない」って誉めてました。

谷川　嬉しいなあ。ボクねぇ、去年一番幸せだったのが盲腸で入院してた時ですから。あれはよく寝れたなあ。

――入院して良かったと(笑)。

谷川　あれがなかったら、途中で倒れて『Dynamite!!』はなかったかもしれないですね。だって看護婦さんに「麻酔前に寝ちゃった人、初めて見ました」って言われましたから(笑)。

――どこでも人間力を見せてますね(笑)。

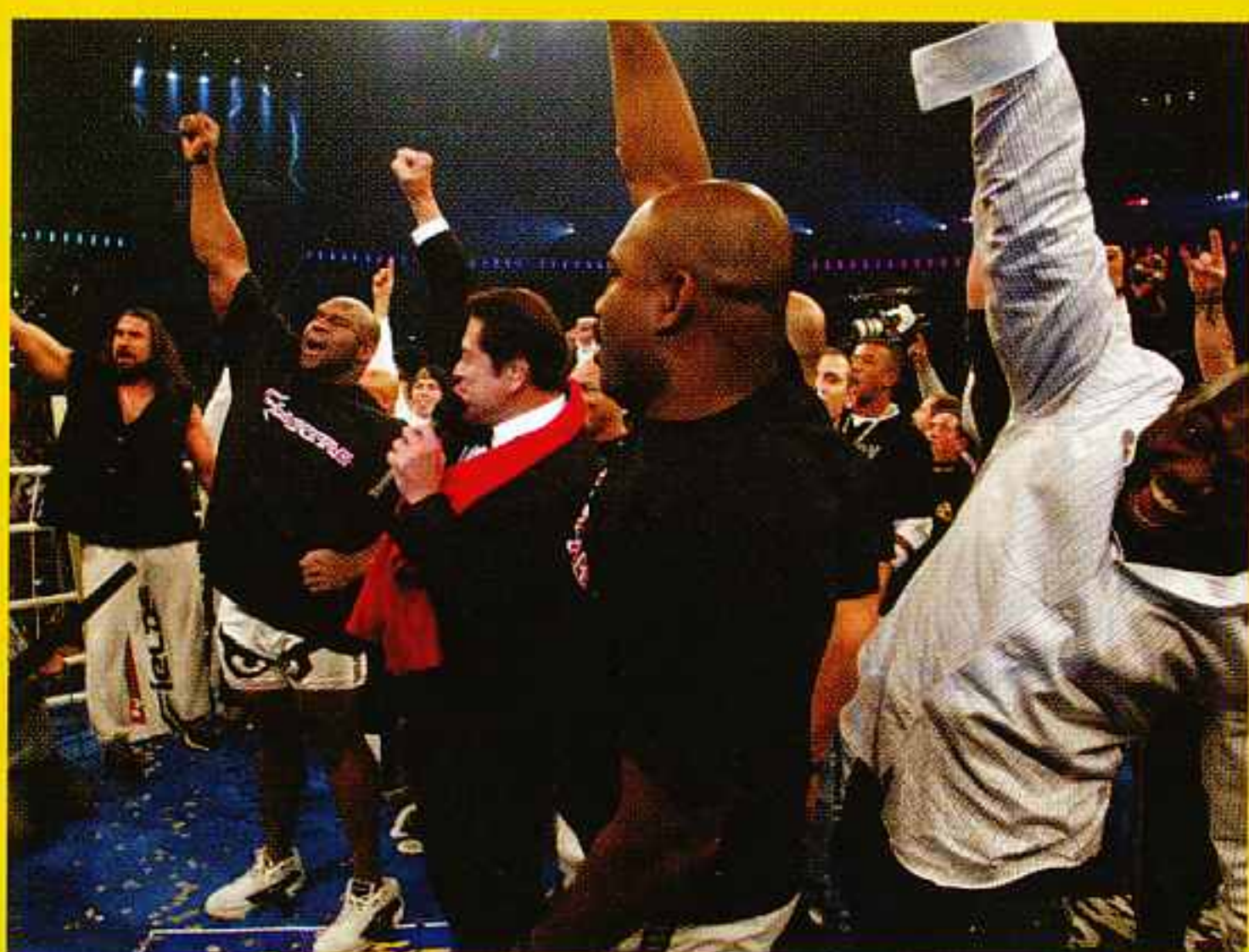
谷川　普通、手術前は怖がるらしいんですけど、眠気が勝っちゃって。目を開けて喋ってても寝ちゃうぐらいでしたから、病院の雰囲気で(笑)。「麻酔打たなくていいんじゃないの?」って言われちゃって。とにかく寝れて、痛くも何ともなかったですから。

――でも今回は入院することのないように。

谷川　でも今年は大会が多いんだよなあ……。正直、総合をやる余力、ほとんどないですから。

――ましてやプロレスなんて絶対無理だと。

谷川　上井さんや新日本さんへの協力だけで精一杯。責任もってやるっていうのは無理。

全試合終了後、負傷者以外はほぼ全員がリングに勢揃い。再びアントンが姿を見せると、昨年の『猪木祭り』の大混乱が頭をよぎったものの、マイクを持つと「来年も素晴らしい年になりますように」と普通に挨拶。その後アントンは「ア〜、ユ〜・レディ〜?と」アメリカンなアピール。しかし、最後はいつもの「ダーッ!」でボビーらと共に右手を突き上げた。その後のリング上では闘い終わったサップとバンナが記念撮影を行なうなど和気あいあい。観衆は5万2918人、超満員札止め発表!

1R、まずはK-1ルールでスタート。バンナが左右のフックを連続で放つ中、スタンディングダウンぎりぎりで耐えるサップ、ゴングに救われる。憔悴した表情のサップ、2R総合ルールではバンナからマウントを奪って殴りまくる! バンナ出血、大ピンチ。しかし殴り疲れたサップ、KOできず。セコンドのサム・グレコに励まされて闘いつづけるサップ、バンナも殴り疲れで倒しきれず。4R で判定なし、魂のドローとなった。

本気でやらないと絶対に失敗しますから。
――ちなみに今年のK・1は武蔵選手とボンヤスキーが軸になっていく感じですか？
谷川　そうですね。あとは新しい選手をどんどん見つけていこうとは思ってます。マイティ・モーとかガオグライみたいな選手が出るという部分がK・1の面白さでもあるんで、ああいう選手を発掘する作業に力を入れていきますよ。でも去年一番驚いたのはガオグライですよね。アジアGPの時は「何でこの選手が優勝しちゃったんだろう？　小さすぎるぞ」って頭抱えましたけど、あんなに大活躍しましたからね。何があるかわかんないなあ。あと今年はチェ・ホンマンが大ブレイクすると思うんですよ。あれはいいですよぉ。
――技術の方はどうなんですか？
谷川　まだ見てないです（笑）。
――さすがですねぇ（笑）。
谷川　もう、契約しちゃいましたけど、ま～ったく見てないです（笑）。
――そういえば、谷川さんはホイスからグレイシートレインに入るように頼まれてたらしいですね。
谷川　そうなんですよ。でもボクは主催者側だし、解説もあるんで、一生の思い出になると思うから、「安西さんをグレイシートレインの最後尾に入れてくれ」って頼んだんですよ。
――安西さんと言えば、知る人ぞ知るグレイシー信者ですからね。
谷川　ホイスとマネージャーもOKしてくれて、それを安西さんに知らせたら舞い上がっちゃって、凄い長い留守番電話をいれてきて「行くとしたらボクはジャージを持っていないので、下は何を着たらいいんでしょうか？」とか延々とそういうこと言ってて。それで自費で新幹線で大阪に来て、グレイシーの控え室に連れて行ったら、ホイラーから「オマエなんか一緒に練習してないからダメだ。出てけ」って言われちゃって。スタッフにも「ハイ、ダメだから出て」って、マスコミのパスに戻されちゃって（笑）。

エリオさんは曙戦を受けるなら親子の縁を切るって激怒してたんです

――切ないなぁ、安西さん（笑）。
谷川　ボクねぇ、そういう話が『Dynamite!!』で一番楽しいんですよ。もしグレイシートレインの最後尾に安西さんがいたら面白いじゃないですか。
――ごく一部では、かなり盛り上がりますよね（笑）。
谷川　そういうのがプロデューサーとしての一番の快感ですね。
――いたずら好きですね（笑）。ところでグレイシー勢は何で最初は谷川さんに頼んだんですか？
谷川　「今回は凄くお世話になった」ということで。悪い印象が全然ないらしいですよ、ボクに。もちろん昔から知ってるし、横綱をマッチメイクした時にホント喜んでたんですよ。「こんな機会を与えられるなんて想像もしてなかった」って。でもエリオさんは「もう日本から帰って来るな。受けるなら親子の縁を切る」って激怒したんですよ。

グレイシートレインに誘われていたという谷川プロデューサー。さすがに、それは断った谷川Pが、代わりにプロデュースしたのが安西さん。柔術特訓を積んで今年こそトレインに参加だ！

――何がダメだったんですかね？
谷川　いや、やっぱり体重差があり過ぎて危険すぎると。ホイスは勝った後リング上から電話してるんですけど、アレって親父さんなんですよ。
――あ、そうだったんですか（笑）。でもグレイシートレインに入ってる谷川さんは見たかったなあ。
谷川　その依頼を受けた時、急に「ホイス、がんばれ！」って味方になりましたから（笑）。でも安西さん、せっかくジャージ買ったのになあ。最近のグレイシーが何色を着てるかリサーチまでしてて。ふふふ。
――残念でしたねえ。ところでホイスといえば、直前までいろいろと揉めてましたけど、最終的にはどうなったんですか？
谷川　まあ言えることは、結果的には何事もなく試合ができたことが全てだということですね。今後はまた裁判になるかもしれませんけど、わからないです。プロモーターの立場から言えば、契約違反してないことを確認しますけど、もしされたらそりゃあ腹が立ちますよぉ。ボク、ハントに対してメチャクチャ腹立ちましたもん。
――谷川さんにしては珍しく、ハントには、かなり怒ってましたよね。
谷川　でもフジテレビのKプロデューサーに言われましたけど、契約違反とか裁判沙汰ということを表に出すのは正気の沙汰じゃないって。確かに一般から見ると訴えるのも止めた方がいいのかなあって。それと、裁判にお金が掛かるんですよね。ホント得にならないですね。テレビ局の人でも、勝手に海外で番組を流しちゃったりとかあるじゃないですか。そいつらを訴えて、そいつらから取るお金より、裁判費用の方が大きいんですって。
――今年はそういうゴタゴタもなく、いい意味で刺激のある興行戦争でK・1と『PRIDE』は競い合って欲しいですね。
谷川　あくまで生ヌルくね（笑）。
――ワハハハ！　で、再会が裏テーマと。
谷川　そうそう。でも「再会」って、ホントいい言葉だなぁ（笑）。
――今年は、いろんな人と再会して頑張ってください！

【1月15日／都内ホテルにて収録】

久々に死神降臨!

大晦日決戦&1・4 ジェラルド ゴルドー斬り!!

“死神”が久々に日本上陸!
1·4新日本東京ドーム大会で村上らと共にリングに上がり
蝶野と一緒に記念撮影に収まるゴルドーの姿を
発見して驚いた人も多いことだろう。
しかし、よほど怖かったのか、新日本中継でも専門誌でも
ゴルドーの存在には、ほとんど触れられることはなかった。
ゴルドーの来日目的は一体、何なのか?
大晦日決戦&1·4の感想と共に話をうかがってきました。押忍!!

聞き手/松澤チョロ(ゴルドー組)　撮影/丸山剛史
協力/ゴルドー・ジャパン　脇村生信&林玲香
designed by Tani-Yan (Two three)

—ゴルドーさん、今日はよろしくお願いします！

ゴルドー　押忍！

—この間の、新日本のドーム大会で、巴戦で勝利した蝶野さんと一緒に記念撮影に収まっているゴルドーさんを発見して驚いてたんですけど、今回はどういった目的で来日したんですか？

ゴルドー　シークレット。

—あ、シークレットですか。オランダで村上選手と偶然会って話をして、そのつながりで来日したという報道も見かけましたけど。

ゴルドー　それは間違いではないが、それ以上はシークレットだ！

—ゴ、ゴルドーさんがそう言うならこれ以上は聞きません。村上選手とは過去の1・4東京ドーム大会の小川選手の試合で一緒にセコンドに付いたりもしてましたけど、どういった印象を持っているんですか？

ゴルドー　カズナリ（村上）とは一度、UFOのリングで闘ったことがあるが、いいファイターだ。6年前の1月4日のことも覚えているよ。カズナリが1人で大勢の選手からリンチを受け病院で昏睡状態になったのも知っている。彼のスピリットを私は尊敬し、非常に評価している。

—ただ、1・4東京ドーム大会にゴルドーさんがいるとなると、どうしても過去の小川vs橋本戦の時の暴れっぷりを期待してしまったんですが、今回は大人しかったので正直残念だったんですよ。

ゴルドー　あの時エキサイトしたのは事実だ。でも、今回私はバウンサー（用心棒）として来日したわけではない。カズナリ、シバタ（勝頼）、リュウシ（柳澤）、ソウサイ（星野総裁）のために日本に来た。何度も言うが、それ以上はシークレットだ。

—やっぱりシークレット（笑）。村上選手というと、元新日本の上井さんの大会に出場するんじゃないかって噂も出ているんですが、ゴルドーさんは何か話は聞いてます？

ゴルドー　（日本語で）スコシ。ミスター・ワイ（上井氏）のことは聞いている。ワイが望むなら会う準備はある。ただ、残念ながら……。

—シークレットなんですね（笑）。

ゴルドー　その通り。何か起きるかもな……（ニヤリ）。

—まあ、これ以上ツッコむのも野暮なので、とりあえず今後の動向を見守りたいと思います。それでは、この間の東京ドーム大会の感想を聞かせてください。

ゴルドー　私が見たのはパンクラス・ガイ（鈴木みのる）の試合からだ。その後のアルティメットなんとかも堪能させてもらった（苦笑）。

—アルティメットなんとかですか（笑）。

ゴルドー　私が出場したUFCはリアルファイトで喧嘩。彼らとは全く異なる競技だった。

—同じ総合格闘技なはずだったんですけどね（笑）。試合の方はいかがでしたか？

スマックガールを観戦したゴルドーのもとへ、かつてゴルドーの道場で修行を積んだ薮下が挨拶に。「オ〜、ビッグ・プロブレム！」と頭を抱えたゴルドーは「オマエはもうオランダへ入国できない」と、からかいながらもちょっぴり笑顔

どういう目的で来日したか？ いまはシークレットだ！

ゴルドー　特に語るべきものはないな。あえて言うなら、1つのリングで2試合同時に行われるなんてあり得ないだろ？　どこを見ていいのか分からないし、気が付いたら試合は終わっていたよ。

—過去にゴルドーさんも対戦経験のある長井選手も出てましたけど、久々に見ていかがでしたか？

ゴルドー　出てたのか？　記憶にないな。

—じゃあ、しょうがないですね。

ゴルドー　あんな試合をしても誰も得をしないんじゃないのか？

—それは感じましたね。

ゴルドー　敗者に対しても評価すべきなのに、それすらない。何故なら観客はリングで闘っているファイターに視線が行ってしまうからだ。私は日本のファンというのは素晴らしいと思っている。勝者も敗者も賞賛していたのに、アルティメットなんとかでは敗者はリングをすぐに降ろされ、勝者はリスペクトされる前に次の試合をしなければならない。

—実際、日本ではゴルドーさんもご存知の通り、『PRIDE』であったりK-1でも『Dynamite!!』とか総合格闘技が流行っているんですけど、同じように総合格闘技とうたって、あのような試合をするということはどう思われますか？

ゴルドー　あの試合は『PRIDE』とも『Dynamite!!』とも違う。それは日本の賢いファンなら誰もが理解しているんじゃないか。ファイターの目から見ても、良くないことだと思う。例えば、ここはお好み焼き屋だが、やはりお好み焼き屋にはお好み焼き屋の良さがあり、寿司バーには寿司バーの良さがある。私が言いたいのは、プロレスラーが総合格闘技をやろうとすると当然クオリティーは落ちてしまう。例えばプロレスの大会でも一試合ぐらい総合ルールの試合をやるのはいいと思うが、それにはリスクもある。あの試合は流行ものに簡単に手を出して自爆しているようにしか見えなかった。

—ボクもそう見えましたね。

ゴルドー　K-1でも最近は同じような選手ばかりが出てるだろ？　それも良くないが、プロレスだって同じことが言えるんじゃないのか？　もう少し、クオリティーを高める事を考えていかないと、この先どんどんダメになっていくだろう。そういえば、何年か前にホーストがプロレスをやっているのを見て愕然としたことがあったよ（苦笑）。

—はいはい、いまはなきW-1ですね（笑）。

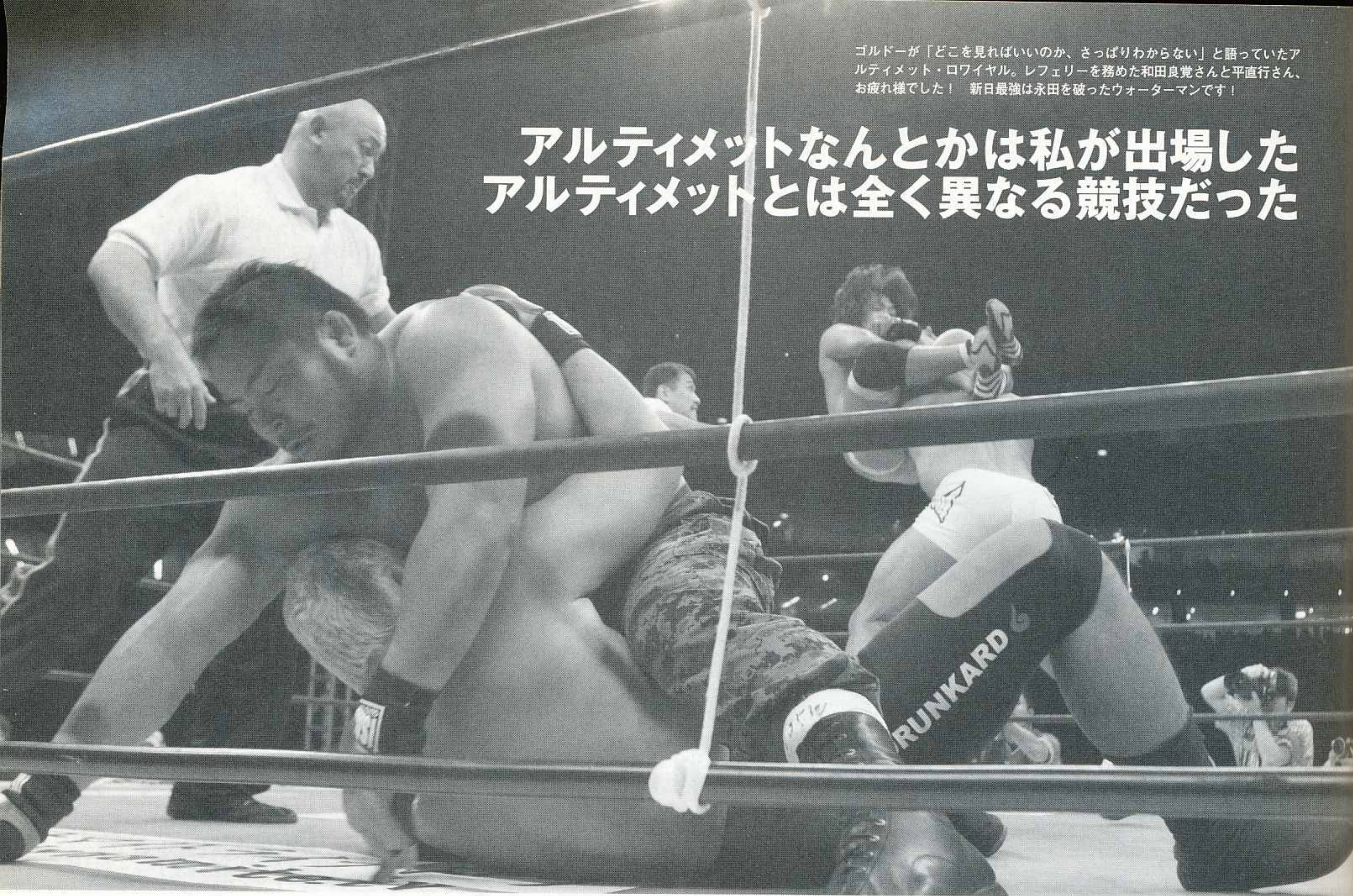
ゴルドー　逆にプロレスラーがK-1にチャレンジしてると聞いた。私のようにオランダにいて毎大会見られないものにとっては、最近K-1に出場している選手が何者なのかさっぱりわからない状態だ。クオリティーが下がってきたのは、K-1ファイターがプロレスをやったり、プロレスラーがK-1ルールに挑戦しているからなのか……。正直言って理解に苦しむことが多い。本来やるべきところでやるべきことをしっかりやらないとクオリティーが下がっていくのは当然の話だ。

※ここでゴルドー自ら日本語で注文。

ゴルドー　ハイッ！　オネガイシマス！　ジンジャエール一つ。ノーアイスネ！

—ノーアイスですか（笑）。他の試合で一番印象に残っているのはどの

ゴルドーが「どこを見ればいいのか、さっぱりわからない」と語っていたアルティメット・ロワイヤル。レフェリーを務めた和田良覚さんと平直行さん、お疲れ様でした！　新日最強は永田を破ったウォーターマンです！

アルティメットなんとかは私が出場したアルティメットとは全く異なる競技だった

試合になりますか？

ゴルドー　やはりヒョードルだな。

――ヒョードルが出たのは『PRIDE男祭り』ですね（笑）。新日本の方でお願いします！

ゴルドー　あまり覚えていないな。選手をよく知らないし、先ほども言ったが、どこを見ていいかわからないうちに終わってしまっていた。それぐらいしか語ることはない。

――いろいろとシークレットは多いみたいですけど、ゴルドーさんの試合を期待しているファンは日本にたくさんいるんですが、近い将来試合が見られる可能性はあるんですか？

ゴルドー　日本は政治的な揉め事が多いから、それがなければいつでも闘う準備はできている。グチャグチャした揉め事は聞きたくない。殺るのか、殺らないのか、イエスかノーか。ハッキリさせてくれれば私はいつでも構わない。実際オファーはいくつかもらっているが、その点をハッキリさせてもらえれば何も問題はない。とにかく、くだらない争い事は御免だ。その点、ミスター・シノ（取材に同席したスマックガール代表）と私のビジネス面での関係はクリーンだし、評価している。

――こう言っちゃ篠さんに失礼ですが、正直意外ですね（笑）。

ゴルドー　意外なことはない。ミスター・シノがオランダの選手を必要ならば、私が来日しなくても選手を安心して送り込むことができる。先月の静岡大会でもオランダからマールロス・クーネンが出場している。セコンドとしてマルタイン・デ・ヨングが来たが、私は来日していない。マーロスは私の道場のファイターではないが、ミスター・シノは、私に筋を通しヨーロッパの窓口を一本化する為に尽力している。何もシークレットはなく、オープンに話してくれる。それに引き換え、他の日本の団体はプロレスでも格闘技でも、シークレットな話ばかりでうんざりする。日本にはエンペラーは何人いるんだ。政治力が強すぎるから、エンペラー同士がグチャグチャ揉めて、肝心の選手は何も言うことやすることは出来ない。そういうことになるべく関わりたくない。私の認識では5～6年ぐらい前にエンペラーが急増したと思う。

――5～6年前ですか。

ゴルドー　自分が出ていた大会から違う大会に出たとする。そういう場合、総合系とかは揉めることが特に多い。その場合、エンペラーたちが、みんな集まりキチッと話をして、「ウチのプロレスラーがK-1に上がりたいから、ちょっと頼む」とか、「K-1のファイターが、プロレスをやりたいって言っている」とプロレス側の人間に頼む。そういう話をオープンにしてやればいいのに、直接ファイターがエンペラーと話をしたり、陰でコソコソ話していることが多い。それは非常に良くないことだと思う。それがこの業界が少しずつ落ちてきている原因だろう。

――大晦日は『PRIDE男祭り』、K-1では『Dynamite!!』という大会が行われたんですが、ゴルドーさん、ご覧になりました？

1・4ドーム大会での蝶野vs長州vs天山の巴戦後、勝者の蝶野、そして村上ら元魔界倶楽部のメンバーと共に記念撮影に収まったゴルドー。村上らとの密談はドーム大会後の『ナイガイ』の一面を飾っていたが、はたして、ゴルドーは何をしようとしているのか？今後の動向から目が離せない！

ゴルドー　どちらもロッポンギのスポーツバーで見たよ。

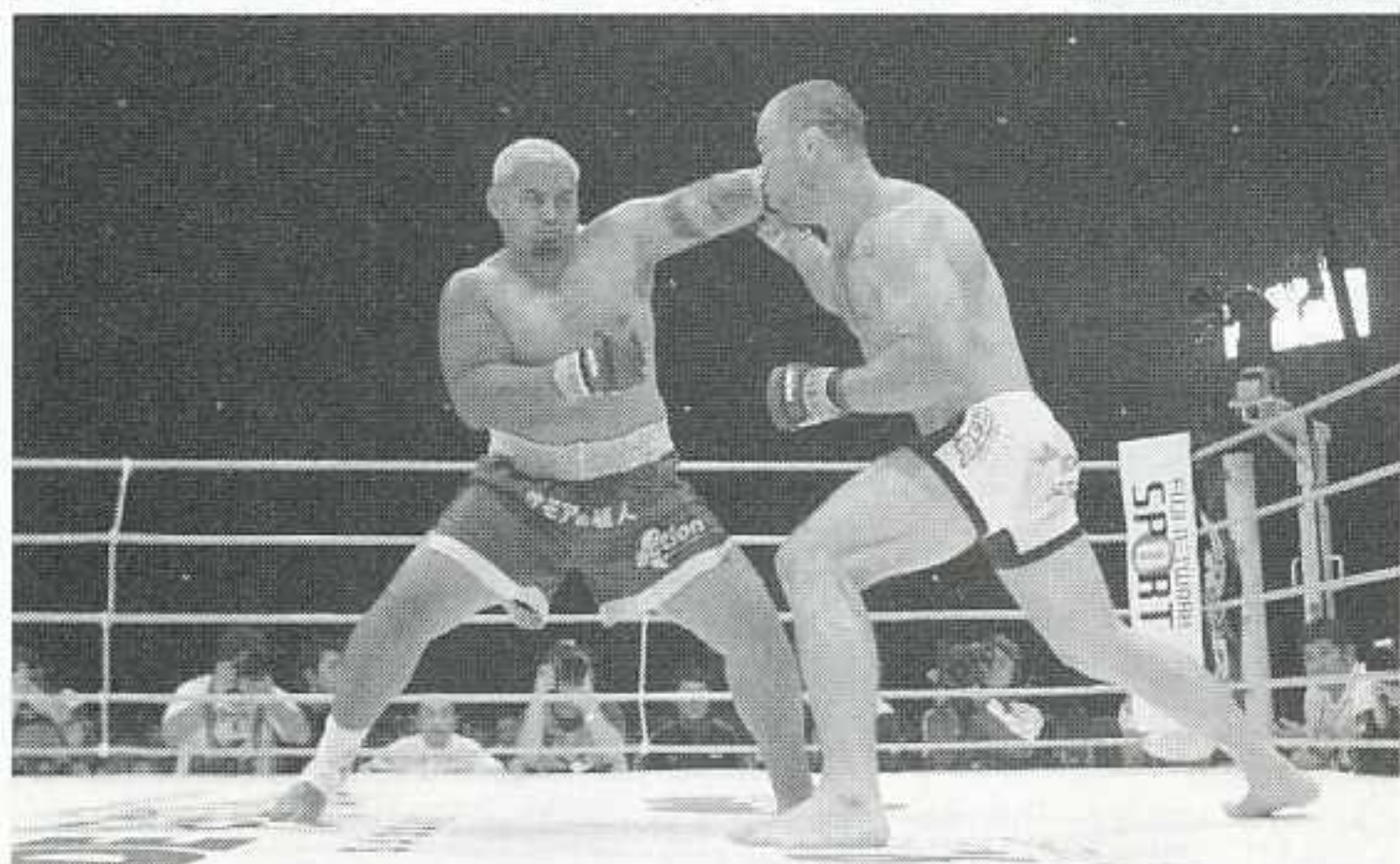
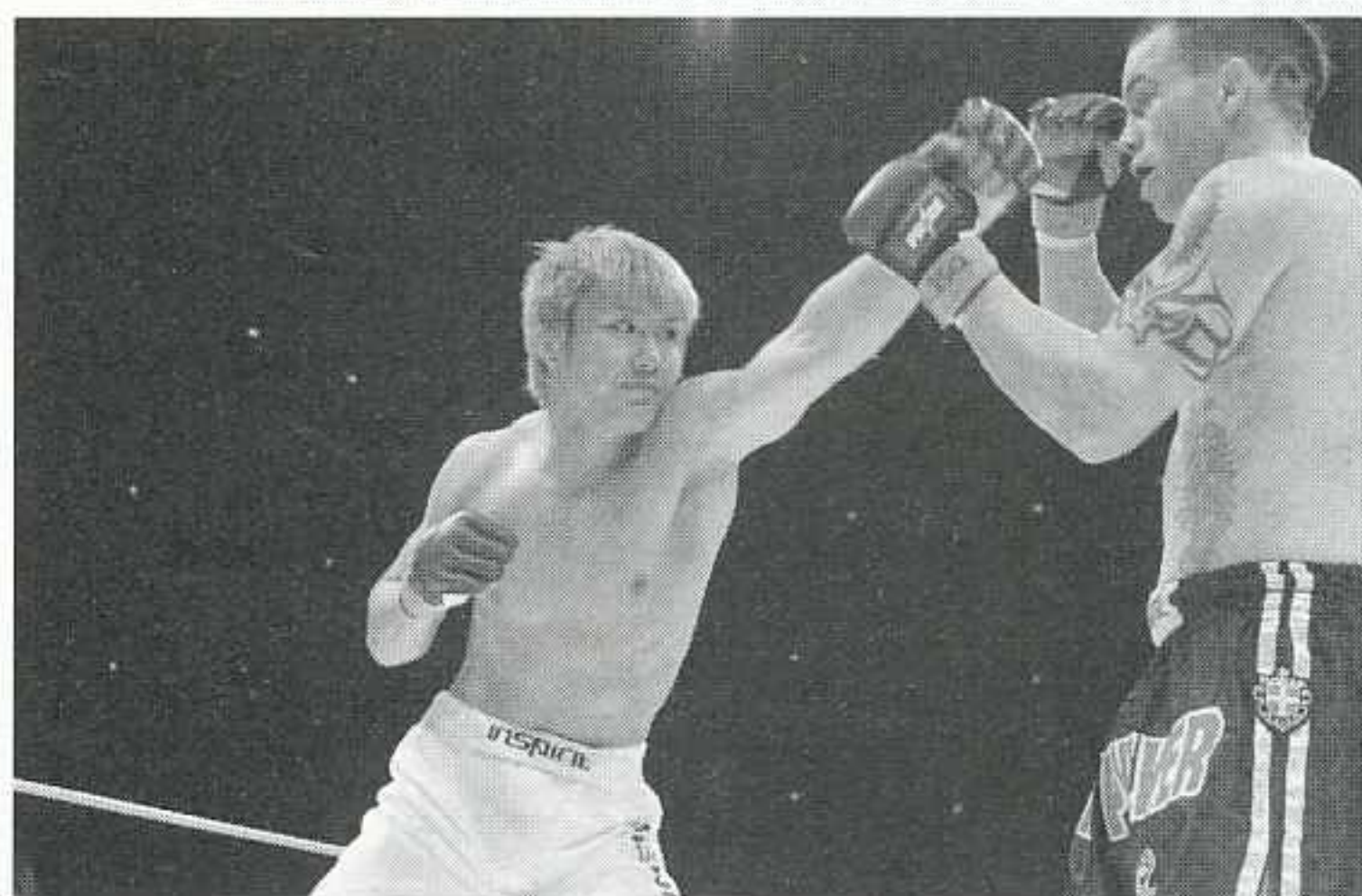
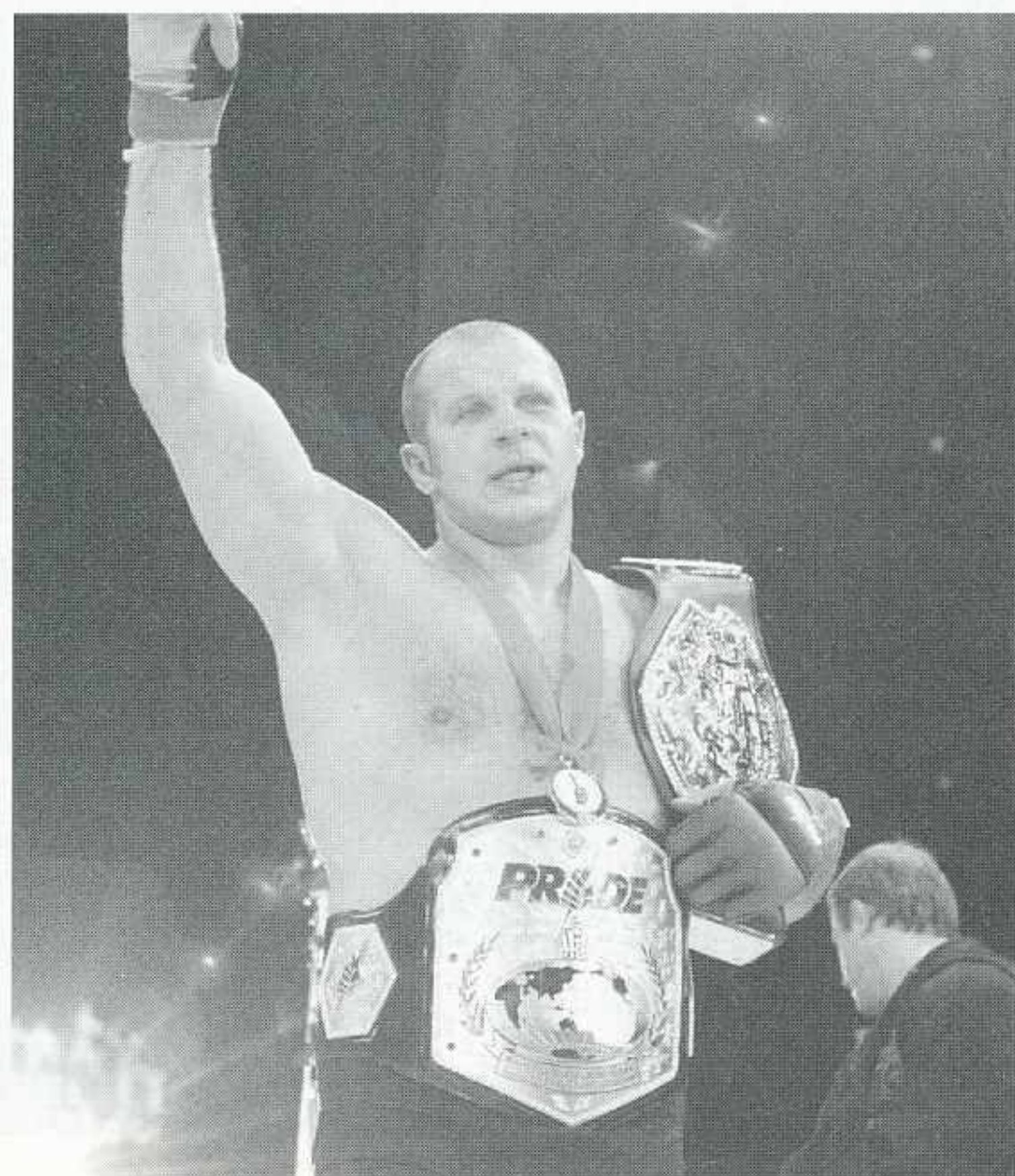
――六本木のスポーツバーで見てましたか（笑）。では、『Dyamite!!』の方から感想を聞かせてください。

ゴルドー　『Dyamite!!』に出場したプレデターは素晴らしいプロレスラーだし、ナイスガイだ。

――プレデターとはZERO-ONEで一緒でしたからね。

ゴルドー　しかし、残念ながら彼は『Dyamite!!』という舞台に出てくるべきファイターではないと私は感じている。それと私はスモウはとても好きだが、なぜスモウでヨコヅナまでいったファイターが違う畑に来て、メインに出られるビッグチャンスを与えられるのかが私には納得できないし、理解もできない。違う畑でトップを獲った人間が別のことにチャレンジするのは何も問題はないが、全く別のことにチャレンジするわけだから、当然ゼロからトレーニングをしなければいけない。それをせずにリングに上がっているファイターがもの凄く多いだろ？「もう少し準備期間があったら勝てた」ということを言うファイターばかりだ。そういう寝ぼけたことを言う前に、トライアウトから始めるべきだと思う。

――ゴルドーさんも闘ったことのあるホイス・グレイシーと曙さんの試合はどういった印象を持ちました？

ゴルドー　いろんな意味で驚かせてもらったよ（苦笑）。アケボノはスモウの質を落としているということを気づかないのか。伝統的なスモウのヨコヅナまで登り詰めたのだから、そこで終わらせれば良かったんだ。なぜ、キックボクシング、そして総合格闘技の世界に来てしまったんだ。まあ、お金のためなんだろうな（苦笑）。アケボノに限らない、とにかくみんなマネー、マネー、マネー（笑）。

――まあ、それも大きいんでしょうね。

ゴルドー　その中でもマサトvsキッドの試合はエキサイティングだった。あの試合は『Dyamite!!』といって間違いはないだろう。他の試合は私から言わせてもらえば〝チャイニーズ・クラッカー〟でしかない（キッパリ）。

――チャイニーズ・クラッカー！　あ、爆竹のことですね？

ゴルドー　そうだ。ダイナマイトというにはダイナマイトに失礼だろ？　チャイニーズ・クラッカーが妥当なところだろう（笑）。

――ボビー・オロゴンvsシリル・アビディ戦はゴルドーさん的にはいかがでした？

ゴルドー　ボビーというのはコメディアンなんだろ？　何ヶ月かトレーニングを積んで来たようだが、やはりコメディアンはコメディアン。彼はエンターティナーなんだから、その世界で活躍すればいいじゃないか。そういうのを日本人は好むのかもしれないが、私には理解できない。トレーニングを積んでいるとか、試合のレベル云々の話ではない。私の感覚で言うと、ヨコヅナはスモウの世界で闘うべきだし、コメディアンはコメディーを見せてくれればいい。違う分野の人間が話題性だけで優遇されて、一所懸命トレーニングを積んでいる世界中の素晴らしいファイターに、チャンスが与えられていないという現状に納得がいかないんだ。

ヒョードルこそダイナマイトと呼ぶに相応しいファイターだ！

――かなりご立腹みたいですけど、以前からゴルドーさんはそのようなことを言われてましたよね。

ゴルドー　そう。ハッキリ言っておくが、私は頭ごなしに何でもかんでも否定しているわけではない。過去にRiMixという大会にサクラバアツコというタレントが出場して私も会場でその試合を見ていた。もちろん、レベルは高くはなかったし、試合に出るのはまだ早かったと思う。しかし、彼女の試合は、その日の他の試合とは違ってスペシャルバウトとして行われた。それであれば何も問題はない。一つのイベントの中にスペシャルバウトが一つだけあるのはいい。しかし、『Dyamite!!』はスペシャルバウトばかりじゃないか。『Dyamite!!』に出ている選手の多くはコメディ野郎だろ？

――コ、コメディ野郎ですか（笑）。

ゴルドー　アケボノ？　サップ？　ボビー？　君たちは何のファイター？　そう聞きたくなるファイターばかりだったよ。さっきのサクラバの試合のようにスペシャルバウトと括ってもらわないと、知らない人が見たらピーター・アーツとかビッグネームのファイトと変わらなくなってしまう。K-1という冠が付いた大会に、アケボノだったり、ボビーやプレデターが出ている。K-1という名前のイベントにそういうファイターが出ていると、日本以外でそのイベントを見た人にとって「これがK-1なんだ」と思ってしまう。その結果がK-1を落としていることになる。オランダだけではなく世界にはK-1で活躍したいと思って必死に努力している人間を私はたくさん知っている。そんなファイターにはチャンスは一向に来ないのに、なぜコメディアンにチャンスが回ってくるんだ。いまのK-1のリングに上がるチャンスを掴むには日本でコメディアンになった方が早いんじゃないのか？

――う〜ん、可能性がないこともないでしょうね（笑）。

ゴルドー　これまで日本人がやってきた国技であるスモウも、最近は外国人が活躍しているだろう。なんで外国人がスモウ

5年前からヒョードルに目を付けていたというゴルドー。五味のファイトは絶賛していたが、なぜかシウバの評価はイマイチ。『PRIDE』王者を目指し、ゴルドーのもとで日夜トレーニングに励むヤン君（14歳）の数年後の活躍に期待したい。

魔裟斗vsKID以外はダイナマイトというより“チャイニーズ・クラッカー”だ

を取るんだ？ 訳の分からないことばかりだよ。

――大晦日で一番印象に残った選手というと、先ほどもチラッと言ってましたけど『男祭り』に出場したヒョードル選手になるわけですか？

ゴルドー そうだ。ヒョードルは真のチャンピオンだと思う。しかし、5年前のヒョードルは何もできなかったけどね。いまは凄いファイターだと思う。彼こそがダイナマイトと呼ぶに相応しいファイターだ。

――ヒョードル選手のことは5年前から知っていたんですか？

ゴルドー 私は5年前から知っていて、いろんなヤツに「いい選手がいるけど使わないか？」と聞いたが、「そんな名前も聞いたことないし、何もできないヤツはいらない」って断られていたのがヒョードルなんだ。私からしてみれば、ほら見ろって感じさ。

――5年前というと、まだリングス時代ですかね？

ゴルドー そう、リングスの時だよ。クリス・ドールマンとかも「ロシア人はいらない」とか言っていたんだ。

――当時は何もできなかったとはいえ、ゴルドーさん的には、ヒョードルは将来的にブレイクする予感を感じていたんですか？

ゴルドー そういうことだ。政治的な動きで、なかなかトライアウトのチャンスがなかったが、一回のチャンスを彼はものにして、いまに至っている。彼のようにワンチャンスを掴めばいいが、そのチャンスすらないいいファイターはたくさんいるんだ。10年前と、K-1GPの登場人物なんてほとんど変わってないじゃないか。

――ゴルドーさんもよく知っているホーストやアーツといったところも一線で活躍してますからね。

ゴルドー 世界中でK-1で通用する素晴らしいファイターはたくさんいるのに登場人物は変わらない。たまに新しいファイターが出てきてと思ったらコメディアンとヨコヅナだろ？

――『PRIDE男祭り』の方はいかがでしたか？ 『男祭り』ということで、高田本部長がふんどし姿で太鼓を叩いたりしてたんですが。

ゴルドー ゴミ（隆典）のファイトは素晴らしかった。コンビネーションもいいし、アグレッシブなところも、まさに『男祭り』と言える試合だった。もちろん、ハントvsシウバの試合も良かったと思う。判定がおかしいんじゃないかという声も出ているようだが、私の目から見るとハントの勝ちで間違いない。

――シウバの勝ちじゃないかっていう声も結構出てましたからね。

ゴルドー そうなのか？ ハントは『PRIDE』ルールで何試合やっているんだ？

――今回の試合で3試合目ですね。

ゴルドー それに比べてシウバは『PRIDE』のリングで何回闘っているんだ？ 数えきれないだろ。

――シウバは19試合目ですかね。これまで『PRIDE』のリングでは負けなしでしたから。

ゴルドー 彼はビッグマウスで、いまはもの凄いファイトマネーをもらっているだろうが、正直クオリティーは落ちてきていると思う。勝てなかったのがその証拠さ。

――とはいえ、体重差が30キロもあったり、ケガもしてたみたいなんですけどね。

ゴルドー それを言ったらアケボノvsホイスには敵わないよ（ニヤッ）。

――確かに（笑）。

ゴルドー そんなことはオファーを受けた時点で言うべきことではない。スタミナが足りなかったのは明らかだし、負けは負けだよ。結局、いい試合を続けていればファイトマネーが高くなっていくのは当たり前のことだよ。だが、今回の試合を見て思ったのは金のことばっかり考えていたから、『PRIDE』ルール、わずか3回目のハントに負けてしまったのさ。

――シウバは毎回、いい試合をして評価されてるんですけどね。

ゴルドー そうなのか。まあ、先ほども言ったように私はシウバのファイトを毎回見ているわけではない。ただ、彼が毎回のように出場しているのは知っている。彼のようなファイターがトップにいると、その分、下で待機しているファイターにチャ

『Dyamite!!』については辛口発言連発のゴルドーだが、やはり魔裟斗 vs KIDは高評価。UFCで相撲取りと対戦経験もあるゴルドーと曙の試合も見たい。MIXルールで対戦すればサップ vsバンナを大幅に上回る緊張感溢れる試合になるのは間違いない！

ンスが与えられない。たとえば、一時のサクラバのように同じ人間と闘うんではなく、いろんなヤツがもっとチャンスをもらえるようにしてもらいたい。彼のように高額のファイトマネーをもらう人間がいるから他のファイターが呼べないというようになってしまっているんだ。

―ちなみに、いま名前を挙げられていましたけど、今回シウバはハントではなくて桜庭選手と闘う予定だったんですよ。

ゴルドー　そうだったのか。サクラバはナンバーワンだよ。（日本語で）イチバン！（ニッコリ）。

―あ、桜庭選手のことは評価しているんですね。

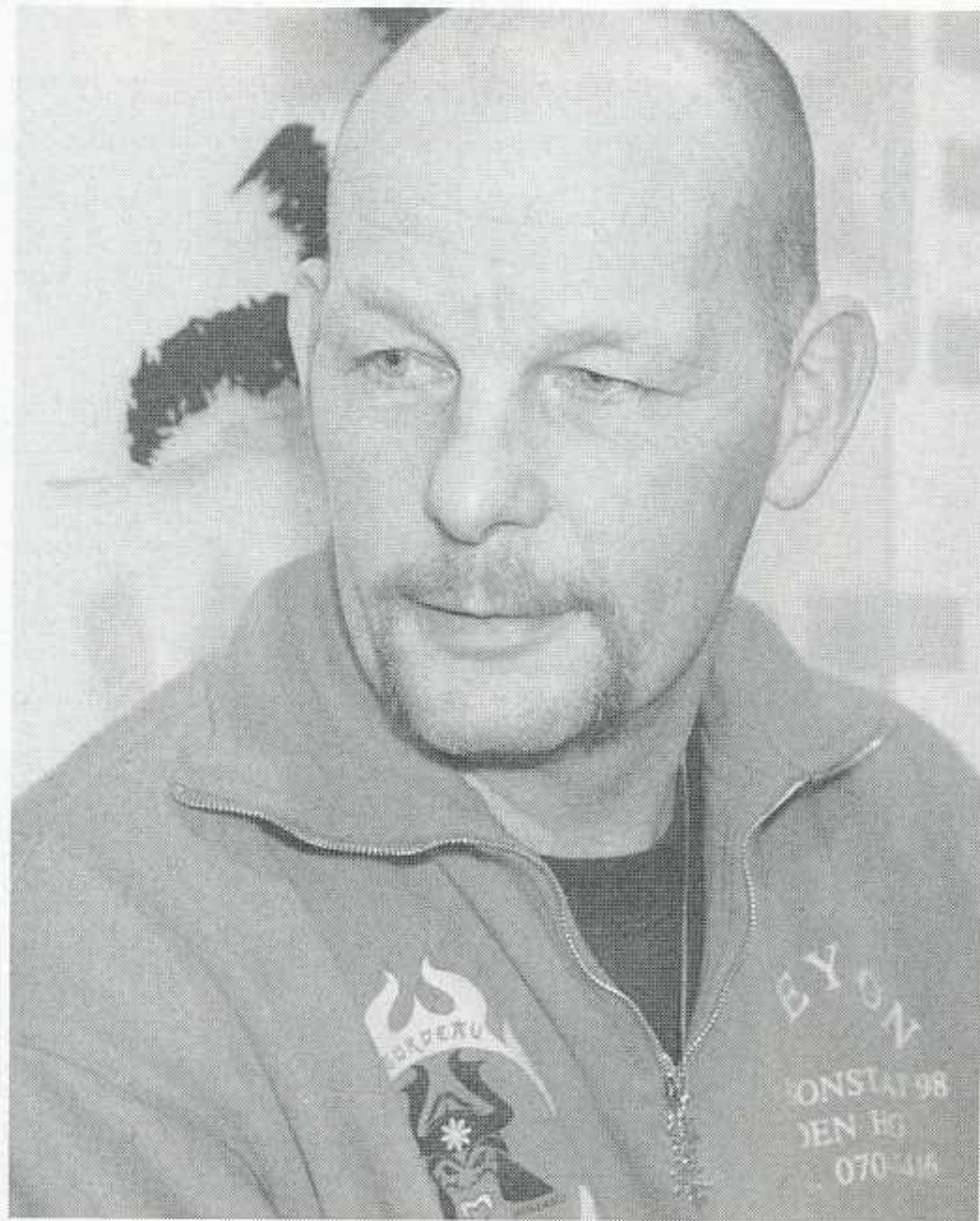
ゴルドー　最近の試合は見てはいないが、サクラバはスタミナも凄くあるし、いつも観客を満足させる試合を見せている。日本のファンは彼を誇りに思った方がいい。

―ハントと同じようにK-1から『PRIDE』に戦場を移したステファン・レコはどうですか？　いまだに結果は出せてないんですけど。

ゴルドー　それはレコがストライカーだからさ（アッサリ）。

―アハハハハ！　でもレコ選手は「今回は総合の練習もしっかり積んできた」と試合後コメントしてましたけどね。

ゴルドー　ノーノーノー。レコはグラウンドはできない。少しは練習はしたのかもしれないが、『PRIDE』のリングで対処できるだけのトレーニングはしていない。総合に挑戦するのは本人の勝手だが、そうそう勝てるもんじゃない。本気でやる気があるなら、ちゃんと準備をして、まずは安いファイトマネーの小さい大会にでも出て、経験を積んでから初めて『PRIDE』のリングでビッグネームと対戦するのが本当じゃないか。そういう気持ちがないなら、まず勝てないよ。アクシデントやラッキーで勝てることはあるだろうが、基本的にいまの『PRIDE』のリングで、そんなに甘い考えでは勝てない。そのために経験を積ませることが必要だ。窓口を広げて、もっとオープンにして、いろんなファイターがチャレンジできるようなシステムにして欲しい。K-1でも、いまだにホーストとかアーツが活躍している。何も変わらないじゃないか。彼らも年を取っていくにつれて当然クオリティーも下がっていくし、コンディションも下がっていく。すべてが下がっていくんだ。

―先ほどからキツいことを言ってるような気がしますけど、言いたいことは大体わかりました。

ゴルドー　レコと同じK-1からの転向組の中では、やはりミルコ・クロコップというのは素晴らしいよ。なぜなら彼はトライアウトするからな。

―ミルコは『武士道』とかにもガンガン出て行きますからね。

ゴルドー　去年、ミルコは何試合したんだ？

―大晦日も入れて8試合してるはずです。

ゴルドー　彼の場合はお金のためだけじゃなくて、自分のため、ノゲイラに負けたリベンジのため、ヒョードルにたどりつくため、様々なモチベーションを持って、そのためにトレーニングを積んでいるのが見ていてわかる。課題があれば、それを克服し、次の試合でそれを見せてくれるじゃないか。はじめの頃はグラウンドも全くできなかったが、いまはガードだけではなく自分の方から攻撃を仕掛けていくまでレベルをあげている。同じトレーニングを積んでいると言ってもレコのそれとは全く違うよ。

橋本？ 周りに惑わされることなく 自分の道を進めばいい

―K-1や『PRIDE』に送り込みたいファイターはゴルドーさんのドージョー・カマクラにもたくさんいるわけですか？

ゴルドー　何人かいる。具体的に言えば、私のドージョーのロシア支部、もともとロシアだったが、いまは独立して、リガーというところにドウジョウ・カマクラリガー支部というのがあるんだ。そこにはハングリーで、いい選手がたくさんいる。

―やはりロシア人は凄いとゴルドーさんでも感じるんですか？

ゴルドー　ロシア人は凄いハングリー精神があるし、いいファイターが多い。ボブチャンチンは『PRIDE』に出始めの頃は一気に駆け上がっていっただろ。そして、残念ながら落ちてきた頃には、それに代わってヒョードルが駆け上がっていった。そのように、いつかいつかと待機しているファイターがロシアにはたくさんいるのさ。その中の一人一人がすぐにでも出れる準備をしているんだ。

―ヒョードル級の選手が何人も控えているわけですか？

ゴルドー　（即座に）もちろん。いまヒョードルは『PRIDE』のトップファイターさ。彼の闘いを見て若いファイターたちは研究したり学んだりしながら、次のチャンスを待ってるんだ。ヒョードルの後ろには何人ものファイターが待機していて、彼が落ちてくるのをみんな待っているんだ。

―落ちてくるのを待っている？

ゴルドー　残酷なように聞こえるかもしれないが、そういうものさ。

―そういう意味で、ちょっと残念なのはオランダ出身のファイターは総合の世界ではアリスター・オーフレイムが活躍していますけど、他の選手はイマイチ目立ってないのが正直なところなんですが？

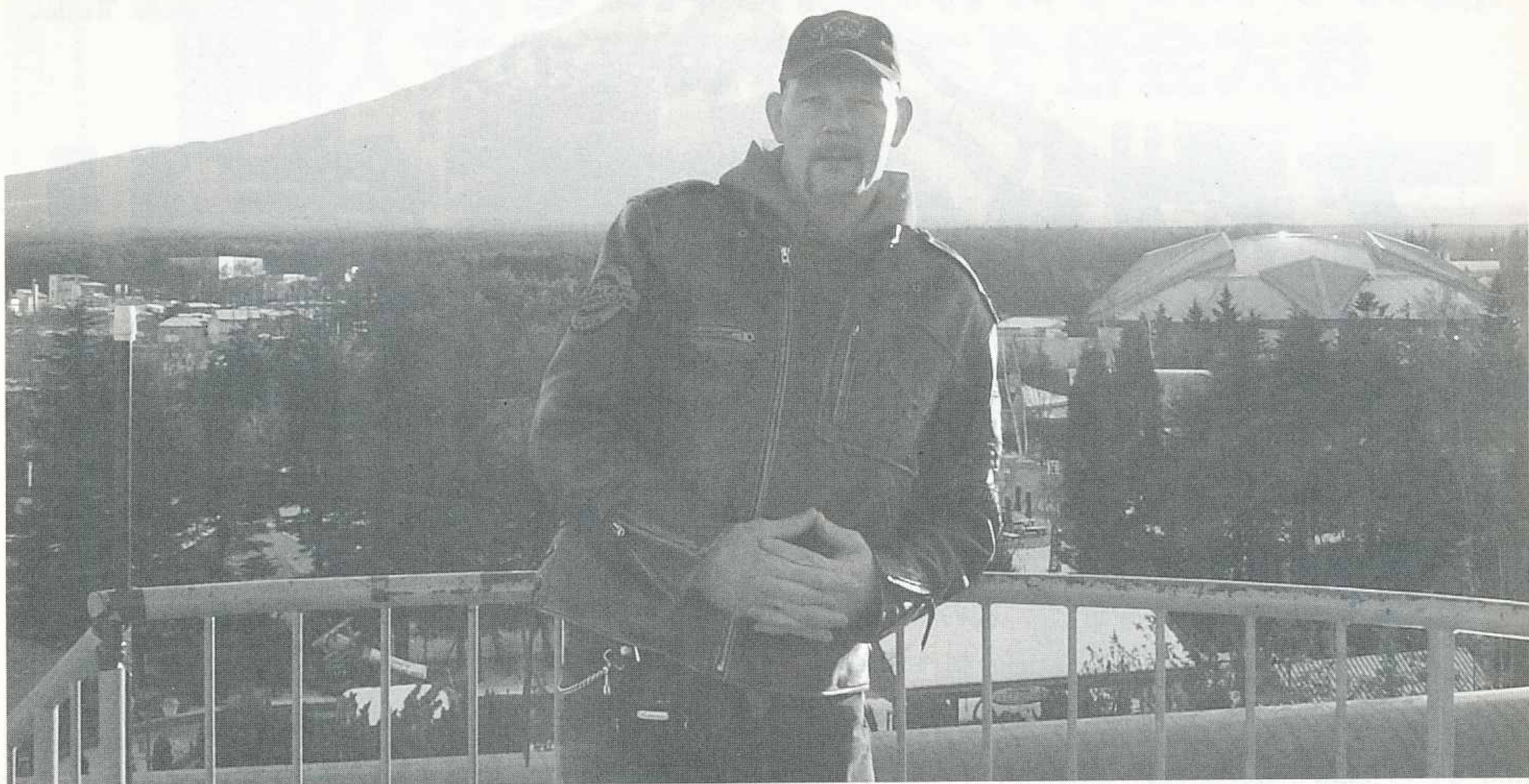
ゴルドー　一言で言おう。それはノーチャンスだからだよ。

―いい選手はいるけど、試合のチャンスがないということですか？

ゴルドー　その通り。チャンスが少ないし、一回チャンスをもらったと思っても、結局いい評価がもらえなかったらそれで終わってしまうんだ。そういう意味ではオランダでも日本のプロレス界や格闘技界と同じような政治力が動いてるんだ。「あっちに出るんだったら、もう少し金を出すからこっちに来ないか？」といった引き抜きのようなことや、「アイツらにはチャンスを与えない」とかくだらない争いが多い。

―そんなオランダに比べても日本の方が政治力で左右される部分が大きいと感じるわけですか？

ゴルドー　それはキミたちの方がわかってるんじゃないか（ニヤリ）。初めてのファイターのことなんて観客は知らないのが当たり前だから、そのファイターがどれぐらいできるかもわからないし、評価が得られるのかすらわからない。だから、最初のファイトマネーはただみたいなもんでいいんだ。その代わり、一回ファイトを見てもらって、次はこれぐらいのファイトマネーだったら呼んでもいいかなという具合に徐々にやっていかないと、結局はビッグネームばかりを呼んでやるだけになってしまう。そうなると、そいつらはすぐに消えてしまうし、かといって、チャンスが与えられないと、同じヤ

年末に来日し1月9日まで日本に滞在したゴルドー。日本通のゴルドーは日本食は何でもOK。滞在中は六本木はもちろん、浅草、さらには富士山の近くまで足を伸ばし日本の正月を満喫。次の来日はいつになるのか？

ツばかりで回していくようになる。日本マットはそういう悪循環になっていると思う。

——でも、日本のマットはファイトマネーも含めて、オランダのファイターにとっては憧れのリングではあるんですよね？

ゴルドー　もちろん。日本で闘うことをみんなが望んでいる。なぜかというと、日本では、いいファイトをすれば勝敗に関係なく、ファンもテレビも雑誌も評価をしてくれるんだ。この『カミノプロレス』もそうだし、たくさんの雑誌やテレビのインタビューがあるというのは、オランダでは考えられないことだから。オランダでは試合で負けたら何もない。「所詮、お前は弱いんだ！」という扱いになってしまうんだ。格闘技の雑誌もないし、K-1などを特集する新聞も2ヶ月に一回出るぐらいで、テレビ中継なんて当然ない。日本に来て、たとえモノクロで小さく写真が載ってるだけでもオランダのファイターにとってはもの凄く嬉しいことなんだ。

——では、これからもしスペースが余っていたらオランダのファイターの写真を載せるようにします（笑）。

ゴルドー　それはいい心掛けだ（ニッコリ）。まだ日本で試合をしたことがないファイターも周りから話を聞いて、「オレも日本で試合がしたい！」と思うんだよ。

——ちょっと小耳に挟んだんですけど、ゴルドーさんのドージョー・カマクラにも『PRIDE』に憧れてるファイターがいるみたいですね。

ゴルドー　ヤンのことだな。彼はまだ14歳なんだが、「将来の夢は『PRIDE』のチャンピオンになることだ」って、いつも言ってるんだ。

——14歳って、まだ中学生ですよね。

ゴルドー　ヤンは学校もやめて、いまは『PRIDE』のチャンピオンになるために、ガールフレンドも作らずに、遊びもせずに、とにかく練習だけをしているんだ。若いっていうのもあるだろうが、いまの彼には『PRIDE』しか見えていない（笑）。

——それは5年後ぐらいが期待できそうですね。ヤン君は14歳ながら見た目もゴルドーさんに似てると聞いたのですが。

ゴルドー　そうなんだ（満足げに）。ヤンと一緒に歩いていると「エッ、息子？」とよく聞かれるよ（笑）。

——14歳でゴルドー先生似のヤン君には一度会ってみたいですね（笑）。ちなみに、ファイターとしてゴルドー先生のコンディションはいかがなんでしょうか？

ゴルドー　何ひとつ変わってないよ。誰とは言わないが最近になって落ちてきている選手も多いが、私の場合はここ数年落ちることはない。正直、年齢と共に緩やかに下がりつつもあるが、下がらないように練習してキープしているからな。

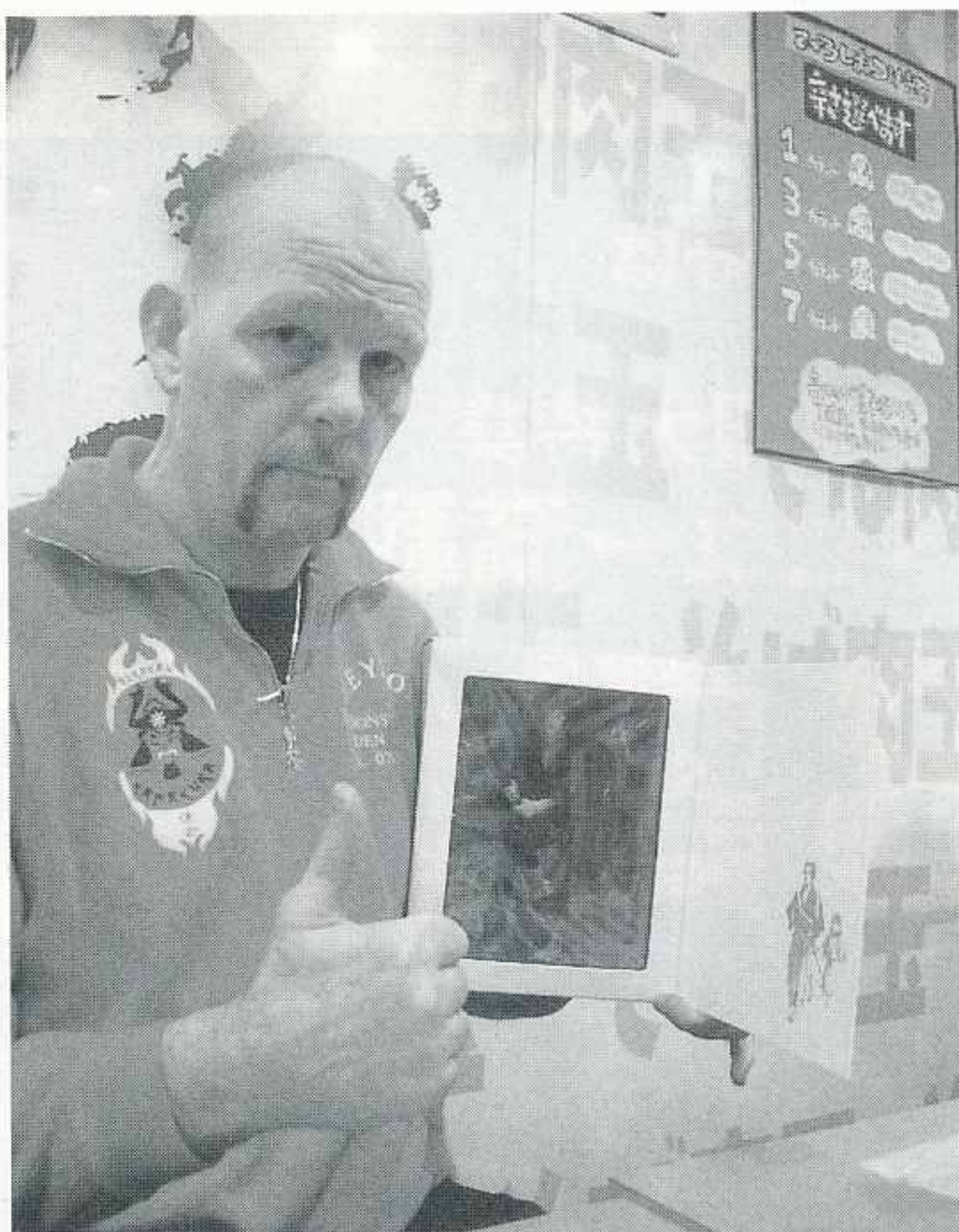
——先ほど聞くのを忘れてしまったんですが、先生のことを凄く評価していた橋本真也選手がいま右肩を手術して、ZERO-ONEからも離れて一人ぼっちになっているんですけど、何かメッセージはありますでしょうか？

ゴルドー　キープ・オン・ゴーイング。周りに惑わされることなく自分の道を進めばいい。

——迷わず行けよ、行けばわかるさってことですね（笑）。

ゴルドー　（顔色一つ変えず）そういうことだ。決して立ち止まってはいけない。立ち止まらず少しずつでもコツコツやり続けていけば、きっと最後には大きな成功が待っているだろう。迷わずに自分の思った通りに歩んでもらいたい。

——押忍！　今日はありがとうございました！

【1月8日／東京・下北沢「お好み焼き おぐう」にて収録】

1月8日のスマックガール北沢大会後に行われたゴルドーインタビュー。取材場所のお好み焼き屋さんに『バカボンド』の宮本武蔵フィギュアとブ厚い「タトゥーカタログ」を持って現れたスマックガール篠代表。侍＆刺青好きのゴルドーだけに、このプレゼントにえらく感激していました。押忍！

紙のプロレスRADICALを作ってる会社 株式会社ダブルクロスの求人情報

スタッフ募集!!

『紙プロ』を作っている会社、(株)ダブルクロスでは、事業拡大のため
社員(編集スタッフ)を募集します。

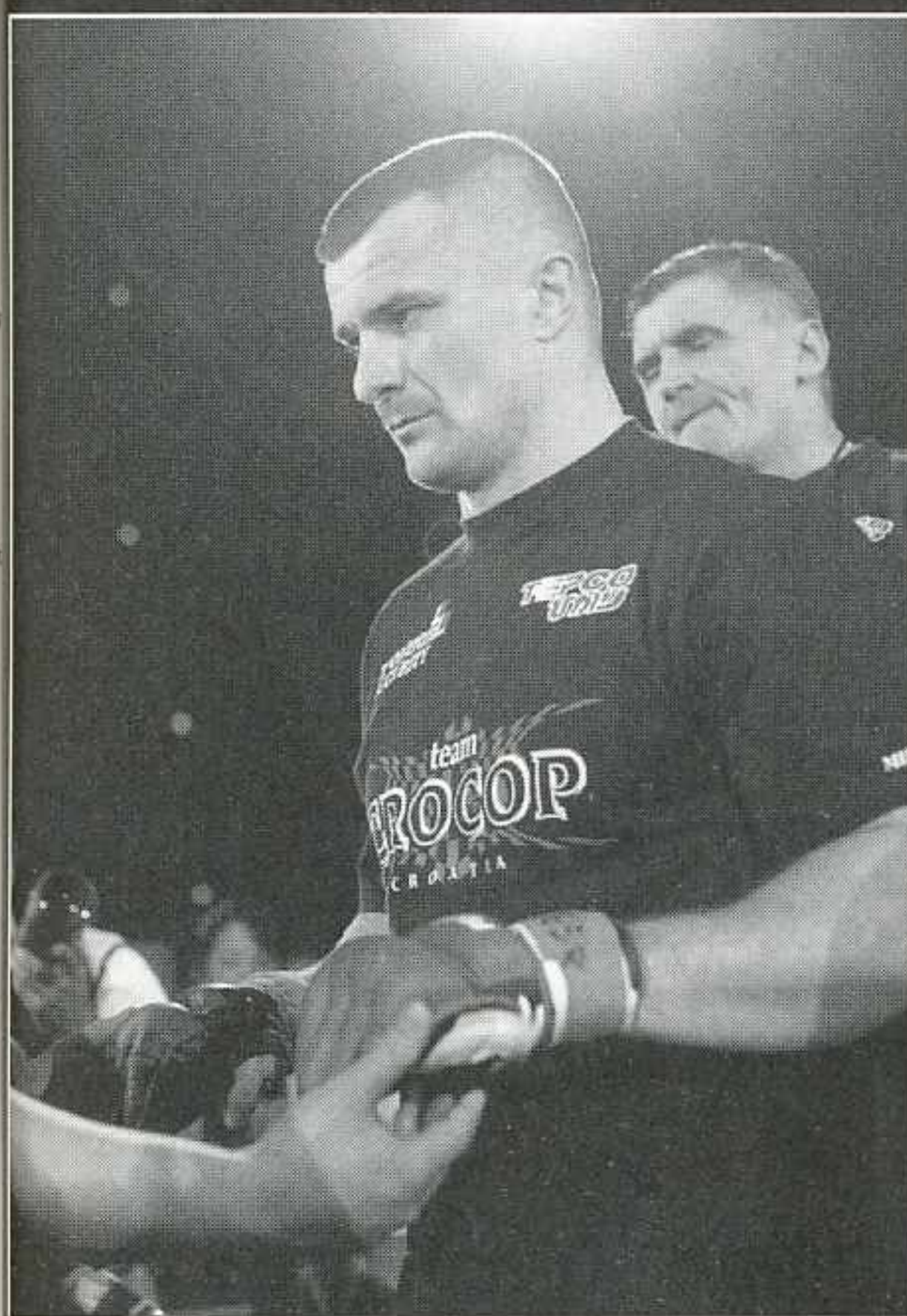
1 **編集者**(編集経験者)
2 **編集見習い**※アルバイト含む(紙のプロレスRADICAL、単行本、パンフレットなどの制作業務)
3 **電気部**(紙のプロレスHandの制作業務)
4 **衣料部**(グッズの制作・販売業務)

【資　格】30歳ぐらいまで。編集経験者、コンピューターに詳しいかた優遇。
勤務時間、休日、給与等は要相談
交通費支給(通勤時間1時間以内・勤務地＝代々木)

【応募方法】希望職種を明記の上、履歴書(写真貼付)、作文(『紙のプロレスと私』というテーマで400字×2枚)を下記の宛先まで郵送してください。なお、自己PRグッズ(編集経験者は、これまで作った刊行物等)、編集企画書(編集希望者)などを同封していただいても結構です。

【締め切り】2月26日(土)到着分有効

【宛て先】〒151－0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5－16－6パレ・ジュノ2F　株式会社ダブルクロス　社員募集係

【問い合わせ】03－5368－1795(担当:堀江・松澤)

『紙のプロレスRADICAL』次号は

2・20PRIDE.29をたっぷり速報大特集
試合後の選手インタビュー満載で

2月28日(月)発売!!

定価**880**円(税込)

一部地域によっては発売日が異なります。

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL NO.83

PRIDE

PRIDEヘビー級王座への
野望と渇望

PRIDE vs K-1 2005

PRO-WRESTLING

RADEICAL TALK

RADICAL SPECIAL

NEW YEAR SPECAL

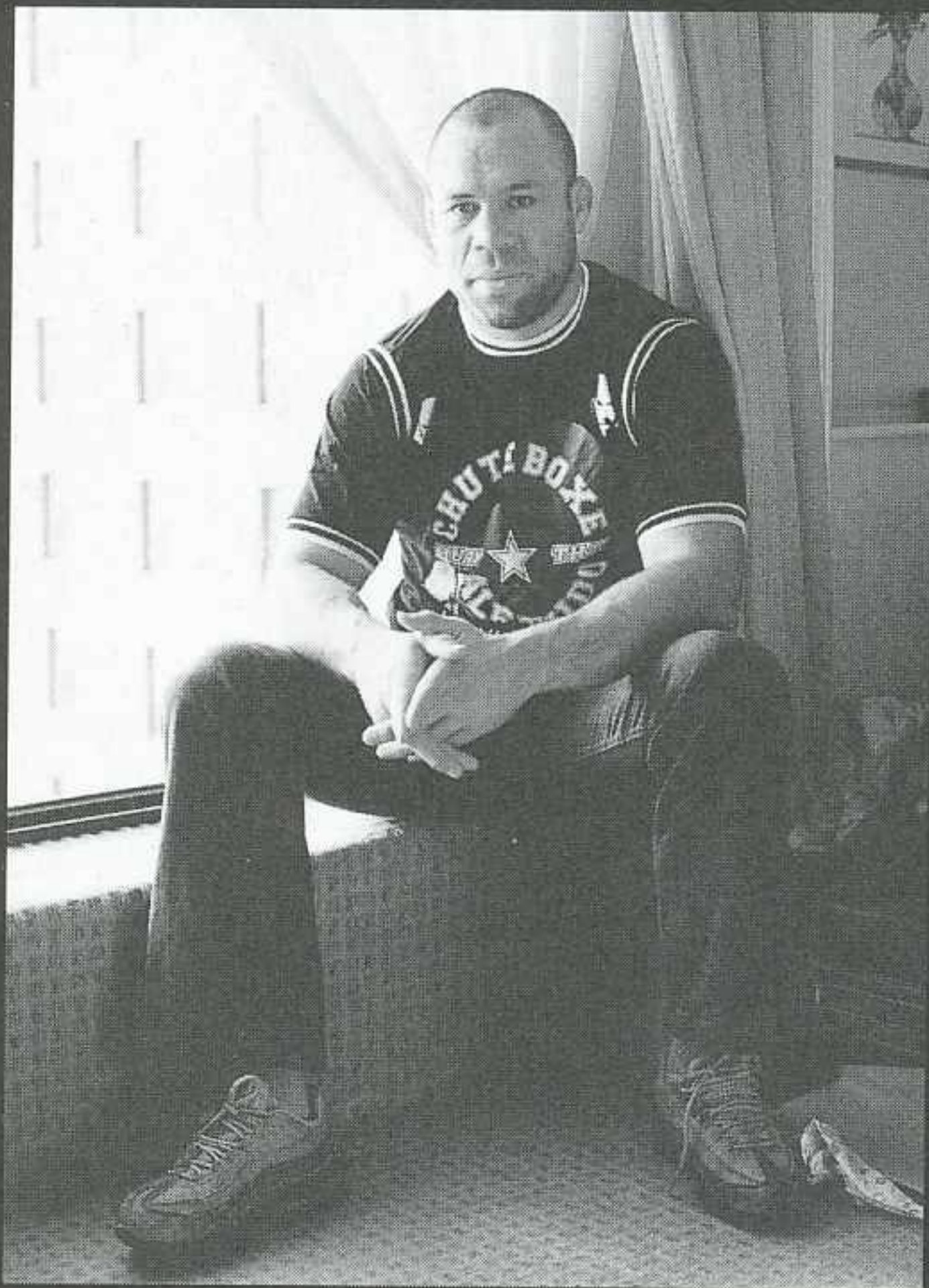
Columns

Another

俺は絶対に負けていない!!

PRIDE OTOKO-MATSURI BEST BOUT

SILVA vs HUNT

○ マーク・ハント［3R判定2-1］ヴァンダレイ・シウバ ●

強大な伏兵に敗れるも
"絶対王者"の自信に揺らぎはなし！
2005年、目指すはミドル級GP2連覇か——!!

ヴァンダレイ・シウバ

WANDERLEI SILVA

大晦日『PRIDE男祭り』のベストバウトとして、誰も何の異論もないだろう。
PRIDEミドル級王者と元K-1GP王者の激突となったシウバvsハントである。
まさかの桜庭和志欠場が生んでしまった対決、互いの血汗と意地が飛び交う激闘、
そして"絶対王者"シウバの敗北——!!
シウバはこのハント戦をどう捉え、どのように今後のことを考えているのだろうか？

聞き手／ジャン斎藤　撮影／吉場正和　試合写真／平工幸雄　designed by bun-chan (Two Three)

俺は負けていない

去年の俺の試合を振り返れば
GP優勝の自信に誰も異論はないはずだ

―ハント戦は惜しくも判定で負けてしまいましたが、ファンや関係者のシウバさんの評価はさらに上がる試合内容になりました。試合を終えて2日経ちましたが、率直な感想を聞かせてください。

シウバ　いい試合ができて安心しているよ。俺がいつも心がけていることは、ファンが喜ぶ試合をすることだ。そういう意味では、非常に満足がいく内容になったと思う。

―スプリット・デシジョンになった判定についてはどう思われますか？　試合後、シュートボクセのフジマール会長は異議を唱えていましたが。

シウバ　俺は絶対に負けていない。あの判定結果は残念だったよ。30キロ近く体重差がありながら試合は俺がコントロールしていたし、何よりもテイクダウンに何回も成功していた。そしてハントはグラウンドでイエローカードを提示された。たしかに2Rはハントの時間だったと思うが、1Rや3Rは俺は確実に支配していた。以上のことから、どうしてハントの勝ちになるのかいまだに理解できない。こういうかたちで連勝記録がストップしてしまったことは、ホント残念だな……。

―ファンや関係者のあいだでは、フジマール会長の「将来的なことはわからない」という言葉を意味深に捉えて、『PRIDE』撤退を噂されていますが……。

シウバ　今後のことはまだ考えていない。ランペイジ戦から間もない試合ということもあったし、休養が必要なのはたしかだ。これからのことはブラジルに帰って一息ついて、それからゆっくり考えるよ。いま言えるのはそれだけだ。

―わかりました。では、試合についてお伺いしますが、直前で対戦相手が桜庭選手からハントに変わったことに不安はありませんでした？

シウバ　それはない。俺はどんな相手や危機的状況に見舞われても冷静に対応できるように心がけて日夜トレーニングに励んでいるからね。

―桜庭選手とハントはまったくタイプが異なって、体重もまるで違っていても？

シウバ　たしかに俺はサクラバの体重に合わせて大晦日に向けて調整してきた。あらかじめハントが相手と決まっていれば、対ヘビー級の身体をつくって日本にやってきただろう。しかし、だからといって、対戦相手が変わったことにまったく不安はなかったんだよ。

―急な変更で対策はあまり立てられなかったと思いますが。

シウバ　もう一度繰り返そう。俺は相手が誰であろうと、どういう状況だろうと常に対応できるように練習している。何かしらのハプニングに混乱することはない。俺は俺の闘い方をするだけなんだ。

―ヴァンダレイ・シウバの闘い方をすることだけが頭にあったと？

シウバ　そういうことだ。日本のファンが望んでいるヴァンダレイ・シウバを披露できたと思っている。

―シウバさんの闘いに対する姿勢だと、ハントのパンチで吹っ飛ばされたときにも危機感は生まれなかったわけですか？

シウバ　強烈なパンチをもらったことで多少は効いたが、自分が何をすべきか？　どうするべきか？　というファイターたる意識はしっかりあった。やはりK-1王者ということもあってハントは油断できない相手だと確信したしな。そして逆に俺のパンチでブッ倒してやる！　とも思ったよ。おそらく俺の本能には危機感が生まれるどころか、戦闘意欲に火が付いたわけさ。

―そんなシウバさんでも、ハントのお尻攻撃は予想外だったんじゃないですか？

シウバ　フフフ。俺が闘っているのは"なんでもあり"だ。練習でもああいうシーンは体験している。……とはいっても、あそこまで大きな尻が降ってくることはないけど（笑）。

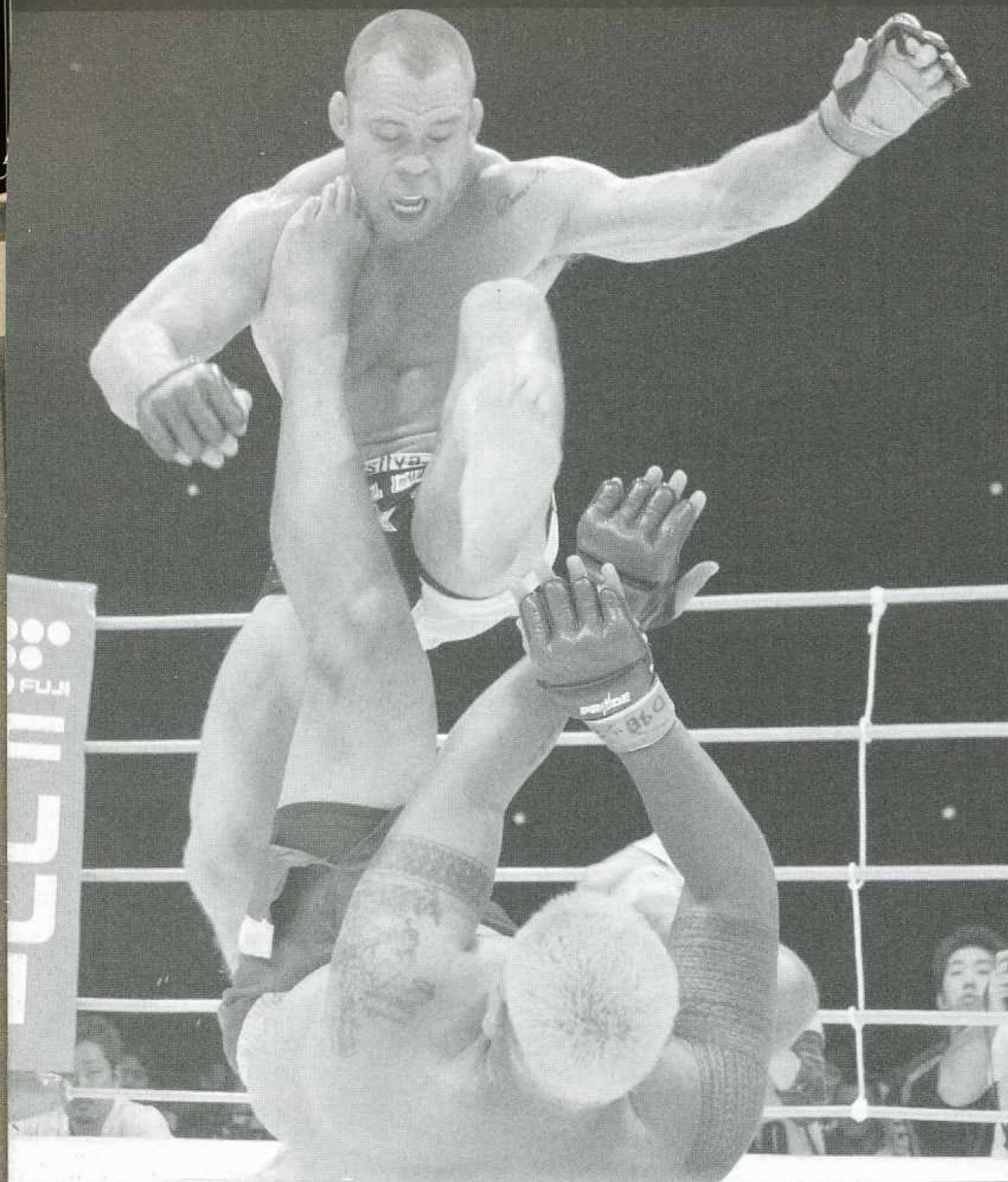
―ホントにビックリしますよね（笑）。

シウバ　ハントも勝ちたい気持ちでいっぱいだったんだろう。それがああいう行動を生んだんじゃないかな。今回の判定について言いたいことはあるのはたしかだが、ハントのようなストライカーと打ち合えたことを含めて、この試合の経験は今後の自分に大きなプラスになったと思う。

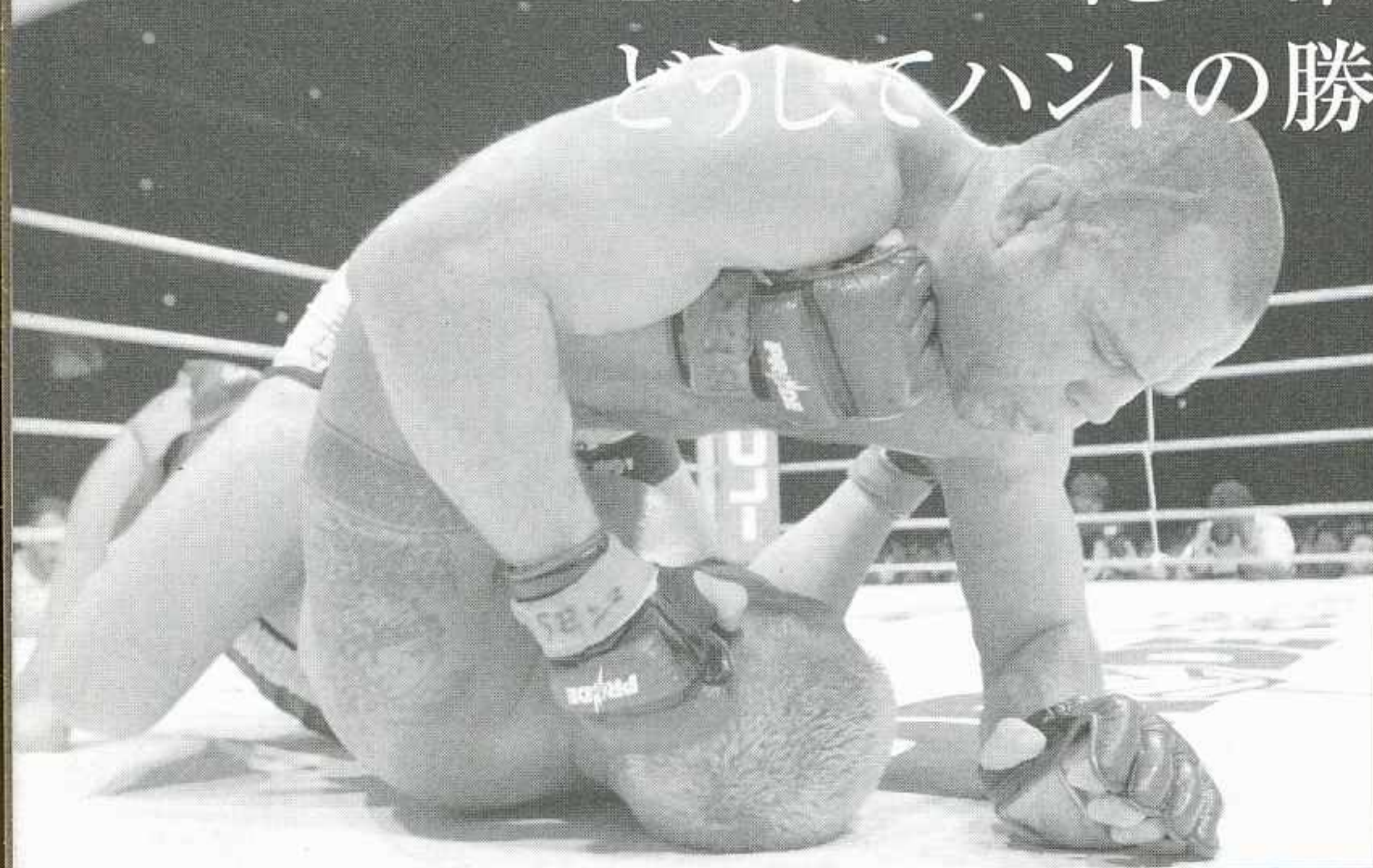
―榊原代表によると、シウバさんはじつは怪我をしていたという話でした。他の関係者に聞くところによれば、拳が痛くて練習ではミット打ちもできない状態だったとか。

シウバ　自分の口からその事実を明かすことだけはしたくなかったが、じつは左の拳を酷くケガしていた。ランペイジ戦前から痛めた脇腹肉離れはもう大丈夫だったけど。

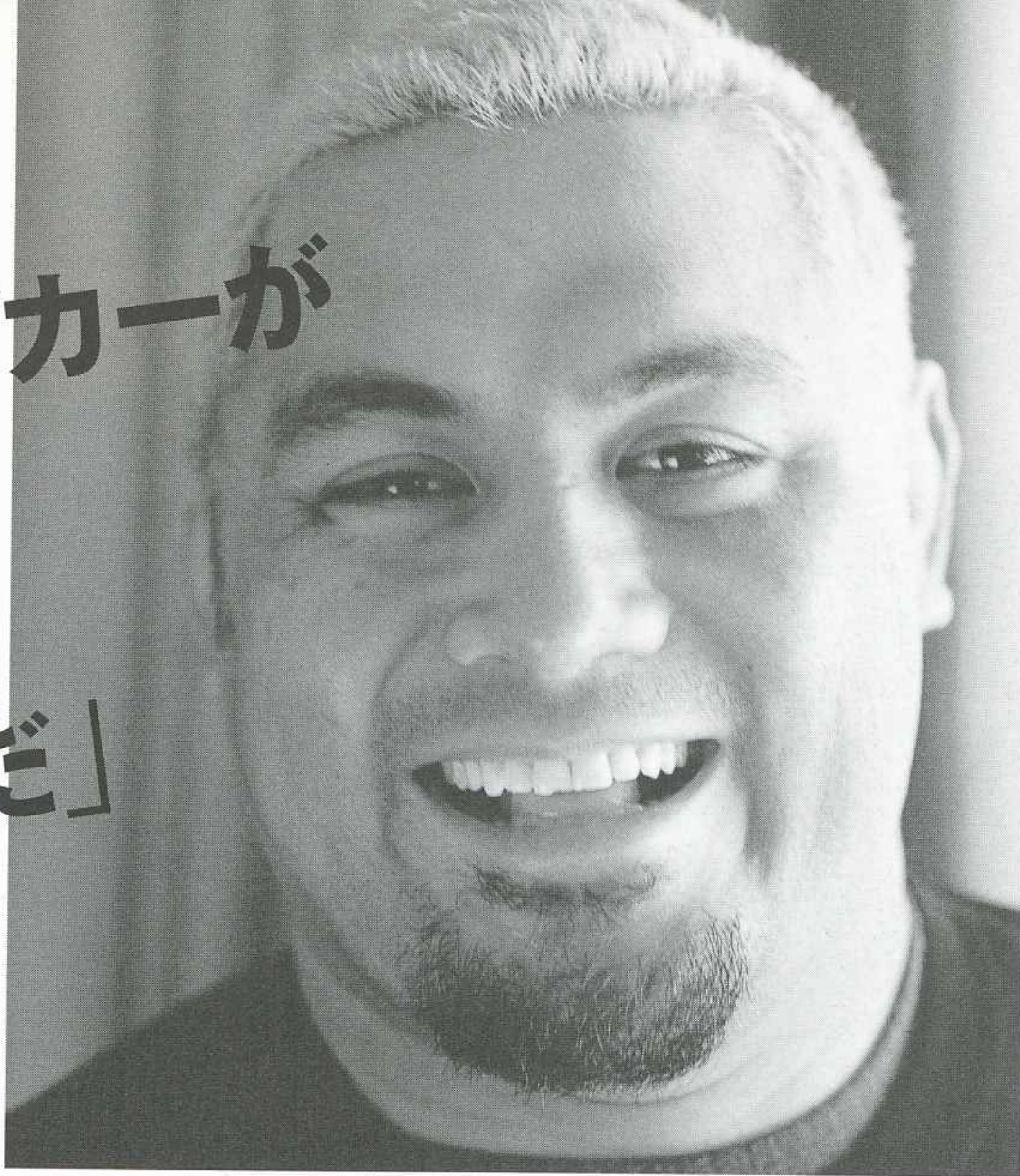
―とても万全とは言い難い状態で大晦日に参戦しようと思った理由を教えてください。

シウバ　まずひとつは、『PRIDE』の王者として、一年を通じて一番大きなイベントにぜひ出場したかったことがあげられる。ふたつめは、サクラバとまた素晴らしい闘いをしたかったからだよ。サクラバと闘うと、かならずファンが喜ぶ非常に濃密な試合になる。ちょうどリング上に選手や関係者が集ってカウントダウンのイベントが行われているときに俺は控室にいたんだが、サクラバがわざわざ控室を訪ねてくれた。私たちにとって彼は誰よりも先に新年の挨拶をしてくれて、そして今回の欠場を

詫びてくれたんだ……。サクラバとはぜひとも機会をあらためて闘いたいね。
――コアの格闘技ファンからは、最近の桜庭選手の実績ではシウバさんに挑戦できる資格はないという声もあがっています。シウバさんはどうお考えでしょうか？
シウバ　日本の多くのファンは理解していると思うが、サクラバは優れたファイターであり、このMMAの世界でも有数の格闘家だ。その名前はブラジルにも轟いている。なにより俺と彼が闘えば、ファンがエキサイトする絶好の内容になる。俺はプロのファイターだ。プロのファイターとしてのビジネスとは、ファンに優れた試合を提供することだ。だとすれば、サクラバという強いプロのファイターと闘うことは、プロとしては歓迎すべきことであり、ファイターとしてやりがいのある仕事になるんだよ。
――なるほど。今年はミドル級GPも開催されますが……まだ今後のことはわからないんですよね？
シウバ　もし俺が出場することになれば、間違いなく優勝するだろう。コンドー、ランペイジ、ハントと、俺が昨年こなした試合を振り返ってみれば、誰も何の異論は出ないはずだ。その自信について、とりあえず、今後のことは休養しながら考える。
――クリスマスも大晦日も返上して試合に備えていたわけですからね。
シウバ　クリスマスイブは家族と一緒に過ごしたよ。翌日のクリスマス、25日に東京に向かってブラジルを発ったんだ。飛行機に乗り込んだとき、相手は誰になるか知らなかったけどね（笑）。
――ダハハハ。しかし、大晦日を家族と一緒に過ごせないのは、ちょっと寂しいものがあるんじゃないんですか？
シウバ　いや、俺からすると、とくに寂しい気持ちはないよ。クリスマスにしても、ジーザスに感謝する特別な一日という意味合いが強いので、家族と過ごすことが最優先されるわけじゃない。だから、クリスマスに俺はプレゼントしたり、逆にされたりするのは大反対なんだ。そういうわけで子どもには何もプレゼントしてない。
――それはかわいそうですよ（笑）。
シウバ　い～や、絶対に上げないね!!　だって、クリスマスはジーザスの誕生を祝福する日であって……（絶対王者のクリスマス論がとうとうと語られるが、ページの都合上カット）……それならば、恵まれない子どもたちにプレゼントするよ。実際、一昨年と去年のクリスマスの時期には、サンタの格好をしてファベーラ（スラム）の子どもたちを喜ばせたしね。
――そういう慈善活動をされてるんですね。袋いっぱいにおもちゃを詰めて訪問したわけですか？
シウバ　袋いっぱいというか、トラックいっぱいのおもちゃ!!　たしか5千個ぐらいプレゼントしたかなぁ。
――トラックいっぱい!!　バレンタインデーにジャニーズ事務所に送られてくるチョコレート並ですね、それは（笑）。
シウバ　俺は試合同様、何事にも手を抜かないからな（キッパリ）。サンタの格好をするだけじゃなくて、お腹にはちゃんと綿を詰めてデップリ膨らませてサンタらしく振る舞ったもんさ。シェイプなサンタなんているわけないだろ？
――まぁ、シウバさんは風貌的にはサンタというより、サタンというかんじですから工夫は必要ですね（笑）。
シウバ　ん？　サタンがどうしたって？
――いや、今年は日本でもサンタの格好をお願いしたいということです（笑）。
シウバ　それはグッドアイデアだ!!　今年はヴァンダレイ・サンタとして、とびっきりの試合をプレゼントしてやるよ（笑）。
【05年1月2日／都内ホテルにて収録】

SILVA vs HUNT

1Rや3Rは俺が確実に支配していた。どうしてハントの勝ちになるのか理解できない。

ハントの打撃に苦しみながらも、決してあきらめることはせず、不屈の闘志を見せつけたシウバ。グラウンドでは有利なポジションをキープし続けた手応えからか、試合直後に両手を挙げて勝利をアピールしたが……。

ヴァンダレイ・シウバの試合に対する観客のテーマといえば〝どの日本人がこの怪物を倒すのか？〟ということであったが、ここ最近は〝この怪物がどんな凄い試合を魅せてくれるのか？〟という熱視線に変わっている。シウバの2004年の軌跡は、それほどまで壮絶な試合の連続だった。そこで築いてきたミドル級王者としての実力、プロとしての誇りは、ハントに敗れはしたが、ひとつの曇りもなかったのである。
インタビュー中の言葉通り、シウバはブラジルに帰国後、家族とともに休養に入ったといわれる。休暇を終えたあと、その鋭い眼光は、4月開催のミドル級GPに向けられるのだろうか？
ミドル級GPでまた、壮絶な試合が見られることを、期待しよう。

「PRIDEには一流のストライカーが揃っているが俺は超一流のストライカーだ」

“絶対王者”を破った“サモアの怪人”がミルコ、ヒョードル戦に名乗り!!

マーク・ハント

Mark Hunt

〝絶対王者〟に土を付けた〝サモアの怪人〟がミルコ、ヒョードル戦に名乗り!

大会5日前に発表された桜庭和志の欠場により、穴が開いてしまったヴァンダレイ・シウバの相手を務め、そして絶好の試合内容で興行の危機を救ったマーク・ハント。『PRIDE』デビューとなった昨年の吉田秀彦戦で敗れはしたが、格闘センスの良さを存分に見せつけていた。大晦日の勝利は一階級下のシウバながら現役ミドル級王者を破ったことで、今後の『PRIDE』マットの主役の座にジワリと忍び寄ったことはたしかだろう。

打撃には絶対的な自信を持つ、元K-1GP王者——。はたしてその豪腕によって、ヒョードル、ノゲイラ、ハリトーノフ、ミルコら四強の壁を切り崩すことはできるのか——?

——『男祭り』のヴァンダレイ・シウバ戦は素晴らしい激闘でした!

ハント　俺もベストなファイトをやり終えたことで気分はかなり良いよ。身体は至るところ傷だらけだけどな(笑)。

——頑丈で知られるハントさんの身体も音をあげてるんですか。

ハント　それほどの試合だったってことだ。グラウンドで強烈なパウンドを何度か喰らったことで頭が痛い。あとヴァンダレイの顔を殴ったときに右の拳を痛めた。

——強烈なパンチをヒットさせていましたもんね。シウバがあそこまで追い込まれた姿を初めて見ましたよ!

ハント　拳も痛いが、いま一番深刻な問題は、お腹がどうにも空いていることだな。早くインタビューを終えて何か食べたいんだよ……(真顔で)。

——は、早く終わらせます(笑)。まず伺いたいのは、もともと今回の『男祭り』にハントさんは出場を予定されていましたが、右足のケガを理由に一度は欠場を発表されていたことなのです。

ハント　右足のケガのことか。あれは、タックルを切るトレーニングをしていたときのことだ。飛びながらバックステップしてタックルをかわしたときに、全体重を右足にかけてしまった。もともと右足は痛めていた箇所でそのアクシデントでさらに悪化したってわけさ。

——その右足は「勝てる試合ができるところまでは回復した」ということで、桜庭さんのピンチヒッターとしてヴァンダレイに挑むことが急転直下で決定しましたが、急な試合で相手は超強豪。不安はありませんでした?

ハント　体調面の心配はもちろんあったよ。でも、これはビッグチャンスだとも思った。ヴァンダレイ・シウバという『PRIDE』を代表するファイターと闘えることもそうだし、勝てば今後の『PRIDE』のリングにおいて、俺が望んでいる道をうまく切り開けることになる。つまり俺は大きな賭けをしたんだ。

——大会ベストバウトともいえる激闘を判定で制して、その賭けに見事成功したわけですね。

ハント　そういうことだな。

——賭けといえば、猪木アリ状態のときにハントさんはお尻からヴァンダレイに降りかかったりして、また思い切った攻撃しましたよね(笑)。

ハント　あれは、実際は両足でスタンプするつもりだったのだよ。でも……なぜか尻から落ちてしまった(笑)。

——ダハハハ。元WWEのRIKISHIという選手はハントさんと同じくサモア系で、スティンクフェイスやビックヒップというお尻を使った必殺技を使うんです。

ハント　ああ、RIKISHIのことは少し知っている。お尻を振ることしか知らないけど(笑)。

——ハントさんの尻攻撃を見て、そのRI

尻爆弾投下!!　ハントが猪木アリ状態からダイビング・ヒップドロップを見舞った。開幕式では高田本部長が褌一丁で引き締まったお尻を披露するなど、“男尻マニア”には堪らない大会となった(のか?)。

PRIDEファイターが体験したことない強烈な拳を味わせてやりたい

KｰSHIｰを思い出しましたんですよ（笑）。で、話はヴァンダレイ戦に戻りますが、ハントさんのゲームプランとしては、やはりスタンドの打ち合いを中心に組み立てるつもりだったのですよね？

ハント　もちろんだ。いくら打撃に優れたヴァンダレイといえども、打ち合いになれば俺のほうに分がある。それに、俺とヴァンダレイの体重差は30キロ近くあった。グラウンドになればこの体重差は彼に有利に働く局面もあるが、スタンドの打ち合いであれば俺にプラスになる。実際、俺の打撃でヴァンダレイは何度も吹っ飛んだ。

――そのたびに観客は悲鳴を挙げていたんですよ!!

ハント　ヴァンダレイはスタンドの勝負を避けて、テイクダウンを狙ってくることはわかっていたよ。

――でも、何度もテイクダウンを許してしまった。ハントさんのグラウンドの進歩は目を見張るものがありましたが、まだまだ不安はあったんじゃないですか？

ハント　そうだな～。俺は毎日、柔術やレスリングのトレーニングは欠かしていないから、だいぶ自信は付いてきているけど。

――『PRIDE』デビュー当時の寝技のレベルを「1」だとすると、いまはどれくらい？

ハント　う～ん。2ぐらいかなぁ。ま、2倍もレベルアップしているからスゲエだろ（笑）。

――たしかに（笑）。ちなみに一緒に練習している方々は、総合格闘技の選手なんでしょうか？

ハント　いや、ファイターじゃなくて、あくまでトレーナーだ。いずれはリングに上がることも視野に入れている人間たちだよ。ニュージーランドの総合格闘技は、まだまだ発展途上の段階。トレーナーやファイターを目指している人間たちと、一緒に練習しながらいろいろ模索しているんだ。

――日本やブラジル、アメリカの総合格闘

ハントはジリジリ間合いを詰めて強烈なフックを何度も叩き込んだ。グラウンドではまだまだ課題が多いが、パンチの破壊力、MMAの対応能力の高さは関係者の一致した意見だ。

技ムーブメントに比べると、はるかに厳しい環境ではありますね。

ハント　ゲームプランも自分で考えるしかない。もっとも俺に限っては、殴って蹴り倒すことしか頭にないけどな（笑）。俺はそのゲームプランをヴァンダレイ戦でまっとうできたと思っている。

――シュートボクセ陣営は今回の判定に異議を唱えていますが。

ハント　試合自体は接戦だったし、判定はどっちに転んでもおかしくはないと思ってたよ。俺はヴァンダレイに何度かタックルを取られてパウンドで殴られた。俺は俺でヴァンダレイをパンチで吹っ飛ばした。ひとつだけ言えることは、俺がミルコやヒョードルと闘ってもおかしくないMMAファイターだってことを証明したってことだ。だって、ミルコでさえ、ヴァンダレイをあそこまで追いつめてはなかったはずだろ？

――たしかに。そのミルコに対して、試合後のリング上で「闘いたい！」とアピールしました。K-1のリングで彼に負けていることが対戦希望の一番の理由なんでしょうか？

ハント　正直な理由が聞きたいか？

――はい！　お願いします。

ハント　……じつはな、『PRIDE』の関係者に「〝ミルコと闘いたい！〟って言え」って命令されたんだ！

――ダハハハ!!　それは正直に告白し過ぎで、まったく載せられません（笑）。

ハント　いやいや、ジョークだよ、ジョーク（笑）。アンタが言うように、俺はK-1で一度、ミルコに負けているから、その借りをぜひ『PRIDE』のリングでリベンジをしたいと思ってるんだ。あのときはミルコのハイキックで倒れて判定負けになっちまったが、今度は俺のハイキックが炸裂する番だ。

――マーク・ハントのハイキック!!

ハント　そうだ（笑）。そして俺の勝利は判定じゃない。完璧なKOだよ。そのあとはヒョードルとタイトルマッチをぜひやりたいな。

――ヒョードルはどの能力が優れたファイターだと思いますか？

ハント　打撃だな。間合いの取り方、打ち出しの早さ、強烈なパンチ……どれをとっても一流のストライカーだと思う。

――ハント選手からみても素晴らしいと。でも、自分のほうが打撃は上だと思ってるんですよね。

ハント　（無言でニッコリを笑う）。ヒョードル、ノゲイラ、セルゲイ（・ハリトーノフ）……彼らは優れた打撃のスキルを持っている。だけど、彼らが一流ならば、俺は超一流のストライカーだよ（キッパリ）。彼が体験したことない拳を味わせてやりたいな。

――逆に伺います。グラウンドに持ち込まれて、ヒョードルのパウンドを耐えられる自信はありますか？

ハント　どんな選手でもピンポイントでパンチがヒットすればKOされる。そういう意味では、俺はいままでラッキーだったのかも。それはやってみないとわからん……と、とりあえず謙虚に言っておくよ（笑）。

――自信ありそうですねえ。とりあえず目標はヘビー級のベルトということですね。

ハント　あとグランプリも制したい。K-1と『PRIDE』のグランプリを両方とも制した初めての男になりたいんだ。その資格、そして実力を持っているのは俺だけだから。でも、今年はヘビー級じゃなくてミドル級のグランプリをやるんだろ？

――ええ。ハントさんは、残念ながらミドル級グランプリ出場の資格というか、ミドルな体格はお持ちじゃないですけど（笑）。

ハント　う～～ん、この腹じゃ無理だ（笑）。ヘビー級のマーク・ハントを楽しみにしていてくれ！

【05年1月2日／都内ホテルにて収録】

吉田秀彦はなぜ“完封負け”を喫したのか!?

ルーロン・ガードナー 完全犯罪成立!!

“コンバンワおじさん”は強かった!!

「カンバンワ〜」PRIDE参戦を表明したときの、その呑気な挨拶と、愛らしい風貌から、超大物なのになぜか「ガファリの再来」扱いされていたガードナー。しかし、やはり“カレリンを破った男”は強かった！ 吉田秀彦を研究尽くした頭脳的な闘いで快勝。あの挨拶もすべては我々を油断させる作戦ではないかと思うほど完璧だった。そんなガードナーの“犯行計画”を語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和　試合写真／平工幸雄　designed by Tani-Yan (Two three)

――ガードナーさん、カンバンワ〜。

ガードナー カンバンワ〜。ちょっといまお腹がすいているから、インタビューは食べながらでいいかい？

――どうぞどうぞ。かまいません。

ガードナー サンキュー（と言って、ビッグマック、マックフライポテト、チキンマックナゲットを取り出しもぐもぐ食べ始める）

――ガードナーさんのような世界的なトップアスリートでも、ジャンクフードを食べるんですね（笑）。

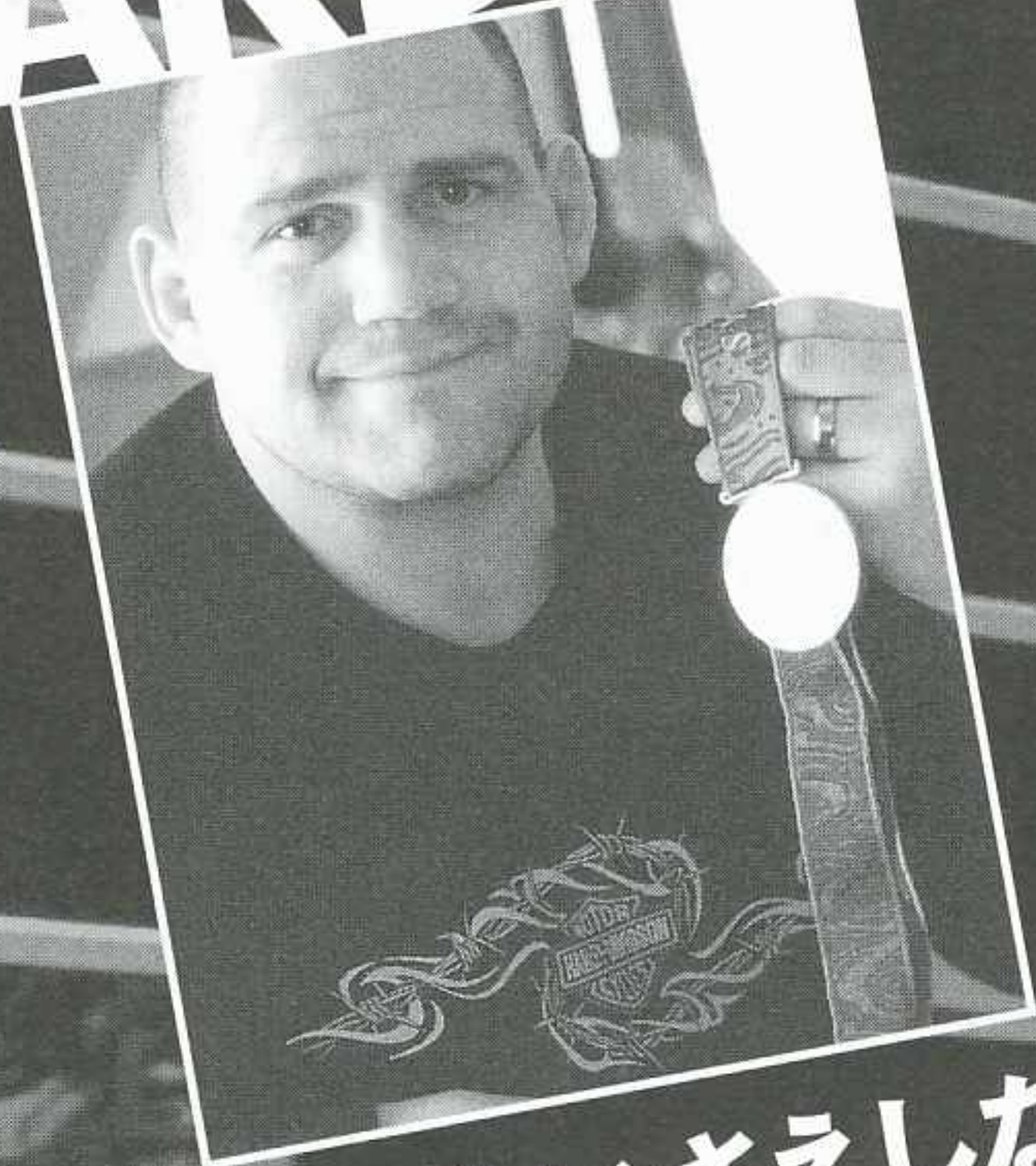
ガードナー 試合前は食べないよ。でも、試合は昨日終わったんだから、好きなものを食べてもいいじゃないか。だっておいしいんだもん（ポテトをもぐもぐ）。

――おいしいなら仕方がないですね（笑）。では本題に入りますが、昨日の吉田秀彦戦では見事『PRIDE』白星デビューおめでとうございます！ 一夜明けて、いまどんなお気持ちですか？

ガードナー いまは凄くハッピーな気分だね。初めてのMMA、初めてのプロのリングということで、試合前は非常にナーバスになっていたんだけど、ケガもなくリングを降りることができて、しかも勝利を収めることができたことには、本当に満足しているよ。ただ、ヨシダをケガさせてしまったみたいなんで（試合中に足首を負傷）、それはちょっと悪かったなぁと思う。

――初めてプロのリングに上がった感想はいかがでしたか？

ガードナー あのアリーナの雰囲気にはとにかく圧倒されたよ。リングに向かって花道を歩いたときのプレッシャーは凄いものがあっ

RULON GARDNER

「寝技に付き合いさえしなければ私がヨシダに負けることはないと試合前からわかっていたよ」

た。正直に言えば緊張でガチガチだったし、リング上でヨシダと向かい合ったときは、その場から逃げ出したいくらいだった。でも、私はアメリカのレスラーを代表してプロのリングに上がっているのだから、怖がって後ずさりすることだけはしたくなかったので、思い切って向かっていったら運良くジャブでダウンを奪うことができた。ここでようやく落ち着きを取り戻したよ。

――アマチュア・レスリングでは世界の大舞台でずっと闘ってきたガードナー選手でも、プロのリン

グはそんなに緊張しましたか。

ガードナー　プロとアマチュアではまったく違った緊張感があったよ。オリンピックに出たときも、もちろんプレッシャーはあったけど、それは勝敗に関するプレッシャーだけだった。でも、プロの試合というのは、相手を痛め、傷つけようとする。自分の肉体が常に危険にさらされているんだ。だから自分は競技に出場するというより、戦争に向かうような気持ちだったね。

——では、試合中に恐怖を感じることもありましたか？

ガードナー　何度も恐怖を感じたよ。ゴングが鳴りヨシダが私に向かって来たときに「怖い」と思ったし、私のパンチが当たったのにヨシダが「何でもないよ」という顔で向かって来たときにも怖いと感じた。それから逆に自分が攻めていても、もしかしたら相手に大けがを負わせてしまうんじゃないかという恐れもあったよ。やはり未知の世界に足を踏み入れるということは、恐怖が伴うものだからね。

——でも、昨日の試合はデビュー戦でしかも準備期間が短かったとは思えない闘いぶりでしたよ。吉田選手の良さを完全に封じてましたからね。

ガードナー　私をサポートし、一緒に作戦を考えてくれたチームメイトのおかげだよ。いくら体重差があると言っても、デビュー戦の私とヨシダとではこの競技に対する経験と知識に大きな開きがあるので、圧倒的に不利だということは自分でもわかっていたんだ。ただ、私の方は試合前にヨシダのビデオを見て彼を研究することができるが、彼は〝総合格闘家〟ルーロン・ガードナーを研究することができない。その一点だけはデビュー戦であることの唯一にして最大のメリットだと思っていたので、彼との試合が決まった後、まずはホイス・グレイシー戦やヴァンダレイ・シウバ戦、マーク・ハント戦などのビデオを繰り返し見て、彼の長所と弱点を徹底的に洗い出すことにしたんだ。すると彼はアームロックやチョークなどグラウンドのサブミッションは非常に危険だが、スタンドの打撃はKOを奪えるほどではないことがわかったので、スタンドで勝負することに決めた。（ノートPCの自分の練習中の写真を見せて）これは3週間前のトレーニング後の写真なんだけど、青タンができているだろう？　それだけ打撃の練習を徹底的にやってきたんだよ。

——は～、勝つための戦略をしっかり練り、それに向けたトレーニングもしっかりと積んで来た結果が昨日の勝利だったわけですね。

ガードナー　YES。作戦通りだね。グラウンドで上になるチャンスがあれば殴っていこうとは考えていたが、ヨシダにグローブを掴まれてうまくいかなかったし、あまりグラウンドに固執して下からアームロックを狙われるのも嫌だった。ましてやヨシダにグラウンドで上になられることだけは避けたかったので、とにかくスタンドで距離を空けてヨシダの方から飛び込んでくるのを待ったんだ。結果的にそれが上手くいったんだけど、膠着のイエローカードを出されたということは、『PRIDE』は私の作戦があまりお気に召さなかったようだ（笑）。自分としては打撃を常に打っていたので、膠着を誘発しているというふうには思わなかったんだけどね。

——勝つための作戦としては素晴らしいと思うんですけど、プロの世界というのは、勝つことと同時にエンターテイメント性も求められるので、ガードナー選手の最大のセールスポイントである投げ技をやろうとしなかったことに対して、残念に思ってる人も多いんですよ。

ガードナー　ファンが私の投げを見たいというのはわかるよ。でも、それならばヨシダ以外の対戦相手を用意してほしい。相手がヨシダじゃなかったら投げるよ（笑）。

——投げ技が見たかったら、打撃系の相手とかを用意しろと（笑）。

ガードナー　投げるためには相手に密着しなければならないんだ。でも、密着するために相手の懐の中に入って行くと、強い柔道家は道衣でフックして私を身動き取れないようにしているうちに逆に投げられてしまう。私は何人もの柔道家と練習をしたが、やはり気がつくと投げられているという状態だった。ましてやヨシダはオリンピックのチャンピオンなのだから、その彼と投げで勝負するというのは得策ではないと判断し、やめたんだ。ヨシダはなんとか組んで闘おうとして、ロープ際でさかんに私をさそっていたが、それに付き合うと待っているのはヘッドロックをかけられるか、投げられるかだけだ。特に吉田は左からの投げを得意としているので、もし組まれたとしても、彼の左側につくことだけは

ルーロン・ガードナー 完全犯罪成立!!

試合前のインタビューでは「グラウンドコントロールに自信がある」と語っていたガードナーだけに、寝技勝負になるかと思われたが、蓋を空けてみれば、吉田の弱点をスタンドと見抜き、対格差を利用して打撃で勝負！　吉田は予想外の展開にペースが掴めず、判定は3－0でガードナー。試合後、セコンドのランディ・クートゥアーらと喜びをわかちあう。まさに作戦勝ちだった。

しないように心がけたんだ。

—そこまで考えてましたか！

ガードナー　ここまで考えるのもヨシダが強いということを非常に尊重しているからであって、そこまで研究しなければ、私の勝利はなかった。だから、ファンにとってみたら投げを見たかったと思うかもしれないけれども、ヨシダの能力と柔道の特性を理解している人なら、なぜ私が投げにいかなかったかをわかってくれていると思う。

—真剣に勝利を目指した結果が、あの闘い方になったということですね。

ガードナー　YES。ヨシダは投げも関節技も絞め技もできる。だから私は先走って組んで行くのではなく、自分にチャンスが来るまで辛抱強く待たなければならないと思った。でも、それでは試合が退屈じゃないかと思うかもしれないが、ただ待っているだけじゃなく、パンチもしたしキックもしたし、彼からダウンも奪った。自分としては最善を尽くしたつもりだし、自分のパフォーマンスには満足しているよ。

—いや〜、ガードナー選手がそこまでMMAの試合について真剣に考えているというのは、嬉しいと同時にある意味、意外ですね。というのも、他競技の大物アスリートがこういったMMAの試合に出ると、アトラクション気分というか、負けても「これは非公式の試合だからなんとも思わない」というような選手が少なくないんですよ。そして実際、マット・ガファリが通用しなかったりだとか、イブラヒムがパンチ一発で負けたりしているのですけど、彼らとガードナー選手はどうして意識が違うんでしょうか？

ガードナー　彼らが何を考えMMAの試合に出たのかはわからないけど、仕事に対する取り組み方だと思う。正直に言えば私自身、MMAの経験豊富なヨシダが相手だったので、負けたらそれはそれで仕方がないという気持ちはあったんだ。でも、「負けてもいいんだ」と負けを前提にリングに上がるのと、勝つために最善を尽くした上で負けるのとでは全く違うと思う。だから私は「これは私のプロとしてのしっかりとした仕事なんだ」という気持ちで試合に挑んだし、勝つためにパンチの技術をおぼえ、ヨシダの研究もしたんだ。

—プロとして試合に挑む姿勢が違うと。

ガードナー　そう。ファイトだけでなく、仕事に対するアティテュードとして、それは最低限必要なことだと思う。オリンピックに出たときは、それが私の仕事だったし、子供の頃は農業を手伝うのが仕事だった。そのように、その時どきで自分に与えられた仕事に対して、きちんと責任をもってやることが大切だと思う。だからプロのリングに上がっても「ケガをしないうちに寝てしまおう」という態度だけはとりたくなかった。マットで自分を100％出し尽くす。それで精一杯頑張ったけれど、その上で負けたのなら、潔く相手を尊敬してリングを去る。そういうつもりでリングに向かったんだ。

RULON GARDNER

ガファリやイブラヒムとは仕事に対するアティチュードが違うのだろう

—ガードナー選手のような大物アスリートが、そういう姿勢でMMAに転向してくれるのはホントに嬉しいですね。吉田選手だけじゃなく、MMAという競技についての研究もかなりしたんじゃないですか？

ガードナー　もちろん、かなり研究はしたよ。そしていろいろなトレーニングをつんだんだ。パンチ、キック、打撃のガード。柔術、柔道、グラップリングの練習。そういった各分野のトレーニングをしつつ、ディーン・リスター、ケン・シャムロック、ランディ・クートゥアーらとの実戦スパーリングで経験の少なさを補おうとした。それからそうそうボブ・サップとも練習をしたくらいだからね。

—スパーリング相手が蒼々たるメンツですね！

ガードナー　彼らのようなMMAでもベストなファイターがヘルプしてくれたことは、私にとって非常に幸運だった。彼らとの練習の中で強いパンチを打てるようになったからこそ、パンチで勝負しようという作戦も生まれたわけだしね。ヨシダも私のパンチの強さにビックリしたんじゃないかな。

—吉田選手という『PRIDE』でもトップクラスのファイターを倒したことによって、今度はヘビー級のトップクラスとの対戦も期待されると思いますが、例えばヒョードル、ノゲイラ、ミルコらとPRIDEヘビー級王座戦線を闘いたいという希望はありますか？

ガードナー　将来的な話ならわからないが、いま彼らと闘いたいかと聞かれれば、その答えは「ノー」だね。もっとこのスポーツについて勉強してからでないと、彼らと闘うのはとても無理だよ。いま名前があがったファイターは何年間もこの世界の第一線で闘っているファイターたちなので、その経験と知識といったら凄いものがある。ところが自分はわずか1ヶ月半のキャリアしかない。このレベルではもし闘っても相手になるわけがないし、試合にすらならないでしょう。もっと時間をかけて、自分の能力を上げて、知識を増やして準備が整わない限り、彼らとは闘えないよ。

—いやぁ、カレリンを倒した金メダリストがそこまでハッキリと総合での力の差を認めるとは意外ですねぇ。

ガードナー　もちろんレスリングだったらヒョードルといますぐ闘ってもいい（笑）。でも、MMAではまだ1試合のルーキーにすぎないからね。もっともっと経験を積む必要があるよ。

—なるほど。それだけ真剣に考えているということですね。ありがとうございました！。次の試合も期待してます！

【05年1月1日／都内・某ホテルにて収録】

瀧本誠vs戦闘竜“凡戦”の中に大いなる可能性を見た！

“分刻みで進化する男”瀧本誠は真の天才です!!

おなじみ
青春の大発見
シリーズ

聞き手／堀江ガンツ
試合写真／平工幸雄
designed by さおとめの事務所

ひさびさに帰ってきた、堀辺正史師範の活字バーリ・トゥード講座。今回は柔道・金メダリストとして期待されながら、デビュー戦快勝とはならなかった瀧本誠の、ド素人には気づかない天才性を大分析！　これを読めば、瀧本vs戦闘竜の見方が変わります！

帰ってきた
日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史の活字バーリトゥード講座

瀧本VS戦闘竜は「総合をなめていた」という言葉に全てが集約されている！

——先生！　大晦日の格闘技戦争はもちろんご覧になられましたよね？

堀辺　はい。両方ビデオに録って見ました！　大変でしたねえ、長いから（笑）。

——『男祭り』だけで5時間半ですからね（笑）。で、いろいろあったと思いますけど、ズバリ先生的に一番印象に残った試合は何でしたか？

堀辺　これはもう断然、瀧本です！　これしかない！

——瀧本vs戦闘竜ですか！　それは意外ですねぇ。

堀辺　瀧本vs戦闘竜というのは、派手な攻防にならなかったこともあって評価しづらいし、あの試合展開ではそこで何が行われていたか掴みにくかったと思うんですよ。特にド素人にはね。

——ド素人！　久々に出ましたね（笑）。では、そのド素人が気づいていない興味深いことが、あの試合の中で起きていたということですか？

堀辺　意義のあることがバンバン起きてたんですよォ！　ですから今日は、瀧本vs戦闘竜戦の試合中、何が起きていたかということをド素人にもわかりやすく話していきたいと思います。

——ゼヒご教授お願いします！（笑）。

堀辺　まず、あの試合というのは、瀧本が判定で勝ったわけですけど、勝った瀧本が試合後に「総合格闘技をなめていました。すみません。次はもっと練習して、参ったを取ります」というような意味のことを言ってましたよね？　この中にすべてが含まれている気がするんです。

——ほう。あの言葉から試合の意味や、試合の中で何が行われていたかがわかると。

堀辺　そうです。で、瀧本が言った「総合をなめていた」という部分が何だったかを考えると、まず一つは自分が考えていた試合展開に持っていくことができなかったということ。それともう一つは結果も自分の考え通りにいかなかったと。それを率直に告白したのがあの言葉につながったと思うんですよね。

——「もっと簡単に勝てるはずだったのに、思い通りにいきませんでした」と。

堀辺　つまり彼は「自分は金メダリストだし、少し打撃を練習したら、すぐに総合でも通用するんじゃないか」と思っていたんですよ。ところがやってみたら、柔道という専門技術でやれると思っていたことがやれず、素人同然の状態に陥ってしまったと。まあ〝ド〟が付くほどではないけれども、リング上では自分が素人状態だったということを自覚したんですよ。これが「なめていた」ということのすべてです。

——瀧本選手自身が格闘技の素人のような試合をしてしまったことを自覚していたからこそ出た言葉だったわけですね。

堀辺　そういうことです。試合内容を具体的に見てみると、最初の打ち合いで、瀧本はパンチもキックも腰が引けてるんですよね。パンチは出しているんだけれども、どうしても顔面は後ろに逃げてるという感じで。でも、彼はきっとジムでサンドバッグを叩いたり、スパーリングパートナーと打撃練習をやったときには、もっと上手くいってたはずなんですよ。ところが実際の試合では上手くいかない。それどころか専門である組技にもっていこうとタックルにいったら、簡単に切られてしまった。タックルはアマレスの技とはいえ、柔道は同じ組技ですから彼も自信を持っていたと思うんですよ。ところがそのタックルさえも素人状態に陥ってしまった。なぜかと言うと戦闘竜の打撃を恐れるあまり、頭を下げてお辞儀する感じの、タックルというには最低のモノになってしまったんです。

——いわゆる〝土下座タックル〟ですね（笑）。

堀辺　そう。あれは総合で一番やっちゃいけないことなんですよ。その素人がやるようなことを金メダリストがやってるわけで、これは闘いながら自分でも気づいていたはずです。そして全体の印象から見ると、攻めてくる戦闘竜の周りをステップ踏んでグルグル回ってる状態が消極的にしか映らなかったんですよね。それを見ても相対的に素人状態が現出してるわけです。でもこの素人っぽさの中に、実は瀧本という選手の素晴らしさが出ていたんですよォ！

——素人状態の中に可能性が見られたと？

堀辺　そうです。もの凄い可能性が随所に見えたんです！　それはどういうことかと言うと、試合開始から3分ぐらいは圧倒的に戦闘竜が攻めていましたよね。その中で一見劣勢で消極的に見えていた瀧本が、短時間で明らかに変化していってるんですよ。1分間闘うと、1分間分進歩する。2分間闘うと、2分間分の学習が成されている。分刻みに彼がだんだん落ち着いていって、相手を見切る動きを見せていったんですよォォォ！

——試合の中でキャリアを積み、成長していったということですか？

堀辺　まさにそうです！　そもそもこの試合は体重差が34キロだったし、戦闘竜は総合3戦目なのに対し、瀧本はデビュー戦で準備期間は2ヶ月しかなかった。こういうもの凄くハンデを背負ってるときは、どんなアスリートでも素人状態になるもんなんです。考えてみてくださいよ、UFCなんかでもオリンピック選手が出たりしてましたけど、総合やってる選手にはほとんど勝てなかったんですよ。

——初期UFCでもメダリストはいましたし、『Dynamite!!』に出たイブラヒムなんかにしてもそうですよね。

堀辺　つまり〝何でもアリ〟というモノは、経験していないと、専門分野の中でどれだけ優れた能力を持っていても、それを発揮する暇がない素人同然の状態に陥るということなんです。瀧本もそれと同様に素人状態になってしまった。ところがその素人的な闘い方をする中で、1分間1分間をもの凄い速度で進歩していったわけです。普通の選手だったら3～4試合を経験して、その試合毎に練習してという期間がないと学べないことを、あのリングの中で学習したんですね。これが瀧本という男の一番の見所だったんです！

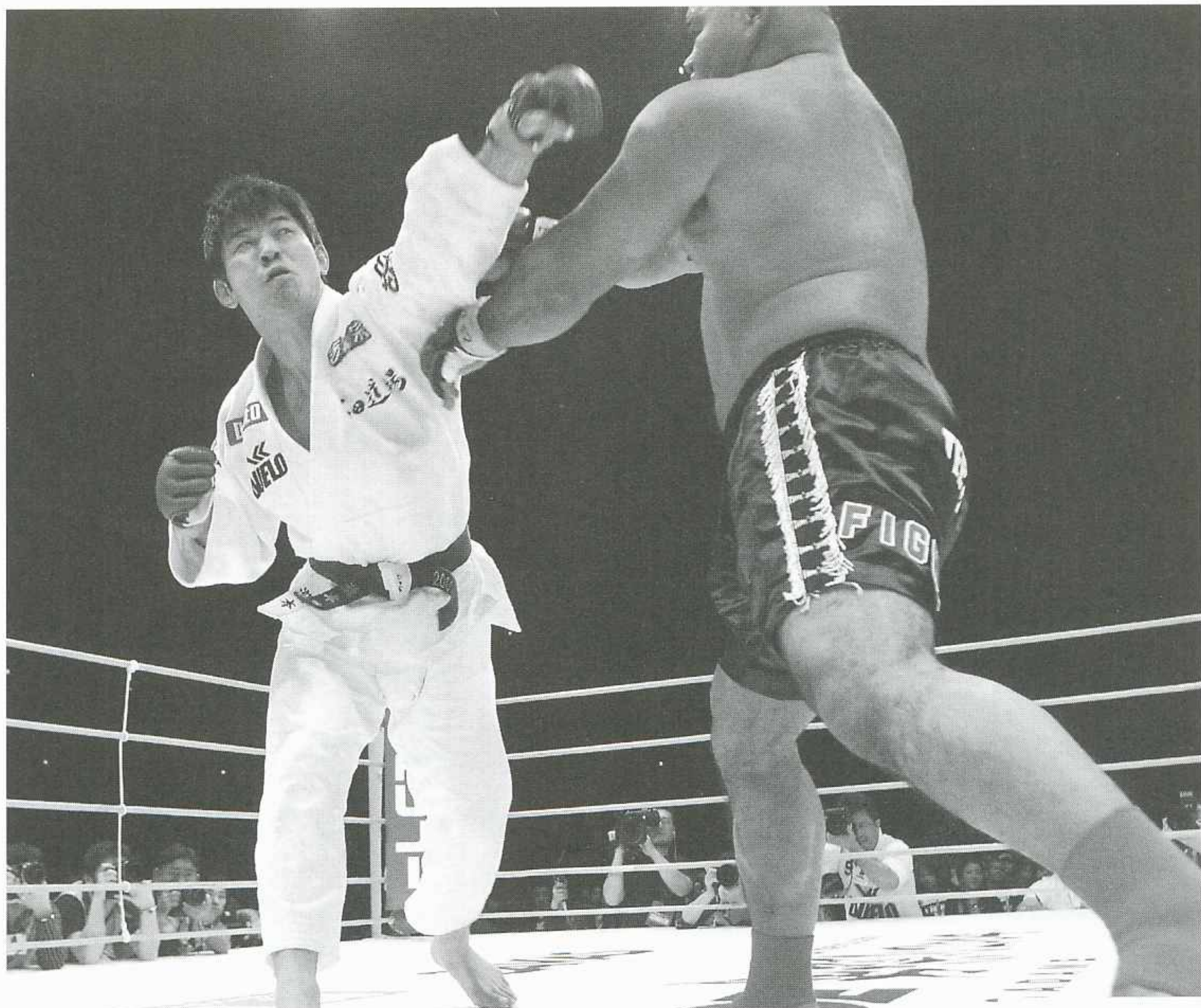
——試合の中で〝何でもアリ〟の闘い方を身につけていたということですか。それはもう、ある意味〝天才〟ですよね。

堀辺　ハッキリ言って天才です！（キッパリ）。テレビでも「柔道時代から天才だった」と流れていたけども、あのフレーズは嘘じゃないということをリングの中で証明してくれたん

相撲時代につけていた『こち亀』の化粧回しをつけて気合い満点で入場する戦闘竜に対し、デビュー戦とは思えない落ち着いた表情の瀧本。その佇まいは期待を抱かせるに十分。

です。素人のようなタックルは切られたけれど、パッとすぐ立てる能力がある。素人的な部分と、もの凄く光る技術が、試合の中でどちらも見られたんですよ。それを一方だけを見てると「瀧本、ダメじゃないか」となるけれども、その中で驚くべき進化が起きていたと。この"驚くべき"という部分がわからないんじゃあ、見てる人もド素人レベルなんです。

―ボクも見事にド素人レベルでした（笑）。

堀辺 では、どんなところに"光る技術"が見られたかということを少し話すると、2ラウンドに組み合ったとき、瀧本は一回戦闘竜を投げましたね。でもまだこのときはグラウンドですぐひっくり返されるというミスを犯している。ここでも34キロの体重差で、道衣を着てない相手を投げる素晴らしさと、簡単にひっくり返される素人性が見られた。それが3ラウンド終盤にコーナーに追い込まれたときには、しっかりと胴体をクラッチして、軽々と持ち上げて投げ飛ばしたと。

試合は意外にも打撃戦に。重くて速いパンチに自信を持つ戦闘竜に対し、瀧本も打撃で応戦。クリーンヒットをもらわないディフェンスと"当て勘"に非凡な才能が見られた。

瀧本は普通の選手が何試合かして学ぶものを試合の中で学習していたんです！

―戦闘竜の巨体を一度持ち上げてから投げましたよね。

堀辺 あれは筋力じゃないんですよ。浮かして、足払いを仕掛けてテイクダウン。アレは本当に見事な投げでしたよ。まさに柔道金メダリスト。34キロ差があって、しかも総合初体験という中で、スタミナを消耗した試合終盤にあんな投げは並の選手にはできませんよ！ だから1分ごとに進化してる様や最後の投げが、ジャッジの印象に残り、これが3―0という判定につながったわけです。だから「戦闘竜の勝ちじゃないか」という声もあるみたいですけど、ジャッジは間違ってない！

―実はボクも「戦闘竜の勝ちじゃないか」と思ってました（笑）。

堀辺 そこんところを見ないと「なんか瀧本を勝たす判定したんじゃない？」って思えてしまうんです。

―判定が下ったあと、記者席で同じ"ド素人仲間"であるターザン山本さんと一緒に「PRIDE」はK―1と同じ過ちを犯した！」とか言って大騒ぎしちゃいました（笑）。

堀辺 山本さんはそう思うでしょうね（笑）。でも、瀧本vs戦闘竜にそれはない。やっぱりジャッジはちゃんと見てますよ。

―つまりゴングが鳴って最初の2分間は実力的に戦闘竜が上回っていた。しかし試合中に瀧本が総合に順応していって、最終的に上回っていったということですね。

堀辺 試合中に実力の転換があったんです。瀧本は闘いながら弱点を克服していった。これは凄いことです。しかも戦闘竜はいままでの彼の試合の中で、一番素晴らしい出来だったわけですよね。

―戦闘竜は努力してますよね。"相撲界最強のバーリトゥーダー"の異名はウソじゃない。

堀辺 私もここで戦闘竜の名誉のために言っておきますけど、彼は構えもいいし、ステップワークもいいし、パンチにもスピードがある。凄く強くなりましたよね。でもその戦闘竜を、瀧本はああいう形で追い込んでいって、最後の3ラウンドでは完全に戦闘竜の打撃を見切ってましたからね。逆に戦闘竜の顔が少し腫れ出して、鼻血も出ていた。瀧本は殴られてるようで顔も腫れてなかったし、パンチも当てていった。そういうところもジャッジは見ていたんです。だからド素人の観客が見ると「何で戦闘竜が負けたの？」って思うかもしれませんけど、よく分析して見ている人にしてみれば、決して不当なジャッジメントではなかったんですよ。

―帰ったらもう一度、ビデオを見直してみることにします（笑）。

堀辺 それにしても、もの凄い選手が『PRIDE』に来ましたね。彼は絶対に期待を裏切らないですよ。これは断言してもいい！

―将来的に打倒シウバもあり得ますか？

堀辺 間違いなく将来シウバを倒す日本人の一番手は瀧本です！ でも、周りは信用してくれないんですよね。5年くらい前、シウバが『PRIDE』に上がったばかりのころ、私が「コイツはチャンピオンになる」って言

帰ってきた 堀辺正史の 活字バーリトゥード講座

瀧本はこのまま行けば、間違いなく将来シウバを倒す日本人の一番手になれる！

っても誰も信用しませんでしたから（笑）。

——先生が「シウバは絶対に強くなる」って言ってたのって、まだシウバが大刀光のリザーバーだったころの話ですからね（笑）。

堀辺 あのころはまだグレイシーの闘い方がベストだと思われてましたけど、私は必ずシウバのような「打・倒・打」の時代が来ると思ったんですよ。だから「チャンピオンになる」って言ったんだけど、瀧本はシウバ以上に伸びます！

——そこまで素質がありますか！

堀辺 まさに彼は天才。彼が真剣に努力を重ねて、経験を積んでいったら、将来恐るべき選手になりますよ。一回目の闘いですでに、我々の期待を裏切らない選手であることが証明されたんです。試合では負けん気の強さ、冷静さも見えましたよね。相手の周りをグルグル回っていたのは、表面上は消極的に見えたかもしれないけども、あれも計算づくだったということです。相手の実力がどれだけのモノか測ってたんですね。

——試合の中で冷静に分析していたと。

堀辺 そしてやるときは思い切ってやるという負けじ魂もある。いくつかの相反するモノを上手く持ってる人間だなと。その部分の天才性も、私は二重に感じたわけです。恐らく多くの人はその部分に気付いていないんじゃないかなと思いますけど。

——多分、凡戦とか期待はずれという見方が多いと思います。

堀辺 恐らくそうですよね。でもこれからは、凡戦と見ていた人に「ああ、自分の見方が浅かったな」って悟らせてくれると思いますよ、瀧本自身が。

——瀧本選手自身、デビュー戦を闘ってみて、これから総合の練習に本腰入れるでしょうからね。

堀辺 それは間違いない。しかも「なめてました」って素直に言えるということは、自分の実力をありのままに評価している。何の飾りもない。そこには素朴さと科学性が両方混在している。ハッキリ言って私はそこに惚れましたよ。

——普通だったら「準備期間が短すぎた」とか言いますもんね（笑）。

堀辺 普通は言っちゃうんですよ。でも、それを一切言わないシンプルさが柔道家のいい部分で、同時に日本人のいい民族性が彼の人格の中に組み込まれてる。まさに日本の代表として相応しいんじゃないかなって思いましたね。だからこそ私が大晦日に一番印象に残ったのは瀧本だったんですよ。将来性、天才性、そして期待感が大晦日に出場したどの選手と比べてもズバ抜けていたんですよね。

——なるほど。ちなみに瀧本選手の以外で印象に残った試合はありますか？

堀辺 ………………。

——出てきませんか（笑）。

堀辺 瀧本みたいな選手が出てきて嬉しくなっちゃったから、大晦日の半分以上は記憶から抹消されちゃったんですよね（笑）。

——そうでしたか（笑）。

堀辺 試合前はヒョードルとノゲイラのどっちが強いんだろうという、試合に対する期待感があって、むしろ瀧本のことは頭にほとんど入ってなかったんですけど、彼の試合を見たら、もの凄く興味を持っちゃって、あとの試合が何だかわけわからなくなっちゃったんですね。もう一回ビデオを見ない限り思い出せない状態。そのぐらい瀧本の将来性に惹き付けられたんですね。

——では直後の吉田vsガードナーなどは……。

堀辺 すっかり忘れてます（笑）。目でも瞑って記憶を辿っていかないと出てこない。ガードナーが強かったということは覚えてるんですけど、それよりも日本人の中から素晴らしい戦士が出てきた喜びがあったんでしょうね。

——先生はそれをずっと待ち望んでいたわけですからね。

堀辺 柔道家がこういうリングにドンドン上がってきたら、日本は外国人に勝てるということをいつも言ってたんですよ。10年以上の時間は経ったけれども、吉田秀彦が風穴を空けたことによって、こういう流れができて、このままいけば、日本人が弱いというイメージを払拭してくれるような選手が出てきてくれると思うんですよ。『PRIDE』の将来を考えても、これまでは「桜庭がやられちゃったら、もう終わりじゃないか」っていう悲観的な将来性しかなかった。強い外人選手が試合するということは素晴らしいことなんだけれども、日本で開催していて日本人が勝てないっていうことは、興行自体にも翳りをもたらすんですよね。だからそういう角度からも、瀧本の出現は興行的にも素晴らしいことだなと思います。

——では、今年一番の注目は瀧本に間違いないと。

堀辺 私はもう断然、誰が何と言おうと瀧本！

——わかりました。瀧本選手の活躍に期待しましょう（笑）。瀧本選手バンザ～イ！

堀辺 バンザ～イ！（笑）。

【05年1月12日／都内・某所にて収録】

試合後、マイクを握り「今日試合をするまで、総合格闘技をナメてました。すみません」と頭を下げた瀧本。ほろ苦いデビュー戦がこの男をさらに強くするか。

『シベリア超特急5』公開直前企画！

ボンちゃんも乱入しまくり!!

捉ポルシェ

水野晴郎

ザ・グレート・サスケ

「ありえねー！」映画の"元祖"！

『シベ超』スペシャル対談

ポルシェ グレート・サスケ PG談（仮） Vol.6 with 水野晴郎

一部に熱狂的なファンを持つ「ありえねー！」映画の元祖『シベリア超特急5』が2月から劇場公開開始！　それを記念して、『シベ超』好きを公言するサスケと『シベ超』の監督そして主演も務める水野晴郎の対談を企画。司会は『シベ超』プレミア上映会の特別ゲストにも名を連ねている掟ポルシェ。ポルシェとグレートで、今回もPG談だーッ！

構成／松澤チョロ　撮影／丸山剛史
designed by nogu（Two three）

帰ってきた 堀辺正史の活字バーリトゥード講座

西田和昭（通称・ぼんちゃん。『シベ超』にも出演している水野先生の片腕的存在） ええとね、最初にお知らせしときますと、この本の発売日の26日の深夜に『シベリア超特急3』が日テレで放送されるんですよ。
サスケ あ、そうなんですか。でも、地上波初放送で、いきなり『3』っていうのも凄いですよね（笑）。
掟 超特急だけにすっとばしてきましたね（笑）。しかし『シベ超』もロングシリーズになりましたよね。
西田 『シベ超8』は面白いですよ！
掟 すでに『8』もあるんですか！
西田 間もなく『6・1／2』っていうのができるんですよ。
掟 また刻みますねえ！（笑）。
西田 夕張（国際ファンタスティック映画祭）でやるんですけど、まあそれは閣下（水野晴郎）のドキュメントみたいなもんです。閣下が死んだというとこから始まります。
掟 遂に死ぬんですか、閣下。
西田 小森のおばちゃまが迎えに来たかな（笑）。
掟 水野先生はおばちゃまと仲良かったですもんね。
西田 ですね。月1回、戸田奈津子さんとおばちゃまとの食事会をね、ウチの女房とずっとやってまして。毎月戸田さんと来てくれてね。おばちゃまが死んでね、ホント残念。あの人しかいないからね、マーロン・ブランドと寝た人は。
掟 菊池寛先生の愛人だったとか。
西田 そうそう。でもサスケさん、コルセットしちゃって、しばらく試合は無理ですよね。
サスケ そうですね。でも今月下旬から始まりますので、それまでにはなんとか。
掟 エ～ッ、間に合うんですか？
サスケ はい、間に合わせますよ！
水野 大変ですね、プロレスラーも。
掟 （同行したサスケの娘・メリッサちゃんに）いま、いくつ？
メリッサ 10歳。
掟 あのー、モーニング娘。とか興味ない？
メリッサ ない。
掟 いま新メンバー探してるんだけど、興味ないかなあ？
メリッサ ……………。
西田 キレイだよね。でも「お父さん似だね」って言えないんだよね、お父さんの顔見たことないから。
サスケ いやいや、これが私の素顔ですから！（キッパリ）
掟 この顔で県会議員トップ当選してますからね。
西田 国会議員になったら「取れ」って言われるかな？
サスケ 自民党政権なら言われますけどね、民主党に変わったら大丈夫です（またもやキッパリ）。
掟 そういうもんなんですか（笑）。
サスケ そういうもんです！
西田 強気ですねえ。今度ウチでも閣下党っていうの作ったんですよ。
水野 嘘ばっかり（笑）。
西田 そういう言い方ないでしょ。俺が1回でもホントのこと言ったことがありますか！
一同 ダハハハハ！
西田 じゃあ僕がいたら邪魔なんで、向こう行きますね（隣の部屋へ去って行くボンちゃん）。
掟 素晴らしい前説でしたね（笑）。
水野 ねえ（笑）。
掟 今日はよろしくお願いします！
水野 はい、よろしくお願いします。
掟 『シベリア超特急5』の公開に合わせて、『紙のプロレス』でも『シベリア超特急』を応援しようということで。
水野 ありがとうございます。
掟 で、プロレスラーの中で最も『シベ超』を愛しているサスケさんに来ていただきました！
水野 ホントに大変なところをわざわざね、お忙しいし体調も悪い中、ありがとうございます。
掟 ちょっと試合中に首を怪我されたみたいで。
サスケ そうなんですけどね、『シベ超』のためなら喜んで！ 監督との出会いはですね、『シベ超2』の試写会でお会いしたんですよ。そもそも、なんで試写会に私が行ったのかっていうとね、私、一般応募で当選したんですよ。
掟 「ザ・グレート・サスケ」って書いて応募してる時点で明らかに一般人じゃないですけどね（笑）。
サスケ 『シベ超1』を劇場では見れなかったんですけど、公開当時、浅草キッドとかね、みうらじゅんとかあの辺界隈が騒いでて。
掟 その段階ではまだ知る人ぞ知るぐらいの作品ですよね。
サスケ そう。そんだけ騒いでてね、そんなに凄いんだと思っててね。で、たまたまスカパーで拝見させてもらったんですけど、凄すぎてもう引っくり返っちゃいましたね。
水野 ハハハハハ！
サスケ あのどんでん返しのどんでん返し、裏のまた裏、サスペンスのまたサスペンスですからね。劇中劇がどこまで続くんだっていうね、劇中劇中劇中劇みたいなね。
掟 どこまで行ったらオチがあるんだと。
サスケ そうそう。で、それからインターネットでいろいろ調べてくうちに「パート2試写会観覧募集」っていうのを見て即応募して。そしたら「当選おめでとうございます」って返信が来ましてね。
掟 あっさり当たっちゃいましたね。
サスケ 試写会に行ったら隣がせんだみつおさんで（笑）。私も芸能人コーナーに座らせてもらって。で、「打ち上げもどうですか？」って関係者の方に誘われて。「いや、私は今日一般人として来てるんですから」って言いつつも、喜んで打ち上げまで出させてもらってね。そこで監督とご挨拶させてもらって。「是非、次回作は出させてください」なんてね、私の猛アピールが実を結んで舞台版の『シベ超パート007』に晴れて出させていただいて。それがきっかけで水野先生とは仲良くさせていただいてますね。
掟 その劇中で、水野先生と背格好のよく似たシベリアン・タイガー選手と共演をしたわけですね（笑）。
水野 夢の共演ですねぇ。
掟 その後シベリアン・タイガー選手は、新宿プロレスのリングに度々

PG
『シベ超』
スペシャル対談

コルセット姿が痛々しいサスケの背後に写っているのは『シベ超』、そして新宿プロレスのリングで数試合行なったこともあるシベリアン・タイガー！　撮影から数分後、水野先生が登場し対談が始まるとタイガーは2度と私たちの前に姿を現すことはなかった。残念！

『シベ超』とは何か？

ナンシー関、みうらじゅんをはじめ“その種”の人々を熱狂させた日本映画史上最大のカルト作。第二次大戦中の中国大陸を舞台にしたミステリーという枠組みなど実はどうでもよく、というより映画というジャンル自体の枠組みを破壊せんばかりの大胆な演出（ビター文動いているようには見えない列車上でのアクション、「私はあの男にボロ雑巾のようにされたのよ！」という台詞に、布を踏みつけるそのまんまなショットを挿入など）と、誰もが言葉を失う超ド級のどんでん返しが堪能できる。主演・水野先生の魔裟斗をも超えるスリリングな演技力も見もの。水野先生の部下を演じる準主役のぼんちゃんは『2』には出演せず破局説も流れたが、後に無事、復縁。また『3』は次男の不祥事で活動を休止していた三田佳子の復帰作だったが、実質上トドメを刺された感も。類似のバイブレーションを醸しだす作品に『北京原人Who are you』略称『ペキフー』がある。

（橋本宗洋）

上がられているようで。

水野　そのシベリアン・タイガーがロープをくぐれないっていう（笑）。

掟　別に「またぐなよ！」って言われたわけでもないのに（笑）。

水野　他のレスラーの方にロープを開けてもらって、やっとリングに上がれました（笑）。

掟　でも試合になると急に人が変わったように、もの凄いキレのある動きをしてたっていう。まぁ、実際に人が変わっていたような気もしましたけど。

水野　ハハハハハ！

掟　敵を欺く高等テクニックですね。で、その舞台版シベ超でサスケさんに出ていただいたわけですけど、いかがでした？

水野　演技者としても大変なもんですね。まず存在感がある。

サスケ　いやいやいや。

水野　存在感が凄いですよ。登場したとたんに観客席が「ウワーッ！」となるからね。それはサスケさんが有名だから当然なんでしょうけど、それ以上に圧倒しちゃうわけですよね、他の出演者を。他の役者さんが一生懸命カッコつけてやってるのに、お入りになっただけでそれを圧倒しちゃう存在感がありましたね。

掟　一気に空気感を変えて自分のものにしちゃうわけですね。

水野　そうなんですね。やっぱり天性のもんでしょうね。

掟　劇中でのサスケさんの役どころは？

サスケ　実はこれ私の悩みのひとつなわけですけど、私、映画に出させてもらうチャンスがある時に、いかんせん本人役しかできないんですよね、この顔ですから。この顔で他の役名をいただけるわけないし、この顔でたとえば弁護士とかお医者さんとかってあり得ないわけですよね。

掟　議員も十分ありえないですけどね（笑）。

サスケ　いやいや、議員はギリギリ大丈夫（笑）。ということで、一地方議員として、本人役で出させていただきました。総理大臣のパーティーの出席者の1人として。

水野　お祝いに駆けつけてくれるんですね。

サスケ　はい、岩手県議会議員のサスケということで本人役なんです。実は私、阪本順治監督の『傷だらけの天使』という映画に出させてもらったんですけど、その時もレスラー、ザ・グレート・サスケ役として出させてもらったんですね。私は議員とレスラー、2つの役しかできないですね。

水野　『シベリア超特急』というのは1941年が舞台なんで、役を用意するのが難しいんですよ。

サスケ　当時はこんな人いなかったでしょうからね。ミル・マスカラスでもまだ追い付かない、みたいな（笑）。

掟　水野先生、プロレスはどうですか？　試合観たりします？

水野　いやぁ、まったく観たことなかったですね。

掟　誰かレスラーの方と親交があったりっていうことは？

水野　ありません。サスケさんが初めてです。

掟　プロレス童貞をサスケさんに破られたわけですね（笑）。

水野　はい。サスケさんにいろいろと優しく教えていただいてます（笑）。

サスケ　いやいやいや（笑）。

掟　サスケさんはこないだの試合で頚椎やっちゃったってことですけど、水野先生も『シベ超5』の撮影中に骨折されてるんですよね。

水野　だから他人事じゃないですよ。ボクも6ヶ所骨折しましたからね。

掟　6ヶ所って、それ重症じゃないですか！　なんでまたそんなに派手に骨折したんですか？

水野　アクションシーンの撮影でなんですけどね。要するに僕は自分をジャッキー・チェンだと思ったんです。

一同　ダハハハハハ！

掟　ヤクザ映画観た後の客が肩で風切って劇場から出てくるみたいな感じですね（笑）。

水野　「こりゃできるな」と思ってね、実際アクションやってみたらすってんころりんでね（笑）。

掟　どういうアクションシーンなんですか？

水野　列車からね、バーンッて飛び降りるような感じのね。

掟　そりゃ骨折しますよ！

水野　しますよね。それが下で補助してくれる相手にうまくつかまれないで、すってんころりんやっちゃって。

掟　ずいぶん派手なすってんころりんですねえ（笑）。

水野　折れた瞬間はそんなに痛くはないんですね。それで、まあ大丈夫だろうなんて思ってたんですけれども、周囲が心配してくれて「とにかく病院行ってレントゲン撮れ」って言うんで、行ったらなんか骨折してました。そのお医者さんもいい加減で（笑）。「これはもうちょっと詳しくどっかで調べなきゃダメですよ」と。どっかでっちゅうこともないと思うんだけど（笑）。

掟　「ウチじゃ無理だからよそへ行け」ってことですか？

水野　某大病院ですよ。

掟　大病院なのに手におえない、と。

水野　そうですね。撮影が始まって1週間ぐらいでやっちゃったんですけど、休むわけにいかないし。

掟　それは撮影スケジュールに響きますよね。

水野　うん、もし私が休んだらパーでしょ。役者さんも押さえてるし、スタジオも押さえてるし。だから毎日我慢して。っていうか、意外に痛くなかったんですね。

掟　予定通りにクランクアップ出来ないとお金がかかって別の意味で物凄く痛くなりますからね（笑）。

水野　ねえ。陥没骨折っていうんですかね、脊髄の。で、ドンドンドンッと4つやって。で、手首や肩の骨なんかも折れてましてね……。

【隣の部屋で話を聞いていたボンちゃんが乱入】

西田　詳しく説明しますと……。

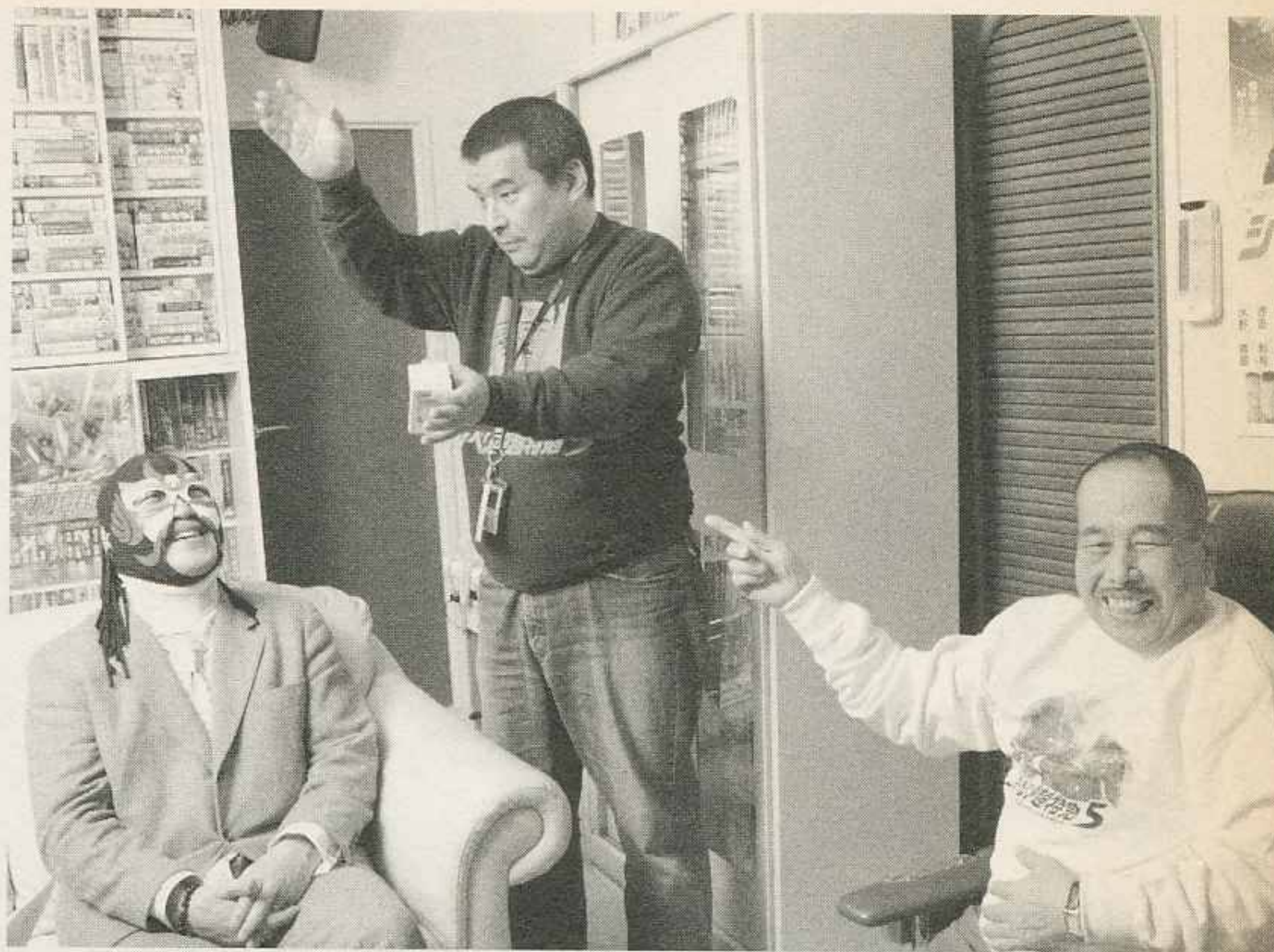
水野　いいよ、お前は（笑）。

西田　ちょうどその時、隣のスタジオで『血と骨』の撮影やってたんですよ。だから、崔（洋一）さんかたけしさんがやったなと思うんだよ。

掟　陰謀説ですか（笑）。

西田　陰謀です。これはハッキリ言いまして、マイク水野を狙ったんです！

掟　ぼんちゃん得意の無茶な推論

が出ました（笑）。

西田　たけしさんにスタジオの中でお会いしたとき、「軍服ってことは……もしかしたら『シベリア超特急』の撮影か？」って聞かれましてね。「何弾目だ？」「5弾目です」って言った瞬間にたけしさんが「（たけし口調で）早く誰か止めろ、バカローッ！」って。

一同　ダハハハハ！

掟　たけしさんが止めたってことですね、力ずくで。

西田　そういうことです。あとですね、閣下が入院してる時に「水野晴郎死亡説」が映画界で流れまして。

掟　それボンちゃんが流してるんじゃないですか？（笑）。

西田　閣下はもう試写室に行けないぐらい弱ってるんだ、と。おばちゃま以上に閣下が危ないという話だったんですよ。

水野　確かに撮影が終わってからは危なかったですね。ようやく終わったと思って、撮影終了の明くる日は1日休んだんです、もう何も考えないで。で、適当に片付けやなんかして。で、その次の朝、ボクの事務所兼自宅のここに社員が出社してきたんですね。そしたら僕がベッドから落ちて気絶してたの。

西田　惜しい！　あともう少しだったのに！

一同　ダハハハハ！

水野　お前が一番に来てたらな、蹴飛ばしただろうな。

西田　いやぁ、閣下はやっぱり不死身ですね。

水野　それで僕は救急車で運ばれてね。即、3ヶ月入院。で、他は悪くないかってことで、CTから何から全部かけてもらって。

西田　一応気がついてるんですよね。倒れてるとこでみんなが「救急車だ！」って言ってる中で僕が「霊柩車だ！」って言ったらね、閣下が「バカ、救急車にしろ」って。これじゃお迎えはまだだと思いましたね、その時。でも映画は命削らないとできないんです。

水野　映画もそうだしプロレスもね、そうですよね。

西田　ポルシェさんも削ってますもんね、だいぶね。

掟　面白コラム書くのにあまり命は削らないんですけど（笑）。

水野　それで3ヶ月入院して、それからまた3ヶ月ウチで寝てたわけですね。で、そのお陰で30キロ痩せましたよ。

掟　ホントに重症だったんですね。

水野　ほとんど食べられないんですもん。喉を通らないんです。でも、事故前は体重が100キロ近くあって、ちょっと太りすぎだったんですね。だから丁度良かった。

掟　骨折ダイエットですね（笑）。

水野　そうですよ、ホントに（笑）。

掟　たぶん撮影してらっしゃる最中は、身も心も山下閣下になってらっしゃるんじゃないですかね。だから痛みにも耐えられるんでしょうね。

水野　そうですね。だと思います。

西田　あの～、閣下の場合はですね、脊髄圧迫骨折だったんですね。レントゲン写真を見て医者が一言「ヤバいな」と。「脊髄が飛び出て神経に触るとヤバい。脳にまで影響がでる」って言うんで、「いや、脳はもうとっくにヤバいんです」って俺は言ったんだけど。

水野　後で聞いた話ですけど、体に痣が出来てたんですね、いくつか。アクションの失敗でついたものでしょう。でも、「これはどうしたんですか？」ってお医者さんに聞かれて、僕はそのときにね、「相撲を取っててやりました」って言ったんだって（笑）。なんでそんなこと言ったんだろう？

一同　ダハハハハ！

水野　全然わかんないんだけど。もう覚えてないんですよ。だからみんな側にいて大笑いしたって。お医者さんも笑ってて。

掟　無意識のうちに「ごまかさなきゃ」って思ったんですかね。

西田　それはもう、お迎えが来てるってことですよ。

水野　ボクももうダメだなぁ。

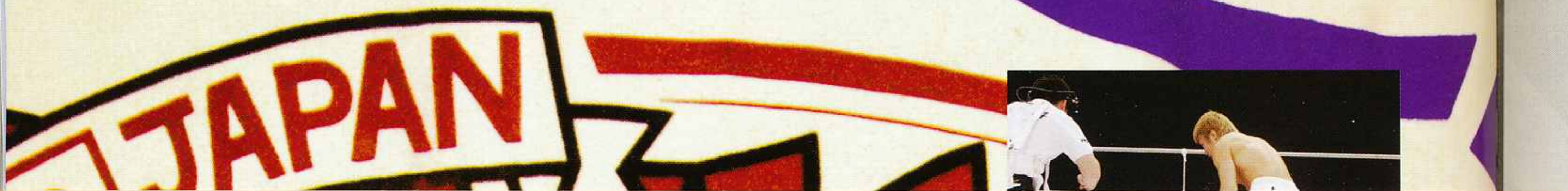
掟　いやいや、『シベ超』はまだまだ続けていただかないと。

西田　だから『シベリア超特急6・1/2』はその辺の映像も交えて、セミドキュメンタリーで始まるという形ですね。で、今度は『シベ超8』ですね。7月の中旬に舞台で。これは凄いですよ。時空を超える『シベリア超特急』！

掟　それじゃ『銀河鉄道999』じゃないですか（笑）。

西田　いやいや。実は銀河鉄道の話もあったんですよ。閣下は松本零士さんと仲がいいんでね。前にシベ超ファイナルはどういう作品にしようかって話をしてた時に、「松本零士の絵でアニメになったシベ超が空を飛んでくっていうのはどうだろう」って言ったら、インターネットが爆発するぐらい『999』のファンから書き込みがありました。「それだ

油断していると、隣の部屋から突如現れ喋るだけ喋ると、どこかへ姿を消す、ぼんちゃんこと西田和昭。水野先生との掛け合いは、その辺の漫才師より遥かに面白い。

たけしさんに『シベ超5』撮ってるって言ったら「誰か止めろ、バカヤロー！」って（ぼんちゃん）

けはやめてくれ」と。
一同　ダハハハハ！
西田　松本零士さんは「いいよ」って言ってるのに。
掟　作家が「いい」って言ってるならいいじゃないですか。
西田　そうですよ！　俺が「バカ野郎、そこまで言うんだったら閣下がメーテルになるぞ」って書き込んだ瞬間にインターネットがピシャッと止まりましたからね。実は今度の『シベ超8』というのは、『シベリア超特急』の撮影チームのスタッフが出演する映画なんです。主役はシベ超スタッフに入って1年目の初めて映画を作る制作のお兄ちゃんですね。カメラマンが「お前、初めての映画が『シベリア超特急』か」「はい」「可哀想にな」って、そっから始まってくわけですね。で、初めてモスクワロケに行くという。
掟　やっと『シベリア超特急』がシベリアに。
西田　トンネルの中で起きた地震がきっかけで、なんと時空を超えて、本物の山下閣下に水野先生が会ってしまうという。実はそこで何者かに山下閣下が殺されちゃうんですよ。誰が閣下を殺したんだということで、水野先生がそれを紐解いてくわけですよ。山下閣下がホントに残していった血だらけの手帳を水野先生が読んで、「俺が山下になる」と言い始めるんですね。
掟　ついに水野先生がホントの山下閣下に！
西田　ええ。「バカなこと言うんじゃない。映画評論家がそんなのになれるわけないじゃないですか！」って言うんですよ。で、僕が列車に乗って元の時代に帰ろうとすると、「ボンちゃん、君には金貸してるよね」って閣下が言うわけですよ。
掟　だから、お前もこの時代に残れと。

西田　そういうことです！　では私、口下手なんでこの辺でまた失礼します（隣の部屋へ去って行く）。
一同　ダハハハハ！
水野　またすぐ絡んで来るよ、たぶん。
掟　そういえば『シベリア超特急・痴漢電車』っていう番外編も既に完成してて、それにサスケさんが関わってるという話を聞きましたが（笑）。
水野　なんだっけな、題名が変わったんですね。『欲望電車』に。
掟　さすがに議員さんが『痴漢電車』に出てちゃマズい、と（笑）。
サスケ　そうそうそう（笑）。でも、友情出演でチョイ役程度出てるだけですよ。で、これの主演がつぼ原人！
掟　今度は原人が登場ですか。またた派手にタイムスリップしましたねえ（笑）。
【隣の部屋からボンちゃん登場】
西田　呼びました？　これはね、僕が監督でね。なんで『痴漢電車』ってタイトルなのかっていうと、たまたま閣下が昔、総武線で通ってらっしゃったんですね。「総武線は人がいっぱいいてさ、昔はボクもよく触ったもんだよなぁ」って。
掟　閣下、痴漢してたんですか！（笑）。
西田　ホモ説を守ってる我々としてはね、世間のイメージを裏切ってはいけないんじゃないかと。ところが、ある時ですね、我々が洒落で『痴漢電車』のポスターだけ作ったんですよ。それをね、田中という新宿プロレスのとんでもないプロデューサーが見て「ぜひ作品にしたい」と。
水野　俺、怒ったんですよ。
西田　そりゃそうですよ。痴漢電車なんてもってのほか！　なので「じゃあどうだろう、『縛り屋超特急』っていうのは？」って代案を出しと

チラシの数まで「ありえねー！」
『シベ超』チラシコレクション

こちらにズラリと並べたのが『シベ超５』のチラシ。
左の２枚は公開が決定しているアメリカバージョンだ。
グッズ製作にも異常に力を入れているのが『シベ超』。
今回、『紙プロ』でもTシャツ等、素敵なプレゼントをたくさんいただいたので読プレページをチェック！

きました。
掟　ダハハハハ！　広げてどうすんですか（笑）。
西田　で、とりあえずできたんですね、これが面白い作品で。
水野　面白いけどいいよ、あんなの（吐き捨てるように）。
掟　上映はするんですか？
西田　これからします。でも、その前に『5』があるんで、『5』が終わってから。
掟　たぶん『紙のプロレス』の読者なんか、真っ先にそれが一番見たいと思いますよ（笑）。
西田　主演がつぼ原人ですからね。
それも新宿プロレスのリングの中で、勝った人間が主役っていうんで決めたんですから。しかし、つぼ原人っていうのは実際つらかったですね。しゃべらないから。
サスケ　セリフが全部「グワッ、ワ

『シベ超』スペシャル対談

喋るだけ喋り倒して隣の部屋へと戻っていくぼんちゃん。時には軍服姿に着替え何事もなかったかのように話の輪に加わってくるのだ

ーッ！」で（笑）。

掟　『シベ超』と並ぶ日本の名画『北京原人』みたいですね（笑）。

西田　あれはつらかったですねえ。でも素晴らしいのができましたね。僕、口下手なんでこの辺で失礼します（隣の部屋へ戻って行く）。

一同　ダハハハハ！

水野　まただよ。参ったなあ……。でも実際にね、『シベリア超特急』のファイナルはね、大ロマンをやるんです。

掟　大ロマン！

水野　閣下が実は若き頃、オーストリーの武官だったんですね。その時に若い女性と恋をするわけですね。

掟　ラブストーリーですか。

水野　そう。実際にあった話をいただいて。ところが日清戦争が始まって、日本に帰らなきゃいかん、と。で、彼女に言おうと思うんだけども連絡がつかない。それで別れるわけです。ウイーンの駅で彼が待ってると、そこで列車が発車したとたんにホームに彼女が入って来るというね、別れをしちゃうわけです。それから約20年経った後、今度はシベリア超特急で山下閣下が今度はモスクワから帰ろうとして、そのときの同じ列車で再会するわけですよ、その女性と。ところがその女性はその時、閣下に対して拳銃を向けるんです。

掟　また閣下は命狙われてるんですか。

水野　そう。というのは、お父さんがユダヤ系でナチに捕まってて、「山下を殺せばお父さんを収容所から出してやる」という確約をもらって、「どうしてもあなたを殺さなきゃいけない」と言うの。「撃ちなさい、私の命で助かるならば撃ちなさい」と言うんですが、彼女は撃てないの。そのうち、今度はソ連に誘拐されちゃうんです、彼女が。で、列車から騙されて降ろされちゃうわけ。その降りた時に彼女が彼に合図するんですよ。合図して、そのまま連れ去られる。なんとかして助けなきゃいかん、と。でも列車は発車する、帰らなきゃいかん。その中でどうやって彼女を助けるかということになるわけです。それでまあ、最後はハッピーエンドになるわけですけどね。だから若い頃の山下、若い頃の彼女、これをどうするかってことがいまの問題なんですね。僕じゃちょっと若い頃はやれないんで。

【どこからともなくぼんちゃん乱入】

西田　いや、できますよ、閣下。……あれ、皆さんまともにいまの話を聞いたんですか？

一同　ダハハハハ！

西田　そうはならないのが『シベリア超特急』ですよ。

水野　なるよぉ！　今度はなるよ。

西田　ハンパじゃないですから。閣下、現場でガンガン変えちゃうから。

水野　あ、それはありますよ、確かに。

西田　たぶんね、大変な女優さんが出ると思います。

水野　日本で最高の女優さんね。

サスケ　でも先ほど先生はファイナルっておっしゃってたけど、ファイナルっていうのも淋しいですよね。

水野　また作るかもしれませんけどね（笑）。

掟　『シベリア超特急』は寅さんの記録を塗り替えて、『釣りバカ日誌』の記録も塗り替えて、世界最高峰の最長シリーズにしてもらわないと。

水野　ハハハハ！　少なくともね、『ロッキー』は破ったでしょ。『ランボー』も破ったね。

掟　スタローンばっかりじゃないですか（笑）。

水野　いや、あとは『ロード・オブ・ザ・リング』も破った、『スターウォーズ』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』も破った。

サスケ　ずいぶん破りましたねえ！（笑）。

西田　（メリッサちゃんが持っていたサスケの長男が表紙の『ＰＯＰＥＹＥ』を取り出し）閣下、これサスケさんのジュニアだって。

水野　え、こんなに大きいの？

西田　カッコいいなあ、これ！　閣下ちょっとこれ持って。「こいつは俺のもんだ！」って言ってくださいよ。

一同　ダハハハハ！

西田　閣下お気に入り。でも、カッコいいなあ！　『ポパイ』の表紙だよ！　閣下もそこまでなったことないよ。我々は『さぶ』とかその辺だから。

掟　ホモ雑誌であからさまに表紙になってどうするんですか（笑）。

西田　一度、ホントにお願いしたんですよ。

掟　それって、ボンちゃん的にはＯＫだったんですか？

西田　うん、ＯＫ。夕張映画祭にホモ雑誌の人が取材に来たの。もう夕張映画祭のインタビュールームは大変よ。周りにいる人、みんな耳ダンボになって。

掟　なかなか面と向って聞ける話じゃないですからね（笑）。

西田　で、『シベリア超特急』の話が終わった瞬間に、編集長が「それでぇ、水野さんとボンちゃんはどういうご関係なんでしょう？」って言うから、「そうですね、朝お茶を入れますね。そのときに閣下の目を見ます。そうするとすべてがわかるんですね」「まあ、素晴らしい！」とか言われてね。「いいですか？　もう肉体とか精神を越えたものなんですね。わびさびの世界……まあ、利休の世界とでも言いましょうか」って言ったら「まあっ！」て話になっちゃって。もうドッカンドッカン（笑）。「いま水野先生、何なさってるんでしょうか？」「いまちょうど小説書いてます」「えっ、水野先生が小説？」「『銀閣寺』という小説を」って。わかってる人はみんな笑うんですけど。

掟　三島由紀夫の『金閣寺』に対抗して（笑）。

西田　そうそう。だから三島由紀夫に『盾の会』っていうのがあったように、水野晴郎に『ヨコの会』っていうのがホントにあるんですよ。

掟　どこまでホントですか、その話（笑）。

西田　いやいやホント。全国にメンバーがいますよ。で、取材が終わった後に「実はボンちゃんをうちのグラビアで使いたい」って言われて。

水野　裸でね。

西田　いや、フンドシで。

掟　それ実現したんですか？

西田　やろうと思ったんですよ。やろうと思って、ただ俺は普通のヤツは嫌だから軍刀を持ってフンドシでやりたいって思ったんですよ。三島由紀夫は締まってたけど、俺のタプッとしたこの体でね、デブ専好みの。

掟　一部にニーズはあるでしょうね（笑）。

西田　電話で打ち合わせして、『憂国』ってタイトルでやろうと思ったんですけど、またいろいろと問題になるだろうってことで、平仮名で『ゆうこく』で。末期三島先生と同じスタイルで撮りたいってことで、尊敬してますんで。そしたら写真家が「すいませんけど、ボンさんはあっちですよね」って真剣に言われたんですね。「ごめんなさい、ホントは違うんだよ」って言ったらね、問題があるんですよ、電話で。「ダメですか？」って言ったら「でも本番ではちょっと大きくしてもらって」って言うから「大丈夫ですよ、さすってくれれば」って言ったら、それ以来電話がないんですよ。

掟　本物じゃないと嫌なんですかね。

西田　っていうかね、水野晴郎ほどスケベな親父いないですから。銀座で3軒女に店やらせたんですよ。

サスケ　それは凄い！

西田　それでモーホーはないでしょ。本物のモーホーが怒りますよ！　あの世で淀川先生も怒ってますよ！

掟　今、さりげなく淀川先生の素性が……。

西田　ホテルなんかで先生が講演会やると、スイートルームのちょっとデカいような部屋で、お付きも同じ部屋なんですよ。ウチのダンキチ

PG 『シベ超』スペシャル対談

映画評論家や映画監督だけではなく、様々な顔を持つ水野先生。他にもアメリカンポリス研究家として、実際にアメリカの警察学校で研修を受け予備警察官として現場に出て、銀行強盗逮捕の現場にも立ち会ったことがあるという。こちらが警察手帳の数々だ

これがサスケさんのジュニアね。閣下、「こいつは俺のもんだ！」って言ってください（ぼんちゃん）

（水野先生の付き人）なんていうのがよくマネージャーとして同行するんですけども。そうするとカウンターでホテルマンが鍵渡すときに恐る恐る渡すわけですよ。ダンキチはそれで「どうしたらいいんでしょう？」って言うけど、俺なんか小指立ててしっかり取りますからね。

掟 ダハハハハ！ 期待裏切りませんねぇ！

西田 3歩進んで振り向いてウインクしますからね。

一同 ダハハハハ！

西田 もう朝のカウンター、騒然としてて最高ですから。こんな楽しい話ないですよ。

サスケ 昔、飛行機の中でハードゲイの話をお2人でしてて、スチュワーデスがそれを聞いて、そこから広まったって説もありますよね。

西田 いや、これ実はですね、ある役者がですね……。

水野 この機会に言っちゃえばいいじゃん。

西田 いや、言わない。あのね、リチャード・ギアがね、ハツカネズミをお尻の穴に入れて、それが出なくなって、それを取るのに病院に行ったらね、ナースがそれしゃべっちゃったわけですよ。その噂を聞いた閣下がまた日航のスチュワーデスにしゃべってたんですよ。

一同 ダハハハハ！

西田 それがどういうわけか、「水野晴郎がお尻にハツカネズミを入れて取れなくなった」という話で間違って伝わっちゃって。

掟 「水野さんならない話じゃないな」と（笑）。

西田 それを松方弘樹さんが聞いちゃったわけ、スチュワーデスと寝物語かなんか知らないけど、それでブワーッと広まったわけですよ。それ以前に、僕にも責任がなきにしもあらずなんですけどね。2丁目で飲むでしょ。「（小指を立てて）水野さんってこれ？」なんて聞かれるとさ、いちいち説明するの嫌じゃない？だから「パパの悪口言うのやめて！」なんて言ってたから。

一同 ダハハハハ！

西田 でもいいじゃないですか、世間が「ホモだ」って言うならホモになりましょうよ。

サスケ ある意味都市伝説ですよね。

西田 この話はね……すいませんね、口下手で。

一同 ダハハハハ！

西田 「なんで俺が尻にハツカネズミなんだよ！」って、俺が怒られちゃってさ。

水野 ホント、あれには参ったね。

西田 松方さんがもしこの本を読まれたらですね、「水野じゃないんだ」って言ってやってください。

掟 松方さんのとこに今月号送っときます、誤解を解くように（笑）。

サスケ 何年か前に『ろみひー』っていう日テレの深夜番組で、水野先生が小指立ててる写真とかね、わざと公開してたじゃないですか（笑）。あれおかしかったですよ。

掟 それはボンちゃんプロデュースなんですか？

西田 いや、「だったらそうなりましょうよ、先生」って常に。美学ですよ、これ男の。プロレスだってそうでしょ、男同士の肉体の絡み合いというか。

掟 確かに裸と裸でぶつかり合いますからね。

西田 そういう意味ではもの凄い美学ですよ。だからいろんな見方がありますよ、『シベ超』は。だから『シベ超』で地方に行くと、必ず男同士で手つないで見てる人いますから。また目が合うんですよ、そういう人たちと。

掟 じゃあS・Kさんとかにも見てもらいたいですね。「プロレスは鍛え上げた肉体と肉体のぶつかり合いが素晴らしい」って言ってるんですよ、Kさんは。

水野 ああ、そうなんですか。

西田 危ないですねぇ。サスケさんはそんな思いしたことありません？

サスケ でもホモのレスラーと当たったことありますよ、何度も。

掟 それは自分の団体の選手じゃないですよね。

サスケ いや、かつて自分の団体だった。

掟 数名に絞られました（笑）。

西田 やっぱ違います？

サスケ たとえばボディースラムなんかで下から掬い上げる時に、どうしても股間に当たっちゃうんですよね。でも普通だったら別に自然なんですけど、そのホモのレスラーと当たると、やたらソフトに握るんですよ。「なんだろうな、このソフト加減は？」みたいな（笑）。

掟 ボディスラムとマッサージがワンセットみたいな（笑）。

サスケ そうですね。で、こっちも試合中だからヘタに抵抗できないんですね。タマキンは相手の手の中にあるわけですからねぇ。だからもうなすがままって感じで。

掟 で、後ろの処女は大丈夫だったんですか？

サスケ 私は大丈夫でしたけど、若いのがだいぶ餌食に。

掟 うわー、悲惨だなぁ。それ、断れないんですか。

サスケ 断れないですね。絶対服従の世界ですから。

西田 ああ、ウチと一緒だ。

水野 何言ってんだよ！（笑）。

掟 以前、元女子プロレスラーのグリズリー岩本さんに話聞いた時には、女子の選手は上の選手から電話がかかってくるんですって。

サスケ 呼び出しだ。「来い」と。

掟 でもそれは自由恋愛なんで断っていいそうです。

サスケ 男子は断ってはいけないですよ。だから「どうしましょう？」って相談が下の人間から私のとこに来たことありますよね。その「どうしましょう？」っていうのも、当時私はわかんなかったんですよ、なんのことか。だって「悩みごとは何なんだい？」って聞くと「それだけは言えません」ってみんな言うから。

掟 ハッキリ言えないけども、「あの選手の名前言っただけでわかってくださいよ」って世界なんですか。

サスケ うん。で、後々そういうこ

なんと『POPEYE』2月号の表紙をパリコレへも出演経験のあるサスケ・ジュニアのアンドレス君がゲット！ 表紙だけではなくモデルとして誌面に登場しまくりなので要チェックだ！

元祖「ありえね～」映画、それが『シベリア超特急』です!! 間違いない!!（サスケ）

とに気付くんですよ。その時はわからないんですよね。相談ごとに来てるのに「それだけは言えません」って、意味わかんなくて。「察してください」って言われても、察することできないから、何もわかんないんだから。

掟 若手選手はすべて捧げなきゃいけないんですかね。

西田 縦社会ですからね。

掟 以前、某破壊王が大阪のテレビに出た時に、その辺の話を新日本プロレスの内部事情として話してたんですけど、M・K選手がシャワー浴びてたら、後ろでガチャッて鍵が閉まった音がして、そういえば鍵閉め忘れてたなって思って後ろを見ると、そういう噂のあったS・Kさんが素っ裸で仁王立ちしてたらしいんですよ。

一同 ダハハハハ！

掟 相当怖かったらしいですよ（笑）。でも「すいません、ホントそれだけは勘弁してください」って土下座して言ったらS・Kさんは心根の優しい人なんで、「しょうがないな」って許してくれたらしいですけど。

西田 俺もね、水野晴郎事務所に入った時点でそういう噂があったんで、「お前大丈夫か？」って言われたんですよ。で、アメリカ行ったんですよ、先生と一緒に取材で。そしたらツインなんですよ。

掟 ダブルじゃなくて良かったですねえ（笑）。

西田 いや、1回ダブルもありましたよ。

水野 ないよ！（笑）。

西田 モーテルであったじゃないですか。その時「しまった！」って思ったんですよ。で、人に相談したんですよ。「どうしよう、もし水野先生がそっちの人だったら」って。「大きいウンコしたと思って諦めろ」って言われたらどうしようって。

掟 ウンコだったら出たきりで入って来ませんけどね（笑）。

ざ・ぐれーと・さすけ■1969年7月18日、岩手県盛岡出身。みちプロのエースにして岩手県議の顔を持つという、史上初の覆面議員。レスラーなのにUFOへの造形がやたら深い。負傷中のサスケに付き添ったメリーさんと愛娘メリッサちゃんは、小さい頃の『紙プロ』NO.18にも登場している。ちなみにメリッサちゃんは当時1歳！

みずのはるお■1931年7月19日生まれ。映画批評家、監督、作家、警察学・芸術学博士と数多くの肩書きを持ち、書籍出版は約30冊に及ぶ。父は軍人で自身も陸軍に入隊。終戦後、公務員→20世紀フォックス宣伝→日本ユナイト映画・宣伝総支配人を経て39歳で映画番組の解説者に指名され独立。以来、映画批評家として活躍中!!

西田 正直に言いますよ。初めて先生と同じ部屋だった時ね、寝られなかったんですよ。

水野 嘘つけ！（笑）。

西田 先生が寝返り打つ度にドキッとして寝られないんですよ。そういう俺も……もしかしたら待ってたのかもしれないですね！（頬を赤らめる素振りで）ポッ。

一同 ダハハハハ！

西田 口下手で申し訳ない。

水野 もういいよ、お前！

西田 え、もう眠い？ 閣下、口数が少なくなったんですけど、大丈夫ですか？

水野 お前がしゃべりすぎなんだよ！（笑）。

西田 すいませんね、いろいろと。

掟 では水野先生も眠くなってきたということで、最後に、『シベリア超特急』の魅力をサスケさんから読者の方々に伝えていただきたいと思います。

サスケ そうですね……最近私が映画で宣伝に絡んでるのは『カンフーハッスル』なんですけどね。『カンフーハッスル』は「ありえね～」っていうのがキャッチコピーですけど、その「ありえね～」というところを10年も前から『シベ超』はやってきたわけですから。

掟 ありえないことだらけで構成されてる映画ですからね（笑）。

サスケ だから、元祖「ありえね～」、これが『シベ超』だ、と。

掟 日本には昔からこんなに素晴らしいありえね～映画があるんだ、と。

サスケ うん。で、やっぱりね、反戦映画なんだけど、押し付けがましくない反戦メッセージですよね。で、ホントに見終わった後に優しい気分になれる映画かな。

掟 水野先生演じる山下閣下の人柄が全面に出てますからね。

サスケ あとはね、劇場版でも舞台版でも両方そうなんですけど、女性ファンが多いんですよ。でね、水野先生が出るシーンでキャーキャー言うんですよ、女性ファンが。これポイントですね、うん。だからもっともっと『シベ超』ファンは拡大すると思います。

掟 その水野先生の映画にサスケ選手が出ることによって、その女性ファンを一気にみちのくプロレスに呼びたいですよね。

サスケ そうですね、うまくリンクさせてもらえれば嬉しいですね。

掟 みちのくプロレスを見てらっしゃる方も『シベリア超特急』見に行っていただいて。

水野 うん、そうなるといいですね。

サスケ あとは、是非また出させてください、お願いします！ 本人役しかできないんですけど（笑）。

水野 わかりました。いろいろ考えておきますんで、またよろしくお願いします！

西田 『6・1/2』も凄いですけど、『シベ超8』はサスケさんもポルシェさんも出るということで、ひとつよろしくお願いします！

サスケ・掟 是非お願いします！

【1月13日／都内・水野晴郎事務所にて収録】

『シベ超祭り』

■日時　1月29日（土）
■会場　東京・新宿シアターアプル
■チケット　3000円（当日3500円）
11:30　開場
※『シベリア超特急』1,3,4,7の新編集と、初公開『シベリア超特急6』を一挙マラソン公開！

『シベリア超特急5』ワールドプレミア上映会

■日時　1月30日（日）
■会場　東京・新宿シアターアプル
■チケット　3000円（当日3500円）
■昼の部　※特別ゲスト **掟ポルシェ**
12:00　開場
13:00～トーク
14:00～『シベリア超特急5』上映
15:35～舞台挨拶
■夜の部　※特別ゲスト **大槻ケンヂ**
18:00　開場
18:30～舞台挨拶
19:00～トーク
20:00～『シベリア超特急5』上映

『水野晴郎・西田和昭の暴露映像』

■日時　2月6日（日）
18:30～21:00（開場18:00）
■会場　東京・新宿シアターアプル
■チケット　3000円（当日3500円）
■イベント内容 ※特別ゲスト **みうらじゅん**
・ボンちゃんのコント映像
・閣下の若い若い郵便局員時代、ハリウッドスタアとの写真
・アメリカンポリス時代の秘蔵映像

『シベリア超特急5（完全版）』劇場公開

■日時　2月11日（金）～
■会場　東京・新宿ピカデリー
■HP　http://www.mizunoharuo.com/

男祭り大奮闘
武士道
大刮目

『武士道』の“スーパースター”が本誌初登場!!

中軽量級屈指のストライカー・パルヴァーを打撃でKO!!

『武士道GP』73キロ以下の主役は、この男だ!!

五味隆典

［木口道場レスリング教室］

『武士道』シリーズの顔といえば、この五味隆典だ。大晦日『PRIDE男祭り』では、“中量級世界一決定戦”と呼ばれたジェンス・パルヴァー戦をKO勝ちでクリア。今年開催が予定されている『武士道GP』は、83キロ以下と73キロ以下に分けて実施されるが、五味が73キロ以下の主役になることは間違いない。本誌初登場となる今回は、五味の闘いへの姿勢を深く掘り下げた。

聞き手／橋本宗洋　構成／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　designed by hisa (Two Three)

——まずは大晦日、『男祭り』でのパルヴァー戦大勝利、おめでとうございます。

五味　ありがとうございます！

——会心の勝利でしたよね。

五味　自分のベストバウトになるんじゃないかと思います、はい。まあ、自分の場合は過去の試合をどんどん忘れていっちゃうんですけど（笑）。現時点ではベストな試合ができたと思います。

——勝利後のマイクで「最高です！」っていうのは恒例になってますけど、やっぱり巨人ファンなんですか？

五味　いや、あれはこっちがパクられたぐらいの気持ちで（笑）。

——なるほど（笑）。パルヴァー選手は打撃に定評があるんすが、それでもあえてパンチ勝負にいったのには驚きましたよ。まあ五味選手もパンチは得意なんですけどね。

五味　ずっとボクシングやってるんで。で、試合の一週間半くらい前の練習で、道場の先輩からダウンを取れて、「ここまでやれたら誰にも負けない！」って言ってもらえたんで。

——あの試合のテンポは完全にボクシングでしたもんね。

五味　そこが総合っぽくなくて面白かったって言ってくれる人もいますね。

——実際、スピード感とスリルは抜群でしたよ。また『男祭り』という舞台と、パルヴァー選手という相手、正直、どっちも相当重かったですよね。

五味　たしかにデカい舞台でしたけど、オープニングに出てみて、だいぶに気にならなくなりましたね。一年間、目標を立ててやってきましたし。パルヴァーに関しても、早い段階からお話をいただいてたんでしっかり準備できました。

——一年間の目標というのは、最終的に大晦日に出ようという？

五味　そうですね、はい。

——ボクは五味選手を『SRS・DX』という雑誌でも取材させてもらったことがあるんですけど、それはちょうど修斗でヨアキム・ハンセンにプロ初敗北を喫した直後だったんですよ。

五味　あ〜、あの頃はもう、どうしようもない時期でしたね。修斗に慣れてきてしまったっていうところもありましたし。「自分をもっとアピールしなきゃ」と思いつつ、行き詰まりも感じてたというか。試合のタイミングも開いて、自分の調子とかみ合わなかったっていうのもありますし。調子自体はよくて、23（歳）から25ぐらいのときって誰にも負ける気しなかったんですけどね。

——そういう時期に限って試合が少なかったと。まあ修斗のチャンピオンだったわけですから、相手選びも難しかったんでしょうけどね。

五味　（佐藤）ルミナさんに勝つためにずっとやってきて、だけど勝ったあと、その貯金を使い果たしちゃったみたいな感じもありましたね。貯金っていってもお金のことじゃなくですよ（笑）。

——え？　ああ、わかってます（笑）。で、そこから昨年2月に『PRIDE武士道』に出るようになって、『男祭り』まで5試合連続1R勝利ですよね。そこで思うのは「なんでそんなに急に変わったの？」ってことなんですよ。

五味　はいはい。

——まあ通の人たちとか、いわゆる格闘技専門誌の人たちなんかは"五味は元修斗のチャンピオンだし、もともと能力はあった"って思うのかもしれないですけど、何か決定的な変化があったんじゃないかって。

五味　う〜ん。

——だって、修斗時代の五味選手って、派手な試合もありましたけど、基本的にはレスリング＋ボクシング、それもレスリング寄りのパウンダーだったわけですよね。言い方は悪いけどマーク・ケアーみたいな部分もあったというか（笑）。自分でも「あんまりKO、一本で勝つタイプじゃないんで」って言ってたこともありましたし。

五味　判定勝ち、多かったですよね。

——ところが去年は全然違いましたよね。5連続一本&KO勝ち。

五味　なんかネットで"五味は八百長やってる"って（笑）。

——ダハハハハ！

五味　友だちに「ネットは見ない方がいいよ」って言われてたんですけど、こないだ酔っ払ってるときに初めて見たらそんなことが（笑）。

——まったく気にする必要はないですね、それは（笑）。

五味　まあマジメな話すると、『PRIDE』のお客さんは先入観がないのがいいですよね。やりやすい。

——五味選手に対していいも悪いもイメージがないから、新たにファイター像を作っていけると。

『PRIDE』のリングでは変にカッコつける必要はないと思ってるんです。

五味　ホントにやりがいのある、素晴らしいリングですね。まあ修斗があるから、いまの自分もあるっていうのは間違いないんですけど。12月に、修斗の代々木（第二）大会を観に行ったんですよ。修斗は派手な感じはないんですけど、とにかくランキングとベルトという目標のためだけに、修斗という世界の中だけで頑張っているんで、かなり芯の強いものを感じましたね。

——濃縮された世界観というか、求心力みたいなものがありますよね。

五味　だから、格闘技を始めていきなり『PRIDE』に憧れる人もいると思うんですけど、後輩には修斗の世界、"まずこういうところがあるんだ"っていうことを勉強させたいと思うんですよね。いきなり地上波のテレビだとか、そんなに甘いもんじゃないですから。で、自分もそれをやってきたはずなんですよ。

——それはもちろんそうですよ。もう一段階大きくなるためにはってことで『PRIDE』を選んだんでしょうから。でも、意地悪で言うわけじゃないけど「修斗でもやり残したことはあるじゃないか。なんでハンセンにリベンジしないんだ」って言われたらどうです？

五味　ん〜、いまだから言うわけじゃないけど、ハンセンも負ける相手じゃなかったとは思うんですよ。ただ自分は気持ちが試合にも顔にもモロに出てしまうんで。その辺は難しいところなんですけど。

——じゃあ逆に当時の五味さんからすると、修斗で『武士道』初戦の相手だったジャドソン・コスタと闘うんだったらそんなに燃えないけど、『武士道』

五味隆典

でハンセン戦だったらメチャクチャ燃えたかもしれない。
五味　あ〜、それもあるかもわかんないですね。
——実際、2月から『武士道』に出てみて、リングの雰囲気ってどうでした?
五味　すっごくいいですね。お客さんがみんな、純粋に試合を楽しみに来てるじゃないですか。それこそ興奮して椅子から立ち上がって応援したりとか、そういうのは凄く好きです。自分も見るときにはそういうタイプなんで。〝なんで金払って見に来てんのに静かにしてなきゃいけねえんだよ〟って。選手に言いたいことがあれば言えばいいし。試合見てバカ騒ぎしてもらうのはこっちも嬉しいんですよね。大晦日も「来年（の大晦日）はメインだ!」って嬉しいことを叫んでくれた人がいて。まあ酔っ払ってるだけかもしれないんですけど（笑）。で、逆に修斗のお客さんっていうのは……。
——盛り上がりの質が違うといえば違いますよね。
五味　やっぱり目が肥えてるんで。じーっと見てるんですよね。「オレだったらこうするのにな」ぐらいの感じで。ヘタしたら女性の方でも「私ならこうするわ」って（笑）。
——沸き方のポイントとか「技術を分かってる人たちな」って感じですよね。
五味　自分は寝技が得意じゃないこともあって、そういう反応が苦手なんですよ。「倒して殴りゃあいいじゃん。そっちの方が強えよ」って思ってるんで。「いいから踏んづけちまえよ」とか（笑）。
——そういう五味選手がパウンドしてると、お客さんの「ああ、いまパス（ガード）できるのに」みたいな視線を感じると（笑）。
五味　あ、いやいやいや（笑）。そこまではないんですけど、まあなんとなく自分のスタイルではそうなるのかなと。デビューしたての頃は、それこそいまの徳郁（KID）選手みたいなメチャクチャな暴れ方してたんですけど、そのあとやっぱり、もっと抑えたスタイルでいかなきゃいけないかなっていう壁にぶつかったんですよ。それが染み付いちゃって、判定が多くなったっていうのはあると思うんですよね。
——抑えていくっていうのは、勝つためにですか?
五味　そうですね。ランキングを落としちゃいけないっていう。ただ「じゃあお前、いつ弾けるんだ?」と。
——そのきっかけが『PRIDE』という舞台だったと?
五味　やっぱり『PRIDE』では「玄人目でしか分からない試合はダメだ」って言われますから。
——五味選手いうところの〝スカ勝ち〟じゃないといけないと。
五味　そうですね。10月の大阪の試合（チャールズ〝クレイジーホース〟ベネット戦）は、グラウンドで一本勝ちしたんですけど、なぜかセコンドも自分もモヤモヤが残ったんですよね。
——しかし、お客さんが多くて、ノリがいいのが合ってたにしても、よくそこまで意識改革できましたよね。それだけじゃなくて実践してるし。
五味　須藤元気もそういう話はしてたんですよね。自分が『PRIDE』に出る前からK・1に上がってて「女性が見ても、子供が見ても面白い試合をしていくよ」って。その頃の自分は修斗でやってて「面白いより何より強いのが大事だろ」って思ってたんですけど。だけど『PRIDE』でも〝修斗でデビューした頃の闘いをすればイケるんじゃないか〟って気持ちはあったんですよ。
——修斗でもメチャクチャで面白い試合はありましたし、『バリジャパ』では相手の頭をワシ掴みにして、後頭部を支柱が入ったマットの固い部分に叩きつけたりしてましたからね（笑）。
五味　だから……素ですかね。
——むしろ素でやればいいんだと。
五味　『PRIDE』では、変にカッコつける必要ってないと思うんですよね。
——それは面白いですねぇ。普通、『PRIDE』みたいな大舞台だったらカッコつけたくならないですか?
五味　桜庭選手もそうですし、そのまんまで勝負するのがいいんじゃないですかね。見られることが多くなった分、開き直りじゃないですけど。「オレはこうなんだよ!」っていう（笑）。
——まあ、変に取り繕っても見透かされますからね。

男祭り大奮闘
武士道
大刮目

○五味隆典［1R5分20秒／KO］ジェンス・パルヴァー×
宇野薫や村浜武洋、BJペンを倒した経歴を持つ元UFC王者パルヴァーは、ボクシングやSBでも試合をこなすMMA屈指のストライカー。五味はパルヴァーの鋭利な打撃に臆することなく、スピード感あふれるボクシング戦を展開。ボディブローの連打で足を止めたところをパンチのコンビネーションで一気にラッシュ!! 『PRIDE』における1R一本＆KO勝ちの記録を「5」に延ばした。

五味隆典

五味　まあでも、リングに上がったらお客さんのこと考えますけど。いや、やっぱ考えてねえかな……。

――とりあえず暴れとけ！　と（笑）。

五味　そうですね、はい（笑）。

――大舞台で浮き足だっちゃう選手も多いんですけどね。後楽園ですらそうなっちゃう選手もいるんで。なんかコスプレしてみたり、ちょっと笑えるっぽい入場曲を使ってみたりって、逆に寒いじゃないですか。誰とは言わないですけど（笑）。

五味　誰とは言わないですけどね（笑）。入場でいろんなパフォーマンスやって時間かけると、アナウンサーの方が困るみたいですね。

――え、アナウンサー？

五味　入場までにかかる時間としゃべる内容を合わせないといけないから、時間が余ったら「まだ上がらない！」ばっかり言っちゃうんじゃないですか。

――なるほど。なんか目のつけどころが違いますね（笑）。そういうパフォーマンスとかコスプレとか、五味選手はしないですよね。

五味　でも、コスチュームとか曲については常に考えてますよ。トランス系の曲がいいのかなあとか、ガウンとタイツも大晦日は黒から白に変えたりとか。自分が好きな入場っていうと、ティト（・オーティス）とかシウバ選手、あとノゲイラ選手も凄く好きですね。

――ああ、やっぱりそんな凝ってる人じゃないですよね。その人が持ってるオーラを引き立たせるって感じで。そこもやっぱり素で勝負なんでしょうね。

五味　自分に合う曲なりコスチュームってことですね。それはこれからも考えていきたいなと。でも大晦日、テレビでは入場シーンがカットされてたんですけど（笑）。

――花火も上がってカッコよかったのにねぇ（笑）。あと五味選手に聞きたいのは、『PRIDE』に上がり続けるうちに変わってきた部分もあったと思うんですよ。最初に出たときは「会場とお客さんの人数の多さ、イベントの大きさに緊張しました」って言ってたのが、次の5月には「自分は勝ったけど対抗戦で負け越したのが悔しい」って言うようになって。大阪でメインを張ったときは対抗戦に勝ち越せなかった悔しさを語った。メイン抜擢に関しても「これまでの『武士道』では、お客さんが最後にすっきりした気持ちで帰れてなかった。僕はお客さんをいい気分にして帰したい」とも。

五味　ああ、そうでしたね。

――「『PRIDE』に出られて嬉しい」という気持ちだけだったのが、「『武士道』を盛り上げよう」っていう責任感が出てきたというか。

五味　まあ、自分だけ勝った方がおいしいはおいしいんですけどね（笑）。それは別としても、周りが負けたら「自分だけは勝つ」って思うし、周りが連勝してたら「オレもこの勢いに乗って」って、なんでもいい方向で考えるようにはしてまね。

――で、『武士道』に対する責任感みたいな話なんですけども（笑）。

五味　あ、そうか。そうですね。なんだろうな……自分、『武士道』に出たのは『其の弐』からなんですけど、いま思えば一発目から出ておきたかったなっていうのはあるんですよね。そのときは違う目標でやってたんで仕方ないし、そこで得るものもあったからいいんですけど。2004年の最初の『武士道』が『其の弐』だったし、「ここからが本当の『武士道』のスタートだよ」と（笑）。

【ごみ・たかのり】1978年9月22日生まれ。173センチ、73キロ。1998年、修斗でプロデビュー。第5代修斗世界ウェルター級王者。修斗戦績は12勝1敗（12連勝）で、佐藤ルミナ、三島☆ド根性ノ助らを破っている。組技限定ルールでは宇野薫にも勝利。修斗ではヨアキム・ハンセンに判定で敗れ王座陥落。海外でBJ・ペンに生涯初のKO負けを喫したが、『武士道』シリーズで完全復活。本誌初登場になるが、以前、携帯サイト『紙プロHand』の「格闘家コラム」で矢沢永吉について熱く語ってくれました!!

『武士道』の本当のスタートは自分が初めて出場した『其の弐』からだと思ってます（笑）。

――それぐらい、〝五味＝『武士道』〟、〝『武士道』＝五味〟みたいな感覚がある。自分で作った〝オレんち〟みたいな感じなんですかね。

五味　そうですね。修斗だと、やっぱりルミナさんっていう偉大な先輩がいましたし。『武士道』は先入観がなかったですから。で、それはもちろんとして、『PRIDE』（ナンバーシリーズ）の4万人のお客さんも沸かせたいっていうのはありますね。

――そうなるといまは楽しくて仕方ないんじゃないですか？

五味　まあでも、天狗にはならないように。木口（宣昭）先生をはじめ環境がいいんで、そうはならないと思うんですけどね。それに去年は勝ちはしましたけど、かなりギリギリの状態でやってたんですよ。不安があることで、緊張感を持って闘えたって意味では、それがいい方向に出たのかもしれないんですけど。

――それはケガっていうよりいろんな面での疲労なわけですか？

五味　そうですね、ハンセンに負けて、その後BJ・ペンにも負けて、トレーナーの方も「もう一回闘うんならイチから作り直さないといけないよ」と。それぐらいの覚悟でやってきたんで。

――それは心身ともに疲れますよねぇ。

五味　トレーナー、スタッフの人たちは自分がどんだけ情けない男か、見て分かってると思いますけど（笑）。

――逆に言うと、そこまで追い込まれながら闘っていたと。

五味　だからいまは、自分も周りの人たちも、一回ラクになろうと。

――今年は『武士道GP』もあるみたいですけど、五味選手のHPを見たら「しばらく休養を取りたい」みたいなことを言ってましたもんね。それと「プライベートでの趣味を持ちたい」と。

ないんですか、趣味？（笑）。

五味　格闘家でサーフィンやる人は多いんですけど、ボクは波と闘っちゃうんで10分で疲れるんですよ。釣りもいいんですけど、釣れないとストレスたまっちゃうんで。結局、友だちと飲みに行くのが一番ラクで楽しいんでそればっかりになっちゃってて。

――格闘技っていう凄まじく熱中してるものもありますしね。

五味　「趣味なんか持ってて強くなれっかよ」みたいな部分もあったんで（笑）。だけど酒、女、車、ひと通り経験しとくのもいいのかなって。

――そろそろいいだろうと（笑）。

五味　で、友だちと「『PRIDE』のファイトマネーでハーレー買おう」って言ってるんですよ。「格闘技は男の世界っていうけど、ハーレー乗らないで男の世界を語っちゃダメだよ」っていう人がいるんで（笑）。あとは旅行。ハーレー乗って温泉行こうっていうのが今年の目標ですかね。

――それは目標じゃないでしょう（笑）。とりあえず『武士道GP』はハーレーで花道を入場するぐらいのことをやってくださいよ。

五味　大丈夫ですかね、それ。

――素なら大丈夫ですから。楽しみにしてます！（笑）。

【05年1月14日／木口道場にて収録】

男祭り大奮闘
武士道
大刮目

強いヤツと殺(や)りたい!!

『男祭り』で“蜘蛛男”を食らいつくした“殺戮ピラニア”が
新たなエモノを求めて2・12『DEEP』に緊急出陣!!

長南亮

圧倒的不利の下馬評を覆し、大晦日『男祭り』で“中量級・最強のストライカー”アンデウソン・シウバを破った長南亮! 昨年は松井大二郎、アルメイダ、ニュートンと、難敵・曲者たちを相手に存在感をアピールしていたが、大晦日の劇的な勝利で『武士道』の行方の鍵を握るひとりとなった。今回のインタビューでは、ファイターとして純粋なる心境を語ってくれた。

聞き手/ジャン斉藤　撮影/菊池茂夫 designed by hisa (Two Three)

――アンデウソン・シウバ戦は鮮やかな一本勝ち、おめでとうございます!!

長南　ありがとうございます!!　グフフフ。

――最後はヴォルク・ハンオマージュなフィニッシュというか。あの飛びつきヒールホールドで極めたあとに見せた、してやったりな微笑みはホント怖かったです（笑）。

長南　そうですか～？　グフフフ。

――残念ながら地上波ではダイジェスト扱いだったので、目撃できなかった人は多いんですけどね。

長南　（至福の表情を一変させて）あとで聞いてガッカリしましたよ!!　あんなに頑張ったのに、ダイジェストってなんだよ!?　ってかんじで!

――ダハハハ。前回の『男祭り』ではマッハさんと高瀬さんの試合がダイジェスト扱いでしたけど、カットされる予感はなかったんですか？

長南　まったく!!　自分の試合がカットされるって知ってたんですか？

――知りはしないですけど、番組構成上の都合や試合順を考えると、長南さんの試合は200%カットされると予想してました。あと煽り映像も他のカードとは異質でしたよね。「蜘蛛男vsピラニア」って、仮面ライダーの怪人対決じゃないんだから（笑）。

長南　勘弁してほしいですよねぇ。

――「ピラニア」は慣れました？　最初はだいぶイヤがってましたけど。

長南　慣れるわけないですよ!!　でも、もう付けられたモンはしょうがないし、自分はリングで魅せることしかできないんで。正直、『男祭り』で一番良かったのはハントvsシウバで、その次が五味選手か自分の試合だと思うんですよね。カットされようがそこは胸が張れますよ！

――あの試合はフィニッシュだけ見ても衝撃的だとは思いますけど、そこまでの流れがわかれば、余計に楽しめたと思うんですよ。

長南　そこまでの過程が必死も必死でしたからね～。下手したらこっちがKOされてましたから。試合後のマイクでも言ったんですけど、アンデウソンはホントに強いんです。高瀬さんにやられ今回も自分にもやられて、日本だと弱いイメージが浸透してますけど。

――最近はノゲイラのスパーリング・パートナーとして練習を積んでいて、韓国ではあのジェレミー・ホーンに完封勝ちしてますからね。

長南　イギリスではリー・マーレィにも勝ってるし、もともと闘いたい相手のひとりだったんですよ。でも、ジェレミー戦をビデオで見たら以前と段違いに実力がUPしててビックリしましたね。これはちょっと……ヤバイんじゃないかなって。

――下馬評でも長南さんが圧倒的に不利だと言われてましたね。

長南　あと試合前にトラブルに巻き込まれてナーバスになってたんです。

――ほう。何があったんですか。

長南　大雪の試合当日、高速に乗って会場に向かったら前方で事故があったらしくて渋滞で完全ストップしちゃって。会場に電話したら選手はみんな会場入りしているっていうし。慌てて車を降りて同乗していたセコンドの横井（宏孝）君と石井（大輔／元パンクラス）さんと高速道路の脇道を走って最寄りの駅まで向かったんですよ。

――ガハハハハ！　試合前に大雪の高速道路を疾走してた（笑）。

長南　何でこんな目に遭うんだってかんじですよ～。途中で事故の現場検証している警察の人に注意されるし。それで1、2キロぐらい走ったのかな。途中でタクシー捕まえて埼京線の駅に着いたんですけどね。結局、会場入りしたのは4時過ぎですよ!!　それからメデカルチェックを受けたら体温が35℃しかなくて、疲れて疲れてアップもできないんですよ。走った疲労感と間に合った安心感がグジャグジャに混じって。

――そんなに苦労して良い試合したのにダイジェスト（笑）。

長南　視聴率の問題なんですかねぇ。自分が家を出るとこからドキュメントで放映すれば面白かったと思いますけど。「はたして長南亮は試合に間に合うのか!?」ってかんじで。

――W-1のゴールドバーグじゃないんですから（笑）。そんな状態で迎えたアンデウソン戦はどうでした？

長南　いままで一番、しんどい相手でしたね。

――ヒカルド・アルメイダと比べても？

長南　アルメイダはテクニックや戦術面ではズバ抜けた選手だと思うんですけど、ファイターとしての強さを感じたのはアンデウソンの方ですね。アンデウソンはボクシング技術がホント凄かったし。

――その世界有数のストライカーに対して、長南さんはスタンドを中心に進めたのは驚きですよ。

長南　ローで足をヘシ折って顔面を思い切り踏みつけてKOするのが狙いでした。

――そ、それはとってもゴーカイな殺戮プランです。

長南　勝って調子乗ってるわけじゃないですけど、アンデウソンと打ち合える日本人選手ってそういないと思うんですよ。ホント日本人にはいない体型だから、スパーリングであああいうタイプとやったことないし。驚いたのは、ロングフックが一度、視界から消えるんですよ。どっからパンチが飛んでくるのかホントわからなくて。

――パンチを顔に連打でもらって、あわや！というシーンもありましたね。

長南　な～んか痛かったですね。

――そりゃ痛いに決まってますよ！

長南　グラッとはきてはないんですけど、とにかく痛くて。奴の足をローで殺す前の左ハイもホントスゴイ切れ味だったし。打撃では完全に相手が一枚上手でしたね。

――打撃ではらちがあかないと思って、飛びつきヒールホールドでギャンブルしたわけですか？

長南　ギャンブルというか、もともとの作戦です。

――単なる思いつきじゃなかったと？

長南　前にも言いましたけど、ボクはリングス・ファンなんで。よくヴォルク・ハンのマネをして、スパーで飛び関は使ってたんですよ。打撃で倒せなかったときのことを想定して、足関を狙うことは、仲間と話をしてましたし。カニ挟みは入りやすいし、相手はジリジリ前に出てくるタイプ。それにVTだとあんな技出してくるとは思わないじゃないですか？

――まさかピラニアが宙を舞うとは思いもしないだろうし（笑）。

長南　グフフフ。結果的に打撃中心で組み立てていたことが功を奏しま

**格闘技を本格的に始めて
5年ですけど、もう28歳。
時間はないんでとにかく
強いヤツと闘いたいです。**

長南亮

したね。

——つまり、全体的に打撃で試合を進めていたこと自体が、巨大なフェイントになったわけですね。

長南　そうですね。だから自分的には打撃面の収穫が大きかったんですよ。小野寺（力、キックボクサー）会長のジムに通ってまだ1年も経ってないですけど、打撃はかなりレベルアップしてると思いますね。

——昨年は「ストライカーとしてのスタイルを確立する」という目標を掲げていましたけど、その手応えは感じますか？

長南　感じます。（カーロス・）ニュートン戦も実質は2R最初のローキック一発で勝負は終わってますから。

——ニュートン戦もそうでうけど、長南さんの試合って逆転劇の要素が強いというか、9受けて10返すかのような展開が多いですよね。

長南　ホントは秒殺で終わらせたいですよ（笑）。見てるほうとすれば、面白いかもしれないですけど。

——決して体力や肉体面に恵まれてるわけじゃない。精神力が強い？

長南　ん～～、攻めてる相手もビックリするんじゃないですか？　ニュートンも必殺の腕十字を逃げられたことで、だいぶスタミナやテンションが落ちたのがわかりましたから。

——完璧に腕が伸びきっていた腕十字から脱出できたのは極めが浅かったからですか？

長南　腕は伸びてましたけど、足のフックがイマイチ浅かったですね。もう一度、仕切り直そうと脇に持ち替えて伸ばそうとした瞬間、引っこ抜いたんです。折れるもんなら折ってみろ！ってかんじでしたけど。あれ、練習ならタップしてますよ。でもあそこでタップしたら、終わりだなって思ってましたから。

——先のことを考えたらケガをする前に……とは思わなかったんですか？

長南　あそこで負けたら次はないですよ。アルメイダに判定で負けてるし、『武士道』2連敗じゃないですか？

男祭り大奮闘
武士道大刮目

○長南亮[3R3分8秒／ヒールホールド]**アンデウソン・シウバ×**

長いリーチを活かしたアンデウソンの鋭い打擊に苦しんだ長南。グラウンドでパウンドで攻め立てるも攻略までには至らず。試合は打擊戦を中心に進められ、アンデウソン有利のまま判定に持ち込まれるかと思われた刹那、迷いもなく宙を舞ったピラニアは、間合いを詰めていた蜘蛛男の足に絡み付き電光石火のヒールホールド!!

もう自分なんかほっといて別の選手を出してくれよって思いますし。連敗ということは今後絶対にありえない話じゃないですけど、あのときはそれだけは許されなかったんです。

——それぐらいの覚悟だった、と。あの試合が評価されたこともあって『男祭り』出場となったわけですけど。一般会員として月謝払ってジムに通ってた人間が、大晦日の『PRIDE』のリングに立ったことに感慨深いものはありませんでした？

長南　格闘技を本格的に始めたのは23歳ですからね。5年で『男祭り』に出たことは、客観的に見ると……スゴイですよねぇ。グフフフ。

——自分で自分を誉めてあげたい（笑）。

長南　自分はお世話になってる人はいっぱいいますけど、後ろ盾があるわけじゃないですから。コネやバックの力で試合に出れたわけじゃない。試合内容を評価されてきた自負はあるんで。そこは声を大にして言いたいですね。……お金はないですけどね（ボソっと）。

——ダハハハ!!　いきなり何を言ってるんですか！

長南　いままでのツケがあるんでホント大変ですよ（しみじみと）。タニマチもいないし。

——でもHPの日記に「いらないプラズマTVがあったらボクにください!!」ってどうにも図々しいことを書いたら、50インチのプラズマTVを奇跡的にもらえたじゃないですか（笑）。

長南　あれは嬉しかったですね！　7畳の長方形の部屋には似つかわしくないんですけど（笑）。

——で、長南さんは修斗とか、いわゆる競技としての世界を登ってきたわけではない。『DEEP』を主戦場にしてきたわけですが、勝つこと以外にも何かしらプラスアルファを要求されてきたわけですよね。

長南　そうですね。そういう意味では、試合で押さえ込みばっかやってるような選手は淘汰されていく世界だと思いますよ。あとリング外では確固たる自分がないと。ただただ美味しい話や楽な流れに付いていったり、信念もなく漠然と誰かに従うだけじゃダメだと思うし。そこで自分がいま考えてるのは、若くて実力があるのにこの世界で浮かび上がれない選手をサポートしていきたいんですよね。若くて強い人間はまだまだいっぱいいますから。

——ちなみにアマチュアとプロの線引きってなんだと思いますか？

長南　なんですかね～。プロの試合に出てるから、プロのファイターとは限らないですけど……やっぱり、試合（のファイトマネー）だけで食べていくのがプロだと思いますよ。

——ああ、大工をやりながら『DEEP』に上がっていた長南さんからすると、そこは切実な話ではありますね。昨年も大工やりながらリングに？

長南　去年は10日間だけ。とは言っても、現場に顔を出す程度ですけど。大工やりながらだと、vs世界をやっていけるわけないですよ（笑）。

——今後はしっかり軸足を据えて、開催が予定されている『武士道GP（83キロ以下）』に専念すると？

長南　う～ん……リング上で「優勝します!!」って言いましたけど、本音は一回戦から強い奴と闘って、毎試合が事実上の決勝戦と呼ばれる闘いをや

長南亮

りたいんですよね。それで優勝できれば嬉しいですけど、トーナメントを制することが目標じゃなくて、強い奴と闘うことが目標なんです。

——闘いたい選手は誰がいますか?

長南　クラウスレイ(・グレイシー)ですかね。あと団体間の壁があるかもしれないですけど、BJペン。吉田(秀彦)さんとハワイへトレーニングにいったときに、ランブル・ザ・ロックでホドリコ(・グレイシー)との試合を見たんですけど、あのホドリコがまったく相手になってないですからね。相当強いですよ、BJ。

——へえ～! そんなに強いんですか!

長南　BJと練習している人、みんな「異常な強さだ!!」って口を揃えて言うんですよ。スパーでマット・リンドランドをバンバン極めるらしいし、階級なんか関係ないみたいで。いつかやってみたいですね、BJと。……なんでK-1にいるんですかねえ。もったいないですよ!!(唇を尖らせて)。

——ボ、ボクに怒らないでください(笑)。K-1といえば、『男祭り』と同日に開催された『Dynamite!!』は意識されてました?

長南　KIDさんと魔娑斗選手の試合だけは見ました。他は……格闘技とは、ジャンルがまったく違うような気がするから興味はなかったです。

——そうですか(笑)。とりあえず次の試合は3月に予定されている『武士道』になるんですか?

長南　いや、まずは2月12日の『DEEP』に出ることになったんで、そこに全力を尽くします。

——故郷『DEEP』に凱旋!

長南　最初はあきらかに〝噛ませ犬〟だろっていう選手でオファーされたんですけど、それを断ったらブラジリアン・トップチームの柔術家になりました。佐伯さんに聞いたらVTは7戦5勝で、今年のアブダビ・ブラジル予選の優勝者らしいですね。

——〝噛ませ犬〟か〝未知の強豪〟ってまた極端ですね(笑)。リスキーなファイトを避けて、武士道GPまで構えていようとは思わなかったんですか?

長南　いや、構えるようになったら格闘家として終わりですから。負ける可能性ありますけど、自分は試合することで成長してきたところがあるんで。あと8月に地元の山形でまた『長南祭り』をやるんですよ。

【ちょうなん・りょう】1976年生まれ。175センチ、80キロ。リングスファンだった縁でU-FILE CAMP.COMに入会(現在フリー)。『DEEP』で頭角を現し、出世試合としては桜井“マッハ”速人を撃破した一戦が挙げられる。昨年は実質一階級上のファイターたちと渡り合った実力が評価された。50インチのプラズマTVをタダでもらえる幸運の持ち主だが、『男祭り』地上波TV放送ではダイジェスト。微妙なTV運を持つ世界一強い大工。

自分には後ろ盾があるわけじゃない。試合内容を評価されてきた自負はありますね。

——たしか去年は800人程度が収容できる町民体育館でやったんですよね。強い奴を求めて、さいたまアリーナから山形の町民体育館まで(笑)。

長南　ライブと一緒で会場がデカけりゃいいってもんじゃないですよ! そういうNirvana的な考えがあるんです(笑)。あと長いスタンスで選手生活を考えてないんで、相手がイロモノじゃなければ試合はできる限りやってくつもりです。自分の年齢は決して若くはないですからね。いついつに引退するってことはないですけど、とことん闘いまくってサッと引きますよ。そういう生き方をしてきたから、いい先輩や仲間に巡り合えたと思うし。これからもそういう気持ちをキープしていきたいんですよね。

——いまはvs世界という戦闘設定ですけど、いずれは再び日本人対決も見てみたいですよね。

長南　そうですね。須田(匡昇)選手との再戦や三崎(和雄)選手、岡見(勇信)選手ともやってみたいですし。

——以前の師匠である田村さんと闘ってみたくはないですか?

長南　自分が強くなったところは知ってほしいですけど……。誤解してほしくないんですけど、ボクがU-FILEが辞めたのってU・STYLEもイヤだったけれど、それ以上にその流れに安易に乗っかってる他の若手の考えが自分には合わなかったんですよ。田村さんがいままでつくってきたもの、これからつくろうとしているものに簡単に乗っかってるかんじがして。若いうちはもっと他にも勉強しないといけないことがたくさんあるし……田村さんはボクのなかでは特別な存在なんです。だから闘いという気持ちよりは……う～ん……下品な挑戦はしたくないですね。田村さんに変なかたちで対戦を指名する人って多いじゃないですか? 田村さんとやる前に俺とやれ!! という気持ちはあります。

——俺を倒してから田村さんと闘え! ぐらいの気持ちがあると。

長南　あ、桜庭さんは別格ですよ!! 桜庭さんと田村さんの試合は自分だって見たいですから。桜庭さんは尊敬している選手なんで。一度、練習させていただいことがあるんですけど、ホント強かったです。ケガを抱えて体調が悪いのに最前線でやってることも含めて、吉田さんもそうですけど本当に尊敬してます。

——長南さんもいずれは下の選手の目標になるファイターを目指していきたいわけですよね。

長南　そうですね。変に駆け引きしたり、計算したりする姑息な姿は見せたくないですね。それだと、見てる人を感動させることもできない。自分ができることは、ヤバイくらい強い奴と闘って、ブッ倒すだけです!!

——わかりました。今年の活躍を楽しみにしてます!

【1月11日／『RIKIX』にて収録】

『ハッスル』を背負ったこの男の活躍なくして、
激動の2004年は語れない……!!

『紙プロRADICAL』&『紙プロHand』読者が選ぶ

KAMI-PRO AWARD 2004

読者ハガキと携帯サイトでアンケートを実施、正真正銘、ファンの本音のみで選出される『紙プロ』大賞も遂に今年で5回目!　回数は重ねても全く権威はありませんが、ここまでこれたのも一重に『紙プロ』読者のみなさま、身を削って闘ってくれたプロレスラー&格闘家の方々のおかげです。2002年MVPはサップ、2003年はミルコ、そして2004年はブッチ切りで“キャプテン・ハッスル”小川直也!!　投票数8077票、ご協力ありがとうございました!
(MVPは上半期集計+下半期集計の合計、ベストバウト&興行は下半期に上半期の50%を加算してます)

構成/斎野もみじ　designed by matsu(TwoThree)

BEST FIGHTER

MVP 小川直也

3216point

2004年は“ハッスル元年”！
世間を巻き込んで八面六臂の大活躍!!

2004年マット界は小川直也を抜きには語れない！　文句なし、ブッチ切りの得票数でMVPに決定だ！　1月4日に幕を開けた『ハッスル1』の観戦直後、果たしてこの展開が予想できた人は何人いるであろうか。最大のサプライズは『PRIDE　GP』出場。史上空前の盛り上がりを見せたGPは、『ハッスル』を背負った小川の参戦が原因と言っても過言ではない。小川は日本人最後の大物格闘家としての幻想を一手に担い、1回戦2回戦を突破するものの、皇帝ヒョードルの前に手も足も出ず完敗。しかし試合後の振り絞るようなハッスルポーズは、日本中を感動の渦に巻き込んだ。暴走王からハッスルキャプテンへ。小川がプロレスラーとして大きく進化した年だった。

3rd 佐々木健介 569point

『東スポ』プロレス大賞 MVP受賞!!

健介の魅力がヴァーッと大爆発! WJを離脱し古巣・新日本にカムバックした健介は、残虐ファイトでヒールとして大暴れするも、滲み出る人柄は隠せず、たちまちマット界一のベビーフェイス＆人気者となった。もちろんその活躍には"節約鬼嫁"北斗晶、"プロレス大賞新人賞"中嶋くんら健介ファミリーの存在も欠かせない。マット界にとどまらずお茶の間でも認知されてつつある健介ファミリー。浜口ファミリーを越える日も近い!?

2nd ミルコ・クロコップ 621point

栄光、挫折、そして復活! ミルコが見せた人間ドラマ!!

2月に難敵ウォーターマンを撃破し、その2週間後、ヤマヨシを撲殺。順調に4月の『PRIDE GP』を迎えたミルコだったが、ランデルマン戦でまさかの一回戦敗退を喫しPRIDE制圧の野望は潰えた。しかしその後、悪夢を払拭するかのように連勝を重ね、『男祭り』でランデルマンにリベンジを果たす。1年間で怒濤の8試合をこなし、栄光と挫折を見せてくれたミルコは、2005年もマット界の中心に君臨することは間違いない。

5th ヴァンダレイ・シウバ 384point

絶対王者の猛威が 2004年も炸裂!

昨年のシウバは、美濃輪と近藤を1Rで仕留め、ジャクソンとは歴史的名勝負を展開。激闘の末、最大のライバルを壮絶KOに追い込み"絶対王者"の地位を不動のものとした。そして大晦日、桜庭の欠場を受け土壇場で対戦相手がマーク・ハントに変更となるも、20キロ以上も重い"元K-1王者"に殴り合いを挑み、惜敗。PRIDE無敗神話は潰えたが、シウバという超絶ファイターの価値が揺らぐことはない。

4th 髙田総統 417point

マット界に絶対無二の 大魔王が降臨!!

力道山、猪木、馬場……、プロレス界の絶対的巨人たちと比肩しうる存在、それが髙田モンスター軍・髙田総統だ! 日頃、ハッスル軍どころか、お客さんさえも罵倒しまくる総統だが、そのカリスマ性で総統信者が急増中。しかし、快進撃を続けているかのように見える髙田モンスター軍だが、実際のところハッスル軍との勝率はほぼ五分五分。プロレス界がひっくり返る"例の計画"はいつ実行されるのか?

順位	名前	ポイント
6th	ケビン・ランデルマン	272 point
7th	五味隆典	188 point
8th	小橋建太	149 point
9th	エメリヤーエンコ・ヒョードル	123 point
10th	山本KID徳郁	92 point

【総　評】プロレス氷河期といわれているにも関わらず、小川、健介、高田総統、小橋が堂々のランクイン。五味＆KIDの日本軽量級トップ2も、大晦日の大活躍でイッキに票を伸ばした。次点はアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラでした。

WORST FIGHTER

順位	名前	ポイント
1.	曙	2166point
2.	ボブ・サップ	1848point
3.	武蔵	519point
4.	永田裕志	490point
5.	谷川貞治	417point
6.	橋本真也	290point
7.	アントニオ猪木	254point
8.	新日本プロレス	143point
9.	ジュードー・オー	112point
10.	吉田秀彦	109point

【総　評】K-1がトップ3を独占! 曙＆サップはさもありなんだが、K-1 WORLD GP決勝大会だけで12ラウンドも闘い抜き、2年連続準優勝という快挙を成し遂げた武蔵がワースト3位というのはチトかわいそうな気も。4位の永田も『紙プロ』読者には特に危害を加えてないと思われるのだが、新日本の代表として票が集中してしまったようだ。そして見る者すべてを異空間に誘ったジュードー・オーも見事9位にランクイン! ともかくワーストに名を連ねてしまったみなさんには、それだけ注目＆期待していたってことです!!

BEST BOUT

1st
ヴァンダレイ・シウバvsクイントン“ランペイジ”ジャクソン

（10・31 PRIDE.28　さいたまスーパーアリーナ）

1087point

この2人だからこそ実現した、格闘技史上に残る超・名勝負！

これぞPRIDEミドル級タイトルマッチ！“絶対王者”シウバと“最強の挑戦者”が、見る者すべてを驚愕＆感動させた、格闘技史に確実に残る一戦が見事ベストバウト第一位に!!遺恨、再戦、ハイレベルな攻防、壮絶なフィニッシュ、そして最後に互いを認め合う両者。格闘技の素晴らしさがすべて凝縮された『PRIDE.28』のメインイベント。『PRIDE GP FINAL ROUND』と『男祭り』にはさまれ、注目度が低かった大会だったが、この2人の闘いぶりに『PRIDE.28』をベスト興行に押す声も多かった。

“神の子”の恐るべきポテンシャルに、魔裟斗が大ピンチ!!

カリスマvs神の子の壮絶な殴り合いは、視聴率30%超えという脅威の記録を達成! 人気・知名度・実力、すべてが揃った2人が、己の存在を賭けて大晦日という大舞台で最高の闘いを繰り広げ、『Dynamite!!』をバラエティ視していた格闘ファンをも唸らせた。試合では魔裟斗の2度にわたる金的で悶絶したKIDだったが、試合後「スポーツじゃなきゃ殺られていた」とコメント。おまえ、男だ!!

3rd 魔裟斗vs山本KID徳郁

(12・31 K-1 Dynamite!! 大阪ドーム)

512point

ミルコ轟沈! GPが波乱の幕開け!!

『PRIDE GP』3大会の中でも、最大のサプライズ! 優勝候補ミルコの失神&一回戦敗退は、超満員の観衆に強烈なインパクトを与えた。感極まったランデルマンの「オレだって人間だから怖い。でもオレはオマエたちのために闘うんだ!」という感動のマイクアピールも印象的だった。ミルコのどん底からの復活ロード、ランデルマンの躍進など、2004年の格闘技界を語る上で重要な闘いである。

2nd ミルコ・クロコップvsケビン・ランデルマン

(4・25 PRIDE GP2004 1st ROUND さいたまスーパーアリーナ)

744point

逃げぬ・媚びぬ・省みぬ! 絶対王者の生き様に酔いしれろ!!

桜庭の緊急欠場により、PRIDEミドル級王者と元K-1王者の夢の対決が実現! ヘビー級の元K-1戦士を相手に殴り合いを挑むシウバは、まさに男の中の男としか言いようがない。紙一重の闘いを制したのは、打撃に一日の長をみせたハント。シウバのPRIDE無敗神話は崩壊してしまったが、榊原DSE代表は「我々はヴァンダレイ・シウバという偉大な王者を誇りに思う」と最大の賛辞を贈った。

5th ヴァンダレイ・シウバvsマーク・ハント

(12・31 PRIDE 男祭り—SADAME— さいたまスーパーアリーナ)

259point

小川の劇的勝利が『ハッスル』に火をつけた!

今でこそヘナチョコのイメージが定着してしまったレコだが、参戦直後はK-1のトップファイターということもあり「オーちゃん危うし」の声も。しかしフタを開けてみれば、小川はパンチでK-1戦士を吹っ飛ばし、肩固めで圧勝!!試合後にハッスルポーズを決める小川の勇姿に、観客の誰もが小川の勝利を祝福した。この勝利によりGPは大いに盛り上がり、『ハッスル』は大躍進を遂げることとなる。

4th 小川直也vsステファン・レコ

(4・25 PRIDE GP2004 1st ROUND さいたまスーパーアリーナ)

501point

6. 小橋建太vs秋山準 (7・10 NOAH 東京ドーム) 228point
7. 小川直也vsエメリヤーエンコ・ヒョードル (8・15 PRIDE GP2004 FINAL ROUND さいたまスーパーアリーナ) 115point
8. エメリヤーエンコ・ヒョードルvsケビン・ランデルマン (6・20 PRIDE GP2004 2st ROUND さいたまスーパーアリーナ) 58point
9. エメリヤーエンコ・ヒョードルvsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ (12・31 PRIDE 男祭り—SADAME— さいたまスーパーアリーナ) 51point
10. CIMAvs横須賀享 (9・17 DRAGON GATE 代々木第二体育館) 42point

【総評】風車の理論を体現する王者・シウバが、勝っても負けても名勝負を生み出した結果、1位と5位にランクイン。肉体の限界まで闘い抜いた小橋vs秋山、CIMAvs横須賀がプロレスの意地を見せた。次点は五味vsバルバー。

WORST BOUT

1. 藤田和之vsボブ・サップ (5・22 ROMANEX さいたまスーパーアリーナ) 966point
2. 藤田和之vs佐々木健介 (10・9 新日本プロレス 両国国技館) 638point
3. 曙vsホイス・グレイシー (12・31 K-1 Dynamite!! 大阪ドーム) 587point
4. 中邑真輔vsアレクセイ・イグナショフ (5・22 ROMANEX さいたまスーパーアリーナ) 503point
5. 曙vs武蔵 (3・27 K-1 WORLD GP in SAITAMA さいたまスーパーアリーナ) 308point
6. ミルコ・クロコップvsジョシュ・バーネット (10・31 PRIDE.28 さいたまスーパーアリーナ) 205point
7. ボブ・サップvsジェロム・レ・バンナ (12・31 K-1 Dynamite!! 大阪ドーム) 182point
8. 武蔵vsレミー・ボンヤスキー (12・5 K-1 WORLD GP2004 決勝戦 東京ドーム) 115point
9. 高瀬大樹vsカーロス・ニュートン (5・23 PRIDE武士道—其の参— 横浜アリーナ) 87point
10. 曙vs張慶軍 (7・17 K-1 WORLD GP2004 in SEOUL ソウル・チャムシル体育館) 84point

藤田がワン・ツーパンチで首位独占! とは言え、サップのヘタレっぷりばかりが目立ったり、胴締めスリーパーでカウントを奪われる前代未聞の負け方を喫してしまうなど、藤田が不運に見舞われたことは否めない。4位にランクインした中邑の勝利も、プロレスファンは諸手を挙げて喜ぶべき結果なのに、イグの無気力ファイト&そんなイグに勝ってご機嫌な中邑の笑顔で台無しに。曙に関しては……もう何も言いますまい。

BEST EVENT

1st
4・25 PRIDE GP2004 1st ROUND
（さいたまスーパーアリーナ）

（小川vsレコ、ミルコvsランデルマン、ハリトーノフvsニンジャ　他）

1291point

小川激勝、ミルコ轟沈! 『PRIDE GP』が大爆発!!

世界から16人の強豪が集結、全試合オール一本勝ちにして、濃密な試合内容という奇跡的な興行となったGP開幕戦。小川の勝利に感動し、ミルコの轟沈に驚愕し、ハリトーノフの潜在能力に戦慄し、ヒョードルの強さに思わず「強いわ!」ぐらいしか言葉が出てこなくなるという、レベルアップを続ける『PRIDE』の象徴的な大会となった。

2. 8・15 PRIDE GP2004 FINAL ROUND（さいたまスーパーアリーナ）
（小川vsヒョードル、ヒョードルvsノゲイラ、シウバvs近藤　他）　543point

3. 6・20 PRIDE GP2004 2st ROUND（さいたまスーパーアリーナ）
（小川vsシルバ、桜庭vsニーノ、ヒョードルvsコールマン　他）　536point

4. 12・31 PRIDE 男祭りーSADAMEー（さいたまスーパーアリーナ）
（ヒョードルvsノゲイラ、ミルコvsランデルマン、安生vsハイアン　他）　330point

5. 7・10 NOAH（東京ドーム）
（小橋vs秋山、三沢&小川vs武藤&ケア、ライガーvs金丸　他）　224point

6. 10・31 PRIDE.28（さいたまスーパーアリーナ）
（シウバvsジャクソン、ミルコvsジョシュ、中村vsダンヘン　他）　148point

7. 12・31 K-1 Dynamite!!（大阪ドーム）
（曙vsホイス、魔裟斗vsKID、藤田vsイブラヒム　他）　146point

8. 6・28 ハッスルハウスvol.1（後楽園ホール）
（川田&坂田vsダンボビ&ピラニア、橋本vsKATAKARI　他）　139point

9. 9・17 DRAGON GATE（代々木第二体育館）
（CIMAvs横須賀、フロリダ&ケンスキーvsDo FIXER、望月vs中嶋　他）　78point

10. 3・15 レッスルマニア20（ニューヨークMSG）
（HHHvsベノワvsHBK、アングルvsエディ、アンダーテイカーvsケイン　他）　70point

【総　評】『PRIDE GP』がトップ3を独占! 続く4位には『男祭り』! 4月に空前の格闘ロマンのもと開幕したGPが、6月、8月を経て、大晦日で遂に決着を迎えるいう、1年を通した『PRIDE』での闘いは、格闘技史上類を見ない見事な大河ドラマを創り上げた。この4大会のDVDを揃え、子々孫々まで伝えたくなってしまう程の完成度の高さである。5位は『紙プロ』で全くレポートしていないにも関わらずNOAHのドーム大会。『PRIDE』の影に隠れつつも、5位以下にはプロレスが4大会がランクインするという大健闘を見せた。次点は5・22『ROMANEX』。

WORST EVENT

1. 12・5 K-1 WORLD GP2004 決勝戦（東京ドーム）
（武蔵vsレミー、武蔵vsセフォー、ガオグライvsモー　他）　997point

2. 11・13 新日本プロレス（大阪ドーム）
（小川&川田vs天山&棚橋、藤田&カシンvs中西&中邑、健介vs鈴木　他）　984point

3. 5・22 ROMANEX（さいたまスーパーアリーナ）
（サップvs藤田、中邑vsイグナショフ、元気vsホイラー　他）　976point

4. 5・3 新日本プロレス（東京ドーム）
（中邑vsサップ、武蔵vs柴田、吉江vsノルキア　他）　526point

5. 10・9 新日本プロレス（両国国技館）
（藤田vs健介、武藤&西村vs棚橋&中邑、柴田vs天龍）　360point

6. 8・15 PRIDE GP2004 FINAL ROUND（さいたまスーパーアリーナ）
（小川vsヒョードル、ヒョードルvsノゲイラ、シウバvs近藤　他）　294point

7. 3・14 K-1 JAPAN（新潟大会）
（サップvsスミヤバザル、イグナショフvsウィリアムス、天田vsバタービーン　他）　180point

8. 12・31 PRIDE 男祭りーSADAMEー（さいたまスーパーアリーナ）
（ヒョードルvsノゲイラ、ミルコvsランデルマン、安生vsハイアン　他）　119point

9. 3・7 ハッスル2（横浜アリーナ）
（橋本&川田vsコールマン&ランデルマン、小川vsガファリ　他）　112point

10. 12・31 K-1 Dynamite!!（さいたまスーパーアリーナ）
（曙vsホイス、魔裟斗vsKID、藤田vsイブラヒム　他）　92point

【総　評】ワースト興行とはいえ、それは期待の裏返し。1位のK-1GP決勝戦はハイレベルな攻防ではあるのだが、判定だらけの試合内容は、かつてのK-1の爽快さの面影すらも感じられなかった。2位の新日本・大阪ドーム大会は、新日本軍のハッスル阻止や、アントンが中邑を殴打するなど見所が多いのだが、会場の熱にはつながらず。上位5つをK-1と新日本が独占するという始末だが、なんだかんだ言って、結構みんな見ているという点では気になる存在なのだ。

（※注意　2005・1・4　新日本『闘魂祭り』に多数の票が寄せられましたが、もちろん無効です。それにしても、年度の感覚をも狂わすほど脳波に影響のあった『アルティメットロワイヤル』、恐るべし!!）

識者&関係者が独断と偏見で選ぶ

KAMI-PRO AWARD 2004

アンケート項目

①あなたが考える2004年のMVP
②あなたが考える2004年のベストバウト
③あなたが考える2004年のベストイベント
④その他、個人が一方的に贈る賞

(五十音順)

ハッスルフリーライター

阿部タケシ

デイリースポーツ火曜日、スカパー!公式サイト、株式会社ユークス公式サイトで連載の他、昨年は『ストーンコールド・トゥルース』、『リック・フレアー自伝トゥー・ビー・ザ・マン』(共にエンターブレイン刊)の日本語版監修を行なった。

①ランディ・オートン
②田中将斗&スペル・クレイジーvs日高郁人&スティーブ・コリノ(11・25 ZERO-ONE 後楽園ホール)
③3・14 レッスルマニア20 ニューヨークMSG
④苦節7年!ようやくここまでたどり着きましたで賞→フナキ(12・12『アルマゲドン』でクルーザー級王座奪取)

【総括】①大物にツバをかけまくり、ミック・フォーリーから画鋲の洗礼を受けたり、最年少王者に登りつめたオートンが私的MVP!②ベスト興行はネットでマッチメイクを決めるという斬新な手法で、本来持つ"予測不可能"なWWEの世界を久々に見ることが出来た『タブー・チューズディ』と迷ったが、ライブ観戦した『レッスルマニア20』の熱は忘れ難いのでベスト興行に。③ベストマッチはE-Style。暗い話題が多かったZERO-ONEにプロレスの神様が降臨した試合!某WWEスーパースターから「クレイジーは天才。もっとブレイクしてもいいはず!」と聞いていたが、それが現実となって嬉しい限り。某団体は才能を見出せなかったが、クレイジーを開花させたZERO-ONEにも拍手!④フナキサンの王座戴冠は年末に嬉しいニュースでした!

I編集長

井上義啓

元『週刊ファイト』編集長。"活字プロレス"と呼ばれるジャンルの創始者で、"殺し""バード"など数多くの井上用語を生み出す。

①エメリヤーエンコ・ヒョードル
②魔裟斗vs山本KID徳郁(12・31『K-1 Dynamite!!』大阪ドーム)
③12・31『K-1 Dynamite!!』大阪ドーム

④2005年を交代の年にしたで賞→山本KID徳郁 秋山成勲 ボビー・オロゴン

【総括】②③格闘技には勝負論が不可欠だが、同時に観客論、技術論が平行して含まれていなければならない。それを充足していたのが昨年大晦日の『Dynamite!!』であり、魔裟斗vsKIDの壮絶な打ち合いだったのだ。ヒョードルvsノゲイラはプロ向きの奥の深いディフェンスを見せたものの、もう一つ、ドーンと来るワクワク感に欠けたのでベストバウトの次点に落とした。④山本、秋山、オロゴンの3人は大エースとは縁遠いが、今年の格闘技界を面白くしてくれる期待の新星。ミルコが『PRIDE』ヘビー級、『UFC』ヘビー級の2冠王となるというのが今年の『I予言』。

男気啓蒙音楽家

掟ポルシェ

ロマンポルシェ。&ブンクボイ・ライブ・イン・北海道! 2・13(日)札幌PRIVY・5F ホール・スピリチュアルラウンジ(011-222-9988)。前売りチケットは1300円の激安価格で発売中! 詳細はhttp://www.privy.co.jp/hall

①グリズリー岩本
②グリズリー岩本vs客(@五反田近辺のホテルで生理日以外のほぼ毎日)
③1・4『ハッスル1』さいたまスーパーアリーナ
④かわいいで賞→菅谷梨沙子(Berryz工房)

【総括】①客の要望に応じてプロレスラーの下半身事情を耳打ちしてくれて、おまけにヌイてくれる性風俗ファイター・グリズリー岩本さんがMVP! 取材時に在籍していた五反田のお店には今はいない模様ですが、夜のプロレスとややこしい仕組みが知りたければ各自調査!『ハッスル1』では解説席に座らせていただきましたが、ハッスルしすぎて余計なことをいっぱい言っちゃったみたいです!2回目以降呼ばれなくなっちゃった、キャハッ☆④まぁ、ひとつだけ言えることは、2005年は今まで以上にベリーズ工房の追っかけで忙しいので、プロレス観てるヒマなんて当然ねーってことです。菅谷梨沙子とジャイアント・シルバ、どっちがかわいいか考えればそんなもん答えは明白ですよ!

本誌『ザ・検証』連載中

椎名基樹

①ノゲイラ(小)
②ヴァンダレイ・シウバvsクイントン"ランペイジ"ジャクソン(10・31『PRIDE 28』さいたまスーパーアリーナ)
③4・25『PRIDE GP』開幕戦 さいたまスーパーアリーナ
④戴冠おめでとう賞→中尾受太郎
男の韓流賞→チェ・ム・ベ
ファミリー賞→健介ファミリー

【総括】悩まず決めたのはベストバウトのみでした。①MVPは、活躍としては五味選手だと思うのですが、『PRIDE』のライト級を確立して、ビッグマッチを制した時に選びたいと思いました。ノゲイラ(小)は累積点で。しかし、一番"神"を感じる選手。②シウバvsジャクソンはVT史上に残る名試合。本当に素晴らしい洗練された『PRIDE』スタイル。でも、素晴らしすぎてもっとグチャっとした初期『UFC』のようなVTが恋しくなるのは、贅沢というものでしょうね。

本誌『ザ・検証』連載中

せきしろ

①田上明
②長井満也&成瀬昌由vs棚橋弘至&タイガーマスク(4・9新日本プロレス 後楽園ホール)
③4・9新日本プロレス『STRONG ENERGY 2004』後楽園ホール
④2004年に見た、一番受けたくない技賞→田上のコーナートップからのダイビングボディプレス

【総括】①田上火山が噴火するのか、それとも休火山のままなのか!? はたして"秩父セメント"は存在するのか? 一ヶ月くらいハラハラさせられました。ハラハラしたわりには試合中継を見逃したりもしました。③4月9日の新日の興行は、長井&成瀬が誕生したり、後藤&ヒロが2人で邪道&外道&竹村3人を相手にしたりと見ごたえたっぷり! 見ごたえたっぷり過ぎて試合結果はまったく覚えてなかったりもします。長井&成瀬からは元リングス勢のいろんな底力を感じました。

ハッスル宣教師

ターザン山本!

昨年は"打倒・谷川"を掲げていたが、今年はいきなり谷川Pを大絶賛。『紙プロHand』で毎週ハガキによるテロを敢行中。

①谷川貞治
②エメリヤーエンコ・ヒョードルvsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ(8・15『PRIDE GP』決勝大会 さいたまスーパーアリーナ)
③8・15『PRIDE GP』決勝大会 さいたまスーパーアリーナ
④マット界のハルウララ賞→曙太郎

【総括】①2004年、マット界のMVPはK-1のイベントプロデューサー、谷川貞治氏しかいないだろう。今や天下の"視聴率男"と言ってもいい。テレビ界で不動の地位を築いたのは、まったくもって恐ろしいことだ。次点はミルコ・クロコップ。とにかくこの男は1年を通して試合をやりまくった。そして『PRIDE GP』では、あっけなくケビン・ランデルマンに負けてしまう。そこがまたミルコの面白いところでもあるのだ。こんなに自分のことを足し算している男はいない。彼の辞書には引き算という言葉はあってはならないのだ。②ベストマッチはノーコンテストになったが8月のGP決勝戦、ヒョードルvsノゲイラ戦に尽きる。勝負論であんなに興味を持って見た試合はない。期待感と興奮度は完全にMAXになった。③そういう空間を作り上げた『PRIDE GP』さいたま大会は奇跡の興行だった。たとえ試合が消化不良に終わったとしても、私はあの興行を絶賛する。試合前にあんなに楽しませてもらったことを忘れるなである。④曙は負け続けること、勝てないことで格闘技であることを逆に証明している貴重な存在である。彼に賞をあげないのはおかしい。格闘技的には"負の存在"なのにそれを超える人徳が曙にはある。もっともっと負け続けた方がいい。ハルウララのように……。さて、今年のボクはどうなるのか? その方が重要だ。なるようになるさ。どうせ、さよならだけが人生なんだから。

本誌『犬とTVの日々』連載中

中川雅博

新しい家族が出来ました。サモエドのニケです。犬、好きなんですよ…大好きっ! -INUBAKAです。ワイワイ楽しくやってたら、あっ-ちゅう間に1年が過ぎちゃいました。『中吉』http://chu-kichi.jp/

①辻結花
②〈プロレス〉田村潔司vs髙阪剛(2・4『U-STYLE』後楽園ホール)
〈MMA〉辻結花vsエリカ・モントーヤ(8・5『SMACKGIRL』後楽園ホール)
③12・19『WORLD ReMIX 2004』ツインメッセ静岡
④踏ん張ったで賞→立石史

【総括】①MVPは辻選手。素晴らしかった。②ワクワクしたよ。いいモン観たなぁ…。ウットリしちゃった。③世界最高峰のレベルにヒリヒリし、藪下めぐみの大活躍に心踊りまくり。バス酔いしたけど密航大成功!④立石

長南亮

りたいんですよ
ば嬉しいですけ
することが目標
闘うことが目標
—闘いたい選
長南　クラウス
すかね。あと因
れないですけど
彦）さんとハヌ
ったときに、ミ
ホドリコ（ノ・ゲ
見たんですけ
ドリコがまっ
なってないです
当強いですよ、
—へぇ〜！
強いんですか
長南　BJと
る人、みんな
さだ!!」って
言うんですよ
マット・リン
バンバン極める
階級なんか関
いで。いつかや
ですね、BJ
んでK-1に
かねえ。もった
よ!!（唇を尖
—ボ、ボク
（笑）。K-1
同日に開催さ
e!!」は意識
長南　KID
合だけは見ま
は、ジャンルが
がするから興
—そうです
の試合は3月

代表はスゴいって！　みんな応援してるって！　誰にもマネ出来ないって！

新婚フリーライター
中村カタブツ君（42歳）

①永田裕志
②長州力vs永田裕志の張り手合戦（10・9新日本プロレス　両国国技館）
③12・31『K-1 Dynamite!!』大阪ドーム
④最優秀歌唱賞→佐山サトル

【総括】①②天下を取り損なった男とド真ん中からこぼれた男の張り手合戦は、その本気度&興奮度で間違いなく昨年のベストバウト。特に昨年の永田は揺れる新日本の内部にあって、「みんな離れていくぅ……」と号泣したり、タッグパートナーのカシンに逃げられたり、不幸なプロレス人生を見事に表現。しかも今年の1・4では弟に勝つのが関の山というスタートダッシュの鈍さも維持し、今年も天下を取り損なう予感たっぷりで目が離せない逸材だ。③『Dynamite!!』はボビー、サップ、曙という確実に目を奪われる3バカ格闘技タレントを生み出し、テレビで見る格闘技興行として完成形。④最優秀歌唱賞としては、レスラーの中でただ1人歌のリサイタルを開催し、歌手としても最右翼な佐山皇帝なのは疑問の余地なしなのである。

悪相フリーライター
橋本宗洋

①五味隆典
②サトルヴァシコバvs小林聡（4・16全日本キック　後楽園ホール）
③4・25『PRIDE GP』開幕戦　さいたまスーパーアリーナ
④ベスト入場シーン賞→美濃輪育久

【総括】①『PRIDE』に出て突然、大化けした五味がMVP。5連続1RKOは偶然できるもんじゃない。②ベストバウトはキックからサトルvs小林。判定で勝てそうな流れだったのに、最終ラウンド、突如として強引な打ち合いを挑み、そして敗れた小林の〝業〟に打ちのめされた。③ベスト興行はオール一本・KO決着となったGP開幕戦。決勝大会の盛り上がりも凄かったが、〝これから始まる〟ってワクワク感に一票。④五味とは逆に『PRIDE』ではポテンシャルを発揮していない美濃輪だが、相変わらず入場は素晴らしい。特に『武士道』大阪大会の背中を向けながらのゲートせり上がり、『男祭り』の段差飛び越えダッシュは最高。試合内容も、レコ戦で吹っ切れたみたいなんで今年は期待大でしょう。P.S.これを読んでる各誌編集部のみなさま、お仕事お待ちしております。

本誌『ビンス・マクマホン徹底考察』連載
長谷川博一

京平タイム―の主役、和田京平さんのエッセイ集『人生は3つ数えてちょうどいい』の製作を手伝いました。心のBGMは『あの素晴らしい愛をもう一度』です。そんな感じで読んで頂けたら。今、TVに懐かしのダ・カーポが出ている。相方の男性を見ると思わずジャンボを思い出してしまう私。本の中の軽くラジオ体操をしながらリングに出ていったというジャンボのエピソードが美しすぎる。

①小橋建太
②ブロック・レスナーvsエディ・ゲレロ（WWEノー・マーシー）
③8・15『PRIDE GP』決勝戦　さいたまスーパーアリーナ
④掘り出し物外人選手賞→ジャマール
貴方のドスを愛しています賞→ビンス・マクマホン

【総括】①どの業界にも横綱は必要。『東スポ』は全日系にMVPをあげないのが伝統のようなので（笑）、私が1票。②見ていても骨の軋むようなレスナーのベリー・トゥ・ベリー。三沢光晴が世界でブレイクしたらこんな感じかと思わせるゲレロのスペシャルな動き。ゴーバーの乱入があって、しかもゲレロが涙の戴冠の大ハッピーエンド。作品としてのプロレスの見本のような名試合。③これしかない。Uインターvs新日本を思い出させる会場熱気（オーちゃんのおかげです）。この日が『PRIDE』のピークにならないことを願う。④ジャマールは観客との会話が上手い。プロレスを楽しんでいる。日本語憶えたらアイドルになるかも。ビンスは私にとって最高のプロレスラー。今が旬！（って何歳だよ）。

本誌『リングの汁ミゼット』連載中
花くまゆうさく

超売れっ子マンガ家&イラストレーター。いまの興味は、とにかく今成vs前田！

①エメリヤーエンコ・ヒョードル
②宇野薫vs川尻達也（3・22修斗　後楽園ホール）
③しいて言えば8・15『PRIDE GP』さいたまスーパーアリーナ

【総括】こういうのホントはじっくりふりかえって考えたいもんですが、①はその圧倒的な強さに脱帽。②ハンセンvsブロディのタッグ戦、キッド&スミスvsマレンコ兄弟、大江vs吉鷹など、過去に何度か後楽園ホールは揺れてますが、宇野vs川尻も揺れた。あとはヒョードルvs小川、魔裟斗vsKIDなどかな。③ヒョードルvs小川は、やるまえからとにかくドキドキ興奮したなと。そして出た現実も含めて面白かった。

元『紙プロ』ダミー編集長
原タコヤキ君

昨年まで連載しておりました『タコヤキ日記』の拡大版を綴っております。http://blog.goo.ne.jp/taco0522/

①谷川貞治K-1イベントプロデューサー
②小川直也vsエメリヤーエンコ・ヒョードル（8・15『PRIDE GP』決勝大会　さいたまスーパーアリーナ）
③12・31『K-1 Dynamite!!』&『PRIDE 男祭り』
④ベストファーザー賞→水道橋博士&井上きびだんご君（グレートアントニオ・プロデューサー）

【総括】①あれだけ巨大になったK-1のプロデューサーを継ぐということは、ズバリ言って、普通の神経じゃねえんですよね。想像を絶するプレッシャーが日々襲ってくるわけで。そんな谷川Pと昨年お食事をご一緒したところ、K-1の愚痴の一つでもこぼすかと思いきや「ああ、なんか、恋とかしてみたいなあ！」「こんなうまいイタ飯食べたことないなあ！」と、出てくるのは、これまた想像を絶する呑気なセリフのみ。こんな人だからこそ紅白の裏で民放史上1位を獲れたりするのである。②やはり、試合後のしぼり出すようなハッスルポーズにはグッとくるものがありました。あの〝ギリギリ感〟が『ハッスル』でも出ればいいのになあ。③基本的に視聴率とは完全なガチンコであり、大衆からのシビアなジャッジメントである。この二つの視聴率を足したらほとんど紅白のと変わらないのだからどえらい時代が来たもんだ。印象に残ったのはボビーと瀧本選手です。④昨年、よくお付き合いさせていただいた両氏は、会えばお子さんの話ばかりでした。なのでボクから右記の賞をお贈りいたします。

日本武道傳骨法會師範
堀辺正史

鋭い分析能力、ユーモア溢れる解説で格闘技の醍醐味を読者にお届けする「青春の大発見」者

①エメリヤーエンコ・ヒョードル
②ヴァンダレイ・シウバvsクイントン〝ランペイジ〟ジャクソン（10・31『PRIDE 28』さいたまスーパーアリーナ
③12・31『PRIDE 男祭り』さいたまスーパーアリーナ
④成長率ナンバーワン賞→瀧本誠

【総括】勝てる日本人に今後の期待感及び好感度の高いところから選んだ。

スポーツニッポン美人記者
丸井乙生

年明けからプロ野球ヤクルト担当に異動。真面目な職場で真面目な取材、真面目な原稿。違和感バリバリ。たぶん、取材されている側もバリバリ。「異物混入」の文字が頭に浮かぶ。全日本の斉藤レフェリーから「東京に友達が少ないのでこれからも一緒に飲みましょう」と手紙届く。添えてあった携帯番号は悪筆で読めず。矢部広報に電話して聞き直す。二度手間。今春、弊社に「まつい　いつき」さんという名前の女の新入社員が内定。ちょっと心配。幸せを祈る。

①小橋建太（次点　北斗晶）
②小橋建太vs秋山準（7・10ノア東京ドーム）
③7・10NOAH　東京ドーム
④奥闇で賞→斎藤彰俊
お疲れで賞→ケンドー・カシン
地が出てきたんで賞→川田利明

【総括】プロレス大賞は1票差で健介に敗れたが、私的MVPは小橋。7・10東京ドームは、肉体と肉体が激突する限界を見せ付けられたような気がする。鬼の技を受けきった秋山の心意気も加味した。次点は、改めてプロレス頭脳の凄さに感服したため。7・10は前座、中締め、ダブルメーンと順序正しいフルコースでご馳走様。おいしゅうございました。個人的表彰は、ダーク・エージェント設立で走り通した斎藤に。あのノアで、あれだけネタを振るという大胆行動は賛否両論あれど、アッパレ。ぜひZERO-ONE参戦を。しっくりきそうな気がします。カシンは全日本を退団した後も、火のない所に油を注いでから集中砲火を浴びせる言動に乾杯。団扇であおいで煙を立たせたのは東スポさんと私か。その後、再就職活動はいかがでしょうか。このまま放っておくと勝手に引退しそうなので、誰か引き止めて下さい。川田はハッスル軍の中でただ一人、マイクで高田総統に対抗しうる話術を発揮した。リング同様、もともと芸達者な人。ヒトラー、リンカーン、キング牧師に舞い降りたと言われる演説の神を味方につけ、総統を凌駕してもらいたい。

『生ゴン！』キャスター
三田佐代子

2005年もメジャー・インディー・ローカル・男女問わず、様々な団体の試合にワクワクさせて頂きたいです。寄る年波とか、不況とか、いろんな物事に負けず今年もプロレス界に奉公させて頂きますのでよろしくお願いいたします。

①佐々木健介with健介ファミリー
②川田利明&土方vs佐々木健介&中嶋勝彦　※レフェリー和田京平（5・22全日本プロレス　後楽園ホール）
③9・30DDT　後楽園ホール
④最初怖かったけど大好きになりました賞→鈴木みのる

【総括】④G1両国2日目で大接戦の末、決勝トーナメントに残れないことがわかった後のマイクが最高でした。「俺、ダメだったみたい。でも昨日今日と声援送ってくれたみんなの声と拍手が俺の勲章。ありがとう！」。インタビューしてもなかなかその気になって下さらなかったりとおっかないイメージが先だった鈴木選手ですが、このファンへの素直な感謝の気持ちで私も一気に鈴木みのるファンに。あの毛髪の先からベロ先、つま先まで全身に行き届いた闘争本能に心から拍手を送ります。テレ朝の討論会での存在感も際だってましたし、本当に失礼でまた怒られそうですが、こんなにプロレスアタマの切れる方だとは思っておりませんでした。ヤンキーな見た目に騙されるところでしたが、とても36歳のオトナのやることとは思えないアートな髪型の中には、実は超緻密な頭脳が隠されていたんですね！　2005年も鈴木みのるの一挙手一投足に釘付けです。

★
★
★

［『紙プロ』編集部］

本誌・鬼畜編集長 山口日昇

年末年始のクソ忙しい時期に史上最長記録の失踪をかまし、一時死亡説が囁かれる。失踪明け、シレッとした顔で編集部に顔を出す技術は天才的。

①髙田総統
②髙田総統vs〝キャプテン・ハッスル〟小川直也（一連のハッスル劇場）
小川直也vsエメリヤーエンコ・ヒョードル（8・15『PRIDE GP』決勝戦さいたまスーパーアリーナ）
③6・20『PRIDE GP』準決勝大会　さいたまスーパーアリーナ
④出過ぎでもいいで賞→アン・ジョー司令長官、島田雄三参謀長

【総括】①MVPは文句なしで髙田総統！　UWF以来のプロレス界の革命を体現している。それを体現することへのストイックさを見逃したら、プロレスは語れない。昨年末、髙田総統は『フロムA』という就職情報誌のインタビューになぜか答え、アルバイトをしている若者にこんなメッセージを残している。「ふだん私はハリウッド映画なぞは観ないのだが、諸君らにわかりやすく話してやろう。諸君らは『スパイダーマン』という映画を観たことがあるかな？　あの映画の監督であるサム・ライミ氏は、これまでとてもハリウッドの大作を撮るようなタイプの監督ではなかった。つまり、自分の趣味の延長線上にあるようなマニアックな映画を撮っていたわけだ。しかし、巨額な資金とチャンスを得て、世界中に向けて自分の世界観を披露する勇気と機会を持った。小さなこだわりを捨て、なおかつそれまでにコツコツと育んできた自分の世界観をより多くの人に観てもらうことに成功したわけだ。その『スパイダーマン』の1作目には、「大きな力には、大きな責任が伴う」というテーマが貫かれていた。つまりだ、諸君！　大きな夢や力を得たら、大きな責任は必ず伴うのだ！　そのことから目を背けない勇気を持て！　どうだ、いいことを言うだろう？」――昨年、髙田総統からは「大きな力には、大きな責任が伴う」ということの意味を教わった。ダメ？②髙田総統とキャプテンの一連のやり取りは試合ではないが、ベストバウトにふさわしい。その連続ドラマは続けて見ても単発で見ても、それから何度見ても笑えるし引き込まれる。これで泣かせることができたら、プロレスの歴史はまた一歩前進する。『PRIDE GP』決勝の小川vsヒョードルは、まさに〝史上最大の査定試合〟だった。結果・内容は残念だったが、そこに至るまでの過程や盛り上がりを考えれば、ベストバウトと呼んでも差し支えない。③ヒョードル、ノゲイラの見事な一本勝ち。小川のハッスル、吉田復活、サクの第1試合と、まさに奇跡の揃い踏みが実現し、ほぼファンが喜ぶ結果となった。プロレスでもありえねー世界観を現実に立ち昇らせたのは圧巻のひと言だった。

本誌・現場監督 堀江ガンツ

前号のニラサワさんに続き、今号は水野晴郎『シベ超』監督と、自分の趣味でプロレスと関係ない人を『紙プロ』に登場させている張本人。やっぱり次は藤岡弘、探検隊長かなぁ。（『川口浩探検隊』DVD予約しました。もちろん初回限定探検ユニフォーム付き）

①セルゲイ・ハリトーノフ
②安生洋二vsハイアン・グレイシー（12・31『PRIDE 男祭り』さいたまスーパーアリーナ）
③『PRIDE GP』（3大会）
④ワーストアングル賞→カズvsハイアン
流行語大賞→「ガクトーッ！」（by吉田秀彦）

【総括】①2004年はGPを中心軸に、新イベント『ハッスル』を含め、クライマックスの『男祭り』へと続く大河ドラマだった。その主役である小川直也、〝最多出演〟のミルコ、そして最後に頂点に立ったヒョードルはみなMVP級の活躍だったが、あえて〝助演〟として最高の働きをしたハリトーノフにMVPを与えたい。これぞダークホースという、ハリトーノフの不気味なまでの存在感があったからこそ、GPに深い味わいがあったと言えるだろう。準決勝でノゲイラに敗れたが、いまだ謎が多いこの男に2005年も注目だ。②安生vsハイアンはPRIDE版『ロッキー』だ。夢や希望なんてとうの昔に捨て去ったロートルが、自分の存在意義を自分自身に証明するための闘い。だからこの試合は試合展開だけを見ても意味はない。重要なのは安生がこの一戦のためにどれだけの練習をつみ、どれだけの思いを抱いてリングにあがったかどうか。もちろんファンは安生の練習や試合までの生活を見ることなどできないが、彼の表情でそれを伺い知ることはできる。君はリングに向かうとき、そしてリングを降りた後の安生の晴れ晴れとした顔を見たか？　あの表情こそ、安生が自分自身との闘いに勝利した証明なのだ。④それだけに「エイドリアン〜ン」な感動をブチ壊しにした陳腐なアングルにはガッカリ。ハイアンは正しい！

本誌・麻雀打ち ジャン斉藤

アントン永久電機の情報と、師である伝説の雀鬼・桜井章一を考えることだけが脳ミソの9割を支配する30歳。「あえて言えば完成した!!」（アントン）と言われる永久電機情報を受け付けてま〜す。

①小川直也
②セルゲイ・ハリトーノフvsセーム・シュルト
③8月15日『PRIDE・GP』決勝ラウンド
④特別賞→髙田総統with島田参謀長&アン・ジョー司令長官

【総括】①ここぞ！という抜群のタイミングで、〝小川直也〟というプロレスラーのすべてを『ハッスル』と『PRIDE GP』にドンと張った小川が、その大きな賭けに勝った1年だった。最近のマット界でここまで大きなウネリをつくりあげた選手は、いない。GP決勝戦ではあっけなく敗れたが、GPシリーズの五ヶ月のあいだ、多くのファンが小川の一挙手一投足にハラハラドキドキヒリヒリしていたと思う。②ハリトーノフは、とにかく不気味だった。リング上で初めて、死に至りしめかねない〝拷問〟を見た。GP決勝ラウンドでは〝脇役〟だったが、〝主役〟ではなかったからこそ、すべてを披露することなく、ベスト4の中では唯一底知れなさを印象づけたと思う。④試合をせずともマイク一本をイベントを締めるその仕業。髙田総統はプロレス史に残る怪人だ。島田参謀長&アン・ジョー司令長官のバカコンビも最高。普段のバカバカしさもさることながら、11・13新日本大阪ドームでハッスル阻止に燃えヘタしたら何をしでかすかわからない新日本勢がピリピリした雰囲気を醸し出す中、いつもの調子でリングサイドを徘徊していたバカさ加減は、もっと評価されるべき!!

本誌・下っぱ 斎野もみじ

新年早々風邪でダウンし、生まれて2度目の免停をくらい、ゴキブリが大量発生し、新人が辞めました。おまけに貧乏です。もう、どうにでもなれ。

①セルゲイ・ハリトーノフ
②長南亮vsアンデウソン・シウバ（12・31『PRIDE 男祭り』さいたまスーパーアリーナ）
③12・3　みちのくプロレス後楽園ホール大会
④スキャンダル賞→入江秀忠暴行事件

【総括】①ニンジャやシュルトという、強い上に知名度が低いという、ハッキリ言って誰も闘いたくない相手を次々と破壊したハリトーノフ。血みどろファイトといい、氷の微笑といい、出身地といい、まさにリアル版ウォーズマン。20年来のウォーズマン派にとってMVPは当たり前です。②長南の最後まで試合を捨てない心意気に感動。そして「リングス」を観て育った長南は、その遺伝子に組み込まれた〝カニばさみ→ヒールホールド〟というサンボ流ムーブで、かつてリングス勢が勝てなかったブラジル人を撃破してくれた」と勝手に解釈。ホントに嬉しかったです。③東北出身なもので、離脱が相次ぐみちプロの行末を案じていたのですが、12月の後楽園大会で、みちプロの明るい未来が見えました。④2004年、プロレスが一般紙に大きく取り扱われたのは『ハッスル』と入江暴行事件（だった気がする）。みんな忘れてるので、この場で蒸し返しときます。

本誌・ちゅうぶらりん 松澤チョロ

あまり自覚はないのですが1月16日に33歳になったみたいです。どうでもいいですが、最近、堀内監督と誕生日が一緒だと知りました。あと、ダンディ坂野も……。去年は同棲を解消されたりとプライベートでまるでいいことがなかったので、今年は、まずはデートをしてくれる人をゲッツしようと思います。

①金村キンタロー
②ボブ・サップ全試合
③12・19スマックガール静岡大会
④同期で賞→北斗晶&グリズリー岩本

【総括】①「あんなにプロレスが上手いヤツはいない」と毒舌王のヒトさんをも唸らす金ちゃんがMVP。去年も様々なリングで活躍した金ちゃんですが、観る試合観る試合ハズレなし。金ちゃんには会う度に「『紙プロ』とは癒着してやっていこう！」と肩を叩かれるので、今年は誌面でも癒着して面白いことができればと思ってます。②右を向いても左を向いても非難轟々のサップですが、ある意味、サップほどドキドキさせてくれる試合を連発してくれる選手はいません。③女子格については『女子バーネット』に詳しく書きましたが、トータルで考えてもベスト興行は12月のスマック静岡大会につきます。④去年のプロレス大賞を総なめにした健介ファミリーですが、誰か一人をあげるなら、やはり北斗。そして、個人的に裏プロレス大賞とも言うべきインパクトを与えてくれたのが北斗と同期のグリズリー。今年も2人にはプロレス界の裏と表での活躍を期待してます！

本誌・電気部 ささきぃ

空手バカ・小笠原和彦に「おまえなら本気でやればルシア・ライカに勝てる」と言われ、一瞬考えるも「女の子の顔は殴れない」という、ある意味男らしくもチキンな理由で選手転向を断念。体重は去年よりは落ちました。サンジェイ・ダット再来日を心から喜んでいます。今年で30歳になります。

①田村彰敏（格闘結社・田中塾）
②土井広之vs後藤龍治（6・4シュートボクシング　後楽園ホール）
③4・25ZERO-ONE　博多スターレーン
④個人賞　タッグ部門→日高郁人&藤田ミノル
期待してますで賞→裕樹（REAL DEAL）

【総括】MVPはミャンマー・ラウェイウェルター級チャンピオン。歴史的快挙をなしとげた日本のサムライに「感動をありがとう！」。ラウェイは自分にとって大きな出来事であり、自分から行ったくせにプレッシャーで逃げたくなった大仕事でした。②ベストバウトはSBの日本人決戦。試合前にインタビューしたこともあって「土井選手が負けたらどうしよう」と、当日は選手なみに緊張して吐いてました。何してんだ。③ベスト大会は、小川直也・横井宏考参戦の『PRIDE GP』開幕戦を裏に開催されたZERO-ONEの地方大会。大会の内容も良かったですが、速報を心待ちにしながら「こっちはこっちで頑張る」姿勢に感動！　メインに武藤登場、坂田vs葛西のリベンジマッチ、サンジェイ・ダット初来日の日でもありました。④タッグ賞は、この2人はプロレス界の宝だから、という単純な理由で。身体、大事にしてください。もうひとつは見た試合がどれも良かった&DoAトーナメントの頑張りに心打たれて。知る人ぞ知る（？）博多の選手です。去年「期待してますで賞」に選んだ石狩太一は、まったく別の方向でブレイクしてしまいました。いろいろ書いたけど気持ちの上では今年のMVPも桜庭和志！　……ですが、結局去年は一度も試合をナマ観戦できませんでした。今年こそ！

本誌・パンフ職人 坂井ノブ

『ハッスル』のポスター、パンフ等、『PRIDE』のパンフ作成、紙プロHand、紙プロRADICALのWWE担当、その他高田モンスター軍の秘密工作等を担当してます。

①髙田総統
②ザ・グレート・サスケ&ディック東郷&守部宣孝vs日高郁人&藤田ミノル&マッチョ☆パンプ（8・22　みちのくプロレス　ニューワールド仙台）
③3・14　レッスルマニア20（ニューヨークMSG）
④新人賞→NJPW

【総括】初めてアメリカに行き現地で体験した人類史上最高のプロレスの祭典『レッスルマニア』は、ハッキリ言ってプロレス観が根こそぎ変わるぐらい強烈でした。イベント、試合、そして会場の雰囲気、ストーリー等、あらゆる完成度が完璧!!

語録で振り返る

マット界2004

2004年も多くの名言・珍言を生まれたマット界。"語録企画の最狂横綱" 我らがドラゴンは、いまだ発言規制が解かれてないのでノミネートは少なめですが、そのぶんアントン・アケボノ・サダハルンバが好調です!! 声に出して読んで振り返りましょう!

構成／編集部　designed by matsu(TwoThree)

「ハッスル、ハッスル、ハッスル!!」（小川&橋本）

■1月4日 『ハッスル』シリーズ、スタート!!

DSEが主催するプロレス新ステージ『ハッスル』は、小川、橋本、川田らが参戦。旗揚げイベントは新日本ドーム大会と興行戦争になり、プロレスでは初めてとなる、さいたまスーパーアリーナで開催された。豪華な舞台装置の都合上、広い広いスタジアム・バージョン。空席が目立ち興行的には失敗と言っていい客入りだったが、そんな状況でも「ハッスルで流行語大賞を取る!!」と意気込んでいたのは破壊王。当時は冗談にしか聞こえなかったが、小川の『PRIDE』出場に始まる快進撃でホントに受賞しかねない勢いを見せ、イベント自体も回を重ねるごとに内容や客入り的にも安定度が増していった。2005年もハッスル、ハッスル!!

「猪木さん、出てきてください!!」（藤波辰爾）

■1月4日 ドラゴン、新年早々アントンに騙される

1月4日の引退試合の相手として、しつこくアントンを指名していた我らがドラゴン。当日はガウンをまとい完全フル装備で張り切ってリングに上がったが、肝心のアントンはビジョンから「俺は行かない!!」と笑顔でメッセージ!! 呆然とするドラゴンの表情もビジョンに映し出されると観客は大大大爆笑!! しかし、笑われてもタダでは終わらない図々しさを持つのがドラゴンだ。アントンの「身体を治して、若い選手に背中をみせてやってほしい」という言葉を〝引退するな〟と都合良く曲解。「猪木さんはボクの先の先を読んで、ファンの反感を買ったとしても出てこなかったんだと思う」などと、まったくアテにならない深読みコメントをして、うまいこと引退をウヤムヤにするのであった。

「ワイルド・ストロング・スタイル」（中西学）

■1月4日 中西学、新年の抱負を吠える!!

新日本の中では、ドラゴンや吉江豊と並んで愛さずにはいられないキャラクターを持つ男、中西学が新年早々やってくれた。新コスチュームにした理由を記者に問われると、「もっとワイルドに人間臭く、天龍との武骨対決にピッタリのもの。中西学というのは、ツメが甘いと言われるが、ハチャメチャもいいじゃない。ワイルド・ストロング・スタイルでいく!!」と、意味はよくわからないがニヒルな口調でとにかく大袈裟に語った。服の襟首を立てる程度が中西のワイルド観だと思われるが、どうだろう。

「嘘つきだと言われたくない」（藤波辰爾）

■1月9日 ドラゴン、胆石手術に成功

胆石摘出のために入院していたドラゴンは、無事に手術を成功させて病床会見を開催。「引退が先延ばしになってしまったので、いつかそれはやりたい」と、もはや誰も耳を傾けないだろう引退コメント。言うにことかいて「嘘つきだと言われたくないからね」とまで付け加えるから最高だ― いまだに自分を〝ウソつき〟だと思っていないドラゴンの面の皮の厚さには脱帽なのだ。

「胆石ベルトをつくりたい」

（藤波辰爾）

■1月15日　ドラゴン、退院会見でトンデモ提案!!

ドラゴンがめでたく退院。その記者会見を開催したが、なんと「摘出した胆石をベルトに埋め込んで新王座をつくるのもいい」と爆弾発言!! 退院早々、ドラゴンの脳波を診断したくなる珍案を突きつけた。こんなこと言い出すドラゴンだけに、この胆石ベルトを堂々と腰に巻いて「王者だからG－1に出る資格がある!」「IWGPと胆石の統一戦だ!」などと言い出しかねないが、数日後、新日本側はドラゴンと選手契約をしないことを発表。これでリングに上がれない事態になり、引退試合もできなければ現役続行もできない。ドラゴンの生殺しとはこのことだが、本人は至って現役気分だからこれでいいのだ。

「最近ね、健介の夢をよく見るんだよ」

（上井文彦）

■1月29日　上井氏、〝出戻り〟健介を大絶賛!!

WJを離脱し、古巣・新日本にカムバックした健介は、当初は大ヒールとして扱われたが、持ち前の明るさに加えて、フリーになり吹っ切れたのかベビーフェイスとして大活躍!! これには当時の新日本の執行役員だった上井氏も大絶賛! Majiに Koiする5秒前どころか健介にゾッコン!! もう昼メロでも使わないような口説き文句を照れもせずに送ったのであった。健介の夢を見る上井さん……。何とも微笑ましい話だ!!

「自然とDDTみたいな形になったんじゃないか?」

（山本宜久）

■2月1日　ヤマヨシ、魔性のDDTで元・霊長類最強を撃破

『PRIDE・27』で、かつて〝霊長類最強〟と恐れられたマーク・ケアーと山本宜久がヘビー級GP出場権を懸けて対戦。ケアーは開始早々胴タックルでテイクダウンを奪うが、フロントネックロックの状態で倒れ込んだため、ちょうどDDTの体勢になり、そのままマットに頭から突き刺さり意識を失ってしまった! わずか10秒で勝利をモノにしたヤマヨシは「昔の栄光だけでは通用しない」「心が折れたんじゃないですか?」「タックルを踏ん張った分、僕がプロレスラーだから自然とDDTみたいな形になったんじゃない?」とヤマヨシ節を存分に炸裂。しかし、この発言に激怒したファンから苦情が殺到し、事態を重くみた髙田統括本部長は〝GP出場査定試合〟としてミルコ戦を実施。この試合で「出るか、魔性のD・D・T!!」という秀逸な煽り映像が誕生するのであった。

「永久電機はあえて言えばもう完成した」

（アントニオ猪木）

■2月20日　アントン、ついに永久電機の完成を告白

ここ数年「WWEの人気が下がっている」と並んでたびたびアントンマウスから吐き出されるのは、永久電機関連発言に決まっている。言葉ばかりが先行し、待てど暮らせど完成発表会見は行われないが、それもそのはず。「あえて言えばもう完成している」電機は、特許関係の問題であまり人目にさらすことはできないのだ!! 永久電機の関連でブッシュ大統領からパーティーの招待状も届いているというアントン（出席はしないとのこと）。本誌・永久電機追跡班が掴んだ情報によれば、茨城に実験施設が存在することが判明している。2005年、いよいよ電機は動くか!?

「オレは口べた」

（中西学）

■2月25日　中西、新日本へ宣戦布告!

中西学が永田裕志ら所属選手全員へ宣戦布告。「新日本はあるべき戦いを忘れている」「永田は口だけ」など痛烈に批判した。「新日本は本来、闘う集団だった。口や言葉でプロレスをするんじゃない。そんな怒りと憤りが前々からオレにはあった」と天敵カシンの口撃を筆頭に、はらわたが煮えくり返っていた模様の中西。「永田は言葉でプロレスをする先駆けのような存在。心身を鍛えることがレスラーの大前提だけど、永田は何を鍛えてきたんだ。オレは口べただけど、研ぎ澄まされた肉体と技術がある」。永田批判の勢い余ったのか、自分の口べたをカミングアウト。ちなみに今年の中西さんには「一人パイレーツ」「パイレーツは一人では無理があった」などの名言もあり。

「我こそが髙田モンスター軍総統、髙田だ!」

（髙田総統）

■3月8日　『ハッスル2』に髙田総統が初降臨!!

『ハッスル』の、いや、2004年のマット界・裏MVPともいえる活躍を見せた髙田総統（髙田本部長とは古くからの友人とのこと）。川田を「引きこもり」、長州を「ロートルの黒パンツ」扱いにし、試合をせずとも一線を越えた話術だけで観客の心を鷲掴み!! とくに小川イジリは絶品で、総統信者は急増中。2005年も目が離せないのである。ビターン!!

「みんな離れていくぅ……!!」

（永田裕志）

■3月12日　永田、蝶野の裏切りに涙!!

蝶野の裏切りとか、細かいシチュエーションはどうでもいい。とにかく凄かったのは試合後の永田劇場!! 唇を震わせながら、「蝶野正洋として新日本を放棄したということでしょう。みんな、みんな、離れていくぅ……!!」。泣きじゃくりながらその子泣きジジイ顔に磨きをかけるから堪らない。読者の皆さんも一度、声を出して実践してみよう!! スリー、ツー、ワン、「みんな、みんな、離れていくぅ……!!」。これは「いいんだね、殺（や）っちゃって!!」と並ぶ永田二大語録だ!

「オレのインタビューはいいのか?」

（イズマイウ）

■4月5日　『UFC』にイズマイウがなぜか出没!!

『UFC47』の公開計量の会場に、『ジャングル・ファイト』のTシャツを着込んだヴァリッジ・イズマイウがなぜか登場!! イズと言えば、アントンがいる場所に必ず姿を見せる&人の300倍目立ちたいの男として、本誌で大人気を博していたが、MCのブルース・バッファーがアナウンスしている前をわざわざ横切ったり、顔見知りの日本人記者をつかまえては「オレのインタビューはいいのか?」と逆オファー!! 期待を裏切らない行動全開なのであった。ちなみにアントンが豪語する「100人のブラジル格闘軍団」とはたぶんイズ軍団のことだよ。

「今日は子供をまじえて家族会議です」

（佐々木健介）

■4月17日　埼玉の最強（or節約）主婦が全日本マットに初参戦!

2004年はマット界はもちろん、芸能界でも、その名を轟かせた健介ファミリー。ここ最近は北斗のリング登場も珍しくはなくなってきているが、現役引退後、頑なにリング復帰は拒み続けてきた北斗が、カシンマジックにはめられたとはいえ王道・全日本マット参戦は大きなインパクトを与えた。このとき、「俺がダメって言うより子供がダメって言う方が気が変わる

かも。今日は子供もまじえて家族会議です」と相変わらずの恐妻ぶりを発揮しつつ誰よりも苦悩の表情を浮かべていたのが健介。中嶋クンがファミリーに加わったといえ、6歳の健之介クンと2歳にも満たない誠之介クンの意見が家族会議で通るはずはなく、結局、家族会議といっても北斗の独演会となっているのは容易に想像がつく。つい先日の『Dynamite!!』での武蔵戦のオファーも北斗の反対がなければ、健介は出場して〝谷川ワールド〟の色に染まってしまった可能性が高い。それを考えると、今後も家族会議という名の北斗晶・独裁政治に健介は大人しく首を頷いているのが正解と言えるだろう。

「ボビーの敵討ちさせてください（笑）」（菊田早苗）

■4月23日　パンクラスの菊田がホイス戦をアピール！

前年の11月、近藤に敗れて以来の復帰戦でキース・ロッケルと対戦した菊田。勝つには勝ったもののピリっとしない判定決着に試合後の菊田は記者陣相手に試合時間以上にボヤキまくり。今後対戦したい相手としてホイスの名前を何度も何度も口に出した菊田は「ホイスとだったら今日みたいな試合にならないと思うし、多分噛み合うと思うんだけどなぁ〜。『カラクリTV』でボビーがホイスとやりましたけど、正直うらやましかった。僕にボビーの敵討ちさせてください！（笑）」と言ったり、「榊原さんがなんとかしてくれないですかね〜」と、ホイスばかりか榊原DSE代表にまでラブコール。年が終わってみれば、ボビーの敵討ちどころかボビーのセコンドとしてホイスも出場の『Dynamite!!』へ来場していたのであった。

「ユー、ユー、ユー！」（ケビン・ランデルマン）

■4月25日　ミルコ、グランプリ1回戦で敗退！

2004年・最大のアップセットと言っても過言ではないランデルマンのミルコKO葬。前評判を覆し、ミルコの『PRIDE』制圧の野望を一瞬で打ち砕いたランデルマンは、リング上で大興奮！「ユー、ユー、ユー！オマエらと同じようにオレも1人の人間だ！　だから試合前は怖かった。でも、またオレはオマエらのために闘うだろう。オマエらのためなら地獄を見てもいい。そして、また必ず天国を見てやる！」とマイクアピール。興奮して汗まみれのままMCのケイ・グラントに抱きつき、ケイさんの一張羅を台無しにしたことはあまり知られていない。

「ボクは在日韓国人です」（高岩竜一）

■4月30日　高岩、「天下一Jr」を制す!!

ZERO-ONE後楽園ホール大会で行われたジュニア最強決定リーグ「天下一Jr」決勝戦に臨んだ高岩竜一が、長州力の愛弟子・石井智宏との大激闘を制して見事に優勝を果たした。高岩は、試合前に日本と韓国の国歌が演奏されたことについて「それは僕が在日韓国人だから」と告白。続けて「僕はそれを誇りに思っているし、日本で生まれ育ったから日本人としての誇りも持っている」とマイクアピールすると、会場からは割れんばかりの喝采が送られた。試合後、高岩は「なかなか表に出す機会がないので（在日韓国人であることを）こういう場を借りて言わせていただきました。これを機に賛同する韓国人レスラーがいれば軍団を作ってもいいんじゃないか」と韓国人レスラー軍団の結成を呼びかけた。優勝の「願い事」で直訴した橋本真也との一騎打ちはいまだ実現せず。高岩の願い事が天に届く日はいつになるのか。

「ガクトーッ!!　やったぞーッ!!」（吉田秀彦）

■6月20日　吉田秀彦、元K-1王者に一本勝ち！

6月20日、さいたまアリーナで開催された『PRIDE・GP』準決勝。マーク・ハントに見事一本勝ちをおさめた吉田秀彦は、客席に向かって「今日はですね、ボクはあんまり友達がいないんですけど、え〜、一人今日来てくれてます。ガクトーッ!!　やったぞーッ!!」と、ドン・フライ戦のネプチューン名倉（「名倉さん、勝ったよ!!　イェイ！」）に続いて客席の知人に仰天アピール。Gacktのライブから力をもらったと続け、これからも刺激しあってどんどんいい試合をしていきたいと語った。客席は突然のアピールに引き気味だったが、吉田は満面の笑みで勝利の喜びを表していた。イェイ!!

「女の子はダメです」（橋本真也）

■6月25日　『火祭り』にA・コングが乱入!?

6月25日後楽園大会で、熱きリーグ戦『火祭り』の参加選手が発表となった。毎年恒例となった『火祭り』で、これまた恒例となっているのが参戦選手による意気込みとマイクの奪い合い。佐々木が「火祭りはいつも同じようなメンバーばっかりで面白くねぇ。俺が出てもっと面白くしてやる」と参戦を表明すると、同じくリングに上がったリョウジに「おい変態、なんか言うことあるか」とつっかかる。「誰が変態じゃコラ」と怒ったリョウジは「今年こそ火祭り出ちゃうぞ。どーですか、お客さん!!」と、どこかで聞いたような言葉でマイク。黒田が怒って「人のセリフ取るな、コラ!!僕的にはやっぱり……」と言いかけたところで全員が飛びかかる。続いて宇和野貴史がマイクを持つも袋叩きに、佐々木が「バカヤロー、テメー」と言いかけて袋叩き、大森が「ということで、えー」と言いかけて殴られ、横井が「オマエらうるせぇよ」と言いかけて投げられ、黒田が「ですから僕が」と言いかけて蹴り飛ばされる。大谷が「やっぱ最後は俺じゃねぇか？」と語りだすも、シメたのは橋本真也の「ということで、今年も『火祭り』行います」と言う言葉だった。しかし、ここで客席から奇声が。立ち上がった大柄な外国人女性は、なんとアメージング・コング!! コングは叫び声をあげながらリングに近づき、破壊王に「火祭り」参戦を直訴した。「こいつも熱い男だ」というヤジが観客から飛ぶ中、破壊王はごくごく冷静に「ごめんなさいね、女の子はダメです」と返答。「ありがとう、ごめんなさいね」と紳士的になだめられたコングは、しぶしぶ客席へ戻った。

「そんなに簡単だと思うなら、スパーリングをやってみればいい」（曙）

■7月17日　曙、中国散打王に判定負け

韓国で開催されたK-1アジアGPに出場した曙は、中国散打のヘビー級王者・張慶軍のヒット＆アウェイ作戦でドツボにはまり、終止逃げ回る張を追い回しているうちに判定負け。リング中央にどっしり構え、逃げ回る相手を追いかけ回す、ある意味での横綱相撲な展開だが打ち合わない相手に曙はフラストレーションがたまりまくっていた。「もっとコーナーに詰めたらどうだ?」という地元メディアの質問に憮然とした表情で「そんなに簡単だと思うなら、スパーリングをやってみればいい」と吐き捨てた。「人は良いんですけど性格は悪いんですよ。普段はホントにワガママで、完全にヒールですからね」と語る元付き人・一宮章一は「普段のワガママさを全面に出すしかない」とアドバイスを送るが……。

「タイソンは強かった」

（谷川貞治）

■7月30日　タイソン、復帰戦を白星で飾れず

2003年大みそかの「Dynamite!!」中継に登場し、「日本に入れてください」と哀願し、「良いお年を〜」と笑顔で手を振ったマイク・タイソン。K-1参戦秒読みかと思われたが、7月30日（現地時間）にアメリカ・ケンタッキー州ルイビルで行われたダニー・ウィリアムス戦でまさかの4RKO負け。38歳という年齢からくる衰えなども指摘され、スポーツ紙などでは限界説も囁かれた。しかし、ただ一人だけタイソンを絶賛する男がいた！　K-1イベントプロデューサー谷川貞治氏だ。タイソンはK-1との契約がありながら一方的に試合を決定した模様で「こちらのあずかり知らぬところで試合が決まっていた。招待もされましたが、こちらが認めた試合ではないので自費で行きました」と谷川氏。「パンフレットとTシャツも買いました」とノリは相変わらずなのだが、試合については「調子が良過ぎて（タイソンは）足を痛めてしまったんです」「相手がクリンチばっかりしていた」とタイソンの実力を最大限に評価!!「今後あらためて交渉を続けます。いい選手、ホントいい選手ですよ。負けたのは100%アクシデントです」と言い切ったが、その後は交渉の音沙汰が聞こえてこないばかりか、12月にはアリゾナ州の路上で道を渡ろうとしたタイソンのために停車した車の屋根に上り奇声をあげながら拳やヒザで叩いたために逮捕されてしまう。アメリカ国内ではコカイン中毒疑惑が報道されたり（マネージャーが否定）、K-1参戦どころか、さらに日本入国が厳しくなりそうな雲行きだ。

「試合当日にすべてが明らかになる」

（ハリトーノフ）

■8月12日　ハリトーノフ、ノゲイラ戦について完全秘密主義を貫く

小川緊急参戦で大きな話題を呼んだ『PRIDE・GP』の隠れたMVPといえば、"ロシア軍・最強戦士"セルゲイ・ハリトーノフだろう。初戦でムリーロ・ニンジャをボディブローで打ち砕き、次戦のシュルト戦は見るに堪えない"拷問技"でリング上を地獄絵図に。準決勝ではノゲイラに僅差の判定負けを喫したが、その実力はまだまだ出し切っていない。「試合当日にすべてが明らかになる」――すべては神秘のベールに包まれたまま。完全秘密主義を貫くハリトーノフのキメゼリフだ。

「負けて格好悪いですけど、ハッスルだけはやらせてください！」

（小川直也）

■8月15日　『PRIDE・GP』決勝ラウンド

『ハッスル』を広く世に知らしめるという、とてつもなくマヌケで崇高なモチベーションで『PRIDE・GP』に乗り込んだキャプテンは、準決勝でヒョードルに54秒で敗れ去った――!!　試合後、マイクを握り申し訳なさそうに観客に頭を垂れ、魂のハッスル・ポーズを披露。大会終了後のけやき広場にも現れ「ハッスル再決起集会」を敢行。大歓声を浴び感極まるキャプテンは「これ以上しゃべると涙が出てくるんで……」と声を詰まらせ、"ハッスル査定試合"は巨大な感動を生み出し幕を閉じた……が!!　まさか髙田総統が「君こそ泣き虫だ〜！」とネタにするとは、このときは思いもしないキャプテンであった。

「円形脱毛症の理由？ストレスです」（曙）

■9月24日　曙、K-1王者ボンヤスキーに挑む

谷川貞治K-1イベントプロデューサーは「いや〜、横綱は強いよ」「寝た時も強いよ。立ってる時はもちろん強いしね」「横綱は肩固めで世界を制すると思う」と曙を大絶賛するが、4連敗でいよいよ風当たりが強くなってきた9月のK-1GP開幕戦では2003年K-1王者レミー・ボンヤスキーとスペシャルマッチで激突することになった。試合前の会見に坊主頭で登場した曙は、後頭部の円形脱毛症を隠すでもなく、堂々と「気合いを入れるために頭を刈った。円形脱毛はストレスです」と言い切り、不退転の決意を表明した。しかし、いつ、何時、誰に対しても呑気な谷川貞治プロデューサーは「ボクが思うに髪を染めた時の薬が合わなかったんじゃないかな？　毛穴も大きいだろうし」というシャーロック・ホームズばりの名推理。髪染めでハゲた元横綱……谷川氏の2004年の発言の中でも、3本の指に入る名言である。

「ここだ！　いまタップしただろ!!」

（入江秀忠）

■10月6日　お騒がせ男・入江がスパーン戦勝利をアピール！

知り合い女性とのトラブルでの逮捕騒動で、2004年のインディー界の中では良くも悪くも知名度アップに成功したのが入江秀忠。一連の騒動を詫びるために、みそぎマッチを行った入江は、試合前、因縁深い『DEEP』佐伯代表を呼び込むと、事件前に引退覚悟で闘った韓国でのスパーン戦の映像を流し、「判定負けにされたけど、俺はタップを奪っている。今日はその証拠を見せる！」と佐伯代表＆観客に豪語。会場で試合映像を流した入江は、「ここだ！　いまタップしただろ!!」と自信満々にアピールするも映像ではハッキリと確認できず。それでも繰り返し「ここだ、ここ！」とアピールを続ける入江に観客もバカ負けしたか「タップしてるぞ！」と後押し。「スパーン戦は俺が命を懸けた試合だ。次の試合に勝ったら無効試合にしろ!!」と佐伯代表に要求した入江は、立会人として呼んだターザンの存在を忘れ逆鱗に触れるという失態を演じながらも、その後の指定試合に見事勝利　韓国大会の主催者・諸岡氏はスパーン戦は無効試合どころか入江のタップ勝ちに変更!!　その事実をスパーンやファンが理解しているのかは定かではない。

「天下を取り損ねた男」

（長州力）

■10月9日　長州が新日本マットのド真ん中を占拠！

古くからコピーセンスも評価が高かったものの、同時に滑舌の悪さも目立っていた長州。前ブリなしに登場し、観客はおろか選手関係者まで驚かされた長州の新日殴り込みマイクは、『ハッスル』効果か、非常に聞き取りやすい語り口で、真っ先に駆けつけた永田に対して「よくお前だけ上がってきたな！　さすが天下を取り損ねた男だけはある！」という、非常にごもっともなもの。さらに長州は「中にいる人間が信頼されなくて、外に出た人間が"ド真ん中"に立ったということは、わかるか？　俺を上げた人間が罪を背負うのか？　いままでこういう状態にしたテメエらが罪を背負うのか？」と意味深な言葉を続けた。この長州乱入からほどなくして上井取締役が新日本を退社。"天下を取り損ねた男"永田は年が明けてもTKに敗れたウォーターマン相手に"新日最強の座を取り損ねた男"となってしまった。2005年、永田裕志はどこに!?

「負けてマイク持つのも何ですけど、イズムの道場長に就任しました」（伊藤崇文）

■10月12日　伊藤、イズム道場長就任を発表!!

パンクラス後楽園大会のリングで「チャンスを与えて欲しい」と宣言した直後にヒース・シムズに秒殺負けを喫し、追い込まれた感のある伊藤崇文と、パンクラスや「DEEP」のリングで白星に恵まれず、スランプに陥った感のある門馬秀貴が対決。活路を見出したい両者の一戦は、突進した伊藤をしっかり掴んだ門馬が1ラウンド1分34秒で一本勝ち。敗れた伊藤は「ちょっと言いたいことひとつ」とマイクを持ち、会場からの「引退するなよ」の声に対し「するかボケ、あほ!」と一喝。「負けてマイク持つのもどうかと思うんですけど、イズムの道場長になりました。もっとみんなが憧れるパンクラスイズムを俺は作りたい」と、たしかにどうかと思える状況で所信表明を行い、「キックの試合にも挑戦したい」ともアピール。後日伊藤は全日本キックプロテストに挑戦、見事合格―　へこたれない強さこそ、いまのパンクラスイズムの魅力である。

「いままで研いだ刀はパンクラスで使うべきだ。いまはただの鉄だ!」（佐藤光留）

■10月12日　鈴木みのるに愛弟子・佐藤光留がシュート発言!

船木が顧問を辞任してからは、毒舌マイクアピールは郷野の専売特許になっていた感が強かったパンクラスマットで、突如飛び出した佐藤光留の師匠・鈴木みのるに対するガチ発言。佐々木恭介との試合をドローに終えた光留は「新日本の若手とは闘うのに、どうしていつも一緒にいる僕とは闘ってくれないんですか?　11/7、NKホール第一試合で僕と闘ってください!!」と突然のマイクアピール。しかし鈴木の返答は、歩み寄った佐藤に対する殴る蹴るの暴行!　これまた、鈴木なりに正しい返答の仕方ではあったのだが、パンクラス・尾崎社長は「どんな理由であっても、試合を終えた選手に暴行を行うことは許されない」と鈴木に減俸処分に。この師弟対決はいつの日か実現するのだろうか?

「相撲は強いんだよ!!」（戦闘竜）

■10月14日　『PRIDE』初勝利に、戦闘竜が咆哮!

『PRIDE武士道 其の伍』で戦闘竜がマル〝ザ・ツイン・タイガー〟と対戦。開始早々突進した戦闘竜はマルのパンチを見切り、右フックを叩き込む。ダウンしたマルに怒濤のパウンド連打を浴びせ、相撲の底力を見せつけた。某・元横綱の大迷走により、大暴落中の〝相撲幻想〟株価を人一倍案じる戦闘竜は「相撲ファンのみなさん、やりました!　相撲は強いんだよ!!」と涙の大絶叫!!　きっと某・元横綱の連敗は、力士&関係者にはたまらない事態なんだろう。

「阻・止・さ・れ・ま・し・た・か・ら!　残念!!」（髙田総統）

■11月18日　髙田総統侍、まさかの見参!

髙田総統が恒例のビデオレターでハッスル軍が参戦した11・13新日本プロレスを批評した。ガラガラだった同大会を「熱気渦巻く超満員札止め」と皮肉タップリに褒め称えた総統は、ハッスル軍も「適地に乗り込んだその馬鹿げた勇気については誉めてやろう!」と珍しく高評価。ところが「しかし、だ!　ハッスル・ボーズは……阻・止・さ・れ・ま・し・た・か・ら!　残念!!」と、なぜか波田陽区の〝ギター侍〟のモノマネ!　『ハウス・クリスマスSP』ではアントンばりの〝ビターン張り手〟を炸裂させるなど、手に負えなくなってきた髙田総統なのであった。

「黙ってろ、ホラ吹きが」（ミルコ・クロコップ）

■10月31日　ミルコ、ジョシュ・バーネットの挑発を一蹴

『PRIDE』に〝最後の大物〟ジョシュ・バーネットがついに初参戦!!　いきなりミルコ・クロコップと激突することになったジョシュは、「ナガタと対戦したときにエンズイギリを食らったけど、ミルコのハイはそれと同じくらい危険だと思っている」と、幾多の強豪をKOしてきたミルコのハイキックを、永田のつなぎ技と同等であると大胆分析!　試合直前の煽り映像では「ボクが出てない最強トーナメントはありない」「驚かないでほしいけど、1Rでミルコを倒すよ」とも挑発したが、ミルコは「黙ってろ、ホラ吹きが」とクールに一蹴。館内の盛り上がりは最高潮に達するも、試合はジョシュは左肩の脱臼で不完全燃焼に終わってしまった。しかし、永田の延髄蹴り＝ミルコの左ハイという衝撃の事実が発覚しただけでも、この一戦はやった価値があった（?）のである。

「カンバンワ〜!」（ルーロン・ガードナー）

■10月31日　カレリンを破った男がラッシャー木村風の挨拶で登場!

さいたまスーパーアリーナで行われた『PRIDE・28』のメイン前、髙田延彦統括本部長に呼び込まれてルーロン・ガードナーが登場!　シドニー五輪で獲得したアマレス・グレコローマンの金メダルも誇らしげに堂々と登場したガードナーだったが、「カンバンワ〜!」と甲高い声で脱力した挨拶をしてしまい、会場から失笑を誘ってしまった。肩書き、体格、そして対戦相手といい、どうしてもマット・ガファリのイメージが強かったガードナーだけに、その不安（or期待）がイッキに高まってしまったが、フタを開けてみれば、吉田に付け入るスキを与えず完封勝利。金メダル対決を制し、アマレス強し&ノット・ガファリっぷりを証明したが、あまりの手堅い勝利にガファリのほうが楽しめたという声も上がった。総合って難しい!!

「（闘いたい選手は）色で言うと、赤」（桜庭和志）

■11月1日　桜庭、〝SADAME〟の田村戦をアッサリOK

『PRIDE男祭り2004 SADAME』会見で、浅草キッドの「去年から噂されてるカードがあるじゃないですか。その相手を色で例えるなら?」という問いに対して、桜庭は「赤ですか」と意味深な答えを残した。桜庭vs田村潔司という〝SADAME〟の一戦への期待がイッキに高まったが、ターザンいわくの〝ジャイアント馬場の後継者〟慎重居士の田村は大晦日には出場せず。その結果、サクvsジウバの4度目の対戦が決まったものの、桜庭の負傷によりお流れに。今年4月に開幕するミドル級GPでの対戦も考えられるが、果たして頑固者の真意やいかに……?

「俺たちは橋本真也に捨てられたんじゃねえ、俺たちが旅立ったんだ」（大谷晋二郎）

■11月11日　大谷、破壊王に涙の決別宣言!!

ZERO-ONE後楽園大会の試合後、大谷晋二郎が客席に向かって「このリングはもう、橋本真也だけの城じゃねえ。俺の城であり、田中将斗の城であり、みんなの城です。絶対に落城させたりしません。俺たちは橋本真也に捨てられたんじゃねえ。俺たちが旅立ったんだよ。（涙声で）星川が安心して帰ってこられるリング、俺たちが守んねえで、誰が守るんだ」。大谷の言葉に、高岩がリングイン。ふたりはしっかりと握手を交わし、抱き合った。高岩は「皆さん、星川に力を貸してください」と振り絞るようにマイク。大谷は「力貸してくださいじゃねえ。イヤでも会場に来たくなるようにしてやるからよ。俺たちは絶対あきらめない。俺たちは絶対、あきらめない。みんな、全員で頑張ります」と続けた。この2週間後、（有）ゼロワンが解散。旗揚げから4年目のZERO-ONEが、創始者・橋本真也と決別する結果となった。

語録で振り返るマット界2004

「ハッスルなんてクソ喰らえ～～っ!!」(吉野真治)

■11月13日　ハッスル軍、新日本マットに上陸もハッスルは不発!!

ピクリとも動かなかったチケット前売りをテコ入れするため、"キャプテン・ハッスル"小川直也を新日本のリングに呼び寄せたアントン。しかし、新日本サイドのハッスル・アレルギーや凄まじく、マット界イチの感動屋、上井さんがハッスルポーズを阻止した新日本の行動に大感激して涙を流したり、プロレス知識どころか放送モラルすら持ち合わせていない吉野アナが「ハッスルなんてクソ喰らえ～～っ!!」などと大悪態を付いて、おまけに「小川に大ブーイングです!!」とありもしない幻聴状態に陥ったり、成瀬が場違いなマイクで失笑をかったり、とにかく観客はまったくいないが現場は大騒ぎなのであった。ちなみに試合後、「大丈夫か、この会社?」という、この大会を象徴するようなコメントを残したカシンは、入場曲をあの「マッチョ・ドラゴン」にしようとしたが、ドラゴン・ストップが入ったとの噂。

「猪木さんは格闘技を一回もやっていない!!」(武藤敬司)

■11月19日　武藤敬司×ジミー鈴木の対談より

いま一番プロレスに自信を持つ男・武藤敬司がアントンの格闘技路線をメッタ斬り!!　新日本プロレスを格闘技の色に染めようとするアントン総帥に「自分でやらないで他人にやらせようとする」と断罪。返す刀で猪木さんは「『PRIDE』やK-1みたいな純格闘技なんか、いっっっっ戦もやっていない!　いっっっっ戦も!!」とまで言い切った。「ベールワン戦も実際に見たわけじゃね～けど、最初から"競技"としてやりましょうってのと、途中でコミュケーシュンが壊れたのなんて違うから」「自分の歴史を書き換えようとしている」と、"プロレスLOVE"をどこかに置き忘れた師匠に苦言を呈したのであった。

「ハッスルは世界に通用しない」(アントニオ猪木)

■11月23日　アントン、ハッスルは下品と断罪!!

世界に通用するプロレス団体のオーナー、"神"ことアントン総帥が怒りのハッスル斬り!!　大阪ドーム大会に小川を招聘した際には「俺もハッスルしないといけないかな、ンムフフフ」と、さもハッスルする素振りを見せていたが、終わってみれば案の定「ハッスルは世界に通用しない!!」とダメ出し。その理由からしてとにかくすばらしい。先日行われた新日本パラオ大会ツアーに帯同したジミー鈴木氏のブログによれば、パラオで猪木さんは「あのポーズをアメリカのTVに流したら、すぐにストップがかかる」「だいたいよお、TVの中で●八、●八!!ってやらないだろー」と、●八の振り付きで闘魂演説したという。●八は世界に通用しない表現のためにコチラで伏せ字にしました。3、2、1、●八、●八!!

「すまなかった」(橋本真也)

■11月25日　涙のZERO-ONE解散!!

ホテル・インターコンチネンタル東京ベイ4階アムステルにて記者会見が行われ、橋本真也がZERO-ONEの活動停止を発表した。橋本は時折言葉をつまらせながら、代表として有限会社ゼロ・ワンの活動停止を正式に宣言。会見場へ駆けつけた中村代表代行代理、大谷晋二郎、高岩竜一、オッキー沖田リングアナらに「すまなかった」と頭をさげた。橋本は「プロレス界の現状はどの団体も厳しいものがある。残された選手たちが戦う場を確保して、試合を続けてほしい」と現ZERO-ONE勢にエール。有限会社ゼロ・ワンの負債額は1億円以上にのぼるという。

「競輪は初めてです」(ボビー・オロゴン)

■11月26日　からくりガイジン、『Dynamite!!』参戦決定!

あのホイス・グレイシーを流血させ本気にさせ一躍脚光を浴びた『さんまのスーパーからくりTV』から生まれたおもしろガイジン、ボビー・オロゴンが『Dynamite!!』に参戦がホントに決定!　K-1と「からくりTV」のコラボという前代未聞の仰天会見ではボビーが予想通り、とんちんかん発言を連発し会見場を笑いの渦に巻き込んだ。K-1の試合は見たことがあるかの質問に「競輪は初めてです」。指導を受けている菊田から何か言われたかと聞かれると「月謝は遅れないようにと言われました」。最後には「相手は人間だったら象でも亀でも闘いマス!」とギョロ目をひんむいて見せたボビー。対戦相手は直前になってベルナルドからアビディに変更となったものの、谷川Pの思惑通り、見る者に感動を与え、高視聴率もゲットすることに成功。ボビー本人は否定するものの、今後も"競輪"のリングに引っ張りだされるのは間違いないだろう。

「こんばんは!　ペ・ヨンジュンです」(橋本真也)

■11月29日　渦中の破壊王が元気に登場!!

OH砲の2人が揃って声優を務めた「セイブ・ザ・ワールド」発売イベントに、小川直也、そしてZERO-ONEの休止騒動やプライベート問題で"渦中"の破壊王が登場。マスコミが破壊王の言動に対して固唾を飲んで見守る中――舞台に上がった破壊王はいきなり「こんばんは!　ペ・ヨンジュンですわ」と謎の前フリ!!　そして「え～、私が(ZERO-ONEの休止を)決断して悲惨な泣き顔で東スポの裏一面に載ったとき、表の一面はペ・ヨンジュンでした。私がこっちだったらいいのになと、『ペの野郎!!』と思いました!!」。スキャンダルの渦に身を置きながらも、バックンの破壊王節を轟かせたのであった。ウ、強いわ。

「団体崩壊はミーにも経験ありマ～ス!」(アン・ジョー)

■12月2日　アン・ジョー、ナカムラ監督に同情を寄せる

ZERO-ONE休止が発表された四日後、ハッスル会見が行われたが、シュート発言がバンバン飛び交う異例の会見に!　まずはヤドカリが中村カントクに「これはこれは～!　お忙しいところわざわざありがとうございます」とニヤリ。アン・ジョー司令長官は「カントク!　団体崩壊はミーにも経験ありマ～ス」と同情発言。カントクは「あれはオレじゃねえよ。別人だよ!!」と否定すると、「そのMr.ナカムラのやってる団体も壊滅寸前デ～ス。これも髙田総統のパワーによるものデ～ス。髙田総統は以前から『日本のプロレス界を根こそぎデストロイする』とおっしゃってマ～シタ」とアン・ジョーは勝ち誇る。さらには「(破壊王と)コミュニケーション不足なんじゃないのか!?」と島田も調子に乗り、アン・ジョーは「ちゃんとディスカッションしてマスカ?　ミーも毎日ニュースペーパーを読んでマスヨ。ホントはユーもボークの悪口言いたいんじゃないデスカ～!?」と禁断の一言!!　このシュート過ぎる発言に「お前ら、台本にないことを言うんじゃねえ!!」とマジギレするカントクであった。ヒドイよ!

「本音を聞きたい?　それともオブラートで包んだ方がいい?」(レイ・セフォー)

■12月10日　K-1GP、ボンヤスキーが2連覇を飾る

今年のK-1を語る上で避けることが出来ないのはジャッジの問題だ。12月のK-1GP一回戦で武蔵と闘い、延長1Rで3-0の判定負けを喫したレイ・セフォーは「努力以外の力が働いたとしか思えない」「武蔵が悪い訳じゃないが、結果を決めたジャッジが何を考えてるのか知りたい」「アスリートの立場に立ってジャッジしてほしい」と大爆発!!　同じ大会でレミー・ボンヤスキーに延長Rで微妙な判定負けを喫したアーネスト・ホーストも「この結果に納得していないし受け入れられない」「日本のジャッジの考え方が分からない。外国人がいないのはおかしい」「日本独特のジャッジシステムは良くない」と、こちらも怒り心頭。さらにホーストは「武蔵vsセフォーもレイが勝っていたと思う」と助け舟まで出す始末。その武蔵とボンヤスキーが決勝まで勝ち上がって対戦、延長Rを押し気味に進めたボンヤスキーだが、ジャッジはドローで再延長へ。「(延長Rは)自分では勝っていたと思った」というボンヤスキーが結果的に判定で勝利を収めものの、判定のたびに会場から「え～っ!?」という声が客席から沸き上がる大会を象徴するような決勝戦だった。谷川氏によればK-1には苦情が1000件寄せられたという。

「前フリはいらないですよ」(長州力)

■12月13日　名語録製造機の長州が前フリ拒否宣言!?

昨年の同企画では「紙面を飾るなって言ってんだ、コラッ!!」とのマグマ語録で、見事扉をゲットした長州。他にも破壊王とのコラコラ問答などで、その圧倒的存在感を見せつけていたが、WJが事実上の活動休止となった2004年は「ド真ん中」に代表される活きのいいマグマ語録はなりをひそめ、「自分の時代はとっくに終わってる」「正直、しんどい」といった現実感あふれる発言が目立った。そんな中でも昨年後半、長州が口を開く度に飛び出したのが「前フリはいらないですよ」とのお言葉。新日本へ

のまさかの乱入騒動では大インパクトを残したが、ホンチャンの試合ではとたんにトーンダウンしている現状を憂いた発言なのだろうか?

「一度死んでしまった」(安生洋二)

■12月17日　ハイアン戦にのぞむ安生が涙の記者会見

10年前の94年12月、安生は"Uインターのヒットマン"としてヒクソン・グレイシーアカデミーに道場破りを敢行。手も足も出ないままヒクソンに返り討ちにされ、マット界における"A級戦犯"の汚名を着せられた。その事件をキッカケに髙田延彦がヒクソンとの試合に臨んだことで、『PRIDE』、そして格闘技新時代の幕が開けることとなる。元Uインター勢が格闘技界で大活躍する影で、失意の中、流浪のプロレス人生を送って来た安生。その不遇の実力者が10年ぶりに対グレイシーという"SADAME"の一戦に立ち上がった。「自分は髙田延彦の防波堤にならなければいけなかったのに、その役割を果たすことが出来なかった。自分がその場で死んでしまいたいと思った」と涙ながらに語る安生。残念ながらハイアンの腕十字に完敗したが、試合後は痛々しい姿で会見場に現れた安生は「ドンとぶつかって、何となく気が晴れた」と、晴れやかに語った――

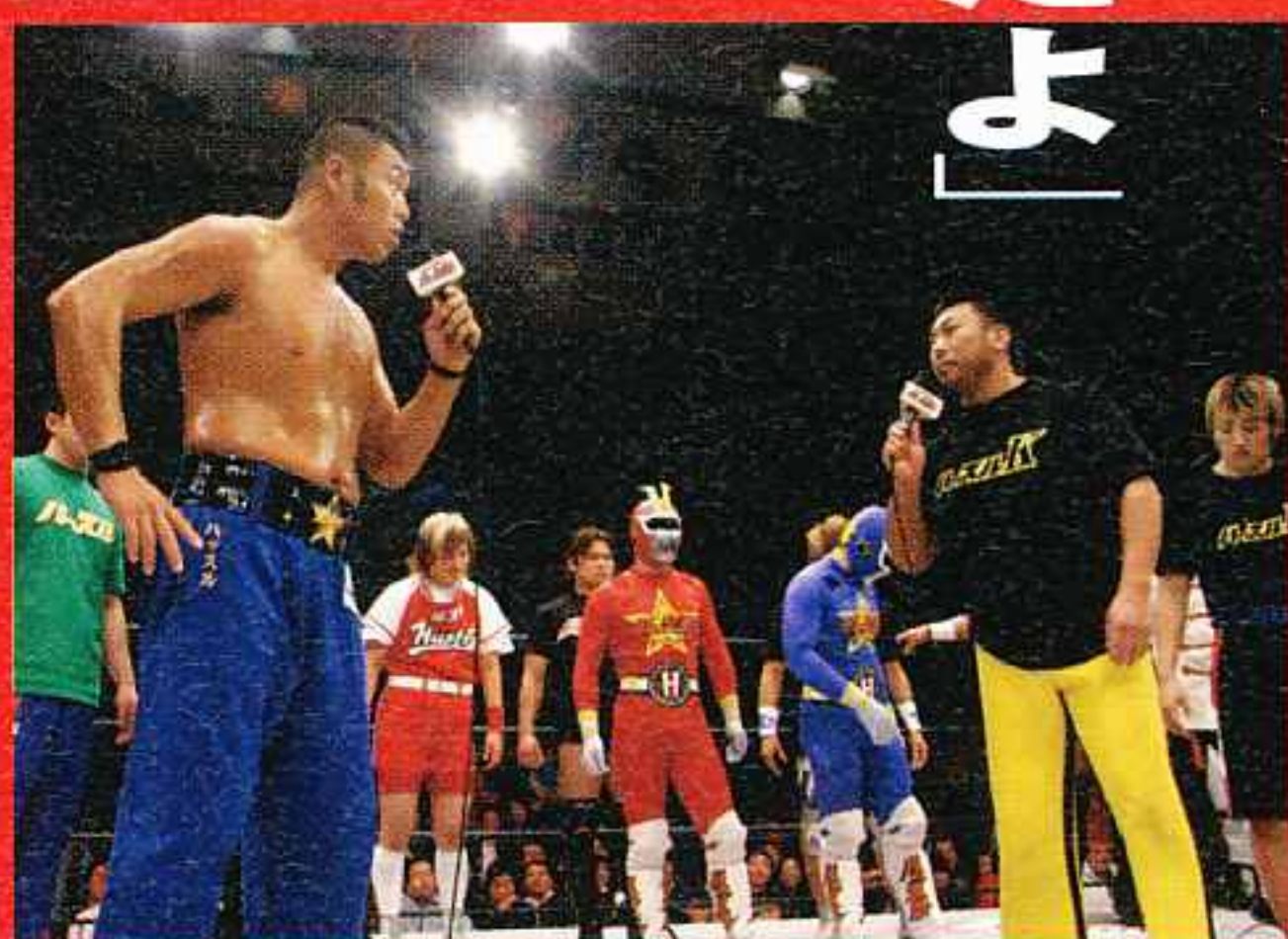
「チャコ、勝彦、健之介、誠之介、本当にありがとうございました!(涙)」(佐々木健介)

■12月20日　2004年プロレス大賞授賞式で健介、男泣きのスピーチ

MVPが健介、話題賞が北斗、新人賞が中嶋クンと健介ファミリーの独占となった2004年『東スポ』制定・プロレス大賞。数日前に行われたドラゴン・ゲートでの髪切りマッチで敗れた健介は丸坊主で授賞式に出席。代表スピーチでファミリーへの感謝の言葉を述べると健介は思わず男泣き。例年、総合系の選手が上位を占める『紙プロ』大賞でも大健闘の3位入賞を果たした健介。新日本時代は『紙プロ』読者からもツッコミの対象だった健介が、ここまで評価を覆す日が来ようとは誰が想像しただろうか? 今こそ、あの言葉を健介に贈ろう! 皆さん、ご一緒に……正直スマン!

「俺はどっちかというと目立ちたいんだよ」(川田利明)

■12月24日　ハッスルK、クリスマスにも大ボヤキ

『ハッスル・ハウス』のリングで、ハッスルKこと川田利明が長年秘め続けた感情を激白!? 小川直也の「おーい、ハッスルK!! 出てこないと、また引きこもりって言われるぞ!」の声に応える形で登場した川田は「おい、オレは引きこもりじゃねえぞ。どっちかっつったら目立ちてえんだよ。ヌンチャクを披露しようと思って持ってきたらやられちゃうし……」と前日の『ハウス』で総統に指摘された通り、ひとボヤキ。さらに「試合前の控室では、こいつが主役だし」と石狩をにらんで、もうひとボヤキ。「……あっ!! それ、オレのじゃねえか!!」と石狩が「川田」と名前が入った短パンを履いてるのを鋭く指摘!! そのまま、川田の矛先は小川に向かい「TVやCMに出すぎ!! 少しはハッスルKに回せ!!」と酔っ払いのような言いがかり!! 「か、返す言葉がないじゃねえか」とハッスルKのデンジャラスKトークで小川もタジタジ。観客にプレゼントされるハッスルカレーを目ざとく見つけたハッスルKは「なんでハッスルKのカレーがないんだ!?」と、トドメのボヤキ。笹原GMは「次回は是非」と言ったが、果たして"オレだけのカレー"は商品化されるのか!?

「ドキドキしたい」(佐々木健介)

■12月25日　健介、『Dynamite!!』で武蔵戦浮上

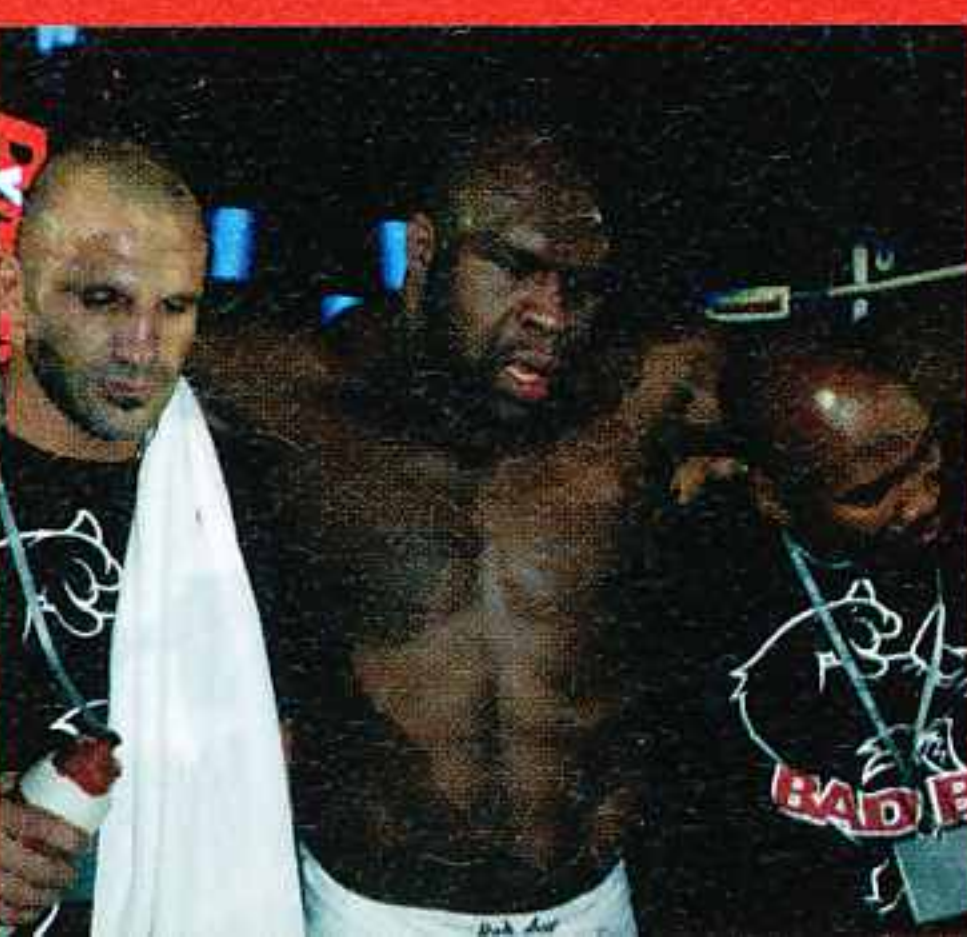
昨年もPRIDEとK-1の熾烈な格闘技大みそか決戦が繰り広げられたが、大会1週間を切って谷川貞治K-1イベントプロデューサーが衝撃の事実を明らかにした。「武蔵の相手として佐々木健介選手にオファーをした」というダイナマイッなオファーに、「(健介は)ファイターとして"ドキドキしたい"と言ってました」(谷川氏談)と、ファンが違った意味でドキドキするコメントを残した。2004年プロレス大賞MVPの健介は「武蔵とは数回会った。礼儀正しくて好感が持てるいい人」と興味津々だったが、妻でありマネージャーである北斗によると「健さんは興味津々だったみたいだけど、ぶっちゃけルールも何もわかってないのよ」という状態。緊急家族会議では今年のプロレス大賞の裏MVPとも言える北斗が参戦に反対して、武蔵の対戦相手は結局"キックボクシング10戦10勝"の元WWEスーパースター、ショーン・オヘアに落ち着いた。試合後、リングサイドで観戦した北斗は「出さなくて正解だった」「K-1ルールだから、という言い訳はいけない。リングに上がったらルールは関係ない」と某パイレーツ男に聞かせてやりたい正論を吐いた。

「(路上生活者から)早く卒業できるように!」(アントニオ猪木)

■12月28日　アントン、ホームレスにラーメンをふるまう

年末恒例となった新宿中央公園でのアントン炊き出し。今年はおよそ1000人のホームレスにラーメンを振るまった。「炎のファイター」に乗っていつものように登場したアントンは、これまたいつものように「元気ですか～～っ!」と第一声。「新しい年はもうすぐ来ますが、来年は世界へ向けていろいろと発信します。ンムフフフ」と、ホームレスにはピンとこない"世界戦略"を論じて、「元気があればなんでもできる!! え～、みなさんも早くこの生活から卒業してください!」と叱咤激励。最後は闘魂ビンタで締めるべく、「はい、そこの君!!」「Tシャツを着てる人、壇上に上がって!!」という具合にいい加減に指差すと、1000人の路上生活者が壇上に殺到……という猪木祭りチックな騒動は一切起こりませんでした。

「アイ・キャント・ファイト・ノーモア～!!」(ボブ・サップ)

■12月31日　ボブ・サップ、『Dynamite!!』で復帰戦

一世を風靡したボブ・サップがリングに帰ってきた!! ミルコにKO負けして心を折られて以来、「ガチンコはイヤ!!」という感情を丸出しにしてファイトしていたが、長期休暇で身も心もリフレッシュ!!……というわけにはいかず。復帰戦となったバンナとのK-1&MMAのミックスルールではラウンドインターバル中、セコンドのサム・グレコらに「アイ・キャント・ファイト・ノーモア～!!(もう闘えない)」と泣き顔で連呼!! グレコに励まされてなんとか闘いつづけたサップであった。2005年はガンバレ、サップ!!

「ナカムラとは闘いません!!」(ハイアン・グレイシー)

■12月31日　ハイアン、中村和裕を無視

『男祭り』の"裏メイン"と言われた安生との試合を勝利したハイアンは、マイクを持つと桜庭、そして吉田との対戦をアピール。そこになぜかリングインした中村和裕の姿を見るや、「ナカムラとは闘いません!!」と宣言。なぜか慌てた中村は対戦するようにマイクアピールするも、ハイアンは「闘いません!」の一点張り。なぜ中村はリングに上がったのか? どうやら『PRIDE・29』で対決実現に向けてのデモンストレーションをハイアンがブチ壊した模様。究極の"SADAME"な試合が行われた直後に、何の因縁もないカードの煽りを見せられたかと思うと、ハイアンの"ナチュラル・キラー"発言に助けられた観客であった。それにしても、わざわざリングに上がって断られた中村の立場って一体……。

「総合格闘技をナメていました」(瀧本誠)

■12月31日　柔道金メダリスト、涙の『PRIDE』デビュー

「正直スマン!!」の健介以来となる衝撃!? シドニー五輪柔81キロ級金メダリストの瀧本が「今日、試合するまで、総合格闘技をナメていました。どうもすいませんでしたぁ!!」と涙をにじませながらマイク。戦闘竜を相手に『PRIDE』デビュー戦をはたした瀧本は、総合すでに3戦目の戦闘竜の手慣れた動き、30キロにも及ぶ体重差に苦しむ試合となった。試合前「総合対策をまったくしていない」と公言し、憮然としたキャラを崩さなかった瀧本の真摯な告白――。観る者を惹きつける感情の起伏さをこの男は持っているようだ。

“皇帝戦士”大戦記

90年代·最強ガイジンの足跡を振り返る!!

VADER

“皇帝”と崇められ、“最強ガイジン”の座に君臨する男と言えば、
いまではPRIDEヘビー級王者のヒョードルのことになるが、以前はこのベイダーを指していた。
見た目はまさにアメリカン·プロレス的なキャラクターだった。
しかし、ひとたびその甲冑を脱げば、プロレスと格闘技の区分けすることが
陳腐ともいえるほどの怪物的な強さや圧倒的な存在感を観客に感じさせていた。
ベイダーは、90年代を代表するガイジンレスラーだったのである。
今回のインタビューでは、図らずも日本向けの“ストロング·スタイル”を学ぶことになった
デビュー当初の秘話から、大暴動までに発展した日本デビューの騒動まで、
その皇帝戦士の偉大なる戦記を振り返ってもらった。

聞き手／ジャン斉藤
撮影／黒田史夫
designed by matsu (TwoThree)

——今日は、日米のメジャー団体でトップを張り続けた、ベイダーさんのプロレス人生を振り返りたいと思ってます！

ベイダー　オネガイシマス（日本語で）。

——で、これが私たちのマガジンになるんですが……（桜庭和志が表紙の前々号を渡す）。

ベイダー　アリガトウゴザイマ～ス（日本語で）。

——表紙の選手は桜庭和志という、かつてベイダーさんも参戦したことがあるUWFインターナショナルという団体の若手選手でした。彼のことは覚えていますか？

ベイダー　サクラバ……。なんとなく覚えているかなぁ。

——では、和田レフェリーのことは？

ベイダー　（即座に）和田さんのことは覚えているぞ！　メチャクチャ強いレフェリーだろ？

——ワハハハ！　和田さんのことはしっかり覚えていますか！

ベイダー　和田さんは力が異常に強かったんだよ。レフェリングするときなんて強烈な力で選手を分けたりする。「なぜ選手としてリングに立たないんだ？」って不思議に思ったほどだ。

——皇帝戦士も認める「和田最強伝説」（笑）。金原弘光という選手は覚えていますか？

ベイダー　カネハラ……？　申し訳がないが記憶にないようだ。

——金原さんは覚えていない。

ベイダー　俺はプロレスを通して、数多くのレスラーや関係者と出会ってきたからなぁ。忘れてしまったことも多いんだよ。ゴメンナサイ（日本語で）。

——ベイダーさんは新日本、WWE、WCW、全日本、Uインター、NOAHと渡り歩いただけじゃなくて、それぞれの団体で輝かしい実績を収めて、ホント濃密過ぎるプロレスラー人生を送ってきてますよね。

ベイダー　じつはいまその自分の半生を綴った本を書いている途中なんだよ。日本で発売されるかどうかはまだ未定だけど、より具体的で細かいことはその本に残したいと思っている。もちろん今日もたっぷりとしゃべるよ（笑）。

——よろしくお願いします（笑）。まず初めにプロレス入りのきっかけを聞かせてください。

ベイダー　だったら、フットボールのことから話さないといけないな。俺はもともとフットボールをやっていて、ポジションはセンターだった。アメリカ中でベストの評価を受けていたんだ。

——フットボーラーとしても一流だったんですね。

ベイダー　イエス。ドラフトで一巡指名をされる予定だったんだが、6週間前に右足の筋を切る大ケガを負ってしまって周りからは「ドラフトでは指名されないだろう」と言われていた。でも、結果的にロサンゼルス・ラムズに三巡目に指名されて3年契約を結んだ。ケガ人がそ

ハンセンやブロディと闘うことでプロレスとは何たるかを理解した

入場もベイダーにとっては大事な見せ場だ。テーマ曲だったレインボーの「Eyes of the World」が流れる中、ベイダーが甲冑を指さすとタイミング良く白煙を噴き上げた。

皇帝 VADER 戦士

「オールナイトニッポン」の企画がまさか実現してしまった、たけしプロレス軍団。ベイダーはその刺客という設定だった。これは当時の新日本ファン気質からすると歓迎しないアングルであり、アントンの相変わらずな強引なカード変更で怒りに火が付いた観客はホントに国技館に火を付けてしまう!! こんな最悪のデビュー戦だったのに、ベイダーはのちにトップに登り詰めた。実力で悪印象を吹き飛ばしたわけだ。

ビートたけし？ 誰だ、その男は。TPGという軍団のことも知らないな。

んな高順位で指名されたことで大きな話題になったんだよ。俺がプロでプレイしていないと思ってる人間が多いけどそれは事実じゃない。その証拠がこれだ。スーパー・ボウルに出たときのアニバーサリー・リングだ（右手にはめている指輪を見せる）。

――いまでも思い出の記念品を身につけているんですね。

ベイダー フットボールのほうは結局、ケガした足をまた痛めてしまって、それが原因で残り2年の契約は打ち切りになった。そのあともなんとか復帰するためにトレーニングを続けていたけど、どこのチームからも声がかからないからフットボールはやめたんだ。

――引退されてすぐプロレスラーに？

ベイダー いや、自分で会社を興したんだよ。コンドミニアムを建ててセールスする仕事。大金持ちってわけじゃないけど、そこそこの稼ぎを得ることができた。でも、そんな生活を続けているうちになにか刺激がほしくなった。神様がこんなデカイ身体を授けてくれたんだから、やっぱりスポーツなりで身体を動かしたい欲求が生まれてきたんだよ。そう思い立って、プロレスラーになろうと思ったのさ。

――プロレスにはどういう印象があったのでしょうか？

ベイダー 小さい頃からよく見ていたよ。ハルク・ホーガン、リック・フレアー、ハーリー・レイス。彼らトップレスラーが稼いでいたマネーは、プロのフットボーラー以上。言わば憧れの職業でもあったからね。

――プロレス入りへのつては何かあったんですか？

ベイダー まずは独学でやり始めた。

――独学で！ ひとりで始められるもんなんですか？（笑）。

ベイダー なんとかな（笑）。つまらない試合を何回かこなして、それからAWAのトレーニング・キャンプに通うことになった。そこでブラッド・レイガンスがプロレスの基本を教えてくれたんだ。

――レイガンスというと、平成・新日本のガイジン選手を幾多も育てた名伯楽ですね。そのトレーニング・キャンプのつながりからAWAでデビュー[illegible]んですか？

ベイダー [illegible]リングネームは本名の「レオン・ホワイト」。正式にプロレスラーとしてデビューすることができたんだ。

――デビュー当時はいろいろと苦労されたことがあったと思いますけど。

ベイダー 自慢しているわけではないが、レスリングを習い始めた時点で、とくにできないことはなかったよ。どんな動きでもできた。

――この巨体でムーンサルト・プレスができるほどの運動神経がありますもんね。

ベイダー 強いて挙げるとすれば……デビュー1年目の1985年の

こと。デンバーの1万人収容できる会場でブルーザー・ブロディとメインイベントで試合を組まれたんだけど、ちょうどその日は俺の子供の出産日。もう試合どころじゃなかったんだよ。

——試合会場には行かず、病院に付きっ切りだったと？

ハンセンのサミング式のパンチで眼球が飛び出そうになった!!

ベイダー　イエス。ヘソの緒が首に絡まって子供は非常に危険な状態。まさか試合に行く状況じゃなかった。プロモーターからは「ギャラを2倍にするから！」ってひっきりなしに電話があったけど、そういう問題じゃない。断ったら「だったら4倍にする！」って言ってきたんだ。

——さらに倍ですか！

ベイダー　結局母子ともに無事に手術は終わって、俺は車を飛ばして会場に向かったよ。メインイベントにギリギリで間に合ったわけさ。それがグリーンボーイ時代の一番の思い出かなぁ。

——しかし、デビュー1年目でブロディ戦、それにメインイベントというのは破格の待遇ですね。緊急事態とはいえ、普段の4倍のギャラも提示されるし（笑）。

ベイダー　ちなみにデビュー戦の相手もブロディだったんだよ。

——あ、いきなりブロディがデビュー戦！

ベイダー　それにアメリカって同じカードでずっと各地を転戦するだろ？　デビューから3ヶ月間はブロディと毎日シングルマッチさ。

——毎日ブロディ三昧でしたか（笑）。それじゃかなりハードな3ヶ月だったんじゃないですか？

ベイダー　イエス！　鼻を折られたり、アゴをおもいきり蹴っ飛ばされてメシが思うように食えなかったり……毎晩のように殺されかけたもんさ（笑）。

——ブロディも容赦しない選手ですからね。そんな過酷な3ヶ月をクリアしたら、そのあとはかなり楽だったんじゃないですか？

ベイダー　いやいや、そういうわけにはいかなかった。やっとブロディから解放されたと思ったら……次はあのスタン・ハンセンとずっとシングルマッチだよ！

——ブロディの次は、"ブレーキの壊れたダンプカー"と毎日シングルマッチ！

ベイダー　ハードもハード。普通のアメリカン・スタイルとは違って、彼もブロディもガッチガチなファイトスタイル。印象深い6ヶ月間だったなぁ……（しみじみと）。

——のちに日本で"最強ガイジン"の座に就くベイダーさんですが、意外なかたちで"最強ガイジン魂"は継承されてたんですねえ。どうりでベイダーさんのファイトスタイルが、やけに日本向きだったことがわかりましたよ！

ベイダー　"プロレスとは何か？"を知る上で勉強になったな。あの2人にはたいへん感謝してる……けど！

——感謝してるけど？

ベイダー　ブロディやハンセンにやられたようなファイトを相手に仕掛けたら、その選手やプロモーターからは「お前はクレイジーか？　殺す気か！」って散々文句を言われてな（笑）。

——苦情や抗議が殺到しましたか（笑）。で、AWAでそんな貴重な経験をされたあとは、「ブル・パワー」としてヨーロッパを転戦されて、ついに新日本プロレスでビッグバン・ベイダーに大変身されるわけですが、初来日は全日本プロレスのリングになる予定だったんですよね。

ベイダー　イエス。ハンセンが馬場さんに「俺のパートナーとして使わないか？」って推薦してくれたんだ。

——ハンセンはベイダーさんのことをそれほど認めていたわけですね。

ベイダー　馬場さんも了承して金額を提示してくれて、それはヨーロッパよりも格段によかった。もちろんオファーを受けたよ。そうしたら、新日本サイドのマサ斉藤の紹

90年2月10日、新日本プロレスにとっては２回目となる東京ドーム大会。予定していたグレート・ムタvsリック・フレアーの中止で目玉カードに苦しむ新日本は、敵対する馬場さんに協力を要請。鶴田、天龍、三沢タイガーら全日本勢が緊急参戦をはたした。ハンセンはベイダーと"ガイジン頂上対決"。両リンという不完全決着ながら、この年のプロレス大賞・特別大賞を受賞したことを考えれば、いかに素晴らしい大激戦だったことがわかる。

介でタイガー服部が俺をスカウトにきて、全日本より長い期間で、より高いファイトマネーで参戦をオファーしてきたんだ。

——でも、ベイダーさんは全日本とすでに契約を済ませていた。

ベイダー　俺は契約どおり全日本に上がるつもりだったんだけど、とある馬場さんのフレンドから「いまの全日本にはハンセン、ブロディ、ゴディ、ブッチャー……ガイジン選手がたくさんいる。君は新日本プロレスに行ったほうがキャリアになるんじゃないか？」という内容の手紙が送られてきたんだ。

——当時の全日本のラインナップと比べたら、新日本のほうがトップは狙いやすい状況でしたよね。

ベイダー　そうこうしてるうちに、真相はわからないが……猪木さんと馬場さんが俺の件について話し合いをしたんだろう。俺は新日本に参戦することになったんだよ。

——そしてビッグバン・ベイダーという、ダース・ベイダー風なキャラクターに変身することになった、と。そのビッグプランを聞かされたときはどう思いました？

ベイダー　このビッグバン・ベイダーというキャラクターの候補には、他にセッド・ヴィシャス、アルティメット・ウォリアーも挙がっていたが、これは信じられないチャンスを神様が与えてくれたと思ったな。なにせ両国国技館という伝統的なビッグアリーナが日本デビュー戦。そこでアントニオ猪木というトップレスラーを倒して、外国人エースの座を約束してくれたわけだから。

——おまけに最後は大暴動まで起きて会場に火まで付けられて（笑）。

ベイダー　ガハハハ！　最高にエキサイティングな夜だったよ（笑）。

——あの日は舞台裏もかなりバタバタしていたみたいですね。ビートたけしさんも訳もわからず連れて来られたりして。

ベイダー　タケシ……？　誰だ、その男は？

——ほら、ベイダーさんは設定的に、たけしさん率いるTPG（たけしプロレス軍団）からの刺客。つまり、たけしさんがベイダーさんのボスだったじゃないですか。

ベイダー　う〜〜ん。そのタケシという男のことは知らないなぁ……。

——もしかして、「たけしプロレス軍団」のことも知らない……？

ベイダー　その軍団のこともまったく知らない。

——ベイダーさんも訳もわからずリングに上がってたんですか（笑）。

ベイダー　スイマセン！（日本語で）。17年目にして初めて聞く話だよ（笑）。そうか、そうか。そういうことだったのか。理解していたことといえば、もともと俺は藤波さんとシングルで闘う予定だったことぐらいかな。

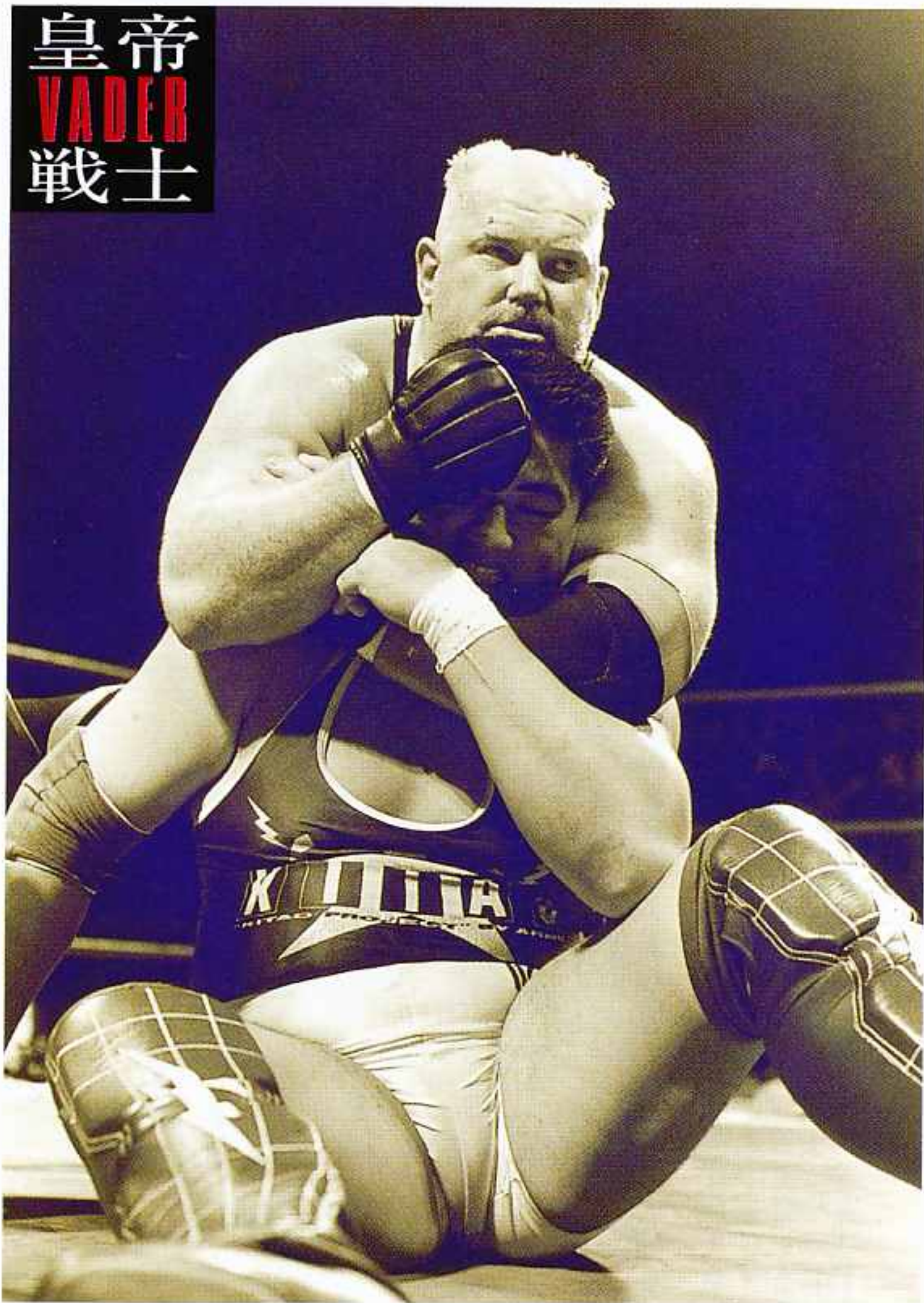
——ミスター高橋さんの本にもそう書いてありました。高橋さんによると、藤波さんがダウンを嫌がって飛んでしまったとか。

ベイダー　藤波さんがキャンセルしたので、マサから「今日は試合がないからビールでも飲んでろ！」って言われて。それでリラックスしていたら、「やっぱり試合だ！」ってことで猪木さんと闘うことになったんだ。

——藤波さんが煮え切らないから猪木さんが「いいよ、俺がやる！」って逆ギレしたんですよね。結局、

皇帝
VADER
戦士

北尾には背が高いというぐらいしか印象がない。

前田日明と天龍とハルク・ホーガンとルー・テーズのイメージをそれぞれ拝借して混合させて、おまけにサングラスと黒の革ジャンを着こむという食い合わせをまるで無視したデビュー当時の北尾光司（しっくりいったのは、テーマ曲を相撲好きのデーモン小暮閣下が作曲したことぐらいか）。いまのマット界ならば受け入れてもおかしくないキャラクターだが、当時のファンの印象は良いものではなかった。

メインを猪木vs長州から猪木vsベイダーにすることを大会途中に発表したら今度はお客さんが大激怒して、しょうがなく猪木さんは長州とベイダーさんの2連戦を敢行するも、どっちも消化不良マッチで大暴動が起きたという（笑）。

ベイダー　結局、あの暴動は日本式の階級制度が生み出した結果だと思う。善し悪しはともかく、日本社会はひとつのグループに多くのボスが存在する。絶対的なトップがいないから、最悪の場合は混乱を生んでしまう。当時の新日本にも猪木さん、マサ、服部とあらゆるボスがいた。どの指揮に従っていいのか困ったもんだったよ。

——のちのガイジン選手の控え室では、ベイダーさんがボスだったと伺っていますけど。

ベイダー　俺がバックステージのボス？　そんなことはないよ。たしかに当時の新日本で俺はトップレスラーの位置に座っていたが、それをサポートしてくれる周りのレスラーたちに尊敬の念はちゃんとあった。とくに俺より年上で業界に携わっているレスラーはリスペクトしないと失礼になる。バンバン・ビガロ、バズ・ソイヤー、グレート・コキーナ（ヨコヅナ）……リスペクトすべきレスラーを挙げたらキリがない。日本人レスラーだって同じさ。

——ゲーリー・オブライトと深い確執があったと伺ってますが。

ベイダー　ゲーリーと？　たしかに酒を飲んで喧嘩したことや、意見が食い違ったことはあったけど、仲が悪かったわけじゃないよ。よく意見が衝突したのは、俺もゲーリーも牡牛座だからだ（笑）。

——そうでしたか（笑）。あと元・横綱の北尾光司さんとはどうでしたか？

ベイダー　北尾？　彼はいいスモウ・レスラー。プロレスラーとしてはノーコメント（笑）。

——印象的だったのは、スティーブ・ウイリアムス、ビガロ、そしてベイダーさんたちが北尾選手の技をスカしたり、よってたかって攻め立てたり、まるでイジメているかのような試合をしていたことなんですよ（笑）。

ベイダー　う〜〜ん（笑）。俺は決してスモウという競技を馬鹿にしてるつもりはないんだが、彼と闘った

印象としては、大して強さを感じなくて「俺でも横綱になれるんじゃないか？」って思ったほどなんだ。失礼な言い方かもしれないけど。

――元・横綱としての強さを感じなかった、と。

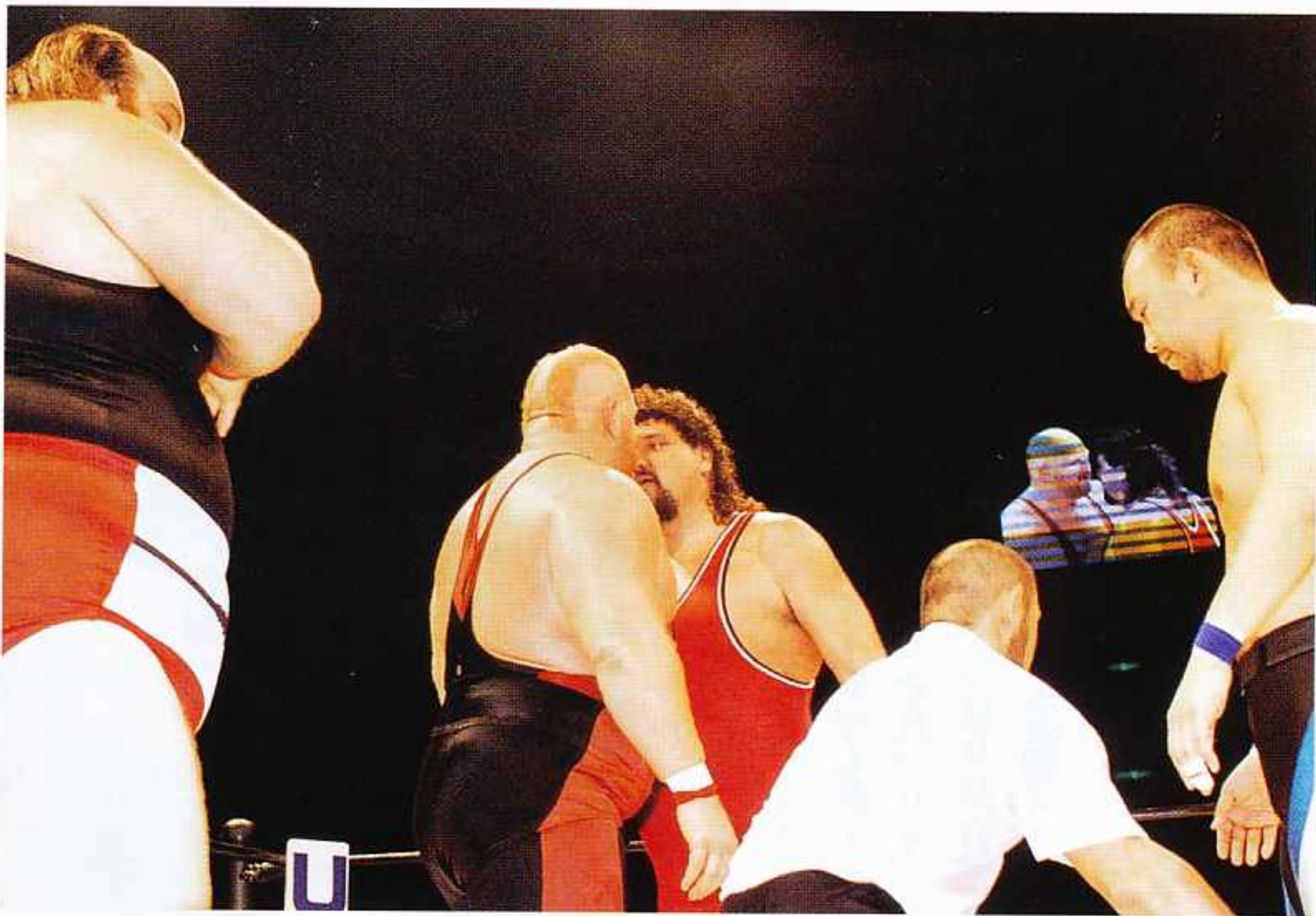
ベイダー　彼はまだ新人だったからプロレスのスキルが低いのはしょうがないところはあった。問題は「強さ」が感じられないことだ。だから、俺たちがイジメてるかのような印象を残したんじゃないかな。あともうひとつ。彼はせっかく大きなチャンスをもらいながら、それを是が非でも活かしてやろうというハートが見えなかった。人の良い性格が災いしたのかもしれないな。

――北尾さんはホントにいい人だったらしいですからね。で、当時は武藤さん、蝶野さん、橋本さんら闘魂三銃士がグングンと実力や人気が伸ばしてきた時期でした。彼らの印象は？

ベイダー　橋本さんとの試合は、お客をいっぱい集めはしたが、あまり印象には残ってないなあ。その3人の中では、やはりムタ（武藤）が抜きん出ていた印象があるな。ムタは天才的なレスリングの才能を持っていたから。

――武藤さんは才能の塊みたいな選手ですよね。

ベイダー　とあるアメリカのレスリングの本がある。その本で歴史上のレスラーをランク付けした特集がされていたけど、ムタが高いランクを受けていなかったことでその本の信憑性がないと思うほど、ムタはグレイトな存在なんだよ。

ゲーリーとの仲？ 2人とも牡牛座だったから よくぶつかったもんだよ

新日本を離れ、WCWを主戦場にしていたベイダーはUWFインターに電撃参戦!! “殺人スープレックス”が売り物だった故ゲーリー・オブライトと“最強ガイジン”の座を懸けて火花を散らしていた。両者はUインター崩壊後、全日本プロレスに転戦することになる。

――武藤さんといえば、試合でベイダーさんが倒れた武藤さんを起こすときに、髪の毛を思い切り掴んで引っ張るからかなり毛が抜けて、そのせいで武藤さんの頭がさびしくなったんじゃないか？　という冗談みたいなエピソードを聞いたことがあるんですけど（笑）。

ベイダー　ガハハハハ！　その件ではムタによく怒られたもんだよ！

――怒られましたか！（笑）。

ベイダー　ムタは本気で怒っていたよ。「頼むから髪の毛を掴んで起こさないでくれ！」ってな（笑）。俺も掴まないように気をつけているんだけど……ついついおもいきり引っ張ってしまうんだよな。

――武藤さんの髪の毛が薄くなったのは、ベイダーさんにも一因があるわけですね（笑）。

ベイダー　ガハハハハ！　そういうことだ（笑）。

――あとベイダーさんは長州さんや藤波さんたちとも付き合いは長かったですよね。

ベイダー　2人とも素晴らしい選手だったよ。

――あの2人は選手だけではなく、現場や経営の指導者としての顔もありましたよね。

ベイダー　藤波さんが社長になったのは、俺は新日本のリングを去ったあとのことだからよくはわからない。長州さんはその頃からブッカーとして手腕をふるっていた。ムタ、橋本、蝶野、スコット・ノートン……次々にスターを生み出してきた実績はある。個人的に長州さんのやり方には疑問に思うことはあったけど、名ブッカーと言っていいんじゃないのかな。

――ベイダーさんが新日本を離れてアメリカを主戦場にしたのは、長州さんのやり方が気に入らないところもあったんですか？

ベイダー　そういうわけじゃない。家族と普通の生活がしたかったんだ。子供を大学に入れたり、夫としてのつとめをはたしたかった。それだったらアメリカのリングのほうが都合はいい。そういう理由でWCWを選択したんだよ。

――当時のWCWにはどういう印象がありました？

ベイダー　日本との違いはとくには感じなかったが、リングにスターが足りていない状況だった。ホーガンはTVの仕事が忙しくてリングから姿を消して、NWA時代からの象徴だったリック・フレアーもいなくなった。オーナーのテッド・ターナーもそれほど力を入れているようには見えなかった。ビジネスが下降している状況を上向きにしたのは、新世代の俺とスティングのバトルだったのさ。WCWはそのあと何度となく盛況を極めるが、その礎を築いた自負がある。

――WCWでのエピソードといえば、ミック・フォーリー耳削ぎ事件が有名ですよね。

ベイダー　あの事件はドイツ遠征でのことだ。俺がミックの首をロープに絡めて絞める技をやったら、そのロープの芯には鉄が入っていて、ミックは本当に窒息しかけたんだ。“ヤバイ！”と思った俺は、ミックを殴ったはずみでロープから解放しようとしたら……そのロープがミックの耳を削ぐかたちになってしまったということだ。

――詳細を知ってはいましたけど、改めて伺うと背筋が凍りますね。それでも試合は続行されたんですよね。

ベイダー　レフェリーは試合は止めない。ミックも闘うことを当たり前のように選択した。プロレスとはそういう闘いなんだ。

――ハンセンとの試合では、ベイダーさんの目が異様にドス黒く腫れ上がってしまったことがありましたよね。

ベイダー　90年の東京ドームの試合だろ？　あの試合のことはいまだに俺も覚えているよ。一流のレスラーが集って、素晴らしい試合が行われ、完成度が高いイベントになった。

――90年2月10日東京ドーム。ハンセンの他に鶴田さん、天龍さんら全日本勢が初めて新日本のリン

グに上がった、伝説的な興行のことでした。あの試合は「死闘」「激闘」「熱闘」という言葉で片付けるのが陳腐な試合だったというか。

ベイダー　なぜあんなに壮絶な試合になったのか教えてやる。試合に火をつけたのはハンセンのブルロープとカウベルさ。

──ブルロープとカウベルがポイントなんですか？

ベイダー　ハンセンは目が極度に悪いだろ？　入場したときにブルロープを振り回したら、カウベルが俺の鼻に直撃したんだよ。あれにはキレた！

──だからゴングを待たずに襲いかかった、と。

ベイダー　イエス！　俺の急襲にハンセンもキレて、そこからはマジな殴り合いさ……。なんたってハンセンのパンチは、親指を立ててサミング気味に打ってきたからな。

──ゲ！　そんなシュートな殴り合いだったんですか！

ベイダー　ハンセンの親指が俺の右目を直撃したら、目ン玉が出てきかけたほどだよ（キッパリ）。

──うわ～！　それこそ「目ン玉が飛び出るストロング・スタイル」（by WJ）ですよ！　だからベイダーさんはその痛みのあまり、いきなりマスクを脱いだんですね。

ベイダー　マスクを脱いで、出かけた右目を押し込んだんだよ。そして、そのあと20分間も闘い続けたんだ。

──そういう事態になっても、試合を壊すことなく作りあげたのはさすがの一言です！

ベイダー　アリガトウゴザイマス！（日本語で）。ハンセンはいまだになぜ俺が怒ったのかはわからないと思うけど（笑）。

──そのあとベイダーさんは右目を大手術をされたとか。

ベイダー　二度ほど手術したよ。アイ・コードと呼ばれる神経が伸びてしまって、左目は反応するけど右目はピクリとも動かない状態だったから。

──最近はプロレスの枠を超えながらもしっかりとプロレスの醍醐味を伝える試合がなかなかなくて、総合格闘技に押され気味なんです。ベイダーさんは『武士道』登場も取りざたされたこともありましたが、かつてはU・JAPANという大会でキモ戦をオファーされたことがあったそうですね。

日本のプロレスにはエンタメの手法は合ってないと思う。

皇帝戦士 VADER

【べいだー】1956年アメリカ生まれ。87年12月27日イヤーエンド・イン・国技館大会に初来日。その後、WCW、Uインター、WWF、全日本、NOAHと渡り歩き、それぞれの団体でトップとして君臨。高田モンスター軍の前身（?）「ハッスル高田軍」に在籍していた過去も持っている。

ベイダー　俺が断ったらビガロが出ることになった。俺もタイミングが合えば出場するつもりだったんだけど、なかなかかな。日本のプロレスの現状で言えることは、俺が初来日したときに猪木さんはこう言った。「いまプロレスのビジネスはまったくダメだ」と。しかし、だ。ムタ、橋本、蝶野、藤波、長州ら日本人選手、俺やビガロ、ノートンらガイジン選手がやりあうことでビジネスが上昇していった。

──第1回G1クライマックスはその象徴でしたよね。

ベイダー　俺が新日本を去った後も人気は絶えなかった。人気はジェットコースターのようなもので上り下りが激しいもので、そしてプロレスは日本の文化にしっかり根付いているジャンル。いくらシュート・ファイトに人気が出ようが心配する必要はないさ。

──エンターテインメントとしてショーアップする必要性はありますか？　たとえば、ベイダーさんも出場された『ハッスル』のように。

ベイダー　いろいろな価値観があるのは素晴らしいことだが、俺の考えでは、プロレスを完全なエンターテインメントとして連続ドラマを作っていく手法は日本には合ってないと思うな。

──闘いだけを提供すればいい、と。

ベイダー　そうだな。ムタは社長としても素晴らしいし、三沢さんもブッカーとして優秀だ。彼は選手にも恵まれているしね。小橋さんや秋山さんは素晴らしい選手だろ？　昨日、俺が闘った諏訪間も将来が楽しみな逸材だ。彼のような新人をうまく育てていけば、プロレスは安泰だと思うよ。もちろん俺も闘い続ける。

──わかりました！　今後のご活躍、そして自伝のほうも楽しみにしています！

【04年12月3日／都内某所にて収録】

ターザン山本！またしても

原タコヤキ君の

大阪プロレスファン通信 拡大版

ナニワの中のナニワな人たちがお送りするダイナマイトな関西コラム

破壊王、らもさんとの思い出からプロレス＆格闘技界の裏の裏までしゃべり倒し!!

ミスター・ヒト

遂に発見!!

遂に発見！ 昨年まで連載していたタコヤキ君の『大阪プロレスファン通信』で何度か呼びかけるも、結局見つからず諦めかけていたところ、『紙プロ』にも登場したタレントの胡桃沢ひろこさんからヒトさんと会ったという報告が。これはチャンスと『Dyamite!!』取材で大阪を訪れたチョロとタコヤキ君でヒトさんに会ってきたで〜！

聞き手／原タコヤキ君　構成＆撮影／松澤チョロ designed by Shiraki（TwoThree）

――ヒトさん、今日は急に呼び出してしまってすみません。実はですね、もう終わっちゃったんですけれども、ボク、去年まで『紙のプロレス』で連載のページを持ってたんですよ。

ヒト　あ、そうなの。

――大阪のプロレス、格闘技の関係者の方に取材してたんですよ。こちらの『プロディ』の店長の難波さんにも話を聞いたりとか。そのコーナーでヒトさんにインタビューをするというのが最終目標でやってたんですよ。

ヒト　俺が最終目標なのか（笑）。

――はい（笑）。難波さんにも連絡取ってもらうよう動いてもらってたんですよ。で、その連載の中で、毎回毎回、「ヒトさんはどこにいるのでしょう？」って呼びかけたりしてまして。あの～、昔も一回ありましたけど、ネットとかでは死亡説も流れてましたよね（笑）。

ヒト　生きとるわ！　勝手にそういうこと書かれるからな。実際、死にそうになったけどね（笑）。

――ガハハハハハ！　まあ、どういう形であれ、常に話題に上ってるヒトさんに、関西のプロレスにまつわることを、いろいろお聞きしたいと思ってるんですよ。

ヒト　関西にもプロレスラーって結構いるけどもさ、俺なんかが帰ってきたのは10年前で、その頃はもうプロレス辞めてたから。俺は橋本とか、馳とか、あんな連中のことだったらわかるよ。若い連中でも向こうから挨拶に来るけど、俺は知らないからね。まあ、いまのレスリングっていうのは年季は関係なしに上手いヤツは上手くなるのが早いからな。俺らの時と違って。好きで入ってきてるし。で、一所懸命やるヤツと適当にやってるヤツの差がもの凄い出るからね。

――なるほどぉ。

ヒト　昔は1000試合しなかったら上手くならないって言われてたけどね。それに昔は客が多かったし、年に200試合以上してたから、5年やったらある程度上手くなったんだけどね。

――5年やれば一人前だと。

ヒト　でも、いまは100試合でも上手くなるもんなぁ。上手くなるヤツはね。

――まあ、みんな若いのに上手いですからね。DRAGON GATEなんか、

ヒト　ただ、レスリングの形がちょっと違ってきてるから。自分が攻めていくレスリングだから。受けの方のレスリングができないのが多いからね。〝受ける〟っていうレスリングは、やっぱり難しいから。だから、いまプロレスリングができるって言ったら、蝶野、橋本、そこまででしょ。

――三銃士は受けもできるし〝キャラ〟もいいですよね、みんな。

ヒト　でも、いまのレスラーは個性がなさ過ぎる、みんな！　だから、年いった人がいつまでも残ってるんだよね。ただ、天龍選手みたいに年いったって、ガッチリした身体してれば、どんな若い人とやったって、ちゃんとレスリングしてるでょ。

――天龍さんは、いまでも説得力ありますからね。そういったヒトさんのですね、プロレス哲学みたいな話もお聞きしたいんですけど、最初に聞かせて欲しいのは、ここ1年ぐらいヒトさんは何をやっておられたのかってことなんですが？

ヒト　俺は子供のとこに行って、そこでブラブラしてたから。

――カルガリーにお住まいの娘さんのところですよね。

ヒト　そうそう。あと、体調そのものはそれほど悪くなかったんだけど、股関節にバイ菌が入っちゃってね。それで、結構動けなくなったから。

――それは普通に生活されてる中でバイ菌が入っちゃったんですかね。

ヒト　まあ、ちょっとした油断だな。靴ズレみたいなのから入ったみたい。

――こわ！　いまも、ちょっと杖を付いて歩いておられましたけど、この1年間は入退院を繰り返しておられていたと。

ヒト　退院してもう6ヶ月ぐらいになるけど、家でいろいろやったりしてるよ。

――お好み焼き屋さんの方は閉められたと聞きましたけど。

ヒト　俺の母ちゃんが死んでから、開けたり閉めたりしてたけど、もう2年以上は閉めてるわ。

死亡説？　生きとるわ！
まあ実際、死にそうになったけどね（笑）

――で、聞くところによると、来年はカルガリーに移住するみたいで。

ヒト　それもまだハッキリしてない。体調良くなったらにしようかなと思ってるんやけど。子供2人しかいないから、時たまカルガリー行ったり、こっち帰ってきたりだけども、ずっと向こうに行ってしまうってことはないと思う。

――年明けからカナダに永住すると『ファイト』に出てたんで、てっきり日本を離れてしまうのかと思ってました。

ヒト　ビザが取れないんだよ。だから、半年行って半年帰って来なきゃダメなんだよ。3年ぐらい一緒にいたらビザくれるみたいやけどな。

――そうなんですか。基本的に向こうに行ったきりになるっていうのは、すぐ先の話ではないわけですね。

ヒト　いや、向こうでいい仕事があればやるけどな。ただ、向こうはプロモーターのスチュ・ハートも死んじゃったし、誰もビザを出せるプロモーターがいないからな。その点は難しいな。

――最近、ヒトさんが、いろんな団体の大阪大会に頻繁に顔を出してるって情報を聞きまして……。

ヒト　教え子がいるとこには行ってるよ。教え子がいないとこは別に行かない。

――いや、来年、カルガリーに行ったきりになるんで、いろんなところに最後の挨拶に行ってるんじゃないかと勝手に思ってました（笑）。

ヒト　そんなことないよ（笑）。

――失礼しました。深読みでした（笑）。

ヒト　ビザ取るのに3年ぐらいかかるから。まあ、3年経つまでにコテッと行くかもわかんないけどな（笑）。

――いやいやいやいや（笑）。

ヒト　ただ、コテッといったら1人でいるから、いつ死んだかどうかわからんでしょ。林君（マネージャー）だって1週間に一回とか二回ぐらいしか最近は来れないから。仕事も忙しいんで。だから、その間に死んでたら困るよな（苦笑）。

――亡くなるといえば、ボクの連載で一番思い出深いのは中島らもさんに出てもらったことやったんですけど、ヒトさんはらもさんと本も一緒に出されましたね。

ヒト　仲良かったからな。

――亡くなられたというのを聞いた時はどう思われました？

ヒト　らもさんは鬱病で薬を飲んでたからな。

――それは有名な話ですよね。

ヒト　そういうのをやらなきゃ本も書けなかったんじゃないの。で、らもさんは、夜は俺のところの近くの玉造に一軒家借りててね、そこにベッドを置いてて、昼間は寝てるんだよ、あの人は。

こちらがヒトさん曰く、ライガーの素顔に似ているという原タコヤキ君の顔面アップ。しかも、この顔を崩したような顔がライガーの素顔なんだとか。そうかと思えば、中村獅童とライガーの素顔も似てると言うし何がなんだか。ちなみにタコヤキ君はレーシック手術でメガネ要らずに

ターザン山本! またしても

―5年やれば一人前だと。

り閉めたりしてたけど、もう2年以上は閉

―そういう生活だったらしいですね。

ヒト　仕事も夜の仕事しか取らないんだよ。で、夜にマネージャーが帰るわけでしょ。帰った後で夜中に起きだして書くんだよ。書くんだけども、書けなかったら、また表に出て飲むんだよ。で、薬飲んでる時に酒を飲むでしょ。

―そら、よくないですねえ。

ヒト　だから、倒れたりしょっちゅうしてたのよ。

―失禁することもしばしばだったそうですよ。

ヒト　ここ最近は書けなくなったから、奥さんが聞いて、ワープロで書いてたんだよな。

―口述筆記されてたみたいですね。

ヒト　それはそれでいいんだけども、誰かと一緒に飲みに行って、そこで階段踏み外して頭から落ちて、脳挫傷で亡くなったでしょ。だから、その時、誰かがいたら、あんな若死にしなくて済んだんだけどな。俺も、あの人の送る会とか出るよう頼まれてたんだけど、退院したばっかりで歩くのもしんどかったから行けなかったんだよな。でも、らもさんはなかなかいい人だったよ。それから、プロレスをこよなく愛してたよ。

―愛してましたね。B級好きな部分と、UWFとかに入れあげる部分と、らもさんの中には同居していましたよね。そこがとても良かったですよ。

ヒト　らもさんは、いいところから見てたよ。いろいろあるわけよ、プロレスの見方っていうのは。

―ほぉ。たとえば、どういう見方があるんですか？

ヒト　上から見下ろす、バカにするような見方。真ん中ぐらいで、ある程度わかって見てる人とかね。あとは下から見上げる人。「プロレスは真剣勝負なんだ！」って思ってる若い子たちがいるわけよ。まあ、それはそれでいいんだけども、そういうので3段階か4段階ぐらいあるんだよ。で、らもさんは、真ん中よりちょっと上ぐらい。ちゃんと、プロレスラーを尊敬してくれてるから。

―レスラーを尊敬しつつ、ある程度は事情もわかってプロレスを観てる感じでしたね、らもさんは。

ヒト　そうそうそう。

―亡くなられる直前にボク、取材したんですけど、らもさんにプロレスの話を聞くと「これはヒトさんから聞いたんやけどな」って、そればっかりでしたからね（笑）。

ヒト　だから、俺はおもしろおかしく話してるけども、らもさんもわかってるんだよね。自分が言っちゃイカンことを俺に預けてるわけ。プロレスっていうのは、根本的に何だと思う？

―えっ、いきなり、「プロレスとは何か!?」ですか？

ヒト　人により感動を与えるプロレスをしようと思ったら、どういうプロレスラーが上だと思う？

―うーん、武藤的に言えば、観客のハートを掴む。

ヒト　ハートなんてのは勝手に掴めるけども、プロレスっていうのは〝受け〟の世界だから。受けて、相手を信頼する。「相手よりもっと飛んだり跳ねたりしてやろう」って思ったら、絶対間違ってくるから。だから、殴り合いしても、鍛えたところを思いっきり殴り合いする。そしたら、お客は感動するわけよ。

―そうですよね。

ヒト　それができないから、いまケガする連中が多いの。だから、ブリッジでも相手に身体を任してるんだから、ちゃんとキレイにブリッジしなきゃダメなんだ。そうするとケガしないんだよ。ケガしたとしても最小限でケガを防げる。ここ最近のレスラーがなんでキレイにほとんど投げられないかというと、ブリッジの練習しないんだよ、30過ぎたら。

―ほぉ～。そういうもんなんですか？

ヒト　みんなやってないんだよ。これはみんなに言えることや。だから、いい身体作ってトップを取っても、ブリッジができないからキレイに放れないの。

―それこそ、投げっ放しが当たり前になってますからね。

ヒト　それは猪木さんのせいでもあるんだよ。猪木さんはブリッジの練習を一生懸命してるんだよ。ところが、レスリングのジャーマンスープレックスとか投げ技は下手なんだよ。

―はいはい、わかります（笑）。

ヒト　いつも失敗してるだろ。それが馬場さんと違うところ。馬場さんはブリッジの練習なんか何もしないけども、相手をキレイに投げるのはうまかった。

ヒトさんと会ったのは、以前『大阪プロレスファン通信』で紹介した『ブロディ』。ちょうど、この日『ブロディ』の忘年会が行われていて、ヒトさんもそれに出席するという情報をキャッチ。忘年会に紛れ込んで無理矢理インタビューをさせてもらいました。感謝!

―猪木さんの動きは非常にイレギュラーなんですよね。

ヒト　アンタたちは猪木さんをカリスマ的に思ってるから、悪いこと言えないだろ。悪口も書けないだろ（笑）。

―ガハハハハ！　そのへん、どうや、チョロ？

チョロ　いまはもう大丈夫だと思います（笑）。

ヒト　そういう意味ではな、プロレスが一番上手かったのは高千穂さん。

―カブキさんですね。

ヒト　ところが高千穂さんは悲しいかな、練習はあんまりしないんだよ。あれで練習してたら、まだやってたかもわからん。あと上手いのは馳。馳なんか、いまでもいい身体してるしな。

―ちゃんと、いまでも練習してるみたいですからね。

ヒト　年に5回ぐらいしか試合しないけど、毎日プロレスやってるヤツよりコンディションもいいんじゃないの？

―そんなふうに見えますね。

ヒト　それは練習してるからよ。それで相手を信頼してるから、ケガをしない。彼のレスリングはちゃんと捻ったレスリングしてるよ。だけど、捻ったって自分の足とか悪くしないじゃん。投げる時はキレイに投げるし。

―ケガさせたっていうのも、ほとんど思い出されへんなあ。

ヒト　ケガしたっていっても、彼の身体なんかは関節がキュッキュッって締まってるし、関節のところに肉がついてないから治りが早いんだよ。逆に関節のところに肉がついてると治りが遅いの。

―へぇ～、そういうもんなんですか？

ヒト　俺はそこまで知ってんだよ！

―さすがですね（笑）。あと、ヒトさんはライガー選手の名前もよく挙げられますよね。

ヒト　ライガーはな、あれは最初の頃に●●●●打ったからな。いまは打ってないらしいけど。最初に打ったから、脳に腫瘍ができて、頭がいまだにおかしい。完全に治りきってないの。

―へぇ～、初めて聞きました。

ヒト　ほんで、アイツはまた、顔だってマスク取ったら、不細工な顔してるやろ？

―ガハハハハ！　確かにカッコよくはないです！（キッパリ）。

ヒト（タコヤキ君を指差し）でも、アンタに似てるで！

―えッ!?

カルガリーでの師弟コンビ、ヒトさんとハシフ・カーン。年末手術を受け入院中の破壊王のもとへヒトさんから連絡があり「お前と馳とヒロとかで2万づつ出して俺を温泉に連れて行け」と言われたんだとか。さすが師匠!

チョロ うひゃひゃひゃひゃ！

ヒト アンタを崩したような顔してるで。

――ボク、何回かインタビューさせてもらいましたけど……。

ヒト 似てなかったか？

――そういえばどことなく……。ライガー顔だったんやぁ、俺。どう思う、チョロ？

チョロ ボクの口からはちょっと……。とりあえずタコ兄さんの写真は載せておきましょう。

――読者の皆さんに判断してもらうしかないなあ。

ヒト ところがいま、そういう顔がね、流行ってきてるの。

――おおっ！ どういうことですか？

ヒト ほら、中村獅童とライガーの素顔って似てるじゃない。中村獅童は今、流行ってるやろ？

――確かに……。

チョロ タコ兄さん、中村獅童に似てるって言われたことあります？

――桂文珍に似てるって言われたことはあるけど……。

ヒト だけど、あれもレスリングは上手い。というのは、あれは攻めのレスリングだけども、受け身も上手いから。ただ、ヒールはあんまりやったことはなかったんだけども、レスリングが上手いから、いまはヒールでも、もの凄く輝いてるよ。下手したら蝶野を喰っちゃうんじゃないか？ それと、いまは橋本が肩壊してるやろ。

――ここ数年はケガが多いですよね。その橋本選手のこともお聞きしたいんですけど、ZERO-ONEが崩壊したというのは当然ご存知ですよね？

ヒト もちろん。なぜそうなったかというとね、彼には参謀がいなかったんだよ。わかる？ 結局、橋本選手は昔のレスラーの名残がいまだに残ってるわけよ。豪傑だしな。

――そうですよね。ボクも大好きです。

ヒト 猪木さんとか馬場さんとか坂口さんより、よっぽど豪傑だから。なかなか素晴らしいヤツだけども、経営者としては豪傑じゃやっていけないんだよ。天龍選手しかり。あと、豪傑じゃないけど頭あんまり良くない長州力。あれも結局ダメだっただろ。新日本2回逃げて、またダメだったろ。

――WJは1年足らずでダメになっちゃいましたからね。

ヒト 逃げるヤツは使わなくてもいいのに使うわけよ、新日本も。いないから、個性のあるヤツが。まあ、上井さんが呼んだんだろうけどね。

――まあ、それも原因で上井さんは辞めちゃいましたけどね。

ヒト 結局は、出る杭は打たれるっていうか、出て行ったものは必ず潰れるからな。出て行ってやってるのは、インディーの連中ぐらい。インディーの連中は金なくても、ギャラの支払いが遅れてても、みんな好きだからやってんだよな。

――プロレス好きがそのままレスラーになってるようなのばっかりですからね。

ヒト で、所帯も大きくないでしょ。みんな、いろんなとこから集めてきてやってるから。それで、金が入らないで「ちょっと待ってくれ」って団体から言われても、納得してやってるわけよ。

――はいはい。

ヒト だからな、ハッキリ言って喫茶店やるより楽なんだよ。

――ガハハハハ！ インディーの団体経営するのは喫茶店より楽ですか（笑）。

ヒト 喫茶店だったら1500万ぐらいいるけど、インディーは200万からできるから。

――安っ！

ヒト 200万かかんないかな。リング中古で買ってな。

――そういう意味ではZERO-ONEはちゃんとした団体にしようとしていたわけですけど、アカンかったわけですね。

ヒト まあ、最初は良かったんだろうけど。橋本っていう男は豪傑な人間だからね。若いモンだって面倒見るし、メシ食わせたりな。それがちょっとダメになってくるとガタガタってくるよ。それを何とかフォローするヤツがいたら良かったんだよな。だから、いまはもうあそこまでいったら、みんな文句言ったらダメ。自分らがい

ターザン山本！またしても

いと思って付いていったんだからさ。誰も参謀がいなかったからおかしくなったんだよ。そうでしょ。

チョロ　控室とかでも、あまり話をする人がいなかったみたいですからね。橋本さんと、その下の大谷さんとか高岩さんの間には、やっぱり何だかんだ言っても世代の差がありますからね。

――そらそうやろね。

ヒト　それは急にだよ。前に俺がカナダに行く前なんかは、控室で橋本の周りに人いっぱい集まって、みんなワイワイワイワイ言ってたよ。そういう意味では、いま控室が面白いのはNOAH。NOAHの控室が一番楽しいよ。

――それは和気あいあいって感じなんですかね。

ヒト　そうそう、和気あいあいだよ。永源いるしな。

――それは面白そうですね（笑）。

ヒト　あと、みっちゃん（百田光雄）もいるしな。それで、みんな結束力があるんだよな。馬場さんの奥さんと馬場さんのことが嫌だから、馬場さんが生きてる間は逃げなかったけども、馬場さんが亡くなった途端、これ幸いって逃げたでしょ。

――まあ、そうですね。

ヒト　逃げたあとも、なんとか日本テレビも引っ張ってきたし。あと、営業のプロの永源がいるから、だから赤字じゃないのはあそこだけだよ。新日本だってみんな赤字だよ。

――らしいですねえ。堅実経営ができているのはNOAHぐらいでしょうね。

ヒト　そうそうそう。新日だってグッズが売れてるから何とかやっていけてる。それでも毎月赤字だよ。赤字だけども猪木さんの借金清算したから、会社に少しは金あるからな。それで繋いでるだけなんだよ。だけど、猪木さんていうのは金を引っ張ってくる力はあるから。

――パチンコメーカーとタイアップしたり、いろんなところから引っ張ってきてますよね。でも、それ以上に他のことに使っちゃうんでしょうけど（笑）。

ヒト　そうそう。俺なんか中に入ってるわけでもないけど、聞かなくたってぜんぶわかっちゃうから、あの会社のことは。

――さすがだ（笑）。橋本選手の話に戻しますけど、『紙プロ』の読者も橋本選手のことが凄い好きな人が多くて、ボクらもしょっちゅうインタビューさせてもらってるんですけど、ただ今回のZERO-ONEの崩壊劇に関しては……。

ヒト　（遮って）だからね、プロレスラーのね、俺は『ファイト』の連中は、井上編集長も橋詰君も、みんな仲良くしてもらってんだよ。でもな、『ファイト』は今回、橋本選手を攻め過ぎたよ。

――一面で毎回のようにスキャンダルネタでやってましたからね。

ヒト　やっぱり隠してやらなイカンことは隠さなきゃダメなんだよ。ましてや、プロレス関係なんだったら余計そうだよ。レスラーとマスコミっていうのは持ちつ持たれつじゃない。適当に面白おかしくだったら嘘書いてもいいけどさ、ホントのことをあんまり言ったらダメだよ。わかる？

――わかります。特にプライベートなことが噂で出てましたからね。

ヒト　でもホントのことは絶対書かないじゃない。馬場さんのことだとか。あんな悪い男は他にはいないぜ！

――出た！　ヒトさん、お得意の馬場さんネタですね！

ヒト　馬場さんに輪をかけて悪いのが元子さんだけどな（笑）。あんなもん、どうしようもないじゃない。この間、あれと会ったよ。

――え、誰ですか？

ヒト　これは書いてもいいぞ！

――はい。で、誰なんですか？

ヒト　ジョー樋口さん。

――おお！

ヒト　大阪の府立体育館で。「なんだ安達、元気か!?」って言うから、「ちょっと痩せたけど元気ですよ」って。そしたら、あの人もやっぱり馬場さんにダマされてたんだよ、夫婦2人に。あれだけ外人の世話からみんなやってきてね。

――世話役でしたからね。

ヒト　でもな、何にも特別に金貰ってなかったんだって。20何年間。それで退職金もくれなかったって。

『ファイト』は橋本選手を攻め過ぎたよ。ホントのことあんまり言ったらダメ

――え～～ッ！　ホンマですか!?

ヒト　あの人は富士の裾野に引っ込んでんだよ。目黒のマンションを売って、小さい別荘を買って、犬と奥さんと一緒に暮らしてて。そしたら、ある日、電話かかってきたらしいよ。

――どちらからですか？

ヒト　全日本プロレスから。それで、「何ですか？」って聞いたら「馬場さんが功労金出すって言ってますよ」って。それで出て行ったらしいよ、武道館の大会に。で、行ったらセミファイナルの前にもらったらしいのよ。こんなおっきい封筒の金一封を。表にジャイアント馬場って書いてさ。で、中身はそんな厚くないから、これは小切手だなって思って、退職金と功労金と入れて、少なく見積もっても一千万は入ってるなって思ったらしいよ。それで、持って帰ってきて、トイレ行って中を見たらしいよ。

――子供じゃないんだから（笑）。

ヒト　ところが何回見たって何にも入ってないんだって。だから、いつか電話で「金取りに来い」って言うのかなって思ってたら、そのままで馬場さんは死んじゃったらしいよ。

――う～ん。

ヒト　もうその後はほったらかし。あと、マイティ井上も身体悪くて休んでてさ、功労金取りに来いって言われて、違う日の武道館大会に行って、目録貰ったら分厚かったんだって。

――おお、マイティさんは貰ったんやな。

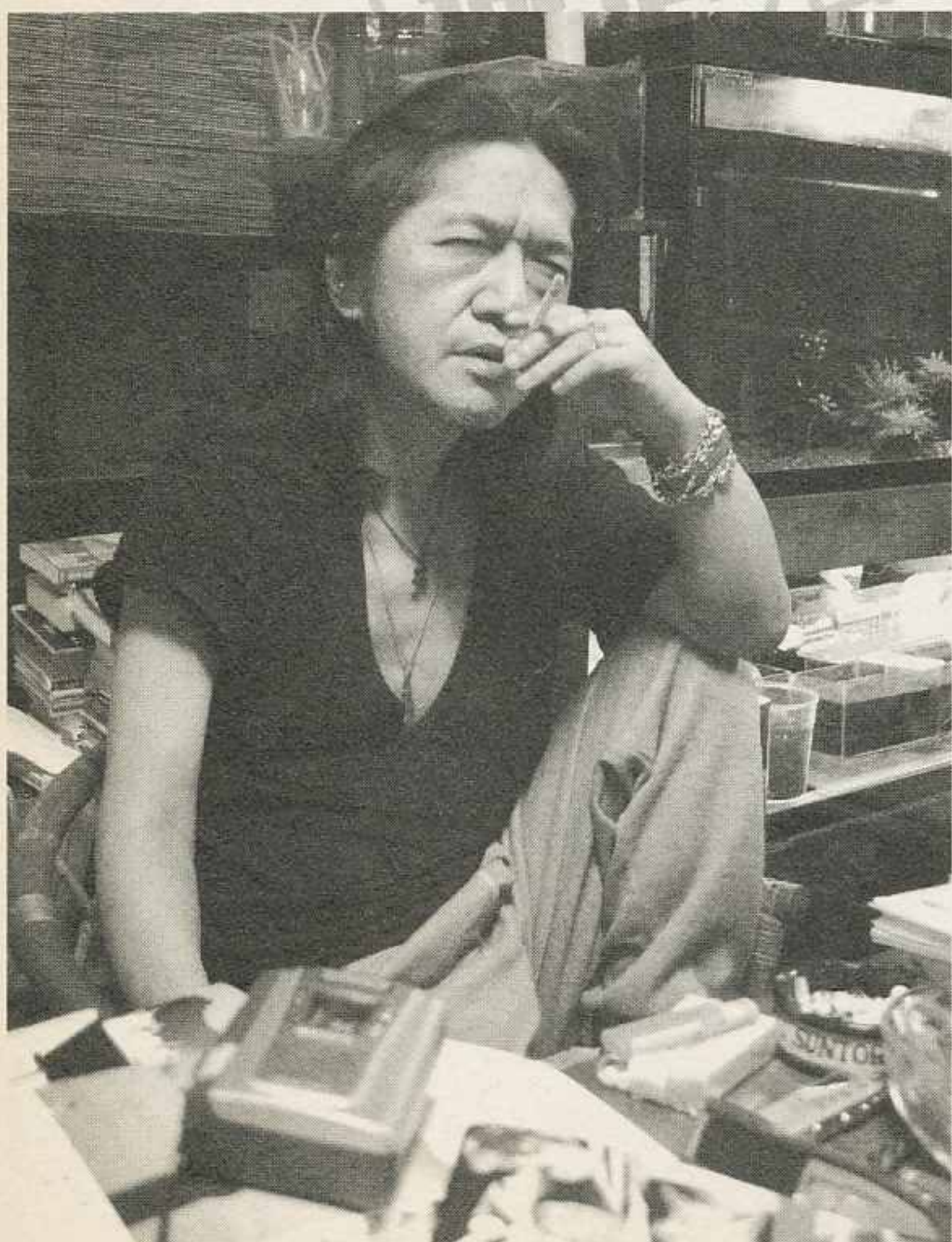
ヒト　「見舞金と合わせて100万ぐらいかな」って思って控室に戻って見たらしいよ。

――マイティさんはトイレじゃなく（笑）。

ヒト　そしたらそれ、コピーの紙でな。それを札の大きさに切ったヤツが入ってたらしいよ。家に持って帰って、一枚ずつキレイに見たらしいけど、やっぱりお金も小切手も何も入ってなかったって。

――え～～ッ！（笑）。

ヒト　それで、そのうちくれるのかなって思ってたら死んじゃったらしいよ。で、そのままだって。だから、お客さんの前で渡してるわけだから「馬場さんって凄い人だな」って思ってるわけよ、みんな。

――子供のドッキリじゃないですか、そんなコピー用紙切ってとか（笑）。

昨年『大阪プロレスファン通信』に登場、それから間もなくして亡くなってしまった、らもさん。共著で『熊と闘ったヒト』と出版するなど公私共に付き合いがあったヒト&らも

『Dyamite!!』での曙戦のギャラは一説には3億とも5億以上とも言われているホイス。曙戦後は超ゴキゲンで会見中も奥さんと携帯で喋りっぱなし。しかし、ヒトさん曰く「億なんか払うわけないよ」とバッサリ!

ヒト　子供だって、そんな悪いことしないよ!

――ガハハハハハ! 確かに（笑）。

ヒト　ヤクザもんでも、そんな悪いことしないよ! だから、みんなジョー樋口さんのことが好きだから、ジョーさんはコミッショナーみたいなことをやってくれって言われてるのよ。あの人は英語もできるし、いまは外人にずっと付いてはいないけど、テレビの収録がある時とか大きい体育館の大会の選手権の時は呼ばれて出てるでしょ。それで顧問料かなんかもらってんじゃない? だから、三沢とか永源が偉いよ、やっぱり。あんな人をね、使うだけ使って捨てるのは絶対ダメだよ! そうでしょ?

――そうですね。

ヒト　日本のプロレスの功労者じゃない。日本プロレスから全日本プロレス行って。馬場さんが死ぬまで一所懸命やってよ、それで外人をみんな育てて、そんなもん一番の功労者だよ。会社が斜めになって落ちちゃったらしゃあないよ。あのおばさんなんか、何十億、何百億持ってさ、ジョーさんに一億円やったってバチ当たんないよ。

（※この後も馬場さん&元子さんについて、知られざる驚愕のお話をたっぷりと語りまくったヒトさんだったが、馬場追善興行も間近に迫ってきてるのもあり、今回は自粛させていただきます）

ヒト　まあまあ、いま言ったのは最後の悪口……いや、悪口じゃなくてホントのことだからな。

――その辺のことは、すでに著書でもだいぶ書かれてましたよね。

ヒト　そりゃ、俺なんか2回か3回ぐらい裏切られてるから。だから言うだけで。結局、金で損してるからな。爪に火を灯してね、カナダでやっとこさ食えるぐらいの金稼いでよ、頑張ってた人間が、正直言って、猪木さんの会社から若いのが来たりして、そいつらのために一所懸命働いてよ、それで金寄越さないんだから。それは馬場さんも一緒。口約束だから、いざとなったら払わないんだよ。払わないってわかってるんだけど、俺はケンカでは馬場さんに勝つから、かかっていくわけ。辞めてからでも。そしたら逃げるんだよ。小鹿さんを呼んだりな。俺は小鹿さんの言うことは聞くから。俺なんか、やめて5年経った時でも、嫁はんもろともやっつけてやる自信あったよ。

――ガハハハハハ! なんの自慢ですか（笑）。

ヒト　現役の時なんか右手一本で大丈夫だったよ! （キッパリ）

――ビッグサカみたいですね（笑）。

ヒト　ただ、レスラーとしては尊敬するよ。馬場さんはレスラーとしては素晴らしかったから。

――でも、人間・馬場正平としては尊敬できない部分があったわけですね。ちなみにプロレスではないですけど、大晦日に紅白の裏で格闘技が2番組も勝負を挑むわけですけど、プロレスとしては寂しいことですよね。

ヒト　だけど、それはあれじゃないの、お祭りみたいなもんだから。K-1なんかある程度盛り上がってるけど、ちょっと頭打ちだから。それでも芸能界とか、有名人に十枚単位でバラまいてるからな。

――そうなんですかね（笑）。

ヒト　だから、半分ぐらいタダだと思うよ。超満員になったって。ギャラが高いっていったら誰だ?

チョロ　やっぱりホイス・グレイシーとかですかね。一説には5億以上とか言われてますからね。

ヒト　あんなもんに何億も払うわけないよ!

チョロ　払わないですか（笑）。

ヒト　今度、曙とやるヤツ誰だ?

――それこそホイスですね。

ヒト　あれでいいとこ、●●●万ぐらいか。

――安ッ! そんなに安いんですか?

ヒト　何億なんて誰が払うのよ、そんなもん。ヒクソンだって三試合で一億円とかだからな。それを一試合、一億だとか6000万とか7000万とか言ってるけど、あんなもん、みんな嘘!

――あ、嘘なんや（笑）。

ヒト　ヒクソンも最初は高かったの。高田かなんかとやった時は。だけども、その後、また高田とやって。結局2試合しかしてないでしょ、『PRIDE』では。息子死んだりとか何とか言って。

――桜庭と闘うっていう機運も高まりましたけど、『PRIDE』にはそれ以来上がってないですね。

ヒト　やれ1億だ2億だって言われてるけど、あんなもん半分以上みんな嘘! あのね、K-1の上の連中とかはみんなプロレス好きなのよ。

――イベントプロデューサーの谷川さんも、自称・猪木ファンですからね（笑）。そういえば、らもさんもおっしゃってましたけど、ヒトさんと一緒にK-1とか観てても、この試合はグレーだとか教えてもらってたって。

ヒト　観てわかるんだもん。猪木が絡んでるヤツはみんな話し合いだろ。

――は、話し合いですか（笑）。

ヒト　それで桜庭とか、そういうのは潰そうとしてるから、猪木さんがブラジルとかから連れてくるわけよ。それで桜庭とやらして、潰しちゃったでしょ?

――もしかして、ヴァンダレイ・シウバのことですか?

ヒト　そう、シウバ! いまは高くなったか知らんけど、最初に来た時は●●●万ぐらいで桜庭をやっつけろと。やっつけたらボーナス●●●万やるからってことで、●●●万で飛んできたんだよ。

――なんとシウバは猪木さんからの刺客でしたか! （笑）。夢があるなぁ、チョロ!

チョロ　凄いですねぇ（笑）。

ヒト　だけど、いまでもムチャクチャ高くないよ。

チョロ　もらってると思うけどなぁ。それにホイスも●●●万ってことはないと思いますけどね。

ヒト　だから、●●●万だって! そう聞いたよ、ある人から。誰かは言えんけども。

――ある人って誰だか気になるなぁ（笑）。

ヒト　ホイスなんか、どこでも金稼げないのよ、いま。あんな試合するヤツはね、アメリカじゃ誰も使わないんだから。

――実際、アメリカでは最近、全然試合してないですからね。

ホイスみたいな試合をするヤツはね、アメリカじゃ誰も使わないんだから

んに一億円やったってバチ当たんないよ。
んだりな。俺は小鹿さんの言うことは聞く
後、また高田とやって。結局2試合しか
してないですからね。

ターザン山本! またしても

ヒト ポカポカポカポカって殴り合いするんだったら、まだいいよ。あんな相手が疲れるのを待っててガーッと絞めにくるようなやり方っていうのは外人はあんまり好きにならないよ。プロモーターが使わないんだよ。でもな、●●●万持っていったら、ロサンゼルスに住んでたって、安いとこ住んでるから。昔の家買って。だから、生活費は年に200万ぐらいしかかかんないんだよ。

——そんなことまでわかるんや（笑）。

ヒト なっ! 俺は裏の裏まで知ってんだよ。だから、K-1も払ってるように見えるけど払ってないんだよ。ヨーロッパとかでボクシングやキックボクシングやってるヤツなんかは自分の国じゃ試合もなくて金にならないんだから。一試合500ドルぐらいしかもらえなくても試合するんだから。それで用心棒やったりとか、そんなことしてるわけや。

——そうらしいですね。

ヒト で、日本に来てな、K-1GPで優勝して、3000万とか言うじゃない? あんなもん3000万もらえるんだったらホントに殺し合いするよ!

——ガハハハハハ! でもK-1はさすがにちゃんと払ってますよ（笑）。

ヒト 殺し合いしたら、みんな負けないって、そんなもん。誰が負けるのよ?

——全部膠着試合になっちゃうってことですか?

ヒト そうや。結局、膠着するよ。みんな負けたくないから。だからガーッと組みに行くしな。ところがギャラは決まってるから。わかる?

——はあ。

ヒト ギャラが決まってるなら、早く終わって帰った方がいいんやから。

——まあ、そうですよね（笑）。でも昔の全日本の最強タッグとかでも、よく小切手出してましたけど（笑）。

ヒト あんなもんもらえるわけがない。バトルロイヤルだって俺らは昔はね、景気が良かった時は優勝したら10万円っていうのがあったのよ。それで、安い時で3万円。毎日試合があったのよ。それで、夏に分けるんだよ。その時に5~60万あるんだよ。下のモンでもみんな平等に分けるからな。それで冬になったら70万ぐらいになるから。その時はハワイにみんなで行ってな。あの当時、ハワイに行くのは高かったから。30万ぐらいしたんだよ。それで、小遣いとかみんなくれるわけ。それぐらい景気が良かったんだよ。あの時なんて10万円出すって言ってな、バトルロイヤルやったら誰も寝ないよ。1、2、3、やられないよ。殴り合いのケンカなるよ。目の中、指入れたりさ、そんなもんムチャクチャになるけども、その辺は臨機応変にいくわけよ。

——へぇ～、そんなもんなんや。

ヒト それはK-1だって言えることだよ。下手なヤツが多くなり過ぎてるから。で、新しいの新しいの連れてくるでしょ。でも、芝居のできるヤツはもうロートルじゃない? あんなもん向こうに行ったたって練習してないよ。来る半月ぐらい前にちょこっと練習するわけよ。●●●●●打ったりな。

——怖いわ、ホンマ（笑）。ちなみにヒトさんは、『ハッスル』っていうイベントは知ってます?

ヒト 観たことあるよ。

——日本のプロレスの中で、もっともエンターテインメント色を一番強く出してて、「ファイティングオペラ」って言い切っちゃってるんですけど、そういうのってどう思われますか?

ヒト いや、いいと思うよ。お客が喜ぶんだったら何やったっていいんだよ。

——そうですよね（笑）。

ヒト ただ、あんまり漫画みたいなことしない方がいいと思うけどな。えべっさんみたいなのは、ちょっとやり過ぎだけども。

——あれはあれでいいんじゃないですか?（笑）。

“受け”が日本一、下手したら世界でも三本の指に入るのが金村キンタロー

ヒト まあな、あれはあれでいいんだよな。ただ、俺は言わせてもらいたいけども、えべっさんは、あれはもの凄くレスリングの素質はあるんだよな。あんなコスチュームしてな。日本一足が短い男だけども。あ、一番短いのはアイツや、リッキー・フジ。

——そうなんですか（笑）。

ヒト アイツは座って足伸ばして、爪を切ってヤスリかけれるから。

——ガハハハハハ!

ヒト それで、多分、練習は一年に一回も腕立てしないだろうけど。

——そこそこ、いい身体はしてますよね。マッスルポーズとかもやってますし。

ヒト いや、ポチャッとしてるだけよ。だけど、練習やらして、ここはこうやってみろって言ったら、毎日練習してるヤツができないのに、アイツは簡単にするんだよ。だから、センスはもの凄くある。

——そういう意味では、ヒトさんは金村選手のことは凄い評価してましたよね。リッキーさんと同じように身体はポチャッとしてますけど（笑）。

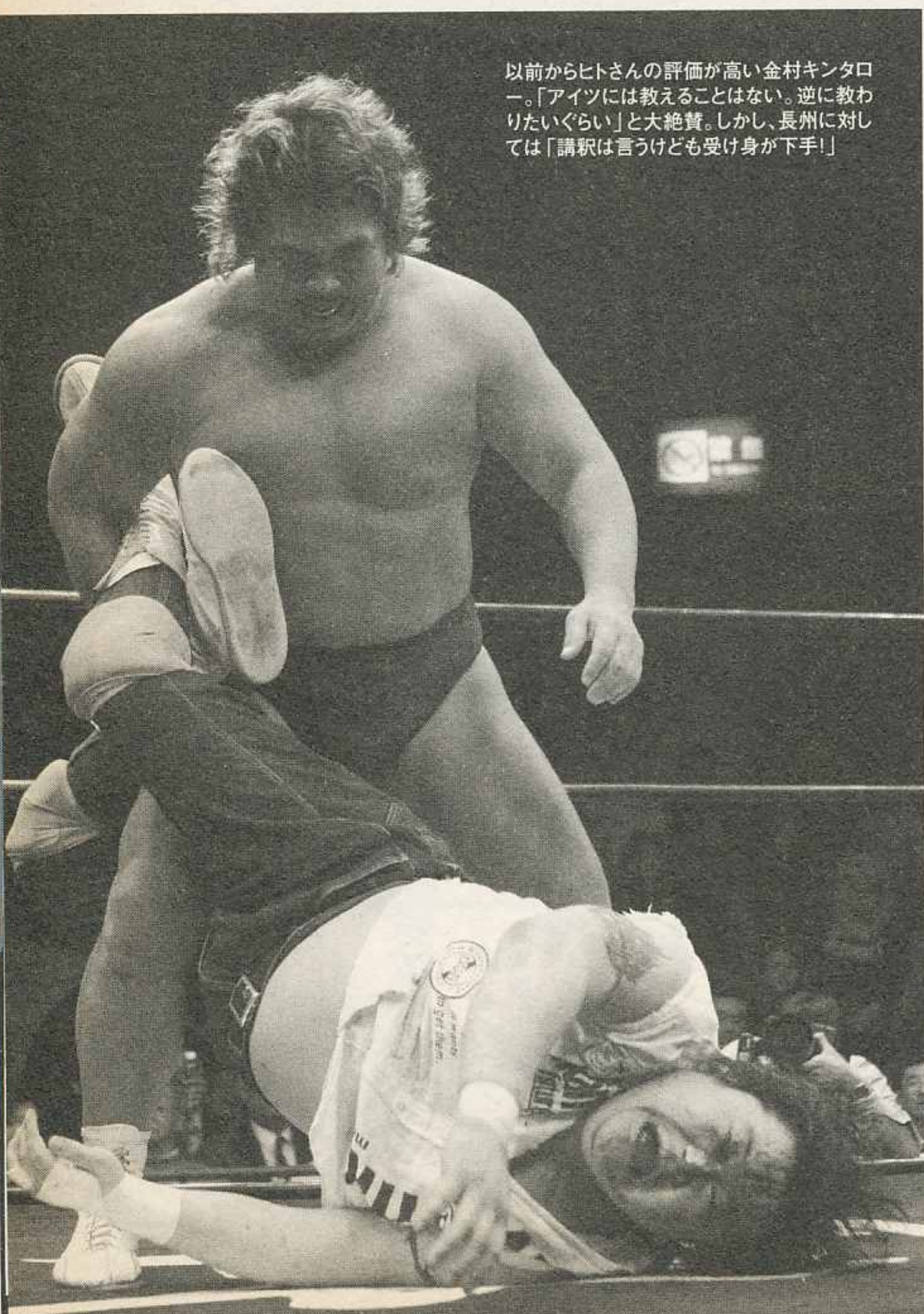
ヒト あれはプロレスの一番大事な受けが多分日本一うまいやろ。アイツは日本一うまい! 下手したら世界でも三本の指に入るか、もっと言ったらトップかもわかんないよ。

——もの凄い評価が高いんですね。

ヒト 身体の大きいヤツとちゃんと試合して、ちゃんと相手光らしてるからね。だから、アイツの試合を俺は楽しんで観てるよ。何にも言うことないわ。どんな相手と試合したって、ラダーマッチやったって、ギミックのマッチやったってピシッとやるから。あれはうまい! だから見直されてきてるから、年に200何試合もしてるやろ、アイツは。

——逆に受け身が下手なレスラーっていうと誰になりますかね?

ヒト できないのは、講釈は言うけども、長州力や。それと藤波。藤波なんか、前

以前からヒトさんの評価が高い金村キンタロー。「アイツには教えることはない。逆に教わりたいぐらい」と大絶賛。しかし、長州に対しては「講釈は言うけども受け身が下手!」

田とか橋本もそうだけど、十字靭帯伸ばしたのは、あの連中と試合するから。バーンと胸を出して蹴るのに、一回目蹴られて痛いでしょ。で、二回目は痛いから肩を出すんだよ。そういうと胸板じゃないとこにヒザが当たるんだよ。そうすると隙間があいて、先にヒザが当たるから、靭帯が伸びちゃうんだよ。橋本なんかも先輩だから「受けてください」とは言えないから。俺だったら「受けなさいよ」って言うけどな、ナンボ先輩でも。こっちがケガするんだから。そうでしょ？

——でも、面白いのは一般的には藤波さんなんかは"受け身の天才"と言われてきた人ですけど、ヒトさんからすると下手になるわけですね。

ヒト　何が天才だよ。頭はアホだから。

——ガハハハハハ！

ヒト　頭、メチャクチャ小さいじゃない。

——確かに長州さんなんかは技をあまり受けないイメージはありますね。

ヒト　いや、受け身できないから。普通の受け身ができないから。だから、自分からワーッ、行くゾーッっていう感じやろ。そういう意味では自分のことは知ってんだよ。猪木さんと一緒で。ところが相手の技を受けるのを痛がったり、ちょっとしたことなんだけど、相手にケガさせるんだよ。相手にケガさせるプロレスラーは絶対ダメだよ。相手を信頼してやってんだから。スベッたりなんかしたらしょうがない時はあるよ。まあでも、いまさら治らないだろ。50過ぎてからは。

——もう無理でしょうね（笑）。

ヒト　好きなようにやればいいんだよ。強いヤツがホントにガチッとやっつけてやりゃあいいんだよ。

——小川直也選手の試合なんかはご覧になったことはありますか？

ヒト　小川直也はいま、旬で売れてるやろ。

——コマーシャルから何からよく出てますからね。

ヒト　売れてるけども、プロレスそのものは知らない。知らなくて、ただ一般の人に言ってもわからんかもしれないけど、プロレスラーの間ではどうしようもないって言われてるよ。でも、誰かに本気になって教えてもらったら上手くなる素質はあるよ。

——ほぉ～。

ヒト　ただな、あの男は最近、試合中、口が開かなくなってきた。前は試合中コーナーとかで遠く見てる時でも口が開いてたよ。それがいまは開かなくなった。

——それはいいことなんですかね？

ヒト　なんでかって言ったら、金稼いでるから、口開けたら金が出て行くと思ってたんだって。

——ガハハハハハ！　そういうオチでしたか（笑）。てっきり呼吸法かなんかだと思いましたよ。

ヒト　口を開けるってことはアゴを上げるということや。だから、金稼いでるから、金の勘定をしなくちゃいけないからな。馬場さんとか猪木さんが口開くのは、あれはアゴが大きくて重いからや（笑）。

——それはしょうがないですね（笑）。

ヒト　でも、これはホントやけど、いいレスラーは口閉じてるよ。天龍選手が口開けてるとこ見たことないでしょ？

——そう言われればないですねぇ。

ヒト　だから、どっから来ても受けれるような体勢になってるから。まあ、そんなこと言っても誰が見てもいいものはいいんだよ。

——それでは強引ですけども、最後に来年のヒトさんの豊富を聞かせてください。一応、締めということで（笑）。

ヒト　結局ね、子供たちに頼らなきゃいけないから。まあなんかの形で、本を自分で書こうかなと思ってて。ライターとか入れなくて。

——ほうほうほう。

ヒト　プロレスはちょっと絡めるけども、いかに外国で楽しく生活をエンジョイできるかっていうことを書きたいね。若者が買ってくれるような本。若者って夢があっていいわけよ。だから、俺、若者にマリファナなんかやるなって絶対言わないから。

——らもさんみたいですね（笑）。

ヒト　やればいいのよ、みんな。

——一回経験してみろと（笑）。

ヒト　そうそうそう。経験してみて、自分が嫌だったらやめりゃあいいのよ。良かったらそのまま続けりゃいいんだよ。ただ、続けていったらそれ以上、ブレーキが効かなくなるから、みんなおかしくなるんだよ。LSDとかみんな手出すわけ。そうでしょ？

——エスカレートしちゃうんですね。

ヒト　こんだけ若者がね、いろんな問題起こしてるじゃない？　そんな若い者に対して、誰かが言ってやらなきゃダメ。

——その役をヒトさんが買って出ようと。

ヒト　まあ、プロレス関係だけじゃなしにな。俺たちでそれができることあったら、ちゃんと話してやろうと思ってるの。そのためにはカナダに行ったとしても年に2～3回は日本に帰って来なきゃダメだ。

——そうですよね。

ヒト　だから、いまは現実をみんなわからな人が多いんだよ。この間、イラクで殺された人、いるでしょ？

——香田さんですね。

ヒト　あれなんかでも、あの親が、父親も母親も偉いよ。政府に迷惑かけてるからって言ってね。殺されてもしょうがないという態度を見せたじゃない？　でも、その前に捕まった3人は違ったやろ。みんなに迷惑かけようが何しようが助けてくださいって。一人当たり数億単位の金を政府は払ってるからな。

——数億単位!?　そんなに払ってたんですか？

ヒト　ところが、あの女！　いま何してると思う？　日本国中、今年なんか250ヶ所ぐらい講演して、一回あたり相当な金貰ってるらしいよ。

——へえ～、それは知りませんでした。

ヒト　そういう話しを暴露してみようかなって。

——それは面白いですね。プロレス界だけじゃなくて、日本国家の暴露本ってスケールが大きくていいですよ（笑）。

ヒト　そうだろ。あ、最後にひとついいか？

——はい、何でしょう？

ヒト　ついこないだ、俺のサポーター連中がウチに集まって忘年会やったんだよ。マネージャーの林君と、みつる君、あと林田君と谷君っていうのでな。鍋やってカニ喰い放題でワイワイ騒いでたんだよ。

——それは楽しそうですね。

ヒト　でも、俺は眠くなったんで1時頃裏に行って寝たの。その間も、4人は飲みに出かけたみたいなんだけど、朝の3時だか4時頃帰ってきて、ベッドで寝てる俺の上に3人が乗っかってきて、林君が3カウント入れたんだよ（笑）。

——それは、メチャメチャ驚きますよね。

ヒト　驚いたってもんじゃないよ。でもな、フォール負けなんて何十年ぶりだったけど、なんか嬉しかったんだよ。もう若いヤツにはかなわないけど、久しぶりに3カウント取られて、元レスラーとしては、ちょっと複雑だけどな、なんか来年はいいことありそうだなって思ったんだよ。とりあえず、身体を治していろいろ頑張るよ。そんなとこだな。

【2004年12月30日／大阪・メキシコ料理店『BRODY』にて収録】

みすたー・ひと■1942年4月25日、大阪府大阪市出身。大相撲出羽ノ海部屋に入門し幕下上位で活躍。67年に日本プロレスに入門。73年1月、永源と共に初のアメリカ遠征。その後は海外を中心に活躍。83年に引退し帰国後は大阪天王寺に戻り、お好み焼き屋を経営（休業中）。現在、娘の住むカナダへの移住を計画している

ライターなしで、いかに外国で生活をエンジョイできるかってことを書きたい

ターザン山本！またしても

勝★利★宣★言

歌舞伎町のド真ん中で
“新生・ゴング”の真実を語る!!

週刊ゴング1日編集長
本誌初登場!!

これぞ春の珍事!?　GK金沢編集長退陣以降、オーちゃんや高田総統が表紙を飾るなど、“らしくない”ことを連発している週刊ゴングが、1・4ドーム大会増刊号の編集長をターザン山本！に任せるという自爆テロのような最終手段に打って出た！そしてその増刊号には“ゴングのメジャーな紙プロ化”という信じられぬ文字が……。いったいゴングになにがあったのか!?　高田総統が言うように、ゴングは本当に「沈没寸前の迷走状態」なのか!?　早速、“編集長”に話を伺ってきました！

聞き手／堀江ガンツ　designed by Tani-Yan（Two three）

となんだけど、相手にケガさせるんだよ。

ヒト　でも、これはホントやけど、いいレ

ヒト　あれなんかでも、あの親が、父親も

大阪・メキシコ料理店『BRODY』にて収録

最初に「1日編集長」の話が来た時「あ、ゴングつぶれる」と思ったよ！

——山本さん！ いや～、2005年がターザン山本週刊ゴング（1日）編集長就任で幕を開ける思いませんでしたよ！（笑）。

ターザン 俺さぁ、最初に「増刊号の編集長やってくれ」って言われたとき、直感的に「ゴングつぶれるな」と思ったよ！

——ハハハハハ！ いきなりなんてこと言うんですか！（笑）。

ターザン いやね、ゴングが一日編集長にしてくれたことはボクにとって光栄なことだし名誉なことだし感謝してるんだけど、編集人としてピンとひらめいたのが「こりゃゴングつぶれるな」だったんですよォォォ！

——編集の鬼、ターザン山本の直感のひらめきが「ゴングつぶれる」だったと（笑）。

ターザン そう！ 理屈抜きに条件反射でつぶれると思ったもん。「つぶれる」っていうのは非常に犯罪的な勘であり、思っちゃいけないことなんだけど、パッと最初に頭に浮かんだことだからしょうがないよな。ホンマに。これは失礼な話なんだけどね。

——ものすごく失礼だと思います（笑）。でも、そういう時の山本さんはなぜか動物的な勘の鋭さを持ってますからね。

ターザン 「あ、やばいな！」と天のお告げみたいに脳にダイレクトに来るんだよね。そこだけは凄くデジタルなんですよ、超アナログ人間なのに（笑）。逆に「次はこれが大化けする」っていうポジティブな勘も働くんだけどね。

——ところが今回はネガティブに働いたと（笑）。じゃあ、山本さんの感性を信じればゴングはホントにやばいんですか？

ターザン でもね、そのあと考えたのは「これはビッグチャンスだな」と。ボクにとってビッグチャンスだし、ゴングにとってもビッグチャンスになるし、変革への第一歩というか、流れが変わるというか。「ここでオレがやらなきゃダメだ」という形で気を持ち直したというか、「ヨシやるぞ！」という気持ちになったんだよね。

——俺がゴングの未来を変えてやると。

ターザン そうですよォ！ かつてボクの体中から溢れ出ていた週プロ栄光の象徴の一つでもあった、あの「増刊魂」というヤツが復活したというか、盛り上がってきたんだよね。

——また下半身の話ですか（笑）。確かに失礼ながら、ボクも今回、初めてゴングの増刊を読みたくなりましたからね（笑）。ホント失礼な話ですけど、本誌はともかく、ゴングの速報号って速報だけで読むとこなかったじゃないですか。

ターザン それは結局ね、ゴングはあくまで本誌がメインであって増刊号は彼らにとってアルバイト感覚なんですよ。

——週プロは違ったんですか？

ターザン ボクの増刊号は、いつ何時でもセメントの本命感覚ですよォォォ！

——なぜか増刊のほうが本命（笑）。

ターザン 本誌より増刊号のほうが燃えてたんだから！ なぜかというと、徹夜して深夜の一本勝負でしょ？ 2日後にはもうすぐ本ができるでしょ？ ページ数が少なくて余計なページが一切ないでしょ？ もう俺の作品だもん。作品が2日後にはもうできあがってるって、こんな快感ないですよ！

——本誌よりもやってて気持ちいいから、増刊に燃えていたと（笑）。

ターザン 試合があった夜から朝にかけての一夜限りの急ぎ働きの一発勝負でしょ？ それをみんなで遠足感覚で集まってきて団結力でやるわけだから、それは楽しいですよォ！ なんか青春時代の徹夜で遊んでいた頃の郷愁すら感じたもんなぁ。

“メジャーな紙プロ”化を標榜しているらしいが、どうみても『SRS・DX』な表紙の週刊ゴング1・4ドーム増刊号。その目玉企画「蘇れ！活字プロレス伝説」と題した座談会は、1・4ドームと何も関係ないところが素晴らしい。なお、GK曰く週ゴンはピーター本以降売れ行きが落ちたそうです。

——徹マンみたいなもんですか？

ターザン そうそう、増刊号の編集作業は徹マンですよォォォ！（笑）。そして朝を迎えるのが気持ちがいいもんな～。それは凄い精神的な射精感覚ですよォォォ！

——徹マンした挙げ句、射精までするほどの快感だと（笑）。まぁ、当時の週プロ増刊はしかも毎回売れてたわけですもんね。

ターザン ハッキリ言うよ。紙代と写真フィルム代現像代と印刷代しかかってないんだよ？ 会社はボロ儲けですよォォ！ しかもほとんど自前のライターでやってるから原稿料なんて、ナシみたいなもんですよォォォ！

——そんなボロい商売してましたか（笑）。

ターザン だからさ、ベースボール・マガジン社もとにかく「増刊号やってください」ばっかりだったもん！ それは利益率が抜群だからですよぉ！ 本誌の週プロ以外に大きなプラスアルファの利益があがるので、毎月のように増刊やらないんですかばっかりですよォォォ！ それでオレたちは余計な仕事してるのに、全然手当がつかないんですよォ！

——手当なしですか！

ターザン ゴングは増刊号を作るとあるそうだけど、当時の週プロはなしですよ！ だから俺たちは自己満足でやってたんだよな。少しでも損得勘定で考えていたら、そんなもんやってられませんよ！ 朝まで仕事して手当なしなんだから！ でもね、第2世代の鶴田（倉郎記者＝現フリー）は言って来たんですよ。「手当ください」って。安西とか宍倉次長とか第1世代はプロレス団体で言うと〝旗揚げメンバー〟みたいなもんで、ボクの意図の元に無償の行為として、当たり前のことだとしてやってきたわけですよ。ところが第2世代になると論理的に考えて、「手当がもらえないのはおかしい」となったわけ。そのとき俺は「ああ、もう週プロ終わったな」と思ったもん。

——特殊な価値観でやってきたからこその週プロだったのに、一般的価値観が入って来てしまったと。

ターザン そう。鶴田にとっては当たり前のことなんだけど、彼の一言で「ああ、ターザン山本の時代は終わったよ、美しい時代は終わったよ」と思ったなぁ（遠い目で）。「これでもう増刊号なんかやらなくていいや。どうでもいいや」みたいにテンションがガタッと下がったもんな。

——意外にも鶴田記者がターザン山本時代の幕を引いてましたか（笑）。では、今回のゴング増刊はお金こそもらうんでしょうけど、週プロ増刊以来の無償的な行為というか、助っ人として馳せ参じたと。

ターザン この俺がゴングでやるということ自体が大変なイレギュラーじゃない？ そのイレギュラー感覚が楽しいんだよね。かつてボクのことを敵視し、「4・2夢の懸け橋」もまるで歴史上なかったことのように扱ってきたゴングが、〝増刊号の鬼〟と言われたボクを編集長に迎えてやるというのはどういうこと、コレ！

——でも、その山本さんを使ったということは、ある意味ゴングが

終わったということですよね。

ターザン　ゴングという価値観、ゴングという形態、システム、フォルムが終焉を迎えたということですよ。自分たちのスタイルを守れなくなったから、仕方なしにボクを呼んで来たわけでしょ？　それ自体がゴングの終わりであり巨大な始まりなんだよ。このパラドックスが素敵じゃないか？　そう思わない？

——じゃあ、山本さんの大勝利宣言ですか？

ターザン　勝利も勝利、大大大勝利ですよォォ！　まぁ、それは失礼になるから言わないけどね。

——おもいっきり言ってます（笑）。

ターザン　でも、いま言ったように終わったということはゴングにとっていいことなんだよ！　終わりということは新しいゴングの始まりでもあるわけだから。いままで終わらなかったから始まらなかったわけですよォォ！

——その新しいゴングが〝メジャーな紙プロ〟を目指してるっていうのも凄いですけどね（笑）。

ターザン　『紙プロ』という言葉はゴングでは禁句でしょ？　タブーでしょ？

——なんか、そうだったらしいですね。

ターザン　あの増刊号では門茂雄やミスター高橋の名前も出てるわけでしょ？　これまでのゴングじゃ考えられませんよぉ！　それで一番凄いのは「活字プロレス復興」という言葉だよね。「活字プロレス」というのは週刊プロレスの特許みたいなもんでしょ？　だからゴングが「活字プロレス」って書いた時点でボクの勝利宣言になっちゃうんだよ！　そうは言わないけどね、俺は！

——おもいっきり言ってます（笑）。で、山本さん的にはどうだったんですか？　初めてゴングの増刊号作ってみて。

プロレス記者の連中はみんな紙プロやSRSの座談会に憧れてたんですよ！

ターザン　気持ちが良かったというか、あの興行を見たとき、みんなげんなりしてるわけですよ。1・4ドーム大会はなかったことにしたいというか、忘却の彼方に捨てたいという気持ちになってるのに、ボクとしてはそれをなんとかするのが料理人の腕じゃないかと。仕入れたネタは弱いけど、ここが俺の腕の見せ所だと思ったんだよね。そういった意味で言うと、1・4みたいなどん底のダメ興行があったということは、俺にとって天下無敵の活字プロレスの力を示す格好の素材だったんですよぉ！

——ダメな興行で面白い増刊号を作ってこそ自分の力を示せると。

ターザン　そうですよ！　いい興行だったら増刊号出しても当たり前だけど、弱い興行だったら「よくこんな興行で増刊作れたな」とか「あのつまらない興行であんな面白い本作れたな」となって、俺の株が上がるわけですよ！　そういった意味ではテンションあがったよね！　あと今回ひとつだけわかったのは、やっぱり他誌の連中とか、この世界にいたプロレス記者の人たちは、みんな『紙プロ』とか『SRS・DX』でやっていた座談会に憧れていたんだなぁと（笑）。

——それは凄く感じますよね（笑）。

ターザン　俺たちもああいうことしてみたいなという、ある種の憧れと嫉妬があったんだなと、それが確認できたよなぁ。

——でも、いままではあれは邪道だということで否定していたわけですよね。

ターザン　否定してたんだけど、内心は「やりたいな」という気持ちがあったんだよ。

——ようやくゲロしたかと（笑）。

ターザン　いや、ゲロしたかというより、追いつめられて、状況の変化の中でそうならざるをえなかったんだよね。でも、ボクにはそれは言えませんよ。

——言ってますけどね（笑）。ただ、今回の座談会を読ませていただいたイチ読者としての感想を言わせてもらえば、山本さんが「自信作」って言うには物足りない内容だと思うんですけど。

ターザン　それはまだ最初だからね。ボクとか吉田豪ちゃんにとって週ゴンの世界はまだアウェーだから、『紙プロ』とか『SRS・DX』のときみたいに思い切りガーッと言ってもいいんだけど、それだとゴングでは免疫がないから。最初はこれでいいんですよォ！

——でも、せっかく吉田（豪）さんを出してるのに、全然活かしてないというか、あんなにおとなしい吉田豪は見たことないですからね。

ターザン　豪ちゃんは専門誌に慣れてないというか、専門誌的価値観の中では自分の言語感覚が合わないっていうのがよくわかってるから、完全に一歩も二歩も引いちゃってるんだよね。

——そもそも、あんな業界の大御所相手に自分のプロレス論を展開するような野暮な人じゃないですからね。だから、他誌の編集に口出しするようで申し訳ないですけど、ボクだったら吉田さんをコメンテーターじゃなくて、聞き手というか司会者として使いますよ。そしたらあの人の引き出す力は天下一品なんだから、竹内さんや小佐野さんのいままで見せなかった部分が出てメチャクチャ面白くなってたと思いますけどね。

ターザン　竹内さんなんて、ああいう場になるとボクより過激なこと言うからね。それを誌面では全然見せないんだけど（笑）。だから竹内さんにしても小佐野氏にしても、GKにしても、ホントはボクと同じようなことを考えてるんですよ。ただそれを言わないだけで。でも現時点ではあれがゴングの限界であり、だからこそ同時に大いなる可能性があるんですよォ！

——ボクも〝ダークサイド竹内宏介〟はぜヒ見たいで期待してますよ（笑）。では、他誌の宣伝ばっかりしてもしょうがないんで、最後に今年のマット界のテーマを伺いましょうか。

ターザン　それはもう「新日本はどうなってしまうのか？」が2005年最大のテーマですよォ！　ローマ帝国崩壊みたいなもんだから。

——「どうなるか」って言いながら、崩壊を前提にしてますよ（笑）。

ターザン　いや、新日本というのははなんだかんだ言って、この30年間マット界を引っ張ってきたからね。それなのにもしものことがあったら、プロレス史上最大の事件になりますよォ！　主役としての『PRIDE』とK-1ももちろん見逃せないんだけど、その二つは「高値安定」に入ってるから。新日本の行く末の方がマスコミ的にも一番見逃せないんですよォォ！

——ちなみに山本さん個人の今年のテーマは何ですか？

ターザン　借金返済ですよ！

——ダハハ！　それ毎年同じというか、ここ数年ずっとつきまとってるテーマじゃないですか！

ターザン　そうそう、一向に減らないんだよ！　この前も俺、競馬で一千万取り損ねたから！　200万円馬券を500円買ってたはずなんだよ！　あそこで「10」という数字を1点でもマークシートのフォーメイション馬券につけていたら……あああああああ！（と絶叫）

——喫茶店で叫ばないでください！（笑）。

ターザン　あれをハズした後遺症でその後2日間はぜ〜〜んぶ負けてしまったよ！　気付いたら公共料金払うために取っておいたお金までつぎ込んでしまったからね！

——ターザン山本が自宅の電気ガス水道を止められてしまうかもしれない（笑）。

ターザン　だからホントは新日本より俺のほうがよっぽどヤバくて追いつめられてますよォォォ！

——ダハハハ！　おあとがよろしいようで、今年もよろしくお願いします（笑）。

PRIDE、K-1両首脳に贈る——

言うちゃ悪いけど

2005年の大提言!!

プロレスマスコミの哲人・I編集長の

喫茶店トークV

2005年も元気一杯にズバズバ直言していく喫茶店トーク。新年一発目の今回は、『PRIDE』、K-1の“両メジャー”首脳、さらにはプロレスリング・ノアにまでI編集長が大提言！　そしてついに新日本プロレスには三くだり半！　新年早々、過激に行きます！

聞き手／堀江ガンツ　designed by bun-chan (Two Three)

PROFILE

井上義啓。元・週刊ファイト編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者は数知れない。バード、殺し、母艦格闘技など破壊力抜群のI用語も次々生み出している。『紙プロHand』でも絶賛連載中。

V K-1への提言

ファン、マスコミの意見を大胆に取り入れモンターニャ・シウバvsチェ・ホンマンを実現させせよ！

—さて、井上さん。新年一発目の『喫茶店トーク』ということで、井上流2005年の展望および提言を伺いたいと思います！

井上 まぁ、とにかくK-1にしろ『PRIDE』にしろ、ガラッと変わりますよ、今年は。

—ほう、大転換が起こりますか？

井上 というのはやっぱり、去年のあのままをやって通用するということは、両首脳とも考えてないと思うのね。やっぱりなんらかの反省点があるし、なんかかげりみたいなものもチラッと感じられるというところがあるんですね。そこらへんは榊原社長にしたって谷川の旦那にしたって頭がいい人だから、気がついていると思うんだよな。同じやり方で行こうとは考えてないと思う。そういった意味で俺はものすごく変わってくると思うのね。

—では、まずK-1の展望&提言からお願いしたいのですが。

井上 まぁ、K-1は昨年の『Dynamite!!』で変則ルールを大胆に取り入れて、あれで一応成功してるんですよ。だからもうK-1なんとかGPとか、そういったものはしょうがないけどね。それ以外の試合はすべて変則ルールになると思うんだよな。

—グランプリ以外はすべて変則ルール！

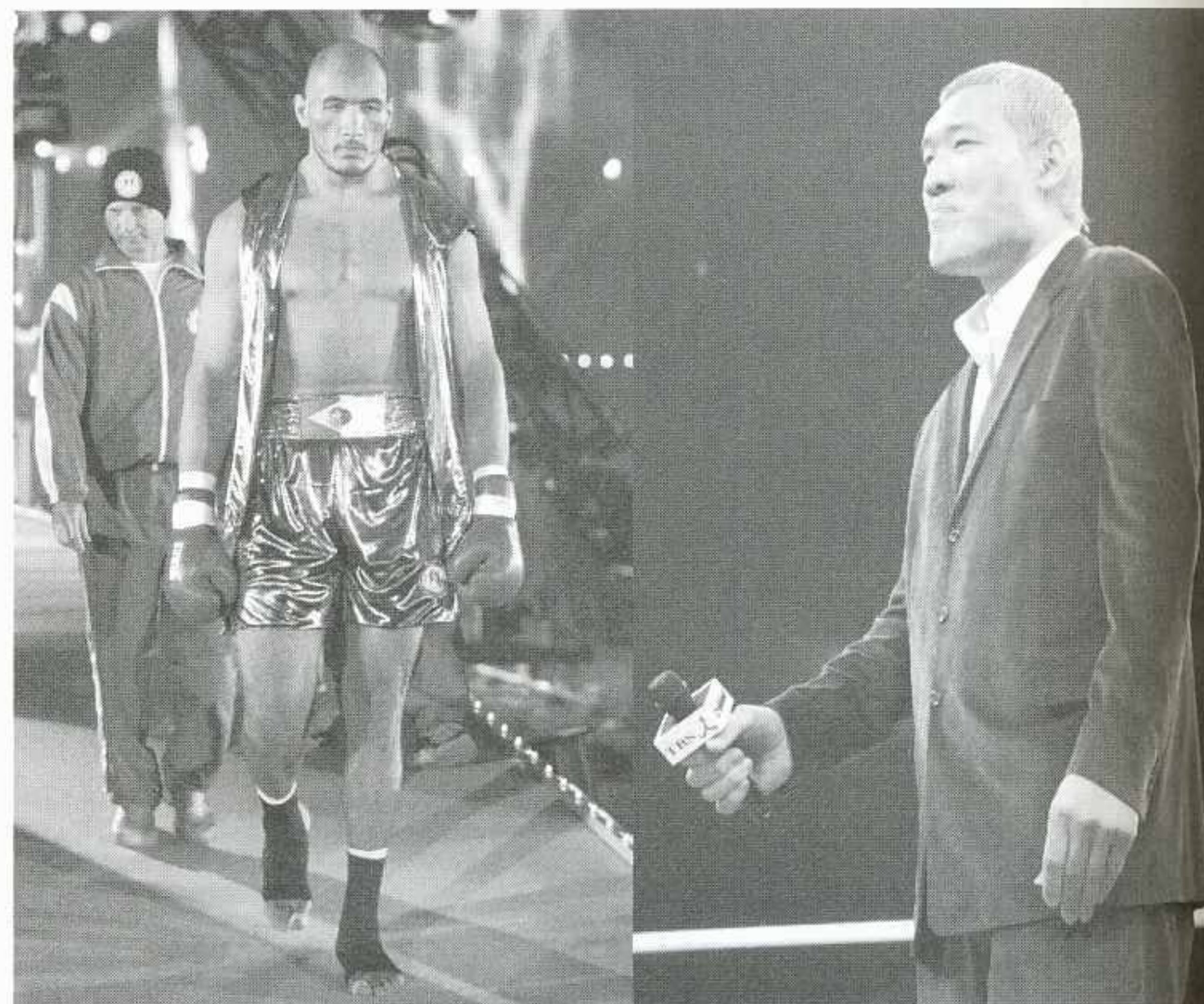
井上 そう！ もう変則ルールがK-1では花盛りになるだろうと。逆に言えば、そうでないとイカンというのが、去年からの俺のいい分だし、他の人はそんなこと言わんけどね。

—まったく言ってませんね（笑）。

井上 言っとるのは俺だけだけど、これは絶対そうなると。K-1は大晦日で味をしめたからね！ やっぱし、サップにしても変則ルールだったからこそ、レ・バンナとなんとか試合になったわけで、あれが純K-1ルールだったら持ちませんよ！

—1ラウンドで「アイ・キャント・ノーモア」ですからね（笑）。

井上 ただ、サップや曙を再生させるというのは、伊原会長あたりも嘆いていたけど、本人たちがホントの意味で本気にならんことには難しいんですよ。だからサップあたりにビシッと言ってやらなきゃいけないんだけれども、谷川の旦那にしたって言えないわけですよ。

—言うこと聞かなそうですよね。

世界で一番モンターニャ・シウバを評価し、期待をかけるI編集長の“初夢カード”は、まだK−1デビューもはたしていない韓国相撲の巨人横綱チェ・ホンマンとモンタの一戦。はたして夢は実現するのか？

井上 そうなってくると、これはやっぱり強烈に組織を引っ張るカリスマ性を谷川の旦那にしても身につけないといけない！

—谷川さんにカリスマ性が必要ですか！（笑）。

井上 やっぱり必要ですよ。ああいったそこら辺の気のいいお兄ちゃんという感じでやっとったらダメ。ビシッと締めるところは締めて、言うこと聞かせるとこは聞かせると。そういったことができないとだね、曙、サップ、イグナショフあたりは、ぜ〜んぜん練習しとらんだろう。

—そういう感じはありますよね。

井上 榊原社長のほうは、おとなしいように見えて、割かし言うと思うんだよ。だからそういった意味で『PRIDE』の方が統率が取れているし、K-1の方がブラブラしている気がしないでもない。だから今年の谷川の旦那は、コワモテになって、ビシッと言うべきことは言うようにならなきゃダメ。そして必要とあれば石井の旦那を引っぱりだしてこいと！ それがK-1への第1の提言。

—第1の提言は谷川さんがコワモテになってカリスマ性を身につけると（笑）。

井上 そしてもう一つは、我々マスコミやファンの言うことをよく聞いてやね、「なるほど」と思ったらそれをズバッとやっていくだけのメンツの捨て方をしないといけませんよ。やっぱりこれまでだとメンツがあるのでどうしても、週刊ファイトや紙プロに書いてあることとなんてやれるか、となるんだよな。でも、そういうことじゃダメ。例えば俺なんかはハッキリ言って、「モンターニャ・シウバvsチェ・ホンマンをやらせるべきだ」というようなことは、今年に入って何回も言うてるんだけれどもやね。そういう面白い意見はすぐにやると！

—提案したいナンバー1カードがアマゾンと韓国の大巨人対決（笑）。

井上 それとか藤田（和之）あたりに、ホントの意味でのK-1ルールでマイティ・モーを倒してくれと、そういうことを要求せんとダメだと思うのね。

—藤田にK-1ルールをやらせますか！

井上 というのも、これがMMAルールでやれば藤田の勝ちは目に見えてるんだから。そういうことじゃ面白くないんで、思い切ってやると。『PRIDE』の方で言うと、とにかくノゲイラあたりにサブミッションマッチをやらせるとかね。ノゲイラのサブミッションだけの試合が見たいという意見が、俺の周囲では多いんだよな。

—プロ格者の方々の意見なわけですね（笑）。

井上 ということは、そこら辺のファンも同じことを考えているんじゃないかと。プロ格者の考えてることは奥が深くて、金を払ってワーと見に行ってる連中が馬鹿だということは絶対ないわけであって、やっぱりファンと話してみるとやね、おかしなズボンをはいてワーワー言うてる連中も、いざレストランかなんかに連れ込んで話を聞いてみると凄いこと言うわけね！

—井上さんが驚くほどですか！

井上 さすがに金を払って見に来るわけだというところがありますよ。だから我々とファンの考えることが同じだという仮定のものに立つと。我々の要望はファンの要望ではないかと。だから極端な話を言えば、アレクセイ・イグナショフとセルゲイ・ハリトーノフをやらせろと。これは〝大阪の馬鹿〟の意見だけどもやね。

—井上さんの要望はファンの要望だと（笑）。

井上 それで、おそらくK-1としたら、ボクが「こうしなきゃ駄目だ」という提言の10のうち7つはやるんじゃないかと。

—井上提言70％採用ですか！（笑）。

井上 というのは、俺が考えてることは谷川の

2005年の大提言!!

旦那も考えてるのね。そして俺が考えてることは、プロ格者のBにしたって、Kさんにしたって、Dさんにしたってやっぱり考えてるわけですよ！

——谷川さんと井上さんと、プロ格者のB、K、Dさんは同じことを考えてますか（笑）。

井上 おれだけの専売特許じゃないのね。それに近いことはみんな同じように考えてるから。ということは、みんなわかってるんだと。わかってて活字にしてないし、トークをしてないと。それだけのことだろうと思いますよ。だから今年のK・1は恐らく変則ルールを中心とした特別マッチをドーンとやっていくだろうと。そういったことがまずK・1の話。

——では、続いて『PRIDE』への提言と展望をお願いします。

井上 まぁ、『PRIDE』というのは当然ヒョードル、ミルコ、ノゲイラの3本柱が中心となっていくわけですけど、提言をするなら、とにかくその3本柱に次ぐ存在としてハリトーノフを売り出せと！

——おお、ハリトーノフ売り出し計画ですか。

井上 あの男は8月に来て以来、ぜ〜んぜん話をきかなくなっとるだろう。あれだけの男をね、なんで遊ばせておくんだって。もしかしたら肝臓やられて寝込んでるとか理由があるのかもしれないけど。

——ウォッカの飲み過ぎですか（笑）。

井上 それか女としけ込んで練習しないとか、理由があるのか知らんけどね、とにかくあれだけの男をね、遊ばせておくというのはまずいですよ！ というのも、『PRIDE』にしても、いつまでもヒョードル、ミルコ、ノゲイラと言ってられないと思うのね。

——ここ2〜3年ぐらいトップのメンツが同じですからね。

井上 あの3人を柱にするのはいいんだけれども、強烈な〝大関〟というものを出していかないちゃいけないと。それがハリトーノフですよ！ 他にもハントもおれば誰々もおるという話だけれど、やはり実力からみても何から見てもこの男でしょう。

——期待度は一番ですよね。

井上 だからこれを大売り出ししてくださいと。それが第1の提言。そして第2の提言は『PRIDE』も〝コップの中の嵐〟じゃなくて、〝母艦格闘技〟にならなきゃだめですよ。

——母艦格闘技！ またしても新たなI語録ですね（笑）。

井上 今年は『PRIDE』戦士があっちいったり、こっち行ったりするんじゃないかと思うんだよな。他団体から借りもするし、『PRIDE』選手を貸し出しもするんじゃないかと。というのも、去年の『PRIDE』を見ると、なんでこの選手を遊ばせてるんだろうというのが多いんだよな。やっぱり試合数が限られてますからね。戦闘竜にしたって「もっと闘いたい」とずっと言ってるわけでしょう。あの男は去年、何試合出たんだよあれ？

——去年は3試合ですね。

井上 もう1〜2試合やってもバチあたらんからね。やっぱり戦闘竜あたりをとにかくどんどん他団体に出して行くんですよ。「新日さん？ 貸し出しましょう」、「小橋さん？ タイトルマッチのチャレンジャーとしていかがですか？」と。

——GHC王座のチャレンジャーに戦闘竜を推薦しますか（笑）。

井上 ノアもね、去年と同じようなことやってたら、ハッキリ言ってつぶれかねませんよ、あんなもん！

——マット界イチの堅実経営であるノアまで危機が訪れますか！

井上 団体がつぶれるのは早いからね〜。いったん転がり始めたら早いんだから。いまのノアは小橋を軸に動いてるんだけども、チャレンジャーを見るともう「よくあんなことやるなぁ」というたらい回しなんだよな！

——たらい回し（笑）。

井上 順繰り順繰りやっとるだけだろう。田上がどうの力皇がどうの言うてね。もう今年はそんなもん効かないからね。そうなると小橋を出すか、よそから挑戦者を借りるかしないとダメなんですよ。だから戦闘竜あたりが小橋に、ホントの真剣勝負で挑戦すると。

——ホントの真剣勝負！ ついに禁断のノアでガチですか！

井上 ノアにしたってプロレスやっとったんじゃね、「タイトルマッチ？ 小橋が勝つようにできてるんだろう」で終わりだからね。そんなことじゃね、チケットはホントのお米（お金）にはなりませんよ！ ホントのお米にするためにはハッキリ言って真剣勝負だろうと、そのためにはプロレスルールによるガチンコだと。それでないとやね、ノアもハッキリ言って危ないし、どこだって危ない。

——では、一番危ないと思われる新日本プロレスには提案はありませんか？

井上 新日本？ ありまへん。

——え!? 新日本にはないんですか？

井上 新日本プロレスはもうハッキリしてるんでね。もう俺の提言以前に、猪木派と新日派がもうまっぷたつに割れてしまいますよ。

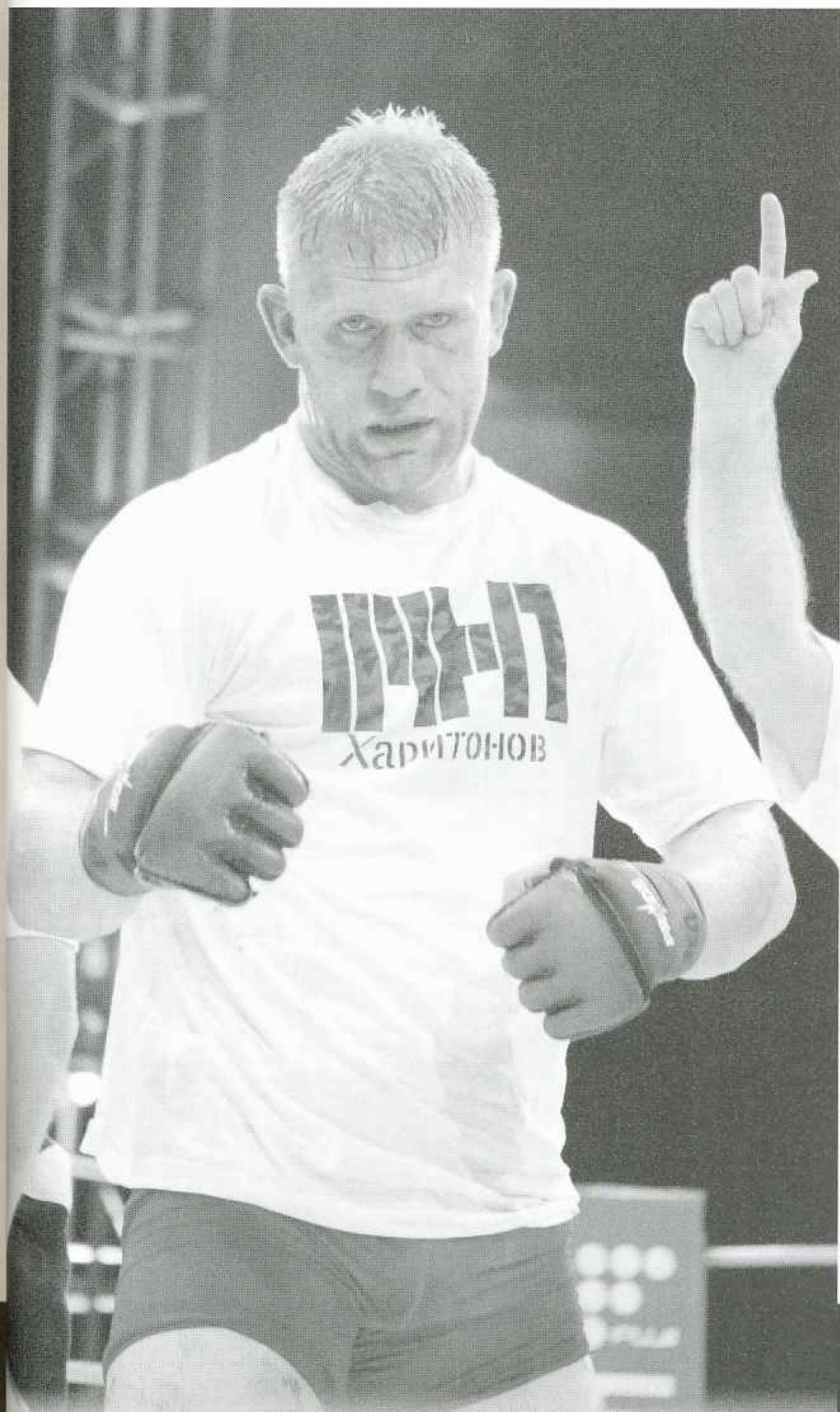
——割れますか！

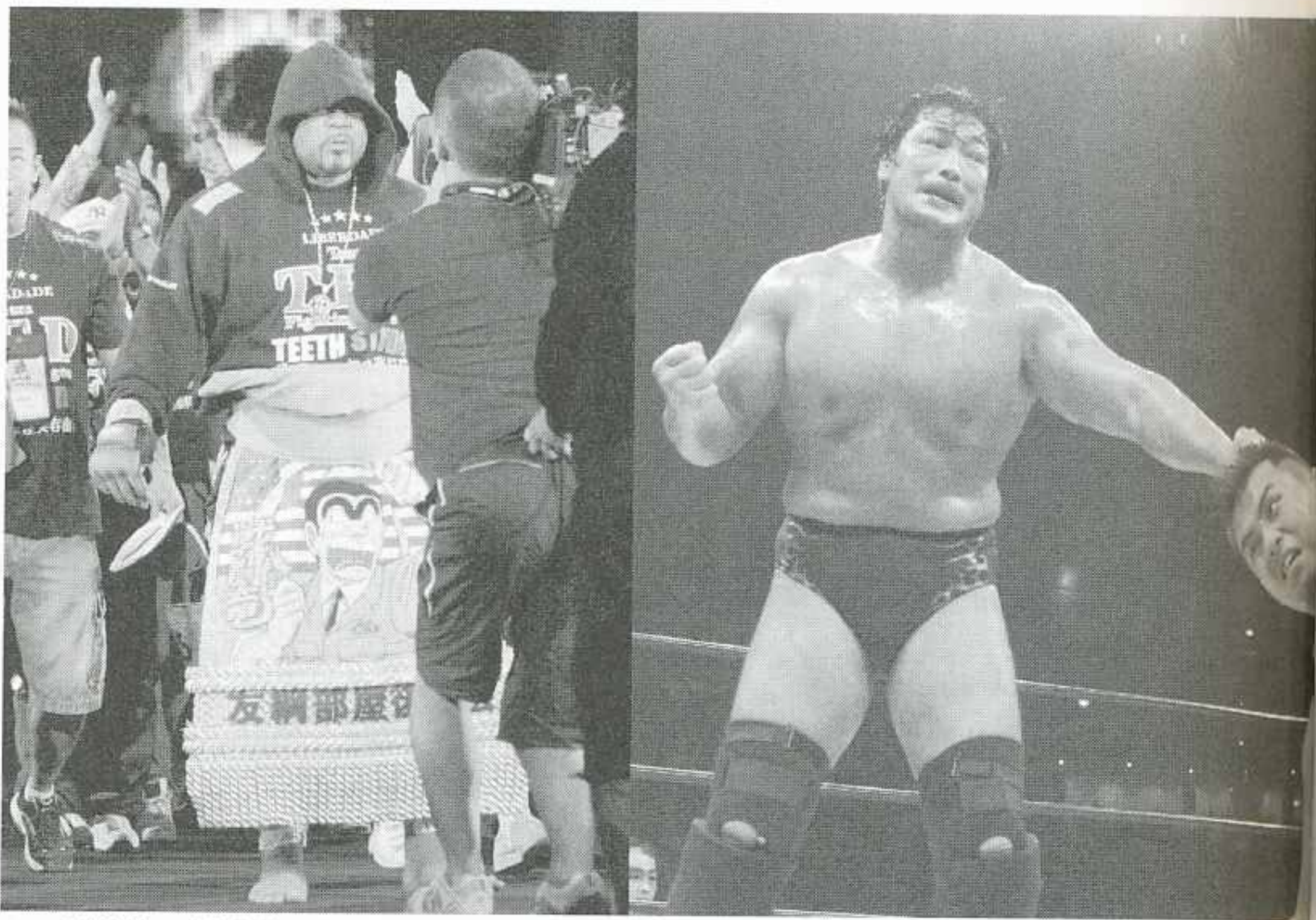
井上 いまでも分かれてるけどね、これはケンカ別れというのじゃなくてね、猪木がもう新日の興行に口出ししないと。勝手にやれと。俺はもう猪木軍団で忙しいんだからとね。

——「俺は世界戦略」と。

井上 去年あたりは猪木と新日本との関係は他人行儀みたいなのが凄く多かったのね。だか

V K-1への提言

谷川イベントプロデューサーはコワモテになり組織の長としてのカリスマ性を身につけよ！

V PRIDEへの提言

“母艦格闘技”として選手を他団体に派遣し戦闘竜を小橋のGHC王座に真剣勝負で挑戦させせよ！

ら今年の新日というのは、猪木軍団と新日本に二分かされてしまって、お互いにほとんど交流しないと、そうなると思うよ。それはいくら株主だと言ってもそれだけのことでね。去年の猪木なんか見ると、発言力がほとんどない。それは頭ごなしに強く言いたくても、言うだけのカリスマ性を持ってないということですよ。だからハッキリ言って今年の1・4東京ドームなんかでも、なんであんなカードになるんだと。

――それは誰もが思ってますよね（笑）。

井上　なんでK・1から選手を借りてこようという発想がないのか。K・1に言うたら1人や2人すぐに貸してくれるはずなんだよ。

――あれだけ選手を抱えてるわけですからね。

井上　いっくらでもおるんだよ！　ましてや大晦日にやった曙にしたってサップにしたって、1・4に出ようと思ったら出て来れたっていうじゃないか！　ましてプロレスだしね。タッグマッチでいいんだから。ハッキリ言って、サップと曙がタッグを組んでね、相手は天山と永田でも用意して、しょうもないタッグマッチかもしれないけれど、1・4東京ドームのカードとしては立派なものですよ。

――少なくとも巴戦やアルティメット・ロワイヤルよりは立派ですよね（笑）。

井上　これをプロレスルールでやって、曙がなんかやられたらロープに逃げて「ロープブレイク！　ロープブレイク！」と叫ぶというね。そういうことをやってごらんよ。それをやるとわかってたら、みんな見に行くからね！

――曙のロープブレイクを見るためにドームに行きますか（笑）。

井上　そういったことで猪木だったら声を掛けたはずなのに、全然出て来てないでしょ？　これは猪木が声をかけてない証拠なんだよ。それで新日派というのはコップの中の嵐で興行がやっていけると思ってるからね、アレ！「外敵優遇反対」とかね、どこの頭のどの辺を押したらそういったことになるのかサッパリわからない！

――井上さんには理解不能ですか（笑）。

井上　新日本の連中だけでね、どんなカードが組めるんだよ!?　俺は1・4を「大阪府立のカードだな」と言ったけれども、俺は人がいいから、持ち上げて「大阪府立」なんだよ。

――ホントはもっと下ですか？

井上　そりゃそうですよ！　他の連中は「後楽園以下のカードだ」と言うとるよ。だからある記者が言われましたよ。「大阪府立？　第2会場の方ですか？」って。

――ダハハハハ！　1・4のカードは府立第2レベル（笑）。

井上　そんな具合だぜ！　それに気付いてないんだったら、ハッキリ言って新日つぶれるわ！

――つぶれますか！

井上　こんなこと言うと坂口から電話かかってきそうやけどね、頭のどこを押したら5・14にまたドームをやるという発想が出てくるの？

――あんなドーム大会やっていて、まだやるつもりかと（笑）。

井上　俺はホントにヘッドに聞きたいよ。どういう勝算があるんですかと。利益が出るならやればいいけど、純プロレスでやります。外敵は使いませんで客が入るわけない！

――まぁ、入って1・4と同じぐらいでしょうね。

井上　ましてやテレビ局の放映料なんてどんどん減ってるんだから。最近、俺も（新日本の）テレビを見なくなったもんな。

――井上さんまで見なくなりましたか！

井上　深夜も深夜、真夜中に1ヶ月半遅れですよ。そりゃ見なくなりますよ！

――1ヶ月半遅れなんですか!?

井上　この前やっとったのなんか、ドーム大会や言うから、東京ドームかと思ったら、11月の大阪ドームですよ！

――ダハハハハ！

井上　1月に11月の大阪ドームやってるんだぜ。なんぼなんでも見ませんよ。

――そりゃ見ませんね（笑）。

井上　これじゃダメですよ。でもテレビ局が飛びついてくるというのは簡単なんですよ。

――え!?　テレビ放送がつくアイデアがあるんですか？

井上　テレビ局に行って、「これからプロレスルールによる真剣勝負で若い者を中心にやっていきます」と話をするんですよ。最初はすぐテレビ放映というわけにもいかんだろうけど、すぐにファンがついてきてワーと騒ぐようになるから、「そのときは生放送してください。必ず視聴率とれます」と。

――まぁ、格闘技のソフトはテレビ局もほしいでしょうからね。

井上　だから新日本はイチかバチかで真剣勝負をやるべきですよ。それがやれるのは新日本だけなんだから、新日がそれをやりなさい、と。それが新日への唯一の提案ですよ。これはもう君にしてみたら何回も聞いた話で、面白くもないけれども、新日本プロレスへの提言とはそれしかないわ！

――わかりました。では、今年もよろしくお願いします！

【05年1月17日／電話取材にて収録】

ノアの“絶対王者”小橋建太に最大の試練到来!?　裏番長、戦闘竜にはたして小橋の剛腕ラリアットは炸裂するのか？　まさにパラレルワールドのようなカードだ。

VI PRIDEへの提言

3本柱に次ぐ存在としてセルゲイ・ハリトーノフを売り出し、アレクセイ・イグナショフ戦を実現させせよ！

本誌 Back Number

no.08 '94.01

特集 **さらば新日本プロレス**

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！　20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen 50%OFF

no.15 '95.05

特集 **インディペンデントの逆襲**

あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Ｋーとは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのＫ－１三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

極真魂溢れる16人を直撃！ 完売間近

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen 50%OFF

no.13 '95.03

特集 **道場破りとは何か?**

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！　山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen 50%OFF

no.16 '96.06

特集 **新日本凸凹大学校**

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！　マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！　糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen 50%OFF

みんなで遊べる付録付き!! 完売間近

さくぼん

サクのすべてが世界で一番よくわかる桜庭和志初のインタビュー集！　花くま先生の『サクラバの汁』、特製シールやポスター、サクマシン立太子お面など、付録がこれでもか！　とばかりについてます。

総238ページ

1000yen

no.14 '95.04

特集 **神秘とは何か?**

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

no.17 '95.07

特集 **実況パワフル北朝鮮**

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF

インタビューという名の鉄拳史 完売間近

紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のインタビュー史！　前田にとってプロレス、UWF、そしてリングスとは何だったのか？『バカの壁』著者・養老孟司との対談も特別収録！

1575yen

---

no.61 表紙 OH砲 '03.04 / 880yen

5・2仁義ある闘い!!
やっちゃうぞバカヤロー!!

- ●裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也
- ●1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- ●プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- ●リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05 / 880yen

誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!

- ●ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- ●現役復帰間近!? 船木誠勝
- ●藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル
- ●新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト） '03.06 / 880yen

吉田秀彦が大英断!
ミドル級GP出陣!

- ●「お前は男だ」劇場炸裂！ 高田延彦
- ●『PRIDE』REBORNを大総括!!
- ●憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー
- ●芸能界一の川田番　ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭&田村 '03.07 / 900yen

灼熱の
『PRIDEミドル級GP』直前号!!

- ●"異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- ●『PRIDEミドル級GP』 出場全選手インタビュー
- ●ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"
- ●スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08 / 880yen

ヒョードル×ミルコ、
闘争本能世界一決定戦!!

- ●"最後の皇帝"燃え上がる！ ヒョードル
- ●"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!!　ミルコ
- ●吉田秀彦戦の"謎"に迫る！ 田村潔司
- ●闘魂ストーカーを捕獲！　イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09 / 880yen

ミルコ、『武士道』電撃出陣!
もはや誰にも止められない!!

- ●緊急独占インタビュー！　ミルコ
- ●マッハの野望を砕いた "赤い暗殺者"登場!!　長南亮
- ●"天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦
- ●『東スポ』とは何か？　柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田 '03.10 / 880yen

吉田とシウバ、いざ激突!!
衣（ギ）は赤く染まるか!?

- ●ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー！ ミルコ
- ●"柔術超獣"復活へ!!　ノゲイラ
- ●『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場 全選手インタビュー
- ●アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

no.68 表紙 高田&桜庭&曙&猪木 他 '03.11 / 880yen

人類史上稀にみる"大晦日・格闘技大戦"!!
白黒ハッキリ決めようやーッ!!

- ●大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 高田延彦
- ●横綱がK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
- ●一年ぶりの勝利で ニコニコインタビュー　桜庭和志
- ●"野良犬"『紙プロ』初登場！　小林 聡

no.70 表紙 ミルコ '04.01 / 880yen

年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!!
OH、ゴーバー登場!『ハッスル』とは何か!?

- ●PRIDE征服宣言！　ミルコ
- ●シウバに宣戦布告！　近藤有己
- ●ド真ん中の真実を語る！ 佐々木健介&北斗晶
- ●発表！ 紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&高田 '04.02 / 880yen

プロレスよ、踊れ!
3・7『ハッスル2』は大フィーバー!!

- ●『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ&ノゲイラ
- ●待望の『紙プロ』初登場！　川田利明
- ●理想のプロレスを追い求める！ AKIRA
- ●スクープ！ 幻の猪木vsアミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ '04.03 / 840yen

最強への求道者たち全員集合!!
PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!

- ●GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル
- ●第二のミルコとなるか!? ステファン・レコ
- ●K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁
- ●全て見せます!!『突撃！ 佐々木健介邸』

no.73 表紙 小川直也 '04.04 / 880yen

暴走王が忘れたころにやってきた!
PRIDE・GPでハッスルするぞ!!

- ●GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也
- ●PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド
- ●キックの名伯楽登場！　伊原信一
- ●魔界のニューリーダー　村上和成

no.74 表紙 小川直也 '04.05 / 880yen

シュート? ワーク? くだらねえ、次元が違うよ!
いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!

- ●PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也
- ●リベンジロード発進!!　桜庭和志
- ●"ハードコアのカリスマ" ミック・フォーリー本誌初登場！
- ●掣圏会館皇帝　佐山サトル激語り!!

no.75 表紙 小川&桜庭&吉田 '04.06 / 880yen

英雄、奇蹟の揃い踏み! 小川、桜庭、吉田がPRIDE GP準決勝に集結!!

- ●シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也with藤井軍鶏侍
- ●奇蹟の独占インタビュー！　高田総統
- ●インド狂虎登場！ タイガー・ジェット・シン
- ●年金未納からUFOまで ザ・グレート・サスケ

no.76 表紙 小川直也 '04.07 / 880yen

プロレス大爆発へ最後の挑戦!
ハッスルするなら今しかねえ!!

- ●スクープ発言連発！　小川直也
- ●小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ
- ●厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志
- ●新連載『月刊PG談（仮）』 吉田豪×掟ポルシェ

no.77 表紙 小川直也 '04.08 / 880yen

『PRIDE・GP決勝』直前濃密大特集!
小川、史上最大の査定試合へ!!

- ●「相手がヒョードルだろうと俺は ハッスルする!!」 小川直也
- ●狙うは皇帝の首ひとつ！　ミルコ
- ●サンボの神様降臨!!　ビクトル古賀
- ●ロシアで英雄と再会！　ヴォルク・ハン
- ●幻想大国ロシア・現地潜入徹底リポート

no.78 表紙 小川直也 '04.09 / 840yen

『PRIDE・GP』徹底総括!
ハッスルとは出直しの連続なり!!

- ●衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也
- ●小川の敗戦をどう見る!? 高田PRIDE統括本部長
- ●K-1のトップが小川を語る　谷川貞治
- ●壮絶インディー人生！　田中将斗

no.79 表紙 高田総統&小川直也 '04.09 / 840yen

プロレス暗黒時代に魔王降臨!
高田総統の激白を独占スクープ!!

- ●ハッスルキャプテンに休息なし！ 小川直也
- ●特別付録・高田総統特製ピンナップ
- ●谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』
- ●ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

no.80 表紙 ミルコ・クロコップ '04.10 / 880yen

『PRIDE.28』直前!
守護神ミルコ、外敵狩りへ――

- ●独占ロングインタビュー　ミルコ
- ●ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也
- ●新連載! 佐山サトルの右流タン探訪紀
- ●袋とじ企画・女子プロ界の謎に迫る！ グリズリー岩本

no.81 表紙 桜庭和志 '04.10 / 880yen

サク、4度目のシウバ戦決定!
大晦日格闘技戦争・濃密大特集号

- ●ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ＆ノゲイラママ
- ●新日本でハッスル成功！　小川直也
- ●スーパーひとし君登場！　草野仁
- ●狂気の天才対談が実現!! 佐山サトル×船木誠勝

no.82 表紙 桜庭和志 '04.12 / 890yen

大晦日大戦・超直前特集号!
男のSADAME、見に来いやーッ!!

- ●「ボクは絶対に諦めない」 桜庭和志ロングインタビュー!!
- ●"道場破り"の全てを激白！　安生洋二
- ●WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪
- ●伝説の悪徳レフェリー降臨！　阿部四郎

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

①**『紙プロHand』で注文**
②**電話注文**
03-5368-1797
③**メール注文**
kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。
※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

ご注意　郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

紙のプロレスRadical 常備店

- ■アイドール新宿店
- ■新宿ファイター
- ■大山アメリカン
- ■プロレスマニア館
- ■チャンピオン
- ■リングスパレス
- ■バディスラム
- ■タコシェ
- ■レッスル池袋
- ■書泉ブックマート
- ■書泉ブックタワー
- ■書泉グランデ
- ■グレートアントニオ
- ■東京イサミ

狂い咲く名言・迷言！ マット界語録特集!!

認めん!!

すべてガチンコで…

殺すぞ!!

バックナンバーは電話で注文できます!!

03-5368-1797

【平日PM15：00～22：00 （株）ダブルクロス】

Radical Back Number

テポドン級の破壊力! マット界語録'00～'03はコチラのバックナンバーで!!

no.34 「エーッ、本当なの?」（『2000年流行語ノミネート作品』より）
※橋本の新日本離脱を『東スポ』で知った"失言王"ドラゴンが思わず

- ●『猪木祭り』で大暴れ!! 小川直也
- ●2000MVP & ベストバウト・ダブル受賞 桜庭和志
- ●バッドボーイがサク戦熱望!! ティト・オーティズ
- ●プロレススーパースター列伝 ミスターヒト

'01.01 / 840yen

no.45 「正直、スマン!!」（『語録で振り返るマット界2001』より）
※IWGPタイトルを失った健介が、藤田に歴史的な謝罪

- ●『猪木祭り』出陣宣言! 高田延彦
- ●悪魔の書、現る! ミスター高橋
- ●夢のトリックスター対談!! 須藤元気×矢野卓見
- ●プロレススパースター列伝 グレート小鹿

'01.12 / 880yen

no.58 「……まあ、オメエはそれでいいや」（『語録で振り返るマット界2002』より）
※アントン総帥が、頭の悪い中西をバッサリ

- ●夢幻のファンタジー対談!! 武藤敬司×船木誠勝
- ●U-STYLEとは何か? 田村潔司×高阪剛
- ●Uインター座談会 宮戸優光×安生洋二×鈴木健
- ●天才が語るプロレスの未来 CIMA

'03.01 / 880yen

no.70 「それは違う!!」（『マット界語録2003』より）
※新間氏の"IWGP封印"発言にケロちゃん大慌て!!

- ●巌窟王、PRIDE征服宣言! ミルコ・クロコップ
- ●パンクラスのエースから日本のエースへ! 近藤有己
- ●ド真ん中の真実を激語り! 佐々木健介&北斗晶
- ●暴走王を粉砕! 超人類ゴールドバーグ登場!!

'04.01 / 880yen

---

no.15 表紙 小川直也 '99.02 / 780yen

リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川 vs 橋本"1・4事変"勃発!!
- ●あの"1・4事変"を徹底大検証!!
- ●"前田日明・最後の相手" アレキサンダー・カレリン
- ●引退記念雑談会 「語ろうマサ・サイトー!」
- ●S多重アリバイ 佐野雄飛

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03 / 780yen

格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!
- ●環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- ●完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- ●相撲多重アリバイ 石川孝志
- ●マーク・コールマン

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!
- ●三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- ●プロレススーパースター列伝 仲野信市
- ●本誌独占ジャンボ鶴田夫人 最愛の夫の真実を語る!!
- ●TKおかん

no.32 表紙 小川直也 '00.10 / 840yen

針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!
- ●田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ●ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
- ●プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- ●"和製カレリン"本田多聞

no.35 表紙 サクマシン（イラスト） '01.02 / 840yen

「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
- ●ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- ●プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- ●"ノアの怪物"杉浦貴
- ●UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也（イラスト） '01.02 / 840yen

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
- ●ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
- ●ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言
- ●W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- ●吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37 表紙 小川直也（イラスト） '01.04 / 840yen

小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
- ●安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る!
- ●アブダビコンバット2001一大探検記!
- ●シュート活字×ファンタジー活字
- ●他に比類なきプロレスがWWFにはある!

no.38 表紙 高田（イラスト） '01.05 / 840yen

小川と長州、どちらが孤独だったのか!?
- ●忘れ物の正体は——。高田延彦
- ●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- ●プロレススーパースター列伝 阿修羅原
- ●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06 / 840yen

どうなるんだ、リングス! 前田 is デッド!?
- ●前田道場新エース・金原弘光
- ●怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会
- ●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- ●プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen

猪木軍vs K-1に見たいものは"地上最強のプロレス"
- ●蘇れ!Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光
- ●熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎
- ●プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- ●グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen

Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来!
- ●リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る
- ●真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!
- ●W☆INGの真実・茨城清志
- ●毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen

猪木なら何をやっても許されるのか!?
- ●ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- ●"ヒャッホーの真実"辻よしなり
- ●蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- ●誇り高きルチャ戦士 カト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.10 / 880yen

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!
- ●ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- ●大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
- ●金原弘光×サスケの 新日本プロレス学校同窓会
- ●野武士が語るんだよな 中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen

サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
- ●その修羅場の数々! シーザー武志
- ●怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
- ●ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- ●闘龍門大特集

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen

WWE日本侵攻5秒前!
- ●"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
- ●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!
- ●第一次リングス閉幕特集
- ●プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
- ●奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- ●和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
- ●伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
- ●WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭 '02.04 / 880yen

究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!
- ●和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- ●アレクに怒りの火を付けた 菊田早苗とは何者か!?
- ●破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
- ●ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05 / 880yen

サクが笑えば、世界が笑う!!
- ●「地方発世界」開始! 小川直也&橋本真也
- ●リングスロシア軍団の軌跡
- ●パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!
- ●ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen

ZERO-ONEに願いを!
- ●両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也
- ●『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子
- ●天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談
- ●新・超獣 ザ・プレデター

no.52 表紙 OH砲 '02.07 / 880yen

見えない鎖を引きちぎれ! 小川直也リング外での暗闘!!
- ●全身プロレスラー・高山善廣
- ●USAの渡世人ドン・フライ
- ●『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- ●戦慄の『LEGEND』前夜!

売り切れ寸前!!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08 / 880yen

世紀のビックイベント『Dynamite!』直前大解剖!!
- ●ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- ●独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
- ●爆裂! 川村社長ガチンコ語録!
- ●偽造王の知られざる半生! 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08 / 880yen

不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!
- ●"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー
- ●"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット
- ●純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- ●猪木とは何か? アントン実兄・猪木快守

売り切れ寸前!!

no.57 表紙 高山善廣 '02.11 / 840yen

一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!
- ●サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- ●新たなる"U"が始動!! 田村潔司
- ●悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ
- ●"北尾戦・セメントマッチの真実" ジョン・テンタ

no.59 表紙 ヒョードル '03.02 / 880yen

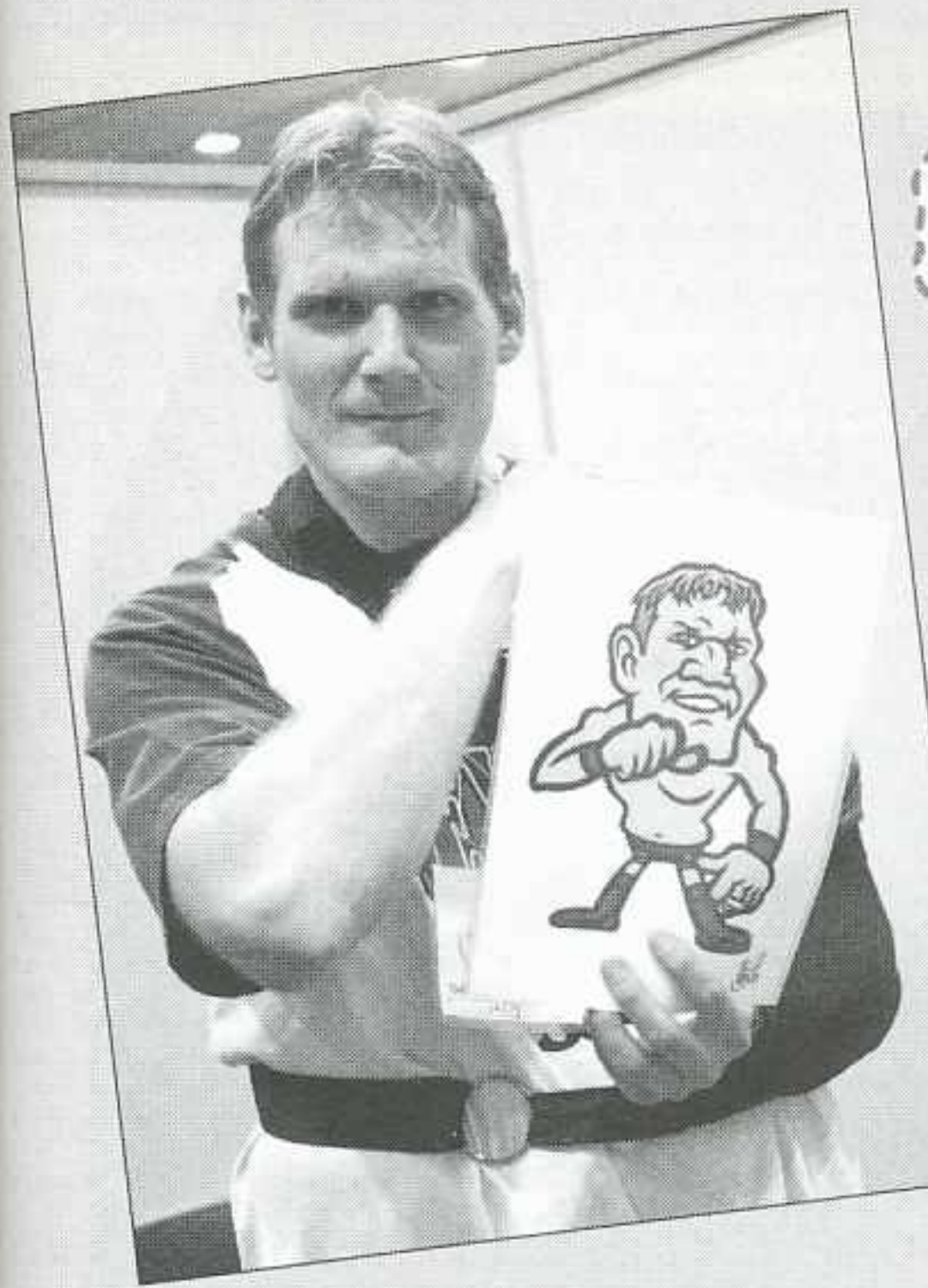
吹けよ!呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!
- ●いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
- ●アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
- ●爆発!! WJマグマ語録
- ●吉田道場の秘密兵器 中村和裕
- ●UWFの再興と再考 田村潔司

no.60 表紙 ヒョードル '03.03 / 880yen

英雄、変貌好む!! 『PRIDE』RE・BORN!!
- ●ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
- ●驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
- ●あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
- ●全日本中継の真実!! 倉持隆夫

BACK NUMBER

第4回

こちらが本家!? ジョシュ・バーネット登場!!

この連載のタイトルの元ネタでもある、ジョシュ・バーネットとスマック静岡大会で遭遇。中川画伯がイラストをプレゼントすると「キミはカミのプロレスの『ホントにジョーク』でボクがエリオに『お前はもう死んでいる』ってイラスト書いてくれた人だよね」だって！　ジョシュ凄すぎ！

チョロの マニアックな視点で女子格闘技を考察する！

女子バーネット

今更ながら明けましておめでとうございます！　新年一発目の女子バーネットは載せたいことがてんこ盛り。『紙プロ』大賞でもベスト興行に選んだ12・19スマック静岡大会や、大会規模は小さいながらも失神、マスク剥ぎ、ゴルドー登場と衝撃シーンが続出した1・8スマック北沢大会、他にも、しなしさとこが遂に本性を明かした佐伯代表との対談等々、もう大騒ぎ。散々悩んだあげく、『紙プロHand』でもちょっと触れた2004年女子格闘技大賞（権威ゼロ）を発表します！

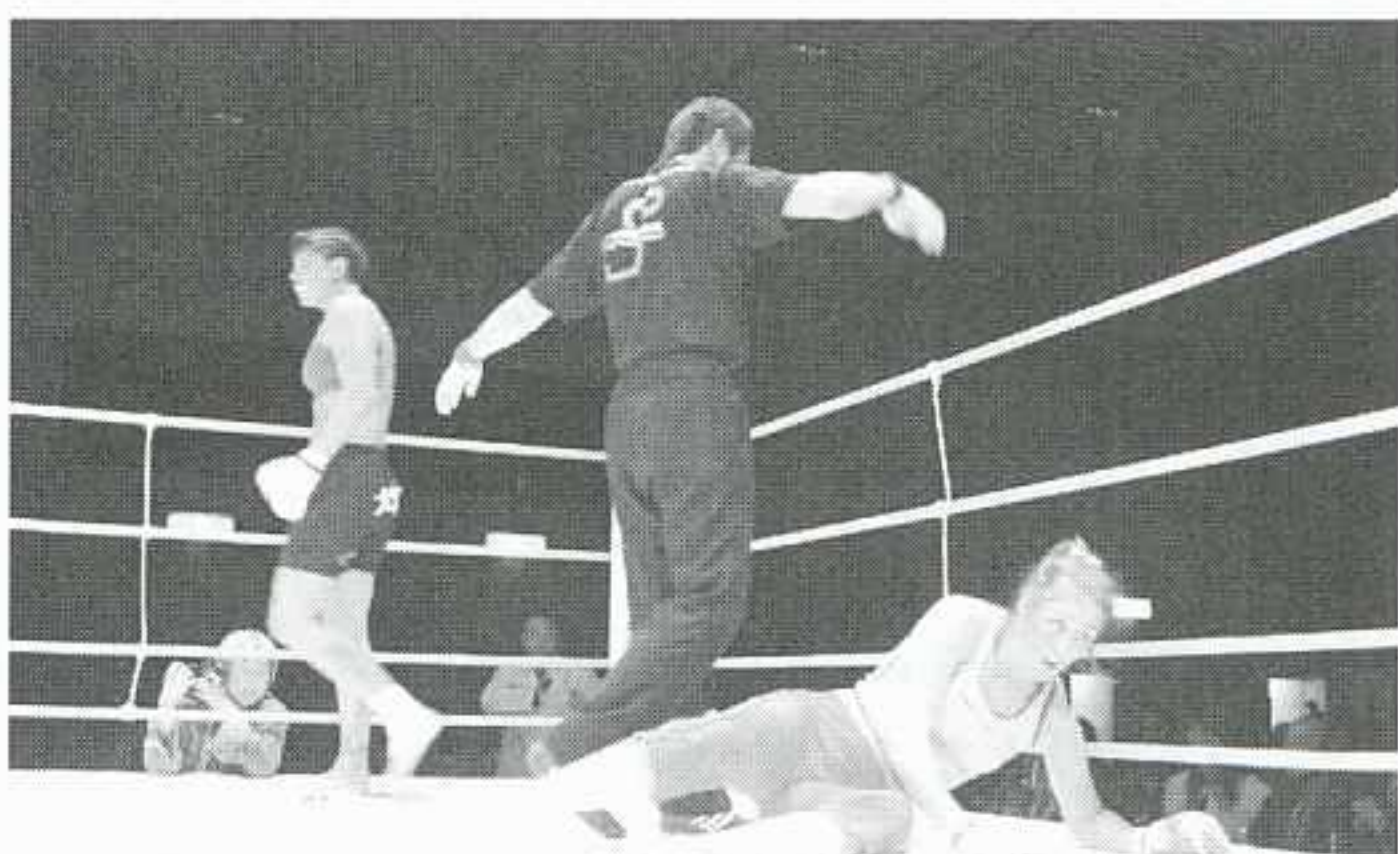
チョロが選ぶ 2004年女子格 MVP

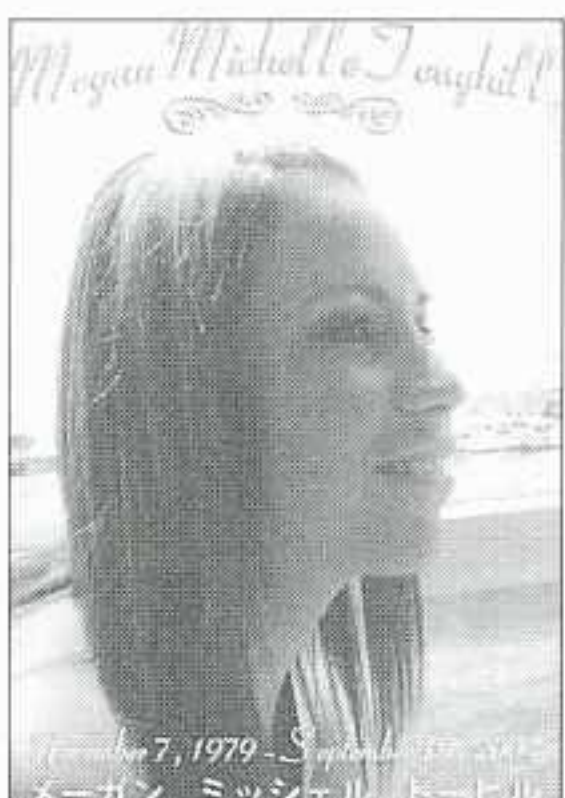
藪下めぐみ

MVPは文句なしで藪下！　反則決着での栄冠とはいえ世界の強豪が集った無差別級トーナメントで優勝したのは、さすが。一年を通してみても、三島、羽柴ら相手に観客を意識した試合。修斗での赤野戦や無差別級トーナメントでは、その実力で観客を魅了。さらにはボクシングにも初挑戦、キックの練習も取り入れるなど、格闘家としてのスキルアップにも余念がない藪下。今年も期待してます！

チョロが選ぶ 2004年女子格 ベスト興行

12・19 スマックガール静岡大会

これも文句なしで12・19スマック静岡大会に決定！　直前に沖縄から静岡へ変更となり、観客動員も主催者発表で1717人と、だだっ広い会場は満員とはならなかったものの好試合が続出。トーナメント決勝戦こそ『PRIDE・GP』の様な不完全決着となったが、それも含めてスマックらしくて最高でした。

試合レベルだけで言うと、昨年行われた女子の総合格闘技戦では間違いなくトップだったのがトーナメント準決勝で行われたエリン・トーヒルvsマーロス・クーネン戦。女版シウバvsランペイジとも言える壮絶な打撃戦を制したのはトーヒル。1R終了間際に強烈な右ストレートをブチ込み決勝戦へ進出！

メーガン ミッシェル トーヒル

反則負けで優勝を逃してしまったエリンは数ヶ月前に妹を交通事故で亡くし、彼女のためにも必ず優勝すると大会前から意気込んでいたという。上のカードは亡くなったエリンの妹。合掌

自他ともに認める"日本最強の女"石原美和子が、なんとエリンのパンチ＆ヒザの嵐に秒殺負けを喫した。"日本初の女子総合格闘家"高橋洋子もクーネンの打撃ラッシュの前に無念の一回戦負け。世界は広い！

12・19スマック静岡大会での無差別級トーナメントに出場した藪下は一回戦でジョシュの彼女のシャノ・フーパーを電光石火の腕スクリューから脇固めで勝利。二回戦もロクサン・モダフェリを下し、決勝へ進出。体格差のあるエリンに、またしても腕スクリュー！

予期せぬ腕スクリューの衝撃にスチッチが入ってしまったか、エリンは反則の脊髄へのエルボーを藪下に連発。慌てて、和田レフェリーが両者をわけイエローカードをエリンに提示。しかし、藪下は「身体に力が入らなくて立てない」状態となり、場内は一時騒然！

結局、藪下の状態は回復することなく、反則を犯したエリンの負けが和田レフェリーから宣告され、リングへへたり込んだ状態の藪下が初代無差別級王者に。しかし藪下はケガのため担架で運ばれ、そのまま病院に直行。ベルトは何故かセコンドの坂井澄江の腰に

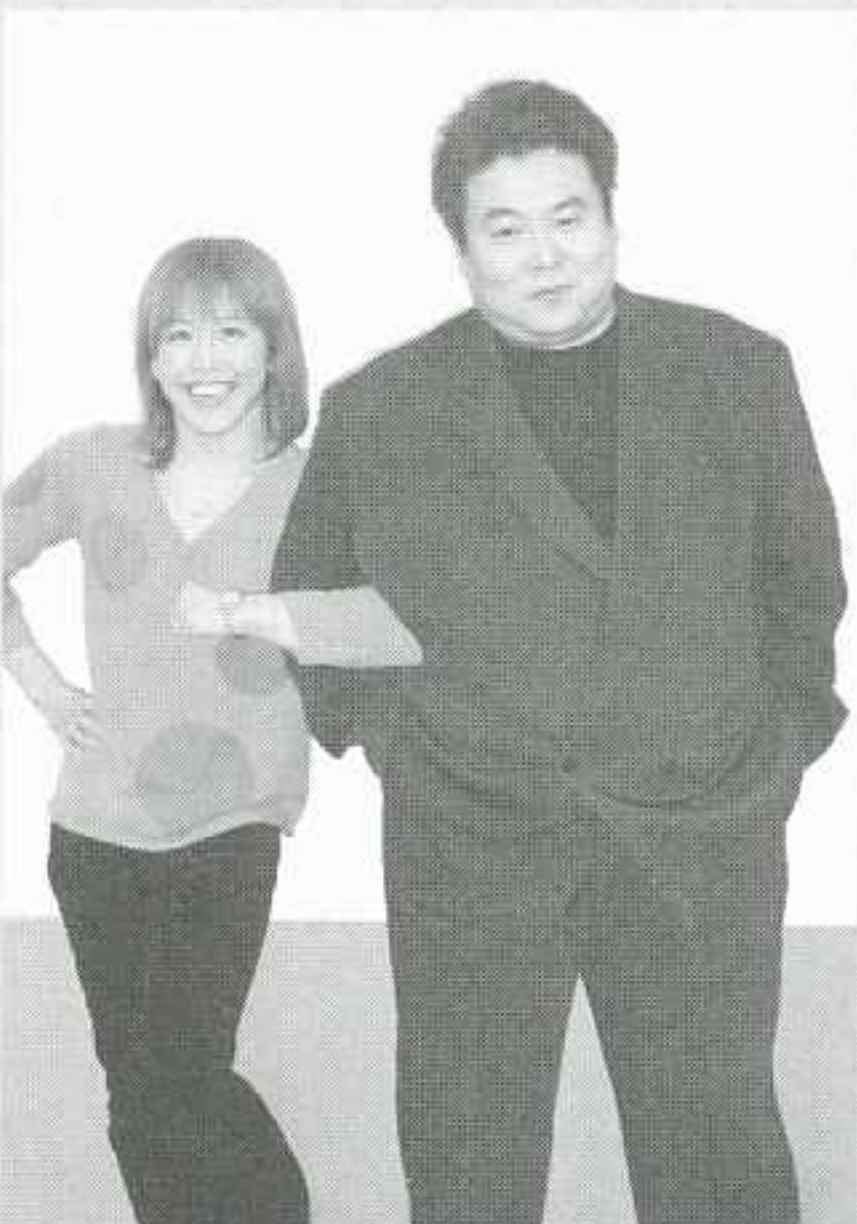
判定が告げられた後も納得のいかないエリンとショーン・マッコリーらセコンド陣はリング上で和田レフェリーへ執拗にアピール。エリンはバックステージでも「藪下はプロレスラーだから演技してるのよ。いい女優になれると思う」と最後まで怒りが収まらなかった

チョロに物申す！

あの、しなしさとこが怒りのアピール!!

裸の告白

詳しくは『紙プロHand』をチェック!!

しなしさとこ。彼女は初期スマック時代から活躍し、デュー以来18戦17勝1分無敗という女子総合格闘家のトップファイターである。その圧倒的な強さと、可愛らしいルックスで、専門誌はもちろん、スポーツ新聞から、ちょっとエッチな雑誌までが彼女を取り上げ、女子格闘家の中では1～2を争う露出の多さを誇っている。しかし、『紙プロ』では、数年前に携帯サイトに一度登場してもらったっきり取材はしいない。なぜか？　ズバリ言うと女子格担当のボクが、しなしに対して、いいイメージを持っていないというのが大きい。そんなこと言うと「好き嫌いで取材対象を判断するのはおかしい」なんて言う人もいるだろうが、それにはいくつか理由がある。それは、インタビューしても大幅に直しを入れるだとか、体重差を気にするあまり試合がすんなり決まらないとか、そういった話が他の編集者や選手などから頻繁に耳に入ってくるからだ。しかし今回、佐伯さんの要望で、写真集を発売するしなしとカメラマンとして撮影も行った佐伯さんの対談を行うことになった。指定された某道場に着くと「今日はチョロさんを殴っちゃうかもしれません」と、明らかに怒っている、しなしがいたんムム。申し訳ありません。この続きは『紙プロHand』で！　手前味噌ながらマジで凄いことになってます。このインタビューを読めば、きっとアナタもしなしに夢中になるはず。もちろん、いまではボクもしなしに夢中です。

写真だけ見ると、とっても仲の良さそうな、しなしと佐伯さん。しかし、2人が顔を合わせると、「お前、いい加減にしろ！」「そっちだっていい加減にしてよ！」と常にケンカ腰なのだ。まあ、ケンカするほど仲がいいってことか!?

強豪・金子相手に、しなしは連勝記録を「18」と伸ばせるのか？

2月12日、『DEEP』後楽園ホール『DEEP18th Impact』

しなしさとこ（フリー）vs金子真理（禅道会）
さらに大会同日より、佐伯代表もカメラマンとして参加！
しなしさとこが女子格ファイターとして初の写真集を発売！
『しなしさとこ写真集』価格・¥3500（送料別途、梱包費別途）
会場で購入できないという方は、住所、氏名、電話番号、携帯番号、PCアドレス、携帯アドレスを明記の上、下記アドレスまでメールするんだ！
yoyaku@shinashi-satoko.com
本音全開の日記をはじめ見所満載のしなしホームページもチェックしとけ！
http://shinashi-satoko.com/

G-SHOOTO plus 2月11日（金/祝）

新木場1stRING　16:30開場　17:00開始【決定カード】★5分2R akinori（AACC）vs吉田正子（native sprite）★5分2R 村上京子（パレストラ東京）vsせり（SOD女子格闘技道場）★3分2R篠原光（電撃ネットワークチーム南部）vs黒田エミ（s keep）

G-SHOOTO JAPAN 3月12日（土）

Zepp Tokyo　17:00開場　18:00開始【出場決定選手】藤井　恵（AACC）
【お問い合わせ】G-SHOOTO事務局　TEL.03-3422-7379　木村まで＿＿

チョロが選ぶ 2004年女子格ベストバウト

8・5 スマックガール 後楽園ホール 辻結花vsエリカ・モントーヤ

ベストバウトは12・19スマック静岡大会でのトーヒルvsクーネン戦と悩んだあげく8・5スマック後楽園大会での辻vsエリカ戦にしました。日本代表の辻ちゃんと、日本マット無敗のエリカの対決は、前半押され気味だった辻が最終ラウンドに大逆転の腕十字で勝利！その劇的なフィナーレは高田本部長じゃなくても「鳥肌立った！」

チョロが選ぶ 2004年女子格新人賞

藤井 恵

失礼ながら年齢や知名度、そして格闘技界でのキャリアからいっても、いまさらフジメグが新人賞っていうのもどうかと思うが、8月に行われた衝撃の総合デビュー戦、海外で強豪エリカを撃破、年末の修斗でも外人相手に一本勝ちを評価。そのアイドル系フェイスと鍛え抜かれた腹筋割れ割れボディーのギャップは一度間近で見てもらいたいものです。大物日本人との対戦が見たい！

2004年 女子格総評

2005年一発目のスマックはタウンホールで闘い始め。ここで強烈なインパクトを残したのが15。いつかはやってくれると思っていたが、柔術家相手にグラップリングルールで見事一本勝ちで、色物ファイターから脱出成功！

2004年の女子格闘技界はとにかくいろんなことがありました。スマックガールから分かれる形でラブ・インパクトが旗揚げ、4月にはGCM主催の女子大会クロスセクションがスタート。女子キックのガールズ・ショックが活動停止したかと思えば修斗が女子だけの大会G－SHOOTO JAPANを開始。他にも、TBSで女子総合格闘技トーナメントが行われ渡邊久江が優勝。『DEEP』には、しなが出場し、パンクラスでは「アテネ」という名の女子部門が動き出しました。ここまで来ると、すべての流れを把握している人はマスコミの中でもほとんどいないでしょう。『紙プロ』読者の中でも、よほどの女子格ファンでもない限り、いまの女子格がどうなっているかチンプンカンプンに違いありません。2005年は、そのような人たちも振り向かせるような話題＆団体独自のカラーの打ち出し、そして活きのいい選手の登場を期待してます。もちろん「女子バーネット」もこれまで以上に頑張ります！　押忍!!

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

正月ボケもここまでだ! 注目カードをイッキに紹介!!

新年早々、1·7中西百重引退興行で泉州力と高山善廣が遭遇! 高山に「オマエ、長州っていうか、顔が天龍なんだよ!」と突っ込まれた泉州は「なにコラ! 噛み付くのか!? クソぶっかけるぞコラ!!」と大激怒!! でも、セコンドになだめられるとアッサリ控え室へ消えていきました。担当は泉州ファンのサイノです。

Fight & Ticket 試合・大会情報

DEMOLITIONがオクタゴン導入! 3月に『D.O.G』旗揚げ!!

PRIDE、DEEP、パンクラス、修斗などの登竜門的大会DEMOLITION。そのスペシャルイベントとして、8角形の金網リング“オクタゴン”を使用した大会『D.O.G』を開催することが、主催のGCMより発表された。巨額を投じたオクタゴンは直径7メートル、鉄の厚さ6mm、そして総重量は6t。伝説の格闘技大会『X-1』のように試合中に金網が倒れてしまう心配など皆無である。オクタゴン完成お披露目は1月27日。同時に宇野、光岡、門馬らが公開スパーリングを行う予定となっている。日本では未だ新鮮なオクタゴン。『D.O.G』の今後に大注目だ!!

『D.O.G―Demolition of Octagon Gear―』
■日時 3月17日(土) ■会場 東京・ディファ有明 試合開始17:00(開場16:00)
■チケット SRS席 8000円、RS席 6000円、S席 5000円、A席 4000円
■決定カード ◎戸井田カツヤ(和術慧舟會 トイカツ道場) vs 山本篤(KILLER BEE)
◎大沢ケンジ(和術慧舟會 A-3) vs 志田幹(P's LAB東京)
■出場予定選手 光岡映二、岡見勇信、門馬秀貴、飯田崇人、他
■問 03-3538-5801 ■HP http://www.g-c-m.net/dlt/

サル vs 人間・第二弾! 格闘猿やっちゃんがタッグ王座に挑戦!!

“オレごと噛め”完成

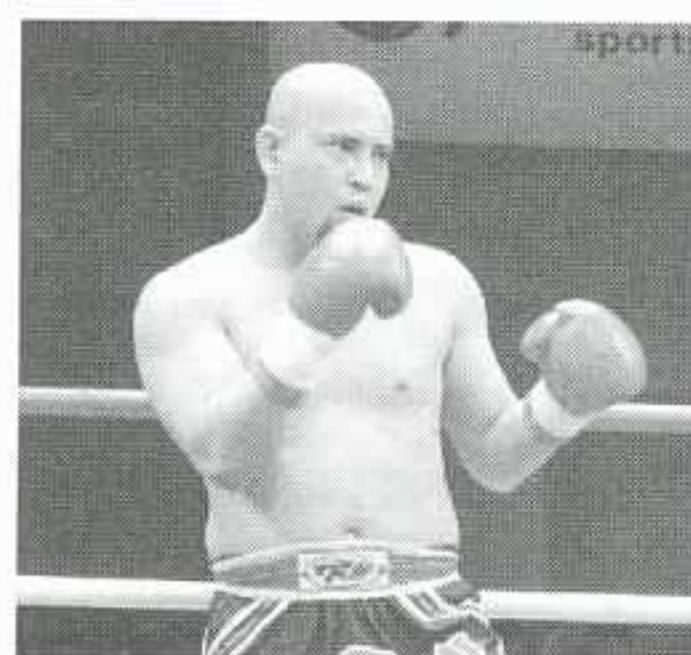
昨年12月、偽ゾボノ(一宮章一)を判定で下しアイアンマン王者に輝いた格闘猿やっちゃん。その生粋のニホンザルが、KO-Dタッグ王座挑戦にモキーッと名乗りを挙げた。パートナーは、闘いを通して友情が芽生えた一宮。前代未聞のサル&人間のタッグ。野生の力に人間の頭脳が加われば、この世に恐れるモノはない!!

『Into The Fight 2005』
■日時 1月30日(日) 試合開始18:30(開場17:30) ■会場 東京・後楽園ホール
■チケット 特別リングサイド 5000円(当日1000円up)、
リングサイド 4000円 (当日1000円up)、レディースシート 3000円、
立見 3000円(当日のみ)、小中高生立見(要身分証)、1000円(当日のみ)
■決定カード
【KOD無差別級選手権試合】[王者]MIKAMI vs ディック東郷[挑戦者]
【KODタッグ選手権】[王者]諸橋晴也 & タノムサク鳥羽 vs 一宮章一 & 格闘猿やっちゃん[挑戦者]
【ハードコアタッグマッチ】高木三四郎 & 伊東竜二 vs 橋本友彦 & YOSHIYA
【飯伏幸太 ゴールデンスター7番勝負 第3戦】TAKAみちのく vs 飯伏幸太
【タッグマッチ】健心 & 泉州力 vs HERO!&KUDO
■問 DDT事務局 03-5360-6653 ■HP http://www.ddtpro.com/

『無我』が札幌上陸! ドラゴンも復帰を示唆!!

■日時 1月29日(土) 試合開始18:00(開場17:00) ■会場 北海道・札幌テイセンホール
■チケット 特別リングサイド 7000円、リングサイド 5000円、指定席 4000円
■対戦カード ◎中邑真輔 vs 松田納 ◎棚橋弘至 vs 竹村豪氏 ◎飯塚高史 vs 吉江豊
◎天山広吉 vs 獣神サンダー・ライガー ◎ヒロ斉藤 vs 外道 ◎西村修 vs 鈴木みのる
※試合は全て3分6ラウンド、インターバル1分。ドイツ・キャッチルールにて行われる。
■問 新日本プロレス札幌事務所 011-521-6685 ■HP http://www.njpw.co.jp/

掣圏真陰流・桜木参戦! 2·4パンクラス初興行で謙吾と激突!!

2月のパンクラスに掣圏真陰流師範・桜木裕司が初登場! 昨年5月、パンクラス後楽園大会に出場した師範代・瓜田幸造が山宮恵一郎に敗れているだけに、流派の威信にかけて負けられない一戦だ。対戦相手は1年近く勝ち星に恵まれていない謙吾。昨年は『グラジエーター』や全日本キックで勝利を収めた実力者・桜木は、窮鼠・謙吾を危なげなく退けることができるか? この試合の他、全日本キックのプロテストに合格した伊藤崇文、“全身変態”(byターザン)佐藤光留、197cmの“ネクスト・シュルト”アレックス・ロバーツ、そして女子格闘家出場問題で物議を醸したヤノタク登場など、見所が盛りだくさん! 2005年最初のパンクラスを見逃すな!!

『PANCRASE 2005 SPIRAL TOUR』
■日時 2005年2月4日(金) 試合開始18:30(開場17:30) ■会場 東京・後楽園ホール
■チケット(当日500円up) SS席 12000円、A席 9000円、B席 6500円、
C席 5000円、D席 4000円、立見席 3500円
■決定カード
【ミドル級戦 5分3R】竹内出(SKアブソリュート) vs 久松勇二(和術慧舟會TIGER PLACE)
【ウェルター級戦 5分3R】ヒース・シムズ(チーム・クエスト) vs 井上克也(和術慧舟會RJW)
【ヘビー級戦 5分3R】謙吾(パンクラスism) vs 桜木裕司(掣圏会館)
【ウェルター級戦 5分2R】伊藤崇文(パンクラスism) vs 倉持昌和(フリー)
【無差別級戦 5分2R】佐藤光留(パンクラスism) vs アレックス・ロバーツ(空柔拳会館/Justiceマネージメント)
【ライト級戦 5分2R】矢野卓見(烏合会) vs 滝田J太郎(和術慧舟會東京本部)
■問 パンクラス 03-5792-0815 ■HP http://www.pancrase.co.jp/

2·6博多で王者モッチー vs 斎了のODG戦!! DRAGON GATE 2月シリーズ

1月
◎28日(金)鳥取・鳥取産業体育館(19:00)
◎29日(土)鳥取・鳥取産業体育館(18:00)
◎30日(日)香川・高松シンボルタワー1階展示場(18:00)

2月
◎06日(日)福岡・博多スターレーン(16:00) ◎07日(月)大分・大分イベントホール(18:30)
◎08日(火)宮崎・延岡市民体育館(18:30) ◎11日(金)和歌山・和歌山県立体育館(18:00)
◎12日(土)大阪・大阪府立体育会館第二競技場(18:30)
◎13日(日)静岡・焼津市民体育館(18:00) ◎18日(金)千葉・千葉公園体育館(18:30)
◎19日(土)埼玉・本川越ペペホールアトラス(18:00) ◎20日(日)愛知・常滑市民アリーナ(18:00)
◎23日(水)東京・後楽園ホール(18:30) ◎25日(金)埼玉・熊谷市民体育館(18:30)
◎26日(土)茨城・つくばカピオ(18:30) ◎27日(日)東京・八王子市民会館(17:00)
■問 DRAGON GATE 078-333-9797 ■HP http://www.gaora.co.jp/dragongate/

1·31山口大会に、大谷&藤田がタッグで凱旋!! ZERO-ONE MAX日程

1月
◎29日(土) 大阪・大阪府立体育会館 第2競技場(18:00)
◎30日(日) 広島・福山ビックローズ(16:00)
◎31日(月) 山口・周南市総合スポーツセンター(19:00)

2月
◎4日(金)宮城・宮城県スポーツセンター(18:30) ◎26日(土)愛知・豊田市総合体育館(18:00)
◎27日(日) 東京・池袋サンシャインシティ文化会館4F展示ホールB(15:00)
◎28日(月)神奈川・相模原市総合体育館(18:30)
■問 (株)ファースト オン ステージ 03-5730-3966 ■HP http://www.zero-one-max.com/

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■猪木事務所
03-5468-5656
〒150-0001 東京都渋谷区東1-25-2 丸橋ビル4F
http://www.inokiism.com/

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp/

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/

■聖願道 042-548-1172
〒190-0012 東京都立川市曙町1-37-24 トータルエネルギー本社ビル1階
http://www.seiken-do.com/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル6F http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂 03-5464-2806
〒150-0011 東京都渋谷区東2-17-12-404号
http://www.Takayama-do.com

■ドリームステージエンターテインメント(PRIDE)
03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048 神奈川県横浜市中区蓬莱町2-247 SSビル310

■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

■リキプロ
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-23-13 サシダハイツ久が原303

■レッスルエイドプロジェクト
03-5456-2345
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-20-12

■A to Z 03-3678-7777
〒132-0013 東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT 03-5360-6653
〒106-0022 東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052 東京都港区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP 03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW 03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号
http://www.llpw.co.jp/

■NEO 044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■SMACK GIRL 実行委員会
090-1773-5647(担当・勝井)
〒156-0041 東京都世田谷区大原1-63-9 恒心ビル801 株式会社プロテック内
http://www.smackgirl.com/
info@smack girl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO 0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F 株式会社エフ企画内

■U.K.R 044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193-11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■UNW 03-3362-3014
〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F.スネークピットジャパン 03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WJプロレス
03-3751-4546
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1 いずみハイツ
http://www.wj-pro.net/

■WMF 049-239-3520
〒350-0812 埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS 0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

■ZERO-ONE MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F(株)ファースト オン ステージ
http://www.zero-one.to/top.html

■ZST 03-5321-9595
〒106-0023 東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F
http://www.zst.jp/

DVD&GAME　最新情報

『リングにかけろ1』

Round 1／約50分／7140円（税込）
※初回限定特典 日本ジュニア誓いの旗／全巻収納BOX

『リングにかけろ』で永田裕志が声優に挑戦!!

新日本代表として『紙プロ』読者のバッシングを一手に担う永田裕志が、アニメ『聖闘士星矢』に続き、『リングにかけろ1』で2度目の声優に挑戦! DVD Round 1が1月26日に発売。以下毎月発売され、永田登場は4月発売予定のRound 4。要チェック!!

■問　エイベックスカスタマーサポート　0120-85-0095
■HP　http://www.toei-anim.co.jp/tv/rin-kake1/

『ランブルローズ』

7329円（税込）／2月17日発売
対応機種:プレイステーション2

あの長州も推薦！　女子プロゲーム『ランブルローズ』発売!!

早くも話題沸騰! 2月17日、コナミから本格女子プロレスゲーム『ランブルローズ』が発売される。レースクィーン、教師、看護婦、くのー、女子高生などなど10名のセクシーキャラがくんずほぐれつの大乱闘! 東京ゲームショーにゲスト出演した長州力が「もの凄くセクシー。レスリングもスピーディーでリアル」と褒めちぎり、「登場キャラに挑戦したい」と『ランブルローズ』参戦もブチ上げた。長州が『ランブルローズ』のド真ん中に立つ日はやってくるのか!?

■HP　http://www.konamityo.co.jp/rumbleroses/
■問　コナミホットライン　0570-086-573（平日9:00〜19:00）

And Others　その他情報

名勝負数え唄、再び!?『ジョーダンズ三又vsユリオカ超特Q in コロッセオvol.2』

好評につき第2弾決定! お笑い界屈指のプロレス＆格闘技通の二人が、マット界＆お笑い界を語り尽くす。ニセ長州vsニセ藤波の激突に注目だ!!

■日時　1月30日（日）　18:30開演（18:00開場）
■会場　ファイティングカフェ コロッセオ（千代田区三崎町3-7-13 田中ビルB1／JR水道橋西口より徒歩30秒）
■チケット　全席リングサイド 3000円（ワンドリンク付き）
■問　ファイティングカフェ コロッセオ 03-3512-0522
■HP　http://www.colosseo.jp/

格闘技トーク最強タッグ!!『ターザン山本!と吉田豪の格闘二人祭!! vol.19』

全格闘技ファン絶対必見! 最強タッグ・ターザン＆吉田豪と、マル秘豪華ゲストたちが繰り広げるガチンコ暴走トークバトル! 前回の永島勝司も大好評!! 今年一発目の乱入ゲストは一体誰だ!?

■日時　2月9日（水）　開場18:30／開始19:30　■チケット　1800円（飲食別）
■出演　ターザン山本!&吉田豪、豪華マル秘ゲストが多数乱入!!
■問　03-3205-6864　■HP　http://www.loft-prj.co.jp/

佐藤光留のコラムが読める! パンクラスでファンクラブ会員募集!!

パンクラス公式ファンクラブHYBRID CLUBでは、現在会員を大募集中! 会員証の発行、選手が参加するイベント、チケット優先予約など特典が盛りだくさん! 年3回発行される会報には、ターザン山本に"全身変態"と評された佐藤光留がキチ●イコラムを絶賛連載中だ!!

■申し込み方法　入会金2000円に年会費3000円をプラスした計5000円と、住所・氏名・生年月日・電話番号を明記の上、現金書留で下記の住所に申し込むこと
■住所　〒106-0047　東京都港区南麻布4-2-25　株式会社ワールドパンクラスクリエイト FC入会申込 係
■問　パンクラス 03-5792-0815
■HP　http://www.pancrase.co.jp/

永遠の白覆面の魔王 ザ・デストロイヤーサイン会

往年の名レスラー、ザ・デストロイヤーが自伝の出版を記念してこの度、緊急来日が決定した。同時に水道橋の後楽園プロ格本舗バトルロイヤルでデストロイヤー・サイン会を開催。デストロイヤー・グッズを3000円以上購入した方全員に本人から直筆サインが贈られる。また、本邦初公開、ドクターXのサイン会も同時開催。これを見逃す手はない。詳細は下記まで。

■日時　1月30日（日）16:00〜18:00　デストロイヤー、Dr.Xサイン会（2部制）
■会場　後楽園プロ格本舗バトルロイヤル（東京都千代田区三崎町2-20-5 丸山医院2F）
■問　バトルロイヤル　03-3556-3223

王拳聖が映画に出演!「見ないと蟷螂拳でやっつけるヨ!!」

前号本誌に登場した"中国拳法の達人"王拳聖が香港映画に3本も出演!! 染野行雄氏という香港では名の知られているプロデューサーが制作のもと、『カンフーハッスル』にも出演中の俳優と共演している。その3本の中で『独臂拳王』は日本でも配給予定アルヨ!! また、高木淳也主演の『龍神』にも出演するかたわら、アクション監督としても活躍中だ。機会があれば、王さんの華麗な動きをチェックしよう！

紙プロHand　更新・最新情報

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスＨａｎｄ』プチリニューアル完了!! ショッピングコーナーも大幅リニューアル済み。『ハッスル』グッズや『紙プロ』バックナンバーが携帯から購入できるぞ!! 1月12日から3日間、一般発売より早く2/20『PRIDE.29』スペシャル特典つきチケット予約も実施ずみ!! もちろんニュースやコラムも見所満載、メルマガは毎日配信!! しなしさとこ＆佐伯代表の"噂の２人"コラムスタート、試合結果は他サイトにない記者総評つき。写真は中川画伯による黒田"最高"哲広待画。着メロ＆待画は毎月１日更新、今年も充実度300％でお送りします!!

Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技

紙プロHand

寒い季節になっても頑張る読者ページ

紙プロ元気大学

年始（年末ではない）の大掃除を終えて、いらなくなった本を大量に古本屋に持ち込んだところ、年始から肩を痛めてしまった読者ページ担当のささきぃです。本業は電気部です。小笠原先生には「肩がはずれている」と言われました。驚きました。すてきな1年のスタートになりそうです。今年は昨年よりももっと、公私ともに充実した年にしたいですが、何より出張買い取りをうまく生かそうと思います。さぁて、今月もはじまりはじまり。

（東京都・ヤー）➡ヤーさんあけましておめでとうございます。1・4は後楽園にいらしたそうで、何よりです。次は2・6後楽園で郷野選手のヘビー級タイトルマッチですよん。郷野選手がコメントで「大晦日は近藤の勝ちだったと思う」と言っているのを聞いて、認めてるんだなと思ってジーンときました。再戦はいつかなぁ。

内回 校巡

かったファンからも「**見直した**」というハガキが届きました。「**やっぱりUインター軍団は最高です。●●以外**」という大阪にお住まいの主婦・山崎さん、ご本人的にはいいかもしれないですけど選手名伏せ字にさせてください。以下、順不同でお送りします。

【阿部四郎インタビュー】
★小学校の頃、空き缶投げてやったことあるけど本当はいい人だったんですね。スイマセン。
（埼玉県・深田康弘・32歳・会社員）

『紙プロ』82号 面白かった記事

【安生洋二インタビュー】
★読んでいて熱いものがこみあげてきた。『男祭り』は残念だったが、また出て欲しい。
（石川県・浅田浩伸・34歳・団体職員）
➡1位は男の"SADAME"に挑んだ安生洋二選手インタビュー。安生さんを過去を知らな

➡長い因縁の決着ですね。何よりです。でも、空き缶投げさせるほど憎まれていた阿部さんがスゴイんです。私もテレビ中継見て、兄（現在無職）とおもいきり怒ってたなぁ。

【近藤有己インタビュー】
★おもしろい。まじめな受け答えと闘志が伝わる。
（愛媛県・福山宏・37歳・会社員）
➡まじめな受け答えと闘志って、なかなか両立するの難しそうですけど、たしかにそういうインタビューでした。前号プレゼントのサイン入りオープンフィンガーグローブは競争率ナンバーワン。当たった人は今年のラッキー使い果たしたかもしれません。当たっても嬉しくなくなるようなことを書いてしまいました。

【ターザン山本！＆吉田豪の格闘2人祭・ゲスト永島勝司】
WJがそんなことになっていたと今、気づきました。
（福井県・西澤花寿・29歳・主婦）
➡今ですか！ この他「第1部や第2部の話も読みたい！」などの意見もたくさん届きました。そのあたりはイベントで！ グリズリーさんの素敵な話についてはバックナンバー80号をチェック。

【オンナのZERO-ONE座談会】
★そもそもアクシデントの『真撃』を4回中3回もPPVした自分を誇りたい。
（大阪府・中島一郎・30歳・会社員）
➡えらい。わたしは自費で大阪まで行ったことを今でもエバっています。家族と当時の彼氏には「会社の友達とカラオケ行ってくる。朝になるから」と告げて家を出ました。元グリーンベレーがどうしても見たいから大阪行ってくる、とは言えませんでした。

【武藤敬司・ジミー鈴木対談】
★カズ・ハヤシの良さを実感した。
（東京都・細田正崇・24歳・会社員）
➡武藤・全日本に欠かせない存在のカズ・ハヤシ。また武藤選手のコピーやってほしいなぁ。このほか「**武藤にはあと10年は頑張って欲しい**（鳥取県・青戸渉）」などのご意見もありました。伝えたら本人喜ぶかなぁ、それとも嫌がるかなぁ。

『紙プロ』82号 つまらなかった記事

【桜庭和志インタビュー】
★『男祭り』出てませんからぁぁぁ。残念ッ！ ホントに残念!!
（大阪府・千本一博・22歳・NOメガネ）
➡おもしろかった記事も2位でしたが、同様意見も多数でした。あ〜……残念ッ!! もう一丁ッ！

2004年のMVP・ベストバウト・名言

★MVP＝武蔵。ワースト大会＝K-1・ワールドGP。
（東京都・最上正光・30歳・会社員）
➡どっちか間違いじゃないですか？ いいのかな？

★ベストバウト＝石井智宏vs中嶋勝彦。
（東京都・下山孝一・25歳・会社員）
➡中嶋くんデビュー戦ですね。これはいい試合でした。帰り、ガンツさんに「そういえば、ささきぃって中嶋くんに似てるよね」と言われたことを思い出しました。すこし嬉しかったですが、複雑でした。

★「ソイヤ!!」 高田本部長
（埼玉県・藤井佑樹・21歳・学生）
➡『男祭り』のオープニングですね。……それ、名言？

★今年もいい年でありますように。
（山口県・岸田力・33歳・会社員）
➡はい。今年もよろしくお願いします。

（石川県・シーザー孝志）「『男祭り』期待してます！ アンデウソンを殺れぇぇ」➡殺っちゃいましたよ！ イラストだけ見て、一瞬、尾崎魔弓さんかと思いました。今月の長南インタビューもチェック。

紙プロ82号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 安生洋二インタビュー
2位 桜庭和志 インタビュー
3位 永島×ターザン×吉田豪イベントレポート
4位 阿部四郎のPG談
5位 近藤有己インタビュー

1位は300%……いや、200%男・安生洋二インタビュー！ 2位は超僅差で桜庭和志インタビュー。欠場を惜しむ声超多数。3位はナマハゲが年末イベントに登場！ ターザン・吉田豪の格闘2人祭徹底レポート。4位は掟ポルシェ。＆極悪・阿部四郎のPG談。5位はハッスル特集、6位は不動心・近藤有己インタビューと武藤敬司・ジミー鈴木対談、以降は戦闘竜インタビュー、ZERO－ONE座談会、谷川プロデューサーインタビュー、喫茶店トークが同数で続きました。韮沢さんインタビューはおもしろがる人と「知らない」「なぜ？」という人と、反応がまっぷたつです。そうか。

（埼玉県・中川雅博）「前号はスミマセンでした。『素敵だな』と思ってパクッてしまいました。心を入れ換えました。表現者はオリジナリティで勝負です」➡ほう、これがオリジナリティあふれた作品……って、こらー。ネタ元はWWEのカリビアン・クールというレスラーですよ。アイス食べたくなってきました。

（埼玉県・小川徹）➡たくさんイラストありがとうの小川くん。1枚だけの掲載でごめんなさい！ ハッスル勢です。みんな迫力ある顔してますね。今年は2月、ハッスル・ハウスからスタートです！

レスラー・関係者からの年賀状コーナー!!

あけまして おめでとうございます

今年も よろしく お願いします

➲エリカ・モントーヤに勝利した辻結花選手。あの日の勝利は私への誕生日プレゼントだと勝手に思っています（8・5生まれ）。警備員に暴行を加えている衝撃ショットです。……違いますね。

HAPPY NEW YEAR 2005

I'LL BE BACK!!

YOSHIHIRO TAKAYAMA

TAKAYAMA-DO.COM

➲復帰が待たれる高山善廣さんからの1枚です。アイルビー・バック！ 久々にUインタートークも聞きたいですね。

➲見ての通り破壊王・橋本真也さんからの年賀状です。素で「うわぁ！」と言ってしまうインパクト。度肝をぬかれました。この年賀状特集のきっかけになった1枚です。マネできません。小さく書いてありますが、写真は1984年のものです。年賀状大賞。

謹賀新年

本年もよろしくお願いいたします

年賀状大賞

初心に戻り、必ず復活します。

皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

プロレスラー 橋本真也

Happy New Year

Shinashi Satoko

➲セクシーショット・しなしさとこさん。携帯サイト『紙プロHand』のコラムは絶対必読ですよ。さとこ姫の素顔全開です。チョロさんからの報告聞いてるだけで惚れました。

Akira Shoji 2005

大鷹のように堂々と。軍鶏のように獰猛に。

➲毎年とんちのきいた年賀状が楽しみなアキラ兄さん。最後の日本男児。今年も羽ばたいてください！

➲キャプテン・ハッスルからの年賀状です。今年は鳥年、チキンの年！ さらなるご活躍期待してます！

いよいよ、チキン。イクゾ、2005。

あけまして、おめでとうございます。

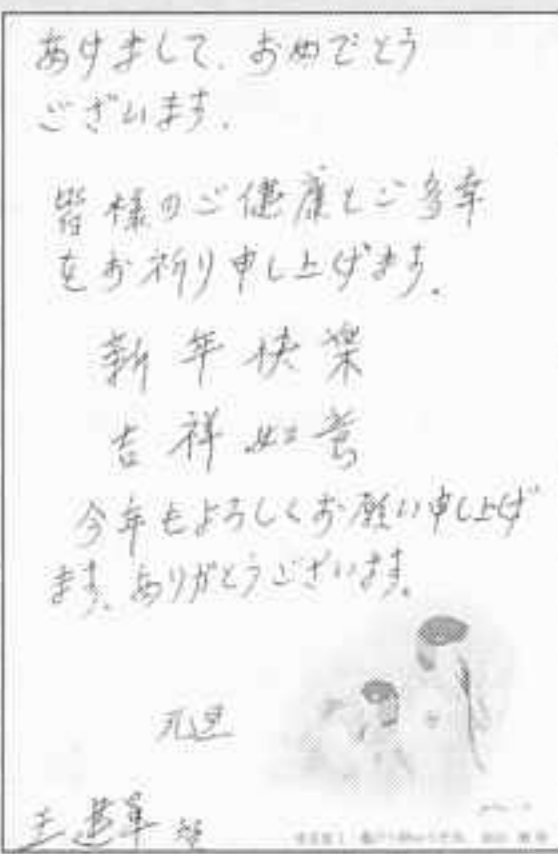
皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

新年快楽

吉祥如意

今年もよろしくお願いしますます。ありがとうございます。

王建章

➲素顔のペイントマンこと、某フライデーの仙波さんです。仕事も忙しいのに富士山でハッスル、ハッスル！……元気だなぁ。

➲誰でしょう。前号インタビューに登場した、王拳聖さんです！ 新年快楽！ 先日は別件で編集部に突然いらっしゃいました。ドアをあけたらいきなり王さんがいたときにはビックリしましたよ。

2005

二千五年

➲直接編集部に年賀状を持ってきてくれたアレクサンダー大塚選手。「来年も1年『紙プロ』を盛り上げてください」。いや、盛り上がるようにご協力お願いします。ぜひ。

今年もたくさん年賀状をいただきました。ありがとうございます。（株）ダブルクロスでは山口日昇の母、喜代子（享年84歳）が永眠し喪中だったため、年始の挨拶はご遠慮させていただいておりました。みなさんのお心遣いに感謝です。こうして見ると、年賀状はアートだなぁとしみじみしてしまいます。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

大晦日は『Dynamite!!』で大阪でした。なので初詣は住吉大社へ。おみくじの結果は良かったんですが、占い師に見てもらったところ「来年からは良くなります」と、元旦から1年いきなりすっ飛ばされてしまいました。早いよ。さて、今月は紙プロ大賞、名言の発表号です。みなさんの感想、異論、反論、オブジェクションもお待ちしております。もちろん普通のお便りやイラストも大歓迎です。すべての宛先は

メールはradical@kamipro.com

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス 紙のプロレスRADICAL編集部
「去年のワーストバウトに1・4を入れないで」の係まで。

携帯サイト『紙のプロレスHand』からの投稿もできます!

見ないで 乳首

（広島県・山田彰）➲私も今年30歳になるんで、こういうハガキで笑ってちゃいけないかなと思うんですけど、やっぱ面白いや。一応、私の心の裏メインです。

ゲイ春

カエルになっても 大の字になっても タップしても 勝つまでは がんばりましょ

（北海道・アカツキ）➲今年もよろしくお願いします。今月もたくさんいただいたんですが、あえてこの2枚を選んでみました。高田本部長、いい身体してましたよねぇ。

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに!
プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によってはこちらに載ってしまいます。
匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

RADICAL CALENDAR

1 JANUARY

27 THU.
レジェンドチャンピオンシップ■東京・代々木第二体育館(18:30)
ZERO-ONE MAX■東京・新木場1st RING(19:30)

28 FRI.
DRAGON GATE■鳥取・鳥取産業体育館(19:00)
大日本■神奈川・川崎市体育館(19:00)
AAA■東京・後楽園ホール(19:00)

29 SAT.
無我■北海道・札幌テイセンホール(18:00)
ZERO-ONE MAX■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:00)
DRAGON GATE■鳥取・鳥取産業体育館(18:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
求道軍■熊本・熊本木材株式会社八代支店倉庫(17:00)
格闘美■東京・新木場1st RING(18:30)
NEO■東京・板橋グリーンホール(18:30)
修斗■東京・後楽園ホール(18:00)

30 SUN.
新日本■北海道・月寒グリーンドーム(15:00)
ZERO-ONE MAX■広島・福山ビッグローズ(16:00)
ジャイアント馬場興行■東京・後楽園ホール(12:30)
DRAGON GATE■香川・高松シンボルタワー1階展示場(18:00)
DDT■東京・後楽園ホール(18:30)
大阪プロ■兵庫・兵庫県立武道館(18:00)
求道軍■熊本・流通情報会館(15:00)
FUCK!■大阪・大阪羽曳野J2K道場(14:00)
AtoZ■東京・板橋グリーンホール(17:30)
JWP■東京・バトルスフィア東京(15:00)

31 MON.
新日本■北海道・函館市民体育館(18:30)
ZERO-ONE MAX■山口・周南市総合スポーツセンター(19:00)
リキプロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場(18:30)

2 FEBRUARY

2 WED.
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
DDT■東京・新木場1stRing(19:30)

3 THU.
新日本■岩手・岩手県営体育館(18:30)

4 FRI.
WWE■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(19:00)
新日本■福島・福島体育館(18:30)
ZERO-ONE MAX■宮城・宮城県スポーツセンター(18:30)
パンクラス■東京・後楽園ホール(18:30)

5 SAT.
ジャイアント馬場追善興行■東京・日本武道館(17:00)
WWE■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(18:00)
みちプロ■千葉・Blue Field(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

6 SUN.
全日本■岡山・倉敷山陽ハイツ体育館(18:30)
みちプロ■埼玉・本川越ペペホール アトラス(15:00)
DRAGON GATE■福岡・博多スターレーン(16:00)
WWS■群馬・伊勢崎ロイヤルホテル(18:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
BJWプロモーション■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
ターザン後藤一派■宮城・Zepp SENDAI(15:30)
J.J.JOINT■東京・新木場1st RING(12:30)
NEO■東京・板橋グリーンホール(17:00)
AtoZ■東京・AtoZ道場(13:00)
全日本キック■東京・後楽園ホール(18:30)
修斗■東京・北沢タウンホール(16:00)
HEAT■愛知・ヘラルドシネマプラザ2F OZON(13:30)

7 MON.
DRAGON GATE■大分・大分イベントホール(18:30)

8 TUE.
ハッスルハウス■東京・後楽園ホール(19:00)
全日本■山口・海峡メッセ下関(18:30)
DRAGON GATE■宮崎・延岡市民体育館(18:30)

9 WED.
ハッスルハウス■東京・後楽園ホール(19:00)
全日本■宮崎・宮崎県武道館(18:00)
DDT■東京・新木場1stRing(19:30)

10 THU.
全日本■熊本・本渡市民センター(18:30)

11 FRI.
ハッスル7■愛知・愛知県体育館(17:00)
新日本■大阪・大阪臨海スポーツセンター(15:00)
全日本■長崎・諫早市体育館(15:00)
みちプロ■埼玉・越谷市桂スタジオ(15:00)
DRAGON GATE■和歌山・和歌山県立体育館(18:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
EX格闘美■東京・後楽園ホール(12:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)

12 SAT.
みちプロ■埼玉・深谷市民体育館(18:30)
DRAGON GATE■大阪・大阪府立体育会館第二競技場(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
NEO■東京・板橋グリーンホール(18:30)
DEEP■東京・後楽園ホール(18:00)

13 SUN.
新日本■岐阜・岐阜産業会館(15:00)
全日本■福岡・博多スターレーン(14:00)
みちプロ■茨城・古河市立体育館(14:00)
DRAGON GATE■静岡・焼津市民体育館(18:00)
大阪プロ■大阪・大阪府立体育会館第1競技場(14:00)
DDT■静岡・清水マリンビル(17:30)
JWP■東京・JWP道場(13:00)
我闘姑娘■東京・板橋グリーンホール(12:30)
NEO■東京・板橋グリーンホール(17:00)
AtoZ■大阪・NGKスタジオ(12:00)
格闘美■大阪・NGKスタジオ(16:00)

16 WED.
全日本■東京・代々木競技場第二2体育館(19:00)
DDT■東京・新木場1st Ring(19:30)

18 FRI.
新日本■新潟・三条市厚生福祉会館(18:30)
NOAH■神奈川・平塚市総合体育館(18:30)
DRAGON GATE■千葉・千葉公園体育館(18:30)

19 SAT.
新日本■埼玉・槻の森スポーツセンター(18:30)
NOAH■千葉・アクアマリンスタジオ(18:00)
DRAGON GATE■埼玉・本川越ペペホールアトラス(18:00)
K-DOJO■岩手・サンビレッジ紫波(18:30)
WMF■東京・バトルスフィア東京(18:30)
全女■東京・お台場SDM(17:00)

20 SUN.
新日本■東京・両国国技館(15:00)
NOAH■東京・後楽園ホール(18:30)
DRAGON GATE■愛知・常滑市民アリーナ(18:00)
K-DOJO■青森・八戸シーガルビューホテル(18:30)
WMF■東京・バトルスフィア東京(14:00)
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場(13:15)
全女■埼玉・児玉町民体育館(18:30)
NEO■東京・東京キネマ倶楽部(12:30)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(17:00)
ライオネス飛鳥興行■東京・ホテルファーレ東京(15:00)
PRIDE.29■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(16:00)

22 TUE.
NOAH■神奈川・相模原市立総合体育館サブアリーナ(18:30)
大日本■東京・後楽園ホール(19:00)

23 WED.
NOAH■愛知・春日井市総合体育館(18:30)
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール(18:30)
K-1 WORLD MAX■東京・有明コロシアム(18:00)

25 FRI.
NOAH■京都・京都KBSホール(18:30)
DRAGON GATE■埼玉・熊谷市民体育館(18:30)
DDT■東京・後楽園ホール(19:00)

26 SAT.
NOAH■静岡・ツインメッセ静岡(18:00)
ZERO-ONE MAX■愛知・豊田市総合体育館(18:00)
DRAGON GATE■茨城・つくばカピオ(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)

27 SUN.
NOAH■茨城・つくばカピオ(17:00)
ZERO-ONE MAX■東京・池袋サンシャインシティ文化会館4F(15:00)
みちプロ■東京・後楽園ホール(18:30)
DRAGON GATE■東京・八王子市民会館(17:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
パンクラス■東京・大森ゴールドジム(14:00)
LLPW■東京・後楽園ホール(12:30)
格闘美■東京・新木場1st Ring(12:30)

28 MON.
ZERO-ONE MAX■神奈川・相模原市総合体躯館(18:30)

WWE『ネタバレ通信』今月はカラーページに掲載されています!

金ちゃんのMONTHLY BOYA-KING COLUMN

ドンとやってみよう!

第2回

「総合をナメてた」金メダリストは俺が「金vs金対決」やってやるよ!

『紙プロ』読者のみなさん、あけましておめでとうございます。今年も応援よろしくお願いします！

さて、大晦日は今回もイチ視聴者としてテレビ観戦したんだけど、安生さんは残念だったね。やっぱり4年間もブランクがあったら厳しいものがあるよね。俺は全盛期の強さを知ってるからさ、安生さんの動き見て、「こんなのすぐ返せるのに、安生さんなにやってるんだ！ あなたならできるはずだ！」とか思いながらテレビ見てたよ。

でも、試合内容どうのより、安生さんがグレイシーともう一度闘えたことのほうが重要だよね。試合前の煽りビデオで、安生さんが泣きそうな顔で記者会見してたじゃん？ 俺あんな感動的な記者会見みたの初めてだからさ、「安生さん、そんな風に思ってたんだ」ってウルッてきちゃってさ、試合前に燃え尽きちゃったよ（笑）。凄い重荷を背負ってこの10年間過ごしてたんだなと思って、「なんだ安生さん、俺らに言ってくれたらいいのに。仲間じゃないですか！」とか思ったよね。ホントUインター全員でセコンドつきたかったくらいだよ。

まぁ、大晦日は一番印象に残ったのは安生さんのVTRだけど、試合として一番良かったのは魔裟斗vsKIDかな。『PRIDE』は美濃輪君の試合は良かったけど、前半がつまらなかったからさ。近藤君とか長南亮とかがいい試合してもテレビではカットされてるのに、柔道家の試合はノーカットで流れてるんだからさ。あれはさすがにキツかったよね。

そもそも俺は鳴り物入りでこの世界に入ってくる柔道家って好きじゃないんだよ（笑）。なんかさ、柔道がダメになったから総合に来るとかそういう過程が嫌いなんだよね。現役バリバリの人がオリンピック蹴って来るならいいけど、オリンピックに行けなくなったから総合に行きますってなると、総合がナメられてるような感じするじゃない？ 自分の職業が低く見られてるような感じで嫌なんだよね。

それで実際、瀧本選手なんか「総合ナメてました」とか言ってるわけでしょ？ そういう気持ちでこの世界に来られたら腹立つよね、やっぱり。金メダル取ることは凄いことなんだけどさ、だからと言って総合ですぐ勝てるかって言ったら、まったく別の話だから。

デビュー戦は快勝とはならなかった柔道金メダリストの瀧本誠だが、"他流試合"が似合うこの男とUインター、キングダム、リングスを渡り歩いた生粋のU系戦士・金ちゃんとの試合は見たい！

なんかこの前、浅草キッドの水道橋博士と話したら、「瀧本のイジけたボヤキキャラは『プロ向き』だ」なんて言ってたけど、それは、この業界じゃあ俺の専売特許だし（笑）、「体重差がある相手とも闘うところがいい」とか言っても、俺なんてリングスでも『PRIDE』でもそんな試合ばっかりだよ。それでも「金」だ「金」だ言って特別扱いされるなら、俺だって名前に「金」がついてるんだから、「金vs金、対決」やってやるって（笑）。

俺なんてUインターの練習生から始めた雑草だからね。要は雑草がエリートに対してひねくれてるだけなんだけどさ（笑）。でも、試合やったら絶対負けないよ。UWFが総合で柔道家に負けるわけがない。プロレスファンに誓うけど、これは本気で思ってるからね。

田村さんと吉田さんがやったときだって、最後は油断したかもしれないけど、試合のほとんどは田村さんが支配してたからね。ただ、あのとき田村さんが負けたのはホントに悔しかったな〜。俺は田村さんとは人間的に合わないけど、それでも悔しかったからね。他人が負けて腹立つことなんかないんだけど、なんかプロレスラーが柔道家より下に見られるっていう、そのムードが耐えられないんだよね。

俺が瀧本選手と闘う機会があるかどうかわからないけど、もし闘ったらプロレスラーの強さを見せますよ。ま、誰と闘うにしても2月20日の『PRIDE・29』にはゼヒ出場して、なんとしても結果残したいね。そのために禁酒して年末年始も練習漬けだったし、1月後半はタイに行って徹底的に身体をイジメ抜いてくるつもりだから。

とにかく、今年は意地でも這い上がるんで、応援よろしくお願いします！

Kanehara Hiromitsu
本音炸裂コラム毎日更新中！
金原弘光オフィシャルＨＰ
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

リングの汁

いま注目は今成vs前田のみ

花くまゆうさく

「今年の大晦日、フジテレビは『PRIDE』を6時半から9時までにしたほうがいいのになあ」と思いつつ、観に行った『男祭り』を振り返ります。

まずケツ太鼓のとき、「マーク・ハントは高所恐怖症なの？」と思ったり、黒いフードをかぶった大ノゲイラの姿を「エガちゃんが昔やってた姿に似てるなあ」とか思いつつ試合へ。

ステファン・レコが映画『ウォリアーズ』の音楽で入場！　あの映画に心奪われた中学生時代が蘇る。まあ、試合は全然ダメですが。

レコとシルバが不甲斐なく負け、小川の『PRIDE GP』での勝利の価値がすっかり暴落したあとに、ハイアンvs安生。ハイアンは予想通り逆グレイシーダイエット（？）とでも言うべきプックリボディ。それでもいつも通りにパンチからタックルきめて、しっかりパスするから感心感心。フィニッシュも見事なら、自分から先に「ナカムラとはやりたくない」と言い出すアピールも最高デス。♪「いい子になんかな〜るな〜よ〜」と、ピーズの曲が幻聴で聞こえてくる。

その後、オレの世界では近藤もシウバも判定勝ちしてたんだけど、目の前の現実では違うようでした。

そんでここ一年は65キロ級で闘ってきたパルバーが、73キロ契約で五味と闘ってんの観てブルーになったり、メインもノゲイラが完敗したりで、しんみりとした年越しを電車の中で過ごしたのでした。

帰ってからは『Dynamite!!』（KID vs 魔裟斗がすべて）を観て、そして4日があの新日本・東京ドーム。『新春！　格闘スペシャル - 闘魂祭り - 』とのテレビタイトルは、あきらかに大晦日の格闘技人気のおこぼれをもらう気マンマンでやらしい。こないだまで「プロレスが一番スゴいんだ」とアナウンサーが気持ち悪く叫んでたのに、プロレスの「プ」の字も番組タイトルにないよ。そんで異種格闘技戦特集やアルティメット・ロワイヤルなる不思議映像を堂々と流すその真意は何なんでしょうか？　本気で「これらは『PRIDE』やK - 1と同じ格闘技として、みんな見てくれるはず！」と思ってのことなのか？　それとも別の真意があるのか？　あるいは向きも考えもなく、行き当たりバッタリなのか？　プロレスはナゾでいっぱいです。

Hanakuma Yusaku
十段がんばれ。極めてください。

中川画伯の絵日記 犬とTVの日々

http://chu-kichi.jp/

第5回

謹賀新年！
今年もヨロシクね。
5回目なのに未だスタイル模索中。
ミスターやりたい放題。
読みづらくて、ごーめんね。

12月22日　『紙プロ82』読んだよ。ヤノタク選手は、らしくて良いんじゃねえんかな、ンムフフ。でも自分は面白いモノしかオススメしないからネ。女子格闘技は面白いよ！

12月23日　六本木でヒゲの野田社長のトコの秘密兵器、パフォーマンスユニット『雅』を観たよ。キレのある動きでドキドキ。自分は鷹派の長谷川桃ファン。トークはチョットでえぇんや。

12月24日　犬とイチャイチャ、クリスマスイブ。

12月26日　『M - 1』最高。漫才大好き！　アンタッチャブルおめでとう!!

12月26日　怨霊興行『666』観戦。サバイバル飛田恐えー。燃やされそうになったよ。ディファ有明の人がセミの試合中にマイク持って「ヤメロ！」とか言ってきたよ。スゴい雰囲気になっちゃった。会場の備品（スピーカー）を客席に投げたぐらいでガタガタうるさいよね？

12月27日　『WAP』観戦。ピーティー・ウィリアムスは素晴らしい。オススメよ。

12月31日　TVで格闘技観戦。高田本部長、面白ぇ…。ほんとに『男祭り』だわ。

1月1日　謹賀新年！　今年はもっと頑張りますよ。やりますよ！（前髪チョキチョキ）

1月3日　『全日本プロレス』観戦。中嶋勝彦最高。バチバチファイト。川田よりモモ、太かった。

1月5日　『リキプロ』観戦。宇和野貴史が良かった。踏ん張ったんじゃないかな。智宏&貴史はドコに出しても恥ずかしくないよ。

1月8日　『スマックガールF』観戦。面白かったよ。たま☆ちゃん強かった。女子、三日会わざれば…。恐るべし、SOD女子格闘技道場！

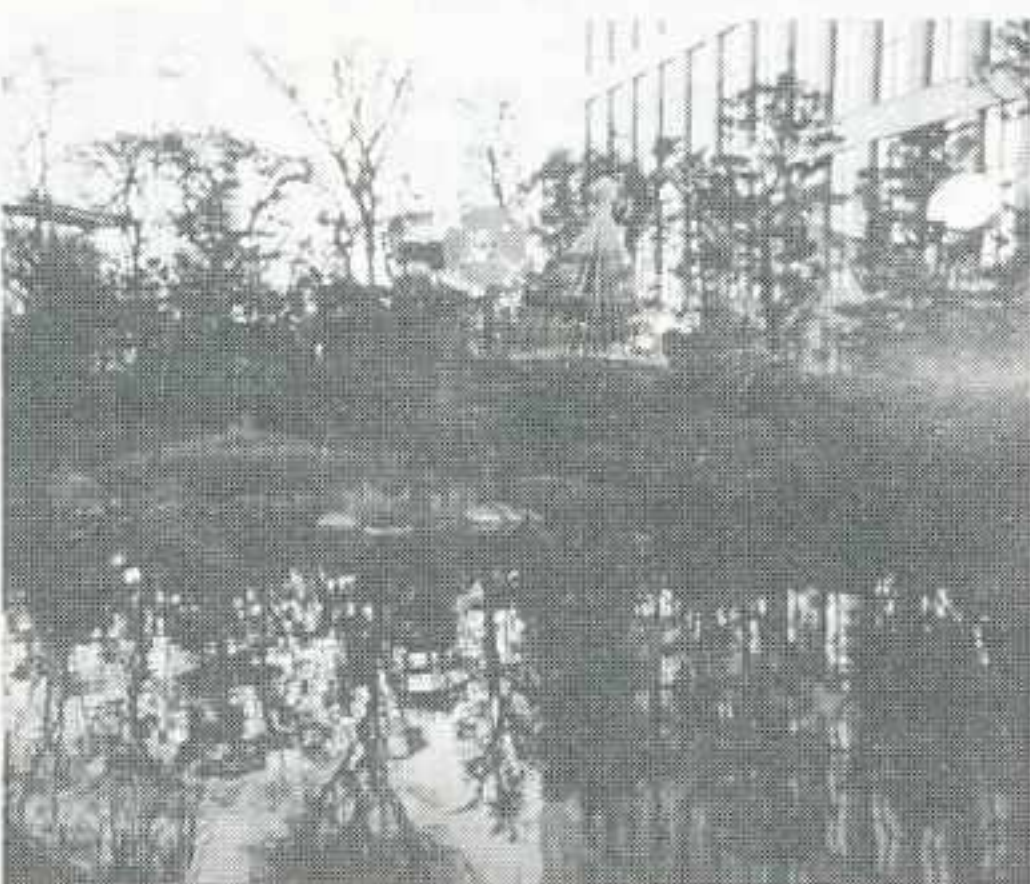
1月10日　『ゼロワン・マックス』観戦。高岩最高！やっぱり日本のプロレスには殺気が必要だと思うよ。

何を書いて良いのか解らず暴走気味。ブレーキの壊れた自転車です。御指導御鞭撻願います。紙のプロレス「中川画伯絵日記係」まで。抽選で1名様にイラスト・プレゼント。好きな選手の名前を3人書いてクダサ〜イ！

ザ・検証 REBORN

前回に引き続き、今回は本来なら順番的にせき詩郎さんの出番です。『紙プロ』大賞のアンケートはメールでもらえたのですが、その後、連絡が取れなくなってしまったため、椎名さんの登場となります。日本のどこかにいるであろうせき詩郎さん、連絡ください!

【今月の検証　椎名基樹】馬場さんゆかりの『ORIGAMI』へGO!

アッポ〜。

と、手の平を額にかざして言ってみて、我らがジャイアント馬場のモノマネだということが、わからない時代も、もうすぐそこかもしれない。いや、もしかしたら、高校生あたりだと「何それ?」と、すでに言われてしまうのだろうか?

ジャイアント馬場がお亡くなりになって、7年が経つという。2月には7回忌の興行が行われるらしい。早ぇ〜な本当。歳を取るワケだ。

と、いうことで、在りし日の馬場を偲んで、今回の検証は、前々から気になっていた、馬場が好物だったという、赤坂のホテル「キャピタル東急」のレストラン「ORIGAMI」のハンバーガーを食べに行ってみることにした。なんでも、このホテルを常宿にしていた馬場が、このハンバーガー大好きで、いつも食べていたという話は半ば伝説となっている。筆者もハンバーガーは大好きなので、きっとお金持ちで食通であろう馬場が大好きだったというハンバーガーが、どんなものか気になっていたのだ。

で、キャピタル東急に向かったのであるが、このホテル、なんでもビートルズも来日の際泊まったとか。結構、古いし、思ったよりこじんまりとした、小さいホテルであったが、それがとってもおしゃれで、イイ感じ。モダンというヤツでしょうか?

あらたまった場に、ほとんど身を置いたことがない筆者は軽くビビりながら、迷いつつレストラン「ORIGAMI」にたどり着く。に、しても「ORIGAMI」とは変わった名前だな。この名前からも、このホテルが昔から外国人客を意識した、シャレたコンセプトで営業していたんではないかと想像させる。

で、レストランの内装であるが、これまたモダ〜ンリビングといった感じの、シンプルで落ち着いて、おしゃれである。ズバリ言って、まったく俺とは似合わない! イエイ! シンプル西洋な椅子などの調度から、日本庭園の中庭が見えたりするのも、このホテルのコンセプト通り。いや〜わかっていたけど、馬場はシャレ者ですな。

で、ハンバーガーである。ハンバーガーはジャンボバーガーとチーズバーガーがあって、どうやら馬場はいつもジャンボバーガーを食べていたらしいが、筆者はチーズバーガーが食べたいという、取材者にはあるまじき理由でチーズバーガーを注文。3種類のチーズから、チーズを選ぶのであるが、唯一言葉の意味がわかった「アメリカン」というチーズを選んだ。さらに、焼き方を訊ねられたので「ミディアム」にする。この肉の焼き方であるが、訊ねられるといまだに照れくさいのは、俺だけだろうか? レア、ミディアムはまだなんとか言えるのだが、ウエルダンはなぜか恥ずかしくて言えない。付け合わせにフライドホテト。下のパンにハンバーグ、上のパンに、レタスとトマトが乗って、開いた形で出てきた。それにケチャップとマスタードを好みで塗って食べるスタイル。で、その味であるが、こういうレストランのハンバーガーというとすごく塩っ辛いイメージがあったのだが、ここのは薄味で、素材のいい「料理」という感じだった。ここでも、「ORIGAMI」なコンセプトを感じるのであった。

もう一品はパーコー麺。これも馬場の好物だったらしいが、これはテレビで加藤茶が好物として紹介していたので注文してみた。この時も馬場のことを言及していたな。パーコー麺もいかにも自然素材といった、どぎつくない味でうまかった。

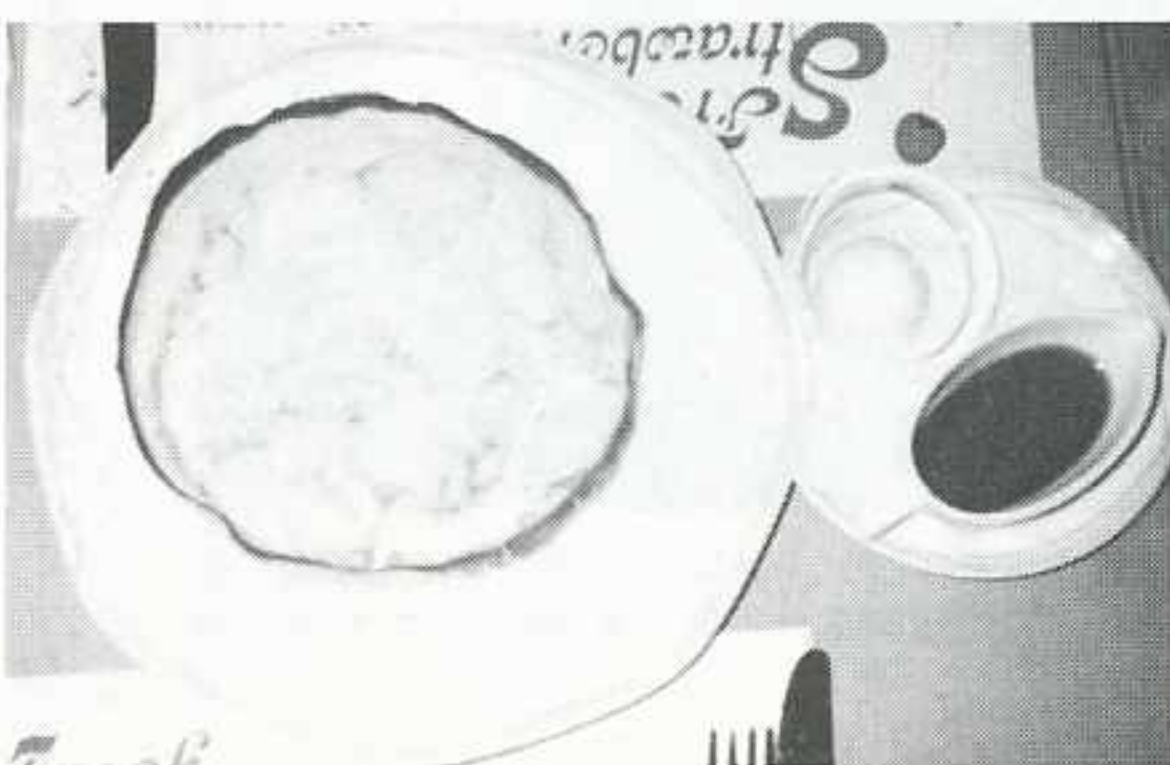
さらに最後はこれまた馬場の好物だというアップル、否、馬場風にいえばアッポ〜パンケーキ。薄いパンケーキ生地に、うす〜く林檎を敷き詰めて焼いてあって、これは初めて食す食べ物で感動。塗る用のバターが異常にうまかったな。馬場を偲んでアッポ〜言ってみる俺でした。

これが入り口にある看板。書体が折り紙で折った風になっています。平日に行ったけど、満員大盛況で驚いた。確かによい店じゃ〜。俺は独り浮いていたけど。

店内から見える中庭。馬場もこの景色を眺めていたのだろう。しかし、この場に馬場がいたら、なんか物語の世界みたいで、素敵ですよ。おしい方を亡くしました。

これが馬場が愛した味か。肉汁と共に馬場のフライングネックブリーカーでレイスの頭がバウンドするシーンが蘇る。やったぜ、日本人初のNWA王者の誕生だ!

これがチーズバーガー。2541円也（税込）。グリエール、アメリカン、モッツァレラの3種類のチーズから選びます。この他にジャンボバーガーもあり。

パーコー麺。2541円（税込）。何と言っても、別器のネギの盛り方に注目。白ネギとあさつきがたっぷりこれでもかとボールに盛られてくるからチェック。

ドイツ風パンケーキ（アップル又はブルーベリー）。1155円（税込）。スモール693円也。これはうまい。ペロリと食べられるので食後にも全然どーぞ。

大日本掣圏道帝国皇帝が真の武士道を求めて全国行脚

佐山サトルの

日本右流々ン(ウルルン)探訪記

特別編

ターザン山本!と……虎の遺伝子たちが出会った。

構成/中村カタブツ君(42歳)

掣圏2トップ・桜木&瓜田のトークショーに潜入! ターザン&タナケンとともに「佐山聡」を徹底検証!!

「佐山聡とは何か?」——今回の『うるるん』は、昨年12月に行われた『桜木裕司×瓜田幸造・掣圏道トーク』に潜入取材! 特別ゲストに田中健一、司会になぜかターザン山本!が登場! 寡黙な掣圏2トップを差し置いて、タナケン&ターザンが〝人間底なし沼〟佐山皇帝について大いに語る!!(写真協力 ファイティングカフェ・コロッセオ)

ターザン 田中(健一=格闘結社田中塾塾長)さんはシューティング時代からだし、みんな佐山さんとは長いと思うんだけど、よく付き合ってるねえ。

田中 自分でも凄いと思いますよ。

ターザン 佐山さんのどこに惹かれてるの? 話したら長いと思うけど。

田中 自分と先生の歴史は百科辞典ぐらいになりますからね。ともかく先生は喜怒哀楽の激しい人間ッスね。

ターザン 飽きっぽいし、キレやすい。

田中 それでいて、怒りが収まりやすい。

ターザン そもそも佐山さんはどんなふうにキレるの?

田中 この2人(掣圏真陰流師範・桜木&同師範代・瓜田)はわかってると思いますけど、端的に言えば〝ガス爆発〟ッスね。何の前触れもなく爆発しますから。もちろん重大なミスを犯したら怒られるのも当然なんですけど、ホントくだらない理由でもキレますからね。

ターザン そのときは手が出るの、足が出るの?

田中 自分が怒られたときは足が飛んで来ましたね。前触れがないですから、それに対する防御だとか準備だとかは全くできないんスよ。(桜木&瓜田に向かって)わかるでしょ?

桜木 はい。自分たちはちゃんとやってるつもりでも「足りない!」と。限界の部分をもう一押しするということでなんでしょうけど(苦笑)。

瓜田 練習場ではホント鬼か夜叉かという感じですね。師範(桜木)の場合は一升瓶で殴られてますし、2人とも木刀で流血してますしね(苦笑)。

桜木 竹刀じゃすぐ折れちゃいますから。

瓜田 素振り用みたいな太いヤツなんですけど、ボクは頭のド真ん中を殴られて、抜糸しないでそのまま試合に出ましたよ(笑)。

ターザン それってどうなの?

田中 ん~、でも優しさのある暴力ですよね。先生は根がやさしいですから、怖いとは感じなかったッスよ。

ターザン それって優しいの? それに佐山さんは常に変化してるし、しかもそのスピードがあまりにも早くて、誰も付いて行けないんだよね。でしょ?

桜木 そう言えば、僕らもついこの間ハッキリ聞かされたんですけど、掣圏道が掣圏道じゃなくなっちゃったんですよ。先生が「これからは〝掣圏真陰流〟だ!」って(笑)

田中 でもオレも渡部(優一)さんも、掣圏道を旗揚げしたときからそんなことは読んでたよ。ハズれたのは、3年以内に変わると思ってたけど3年以上保ったことだね。

桜木 剣術の真陰流ともかぶるんですけど、先生は精神分析学も勉強してて、そういう部分で剣術の真陰流とは一緒にされたくないらしいんですよね。まだ僕らも詳しくは聞いてないんですけど。

ターザン いまはまだ言語化できない段階なんだろうね。アウトラインはできたんだけど、まだ定義付けされてないというか。

桜木 先生とは5年ぐらい一緒にいるんで、いままでの内弟子の中では長い方なんですよ。だから、先生の言わんとしてることは何となくわかるんですけど、ボク自身、何て説明したらいいのかがわからない状態ですね。まあこうしてる間にも先生の思考はドンドン変わっていくんですけど(笑)。

ターザン マスコミの立場から言うと、あの人は天才的なコピーライターですよォ! 大きな見出しを打ち出して、そこに実体をつけていくというか。頭の中で勘として感じるモノが常にあって、そのボヤーッとしたモノがある程度実体化したときに出力してるんですよォォ!!

桜木 ホント天才的なんですけど、ハズレもあって言うか…。

田中 (遮って)内容は絶対に言えないけど、ハズれるときは完全にハズれるから。

ターザン ハズれたことはすぐに放棄すればいいんですよォ!

田中 先生はハズれたことを絶対に認めませんけどね(笑)。そもそも何で先生が日の丸に走ったかと言うと、タイガーマスクとかシューティング時代に、選手とか事務所の人間とかいろんな人に裏切られたんですよね。まあ、先生も悪い部分はあったんでしょうけど、そこから「日本人とは何だ?」ということを考え始めたと思うんですよ。

ターザン 他人に理解されないってことが右翼思想の方面にバーンといっちゃう理由なのかなあ?

田中 むかし先生に「押忍!」って言ったらブッ飛ばされたっていうヤツもいましたからね。横文字も好きで『スーパーシューティング』とかでしたし、日の丸っていうかむしろ星条旗ですよ。

ターザン 新日本時代も一番のハイカラ思考だったよね。そういう思考の変化もある意味、純粋な人間性からくるというか。

田中 先生はホント純粋ですから、人に騙されたり、利用されやすいんでしょうね。

ターザン タイガーマスク時代にサイン会とかやれば、一回で●●●とかするらしいんだけど、佐山さんの手元にはそんなに入らないじゃない。そういうのを見たら人間不信にもなりますよォ。タイガーマスクになって、人間不信というモノに初めて出会って、それが高じて新日本不信になって、プロレス不信になって、格闘技に走ったんだから! もともと格闘技は好きだったんだけど、完全に格闘技に走らせた理由というのは、紛れもなく人間不信が理由なんですよォォ!!(炎上)。

桜木 でもお陰でボクは先生の弟子になることができましたから。ボクは梶原一騎先生が創った大山総裁像から格闘技の道に入って、「上に立つ人間はこうあって欲しいな」っていう理想があったんですけど、実際に同じ世界に入ってみるといろいろと見えてくるじゃないですか。そういう部分では佐山先生はイメージのままなんですよね。

ターザン でも佐山さんは大山総裁みたいにガチ

司会にも関わらず「佐山さんのことならオレにまかせろ!」とばかりに佐山論をまくしたてるターザン。格闘家一の佐山番を誇るタナケンも、炎上を繰り返すターザンにタジタジだ!!

佐山さんの存在自体が現代社会への問題提起なんですよオ!!（ターザン）

ガチに神格化されたモノにはなれないんですよォ。だってあの人はカワイイんだもん。総裁は完全にワンマンなんだけども、極真会館という組織のピラミッドをしっかり創って世界に広げていったんだよね。しかも梶原先生の劇画ともリンクさせて。つまり要領がいいわけですよォ。その点、佐山さんは徹底的に不器用だもん！ 佐山聡と前田日明は特にそう。ワンマンで絶対主義者で独裁者にして繊細なんですよォ!!

桜木 前田さんとウチの先生って似た部分があるんですか？

ターザン あるねえ。もし2人とも器用だったら格闘技界の天下獲ってますよォ！ 佐山さんが日本の総合の創始者だし、『PRIDE』だって前田さんがやってたことの乗っ取りだから。そういうとこが世渡りが下手というかねぇ。猪木さんみたいにマスコミ好きでもないし、泥臭くないんだよねえ。

田中 そもそもマスコミも悪いんじゃないですか？ 自分、『K-1 WORLD MAX』が大ッ嫌いなんですけど、アレのどこが面白いんですか？ 自分、テレビでも見ないッスね。それを観に行くお客さんも変わってますよ。雑誌にしても、K-1でワイワイ騒いでて、ウチの弟子がミャンマーで勝った（田中塾の田村彰敏選手はラウェーという素手&頭突きありという危険極まりない現地の総合格闘技に挑戦。敵地のリングで見事勝利）途端「取材を受けてくれ」って。ホント、フザケンなと。ああいうのがいるから格闘技界がおかしくなるんスよ!!

ターザン だからさぁ、本来格闘家というものはもの凄く地味なモノで、マスコミとかファンに評価されなくても、自分の中で価値観が完成してなきゃいけないんですよォ。それは意固地に、やせ我慢して生きるという美徳なんですよォ！ でも、いまは選手も調子に乗ってしょっぱいマイクパフォーマンスする時代でしょ。吉田（秀彦）選手ですら、リング上から友達にあいさつしたりさぁ、オリンピックの選手でも「『PRIDE』とかK-1に出たい」と口に出す時代になってるんですよォォ!!

田中 自分たちの時代は、コンプレックスの固まりみたいなヤツが格闘技やってましたからね。自分もその中の一人でしたけど、いまの格闘技をやってるヤツは気楽なもんスよ。

ターザン 男という生き物は、元来コンプレックスの固まりですよォ！ 昔はプロレスラーだって、世間に対するコンプレックスでガッチガチになってたんだから。猪木さんだって世間に対するコンプレックスをバネにして、ケンカを売ってたんですよォ。その怒りのエネルギーが男を突き動かす原動力だったんですよォォ!! ホンット、コンプレックスがない世の中はつまんないねえ。迫力も味気もない！ お茶漬けみたいなモンですよォォォ!!（炎上）。

田中 いまのヤツらは喜怒哀楽がないんスよ。いまビタミンだとかサプリメントだとか、健康食品がいろいろあるじゃないスか。でも喜怒哀楽がないことが一番健康に悪いと思うんスよ！

ターザン いいこと言うねえ！

田中 そもそも先生がシューティングを旗揚げしたのは、プロレスに対するコンプレックスがあったからですよね。真剣勝負だという部分での、プロレスに対する意地なんですよね。

ターザン プロレスの光が強すぎるために格闘技が正当に評価されない。だから「プロレスは敵だ」として崩していくしかなかったんだよね。プロレスはプロレスとして認める中でのジレンマがあったはずだよ。本人はプロレス心があって、プロレスが大好きなんだから。じゃなきゃタイガーマスクがあんなに成功しないですよォ！

田中 当時、シューティングがどんどんプロ化してって、ラウンドガールだとかグッズだとか入場曲だとかこだわり始めて、たまに先生と選手とで会議があったんスよ。常に自分は反対派で「別に後楽園じゃなくていい」とか言ってましたから。

ターザン 後楽園でやるのは、佐山さんがええかっこしいだからなんだよね。そういう面が佐山さんのもう一つの側面ですよォ。佐山さんの存在自体が、現代社会における問題提起になってるんだよね。だから佐山聡という生き方から、我々は常に目が離せないんですよォ！

桜木 そんな先生の側にいれるっていうことは、自分たちにとって幸せですよね。

ターザン でも、もっと華やかな場所で花開きたいっていう願望はあるでしょ？

桜木 ん〜まだ20代なんで、そういう願望もありますけど、「男としてこう生きるべき」っていうものもあって、その狭間で揺れ動きますね。でも悩んでも、頭の中では答えが出てるんですよ。その答えに向かって如何に自分を導くか、納得させるかっていう部分で悩んでるんですよね。

ターザン そういう二つの生き方の狭間で悩んで自問自答を繰り返す。これが生きるということなんだから。問わないヤツはアホですよ、アホ！ みんな金儲けの方に簡単に流れていく。なんで格闘家なら「それでいいのか？」って問いかけないのかと言いたい!!

桜木 だから自分は掣圏道にいるんですよ。

ターザン それが君の生き方なんだよね。（瓜田選手を見て）君は何も言わないねえ。

瓜田 いや、自分が言いたいことは師範がほとんど言ってくれてるんで。プロ格闘家と武道家の狭間で、同じ悩みを共有しながらやってますから。

ターザン それを君が自分で言わなきゃダメなんだよォ！

田中 瓜田は引っ込み思案なんスよ。宇都宮のときもよォ、キャバクラで……ふふ（意味深に）。

瓜田 あれは……。

ターザン （遮って）キャバクラは最高ですよォ！ キャバクラというモノはお客がキャバクラ嬢を楽しませる場所なんですよォォ!!（キャバクラ話が続くが以下略）。まあ、それにしても佐山さんは底なし沼だねえ。今日のこのトークで、1・27掣圏真陰流の試合により深みが増したというか。この場で君たちと出会った以上、ボクは必ず代々木大会に行くから、（お客に向かって）みなさんもゼヒ観に行くべきですよォ！

桜木&瓜田 よろしくお願いします！ 押忍!!（敬礼）。

【04/12/12 ファイティングカフェ・コロッセオにて収録】

佐山皇帝と知り合って5年以上になる桜木＆瓜田だが、初期シューター・タナケンと、タイガーマスク時代から知るターザンには敵わない。2人の口から次から次へと飛び出す佐山の秘話に興味深く聞き入っていた。

瓜田が白兵戦トーナメント出場！ そして伝説のサミー・リーが初来日!!

『初代タイガー レジェンド・チャンピオンシップ&掣圏真陰流市街地型護衛白兵戦』

■日時 1月27日（木）試合開始18:30
■会場 東京・代々木第二体育館
■チケット 特別リングサイド ¥8,000
リングサイド ¥7,000
2階A席 ¥4,000
2階B席 ¥3,000

■対戦カード

1. 石森太二&佐藤秀&佐藤恵vs TARU&SUWAシート&スモール・ダンディ・フジ
2. 【掣圏真陰流市街地型護衛白兵戦トーナメント1回戦 3分2R】 甲斐俊光（養生館）vs崎浜秀剛（截空道）
3. 【掣圏真陰流市街地型護衛白兵戦トーナメント1回戦 3分2R】 山北紘幸（截空道）vs瓜田幸造（掣圏真陰流）
4. マンゴー福原&パイナップル華井vsミニCIMA&村上学
5. 【レジェンド・チャンピオンシップトーナメント1回戦】 ザ・グレート・サスケvsX
6. 【レジェンド・チャンピオンシップトーナメント1回戦】 サミー・リーvsアレクサンダー大塚
7. 【掣圏真陰流市街地型護衛白兵戦トーナメント決勝戦 3分3R】 第2試合の勝者vs第3試合の勝者
8. 【エキシビジョンマッチ】 二代目ザ・タイガースペシャルエキシビジョン
9. 【レジェンド・チャンピオンシップトーナメント優勝決定戦】 第6試合の勝者vs第7試合の勝者

■問 スーパータイガージム 048-263-4747
■HP http://www.seiken-do.com/

 2・4パンクラス後楽園大会で桜木vs謙吾が決定！ 詳細はP116へ!!

"ささきぃ"の STAND BY ME（仮）

極私的立ち技格闘技連載

第5回

小林聡vs大月晴明とは何か？

今月も2ページぶん取ることに成功しました、担当のささきぃです。ぶん取っておいて原稿が遅いと怒られ放題です。この号が出るころはもう大会終わってますが、シュートボクシングの福岡大会はどうなりましたかね。散打のパンフは想像以上でした。J-NETの大会タイトル『GO！GO！J-NET'05～volcano～』はマスク・ド・ボルケーノとは何の関係もないんでしょうか。戦王が蛇光入りしたのは、けっこう大きなことではないかと思います。えーと、それでは今月もよろしくお願いします！

ラー"だ!!

気合充分にリングインした両者は、互いの目を見ないまま試合開始。1R、ミドルをキャッチした小林が、倒れた大月の身体をまたいで挑発。1R終了、小林が両手をあげてガッツポーズ。2R、時折大月のフックが飛ぶも小林ペース。終了まぎわにミドルをキャッチした小林が大月の軸足にロー！ 小林の迫力に押されているかのように見えた大月だったが、3Rにその"爆腕"が火を噴いた。
フックを受けてニヤリと笑った大月が、強烈な右フック。続いてキックをキャッチした小林に容赦ない右フック。2度目のダウンを喫した小林、立ち上がるも待ち受けていたのは大月のラッシュ、続けざまの左ハイキック！ 野良犬をマットに沈めた大月は、ベロを出して勝利のアピール。リングを一周した後、コーナーの小林へUWFばりの正座で一礼した。

ALL JAPAN KICKBOXING 2005
「SURVIVOR」
2005·1·4 東京·後楽園ホール
【WPKC世界ムエタイ・ライト級タイトルマッチ】
○大月晴明［3R 2:31 KO］小林聡●
※パンチ連打による3ノックダウン。大月が新王者に。

「キックボクシングを大衆的なスケールの大きいエンターテイメントにしようとしたら"プロレス化"するしかない」「たとえていうならキックボクシングを"プロレス化"したものがK-1なのだ」と、2002年2月11日『K-1MAX』を評して語ったのはターザン山本！である。あれから約3年。K-1がプロレスの良いところも悪いところも取り入れてしまったように見える中、キックボクシングの世界に、プロレスのエッセンスを取り入れるものがいたとしたら、それは小林聡の存在だ、と言えるだろう。プロレスのエッセンスを取り入れた振り幅の一方が12・5の『藤原祭り』であり、逆の側が1・4の大月晴明戦だった。

格闘技から何を取り入れたのかよくわからない、アルティメット・ロワイヤルを開催した新日本プロレス東京ドーム大会のすぐそばで、"プロレス的エッセンス"の十分に詰まった闘いが繰り広げられた。小林聡vs大月晴明の一戦は、キックボクシングのファンよりも、むしろ熱い闘いに飢えたプロレスファンにこそ見て欲しい闘いだった。

プロレスファンがある人間を「あいつはプロレスラーだ」と語るとき、誰しもがその人間力、無謀なことをする力、闘いぶりを賞賛している。立ち技のページで話を引き合いに出すのも何だが、台風18号直撃で暴風雨の中、駐車場の柱を3時間にわたって抑えていた父、裕明さんを大谷晋二郎が「アイツはプロレスラーだ」としみじみ語ったのは、その驚異の人間力を評してのことだ。「3時間支えてたのも凄いけど、支えながらオレの電話に出たのも凄い」。

プロレスを見るとき、誰しもがそこに凄い人間を見たいと思っているはずだ。こちらの価値観を軽く超えていく、日常では見られない"勇気"や、"死闘"や、"人間力"。1・4後楽園ホールには、それを見届けにきた観客の熱気がいっぱいに渦巻いていた。

1R、2Rと小林が気迫で大月を追い込む。だが、3R、大月のフックが火を噴いた。すべては作戦だったのか、と、観客の小林に対する期待さえも打ち砕くように、連続して小林をマットに這わせた。勝利した大月は、こう語った。「キックに命をかけてる人は、試合を投げないですからね。1回1回、丁寧に倒しました」。

最高の"カタキ役"大月晴明を前に闘いぬいた小林聡。「穴があったら入れたい。いや、入りたい」と、前田日明イズムを感じさせる言葉で闘いを振り返った小林の顔は、意外なほどすがすがしかった。こんな闘いくらいでは、野良犬は死なない。「オレの人生はこれで終わりじゃない」。どんな闘いであろうと、これは野良犬・小林聡伝説の一幕であり、無敗記録を18に伸ばした怪物・大月晴明であろうともその登場

野良犬、敗れる―！
それでもあえて言う
小林聡、オマエこそ"プロレス

人物のひとりにしか過ぎないのだ。

キックボクシングの世界で、邪道かつ無謀にチャレンジしてきた男は、いまや全日本キック、キックボクシング界の宝となっている。キックボクシング、スポーツというワクにおさまっていれば、その人間は優秀な〝選手〟として、守られたベビーフェイスであることが出来る。だが、自身をただのキックボクサーの存在におさめることを嫌った小林は、あえてそのワクを超えて無謀なことをやりつづける。キックボクサーというワクを嫌った男が、どうして今キック界を超えて、キックを代表する人間となったのか。その逆説的な生き方は、いったいプロレス界に何を教えてくれるのか？

パンクラスGRABAKA郷野聡寛、全日本キック・ヘビー級タイトルマッチ決定!!

ALL JAPAN KICKBOXING 2005

「MOVING」2005.2.6［日］東京・後楽園ホール　17:00開場／18:30本戦開始（本戦前にオープニングファイト数試合予定）

■対戦決定カード

<全日本ヘビー級タイトルマッチ／5ラウンド>西田和嗣（全日本ヘビー級王者／S.V.G.）vs郷野聡寛（挑戦者:同級2位／パンクラスGRABAKA）

<スペシャルマッチ／71.00kg契約／5ラウンド>

佐藤嘉洋（WKA世界ウェルター級&WPKC世界Sウェルター級王者／名古屋J・Kファクトリー）vs 清水貴彦（WPMF世界ミドル級王者／GOLDEN FIST）

<67kg契約／5ラウンド>山内裕太郎（全日本ウェルター級王者／AJジム）vs我龍真吾（元日本ライト級王者／超人クラブ）

<全日本ウェルター級ランキング戦／サドンデスマッチ>湟川満正（同級3位／AJジム）vs小松隆也（同級9位／建武館）

<スーパー・バンタム級契約／サドンデスマッチ>浦林 幹（全日本フェザー級7位／AJジム）vs寺戸伸近（全日本バンタム級3位／BOOCH BEAT）

<全日本ライト級ランキング戦／サドンデスマッチ>島野智広（同級4位／建武館）vs梶村政綱（同級7位／藤原ジム）

<フェザー級ランキング戦／サドンデスマッチ>竹村健二（同級4位／名古屋J・Kファクトリー）vsラスカル・タカ（同級5位／月心会）

<ミドル級／3ラウンド>箱崎雄三（AJKF）vs佐藤皓彦（JMC横浜GYM）

<ライト級／3ラウンド>森 卓（勇心館）vs宿波明（はまっこムエタイジム）

<ミドル級／3ラウンド>中園貴宏（S.V.G.）vs今野孝親（DRAGON GYM）

※試合順は後日発表。また3ラウンド1～2試合追加予定。

※出場選手はケガ等により変更となる場合があります。

■**チケット料金：** RS席￥10,000／S席￥6,000／A席￥4,000（全席指定／当日は各席￥1,000アップ）

■**チケット発売所：**チケットぴあ、後楽園ホール、BoutReview、全日本キックHP&電話予約

☆郷野聡寛応援シート（￥6,000）をパンクラス（TEL.03-5792-0815）にて発売中!

■**お問い合わせ：**全日本キック　URL http://www.aj-kick.com　TEL 03-3365-1171

祝・WWE TVショー日本開催!! さあ次は……

WRESTLEMANIAに行こう!

文/坂井ノブ

昨年3月14日、ボクは雪のNYにいた。〝聖地〟マジソン・スクウェア・ガーデンで人類最大のプロレス祭典『WRESTLEMANIA XX（20）』を見るためだ。

試合開始2時間前から会場周辺には異様な熱気が渦巻いていた。「Wooo!」というリック・フレアーばりの雄叫びや、「If you smeeeeeell」とザ・ロックの物マネで絶叫しているヤツがそこらじゅうにウジャウジャしているのだ。チャンピオンベルトのレプリカを肩から下げた男が大股で歩き、DIVAみたいなきわどい格好の女の子が行列にしっかり並んでいる。凍てつくような北風に1時間以上さらされていても、彼らのテンションは一向に下がらない。それどころか開演時間が近づくに連れて、ますますテンションが上がっていくのだ!

観客はすでに出来上がっているのでイベントは最初から最高潮の盛り上がりだ。ハイレベルな試合がさらに観客のテンションを高めていく。お互いに熱をキャッチボールをしながら、ひとつのショーが作られていく過程は、いまだかつて日本のプロレス会場では感じたことのない感覚だった。最後にクリス・ベノワがトリプルHからタップを奪い、紙吹雪がMSGを埋め尽くすと会場がなんと形容しがたい温かい雰囲気に包まれた。

ほぼ一年前のことだが、この時感じた凄まじい熱気と興奮と感動はいまだに忘れられない。

一方、今年に入ってから日本のプロレス界の冷え込みは厳しくなっている。年間最大行事のひとつである1月4日の新日本プロレス・東京ドーム大会は、あの時のNYで感じた熱量の10分の1にも満たなかった。熱のない客席はリング上をただボンヤリと眺めているだけ。その観客のテンションをさらに下げるような珍企画アルティメット・ロワイヤルは失笑を買うばかり。目を覆いたくなる前に、すっかり眠くなってしまった。

もちろん、これが日本のプロレスのすべてだとは言う気はない。全国各地の大小さまざまな会場で熱い試合が繰り広げられているのだが、いまの日本で心の底から堪能できるプロレスを見つけるのは、雑踏の中に落ちたコンタクトレンズを探すよりも難しいかもしれない。

ただし、アメリカに行けば話は別だ。WWEが総力を挙げて取り組む年間最大のイベント『WRESTLEMANIA』には、日本のプロレス界にはないものの全てがある、と断言できる。

今年の会場はLAのステープルセンター。NBAレイカーズとクリッパーズの本拠地だ。21回目を数える『WRESTLEMANIA』は、冷えきった会場でプロレスを見るのにウンザリしているプロレスファンが、今こそ見ておくべき大会だ。プロレスのことが嫌いになってしまう前に、プロレスが大好きだったことを忘れてしまう前に、ぜひ本場でWWEを体験しておいてほしい。

観客の熱はもちろんだが、P150〜の原稿で阿部タケシ氏が書いているようにアメリカの会場でしか味わえないお楽しみもある。消防法の関係上、日本ではあまり大きな花火はお目にかかれないが、アメリカでは屋根がぶっ飛びそうな勢いで花火を炸裂させる。音と光に圧倒されること間違いなし!

そして、今回の日本ツアーのタイトルが「ROAD TO WRESTLEMANIA」であることも忘れてはならない。日本ツアーで起こったことが、そのまま『WRESTLEMANIA』に続いていくのだ。昨年2月6日の『RAW』大阪大会では、クリス・ベノワが「『WRESTLEMANIA』でチャンピオンになることを約束する」と絶叫したが、その約束を見事に守ってみせた。今年は一体どんな物語が『WRESTLEMANIA』まで続いていくのだろう?

今回、紙プロでもおなじみのショップ「バンバンビガロ」のGAMY氏、サッカー日本代表のサポーター集団「ウルトラス」のリーダー・植田朝日氏が中心となって『WRESTLEMANIA』観戦ツアーが開催されることになった。プロレスを見て熱狂することにかけては、ボクの知る限りでこの人たちの右に出る者はいない。アメリカ人に負けず、客席でバカ騒ぎをしたい人、この機会を逃すな!

驚愕!!

小川vsインリン様実現!!

2・11『ハッスル7』名古屋大会

3・18『ハッスル8(仮)』両国も決定!!

柔道銀メダリストvsエロテロリスト!!

チキンも"M字ビターン"受けたいんでしょ♥

キャプテン、これは〝罠〟ですよ!!

小川vsインリン、サブタイトル「私をインリン様とお呼び」、モンスターロワイヤル。目を覆いたくなるような企画が矢次に決定してしまい、困惑気味のカントク。だいぶボヤキキャラに磨きがかかってきている。

総統の「vsインリン」要求にキャプテンが逆提示!!

インリン様が負ければ、総統vs小川!!

インリン様の〝M字ビターン〟がオーちゃんに迫っちゃうゾ♥

1月19日、DSE事務所にて行われたハッスル劇場で、〝キャプテン・ハッスル〟小川直也が〝エロテロリスト〟にして髙田アマゾネス軍リーダー、インリン・オブ・ジョイトイ改め「インリン様」と試合を行うことが緊急決定した!! 驚愕の〝柔道・銀メダリストvsエロテロリスト〟!

決戦日時は2月11日『ハッスル7』名古屋大会――試合形式はシングルorタッグor6人タッグのいずれかに。インリン様はこれが〝プロレス・デビュー戦〟となるが、初登場となった12・24『ハッスル・ハウス』クリスマスSPでは、フトモモを露わにしたセクシー・コスチュームを身につけ、大胆に開脚する必殺の〝M字ビターン〟を爆披露! この〝好撃〟によりモンスター軍信者はイッキに急増! そして鼻の下を伸ばしているのは観客だけではない。いまマット界では『PRIDE』とK―1の選手の移籍・引き抜きバトルが激化の一途を辿っているが、『ハッスル』においてもそれは同様――すでにハッスル軍から中村カントク、中立の立場であるはずの笹原GMがインリンの色香に惑わされ、モンスター軍への移籍は時間の問題とは業界関係者たちの弁だ(以上、週刊ファイトの「マット界舞台裏」調でお読みください)。どうなる、どうするハッスル軍!? まずは小川vsインリン様が発表された、「髙田モンスター軍・髙田総統　重大発表記者会見」を読んでみますかーーッ!

★

【会見には笹原GM、島田参謀長が出席!】

島田 え〜、マスコミの皆さん。ご機嫌いかがですか? 髙田モンスター軍・参謀長、島田です。今日は髙田総統より、重大発表があるということで、私が総統のビデオ・レターを持ってきました。

笹原GM(以下GM) (慌てて遮って)ビ、ビデオって? 髙田総統は来られないんですか?

島田 (堂々と)はい! 髙田総統がこんなところに来るわけないでしょ!!

GM こんなとこって、今日はモンスター軍の重大発表があるって言うから、こうやってセッティングまでしてるんじゃないですか!

島田 まぁまぁまぁ、そう怒らずに。ところでGM、今日は酒クサイですね〜。(小指を立てながら)昨日はレーコーとホテルで首投げ(意味は各自調査)だったんじゃないんですかぁ?

GM そ、そんなことより、そのビデオレターを早く見せてくださいよ!

【そこに、ハッスル軍の小川、中村カントクが騒ぎを聞きつけ乱入!! ヤドカリと恒例の舌戦を繰り広げたのち、総統の重大メッセージが込められているビデオ・レターを全員で見ることになった】

★

髙田総統 (総統のテーマ曲「威風堂々」が流れる中、高貴に喋り出す)少し遅くなったが、アンハッピーニューイヤー。ビデオレターをご覧の諸君、ご機嫌いかがかな。我こそが髙田モンスター軍総統、髙田だ。今日は、新年の挨拶がわりに、この私から2005年の大予言を一つしておこう。細木数子的にいえば……「本音でいくわよ!」というところだ!!

【唐突に細木数子ネタを繰り出した髙田総統! 前回の波田陽区ネタに続いた言動は、単なるミーハーのような気もしないでもないが、面白いからほっとこう】

総統 ……今年は日本のプロレス界が、かつて経験したことのない「恐怖の一年」となることを皆に教えておこう。レスラー、マスコミを含め、プロレスに関わるすべてのものたちよ。心しておくがよい。そして、今年は酉年などと、浮かれているチキン! 気の毒だが、君の運気はもう落ち目だ。去年一年、さんざんプロレスをおろそかにした、そのツケを背負うことになるだろう。細木数子的にいえば、大殺界というところだ(ニヤリ)。ま、そんなことはどうでもいい。

【どうでもいいという割には、今日2度目となる細木和子ネタ。大晦日TV戦争は、総統は細木和子SPにかじり付きだったのか? ま、そんなことはどうでもいい。会見を続けよう】

総統 重大発表に移ろう。昨年、12月24日に行われた『ハッスル・ハウス』クリスマスSP。私は所要で失礼したが、あのとき私の留守中に「M字ビターン」でモンスター軍信者を増やしたインリン・オブ・ジョイトイを高く評価している。そこで、だ。次回の『ハッスル・ハウス』では、我が髙田モンスター軍の人事異動を行う! まず、正式な辞令を出す前に、アマゾネス軍のリーダー、インリンを私の右腕、つまり髙田モンスター軍のナンバー2に昇格させることを、ここに発表しておく!

【某老舗団体オーナーがビビってM字開脚しかねない仰天人事!! なんとインリン様がモンスター軍NO.2に就任】

1月19日 髙田モンスター軍・重大発表会見

「俺だけ見てればいいんだ!! オラー!」最近はキレると突如として"蝶野風"キャラに変身する笹原GM。イチバンまともにそう見えるが、じつはイチバン危ない。

総統　チキン君。2月11日の『ハッスル7』で我が右腕のインリンと勝負したまえ！　君にインリンと戦う勇気があるのかな……？　そして、島田、アン・ジョー！　その他の者の処遇については、2月8日（『ハッスル・ハウス』）当日に発表する。楽しみにしていたまえ！（ニヤリ）。では、諸君。2月にお会いしよう。バッドラック……!!

【小川にインリン戦を突きつけた総統!! 中村カントクは断固として拒否の姿勢を打ち出すが、小川は黙ったまま腕組みしてジッと考えにふける。ヤドカリ島田も急に大人しくなった】

島田　どうなるんだろ、どうなるんだろう。GM、GM！（と、身体をさすりながら）。

GM　な、なんですか、いったい。

島田　ボクの処遇はどうなるんですかね、GM？　今日はアン・ジョー司令長官もいないし……なんか嫌な予感がするなぁ……。

小川　おい、ヤドカリ！　インリンだかケロンパだか知らねえけど、本当にアイツ（インリン）がモンスター軍のNO.2になったんだな？　ということは、もしNO.2に勝ったらNO.1の髙田のヤローが出てくるってことだな？

島田　いま、そのギョロ目で見ただろ？　髙田総統がおっしゃったんだから間違いないんだよ！　インリン・オブ・ジョイトイは、髙田モンスター軍のNO.2「インリン様」になられたんだよ！　オマエはインリン様と闘えるのか？

小川　俺がそのインリンとやらに勝ったら、3月（18日両国国技館『ハッスル8』）に髙田のヤローが出てくるのが条件だ！

カントク　キャ、キャプテン、これは姑息な罠に決まってますよ！

小川　大丈夫だよ、カントク。

GM　その条件でいいですか、島田さん。OKならば、2月11日の『ハッスル7』で小川vsインリン様を組みます。

島田　ノー問題ですよぉ！

GM　わかりました。それと各大会のサブタイトルは私のほうで決めさせていただきます。髙田総統のビデオ・メッセージからヒントを得たんですが、まず8日「ハウスvol.5」のサブタイトルは、「モンスター軍、怒りの人事異動」。そして、9日「ハウスvol.6」のサブタイトルは、「私をインリン様とお呼び！」にします（真顔で）。

カントク　ちょっとGM……「私をインリン様とお呼び！」ってプロレスとなんの関係もないですよ（呆れながら）。

GM　はぁ？　私が『ハッスル』のGMですよ!!（片ヒザを付いて蝶野ばりのポーズをキメながら）アイ・アム・GM!! エー、オラ!! 俺だけ見てればいいんだ（以上ダミ声で）!!

カントク　は、はぁ……（唖然）。

★

……というわけで、平日の昼間から毎度バカバカしい火花を散らした、ハッスル軍vsモンスター軍（vsGM率いるブラックDSE軍）!! 髙田総統を引っ張り出すためだけに、インリン戦を受諾したキャプテンだが、中村カントクが危惧するようにこれは"罠"かもしれない。しかしキャプテンは総統の罠には人一倍熟知している人間だ。総統のテーマ曲に誘われて無人のベランダに直行したり（計2回）、「リングに上がれ！」と「試合に出ろ！」を言い間違えて総統引っ張り出しに失敗したり、まぁよくよく考えると罠というか自滅に近い気もするが、3月18日の両国国技館『ハッスル8』（仮）で髙田総統と勝負をするためにも罠とわかっていながら「魔のM字海域」に飛び込む腹づもりに違いない。

小川vsインリン様の前哨戦となる2・8&9後楽園ホール、本番の『ハッスル7』愛知、そして物語は3・18両国国技館へ――!! 新春早々、キャプテンvs髙田総統はクライマックスを迎えるか!?

あの戦慄の珍企画が 2・8『ハッスル・ハウス』に上陸!? モンスターロワイヤル開催決定!

史上最低の闘い、再び!? 19日の会見で小川は「インリンに勝ったら髙田の野郎が3月に出てくるという条件だったら、2月8日と9日のハッスル・ハウスのプロデュース権をお前らにくれてやる」という太っ腹な条件も提示。調子に乗ったヤドカリは「ボクにいいアイデアがあるんです。その名もモンスター・ロワイヤル!!」――1月4日に某老舗団体で行われた史上最低企画を連想させるタイトルを口にした。GMは「名前からして企画倒れですね。まぁ好きにしてください」と冷たく対応。ヤドカリの説明によると「血に飢えたモンスターが究極のルールでNO.1を決める闘い。これは東京ドーム級の企画!!」だそうだ。後日、本誌の直撃取材に対してヤドカリは「モンロワは8日にやってやりますよ! 優勝者は『ハッスル7』でインリン様のパートナーとして、この私が抜擢してやりますよぉ!!」と偉そうに吠えまくったが、ヤドカリにそんな権限があるとは思えない。話半分で聞いておこう。とにかく某老舗団体をコケにさせたら世界一のモンスター軍、『モンスターロワイヤル』の行方は絶対に見逃せない!!

★2・8『ハウスvol.4』
～モンスター軍、怒りの人事異動～

【予定内容】モンスターロワイヤル／髙田総統、怒りの人事異動／ハッスル軍vsモンスター軍・対抗戦etc

★2・9『ハウスvol.5』
～私をインリン様とお呼び！～

【予定内容】髙田総統のビターン大演説／ハッスル・ハードコア／インリン様降臨／ハッスル軍vsモンスター軍・対抗戦etc
【会場】後楽園ホール
【開始】19:00（両日）
【チケット】ハッスルVIP￥10000／スタンドS席￥5000／スタンドA席￥3000

★2・11『ハッスル7』名古屋
～小川vsインリン～

【日時】2月11日　17:00～
【会場】愛知県体育館
【チケット】ハッスルVIP￥20000／RRS席￥10000／スタンドS席￥7000／スタンドA席￥4000　※4,000円小学生以下は、全券種半額。DSEにて受付
【予定内容&登場人物】小川vsインリン（試合形式未定）／髙田総統の高貴な演説／RIKISHI愛知初登場／ハッスル軍vsモンスター軍・対抗戦etc

ナンバーシリーズ初の都内進出!!
3・18両国国技館『ハッスル8』（仮称）
3・19グランシップ静岡『ハッスル・ハウスvol.6』

ハッスルRIKISHIもやってくる!!

フンドシ一丁で引き締まった尻を披露した髙田本部長、シウバにダイビング・ヒップドロップを見舞ったハントらの"ケツ躍"に黙っていられない!! "巨ケツの中の巨ケツ"ハッスルRIKISHIが全大会に参戦する（『ハッスル7』のみカード決定）。試合後に披露するダンスは今回、誰と踊るんだ?

●2・11　vsジャイアント・シルバ

髙田モンスター軍、さらに増強! NEWモンスター、ゾクゾク襲来!!

総統の別荘にモンスター志願兵が大挙として訪れたことは記憶に新しいが、そこから選りすぐった志願兵に「ビターン!」を注入! 2月シリーズにそのNEWモンスターたちが登場する。ハッスルKに一騎打ちで敗れたモンスターCもパワーUPして再登場!

●鬼蜘蛛　●モンスターJ　●モンスター℃

ハード・コラ!! 黒パンツの長州力がハッスル・ハードコアに登場!

長州力が『ハッスル7』でハードコアに出撃! ハッスルのハードコアマッチといえば、従来のハードコアとは一味違った武器&道具が用意されるが……。まさか長州がギヤ付き自転車に乗ったり、白いギターを弾いたり、ピコピコハンマーを鬼の形相で携えるのか? 武器放棄で肉弾戦も当然ありえる!

●2・11『ハッスル7』ハッスル・ハードコア
長州力&金村キンタロー&石井智久vs田中将斗&黒田哲広&高岩竜一

坂田亘がモンスター軍入りを電撃表明!! "モンスター軍・査定試合" 3連戦!!

締切ギリギリ飛び込みニュース! ハッスル軍の若頭的立場の坂田亘が22日の会見でモンスター軍入りを電撃表明! 坂田の突然の申し出&偉そうな物言いを怪しんだヤドカリは"モンスター軍・査定試合"を要求。坂田はそれを受け入れた。"変心"の予兆はあった。『ハッスル・ハウス』クリスマス2連戦では、試合前の控室でイライラ煙草を吸い、火種を消さないままヤング・ハッスルに投げつけるわ、リングに上がればハッスル軍と仲間割れ寸前のドタバタ劇。カントクの「彼女の事務所もトラブル続きだから……しばらく放っておこう」とした判断が裏目に出たようだ。坂田はこのままモンスター軍入りをするのか? 査定試合・3連戦の動向に注目だ。

●坂田亘"モンスター軍・査定試合"
2・8　vs 藤井軍鶏侍
2・9　vs ザ・グレート・サスケ
2・11　vs "ハッスルK" 川田利明

直也

3・18両国でもハッスル、ハッスル!!

――小川さん、まったくそんな時期ではないんですけど、新年あけましておめでとうございます！

小川　あ～。まだ言ってなかったっけ？　『紙プロ』読者の諸君、あけましておめでとう！

――小川さんは大晦日の紅白歌合戦には応援団として出場されたりして、年末年始はお忙しかったみたいですね。

小川　そうだね～。『紙プロ』も大変だったんじゃないの？　〝大統領〟(山口日昇・本誌鬼畜編集長)は長～～～い長～～～い冬眠に入ってたみたいだし。

――ガハハハハ！　今回の失踪劇では、ほぼ3週間、誰も連絡が付きませんでしたからね。海の向こうのジミー（鈴木）さんもブログに「とにかく本人が無事ならいい」って意味深に書いたりして、ちょっとしたネタにもなってましたし。

小川　〝大統領〟は、暮れの『ハッスル・ハウス』のクリスマス2連戦にも来てなかったしさ。編集部に黙って世界一周旅行でもしてたんじゃないの。

――編集部では、スマトラ沖地震の津波に飲み込まれて行方不明……ってことで割り切って、いそいそと業務に励んでいたんですけど（笑）。

小川　ヒッデェ編集部だな～。ちょっとは心配してあげなよ。

――いや、あの人の場合、いちいち心配してたらこっちの身がもたないんです。で、ウチの編集長のことはさておき、今日は小川さんに大事なお知らせをしたいと思います。

ハッスル2005大計画 全国キャラバン開始!!

小川 Naoya Ogawa

2・11『ハッスル7』でvsインリン様、3・18は両国国技館に進出!!

“キャプテン・ハッスル”、『ハッスル』2005年の展望を語る！　vsインリン様決定前の収録なので、その驚ガクの一戦については深くは触れてはいないが、全国キャラバン、3・18両国大会進出をハッスルして語ってくれました！

聞き手／堀江ガンツ
構成／ジャン斉藤
撮影／森“モーリー”鷹博
試合写真／平工幸雄
designed by matsu（TwoThree）

小川　なんだよ、急にあらたまって。

――じつはですね、なんと2004年の『紙プロ大賞』MVPは小川さんが見事獲得しました!!

小川　俺がMVP!?　ホント？

――はい！　読者ハガキのアンケートと携帯サイト『紙のプロレスHand』のユーザー投票で、2位にトリプルスコアの大差を付けて圧勝しました！

小川　いやぁ～、嬉しいねえ。俺もその『紙プロHand』とやらにセコセコ1万回も投票したかいがあったよ～。

――そんな不正をしてましたか（笑）。他にベストバウトやベスト興行、ワーストMVPのアンケートも実施したんですよ（一覧表を小川に渡す。P73からの特集参照）。

小川　どれどれ……あ、髙田のヤローがMVP部門の4位に入ってる！　おいおい、髙田総統とやらは選手じゃねぇだろ～。

――それを言ったら、ワースト部門には谷川（貞治）さんや猪木さんもランクインしてるんですけど（笑）。

小川　ダハハハ。師匠はともかく、もう一人は妥当といえば妥当かもしんないけどさ。

――んあ～、小川さん的には妥当ですか（笑）。

小川　ところで……俺の友人のジュードー・オーは、ワースト部門に入ってないね。

――いや、9位にしっかり入ってますよ（笑）。

小川　9位かぁ。ワーストMVP

猪木さんの『ハッスル』批判？嬉しいねえ。ありがたいですよ！

Naoya Ogawa

の予感もしたんだけどねぇ。ホッとしたよ、友人として！

—ホントに衝撃的なキャラクターでしたからね、ジュードー・オーは（笑）。

小川　ベスト興行は『ＰＲＩＤＥ』が総ざらいかぁ。次にＮＯＡＨや『Ｄｙｎａｍｉｔｅ！』がきて……あ、『ハッスル・ハウス』が入ってるじゃん！　これは嬉しいね〜!!

—後楽園ホールのイベントがランクインするのは珍しいですよ。

小川　あれ……？　ベストファイターやベスト興行に〝ライオンさん〟の名前がどこにもないよ？

—ご心配はいりません。ワースト興行やワーストマッチに軒並みに入ってます（笑）。

小川　ホントだ！……これ、『紙プロ』で不正操作したんじゃないの？

—いや、２００４年のワースト興行になぜか２００５年の１・４新日本ドーム大会が大量に投票が集まったので、それは無効にしましたけど（笑）。

小川　あ、『ハッスル２』がワースト９位に入ってる！　ダメだよ。『ハッスル』を応援してくれる雑誌のほうが少ないんだからさ、『紙プロ』がフォローというか隠蔽しないと！　こういうときこそ不正操作するんだよ。

—す、すいません（笑）。

小川　ところで、ＭＶＰの賞金は？

—しょ、賞金？　賞金ってお金のことですか？

小川　他に何があるってんだよ。『東スポ』のプロレス大賞はちゃんともらえるんだよ。

—え〜、賞金の代わりに金メダルをご用意いたしました！

小川（慌てて）や、やめてくれよ、金メダルは!!

—ガハハハ！　なにか金メダルにイヤな思い出があるみたいですね。

小川　いろいろね……。それに俺は〝銭ゲバ〟だからさ。金メダルよりお金だよ、お金！　『紙プロ』も売れてるみたいだし、その辺はしっかりしないとヤバイだろ。

—いや、これは『紙プロ』が選んだんじゃなくて、読者が選ぶ大賞ですから。お金はなくても、ファンの気持ちが詰まった賞なんです。

小川　ふ〜ん。な〜んかゴマかされてる気がするよな〜。

—いやいや。業界のしがらみにとらわれていない、ファンのナマの意見が取り入れられた名誉ある賞ですよ！

小川　由緒あるプロレス大賞は〝政治〟だもんね。

—そうそう、アッチは〝政治〟ですから……って、何を言ってるんですか！

小川　え？　違うの？　俺はそういう認識があるけど。

—各新聞社や各専門誌の識者たちが厳粛に選考したうえで投票してると聞きますよ。敷居が高すぎて、ウチの編集長は呼ばれたことはないですけど（笑）。

小川　ほら、オタクの〝大統領〟はゴマすんないからさ。他のマスコミに嫌われてるんだよ、きっと。ぜひ〝大統領〟に選考委員に入ってもらって、「小川直也」に一票でも入れてほしかったんだけどね。俺の名前すらなかったからさ。

—不思議な投票結果でしたよね。受賞云々はともかく、小川さんの名前すらない。

小川　きっと、その授賞式に出席しないって言ったからかもしれないね。

—あ、事前に何かしらの打診はあったんですか。

小川　うん。いろいろ条件が厳しいんだよ、あの賞は。一昔前の歌謡大賞みたいなもんで一筋縄じゃいかないんだよ。

—いろんな力が必要だってことですね。まさに〝政治〟。

小川　去年の紅白は「出てほしい歌手」を一般視聴者にアンケートしてたけど、そういう風に選考理由をハッキリさせてほしいけどね。

—小川さんはその政治に上手く対応しようとは思わないんですか？

小川　今年こそと思って頑張ろうとしてるんだよ。毎年そう思ってるだけなんだけど（笑）。性格だからしょうがないよね。

—ダハハハ。でも年末は、これまで疎遠だった『ゴング』のインタビューを受けて表紙を飾りましたから、何か心境の変化はあったんじゃないんですか？

小川　心境の変化があったのは老舗専門誌のほうでしょ。俺がやってることや今後の方向性についてイチイチ説明する手間が省けて、よ〜くコッチのことをおわかりになった上で取材に来るって話だったからさ。

—小川さんがハッスル布教したことが『ゴング』にも伝わったということですか。

小川　別に老舗専門誌にわからせようだなんて思ったことはなかったけどさ。

—その老舗専門誌の正月号は髙田総統が表紙でしたし、時代の変化を感じましたね。ハッスル布教の、ひとつの象徴的な出来事というか。

小川　おいおい、ハッスル布教の象徴が老舗専門誌じゃヤバイだろ〜。『ハッスル』のイメージ問題にも繋がるよ、それは！

—ガハハハ。もしかしたら、『ゴング』の編集長は、総統のビターンを受けてモンスター軍入りしてる可能性もありますしね。

小川　ビターンを受けてるというより、やってることは『紙プロ』の後追いじゃん。『紙プロ』を押しのけて新しいことをやるんなら象徴にも相応しいけどさ。単なるマネだから。

—『ゴング』は〝メジャーな『紙プロ』〟宣言を紙上でしましたからね。どうにもターザンが前面に出ていた、末期の『ＳＲＳ・ＤＸ』にしか見えないんですけど（笑）。

小川　まぁ老舗専門誌もこれからは勝負を懸けるって言ってたからね。それはいいことだし、こっちも応援したいよね。俺だって『ハッスル』で勝負してるわけだから。勝負しなくてウジウジしてるヤツは応援したくないけど、『ゴング』の編集長もいろいろなしがらみがあるなかで『ハッスル』に一歩踏み出してくれている。久しぶりに一歩踏み出す勇気をみたよ。師匠の言葉じゃないけどさ。

—『ゴング』に猪木イズムを感じましたか（笑）。『ハッスル』のコンセプトも既成の概念を打ち破るという意味では、まさしく〝一歩踏み出す勇気〟になるわけですが、今年もどんどん仕掛けていくつもりなんですよね。

小川　当たり前だよ！　どんどん仕掛けていかないと、現状に甘ん

12・23&24『ハッスル・ハウス』クリスマスSPは大成功！『ハウス』は後楽園の名物イベントとして定着しつつあるが、ナンバーシリーズをどう『ハウス』と差別化していくかが次のステップだ。

じていたら前進はできないからね。

―昨年は、小川さんは『ハッスル』の広告塔としてハッスル布教に力を入れていたわけですが、今年の目標は何になりますか?

小川　２００５年は地方進出!! 日本全国をナンバーシリーズなり『ハッスル・ハウス』でぜひ回りたいね。

―『ハッスル』全国キャラバン発進!!

小川　うん。いま行かないでいつ行くんだ!　って感じだから。まだ雑誌を読んでるだけでナマの『ハッスル』を見たことない地方のファンはたくさんいるわけだからね。これで地方に進出しなかったら、応援してくれている地方のファンに申しわけないよ。今年の目標は地方で『ハッスル』!

―具体的な進出場所は考えているんですか?

小川　大阪には確実に行きたいね。あとはたまに『ハッスル』をTV放映している長崎、仙台。あとは四国や広島あたりかな。東北にも行くよ。去年は東北でみちのくとコラボイベント(『ケッパレ1』)もやった縁もあるし、今度は『ハッスル』として行かないと。うん。

―先日は地元・茅ケ崎市の成人式(1月10日)にもゲスト出演されて、あまりの大反響に市長が茅ヶ崎に『ハッスル』誘致を考えたいという談話を残してましたね。

小川　うん。成人式は異様な盛り上がりだったからね～。

―小川さんはシークレットゲストでしたが、登場したときの熱風のような盛り上がりには、〝キャプテン・ハッスル〟小川直也の浸透度を強く感じました。

小川　これからの日本を支えてくれる若い世代にあれだけ浸透してるわけだよ。30代以下の流行語は「ハッスル」がトップだったというしさ。国民全体で言うと、どうしても「チョー気持ちいい」になっちゃうんけど。

―それ、まったく流行してないと思うんですけど(笑)。

小川　念のために言っておくけど、「ハッスル」は、落選したんじゃなく辞退だから。ノミネートはされてたんだよ。でも前から言ってるように『ハッスル』が流行語大賞に選ばれなくてホント良かったと思ってるから。

3・18両国大会で“大会場プロレス”の改革をしたい!!

―２００４年の流行だけに終わりたくなかった、ということですよね。

小川　そうそう。「２００５年になってもまだハッスルなんてやってるんだ」なんて思われたくないからさ。俺は『ハッスル』を流行じゃなくてしっかりと定着させたいんだよ。

―その具体的なプランが地方進出。あと3月18日には両国国技館に進出されると伺いました。

小川　さすが情報が早いな(笑)。『ハッスル・ハウス』は別にして、じつはナンバーシリーズを都内でやったことないからね。

―両国国技館といえば、幾多の名勝負を生んだ〝プロレスの殿堂〟という趣がありますよね。

小川　昨年は〝プロレスの聖地〟後楽園ホールで『ハッスル・ハウス』をやって、後楽園におけるプロレスイベントのイメージを覆した手応えはあるんだけど。次は両国国技館のイメージを変えてみせますよ!

―両国のイメージをガラリと変えるために、いろいろな仕掛けを考えているんですか?

小川　仕掛けと言うか、会場全体が仕掛けだから。

―会場全体が仕掛けだらけ!!

小川　うん……きっと高田のヤローもヒドイ仕掛けをいろいろやってくるだろうしな。

―歴代横綱がズラリと並んだパネルの中に、なぜか総統パネルが飾られていたり(笑)。要はお客さんが体感できるイベントをやりたいと?

小川　そうだね。観客参加型で当日会場に来てみたら、ビビってたじろぐことがいっぱいある!

―いわゆる〝大会場プロレス〟の大改革をするわけですね。

小川　これは両国に限ったことじゃないよ。『ハッスル・ハウス』シリーズが好評を博している中、ナンバーシリーズが同じテイストでやっても意味がないからね。

―だったら、小さい会場で至近距離から見るほうをどうしても選択しちゃいますよね。

小川　そういうこと。ディズニーランドにはいろいろなアトラクションがあって、パレードも見れるわけじゃない。両国国技館という大会場を使って、リング以外でもお客さんが楽しめるイベントにしたいよね。

―楽天イーグルスのホーム球場は「ボールパーク」という名称で、野球を見るだけじゃなくて球場に来ること自体の楽しみをファンに

地元・茅ケ崎の成人式で出席！1842人の新成人と一緒に「ハッスル、ハッスル!! イヨ～ッ、ハッスル!!」と“ハッスル一本締め”を初披露！あまりの熱に「ハッスルが町の名物になれば」と茅ヶ崎市市長。

Naoya Ogawa

与えたいらしいんですよ。その発想に近いですよね。

小川　そうそう。髙田のヤローが後楽園ホールを勝手に〝モンスターホール〟って呼んでふざけたことやってるけど。そういうことだよね。

——総統には先見の明があったんですね（笑）。

小川　よし、両国国技館は〝ハッスル・パーク〟にしよう!!　動員目標は実券で4800枚！

——よ、よ、4800？　中途半端な数字ですねえ。それに主催者発表じゃなくて実券発表って（笑）。

小川　とくに数字に意味はないよ。1月4日にふと思いついたんだよね〜。

——ガハハハハ！　1月4日といえば、新日本の東京ドーム大会がありましたけど、それと何かご関係が？（笑）。

小川　何を言ってるんだよ、ガンツ君！　ドームで〝ライオンさん〟は46000人ぐらいの大観衆を集めたんでしょ？

——来シーズンから実券入場数を発表することになった巨人軍が聞いたら、怒られかねない大胆な発表ですけどね（笑）。

小川　両国は4800枚を超えれば勝ちですよ。……勝ちって、何に勝ったかは俺だけの秘密だけど（笑）。

——で、いまプロレス界って、チケットを売るためになるべく早く対戦カードを発表しますけど、『ハッスル』はそこでもまた違う道を進んでますよね。

小川　『ハッスル』はカードを発表しても、ふたつかみっつでしょ。全カードの発表なんか当日だよ、当日。髙田のヤローの策略なのか、どんなモンスターを出してくるのかわからないところもあるからなんだけど。『ハッスル』はカードじゃなくて、イベントのパッケージで勝負したいからね。

——選手のネームバリューや、対戦カードではなくて。

小川　ネームバリューやカードがどーのこーのって、ホント小さい話だよ。ネームバリューやカードで通用しないから、どこも困ってるんでしょ？　だったら、抜本的に改革して工夫していかないとダメ！

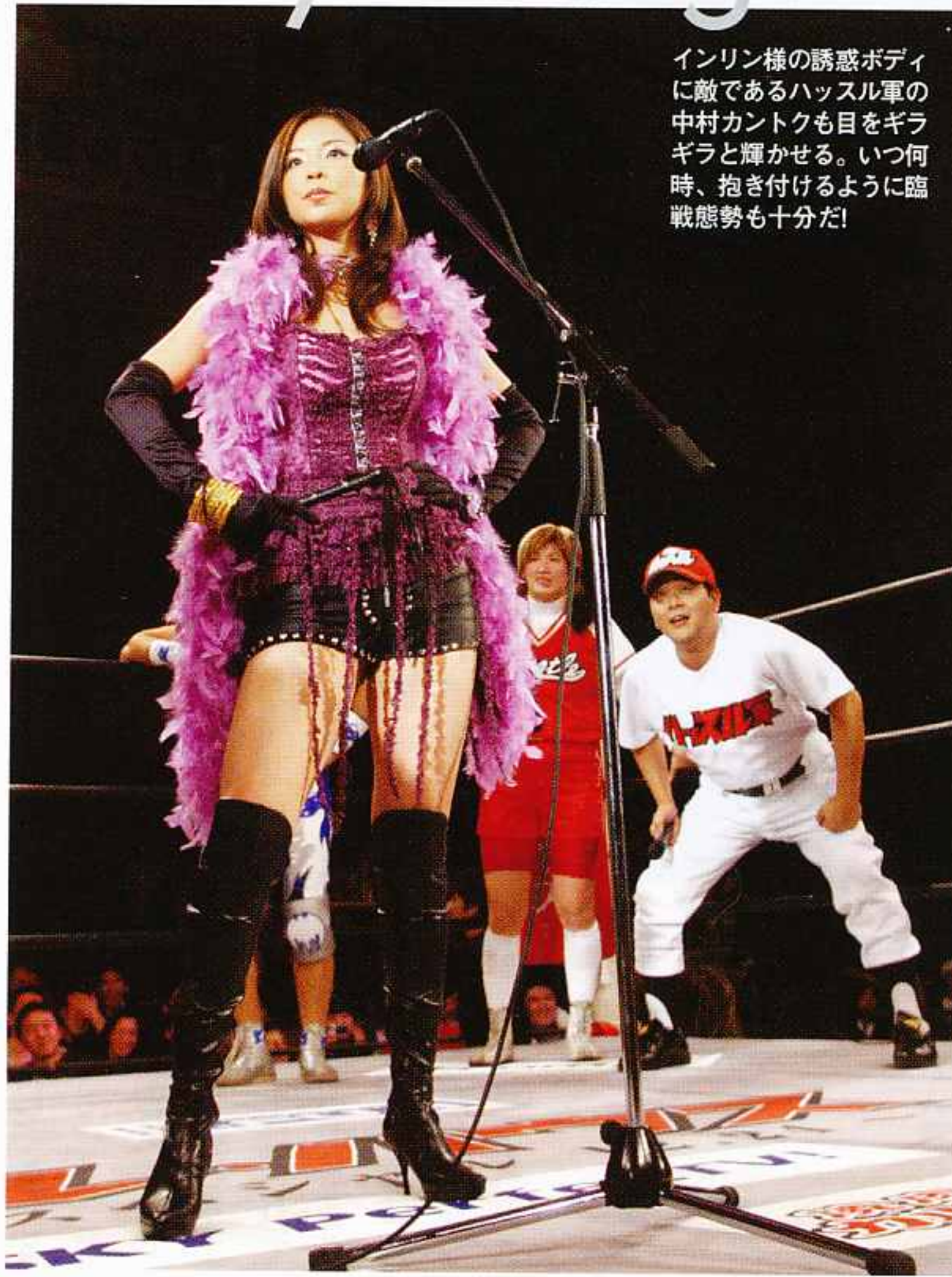
——業界全体を巻き込む夢のカードは見当たらないのが現状ですしね。

小川　夢のカードは夢のカードでまだあるはずだし、団体側が夢のカードを提供するのは悪いことじゃないよ。ただ、団体同士の都合で中途半端に交流してボンボン実現させて、それを強引に〝夢のカード〟って呼んでるでしょ。その昔、夢のカードといえば、猪木さんと馬場さんの試合だったんだよ。

——夢の規模が段違いですよね（笑）。そういう意味でもファンが〝夢のカード〟を思い描けるような、マット界全体の底上げは必要になってきますよね。

小川　そんなときに「ストロング・スタイル」がどうのとかアピールしている場合じゃないと思うんだよ。プロレスラーは強くて当たり前。そこをわざわざ強調する意味がわからないし。

——『ハッスル』は〝ファイティング・オペラ〟としてのイメージを高めていきたいんですよね。

インリン様の誘惑ボディに敵であるハッスル軍の中村カントクも目をギラギラと輝かせる。いつ何時、抱き付けるように臨戦態勢も十分だ！

インリンは30過ぎの男を惹きつける力があるね〜。

小川　それが『ハッスル』が目指していきたいプロレスのイメージだから。たとえば、「アレグリア2」を見て誰もサーカスとしての論評はしないでしょ？　『ハッスル』もプロレスの論評というよりは、〝ファイティング・オペラ〟として楽しんでいってもらいたいし、こっちもそれぐらいエンターテインメントとして高めていくつもりだから。それを〝プロレスとして〜〜〟〝強さが〜〜〟とか言われても単なるイチャモンですよ。あとカード云々という話にしても、ホントの意味での夢のカードが実現すれば、お客さんは入ると思うけど、それは一回性の話。二度も三度も賞味期限が持つものじゃない。じゃあプロレスの本来のイメージだけで勝負できるかといえば、どこも難しいと思うんだよね。

——つまりブランド力の低下。K-1という冠が付いた番組は視聴率が高かったり、カード発表前に『PRIDE』のチケットがバカ売れしたりする強力なブランド力は、いまのプロレスには欠けてますよね。

小川　「強さ」だけに絞りたいんなら、そういう〝競技〟に出れば済む話だし、何かを特化させていくだけのやり方じゃ先細りするだけですよ。『ハッスル』をやる目的というのは、そのプロレスのイメージの限界を超えて、もっと広がりを持たせたいんだよね。

——それは大変で地道な作業になりますよね。

小川　でも去年だって地道に地道にやってきたんだから。何と言われようがコツコツとハッスルしていくしかないですよ。

——最近、猪木さんがまた『ハッスル批判』したのはご存じですか？　「耳をかざしたりとかは、ホーガンだから許される。そういうのが日本のレスラーに合うかって！　ケツを振るのが合うかって！」「いまこそ腹の底から怒るプロレスが求められている」とのことでした。

小川　嬉しいことだよね〜。ホントにありがたいです！

——嬉しくてありがたい（笑）。

小川　だって師匠自ら『ハッスル』の宣伝をしてくれるわけですから。非常にありがたいことですよ。師匠からすれば、小さくてどうしようもない『ハッスル』をわざわざ批判するということは、よっぽど気にしてくれてるんだなって。否定は裏返しというかさ、前に「言葉は裏返し」って師匠に言われたことがあるからね。批判すればするほど、逆に肯定してくれてるってことだよ。『ハッスル』を認める発言をされると怖いけど、批判と聞いて安心しましたね。

——猪木さんって、〝興味がない〟と言ってるモノにこそ、じつはかなり気にしてますよね。WWEの悪口にしても、かなりビンスに嫉妬してると思うんですよ。『ハッスル』批判のついでに「WWEは女が出

ナマで見たことない地方のファンに『ハッスル』を楽しんでもらいたい!!

てきたから衰退した」とも指摘したんですけど、元WWEのチャイナをイチバン重宝していたのは猪木さんでしたからね（笑）。

小川　師匠は老舗団体のオーナーなんだからさ。〝ライオンさん〟をぜひWWEを脅かすような団体にしてほしいですね。その第一弾として、「アルティメット・ロワイヤル」という素晴らしい闘いをやったわけでしょ？　俺もあの試合にはひどく感動いたしました!!

——ガハハハハ！　「アルティメット・ロワイヤル」はWWE潰しの第一弾（笑）。

小川　あの「アルティメット・ロワイヤル」こそ「腹の底から怒るプロレス」なんじゃないの？

——お客さんは違った意味で怒ってましたよ！　ウチの斉藤もどこかで手に入れた無料招待券を握りしめながら「金返せ〜!!」って絶叫してましたし（笑）。

小川　ダハハハ。あれが猪木さんが求めていたプロレスなんですよ、きっと。

——しかし斬新な企画でしたよね。プロレスでもなければ格闘技でもなくて。

小川　俺も目を疑ったよ。ああ、こういう闘いがあるのかって、一瞬たりとも目が離せなかったから。

——『ハッスル』もぜひ見習いたいですか？

小川　いや、断固としてご遠慮させていただきます（笑）。

——でも『ハッスル』が「アルティメット・ロワイヤル」をやったら爆発的に盛り上がると思いますよ（笑）。

小川　髙田のヤローも新日本の内部に食い込んでるらしいから、やりかねないねぇ。もしかしたら、「アルティメット・ロワイヤル」をやらせたのは髙田のヤローかもしんないよ。

——ありえますね、それは（笑）。「NJPW」や「ビターン張り手」にしても、総統も次々から次に〝踏み出す勇気〟を見せてくれますけど、総統が新たに投入した、インリン・オブ・ジョイトイはどうでした？

小川　インリン？　あのオンナは強敵になりそうだねぇ。

——インリンにそこまでの力を感じますか！（笑）。

小川　惹きつける力があるね。うんうん。とくに30過ぎの男に。うんうん（しみじみと）。

——ダハハハハ。インリンは後楽園でも大人気でしたからね。

小川　「M字ビターン」だっけ？　俺も受けたくはないけどさ〜、モンスター軍のことをよく知るために、ぜひ間近で研究させていただきたいね。うんうん。

——小川さん、キャラが破壊王になってますよ（笑）。

小川　ダハハハ。まぁ正直な話、インリンはリングに上がって試合をするわけじゃないからさ。いまのところ、とくに気にかかる存在でもないよね。リングに上がってくるってなったら強敵になりそうだけどさ（4日後の会見でインリンとの対決が決定することになる）。レスラーじゃないし女だから、どうやって痛めつけたらいいのかわかんないし。まぁ俺の最大の敵は髙田のヤローだから。あのヤローの前に立ち塞がる敵はブッ倒すし、あらゆる嫌がらせにも耐えていきますよ。

——髙田総統の今年の抱負は〝メディア洗脳宣言〟で、雑誌やTVにどんどん進出して小川さんの悪口をバンバン言う計画らしいんですよ。

小川　最近はいろんな雑誌に出てるらしいね〜。求人雑誌にも偉そうに出てたというけど、髙田のヤローが出て何の意味があんだよ（笑）。

——総統にはぜひ髙田本部長の紹介で『笑っていいとも！』のテレフォン・ショッキングにも登場してほしいんですけど（笑）。

小川　……それは敵ながら見たいな。

モーリー（『ハッスル』公式出入り禁止カメラマン）　アヒャ！　ボクも見たいですね〜。

小川　オマエの意見は聞いてねえんだよ！　出入り禁止のくせに俺の写真集を勝手に出すし、ガッポリ印税で儲けてるし。ホント偉くなったもんだよ！

モーリー　アヒャ!?　も、儲けてなんかないですよ！

小川　ウソつけ！　昔は冬でもTシャツ一枚だったのに、最近はパーカーを着るようになったじゃねえか!!

モーリー　ま、前からパーカーくらいは着てますよ！

——ガハハハハ!!　では、モーリーが写真集で儲けてパーカーを購入したことを報告して、この辺でお開きにしたいと思います（笑）。

小川　よ〜し！　今年も『紙プロ』MVPの名に恥じないように、これから来年MVPを取ったら『紙プロ』からお金がもらえるようにハッスルするぞ〜!!　3、2、1……（モーリーに向かい）おまえもやれよ！

モーリー　アヒャ！　も、もちろんやりますやります！

小川　3、2、1……。

一同　ハッスルハッスル!!

【05年1月15日／都内某所にて収録】

脅威のニューキャラから、会場を凍らせる“アノ男”まで

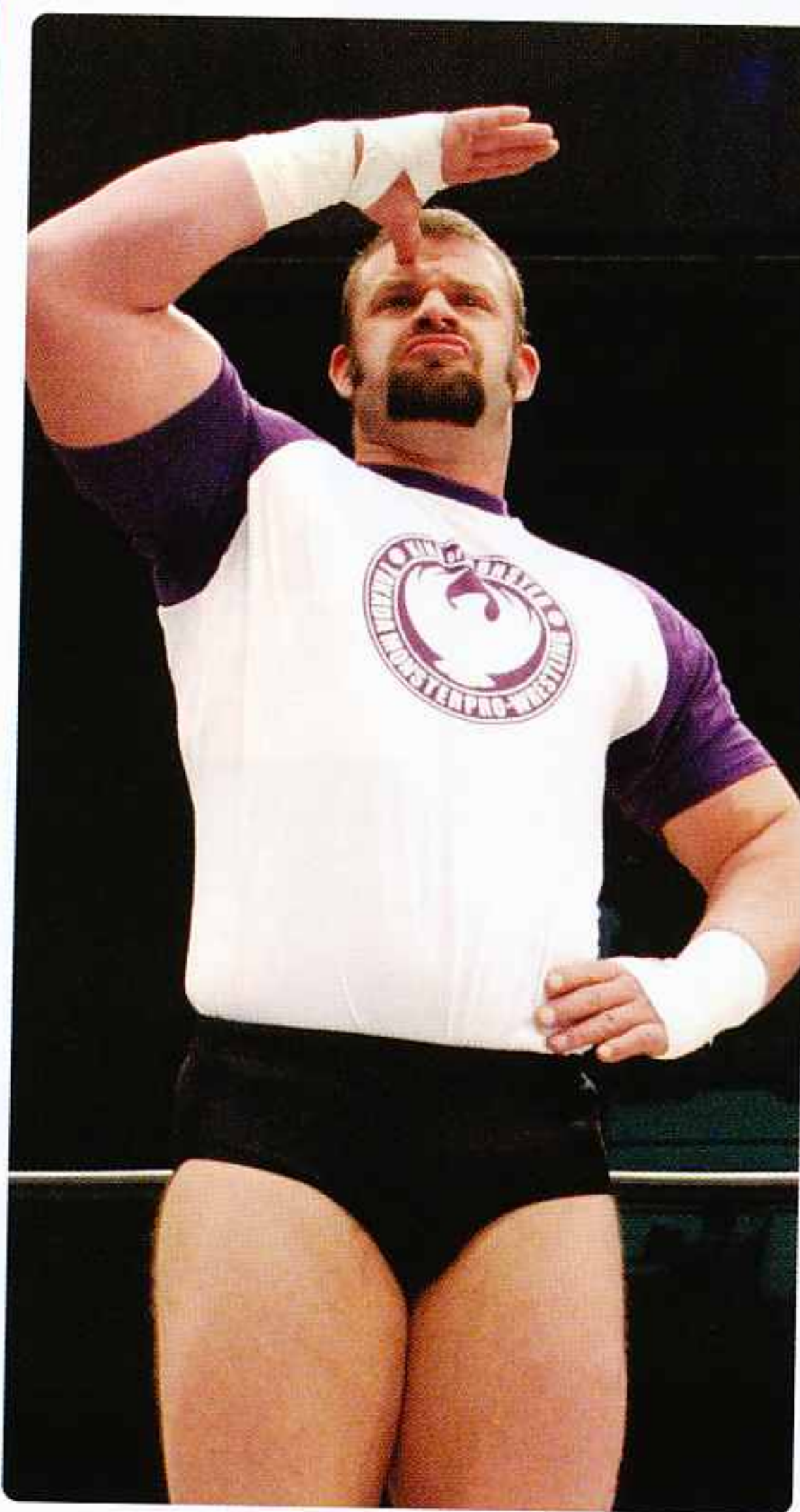
このキャラがスゴイ!

12.23&24『ハッスル・ハウス』クリスマススペシャル

大成功に終わったクリスマス2連戦!! NEWキャラ、レギュラー陣の活躍をビターン! と紹介。ハッスル、ハッスル!!

魔性のM字ビターン

インリン様

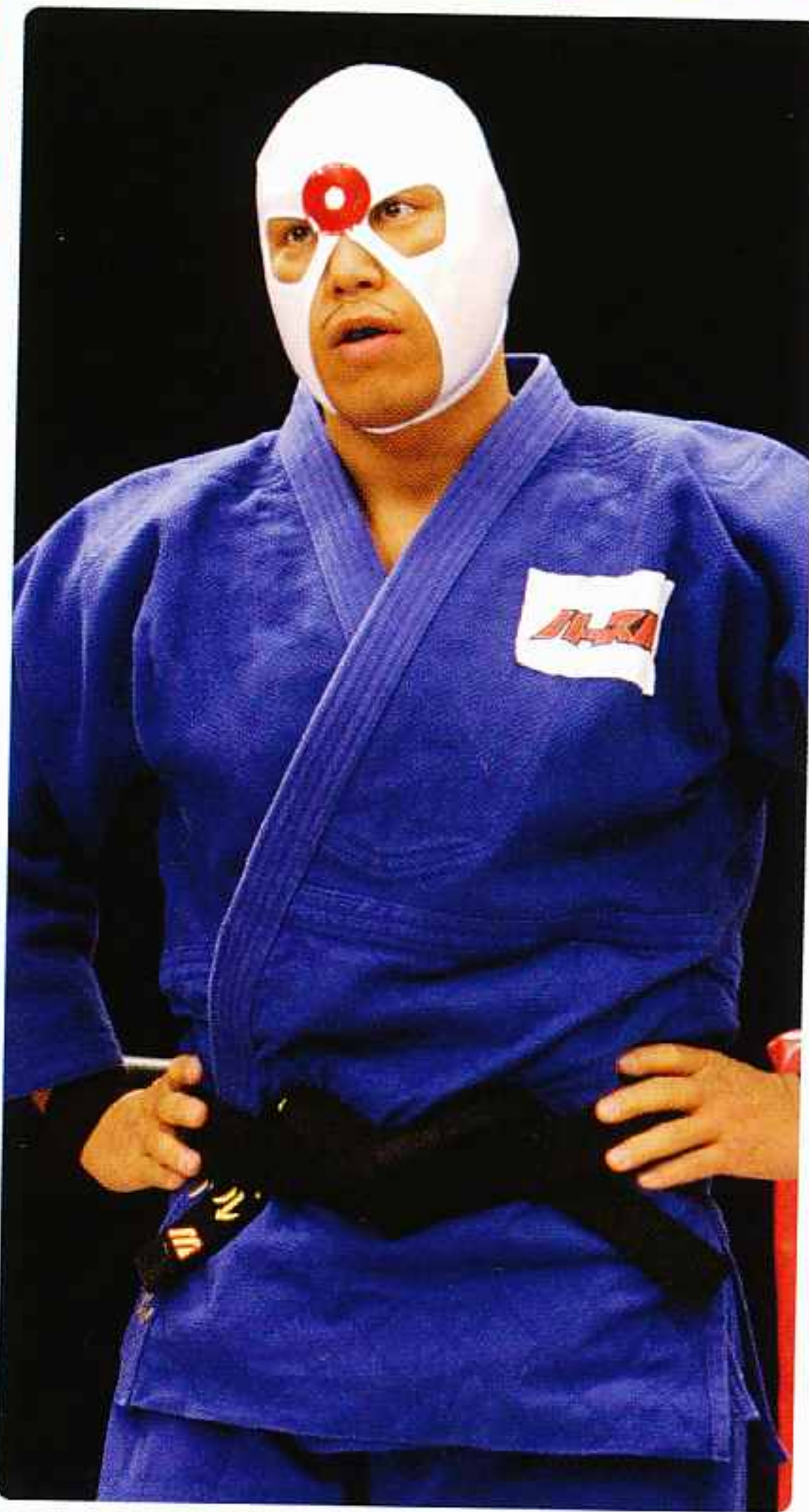
24日の『ハウス』でインリン様が初登場! 「観客のみんなに聞くわ。M字ビターンが見たい? 本当に洗脳しちゃうわよ♥」と挑発。お立ち台から「3、2、1、モンスタ〜ァ!」と見事なM字ビターンを披露した。中村カントクはHikaruの制止を振り切り携帯カメラで激写! M字ビターン、恐るべし!!

Mr.ストロング・スタイル

NJPW

23日『ハウス』で観客の大爆笑を誘った、強くあれなモンスター。“ニュージャパン・プロレスリング”ではなく“ニュージャージー・パワフル・ウォリァー”の略。上野毛付近で敬礼ポーズと野人ダンスを習得し、「命がけで闘っているモンスターに失礼だ!!」という理由でハッスルポーズを憎んでいる。

マスクを脱いだMr. USA

ハッスル・タイタス

ホーガンの愛弟子“Mr.USA”はハンサムだった!! 24日『ハウス』で小川の要請を受けて覆面を脱ぎ、今後は“ハッスルT”ことハッスル・タイタスとして頑張ることに。これまでは“超人”キャラの前に自我が思うように出せていなかったので今後が楽しみだ。ちなみにミスターTよろしく飛行機が大の苦手! ということはない。

正体不明のギョロ目

ジュードー・オー

23日の対抗戦で勝利し、24日のプロデュース権を手にしたモンスター軍は、小川を出場停止処分、あのジュードー・オーの登場を要求。『ハッスル5』の悪夢を知る関係者の背筋を凍り付かせた。結局、オーはクリスマス休暇で連絡が付かなく、小川がオー本人でなりまして登場したのであった。

“ストロング・スタイル”リングアナ

タナカ・ゲロ

「コスプレはいらない!!」——大袈裟過ぎる語り口調のモンスター軍・専属リングアナ。通称「ゲロちゃん」。NJPWやストロング・スタイルを感じる試合だけをコール。選手より目立とうとしたり、リングアナのくせに試合にケチを付ける卑しいマインドをもつ。大阪でモンスタースナックを経営しているとの噂もある。

ゲーム界のキャプテン・ハッスル

ハッスル・クラッシュ

PS2『クラッシュ・バンディクー5』のクラッシュ君はゲームの中で“クラッシュ・ダンス”というハッスルポーズに酷似したダンスを披露しており、小川にハッスルポーズを伝授したもらったこともある。24日はリング上でハッスルしようとしたが、巨体が邪魔してリングに上がれなかった……なんてこったい!!

大巨人

ジャイアント・シルバ

デカイだけの理由で一昨年の『男祭り』に出場したジャイアント・シルバさんは、昨年もデカイだけの理由で大抜擢を受け続けた。今回のクリスマスSPもデカイから出れたようなもんだ。ハッスルドリンクのPRビデオ出演も同様。シルバさんの怪演は機会があればぜひ見ていただきたい。とにかくデカイです。

“ありえね〜!”

カンフーハッスル仮面

周星馳(チャウ・シンチー)がサスケに映画『カンフーハッスル』のエネルギーを注入。「ありえねー!!」とサスケはカンフーハッスル仮面に生まれ変わった。対する巨体のサタン・ザ・サンタは、毎年プレゼントを大量に運ぶことで鍛えられた驚異の握力で、カンフーハッスル仮面を苦しめたが、最後は逆転負け。

ハッスル・ヤ●ザ

坂田 亘

ビジュアル的にはともかく、"ハッスル王子"というおよそ性格とはほど遠いイメージを背負っていた坂田がついに本性を現した!! 何があったのか、試合前にダルそうにタバコを吸い荒れ放題。「彼女の事務所もトラブル続きだしなぁ。しばらく放っておくか」と触ろうとしない中村カントクもステキだ。

54秒の殺し屋

ロシアン54

24日『ハウス』のメイン出場したロシアン54。どう見ても「ＮＪＰＷ」と同一人物にしか見えないんだが……きっと古くからの友人なんだろう。特筆すべきは「54秒でどんな相手をも倒す」という特性が一度も活かされていないのに常連モンスターに落ち着いていることだ。54秒で倒す日が来ないほうに1000ペリカ!

スーダラ・モンスター軍首脳部

島田参謀長&アン・ジョー司令長官

もう毎度のことなのでスポットは当たっていないが、連日にわたってバカ騒ぎを繰り広げた島田参謀長&アン・ジョー司令長官。「ラスト・クリスマス」をアカペラで歌ってジャイアンばりの声を張り上げると、総統からは「織田裕二に失礼だろうが!」とおしかりの言葉。

俺だけのハッスル

"ハッスルK"川田利明

髙田総統が不在(オープニングには登場)だった24日クリスマスSP。総統のいぬ間にマイクを独占したのは、"ボヤキ漫談"東の横綱・川田利明(西の横綱は金ちゃん)。「石狩が俺より目立っている」「小川はTVやCMに出過ぎ。俺にも回せ」「GM、なんで俺のカレーは出ないんだ?」と真顔でボヤキ三昧。

控室のスーパースター

石狩太一

"ハッスル名物"石狩控室劇場は両日ともに大好評。24日は、北の国からのテーマをバックミュージックに石狩の手紙を読む川田。石狩の思いに触れ、おもわずホロリとする川田だが、その直後、川田のお気に入りのタオルを股間に当て、シャワーを浴びた素っ裸の石狩が登場。あとはいわずもがな。

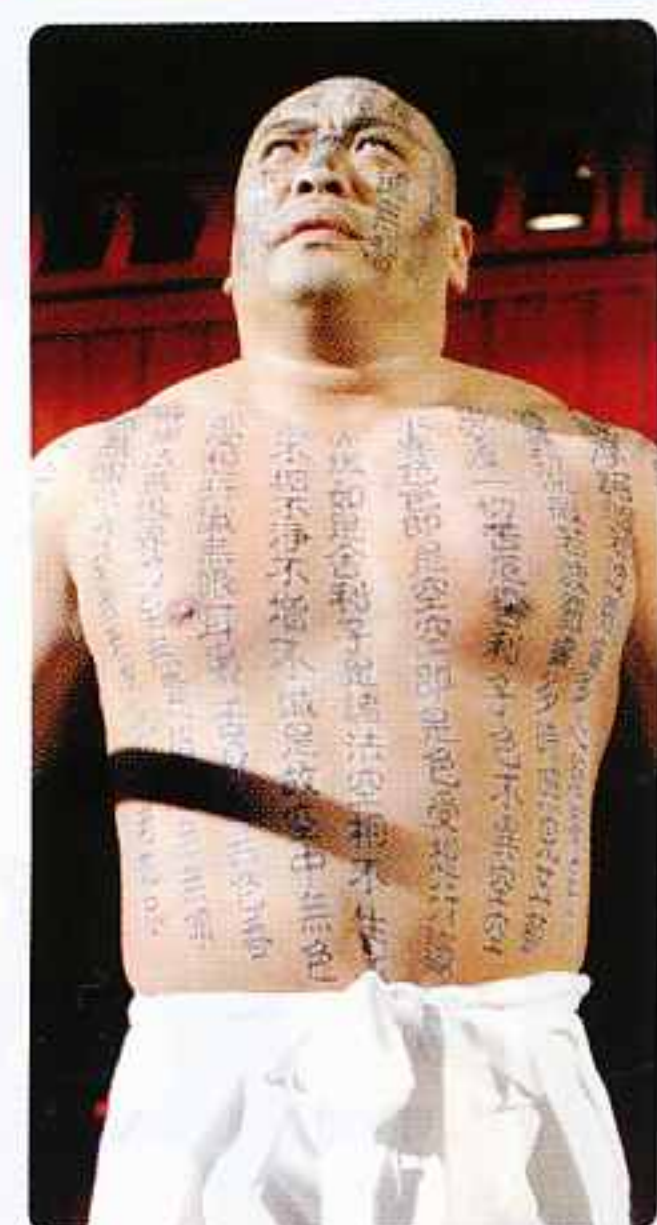
『ハッスル』ジョシプロ路線スタート

Hikaru VS アリシンZ

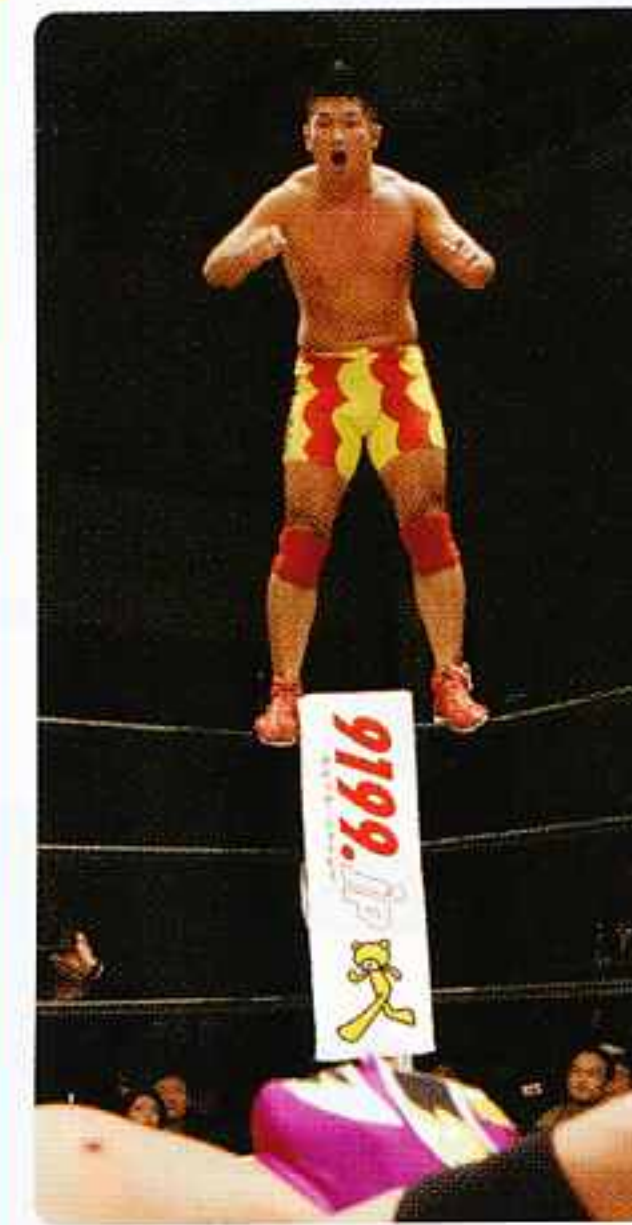
女子プロレスラーが『ハッスル』初見参! ドロンジョ風なコスチュームで登場した浜田文子似のアリシンZと、〝ハッスルなでしこ〟Ｈｉｋａｒｕのバトル。この試合のあとに炸裂したインリン様の「M字ビターン!!」のインパクトの影に隠れてしまったが、試合内容自体は好印象。この女子プロ路線は〝是〟だ。

ファイティング・オペラ座の怪人

髙田総統

客の野次に絶妙な切り返しをみせる"しゃべりの達人"髙田総統。23日のハイライトは、NJPWに「強くあれビターン!!」&某老舗団体オーナーのムーブそっくり「ビターン張り手」を炸裂させたこと。写真後方にみえる"魔魂パネル"のアゴ具合も最高だよ!

地獄からの使者

白使

ビジュアルから醸し出すおどろおどろしい雰囲気は、モンスター軍1の恐怖度を誇る白使。どこかに馬鹿馬鹿しい要素が要求されるモンスター軍のなかではかなり異質な存在だが、その実力も一枚も二枚も抜きん出ていることに異論はないはずだ。いなくてはならないモンスターなのである。

無謀なガンバルマン

藤井軍鶏侍

〝控室の英雄〟石狩太一以外は、とんと陽が当たらないヤング・ハッスル。そんな硬直した現状をブチ破ろうと、連日にわたって自爆テロダイブを敢行した軍鶏侍。トップロープから100%届かない位置いる敵めがけてダイ～ブ、当然失敗!! この姿勢でいけ!

新・涙のカリスマ　　踊る巨ケツ

大谷晋二郎　ハッスルRIKISHI

23日『ハウス』で"X"とされていたRIKISHIのパートナーは、大谷だった!! 継続参戦が期待される大谷は、『ハッスル』で"プロレスの教科書"を読み上げる日は来るのか? 総統にぜひ一泡吹かせてほしいところだ。ハッスルRIKISHIは両日ともに安定感バツグンの巧者ぶり、重量感たっぷりの巨ケツ!!

×本プロレス時代

2人の握手が意味するものは……

船木誠勝

“マッドネス”

橋本真也
“破壊王”

こんな時代だからこそ……

我が青春の新日

知られざる驚愕の事実が続々発覚!!

昨年末、右肩の手術に成功したことをリリースで報告してからは、なりを潜めていた破壊王が久々に『紙プロ』に登場！ 新春らしくビッグネーム同士の対談が実現できればということで、新日本プロレス時代同期、船木誠勝に声をかけてみるとこれを快諾。破壊王も「それは面白い。やろう！」ということで、新年一発目の『紙プロ』が贈るスペシャル対談、“破壊王”橋本真也×“マッドネス”船木誠勝、いまゴング！

聞き手／堀江ガンツ
構成／松澤チョロ
撮影／乾晋也
design by さおとめの事務所

橋本 年賀状届いた？

――素敵な年賀状が届きました（笑）。新弟子時代の坊主頭の写真で「初心に戻り必ず復活します」と。今年のプロレスラー関係の年賀状で一番インパクトありましたよ！（※P119参照）

橋本 あ、ホント（笑）。あれ、撮影、畑浩和（引退）だから。

――ガハハハ。よく残ってましたね。

橋本 大事に持ってたんだよ。中学、高校も坊主でさ、せっかく伸ばしてったのにさ、またツルツルになっちゃってさ。またこれかよと思って（笑）。

船木 俺も坊主の写真持ってますよ。

橋本 だって同じようにやらされたろ？

船木 みんな一緒に剃られましたよ。野毛の坂上がったとこにあるんですよ。そこの美容院でみんなでバーッと。

橋本 出入り激しかったもん、いろんなヤツいたよな。

――出入りを激しくしたのは橋本さんとか船木さんだったたって話をよく耳にするんですけど（笑）。

船木 いや、鈴木（みのる）ですよ。

――そうなんですか⁉（笑）。

船木 あとは山田さん（恵一※その後、リバプールの風に）です（微笑）。

橋本 船木と山田さんのイジメはひどかった（笑）。

――橋本さんから見てもひどかった？

橋本 ひどいよ！ 山中っていうのがいたんだけど、それを素っ裸にして徘徊させるんだよ。当時ね、たけし軍団が流行ってたから、みんなたけし軍団だと思ってついて来るんだよ。山田さんなんてね、道場に麦茶の入れ物があるんだよ、3リットルぐらいの。それ一気だよ。しかもツバ入りでな（笑）。

――それは間違いなくイジメですね（笑）。

橋本 （船木を指差し）この人もっとひどいよ。風呂で絞め落として、沈めて蓋してその上に座ってたっていうんだから。

船木 いやいや、落としたのは俺ですけど、蓋して座ったのは山田さんです。

――あ、共同作業でしたか（笑）。

船木 10秒ぐらいしたらボコーッて上がって来るんですよ。

――恐ろしいですねえ。それは、なぜそういうことをされるんでしょうか？

船木 ストレス発散じゃないですか。

橋本 でもこれさ、いまだったら訴えられるよ。

――そうでしょうね（笑）。

橋本 あとね、嵯峨山っていうのもいたな。……名前出しちゃ悪いか（笑）。

船木 嵯峨山、いま不動産屋でムチャクチャ凄くなってますよ。

橋本 そうなの？ 1年半ぐらいいたんだけど、最後はちゃんこ作るのも嫌んなっちゃって、テーブル見たらカップスープの素が置いてあるんだよ。「自分でお湯入れて作れってこと？」って。

船木 でも嵯峨山は勝ち組ですね。

橋本 不動産王になったのか。国立大から来たヤツは何でやめたんだっけ？

船木 あれは●●●だって知って。

――ガハハハ！ そういう人もいたでしょうね。

船木 「ショックです」って（微笑）。

橋本 やめてって成功してるヤツはチョコッといるみたいだよ。「やめて良かった」ってヤツが。もう20年も前の話だからね。

――でもあの頃ってそれだけ凄いメンバーがいて、その後がいないっていうのは、やっぱり……。

船木 鈴木です。だって入って2～3日ぐらいなのに、自分より後に入った人間をしごいてましたから（笑）。

橋本 でも弱い先輩もおちょくられて

たな。で、今日の趣旨はなんなの？　イジメ話か？（笑）。

――そんな中で生き残ってきた勝ち組の二人に青春時代を振り返って……。

橋本　（遮って）嫌味か、それ（笑）。

船木　勝ち組じゃないですよ。

――ずっと前からやりたかった組み合わせではあるんですよ。

橋本　でも辞めてからゆっくり話したことなんかねえもんな。会っても挨拶ばっかだから。

船木　映画で2回ぐらい一緒になったぐらいですね。

――日本では5月公開の『力道山』で共演してるんですよね。

橋本　こっちはちゃんとやってるけど、俺はチョイ役ばっかりだから。

――『ああ、一軒家プロレス』も無事公開されて。

橋本　お前、バカにしてるだろ！（笑）。

――いやいや、ホント素晴らしい映画でしたよ。

橋本　俺はいわくつきばっかりだよ。

――先ほど、弱いヤツはバカにされてたって言われてましたけど、やっぱり道場の中は強さが……。

橋本　それはしょうがないよ、どこの世界もやっぱり。本能ってあるからさ。先輩として立てながらも、中は実力の世界だと思うからさ。それに、俺らは、まだ大人になりきれてない時期に入るわけじゃない。まあ、血気盛んだよな。そういう時にさ、ひとつでも食ってやろうと思ってるからさ。やっぱり弱いヤツはだんだん落とされてくよな。

船木　入門は一緒でしたけど、武藤選手、蝶野選手、橋本選手って順番に海外遠征行くんですよ。それが悔しかったのを覚えてますね。

――年が上とはいえ、同期ですからね。

船木　デビューも1年ぐらい先にデビューされてるんで。みんな大量に離脱した時期ですよ。一番最初に橋本選手がデビューして、野外の会場で。

橋本　あれ羨ましいと思った？

船木　思いましたよ。

橋本　俺はあの時は嫌だったよ。

――デカい会場でデビューしたかったと（笑）。

橋本　そりゃそうだよ。

船木　その次の月に武藤、蝶野って2人がデビューして。で、俺が9月ぐらいに1回話があったんですよ。でもたまたまその時にリングシューズ忘れられて。山本（小鉄）さんに思いっきり怒られて。それから半年ぐらいデビューの「デ」の字も出なかったですね。

橋本　でもあれはね、新日本の歴史が……大量離脱があったから俺なんかデビューできたようなもんだから。そうじゃなかったら、いつまで、ちゃんこ番やってたかわかんないもんな。

船木　でも、その頃、一番冷めてたのは蝶野選手ですよね。

――冷めてたというと？

船木　冷めてたっていうか、見切ってたっていうか。「いつまでこんなの続くんだろうね？」とかって武藤選手と話してたんですよ。そしたら「デビューしたらすぐちゃんとなるよ、どうせいまのうちだけだよ」って。

――一歩引いて見てたんですね。

橋本　一回、ライガーとかみんなで会議やったんだよな、ちゃんこ番の。ちゃんこ番をなくすかやるかっていう。

――ちゃんこ番なくす会議（笑）。

橋本　「もうこんなのやめましょう」って言ったんだよ。「こんなの意味ないですから」って。先輩たちは一生懸命やってきてるから怒るわけだよ、ちょっとしかやってない俺たちに対して。でもいまはちゃんこ番ないだろ？　いま小林邦昭さんがやってるみたいですよ。

俺は騒ぎを知らなくて、荒川さんに連れられて筆おろししてたよ（笑）

船木　いま小林邦昭さんがやってるみたいですよ。

橋本　あんま食いたくねえな（笑）。やっぱりちゃんとした人が作るのと、選手がションベンして、手洗わないで、いい加減に作ったのとは違うよ。

――それ橋本さんだけですよ！（笑）。

橋本　いや、俺はちゃんと手洗ったよ。自分がやられたら嫌だから。

――でも橋本さん、スズメ撃ち落して食わせたりしてたって話聞きましたけど（笑）。

橋本　そんなのずっと後の話だよ。

――さらに先の話でしたか（笑）。

橋本　あの時、エアガンなんて買う金ないもん。天山（広吉）とか入って来た頃だよ。それで俺、鈴木に持たせて、たな、タンクを。

――タンクってなんですか？

橋本　エアタンク。10気圧入るヤツがあったんだよ、マシンガンで。

――じゃあマシンガン撃つ橋本さんと、それを後ろで持つ鈴木さんのツープラトン攻撃だったんですね（笑）。

橋本　あと、忘れちゃいけない野上君がいるよ。ノガちゃん忘れちゃ怒られるな。あと森村（現リッキー・フジ）。

船木　あと浅井（嘉浩）も一瞬だけいたんですよね。

橋本　そうそう。チョコボール（向井）だって入ってたんだよ。

――各分野のトップが集まってたわけですね（笑）。

船木　あの年代はホント凄いですよね。飯塚（高史）、松田（納）がいまいちパッとしないけど。

――ちょっと上にアクの強い人が多すぎたんじゃないですかね。

船木　それもあるでしょうね。でも、あの頃、海外遠征にみんな行っちゃって俺だけ呼ばれなくて、途中でふてくされてたんですよ。で、格闘技路線に行きたかったんですよね。ドン・中矢・ニールセンとやるって話があったんで、そっちの方に集中してたんですよ。そしたら坂口さんがいきなり「（荒鷲ボイスで）お前、ヨーロッパ行かねえか？」って。

――みんな真似しますね（笑）。

船木　その頃はもう海外は行きたくなかったんですよね。ニールセンとやりたい方が上で。そしたら「もう契約書が送られて来たからサインしろ」って言われて。それで渋々サインして。で、自分が行った後に山田さんがニールセンとやって。

――有明コロシアムですね。橋本さんは船木さんがUWFに行く時っていうのはどういうふうに思いました？

橋本　最初のな、1回目は藤原さんから話があったんだよ。それは俺、たまたま……あれなんだったかな？

船木　橋本選手は高田さんに誘われて。

橋本　話があった時、俺は多摩川の土手にいて、いなかったんだよ。そしたら船木が泣いて帰って来てなんやと思

新春ビッグ対談
“破壊王”橋本真也
×
“マッドネス”船木誠勝

ったけど。それ凄い印象に残ってるな。

船木　藤原さんが「辞める」って言うんで。

——第一次UWFの時ですよね。

船木　そうです。せっかく教えてもらえる人ができたのに辞めるって聞いて凄い淋しくなって。で、帰ったら山田さんと俺だけ呼ばれて、「お前たち2人来ないか?」って言われて。「行くんだったら12時までに高田の部屋に来い」って言われたんですよ。どうしようかなと思って。で、山田さんが行くんだったら俺も行こうと思って。山田さんの部屋がガチャッと開いたら俺も行こうと思って、バッグにちゃんと準備してたんですよ。結局一晩寝れなかったですね。ドアは開かなかったんで残りましたけど。

橋本　俺の場合は入ってすぐ高田さんに可愛がってもらって。前田さんが入院してたの、鼻かなんか手術して。で、「今度こいつ来ますから」とか言って、なんのことかわかんなかったの。その後、引越を手伝ったんだよ。前田さんのマンションの荷物運び出してな。それも意味がわかんなかった。出世して道場を出られるのかなと思って。そしたら「UWF来いよ」って言うから……UWFの意味がわかんなかったけど、どうも新しい団体っぽいなと思って、「行きます」って言っちゃったんだよ。

——あ、言っちゃったんですか（笑）。

橋本　うん。荷物を全部運んで、道場帰った後に、俺、高校の時の柔道の先生に電話したんだよ。「新しい団体のこういうとこ行くことになりましたから」って。そしたら怒られてさ。「選手をやってた人たちはいろいろあると思う、それで選択されるのは一人前のレスラーになった人がやることだからいい。でもお前は新日本に何もされてねえだろ? それは筋道が違うじゃねえか」って。もっともだなと思って。まだデビューもしてなかったし、それで俺は留まったんだよな。藤原さんたちも脂が乗ってた時期だったからな。でも、ありがたいと思うよな、声掛けられたなんてな。

船木　そうですね。

——それだけ目をかけてたってことなんでしょうね。

船木　若いのも何人か必要だったんじゃないですか。その中でも骨のある人間を抱えておきたいっていうことだったんじゃないですかね。

橋本　いまだって同じようなことやってんだから。

船木　でもホント多かったですよ。その後、ジャパンプロレスで離脱があったじゃないですか。あの時はホント凄かったですよね。

橋本　あれは大阪や。大阪の府立体育館で前の日握手して。

船木　で、どっか合宿連れてかれて。

橋本　静岡だよ。

船木　団結式とかやって。その後に星野（勘太郎）さんが道場に泊まって玄関に寝てるんですよ。

——出て行かないように見張っていると（笑）。

船木　そうです。で、外に出る時「お前どこ行くんだ!」って言われて。「ちょっと買い物に」とか言って。凄かったですよ、3～4日、ずっと玄関に寝てるんですよ。

——常に監視されてたわけですね。

ジャパン離脱の時は星野さんが道場の玄関に寝てるんですよ

橋本　俺が童貞切った日だ（笑）。

——荒川さんに連れて行かれたんですよね（笑）。

橋本　荒川さんに千葉の栄町連れて行かれて筆おろしして帰って来たら、「帰って来ました～ッ!」とか誰かが言ったんだよ。俺はその騒ぎ知らなかったから。それが9月の22日だったの。その前の日に大阪府立で試合が終わって、なんか知らないけど猪木さんが「みんな握手しろ」って言って握手させられて。「これから頑張ろうな」っていうのをやって。で、次の日。俺は昼間から出ちゃったから、わかんなかったの、その事件は。それで1発抜いて帰って来たらさ……いや、3発か（笑）。

——ガハハハ！　初めてで3発（笑）。

橋本　そうや。最終的には藤波さんも泊まってたもんな。

船木　順番で泊まってたんですよ。坂口さんにみんな呼ばれて、近所の焼肉屋さん行って。その時に保永（昇男・現リキプロ）さんが「もうついて行けないです」って言って1人で出て行ったのも覚えてます。

——そんなピリピリしてる時に荒川さんは橋本さんと武藤さん連れてソープに行っちゃったわけですね（笑）。

橋本　だってそんなこと知らねえもん。ただね、もし俺がたとえばその時、5年なり10年なりやってる選手だったら同じ行動取ってたかもしれないよな、選手として内情がわかってるから。でもまだ何もわかんねえ弟子だったから。

船木　でも、その後みんな戻って来るじゃないですか。その時もやっぱり一騒動でしたよね。いろんな情報とかデマとか飛び交ってて。下の方には全然伝わってこないんですよ。だから残ってた人間と戻って来た人間との間に温度差があって。結構険悪でしたよね。

橋本　いまとなってはお互いの言い分があったと思うよ。意地もあっただろうし。ただ、当時は戻って来た方は「戻ってやったぞ」。俺らからしたら「この出戻りが」って思ってたよ。

——「どのツラ下げて戻って来てんだ」っていう（笑）。

船木　で、間に入ってる人間がどっちにもいい顔するんですよね。

橋本　それはでも猪木さんが植え付けたんだよ。会議開いて「意見言ってみろ」って。それで、猪木さんが最終的に言ったのは、「UWFは許せるけどジャパンは許せない」って。

——それで橋本さんも猪木さんに感化されちゃったと。

橋本　UWFをなんで許したかっていうのは後からわかったんだよ。結局は自分でやったことだったからって。

——あ、そういうことですか（笑）。

橋本　だから鉄砲玉みたいなもんだよ、俺ら。

船木　ジャパンが戻って来た時に、すぐに馳浩がジュニアのチャンピオンになって。ああいうのも凄い嫌でしたね。

橋本　いま先生だからな。でも、前田

さんが猪木さんをワーッて追い詰めてる頃さ、あの頃、俺たちデビューしたてだったけど「前田とやれ」って言われてない？　猪木さんに。

船木　いや、自分は。

橋本　何人かに言ってるはずなんだよ。俺も言われたの。「お前、前田とやるか？」って。

船木　俺はどちらかというと藤原教室に入っちゃってたんで、逆に言えばUWF要員でしたから。

橋本　猪木さんは前田さんがうざったくてしょうがなかったんだよな。で、俺がトンパチだって言われてたから、「お前、前田とやるか？」って。でもそれ3人ぐらいに言ってたらしいんだよ、「お前しかできない」って（笑）。

——ガハハハハ！　それ、「やっちゃえ」ってことですよね（笑）。

橋本　でも結局さ、その頃ちゃんと勉強しとけば、俺は小川の時もっと対処できたかなって（笑）。

——ガハハハハ！　でも昔から猪木さんはそういうことやってたんですね。

橋本　そうだよ、結局自分もそういう目に遭って初めてわかったよ。

船木　アンドレの時は前田さん可哀想でしたね。俺、全部見てましたから。

橋本　なんか見たくなかったよな、あれな。

船木　控室で……結構大変でしたよ。

橋本　あれも焚き付けだからな。あの頃、焚き付けって、ぎょうさんあったんだよ。

——前田さんだけ知らなかったってことですか？

船木　前田さんは知らないから、日本人控室行ったり来たり、かなり凄かったですよ。「どうすればいいんですか？　プロレスですか？　セメントですか？　どっちなんですか？」ってみんなに聞いて回ってて。（ミスター）高橋さんなんか「知らないよ」って。

——そういう時は、なぜかみんな控室から出て来て試合見てるんですよね（笑）。

橋本　ZERO—ONEになってからもあったんだから。『真撃』の時な。

——いろいろと騒動になりましたよね。でも、そういうことがあると、やっぱり客席にも緊張感が伝わるんですよね。

橋本　っていうかね、選手が一番可哀想だよ。一番不安でしょ。昔の新日本は派閥がありまくったからね。

船木　アンドレ戦のあと、シャワー室で前田さん泣いてましたからね。「なんでこんな試合しなきゃいけないんだ！」って。

橋本　俺ら後輩じゃん、先輩の気持ちなんてそんな簡単にわかんないけど、なんでこんななってんだろうって。

船木　あと暴動が多かったですよ。蔵前と大阪城ホールと両国。俺、3回経験しましたから。3回目にはもう慣れちゃいましたけどね（笑）。

橋本　大阪城ホールは火つけられたからな。

——両国もつけられましたよね。

橋本　でも、蔵前で暴動起こしたのは『ゴング』の金沢だろ？

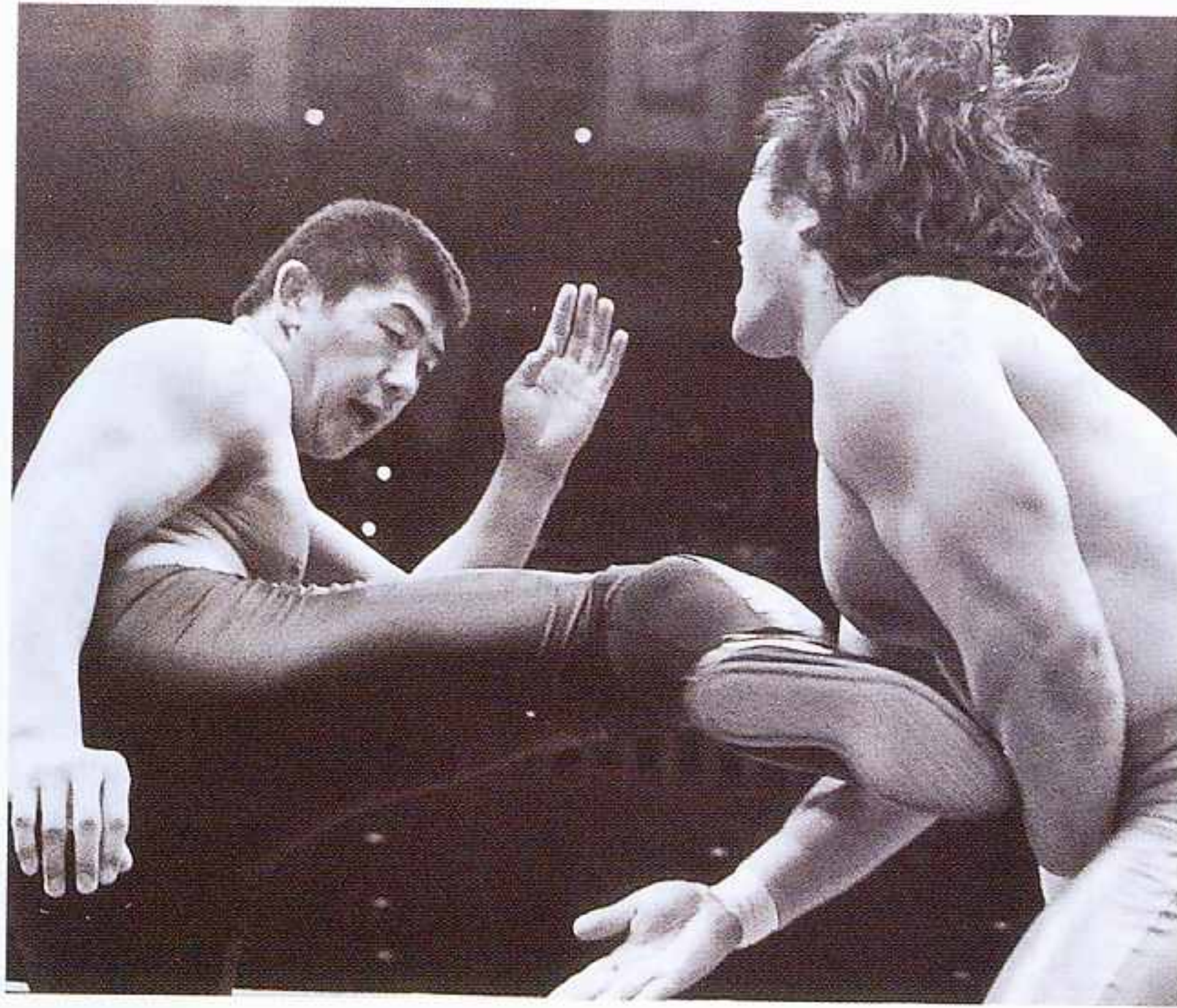
——エッ、GKはそんなことしてたんですか？（笑）。

橋本　だって映ってたもん。昔の新日本のビデオ、ちょうど蔵前国技館のホーガンとかが来た時さ、どう見ても金沢ってヤツが客席で映ってんだよ。1人で異常なんだよ、テンションが。コイツだな、火付け役はって。

——今度、確認してみます（笑）。

橋本　でもかろうじて蔵前を経験できたっていうのは良かったな。

船木　そうですね。俺ら入ってすぐでしたけど。

海外で山田さんとの試合をビデオで見て、いい試合するなって思ったよ

1987年12月の両国大会で実現した船木vs山田恵一。両者は当時習っていた骨法の技術を織り交ぜ好勝負を展開。しかし、この試合の数時間後、TPG登場等で両国は大暴動に！

橋本　若くしてそんなのばっかり見てきたからな。汚い大人の世界を（笑）。

——20歳そこそこの頃ですからね。

船木　自分は15歳から20歳まで新日本ですから。

橋本　ちょうど一番ドロドロの時にいたんだよな（笑）。

船木　それが当たり前だと思ってたんで。でも入門してビックリしたのは、夜になるとみんな酒飲むんですよ。で、包丁持つ人とかもいて。

橋本　後藤さんっていう人でしょ（笑）。

——後藤達俊さんですね（笑）。

船木　あれは相当緊迫しますよね（微笑）。

橋本　「当たっても死なん、当たっても死なん」って振り回してるんだよ。しかも、ちゃんと射程距離にピュンッピュンッて来るんだもん。「絶対この人やらない」って思って逃げなかったら切られてるよ。

——練習終わっても全く気が休まらないですね（笑）。

橋本　ホントだよ。でも後藤さんは酒乱だったな。毎日一升瓶飲んでたもん。

——誰も止めないんですか、そんな危ない人を（笑）。

船木　止められないですよ。包丁持ってますから。目は血走ってるし。だから大体夕方6時過ぎぐらいから飲みだすんで、それぐらいから近づかないようにしてましたね。

——そういう時期を乗り越え、海外遠征から帰って来たら一人前のレスラーとして認められるわけですよね。

橋本　でも、海外にいる時は日本に帰りたかったね。飯食えないから。もう博打に狂っちゃってさ（笑）。

——それも有名な話ですよね（笑）。

船木　自分は海外に行ったら戻りたくなかったですね。とりあえずお金はもらえるし、ゴタゴタもないし。試合したらお金もらえて、それだけじゃないですか。もうずっとこっちでもいいかなって思いましたよ。

——環境はいいし、変な人間関係もないし、ましてや包丁を振り回す人もいないと（笑）。

船木　そうですね（微笑）。

橋本　でもさ、海外行って慣れてきたなって頃に何かあるんだよ。俺が、テネシーからテキサスに変わる時があって、武藤がニンジャやったとこだよ。そこに決まったと思ったら、帰って来い命令だよ。向こうのプロモーターがビックリしちゃってさ。「せっかく上げてやったのに」って。だからニュージャパンは信用なくすんだよ。向こうの事情なんてお構いなしだから。

——その時は新日本も新しいスターが欲しかっただけなんでしょうね。

船木　でも自分は新日本に戻らないでUWF行っちゃいましたけどね。

——新生Uですね。橋本さんは、その時はどう思われました？

橋本　海外行ってた時、ビデオで船木が山田さんとやった試合見たんだよ。たしか両国でやったヤツ。

船木　暴動の日ですね。

橋本　もの凄くいい試合だったんだよ。知らん間にみんな良くなってくなってって思って。向こういると、とにかく日本の情報が気になってしょうがないわけ。でも、その頃、日本のマットがみるみるおかしくなってたのがわかったんで不安になってきたんだよ。帰るとこなくなるんじゃないかって。

——海外にいると、余計不安になるでしょうね。

橋本　で、UWFができてさ。俺は前田さんも高田さんも好きだったし、どうなるのかなって。声も掛けてもらえ

アンドレ戦のあと、シャワー室で前田さん泣いてましたからね

しばらくの間、裏ビデオとして出回っていた前田vsアンドレ戦。数年前、ワールドプロレス特番で解禁されたこの一戦は、昨年、遂に『秘蔵新日本vsUWF』とのタイトルでDVD化された。様々な人が、この一戦について語っているが、船木の目撃談は実に興味深い。

ないし。そうしてどんどん人が離れだした時に、やっぱり新日本から電話が来てな。調子いいんだよ(笑)。

――その時、UWFから同じぐらいのタイミングで話があったらどうしてました?

橋本 前田さんが直に俺に電話くれてたら、わかんなかったね。

――そこが分かれ道だったわけですね。

橋本 まあ、付いてたのがミスター・ヒトだったから(笑)。ヒトさんは一番お世話になった人だからな、いろんな意味で。あと、当時付いてくれてたトージョーさんは俺、大好きだったんだよ。でも、●●(引退)がイジメたんだよ。

――●●●さんですね。

船木 俺が思い出す●●さんは、●●さん(現●●)と一緒にベッドで寝てた(笑)。

橋本 俺も見たんだよな、素っ裸で(笑)。

船木 あれ焦りましたよ。

――それは焦るでしょうね(笑)。

橋本 俺ね、部屋に帰ったんだよ。そしたら●●さん寝てるんだけど、1人じゃないんだよ。2人いるんだよ。

船木 足が4本出てるんですよね(笑)。

橋本 そうそう、誰かを後ろから羽交い締めにして寝てるわけだよ。あれ、なんだったんだろうな(笑)。

――忘れようとしても忘れられないでしょうね(笑)。

橋本 ●●もさ、女のあえぎ声なんか真似してたんだよ、「イヤ～ン」なんて。どっちがネコでどっちがタチ……あぁ気持ち悪い(笑)。でも、よく誘われなかったな。

船木 いや、俺誘われそうに……。

橋本 あ、なったんだ(笑)。

船木 いま思えばあれがそうかなって。2人がかりでヘッドロックされて、頭にコールドスプレーかけられたんですよ。で、俺は頭にきたんで、振りほどいてドア蹴飛ばして「何すんですか!」って出て行ったんですよ。そしたらそっと●●さんが来て「ムキになるなよ」って。あの時、抵抗しなかったら、そのままそっちの道に(笑)。

――ガハハハハ! でも頭にコールドスプレーって、それは一瞬気を失わせるとかそういうことなんですか?

船木 わかんないですけど。ただ、それで抵抗しないんであれば、恐らく仲間なんですよ。それがちょうど足4本を見た後ですから。

橋本 俺と別の日に見てるわけだから、しょっちゅうヤッてたってことだよな。

船木 鍵は閉めて欲しかったですね(笑)。

橋本 でも、●●は川崎によく通ってたんだけどな。

――川崎って、もしかしてソープ?

橋本 そうそう。でも、よく通ったよな、みんな。通った?

船木 はい、バスで(笑)。

――バスというと?

船木 新日本のバスで乗り付けて、帰りは90分後にまた迎えに来るんですよ。

――ガハハハ。送迎付きでしたか(笑)。

橋本 でも俺は川崎は行かなかったな。俺は最初に行った千葉の栄町ばかり。『重役室』ってところで。

――ガハハハハ! 栄町派と川崎派があったんですね。そういう時代を経ていまがあるっていう。

橋本 みんな理屈じゃない部分を経験してるよね。理屈じゃないグッチャグチャの中からふるいにかけられて、自分をしっかり持った人間が残ってるわけだから。それはやり方がどうのこうのじゃなくて、凄いことだと思うよ。

――それでプロレスラー自我が形成されていくというか。

船木 そうですね。

橋本 だから人間的にどっかおかしいんだよ。だってさ、普通に考えたらこんな商売やらねえよ。カッコいいかもしれないけど、カッコいいことだけやってればいいんじゃないから。大体、俺ら何人失ったよ?そっちはそっちで道分かれてさ、いるはずだよ、何人か。

船木 2人死んでますね。長谷川(悟史)ってヤツと、もう1人はパンクラスを旗揚げする前に亡くなってますね。脳の病気を持ってたんですけど、それが原因で。

橋本 何の保証もない中でさ。いま俺、親じゃん。絶対やらせたくない。

――お子さんがもし「やりたい」って言ったら?

橋本 空手なり柔道なりやるんだったらいいけど、プロレスやるには揉まれなきゃいけないからさ。どっか腹の中に「この、クソッ!」って思ってる人がやるんだと思うからな。のし上がってやろうって思ってるヤツとか、格闘技やる人はみんなそうだと思うよ。そうじゃなきゃ人のことなんか殴れねえよ。普段、平常心で殴れねえだろ。殴れる?

船木 「殴れ」って言われたら(笑)。殴ってもいいっていうんだったら殴りますけど。

――さすが船木さんですね(笑)。

橋本 ちょっと特殊だからな、船木の場合は(笑)。

――そういえば、船木さんは以前「いま格闘技が盛り上がってるけど、残るのはプロレスだ」っておっしゃってましたけど、いまもそう思われてます?

船木 プロレスは残ると思うんですけど……可能性あるじゃないですかね、いくらでも。いくらでも盛り上げる方法があると思うんで。スターも作れるし、残ると思いますね。浮き沈みはあっても、ずっと残っていくような気がします。格闘技の方がその辺はつらいですよね。スターがいなくなったらおしまいですから。

橋本 日本っていうのは独特でさ、逆に言えばワールド的な見方してるんだよ。要は日本人だったら普通は日本人応援するもんだけど、海外の誰でも応援するじゃん。どこの国行ったって普通は自分のとこの人間応援するよ。

――普通はそうですよね(笑)。

船木 K―1では武蔵選手がいますけど、武蔵選手がいなくなった後、誰が引っ張るんだっていうと大変ですよね。

――船木さんは最近の新日本プロレスはどう見てますか?

船木 新日本は新三銃士がいるんで、使い方次第ですよね。

――橋本さんはご覧になられてます?

橋本 何にも見てない。いまは頭空っ

新春ビッグ対談
“破壊王”橋本真也 × “マッドネス”船木誠勝

ぽにしてますから。ただ、これは対談とは関係なしに、もう1回俺らで頑張ろうっていうね、お互いの道で。せっかく会ったのもなんかの縁だから。いくら企画だって言ったって、お互いにそういう気持ちにならなかったら会わないんだからさ。自分のことで言うと、俺は何度でもカムバックするぞ、と。そこに照準合わせてるから。船木は日本一のアクションスターなのか、何を目指してるのか俺はわかんないけど。
——もう1回道がクロスすることもあるんですかね。
橋本　だって、下地はもう抜けないからな。
船木　どういうことですか？　闘えってことですか？（微笑）。
——2人の道がもう1回クロスすることがあるのかなっていうか、クロスして欲しいというか（笑）。
船木　どうですかね？　武藤さんにもそれ言われましたよ。
——武藤さんは本気で狙ってるみたいですから（笑）。
船木　佐山さんにも言われましたね。
橋本　もったいないねえとは思ってるよ、みんな。
船木　まあ、そうこうしてるうちに俺も40歳になって誰もそういう声を掛けてくれなくなりますから。
橋本　俺、今年40歳だよ。まだそんなこと言わないでくれよ（笑）。だって自分だって35歳はおっさんだと思ってたけど、そんなことないだろ？
船木　だけど明らかに回復力は落ちてますよ。最近は徹夜するのがつらいですからね。でも正直、いま20代の連中は、その辺の頑張りが足りないと思いますね。上の人から言われても、その人に食ってかかるぐらいのパワーがないと思うんですよ。それがなければいつまで経ってもいまのポジションと変わらないと思うし。そうやって闘っていかないと、いつまで経っても上に行けないですよ。
橋本　最近のヤツらは「こんなのやってられねえ」って投げちゃうっていうのはあるよな。
船木　だから新闘魂三銃士もそういうパワーがないといまのポジションのままだと思うし。
橋本　同じ名前を使うことがまず違うよな。昔、闘魂トリオっていうのもあったからな（笑）。
——ありましたね（笑）。
橋本　飯塚たちだよ、可哀想に。絶対有名になれねえと思ったもん（笑）。
——でも、お二人の場合は順番を待ってるって感じじゃなくて、ひたすら上に噛み付いていってましたからね。
橋本　そういう意味では、いま久々に中嶋（勝彦）っていうのが出て来たじゃん。あれなんか大したもんだし、いまから型にはめられたらいけないと思うんだよ。ああやってな、中卒でも才能を持ったヤツはチャンスがあるんだよ。この世界は実力だからな。「何が実力だ」って言われたって、やっぱり実力だから。スター性がなきゃダメだし。強くたって目立たないヤツは目立たねえから。
——総合的な意味での実力ですよね。
船木　ホント、強くても目立たない、勝っても人気がない人って不幸ですよね。その辺はやっぱり総合的にエンターテインメントなのかなって思うんですよね。負けても人気出るヤツいるじゃないですか。だから勝ちだけを求めてるわけじゃないんでしょうね。
——総合格闘技ですらそうなってきてますからね。
橋本　俺、今年初めてな、いままでわざと見ずに来たんだけど、初めてK—1と『PRIDE』をチャンネル替えながら見たんだよ。藤田なんかよ、ションベンして戻って来たら終わってんだよ。いい加減にしろっていうんだよ。
——ガハハハハ！
橋本　まあ、それは冗談として、大晦日の大会とか見てると、客がいまどこに向いてるのかってっていうのがわかるよな。あの客の熱をプロレスの方にどうやって向かせるかってことを考えないと。ただ興行で全国回ったってしょうがねえと思うし。あと思ったのは、やっぱり強さを感じさせるレスラーが出て来なきゃダメってこと。「この人は強いんだ。格闘技でやっても通用するんじゃねえか」って思わせる人が出て来ないと。パフォーマンスばっかりじゃなくね。だからこれからの課題はあるよな。
——そのために強い破壊王として復活してもらわないと。
橋本　俺、破壊されちゃったもんな（笑）。修理中や。
——でも、手術は成功したってことでいいんですよね。
橋本　成功したよ。でも、手術してねえって噂が飛んでるらしいじゃん。
——そういう噂も出てますね（笑）。
橋本　したよ、バカ野郎！　見せてやるよ。日本一の先生にやってもらったんだよ。ちゃんと証拠な、これ（と言って傷跡を見せる破壊王）。
——うわっ、ホントですね。
橋本　シールじゃないからな（笑）。9時間半かかったんだけど、その手術でこれだけの傷口っていうのは素晴らしいんだって。ホントは十文字に切るんだって。だから先生の腕前がいいらしい。信用してくれた？
——はい、もちろんです（笑）。橋本さんは、ここ最近しばらく表に出なかったんで、いろんな憶測が出てますよね。プライベートも含めて。
橋本　憶測なんかクソ食らえだよ。それに、いまは出るべき時じゃないって思ったし。俺も正直、気分悪かったし。だけど自分がしたことだから。大谷とかZERO—ONEにいた連中には頑張って欲しい。やっぱり、プロレス界を盛り上げることが一番大事だから。道を違えたってね、この世界、やってりゃまたどっかで一緒になるしな。それが本音だよ。とにかく、いまは足引っ張り合ってる場合じゃないから。
——復活はいつぐらいを考えてるんですか？
橋本　手術から半年ぐらいっていうのは頭にあるんだよ。ちゃんとリハビリして力つけるまで、それぐらいの時間はいるだろうな。
——じゃあ夏前ぐらいをメドに？
橋本　ただ、変に無理できないから。「今度切ったら終わりだ」って言われてるから。
——では、船木さんの復活はいつぐらいでしょうか？（笑）。
船木　ない！（キッパリ）。
——し、失礼しました（笑）。
橋本　やる時は黙ってやると思うよ。それに軽々しく口にしないよ、男が自分で納得して決めたことだから。ただな、ひとつだけ言えるのはスポットライトは魅力だから（笑）。ちょっとカッコよくてズルいなって思うのは、船木は山口百恵狙ってるんじゃねえかと思うんだよ。
——山口百恵のように全盛期にやめて伝説になると。
船木　いやいや（苦笑）。それに、俺、スポットライトは好きじゃないんですよ。
橋本　あ、好きじゃないんだ。
船木　ダメなんですよ。だから、プロレスやるんならマスクマンだと思ったんですよ。マスクマンだったら普段はわかんないじゃないですか。
橋本　青森の人ってみんなそう思うのかな？　石沢（常光）もそんな感じなんだよ。
船木　なんかそういう地質なんでしょうね。自分は、もともとそんなにチヤホヤされたくないんで。ただ、やり出

これが破壊王の右肩の手術跡。9時間以上にも及んだこの大手術は、当初、人工靭帯を用意していたが奇跡的に元々の破壊王の靭帯でくっついたという。破壊王曰く「リハビリと、ある魔法の二本立てで治していく」とのこと。約半年後、強い破壊王は帰ってくるのか？

新春ビッグ対談 "破壊王"橋本真也 × "マッドネス"船木誠勝

すと思いっきり上まで行きたくなっちゃうんですよ。凝り性というか。

——橋本さんの復活の舞台は『ハッスル』だと思っていいんですか？

橋本　『ハッスル』には上がると思うよ。でも『ハッスル』の中でおかしくされちゃってるからさ、俺が知らん間にさ。俺、何も言ってないのに。

——おかしくされてるというと？

橋本　なんか知らないけどさ、俺が悪人になってる気がするんだよ。「俺、なんかした?」って言いたいよ。だから、何にも言わないのはそういうとこ。言い訳もなんもしたくない。だって何も悪いことしてないし、自分なりに正義持ってんだから。俺はいつでも正々堂々と行けるし、小川にも「俺、『ハッスル』はやるよ」ってハッキリ言ってあるしな。それに『ハッスル』は最初の企画の時から入ってるから。このままじゃいけないなっていうのは俺もあるよ。まあ、「出るな」って言われたらしょうがねえけどな（笑）。

——出て欲しいですけどね、やっぱりチキンとポークがいてこその『ハッスル』ですから（笑）。

橋本　カレーもあるでよ（笑）。

——好評発売中のハッスルカレーですね（笑）。船木さんから見て『ハッスル』はいかがですか？

船木　『ハッスル』だけは俺見たことないんですよ。テレビでやってないですよね。

橋本　名古屋の方行けばやってるよ（笑）。

——船木さん、『ハッスル』は試合しなくても大丈夫ですから。高田総統なんか試合もしてないのにどんどん人気が上がってますし（笑）。

船木　高田総統って動いてるとこ見たことないんですよ、写真でしか。なんかいっぱいしゃべるみたいですね（微笑）。

——アドリブも凄いですからね。

船木　でも高田さんって酔っ払うと凄いしゃべるんですよ。だから、そのノリでやってるんじゃないかって。マイクとか誌面で読むと、酔っ払った時の高田さんじゃないかって思うんですよね（笑）。一番素かもしれないです。

——あれが真の姿だと（笑）。

船木　そうそう。いままでのが全部嘘で（笑）。

——一応、高田総統と高田さんは別人なんですけどね（笑）。

船木　あ、そうなんですか（笑）。今度、その違いを確認しておきます。

——そういえば、上井さんの新団体は日本人は誰が出るんですか？

——鈴木さん、健介さん、天龍さんとかが中心で、他に元魔界倶楽部の人たちって言われてますね。あと高阪さんや田村さんも出したいみたいですけど。

それだったら俺は坂口征二vs星野勘太郎が見たいな

♪ピンポ～ンパンポ～ン　橋本真也の『アジト』はTEL.03-6229-1515　有限会社ゼロワンについての問い合わせは弁護士法人フェニックス　TEL.03-5216-3131まで

『真説・タイガーマスク』、現在韓国で大ヒット上映中の『力道山』（木村政彦役）とプロレスづいている船木。ひょっと…しないか？　HPアドレス→http://www.madness.jp/

新日、全日、ノア、ハッスル、全部のオールスター戦が見たい

船木　なんかグチャグチャですね。

橋本　そりゃ揉めるな。

——ガハハハ！　あと前田さんもなんらかの形で引っ張り出したい、と。

船木　絶対揉めますよ（笑）。

——80年代の新日本プロレスがまた復活しますよ（笑）。

船木　大晦日あれ見たんじゃないですか、高田さんのフンドシ姿（笑）。

橋本　良かったな、あれ。俺は好きだな。こないだのドームの上の方のカードより全然良かったよ。

——ガハハハ！　オチがついたところで、最後にお二人の今年の抱負でもうかがえればと思うのですが。

橋本　俺は一プロレスラーとして生まれ変わって、皆さんの前に姿を現すこと。それからZERO-ONEでご迷惑をかけた皆さんに俺のできる限りの責任を取っていくこと。あとは……弁護士さんに全部任せてるんで。いろいろと合わないことがあるらしくて、いま弁護士さんが動いてますから。明確にすることは明確にして欲しいと思うんで。あとは、ホントにプロレスを好きな人がプロレスをもう1回高めるために努力して欲しいなと思うし、俺もその手助けができるように頑張らないと。まあ、まずは自分を治さなきゃしょうがないんで。

——まずは身体を治すことが先決ですね。船木さんはいかがでしょう？

船木　とりあえず『タイガーマスク』がもうすぐ公開されるんで、その反響を見てリングに復帰するかどうかを決めます（笑）。

——ガハハハ！　期待してます(笑)。

船木　冗談ですよ。でも反響が良ければ『タイガーマスク2』ができるかもしれないんですよ。だから映画の中でのプロレスはやりますよ。

——船木誠勝のプロレスが見たかったら映画館に行け、と。

船木　そういうことです。だけど映画のプロレスってホント大変なんですよ！　これホンットに。

——実感こもってますね（笑）。

船木　実際、ケガもしましたからね。あとは、今年も変わらず、プロレス、格闘技を応援してます。テレビでやってるヤツは全部チェックしてますから。

——一番注目してる団体とか選手というと、どの辺になるんですか？

船木　新日本、全日本、ノアとかは見てますけど、注目してるのは、新日本がそろそろ契約更改じゃないですか。それがちょっと気になりますね（笑）。

——ガハハハ！　確かに気にはなりますよね（笑）。

船木　それと上井さんの団体が蓋開けてみたらどうなるのかも気になりますね。あとは、やっぱり、新日本、全日本、ノア、ハッスル、全部のオールスター戦が見たいですね。

橋本　そんなもん無理に決まってるやろ！

——それはそうですけど（笑）。

橋本　そんなこと言うんだったら、俺は坂口征二vs星野勘太郎が見たいよ。

——それはどういう意味で？

橋本　仲悪いじゃん。

——なるほど（笑）。復帰したら去年のMVPの佐々木健介vs橋本真也っていうカードも見たいですけどね。同じような意味で（笑）。

橋本　いや、あそこはマネージャーが怖いから遠慮しとくよ（笑）。まあ、同期としてお互いに頑張っていこう！

船木　頑張りましょう！（ガッチリ握手）。復帰戦、楽しみにしてます！

【1月14日／『横浜ロイヤルパークホテル』にて収録】

WWE日本大会で何かが起こる!!

「RAW」&「SMACKDOWN!」来日直前情報満載です!!

1月7日、東京・お台場のフジテレビ社屋で行われた記者会見で、WWEは日本で初めてのTVショーを行うことを発表した。日本のファンが待ち焦がれた大会を表も裏も味わい尽くすべく紙プロ流の楽しみ方を提案します！　ちなみに会見では“HBK”草野仁……じゃなくてショーン・マイケルズとカート・アングルが、ブランドの枠を超えてド迫力のにらみ合いを展開するなど“何か”が起こりそうな予感がプンプン！　もう待ちきれない！

写真／George Napolitano
構成／坂井ノブ
designed by matsu（TwoThree）

フジテレビ事業部副部長
宇津井隆氏が語る

「TVショー実現までの道」

文/長谷川博一　写真/George Napolitano

今回の「ROAD TO WRESTLEMANIA」ツアー、主催者のクレジットを見るとフジテレビジョンとWWEの共催と記載されている。待望のTVショウの日本での実現に誰よりも尽力してくれたのがフジテレビ。早速、実現までの道のりを事業局事業部副部長・宇津井隆氏に聞いた。宇津井さんはWWEにとても詳しい人。僭越ながら安心しました。

「具体的な話を始めたのは去年の6月くらい。正式決定したのは12月ですね。3年前にSMACKDOWN!グループが横浜アリーナで公演した時、フジテレビは製作受託として関わりました。僕らもK-1やPRIDEでのノウハウがあるので、色々な美術プランを進言した。でもハウスショウとTVショウは違う。日本のWWEファンはTVショウしか見ていないのだから、できるだけ早い内に僕らやファンがイメージしてる本物のTVショウを見せたかった。3年越しの思いが実りましたね」

きっかけはフジテレビ。イッツ・トゥルー(笑)。かつては先方の交渉相手がセクション毎に分かれ難航していたが、現在は日本ツアーの責任者はシェイン・マクマホン一名に集中。それ以来ビジネスの決定が迅速になったとか。

「昨年のレッスルマニアを見た後にWWE本社に行って、現在のようなやりとりだと行き詰まってしまうよという話をした。するとシェインが代表者を買って出てくれた。彼は父親のビンスの信頼も厚く、名実共に会社のナンバー2と言ってもいいんじゃないかな。K-1やPRIDEのビデオも向こうに送ってます。この前もシェインが〝ヒョードルはいいねえ!〟なんて言ってた。僕も〝引き抜かないでね〟なんてジョークを言いました。そんな点も凄く研究熱心ですよね」

世界中に発信されるTVショウだからこそストーリーが英語で展開されるのはやむを得ないこと。日本人に分かる工夫は特には考えていないらしい。

「言ってみれば外国人のコンサートと同じ。英語の歌詞に字幕をつけたりはしませんから。ストーリーラインは日本側は完全にノータッチ。ただ日本人が喜ぶ演出にしてね、とはお願いしています。シェインには〝ハッスルの高田総統がリング上でビンスと握手とかできないかな?〟なんて一応話したけど(笑)。全ては当日、現場で決定するでしょうね」

TVショウの規模になると選手だけではなく、カメラクルーも照明スタッフも現地からやってくる。何と総勢150人を越えるWWE軍団がチャーター機に乗り込んで、堂々来日するのだ。そのステージ設営のアビリティを聞くと、流石はWWE、と舌を巻いてしまう。

「例えばRAWのビジョンに取り入れてるLEDの使い方などは斬新で最新。僕らも刺激を受けて02年のK-1決勝戦の時に使ったりしましたね。公演に先駆けて2月2日はRAWの仕込みがあって、3日はSMACKDOWN!の仕込み。それをどう入れ替えて4日のRAW本番に繋げるのか僕にも想像がつかない。しかも彼らは1日に同じ会場で両方のブランドのショウが開けるノウハウを持っている、なんて豪語してますよ。実際にできたら神業に近い!」

公演直前の3日(RAW組)4日(SMACKDOWN!組)にはスーパースターズはフジテレビ番組に出演してプロモーションを行う。通常のレギュラー番組「WWE・X」に加えて、フジテレビでは2時間特番も検討中(3月オンエア予定)。来日メンバーには今回はブッカーTも含まれているという情報も届いたばかりである。

そして更に嬉しい話は今回のTVショウの実現がまだまだゴールではないということ。2月に引き続き、早ければこの夏にも再び両ブランドのTVショウが日本で行われそうな勢いなのだ。

「2月を大成功させて7月の再来日にはチケットが即完、という勢いを作りたいですね。この話はほぼ決定です。長期的な展望を持ってWWEとはおつき合いしていきたい。そして06年はPPV大会を日本で、いずれはレッスルマニアの日本開催という風に、僕らも夢を追って事業を続けていきたいですね」

日本初登場となるビンスは我々に一体どんなサプライズを届けてくれるのか? ストーリー上で大きな展開が期待できる時期だけに楽しみだ(写真は怨敵エリック・ビショフとビンスの邂逅した瞬間)。

記者会見で一触即発!シェインが遂に断言!「ビンスは日本に来る」

7日、東京・お台場のフジテレビでWWE来日記者会見が華々しく行われた。会見に出席したカート・アングルは、いまだに対戦したことがないショーン・マイケルズとの対戦について聞かれると「自分と違って彼は金メダリストではないので闘ったらどうなるかな?と思う」と挑発。これにはHBKも「金メダルを持っていても、俺というハードルを超えない限りはプロレス史に名前を残すことは出来ないぞ!」と激高! カートは「金メダルを取ったのはボク! WWE王座を4度取ったのもボク! 対戦したこともないのに自分が一番だと言う気持ちがわからない」とやり返し、壮絶なにらみ合い! シェイン・マクマホンがその場を収めて乱闘にはならなかったが、緊迫した空気が流れた。また会見後の囲み取材で、シェインは「日本は我々の団体にとって非常に重要だ。私の祖父がジャイアント馬場とビジネスをしたのが最初だからね」と語り「2月4、5日は私の父も来る」と断言した!

アングルは、アトランタ五輪の一回戦で対戦した朝青龍の兄ドルゴルスレン・スミヤバザルについて「あの五輪での5試合は生涯でいちばん大変だった。中でもモンゴルの選手との試合はいちばんキツかった。彼にも彼の兄弟にも敬意を持っているよ」とコメント。

OY TV SHOW

～『紙プロ』流TVショーの楽しみ方～

文／阿部タケシ

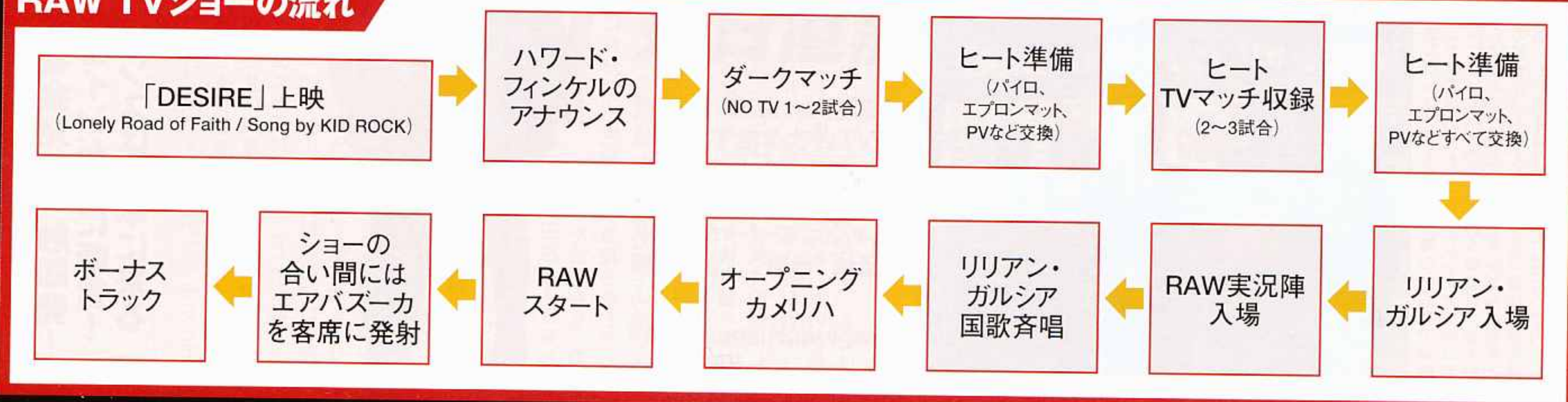
いよいよWWEのTVショーが上陸する。ハウスショーは、TVで観れないコクのある攻防や、ハウスショーならではのマッチメイクが観れたり、味わい深いイベントだが、TVショーは当日組まれる試合が少なめだったり、試合時間が短かったり、たっぷりとWWEを味わいたいファンには物足りなさが残るのも事実だ。

だが、WWEのTVショーにはWWEが本来持つスポーツエンターテインメントショーとしての醍醐味がいくつも盛り込まれている。一言でTVショーと片付けてしまうが、普段皆さんが視聴している2時間番組（RAW&SMACKDOWN!）に決して映らない見どころがてんこ盛りなのだ。今回はそのWWE日本初のTVショーに向け「紙プロ的WWETVショーの見どころ」を勝手にナビゲートさせていただきます。

ショーは「DESIRE」がタイタントロンで上映されるところから始まる。この「DESIRE」は数年前「ロウ」でも流されたVTR。WWFからWWFを経て、WWEまでの歴史（レッスルマニア、ハルク・ホーガン、ブレット・ハート、アティテュード路線、ストーンコールドなどがフラッシュバック）はもちろん、WCWとのTV戦争、アメプロの歴史において避けることができないマクマホン一家のあゆみを約6分間に渡り、映像と音楽で振り返るプロモーションVTRになっている。音楽はキッドロックの「ロンリー・ロード・オブ・フェイス(Lonely Road of Faith)」。TVショー前の会場内では必ずこの映像が流れ、観衆は誰もが酔いしれている。このVTRの出来は秀逸なので、是非とも会場で確認していただきたい。これを観ないとテンションが上がらないって！

その後、ハワード・フィンケルが登場し、ショー開始をアナウンス。地元のインディー所属のレスラーがトライアウトを行なったり、WWEスーパースターズが試合を行なうノーTVのダークマッチが行なわれる。WWEに所属しない選手がWWEのリングで試合を行なうのだ。アメリカのインディ所属の選手が来日するのは考えにくいので、日本ではひょっとしたら日本の団体に所属する日本人レスラーが試合を行なうかもしれない。もちろん相手はWWEスーパースターの場合もある。いったいどんな日本人レスラーが登場し、WWEのリングで試合を行なうのか？

RAW TVショーの流れ

1. 「DESIRE」上映（Lonely Road of Faith / Song by KID ROCK）
2. ハワード・フィンケルのアナウンス
3. ダークマッチ（NO TV 1～2試合）
4. ヒート準備（パイロ、エプロンマット、PVなど交換）
5. ヒートTVマッチ収録（2～3試合）
6. ヒート準備（パイロ、エプロンマット、PVなどすべて交換）
7. リリアン・ガルシア入場
8. RAW実況陣入場
9. リリアン・ガルシア国歌斉唱
10. オープニングカメリハ
11. RAWスタート
12. ショーの合い間にはエアバズーカを客席に発射
13. ボーナストラック

HOW TO ENJ

これはある意味、楽しみである。

その後「ヒート」や、「ヴェロシティ」のTVショーへ。ここで注目してほしいのがこの収録後に行なわれる「RAW（SMACKDOWN!）」などで使用するパイロの準備、エプロンマットの交換などイベントクルーの対応である。迅速に動き回るスタッフの演出準備は、一瞬にして会場内を「RAW（SMACKDOWN!）」の光景に早変わりさせる。スタッフのチームワークに、完璧なイベント集団としての力を垣間見ることが出来るだろう。

そして「RAW」開始前には、リングアナウンサーのリリアン・ガルシアがリングに登場しアメリカ国歌や、「アメリカ・ザ・ビューティフル」をアカペラで歌い上げ、会場の雰囲気を一つにする。特に彼女が歌う「アメリカ・ザ・ビューティフル」に男性ファンはイチコロになるはず。だが時折、WWEは地元シンガーをリングに招き歌わせることもする。ってことは、日本人歌手による君が代の斉唱なんかやっちゃうのかね？ いやぁリリアンの歌は聴きたいですな！

さらにTVショーの開始前は"カメリハ"が行なわれる。フィンケルが絶妙なトークで観衆を盛り上げ、ファンにサインボードを上げさせる。観衆を煽り、歓声を最大限に上げさせ、TVショーのオープニングをリハーサルする（ヴェロシティのオープニングで使う場合もある）。この時、シャレの聞いたサインボードがカメラマンの目に留まれば、本番収録時に映し出される可能性がある。カメラマンの動きに注意し、自分のボードをアピールしまくろう！ しかしながら日本語のボードはカメラマンに理解されにくいので、TVに本気で映りたいならば、英語表記のとんちが利いたボードなどを掲げる事をオススメする。

また、別項に現在TVショーで行なわれている進行を簡単にまとめたので、そちらも見て頂ければ幸いである。

ここでひとつご注意を。この原稿で書くのはあくまで北米地区で行なわれているTVショーの進行、つまり"直輸入した場合"である。日本でTVショーを行なうことで、いつもと趣向を変えたい主催者の意向や、意図に沿わない部分もあるので、当日はこのとおり進行する保証は一切ねぇんで（無責任）、くれぐれもご注意を。我々の理想はあくまで"WWEのまるごと直輸入"なんですけどね。

SMACKDOWN! TVショーの流れ

1. 「DESIRE」上映（Lonely Road of Faith / Song by KID ROCK）
2. ハワード・フィンケルのアナウンス
3. ダークマッチ（NO TV 1〜2試合）
4. ヴェロシティ準備（パイロ、エプロンマット、PVなど交換）
5. ヴェロシティ実況陣入場
6. ヴェロシティTVマッチ収録（2〜3試合）
7. スマックダウン!準備（パイロ、エプロンマット、PVなどすべて交換）
8. トニー・チメルリングアナ入場
9. スマックダウン!実況陣（マイケルコール&タズ）入場
10. 国歌斉唱（全米人気歌手、地元の人気歌手熱唱の場合あり）
11. オープニングカメリハ
12. スマックダウン!スタート
13. ショーの合い間にはエアバズーカを客席に発射
14. ボーナストラック

ネタバレ通信 Vol.20

ビンスが、リリアンが、そして待望のブッカーTが来日！

気になる演出はどうなるのか？

何時男　さあ、いよいよWWE日本大会が直前に迫ってきました！　まず気になるのが「本国と同じ演出になるのか？」という部分ですね。
叙似位　これは別に水を差すつもりじゃないんですけど、ヨーロッパでRAWとSMACKDOWN！を収録したときは、現地調達した機材と大きな旗で演出していましたね。
派乱暴　旗……ですか？（笑）。
叙似位　北米以外でやるときは、その地域の特色を出す傾向にあるみたいなんですけど、果たしてどうなりますかね？
何時男　K‐1やPRIDEがさいたまスーパーアリーナを使ってるときは、結構大きな花火がドカンドカン上がってますから、パイロは期待出来そうです。あとダークマッチをやるのかどうか、気になるところですね。
叙似位　基本的には地元のインディー団体に上がっている選手が試合する機会が多いんですよ。リングに上がるということは何らかのアプローチをしているか、WWEの目のかかった選手じゃないかな、と。
何時男　一昨年ぐらいに高山（善廣）とWWEが接触しているなんて噂もありましたけど……。
叙似位　まだケガが完治していないみたいですから、さすがに登場しないでしょう。一方的に●●●さんもアプローチしてますよね。WWEスーパースターが相手をすることもあれば、インディー団体の選手同士が試合をすることもあるんでどうなるか分からないですけど、日本のプロレスラーが出てきたからってブーイングはしないで温かく見守ってほしいですね。

ブッカーTが遂に来日!?　出場選手はどうなる？

何時男　気になる来日選手なんですが……。
派乱暴　なんとブッカーTの名前がラインナップに入っているようです！（笑）。
何時男　ウソ!?（笑）。
派乱暴　過去に日本で警察沙汰になったおかげでずっと入国出来なかったんですが、WWEから提示された今回のファンクラブイベント参加選手の中に名前があったそうです。なにかの間違いかもしれないですが……。
叙似位　でも、ブッカーはその週の日曜日に結婚式をやる予定なんですけどねぇ。
派乱暴　まあ、日本を土曜日に経てば、現地時間で土曜日には帰れるんですけどね。
叙似位　むちゃなスケジュールですねぇ。ブッカーとリングアナのリリアン・ガルシアとビンスだけはアメリカじゃないと見られない存在だったんですけど、今回は全て見られるんですね。贅沢な時代になったよなぁ。
派乱暴　でも、ケガで来られなくなっちゃった選手もいますよね。ユージーンがヒザをケガしたし、リタもヒザのケガで長期欠場ですね。
叙似位　ユージーンは残念だなぁ。プエルトリコで行われたPPVの試合で、ドロップキックを打った時にヒザが外れちゃったみたいです。ただ、個人的にはユージーンにはファンイベントやインタビューにあまり出てほしくない人なんですよ。あのままのキャラを崩してほしくないから（笑）。
何時男　たしかに素で出てこられても戸惑いますね。今回はホントに贅沢な悩みが多い（笑）。
派乱暴　ビンスが来るというのは、いまだに信じられないしなぁ。
何時男　でも、ROYAL RU

「こいつらは放送で偏見を植え付けてる!」と実況のJRとジェリー・"ザ・キング"・ローラーに襲いかかるアラブ系のモハメド・ハッサン。大注目のこの男がミック・フォーリーと本当に激突するのか!?

伝説の団体ECWが遂にDVDで蘇る！　新作を各1名に読プレ！

今月のWWE最新DVDは凄いぞ！　90年代のアメリカンプロレスに革命を起こした今は亡きインディー団体ECWの栄光から没落までを記録した2枚組の超大作『ECWライズ・アンド・フォール』が遂に発売となった。「ハードコア」で一大ムーブメントになった当時を知る選手、関係者、そして総帥ポール・ヘイマンが振り返る！　もちろん試合も収録しており、特典映像もあわせると375分というもの凄いボリューム！　テリー・ファンク、トミー・ドリーマー、サンドマン、レイヴェン、カクタス・ジャックらの壮絶な死闘が遂によみがえる！
そして、もう一本はSMACKDOWN！のPPV『ノー・マーシー2004』。王者JBLとアンダーテイカーの"ラスト・ライド戦"が壮絶な結末に!!　ケンゾー・スズキ＆レネ・デュプリvsレイ・ミステリオ＆RVDのタッグ王座戦も必見！　どちらも絶賛発売中！
提供■ユークス

『ECWライズ・アンド・フォール』（DVD：￥7035・税込　本編170分　特典205分）とにかく必見！
1名様に読プレ

『ノー・マーシー2004』（DVD：￥3990・税込　本編163分　特典9分）来日前の予習には最適！
1名様に読プレ

※このページのプレゼント応募方法はP157を参照!!

遂に20回を迎えたネタバレ通信、今月はWWE日本大会直前情報が満載です！ 1年間のうち、最もストーリーが動くこの時期にどこよりも早くWRESTLEMANIAの噂までフライング！ それはそうと、WWE来日会見ではシェインに感服しました。一度、乱闘が収まった後もシェインからステイシーに耳打ち、さらにステイシーからカートに耳打ちして再度もみ合いの指示を出していたように見えた（確証はないけど）。これを見てWWEは当分安泰だと思いました。

■F.B.I.とは「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも！）」の略。何時男（なんじお）はプロレス業界の末端に潜伏中、叙似位（じょにー）は桁外れのパワーで圧倒的な情報量を誇り、派乱暴（ぱらんぼ）は裏方さんとしてWWEに携わる、WWEとアメリカンプロレスを愛してやまないズッコケ3人組だ。

MBLEの後からWRESTLEMANIA（以下、WM）までの時期は、例年ビンスがストーリーに絡みがちな時期ですよね。

叙似位　そうですね。番組への登場もあるかもしれないですよ。

何時男　こないだの来日記者会見では、SMACKのカートとRAWのHBKがもの凄いにらみ合いをしていましたよね。これはWMで対戦する伏線なんでしょうか？

叙似位　毎年WMでは何かしらブランドの垣根を越えてクロスする試合がありますからね。

何時男　去年、RAWの日本ツアーでクリス・ベノワがトリプルHとのシングル戦に負けた後、「必ずWMでベルトを奪う！」って宣言したんですよね。それで実際にWMでトリプルHからベルトを奪ったじゃないですか？　日本で火がついたことがWMに繋がっていったのは凄く嬉しかったですね。

叙似位　ああ、ボクも感動しました！　今回、日本で発生したカートとHBKの因縁もWMに結びついてほしいですね。

叙似位　あと、これは噂レベルですけど、ランディ・オートンとジョン・シナが入れ替わるという噂もありますよね。

派乱暴　おお、これは実現すれば大型トレードだなぁ！

叙似位　SMACKのテコ入れという意味もあるみたいですね。

ストーンコールド WWE復帰秒読み！

派乱暴　ストーンコールドがWWEとまた契約したって聞いたんですが本当ですか？

叙似位　映画の件で契約をしたみたいです。その流れでリング復帰もあるんじゃないですかね？　記者会見では「まだやり残したこともあるぜ」とか言ってたみたいですから。

何時男　ただ、今年のWMでストーンコールドvsホーガンというカードが噂になっていますよね？　これはどうなんでしょう？

叙似位　たしかにビッグネーム同士ですけど、あんまり因縁を感じないですよ。80年代と90年代を支えてきたWWEのアイコン同士がタッグを組んでビンスと闘うなら〝アリ〟かもしれないですね。

派乱暴　ビンス&ビショフが相手なら最高です！

何時男　それ見たい！

叙似位　ボクはビショフvsポール・ヘイマンが見たいですね。レフェリーはビンスで（笑）。あと、WMで噂になっているのはモハメド・ハッサンvsミック・フォーリーですね。もうアメリカではすでに絡みが始まっていますから。

派乱暴　そうなんですか？

叙似位　ただ、ビンスはWMでリック・フレアーvsミック・フォーリーをやらせたがっているみたいです。この2人の乱闘を間近でみたタジリが「あれはマジだった」ってトークショーで言ってましたから！　それにネットの噂ですがフレアーは腰からベルトを抜いてムチみたいにしてミックを叩こうとしてたらしいですよ（笑）。

何時男　フレアーは喧嘩も見せる闘いなんですね（笑）。さすがだなぁ。

【05年1月某日、都内某所にて収録】

WWEファンクラブの会報誌『RAW MAGAZINE』を読プレ！

今回の日本ツアーでもWWEスーパースターズのサイン会を開催するWWEファンクラブ。当クラブに入れば当然、他のみんなと差を付けられるだけでなく、さまざまな特典がついてくる。今回はオフィシャル会報誌（非売品）の「RAW MAGAZINE」最新号を5名様にプレゼントします！　サイモン・ディーンの「サイモン・システム」インチキ通販広告が最高です！

☆**WWEファンクラブの会員特典**

1. メンバーズカードの発行
2. 会報誌「RAW MAGAZINE」日本語版の発行（年6回隔月発行）
3. WWE来日時のチケット最優先予約受付（応募が予定枚数を上回った場合は抽選となる場合がある）
4. 会員限定のWWEグッズ販売
5. スーパースターズ来日時にファンクラブ会員を対象とするイベントの開催
6. メールマガジンの配信（携帯メール不可）

入会案内・手続き・お問い合わせはWWEファンクラブまで。

http://www.wwefanclub.ne.jp/

5名様に読プレ

リタとトリッシュの女の抗争大特集も秀逸！クールな写真が満載ですよ！

※このページのプレゼント応募方法はP157を参照!!

WWEファンクラブ会員限定トークショーでタジリとフナキが泥酔大暴走!?

昨年の12月19日、都内のクラブでWWEのフナキとタジリがトークショーを行った。

クリスマス休暇を利用して帰国した両者は、WWEファンクラブ会員200名を前に3時間以上のロング・トークを繰り広げ、WWEスーパースターの意外な裏話や日米プロレス界の違いなどを語りまくった。

すでにイベント前から酒を飲んで赤ら顔で登場した両者だが、フナキは肩から光り輝くベルトをかけての登場となった。これは12月12日（現地時間）で行われたPPV大会『アルマゲドン2004』でスパイク・ダッドリーから奪取したWWEクルーザー級チャンピオンのベルト。フナキは「ベルトは『取れたらいいな』ぐらいにしか思ってなかったけど」と言うものの満面の笑顔。「今年最初のSMACKDOWN!でタジリが落としたベルトを今年最後のPPVで取り返した」と誇らしげにベルトを磨いた。

酒が入って勢いのついた両者は、WWEスーパースターの素顔を次々と暴露!!　普段ユージーン、ウィリアム・リーガルと共に移動するタジリは、いつもすましたリーガルのマヌケな素顔を喜々として話しまくった。フナキはSMACKDOWN!の王者JBLと対戦して大流血した試合直後、総帥ビンス・マクマホンから「すげえタフだな」とポケットマネーで1000ドルを手渡されたというナイスなエピソードを披露した。

休憩を挟んで3時間以上もしゃべりまくり、大満足の両者は「毎年続けたい。このトークショーで日本中をサーキットしたい」（タジリ）とゴキゲンでイベント終了。その後に会見を行い、来年2月4日のRAWと翌5日のSMACKDOWN!への意気込みを語った。タジリは「WWE（の人気）が日本で上がっている時期にいられて幸せだと思う」と喜びを噛みしめた。「収録の間に何が行われているか見てほしい。ハウスショー（TV放映のない大会）とは全く違いますから。たとえば、RAWならタイタントロン（巨大ビジョン）の上に人が2人乗って指示を出していたりしますんで」とタジリは力説!!　フナキは「王者として凱旋したい」と長期政権樹立で王者として、来年2月の凱旋を誓った。

クルーザー級王者として凱旋したフナキ（左）とビールを持参してゴキゲンでしゃべりまくったタジリ（右）

ビンスがやって来る！ ヤァ！ ヤァ！ ヤァ！
最新の生声をアメリカでキャッチ！

ビンス・マクマホン徹底論評 第10回

文／長谷川博一

ビンスがついにやって来る ヤァ！ ヤァ！ ヤァ！ もとい、ビン！ ビン！ ビン！ 1月7日のWWE来日発表記者会見。シェイン・マクマホン、HBK、カート・アングル、トリッシュ、ステイシーと錚々たるメンツが並び、個人スピーチ、記者質問、写真撮影と段取りが進んでいく。最後にシェインを囲んでの囲み取材が行われ、ここで嬉しい一言が飛び出した。

「父は今回、是非日本に来たいと話しています」

翌日のスポーツ各紙の見出しには「ビンス・マクマホン、いよいよ来日！」の文字が踊っていた。アメリカの未だ見ぬ強豪は誰なのか。スーパースターズの最たる者は誰なのか。マスコミは勿論知っている。ビンス来日のいきさつを再びフジテレビ・宇津井氏の言葉を借りて御紹介したい。

WWEとの折衝の中で、契約内容には入らない部分でのお願いとして、会長ビンス・マクマホンの来日を求めていたそうだ。まあしかしビンス本人が来なくてもWWEの公演は可能である。アメリカ全土のハウスショーにもビンスは随行していない。しかしTVショウの日は殆どいつも顔を見せている。待望のTVショウの実現が決まったからこそ、ビンスは全体の監修役として会場に姿を見せることになった。すでにアメリカ本国で「2月に日本に行くからな！」という本人のコメントもTV収録したとのこと。

しかし本人が舞台花道＝ランプを歩いてリング上に登場するのか、裏側に隠れているのかは分からない。全ては当日のストーリー次第。VIP席で野菜スティックを囓りながら観戦中に反ビンスの誰かに襲われるという図式もありうるだろう。日本のオーディエンスの期待が分かっているならば、堂々とリング上に登場してほしいと筆者は願う。イラクを慰問する気持ちがあるならば、さいたま市も力づけてほしい。性質の悪い放火事件が相次ぎ、さいたまは違う意味で燃えている。モニタールームで「ヒット・ザ・ミュージック！」と一喝。テーマ曲のイントロに合わせて霊長類史上最も大きな歩幅の、あの〝社長ウォーク〟で御大ビンスが姿を見せる。会場ドッカン。イスラム教徒の如く急いでひれ伏す一般市民。「あらあ」なんて驚いちゃう。イベントのクライマックスは間違いなくそこだろう。

アメリカのセレブリティの中で今もVIPの扱いを受けるビンス・マクマホン（おとめ座）。米誌「Esquire」という05年1月号では「人生の意味」という特集ページの論客として登場している。ジョージ・クルーニー、オジー・オズボーンと来てビンスの順。問わず語りのモノローグ調の文体で、数々の人生経験を話す。例えば愛妻・リンダについて。

「私の人生に悔いはない。子供の頃に理不尽に殴られた時だって、そこから学び成長し、恩恵を蒙ってきたつもりだ。大して有益とも思えない結婚も多数目撃したが、私は二の轍を踏まなかった。リンダと私は結婚して38年になるが、言い争いをしたことなんて5、6回しかないのだよ」

「人生最悪のセックスだと？ 何を言う、私がいたす時はいつもグレートだ」

そう言うビンスがいじらしい。或いは**「今も仕事を仕事と思っていない」**という天職たるレスリング・ビジネスについて。

「プロモーターは長年この仕事は100％スポーツだと訴えてきた。でもそれはオーディエンスに無礼だと私は思うのだ。プロレスは最初からショウだった。アブラハム・リンカーンがレスラーだったのは有名な事実だが、彼が見せたのもショウだ。秘密を打ち明けるのは難しいことではなかった。最も難しいのはオーディエンスがレスリングに何を求めているかを察知することだ」

「私が父の会社を継承した時、どうして本当の事を言っちゃいけないの、と悩んだ。試合はエキジビションだろ。でも選手達は世界有数のアスリートじゃないか。自分達の成り立ちを改めて確認したかった。観客に正直でいたかったし、それがリスペクトするということ。しかし秘密を打ち明けてもビジネスには何も影響がなかった。何故なら観客の方がすでに知っていたのだよ」

笑えるのはここだろう。

「10人もの野郎共が集まってストーリーラインを考える。誰かが突拍子もなく馬鹿げた提案をして我々は大笑いする。そんなの出来るわけないじゃん！ 実は会議はそこから始まるのだ。あるプロットは男性ホルモンに溢れ、別の話は女性ホルモンに溢れ。そういう展開が、しかし燃えやすいのだな。性的な見地から生まれたストーリーが多いのは、そのためだろう」

「最も馬鹿げたアイデアは何か？ ふむ、誰かがせむしの男を雇ったらどうかと言ったことがある。何故かというと決してピンフォールを取られないから試合に負けることがない、という理由でね（笑）」

一瞬ブルート・バーナード、ジョージ・スチール、グレート東郷らのいかついたウォークを思い出したが、これ以上深くは書かない。昨年の「SMACKDOWN！」最大の名場面とも思われる、カート・アングルによるビッグショウの臀部への麻酔銃の発射なども（実際にやるから凄い）、こうしたブレストの最中に生まれてきたのだろうと予想が行く。アメリカ映画の脚本家は1作につき最低10人付くのが常道とされるらしいが、WWEのストーリーラインだって映画並みの熟考が効いた、しかし破天荒なもの。一度参加してみたい。

さて、運命の2月4＆5日。開演前から大のビンスコールでご本尊の登場を煽ろうではないか。ビンス！ ビンス！ ビンス！ 武道館の「永ちゃん！」コールに負けないボルテージに達したら、ミスター・マクマホン（ヒール役の芸名）、もしくはビンス・マクマホン（素）のどちらかが顔を見せてくれるかもしれない。個人的にはこの2日間は、ビンス参賀のような日々である。

「オズボーンズ」と数も等しいマクマホン一家。勢揃いするとビンス、リンダ、シェイン、ステフの4人衆。相撲の国の日本なら、太刀持ちはトリプルHが務めたりして（似合いそう）、これより三役の揃い踏みがあってもいい。何しろ招聘側はマクマホン家用に4つのスイートルームを用意してあるらしい。ビンスと思って夜這いをしたらリンダだと恐いので筆者は行かないが、いやはや胸が騒ぐ如月の寿ぎに、いとうれし。

米国版『Esquire』は輸入雑誌の取り扱い書店などで購入可能だ。

2005.1.28 SOLLUNA & PAP presents AAA INVADING JAPAN II

脳ミソが溶けるプロレス、再び!!

1・4の東京ドームはプロレスの神様から見捨てられたような悲惨な内容だったが、1・28のAAA日本大会には間違いなくプロレスの神様が降臨する。

昨年同様、このツアーではメキシコ最大のエンターテインメント・ルチャリブレ団体が威信をかけて日本のファンに最高級なルチャリブレを見せる。WWE日本大会ではあのビンス・マクマホンの登場が注目を集めているが、こちらもAAAの創業者であるアントニオ・ペーニャ代表の来日する……えっ？　昨年も来ていたし別にありがたくない？　そう言うな、セニョール！

メインイベントはラ・パルカvsシベルネティコというAAAのドル箱カードだ。昨年6月のビッグイベント『トリプレマニア』でマスカラ・コントラ・マスカラを行った両者（シベルはマスカラ戦で敗れ現在は素顔だ）。タイトル通りAAAが日本のプロレス界を「INVADING（侵略）」するために組んだ最高のカードだ。

他のカードも目が離せない。ミステル・アギラやフベントゥ・ゲレーラといった世界屈指の空中殺法の使い手が、日米のジュニアヘビーの最高峰と激突する（Xは当日発表）試合も楽しみだが、ハッスル3でも絶賛の嵐だった「男&女&オカマ&ミニ混合戦」は大注目！　本誌71号で初体験から好きな男NO．1が金本浩二であることまで告白し、なぜか本誌チョロが乳首をナメまくったピンピネーラ（本名マリオ・ゴンザレス）が会場を恐怖のどん底に叩き落とす！　迎え撃つ日本のオカマは一体誰なのか!?（とはいっても、太刀打ちできるのはあの男しかいませんが）。

業界全体を重苦しい空気が支配する2005年1月のプロレス界に、心の底から笑って、驚いて、感動できる、本場ルチャリブレAAAが大きな風穴を空けるはずだ。

文・坂井ノブ

SOLLUNA PAP PRESENTS

AAA INVADING JAPAN II

AAA INVADING JAPAN 2
東京・後楽園ホール
1/28 (fti) 開場17:30／開始19:00
【主催】SOLLUNA&PAP

【男・女・オカマ・ミニ混合マッチ】
X(ZERO-ONE) &X(K-DOJO) &ピンピネーラ&マスカリータ・サグラーダ vs
X (TORYUMON) &ファビー・アパッチェ& (X) DDT&ミニ・アビスモ・ネグロ

【AAA vs LLL】
バリオ・ボーイズ　アラン&デクニス&ビリー・ボーイ vs
ブラック・ファミリー　オズ&クエルボ&エスコリア

【スペシャル・マッチ　メヒコ vs ハポン】
フベントゥ・ゲレーラ&ミステル・アギラ&チャーリー・マンソン vs
X(TNA) &X(K-DOJO) &X(プロレスリング・ノア)

【レバンチャ・デ・ベラノ・エスカンダロ】
エル・ソロ&ヘビー・メタル&イントカブレ vs
シコシス&イステリア&モスコ・デ・ラ・メルセー

【メインイベント】
ラ・パルカvsシベルネティコ

【チケット料金】

席種	料金
★リングサイドSP	¥15000 (SOLD OUT)
★リングサイドA	¥12000
★リングサイド	¥10000
★リングサイドVIP	¥10000 ※軽食・ドリンク付き
★アレナ・セントラル	¥7000
★アレナ・ラテラル	¥6000
★グラダス	¥5000

※当日券あり！

【大会に関するお問い合わせ】
チケットぴあ　0570-02-9977

【オフィシャルHP】
http://www.luchalibreaaa.com/

※当日17:00より後楽園ホール展示場にてグッズ販売&AAAエストレージャのサイン会を開催!!

新年早々、死神(ゴルドー)から年賀状が……!!

RADICAL PRESENT SPECIAL

どれが当たっても家宝級! 2005年も大活躍間違いなしのみなさんから、紙プロ読者に色紙をプレゼント!!

5名様

サイン入り!!

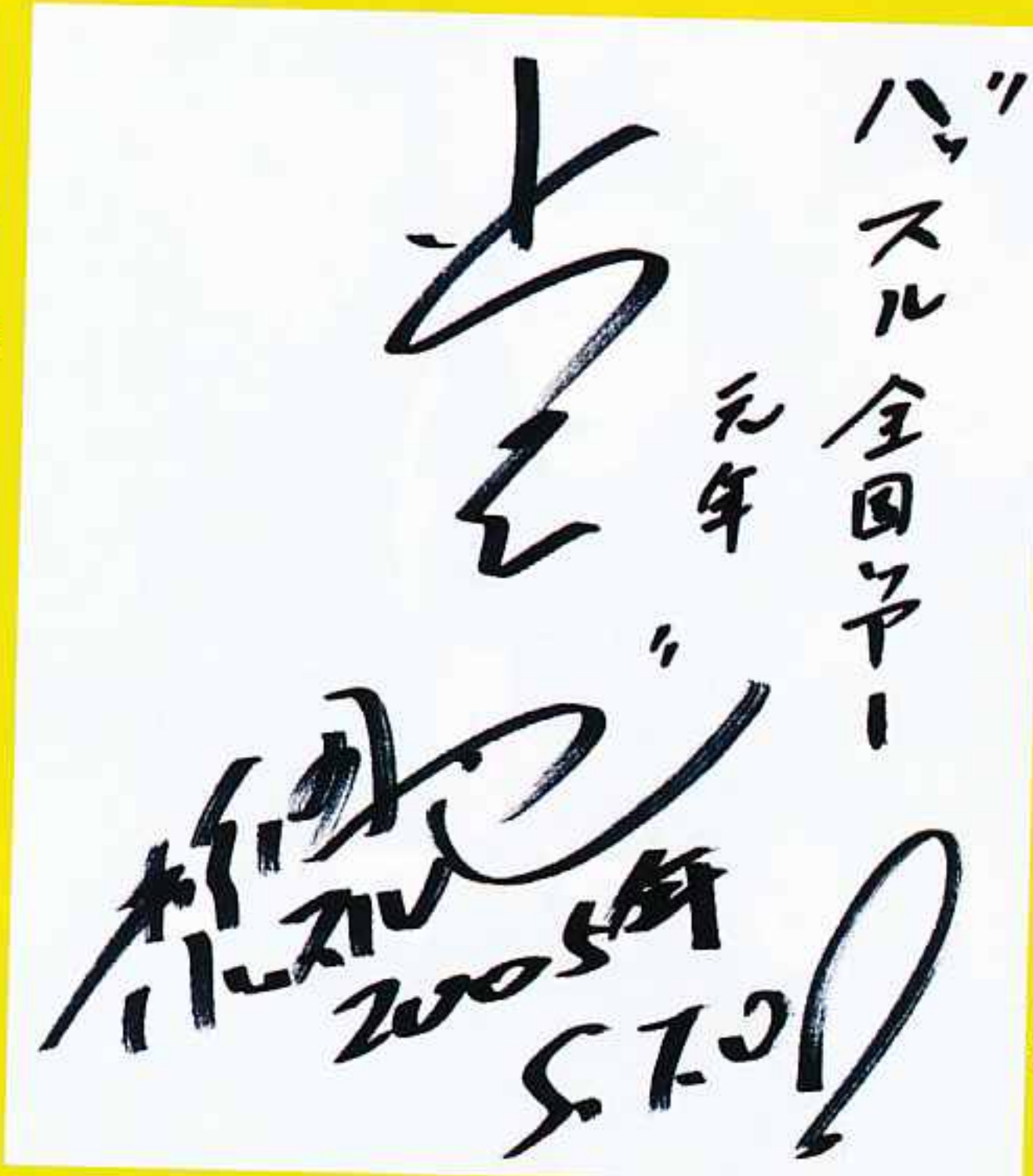
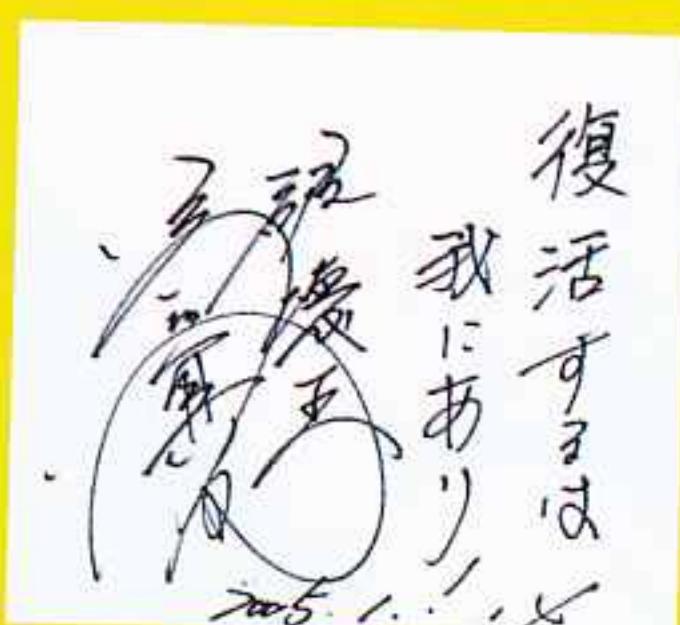
最強の魔除け
★ジェラルド・ゴルドー直筆年賀状

各1名様

毎年が寅年!!
★佐山サトル皇帝サイン色紙

3,2,1、最高――ッ!!
★五味隆典サイン色紙

謎の中国人
★王拳聖サイン色紙

酉年=チキン年!?
★小川直也サイン色紙

カムバック破壊王!
★橋本真也サイン色紙

今年もマッドネス発言に大注目!!
★船木誠勝サイン色紙

破壊王&マッドネスが夢のコラボ!
★橋本&船木サイン色紙

DSE

2004年、たとえ1試合しかしなくとも、サクTシャツは出ます! ミドル級GPにそなえてサク・サポートグッズを取り揃えよう!!【DSE提供】
■HP：http://www.prideofficial.com/index.php

各1名様

★ヒョードル ジャージ
M～XL ￥9345(税込)

★シュートボクセ ジャージ
M～XL ￥9345(税込)

★桜庭ジャージ
M～XL ￥9345(税込)

★桜庭 炎のコマTシャツ
S～XL ￥3990(税込)

★桜庭モンゴリアンチョップTシャツ
S～XL ￥3990(税込)

★桜庭サポーターTシャツ（限定）
S～XL ￥3990(税込)

ART JUNKIE

1名様

★R-GYMTシャツ ￥3990(税込)XS～XL

DEEPミドル級王者・桜井隆多のオフィシャルTシャツが登場! プレゼントはXL。商品の問い合わせはGROUND COBRAまで。【ART JUNKIE提供】
GROUND COBRA
■TEL:092-711-1021(10:00～20:30)
■HP:http://artjunkie.jp

MIKE MIZUNO

入手困難な『シベリア超特急』Tシャツを大量ゲット! 何が当たるかはお楽しみ。水野晴郎先生とサスケ議員のあやしげな対談はP57から!! 【水野先生提供】
■HP:http://www.mizunoharuo.com/

10名様

★『シベリア超特急』ステッカー

1名様

★水野晴郎&ザ・グレート・サスケ サイン色紙

5名様

★『シベリア超特急』Tシャツ or水野先生骨折記念Tシャツ

BATTLEROYAL

★THE☆DESTROYER スウェットパーカー ¥6720（税込）

各1名様

★THE☆DESTROYER 長袖Tシャツ ¥5250（税込）

1月30日（日）、水道橋のプロ格本舗バトルロイヤルで"白覆面の魔王"デストロイヤーのサイン会が決定! 上記のHAOMING&バトルロイヤル限定グッズも販売します。詳細はP116からの情報ページで。【バトルロイヤル提供】
■TEL:03-3556-3223
■HP:http://www.battleroyal.jp/

DEKA-KON

3名様

★『刑事魂ダンス!! ～フォーエバー～』
¥2250（税込）

ビッグ・ボスマン追悼CDが発売! 傑作テレビ刑事ドラマの主題歌がダンス・アレンジでよみがえる!!
【ユニバーサル ミュージック提供】
■HP:http://www.universalmusicworld.jp/

VADER

1名様 サイン入り!!

★ベイダー応援ハンド

"最後の昭和ガイジンレスラー"ベイダーがビッグなプレゼント! みんなで「ガンバッテ～!!」と応援しよう!! 【ベイダー提供】

PIRANHA

10名様

★長南爆闘族ステッカー
¥350

2・12 DEEP後楽園大会で長南は、『ガチ!』がブラジルの84キロ以下級4位に認定した強豪ホアン・ジュカォンと対戦! ちなみに1位はアンデウソンなので4位なんか楽勝（のはず）!! 【長南亮提供】
■HP:http://ryo-chonan.com/

ANGURA

闇愚羅四人娘フォト&のぞみチャンのセクシーフォトをセットで。美人格闘家エリン・トーヒルが藪下にヒジ打ちをかましたときに使用したバンテージもレア物ですよ。
【闇愚羅&トーヒル提供】
■HP:http://www.smackgirl.com/

★トーヒル 使用済みバンテージ

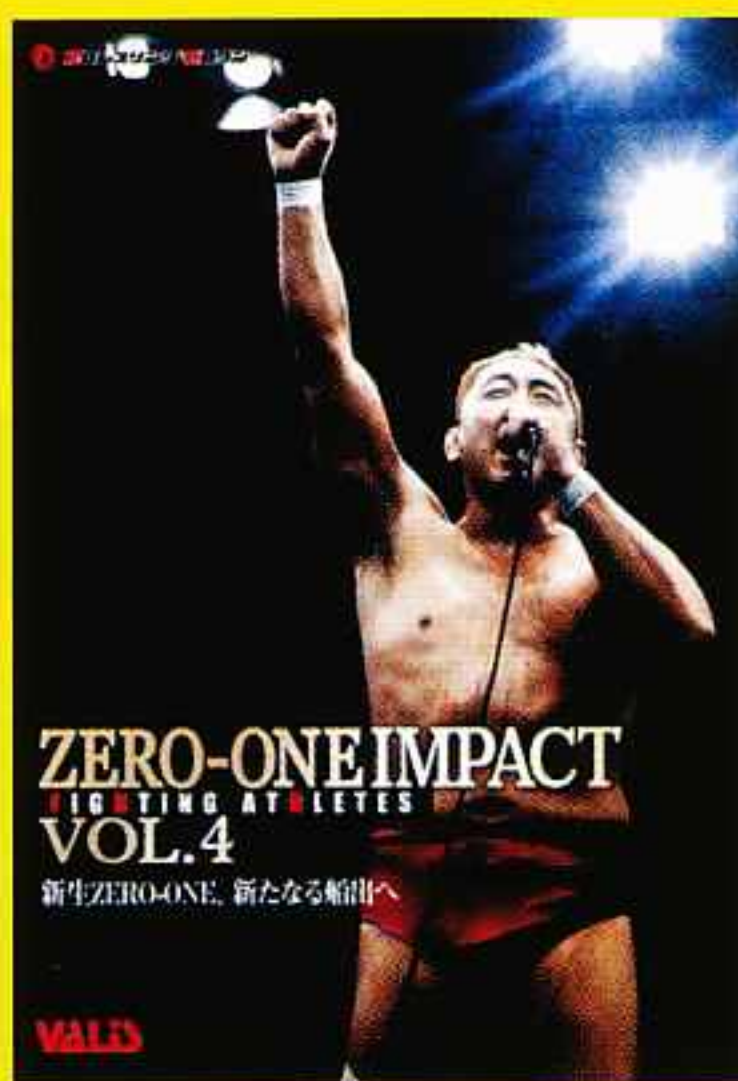
各1名様 サイン入り!!

★闇愚羅四人娘 サイン入りフォトセット

VALIS

"謎の中国人"王拳聖の道場破り映像を含むゼロワンのベストDVDと、大日本オールスターが勢揃いの最狂デスマッチDVDをそれぞれ3名様に!
【ヴァリス提供】■TEL:03-5342-2681

各3名様

★『大日本プロレス 地獄の死闘（デスマッチ）Vol.4』DVD 約90分 ¥5250（税込）

★『ZERO-ONE Impact Vol.4』DVD 約90分 ¥3990（税込）

BOOKS

各5名様 / 3名様

★『格闘チャンピオン』
¥790（税込）

ハッスル、PRIDE、K-1情報がてんこ盛りのオール読み切り格闘マンガ誌が絶賛発売中! 小川直也激闘DVDは超必見だ!!【秋田書店提供】
■HP:http://www.akitashoten.co.jp/

★『武術の構造－もしくは太極拳を実際に使うために－』
山田英司・著 ¥1890（税込）

「私はプロレスが大嫌いである」──"フルコン"山田ザンス編集長の武術本が登場。業界大注目のガチンコ山田理論が炸裂する! 【流星社提供】
■HP:hppt://www.ryusei.com

★『ガチ! MAGAZINE Vol.2』
¥980（税込）

格闘技ファン必読&1冊でお腹いっぱい! 格闘技ライター特集や、"あの人はいま"など異色企画が満載です!!
【インフォレスト提供】
■HP:http://www.infor.co.jp/

MEDIA FACTORY

★『PRIDE.28』DVD 163分 ¥5040（税込）1月28日発売

3名様

全試合判定決着なし! メインは紙プロ大賞2004ベストバウト部門で堂々1位に輝いたシウバvsジャクソンは、まさに名勝負中の名勝負だ!! 【メディアファクトリー提供】
■TEL:03-5469-4880〈10:00～18:00/土日、祝日は除く〉
■HP:http://www.mediafactory.co.jp/

PONY CANYON

★『K-1 WORLD MAX 2004 ～世界王者対抗戦～』DVD 120分 ¥5040（税込）

3名様

世界のキック王者たちと武田、コヒ、元気らの壮絶な闘いがDVD化! 大晦日に魔裟斗と激闘を繰り広げた"神の子"KIDは、モンゴル相撲の強豪と総合ルールで大激突!!【ポニーキャニオン提供】
■TEL:03-5521-8044 ■HP:http://www.ponycanyon.co.jp/

MUGA

鬼才・河崎実監督と西村修がタッグを組み、2004年夏、日本列島に空前のいかブームを巻き起こした映画『いかレスラー』が待望のDVD化! 特典の『いかレスラー大辞典』はいかファン必須アイテムだ!!【エイベックス提供】
©2004『いかレスラー』製作委員会
■TEL:0120-85-0095
■HP:http://avexmode.jp/index.html

★『いかレスラー』DVD 約94分 3990円（税込）

3名様

★『いかレスラー』発売記念ポスター（非売品）

5名様

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦PRIDEミドル級GPで実現して欲しいカード
⑧紙プロでやって欲しい企画orインタビューして欲しい人

応募券

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F （株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「ゴング一日編集長」係まで

※締切は2005年2月22日（水）当日消印有効

QUEST

2005年もクエストの強力ラインナップが炸裂! ミスター・プロレスから"大天井"と呼ばれた柔道の巨人・小坂先生までビックリ人間大集合!!【クエスト提供】
■TEL:03-3360-3810 ■HP：http://www.queststation.com

各1名様

★『小坂光之介 高専柔道～寝技の伝承～』DVD
¥5880（税込）

★『御舘透ジークンドートラッピングアートvol.2』DVD
¥5040（税込）

★『プロ柔術Gi-04/05』DVD
90分 ¥5880（税込）

★『天龍源一郎2 怒の章』DVD
90分 ¥5880（税込）

マット界を揺るがす仰天タッグ!

ハッスル&紙のプロレス コラボグッズ

第1弾 髙田総統グッズ

『紙プロ』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。（何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい）
★代引き手数料は315円です。（代引き金額によって異なります）

『紙プロHand』でご注文の場合

詳しくは『紙プロHand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧下さい。

電話でご注文の場合

平日15:00〜22:00
（株）ダブルクロス 03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします（確認メールはいきませんのでご了承下さい）。

「ビビったか？ たじろいだか？」Tシャツ
［S・M・L・XL ブラック／ホワイト］¥3990（税込）

「BITAAAAN!」Tシャツ
［S・M・L・XL ホワイト］¥3990（税込）

「髙田総統」フェイスタオル
¥2100（税込）

第2弾 笹原GM「SHUT UP!」Tシャツ

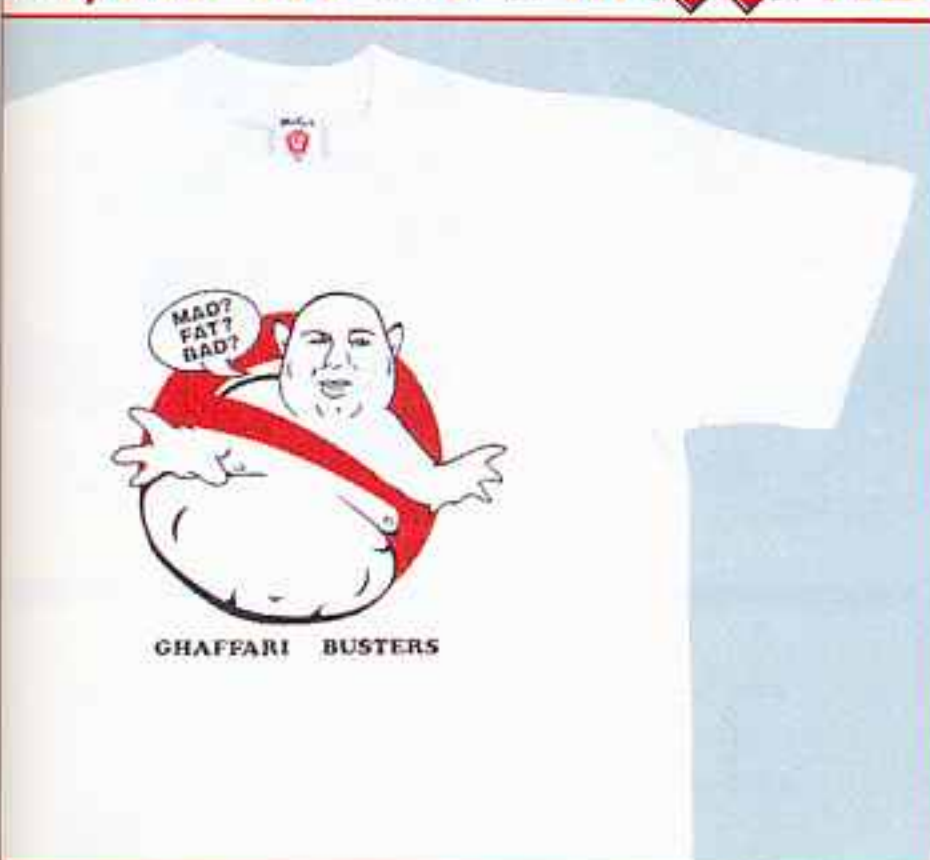
（ラグラン七分そで）

BACK

［S・M・L・XL ホワイト×レッド］¥4200（税込）

「ビビったか？ たじろいだか？」ナップザック
［ブループリント／オレンジプリント］¥2100（税込）

「BITAAAN!」メッシュキャップ
［ブラック／パープル］¥3150（税込）

ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 XS or S or M or SOLD OUT or XL

マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500 S or M or L or SOLD OUT

『カズ・H』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL

『COZY BAKA』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL

ニットキャップ〈ネイビー&ブラック〉
¥1,500

トートバック〈ブラック〉
¥1,500

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT
残りわずか!

赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL

ハッスル グッズも好評発売中!!

高田モンスター軍グッズが増殖!!

高田モンスター軍Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト／ブラック]
¥3990(税込)

島田参謀長ヤドカリTシャツ
[S・M・L・XL　ブラック]
¥3990(税込)

アン・ジョー司令長官Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック]
¥3990(税込)

ハッスルマスクパーカー
[M・L・XL　ブラック] ¥10290(税込)

ハッスルパーカー
[M・L・XL　ブラック] ¥7350(税込)

ハッスルプロレスラーパーカー
[M・L・XL　アッシュグレー] ¥7350(税込)

ビターンTシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト／ブラック]
¥3990(税込)

ハッスル野球軍Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト]
¥3990(税込)

ハッスルK Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック]
¥3990(税込)

リキラリアットTシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト／ブラック]
¥3990(税込)

モンスター軍ストラップ&キーホルダー
各¥1050(税込)

モンスター軍マフラータオル
¥2100(税込)

ハッスルメッシュキャップ
[ブラック／レッド／イエロー／ピンク／ブルー／グリーン] ¥3150(税込)

ハッスルロゴTシャツ
[XS・S・M・L・XL　ホワイト／ブラック／イエロー／レッド／ピンク／ブルー／グリーン／オレンジ]
¥3990(税込)

ハッスルフェイスタオル
[ブラック／イエロー／グリーン] ¥2100(税込)

ハッスルリストバンド
[ホワイト／イエロー／レッド／グリーン／ピンク／ブラック／オレンジ] ¥1050(税込)

ハッスルストラップ／キーホルダー
各¥1050(税込)

ハッスルアフロくんストラップ／キーホルダー
各¥1050(税込)

ハッスルホログラムステッカー
¥1050(税込)

通販完売商品は直販店にある!?

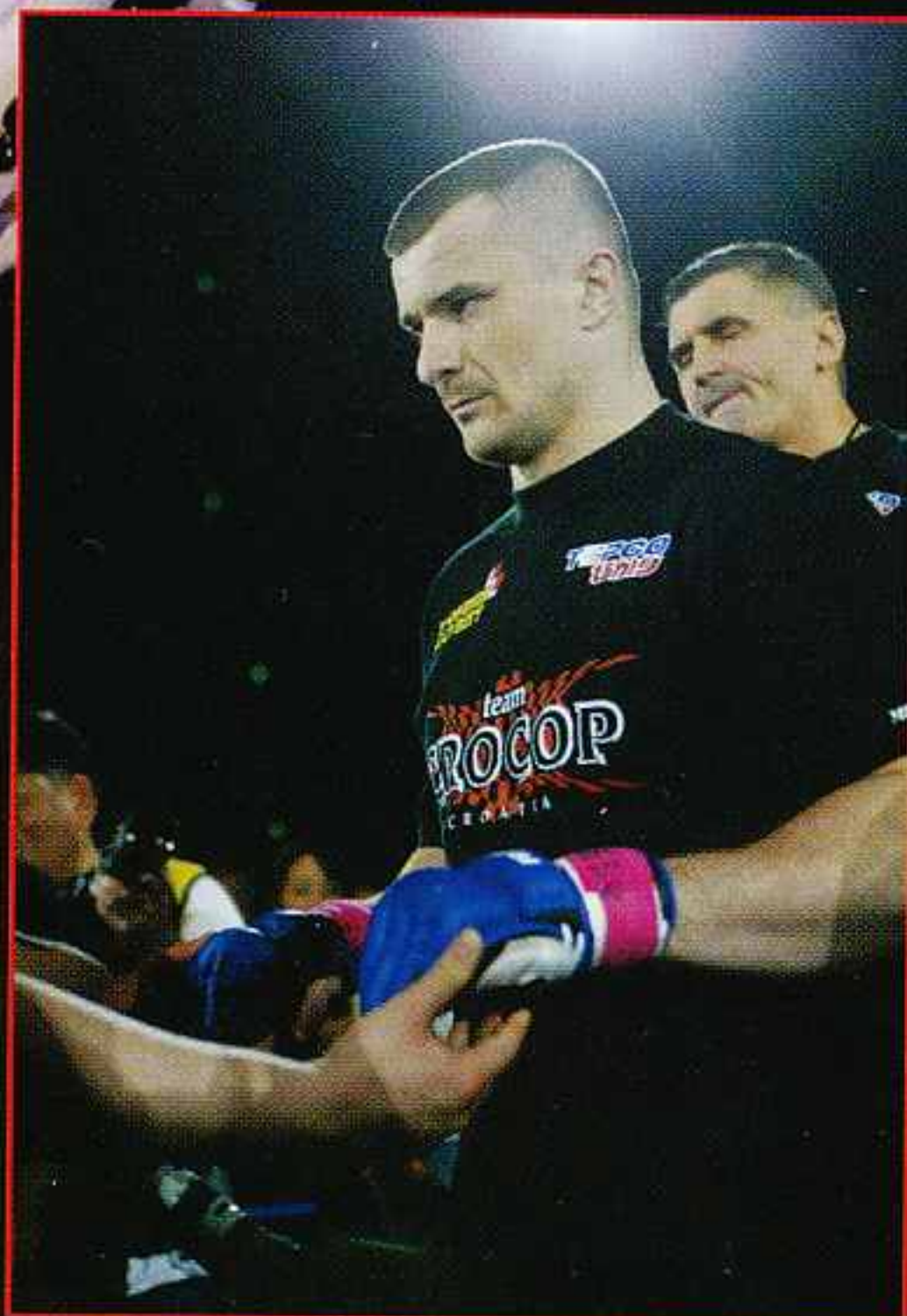
【『紙プロ』ウェア常備ショップ】
★チャンピオン（TEL.03-3221-6237）★W.F.GENE.（TEL.03-3316-5003）★リングソウルZ神戸（TEL.078-393-3514）★宮城・スクワット（TEL.022-227-0891）
★大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551）★福岡天神ビブレGROUND COBRA（TEL.092-711-1021）★浜松市・Buddy（TEL.053-450-7888）

紙のプロレス
RADICAL

次号No.84は
2月28日(月)
発売予定

ふんどし一丁になって待て!

※地域によって多少発売日が遅れます。

2.11
『ハッスル7』
小川vsインリンを
どこよりも詳しく大特集

2.20
『PRIDE.29』
試合後の選手インタビュー満載
速報大特集!

紙のプロレス
RADICAL
No.83
2005年2月25日発行

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
斉野もみじ
八木賢太郎
(M字ビターン!を受けたため罰番)

終身名誉バイザー
吉田豪

助っ人
ジャイ子

電気部
ささきぃ
松澤チョロ

パンフ職人
スモーノブ

アートディレクター
出田さん(TwoThree)

デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき(以上TwoThree)

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志(以上さおとめの事務所)

カメラマン
森鷹博
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島勝儀
菊池茂夫
黒田史夫

試合写真
平工幸雄
乾晋也

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝

体調
プリン体・入江(TwoThree)

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也
前田昌一

勇者たちを着こなせ!!

コピィロフTシャツ
ホワイト / ¥3,990(税込) S or M or L or XL

ヴォルク・ハンTシャツ
ホワイト / ¥3,990(税込) S or M or L or XL

ミーシャTシャツ
ホワイト / ¥3,990(税込) S or M or L or XL

『PRIDE』HPで絶賛販売中!!
http://www.prideofficial.com/
『紙プロHand』でも購入可能!!

ハリトーノフ
パラシュートパーカー（アッシュグレー）
アッシュグレー / ¥6,300(税込) M or L or XL

ハリトーノフ
パラシュートパーカー（ネイビー）
ネイビー / ¥6,300(税込) M or L or XL

RTT トリコロールTシャツ
ホワイト / ¥3,990(税込) S or M or L or XL
※RTTとはロシアン・トップチーム略です

ハリトーノフ
パラシュートTシャツ（ホワイト）
¥3,990(税込) S or M or L or XL

ハリトーノフ
パラシュートTシャツ（レッド）
¥3,990(税込) S or M or L or XL

ハリトーノフTシャツ
ホワイト / ¥3,990(税込) S or M or L or XL

ロシアン・トップチームグッズは『紙プロ』通販でご購入できます。電話注文もできますよ!!（株）ダブルクロス　TEL.03-5368-1797（平日15:00〜22:00まで）

【代引き】郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールをkapra@kamipro.comまで送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。
商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約¥315がかかります。（代引金額によって異なります）。御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZINE MOOK 263
2005 NO. 83
小川直也がハッスル2005年計画を激語り!!
平成17年2月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：（株）ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：（株）ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F　電話／03-5368-1795
ワニマガジン社 定価：本体838円＋税

9784898297438
ISBN4-89829-743-9
C9476 ¥838E
1929476008381

雑誌 69860—63

印刷：図書印刷株式会社